茨城県教育財団文化財調査報告第87集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1

西ノ脇遺跡

前田村遺跡

平成6年3月

茨城県

財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第87集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1

西ノ脇遺跡
前田村遺跡

平成6年3月

茨城県
財団法人 茨城県教育財団

西ノ脇遺跡遠景

前田村遺跡遠景

前田村遺跡出土遺物

第34号住居跡－1

遺構外－102

第101B号土坑－3

陶 磁 器

序

茨城県は，周辺環境との調和を重視し，多様な住居ニーズに対応した住居環境を整備しつつ，新しいまちの形成を図るために，公共施設の整備改善と宅地の利用増進を進めております。

その一環として，「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業」を進めており，その予定地内に埋蔵文化財包蔵地である高野台遺跡，西ノ脇遺跡，前田村遺跡が確認されております。財団法人茨城県教育財団は，茨城県と開発地域内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託契約を結び，平成4年4月から発掘調査を実施してまいりました。

本書は，平成4年度に調査を行った西ノ脇遺跡と前田村遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育・文化向上の一助として活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理に当たり，委託者である茨城県はもとより茨城県教育委員会，伊奈町教育委員会，谷和原村教育委員会をはじめ，関係機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成6年3月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　礒田　勇

例　　言

1　本書は，平成４年度に茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が実施した，茨城県筑波郡谷和原村大字東楢戸字西ノ脇1351ほかに所在する西ノ脇遺跡と筑波郡谷和原村大字田字八幡957ほかに所在する前田村遺跡の発掘調査報告書である。

2　西ノ脇遺跡，前田村遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

理事長		磯田　勇	昭和63年６月～
副理事長		角田芳夫	平成３年７月～
専務理事		中島弘光	平成５年４月～
常務理事		本田三郎	平成３年４月～平成５年３月
事務局長		藤枝宣一	平成４年４月～
埋蔵文化財部長		石井　毅 安藏幸重	平成２年４月～平成５年３月 平成５年４月～
企画管理課	課長	水飼敏夫	平成４年４月～
	主任調査員	根本康弘	平成３年４月～平成５年３月
	主任調査員	川井正一	平成５年４月～
	主事	杉山秀一	平成４年４月～
経理課	課長	藤田和行	平成４年４月～平成５年３月
	課長	小幡弘明	平成５年４月～
	課長代理	鈴木三郎	平成５年４月～
	主任	飯島康司	平成４年４月～
	主事	大貫吉成	平成４年４月～ 平成５年３月
	主事	軍司浩作	平成５年４月～
調査課	課長	石井　毅	平成元年４月～平成５年３月
	（部長兼務）	安藏幸重	平成５年４月～
	班長	阿久津　久	平成４年度
	主任調査員	鶴見貞雄	平成４年度調査
	主任調査員	小松崎猛彦	平成４年７月～平成５年３月調査
	主任調査員	吉原作平	平成４年度調査
整理課	課長	沼田文夫	平成２年４月～平成５年３月
	課長	阿久津　久	平成５年４月～
	主任調査員	吉原作平	平成５年度 整理・執筆・編集

3　本書に使用した記号等については，第４章遺構･遺物の記載方法の項を参照されたい。

4　本書の作成にあたり，中世陶磁器は国立歴史民俗博物館助教授の小野正敏氏，近世陶磁

器は財団法人出光美術館学芸員の荒川正明氏，縄文式土器は茨城県立歴史館主任研究員の斉藤弘道氏に御指導をいただいた。炭化材の分析については，パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

5　発掘調査及び整理に際して御指導･御協力を賜った関係機関並びに関係各位に対して，深く感謝の意を表します。

6　遺跡の概略

遺　跡　名	西ノ脇遺跡，前田村遺跡
フリガナ	ニシノワキイセキ，マエダムライセキ
副　　題	伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１
シリーズ	茨城県教育財団文化財調査報告第87集
著　　者	吉原作平
編集機関	財団法人茨城県教育財団
発行機関	財団法人茨城県教育財団
住　　所	〒310茨城県水戸市見和１丁目356番地の２
発　行　日	1994（平成６）年３月31日

所収遺跡	市町村	コード	北緯	東経	標高
西ノ脇遺跡	谷和原村	08483－18	36°0′20″	140°2′15″	22.9 m
前田村遺跡	谷和原村	08483－19	36°0′08″	140°2′15″	23.0 m

所収遺跡	主な時代	主な遺構	主な遺物
西ノ脇遺跡	古墳（後期） 中世	住居5軒，溝14条 土坑55基，井戸2基 地下式壙7基 掘立柱建物2棟	土師器，石器，石製品 土師質土器，金属製品 陶磁器，土製品 石製模造品
前田村遺跡	旧石器 縄文（中期） 中・近世	住居51軒 土坑202基 溝15条 井戸4基	土器，石器 石製品，金属製品 五輪塔，陶磁器，土製品

目　　次

序

例言

第１章　調査経緯…… 1

　第１節　調査に至る経過…… 1

　第２節　調査経過…… 1

第２章　位置と環境…… 5

　第１節　地理的環境…… 5

　第２節　歴史的環境…… 6

第３章　調査方法…… 9

　第１節　地区設定…… 9

　第２節　基本層序の検討…… 9

　第３節　遺構確認 …… 11

　第４節　遺構調査 …… 11

第４章　遺構・遺物の記載方法 …… 13

　第１節　遺構の記載方法 …… 13

　第２節　遺物の記載方法 …… 15

第５章　西ノ脇遺跡 …… 18

　第１節　遺跡の概要 …… 18

　第２節　遺構と遺物 …… 18

　　1　竪穴住居跡 …… 18

　　2　掘立柱建物跡 …… 43

　　3　土　　坑 …… 44

　　(1)　地下式壙 …… 44

　　(2)　その他の土坑 …… 59

　　4　　溝 …… 67

　　5　井　　戸 …… 81

　　6　遺構外出土遺物 …… 84

　第３節　まとめ …… 89

第６章　前田村遺跡 …… 93

第１節　遺跡の概要 …… 93
第２節　遺構と遺物 …… 93
1　旧石器時代 …… 93
2　竪穴住居跡 …… 95
3　土　　坑…… 199
(1)　粘土張り遺構…… 199
(2)　墓　　壙…… 214
(3)　陥 し 穴…… 223
(4)　その他の土坑…… 226
4　溝 …… 248
5　井　　戸…… 254
6　遺構外出土遺物…… 257
第３節　まとめ…… 275
附　章　西ノ脇遺跡から出土した炭化材の種類…… 278
写真図版

挿　図　目　次

第 1 図　西ノ脇遺跡調査区…… 3
第 2 図　前田村遺跡調査区…… 4
第 3 図　周辺遺跡分布図…… 8
第 4 図　調査区呼称方法概念図…… 9
第 5 図　西ノ脇遺跡基本土層図 …… 10
第 6 図　前田村遺跡基本土層図 …… 10
（西ノ脇遺跡）
第 7 図　第1号住居跡実測図…… 19
第 8 図　第1号住居跡出土遺物位置図…… 20
第 9 図　第1号住居跡出土遺物実測図 (1)　23
第 10図　第1号住居跡出土遺物実測図 (2)　24
第 11図　第1号住居跡出土遺物実測図 (3)　25
第 12図　第2号住居跡実測図…… 27
第 13図　第2号住居跡出土遺物実測図…… 29
第 14図　第4号住居跡実測図…… 31
第 15図　第4号住居跡出土遺物実測図 (1)　32
第 16図　第4号住居跡出土遺物実測図 (2)　33
第 17図　第6号住居跡実測図…… 37
第 18図　第6号住居跡出土遺物実測図…… 38
第 19図　第7号住居跡実測図…… 40
第 20図　第7号住居跡出土遺物実測図…… 41
第 21図　第1･2号掘立柱建物跡実測図…… 44
第 22図　第1号地下式壙実測図…… 45
第 23図　第1号地下式壙出土遺物実測図… 46
第 24図　第2号地下式壙実測図…… 47
第 25図　第2号地下式壙出土遺物実測図… 48
第 26図　第3号地下式壙実測図…… 49
第 27図　第3号地下式壙出土遺物実測図… 50
第 28図　第4号地下式壙実測図…… 51
第 29図　第4号地下式壙出土遺物実測図… 52
第 30図　第5号地下式壙実測図…… 53
第 31図　第5号地下式壙出土遺物実測図… 54
第 32図　第6号地下式壙実測図…… 55
第 33図　第6号地下式壙出土遺物実測図… 56
第 34図　第7号地下式壙実測図…… 57
第 35図　第7号地下式壙出土遺物実測図… 58
第 36図　その他の土坑実測図 (1)…… 61
第 37図　その他の土坑実測図 (2)…… 62
第 38図　その他の土坑出土遺物実測･拓影図
…… 64
第 39図　第4･6号溝実測図 …… 69･70
第 40図　第12･13号溝実測図…… 71
第 41図　第6号溝出土遺物実測図 (1) …… 72
第 42図　第6号溝出土遺物実測図 (2) …… 73
第 43図　第6号溝出土遺物実測図 (3) …… 74
第 44図　第6号溝出土遺物実測･拓影図 (4) 75
第 45図　第6号溝出土遺物実測図 (5) …… 76
第 46図　第6号溝出土遺物実測図 (6) …… 77
第 47図　第13号溝出土遺物実測図 …… 80
第 48図　その他の溝出土遺物実測図 …… 80
第 49図　第2号井戸実測図…… 82
第 50図　第2号井戸出土遺物実測 ・ 拓影図 82
第 51図　第3号井戸実測図…… 83
第 52図　第3号井戸出土遺物実測図…… 84
第 53図　遺構外出土遺物拓影図 (1)…… 86
第 54図　遺構外出土遺物実測･拓影図 (2)　87
第 55図　遺構外出土遺物実測･拓影図 (3)　88
（前田村遺跡）
第 56図　旧石器時代石器集中地点 …… 94
第 57図　旧石器時代出土遺物実測図 …… 94
第 58図　第1号住居跡実測図…… 96
第 59図　第1号住居跡出土遺物実測･拓影図
…… 97
第 60図　第2A号住居跡実測図 …… 99
第 61図　第2A号住居跡出土遺物実測･拓影図
…… 100

第 62図　第2B号住居跡実測図 …… 102
第 63図　第2B号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 103
第 64図　第3A号住居跡実測図 …… 104
第 65図　第3A号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 105
第 66図　第3B号住居跡実測図 …… 106
第 67図　第3B号住居跡出土遺物拓影図　106
第 68図　第4号住居跡実測図……108
第 69図　第4号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 109
第 70図　第5号住居跡実測図 …… 110
第 71図　第5号住居跡出土遺物実測・拓影図 (1) …… 112
第 72図　第5号住居跡出土遺物実測図 (2) 113
第 73図　第6号住居跡実測図 …… 114
第 74図　第6号住居跡出土遺物実測・拓影図　115
第 75図　第7号住居跡実測図 …… 117
第 76図　第7号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 118
第 77図　第8号住居跡実測図 …… 120
第 78図　第8号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 121
第 79図　第9号住居跡実測図 …… 122
第 80図　第9号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 123
第 81図　第10号住居跡実測図…… 125
第 82図　第10号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 126
第 83図　第11号住居跡実測図…… 127
第 84図　第11号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 128
第 85図　第12号住居跡実測図…… 130
第 86図　第12号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 131
第 87図　第13号住居跡実測図…… 132
第 88図　第15号住居跡実測図…… 134
第 89図　第15号住居跡出土遺物実測・拓影図 (1) …… 135
第 90図　第15号住居跡出土遺物実測図 (2) …… 136
第 91図　第16号住居跡実測図…… 137
第 92図　第16号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 138
第 93図　第17号住居跡実測図…… 139
第 94図　第17号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 140
第 95図　第18号住居跡実測図…… 142
第 96図　第18号住居跡出土遺物実測・拓影図 (1) …… 143
第 97図　第18号住居跡出土遺物実測図 (2) …… 144
第 98図　第20号住居跡実測図…… 146
第 99図　第20号住居跡出土遺物実測図 (1) …… 147
第100図　第20号住居跡出土遺物実測・拓影図 (2) …… 148
第101図　第21号住居跡実測図…… 150
第102図　第21号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 151
第103図　第22号住居跡実測図…… 152
第104図　第22号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 153
第105図　第23号住居跡実測図…… 154
第106図　第25号住居跡実測図…… 155
第107図　第25号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 156
第108図　第26号住居跡実測図…… 157
第109図　第26号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 158

第110図　第27号住居跡実測図…… 159
第111図　第28号住居跡実測図…… 161
第112図　第28号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 162
第113図　第30号住居跡実測図…… 163
第114図　第30号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 164
第115図　第31号住居跡実測図…… 166
第116図　第31号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 167
第117図　第32号住居跡実測図…… 169
第118図　第32号住居跡出土遺物実測・拓影図 (1) …… 170
第119図　第32号住居跡出土遺物実測図 (2) …… 171
第120図　第33号住居跡実測図…… 173
第121図　第33号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 174
第122図　第34号住居跡実測図…… 175
第123図　第34号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 176
第124図　第35A号住居跡実測図 …… 178
第125図　第35A号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 179
第126図　第35B号住居跡実測図 …… 180
第127図　第35B号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 181
第128図　第36号住居跡実測図…… 182
第129図　第36号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 183
第130図　第37号住居跡実測図…… 184
第131図　第37号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 185
第132図　第43号住居跡実測図…… 187
第133図　第43号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 188
第134図　第45号住居跡実測図…… 189
第135図　第45号住居跡出土遺物実測図… 190
第136図　第48号住居跡実測図…… 191
第137図　第48号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 192
第138図　第51号住居跡実測図…… 193
第139図　第51号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 194
第140図　第52号住居跡実測図…… 196
第141図　第52号住居跡出土遺物実測・拓影図 …… 197
第142図　第13・15号土坑実測図 …… 200
第143図　第13号土坑出土遺物実測図…… 201
第144図　第15号土坑出土遺物実測図 (1)　202
第145図　第15号土坑出土古銭拓影図 (2)　203
第146図　第69・70～81・89・100号土坑実測図 …… 205
第147図　第69号土坑出土遺物実測図…… 206
第148図　第70号土坑出土遺物実測図…… 206
第149図　第80号土坑出土遺物実測図…… 207
第150図　第82・90・101A・B号土坑実測図　208
第151図　第82号土坑出土遺物実測図…… 209
第152図　第90号土坑出土遺物実測図…… 210
第153図　第100号土坑出土遺物実測・拓影図 …… 211
第154図　第101A号土坑出土遺物実測図　212
第155図　第101B号土坑出土遺物実測図　213
第156図　第77・83・84A・B・91号土坑実測図 …… 214
第157図　第77号土坑出土古銭拓影図…… 215
第158図　第84A号土坑出土遺物実測図 (1) …… 217
第159図　第84A号土坑出土遺物実測図 (2) …… 218

第160図　第84B号土坑出土古銭拓影図… 219
第161図　第91号土坑出土遺物実測図…… 219
第162図　第96A～E号土坑実測図 …… 220
第163図　第96A号土坑出土遺物実測図… 221
第164図　第108・128・153号土坑実測図 … 224
第165図　第154・155号土坑実測図 …… 225
第166図　第1・6・12・43号土坑実測図 …… 227
第167図　第1号土坑出土遺物実測図 …… 228
第168図　第6号土坑出土遺物実測図 (1)… 229
第169図　第6号土坑出土遺物実測図 (2)… 230
第170図　第12号土坑出土遺物実測・拓影図 …… 231
第171図　第43号土坑出土遺物実測図…… 232
第172図　第47・51・68号土坑実測図…… 233
第173図　第47号土坑出土遺物実測図…… 234
第174図　第51号土坑出土遺物実測図…… 235
第175図　第68号土坑出土遺物実測図…… 236
第176図　その他の土坑出土遺物実測図 (1) …… 238
第177図　その他の土坑出土遺物実測図 (2) …… 239
第178図　その他の土坑出土遺物拓影図 (1) …… 240
第179図　その他の土坑出土遺物拓影図 (2) …… 241
第180図　その他の土坑出土遺物拓影図 (3) …… 242
第181図　第1・3号溝実測図 …… 249・250
第182図　第1号溝出土遺物実測図 …… 251
第183図　第3号溝出土遺物実測図 …… 251
第184図　第5号溝出土遺物実測図 …… 252
第185図　その他の溝出土遺物実測図…… 253
第186図　第1～4号井戸実測図…… 255
第187図　第1号井戸出土遺物実測図 …… 256
第188図　第3号井戸出土遺物実測図 …… 256
第189図　遺構外出土遺物拓影図 (1) …… 262
第190図　遺構外出土遺物拓影図 (2) …… 263
第191図　遺構外出土遺物拓影図 (3) …… 264
第192図　遺構外出土遺物拓影図 (4) …… 265
第193図　遺構外出土遺物拓影図 (5) …… 266
第194図　遺構外出土遺物実測・拓影図 (6) 267
第195図　遺構外出土遺物実測・拓影図 (7) 268
第196図　遺構外出土遺物実測図 (8) …… 269
第197図　遺構外出土遺物実測図 (9) …… 270
第198図　遺構外出土遺物実測図 (10) …… 271
第199図　遺構外出土遺物実測図 (11) …… 272
第200図　遺構外出土遺物実測図 (12) …… 273

表　目　次

表 1　西ノ脇・前田村遺跡一覧表…… 7
表 2　西ノ脇遺跡一覧表…… 42
表 3　西ノ脇遺跡土坑一覧表…… 65
表 4　西ノ脇遺跡溝一覧表…… 81
表 5　前田村遺跡住居跡一覧表 …… 197
表 6　前田村遺跡土坑一覧表 …… 243
表 7　前田村遺跡溝一覧表 …… 253

附　図　目　次

附図 1　西ノ脇遺跡全体図
附図 2　前田村遺跡全体図

写真図版目次

ＰＬ１　西ノ脇遺跡全景、前田村遺跡全景

ＰＬ２　西ノ脇遺跡試掘風景

ＰＬ３　前田村遺跡試掘、前田村遺跡遺構確認（西ノ脇遺跡）

ＰＬ４　第１号住居跡、第１号住居跡遺物出土状況

ＰＬ５　第１号住居跡出土炭化材

ＰＬ６　第２号住居跡、第２号住居跡遺物出土状況、第２号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

ＰＬ７　第４号住居跡、第６号住居跡、第６号住居跡遺物出土状況

ＰＬ８　第６号住居跡竈、第７号住居跡、第７号住居跡遺物出土状況

ＰＬ９　第７号住居跡竈、支脚、遺構確認

ＰＬ10　第１号地下式壙、第２号地下式壙、第３号地下式壙

ＰＬ11　第４号地下式壙、第５号地下式壙、第６号地下式壙

ＰＬ12　第７号地下式壙、第16号土坑遺物出土状況、第17号土坑遺物出土状況

ＰＬ13　第17号土坑遺物出土状況、第70号土坑、第92号土坑

ＰＬ14　第112号土坑、第102号土坑、第102号土坑遺物出土人骨

ＰＬ15　第２号井戸、第３号井戸、第６号溝遺物出土状況

ＰＬ16　第１号住居跡出土土器

ＰＬ17　第１・２号住居跡出土土器

ＰＬ18　第１号住居跡出土土器

ＰＬ19　第２・４号住居跡出土土器

ＰＬ20　第４・６・７号住居跡出土土器

ＰＬ21　第６・７号住居跡出土土器

ＰＬ22　第２・３・４・６・７号地下式壙、第16号溝出土土器

ＰＬ23　第１・６・７号地下式壙、第６号溝出土遺物

ＰＬ24　第６号溝出土土器 (1)

ＰＬ25　第６号溝出土土器 (2)

ＰＬ26　第６・13号溝、第３号井戸出土遺物

ＰＬ27　出土遺物(1)

ＰＬ28　出土遺物(2)

ＰＬ29　Ａ地区、第１号住居跡、第１号住居跡遺物出土状況

ＰＬ30　第２Ａ号住居跡、第２Ａ号住居跡埋甕炉、第３Ａ号住居跡

ＰＬ31　第３Ａ号住居跡遺物出土状況、第３Ａ号住居跡埋甕炉

ＰＬ32　第３Ｂ号住居跡、第４号住居跡、第５号住居跡

ＰＬ33　第５号住居跡遺物出土状況、第６号住居跡、第７号住居跡

ＰＬ34　第７号住居跡遺物出土状況、第８号住居跡、第９号住居跡

ＰＬ35　第９号住居跡遺物出土状況、第10号住居跡、第11号住居跡

ＰＬ36　第12号住居跡、第13号住居跡、第15号住居跡

ＰＬ37　第15号住居跡遺物出土状況、第16号住居跡、第17号住居跡

ＰＬ38　第17号住居跡埋甕炉、第18号住居跡、第18号住居跡遺物出土状況

ＰＬ39　第19号住居跡、第20号住居跡、第20号住居跡遺物出土状況

ＰＬ40　第21号住居跡、第21号住居跡遺物出土状況、第22号住居跡

ＰＬ41　第26号住居跡、第26号住居跡遺物出土状況、第27号住居跡
ＰＬ42　第28号住居跡、第28号住居跡遺物出土状況、第30号住居跡
ＰＬ43　第31号住居跡、第31号住居跡遺物出土状況、第31号住居跡出土耳栓
ＰＬ44　第32号住居跡、第32号住居跡遺物出土状況、第32号住居跡出土深鉢形土器
ＰＬ45　第33号住居跡、第34号住居跡、第35Ａ号住居跡
ＰＬ46　第35Ａ号住居跡遺物出土状況、第35Ａ号住居跡出土深鉢形土器、第35Ａ号住居跡出土有孔円板
ＰＬ47　第35Ｂ号住居跡、第36号住居跡、第36号住居跡遺物出土状況
ＰＬ48　第37号住居跡複式炉、第37号住居跡
ＰＬ49　第37号住居跡遺物出土状況、第38号住居跡、第39号住居跡
ＰＬ50　第43号住居跡、第45号住居跡、第45号住居跡遺物出土状況
ＰＬ51　第46号住居跡、第48号住居跡、第51号住居跡
ＰＬ52　第13号土坑（粘土張り遺構）、第15号土坑（粘土張り遺構）遺物出土状況、第69号土坑（粘土張り遺構）
ＰＬ53　第70号土坑（粘土張り遺構）遺物出土状況、第70・100号土坑（粘土張り遺構）、第99号土坑、第79号土坑（粘土張り遺構）、第80号土坑（粘土張り遺構）遺物出土状況、第90号土坑（粘土張り遺構）遺物出土状況
ＰＬ54　第101Ａ・101Ｂ号土坑（粘土張り遺構）遺物出土状況、第83号土坑出土歯、第96Ｂ号土坑出土五輪塔
ＰＬ55　第108号土坑、第154号土坑、第153号土坑、第128号土坑、第１号土坑遺物出土状況、第６号土坑遺物出土状況
ＰＬ56　第43号土坑遺物出土状況、第47号土坑遺物出土状況、第４号溝、第５号溝、中世の墓壙群、旧石器時代出土剥片
ＰＬ57　第１・２Ａ・２Ｂ・３Ａ・５号住居跡出土土器
ＰＬ58　第６・７・９・12・17号住居跡出土土器
ＰＬ59　第18・20・21・25・26・28号住居跡出土土器
ＰＬ60　第28・30～32号住居跡出土土器
ＰＬ61　第32・34・35Ａ・36・37・48号住居跡出土土器
ＰＬ62　第１・６号土坑出土土器
ＰＬ63　第47・69号・その他の土坑出土土器
ＰＬ64　第12・15・70・82・101Ａ号・その他の土坑、遺溝外出土陶磁器
ＰＬ65　第１号溝、第１・２・３号井戸、遺構外出土墨書土器、陶磁器片
ＰＬ66　第１号溝、第３号井戸、遺構外出土器
ＰＬ67　遺構外出土土器、土製品
ＰＬ68　土製品
ＰＬ69　表彩出土陶磁器片、第９号住居跡出土石棒
ＰＬ70　石製品
ＰＬ71　第84Ａ号土坑出土五輪塔、宝篋印塔
ＰＬ72　第84Ａ・96Ａ号土坑出土五輪塔
ＰＬ73　石器(1)
ＰＬ74　石器(2)
ＰＬ75　石器(3)
ＰＬ76　古銭
ＰＬ77　煙管

第１章　調査経緯

第１節　調査に至る経過

伊奈・谷和原丘陵部地区の土地利用は，常磐新線による伊奈町・谷和原村の玄関口として都市性の高い街を計画的に整備するために，駅を中心とした商業・業務機能や住宅地及び誘致施設などを中心として計画された。

この事業に先立ち，茨城県常磐新線整備推進課は，茨城県教育委員会（以下，「県教育委員会」とする。）に埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対し県教育委員会は，伊奈町教育委員会・谷和原村教育委員会と埋蔵文化財所在の有無およびその取扱いについて協議した。その結果，伊奈町側には高野台遺跡が，谷和原村側には西ノ脇遺跡と前田村遺跡が所在することを確認し，県教育委員会は常磐新線整備推進課に開発地域に埋蔵文化財の包蔵地が所在することを回答した。平成３年11月，常磐新線整備推進課は，県教育委員会と伊奈・谷和原丘陵部地内における埋蔵文化財包蔵地の範囲の確認及びその取り扱いについて協議を重ねた。なお，平成３年度末に事務手続は常磐新線整備推進課より土浦土木事務所に移った。

協議の結果，現状保存が困難であることから，記録保存の措置を講じることになり，県教育委員会は土浦土木事務所に対し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。なお，平成４年度から，伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業の取り扱いについては，土浦土木事務所から今回の開発のため組織した茨城県県南都市建設事務所に移行された。

茨城県教育財団は，茨城県との間に埋蔵文化財発掘調査に関する委託契約を締結し，平成４年４月１日から西ノ脇遺跡・前田村遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第２節　調査経過（第１・２図）

西ノ脇遺跡，前田村遺跡の発掘調査は，平成４年４月１日から平成５年３月31日までの１年間にわたって実施した。

４　月　発掘調査を開始するために，現場事務所や倉庫の設置，駐車場の確保，作業員募集等の諸準備を行う。14日には，谷和原村公民館にて作業員への説明会を行った。17日に発掘調査の円滑な推進と作業の安全を祈って，関係者列席のもとに鍬入れ式を挙行した。第２図で示したように前田村遺跡を便宜上Ａ・Ｂ地区に分けて，20日からＡ地区の伐開作業と試掘調査に入った。

５　月　１日から10日にかけて，前田村遺跡の試掘調査を継続して行い，11日からは，西ノ脇遺跡の試掘調査を実施した。27日からは，前田村遺跡の西端部から重機による表土除去

を開始した。

6　月　前月に引き続き，前田村遺跡の表土除去と遺構確認作業を中心に実施した。この時点で、縄文時代と推定される住居跡８軒，土坑53基，溝５条などが確認できた。

7　月　１日から西ノ脇遺跡の遺構確認作業と並行して，住居跡５軒の調査を開始した。24日から地下式壙３基の調査に入った。その後，遺構確認作業を続け，確認状況の写真撮影を行った。

8　月　西ノ脇遺跡の調査を継続した。下旬には，前田村遺跡の調査も並行して行った。

9　月　上旬に西ノ脇遺跡の調査を終了した。調査した遺構は，住居跡５軒(古墳時代)，掘立柱建物跡２棟，土坑62基（うち地下式壙７基)，溝14条，井戸２基 である。14日に西ノ脇遺跡の航空写真撮影を行った。前田村遺跡の調査を並行して実施した。

10　月　前田村遺跡は前月に引き続き，住居跡の調査を行った。

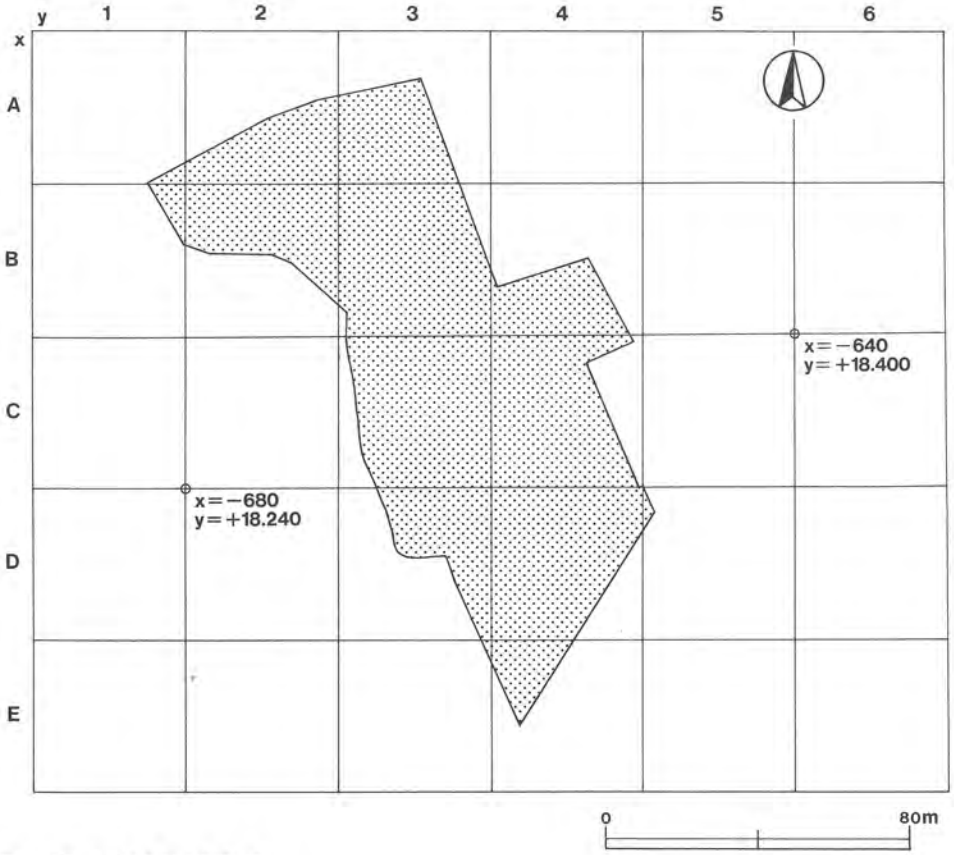
11　月　調査は，住居跡34軒まで進行した。土坑の中には，江戸時代の墓と思われる底に粘土を張ったものが確認できた。

12　月　前月に引き続き，住居跡，土坑の調査を行った。

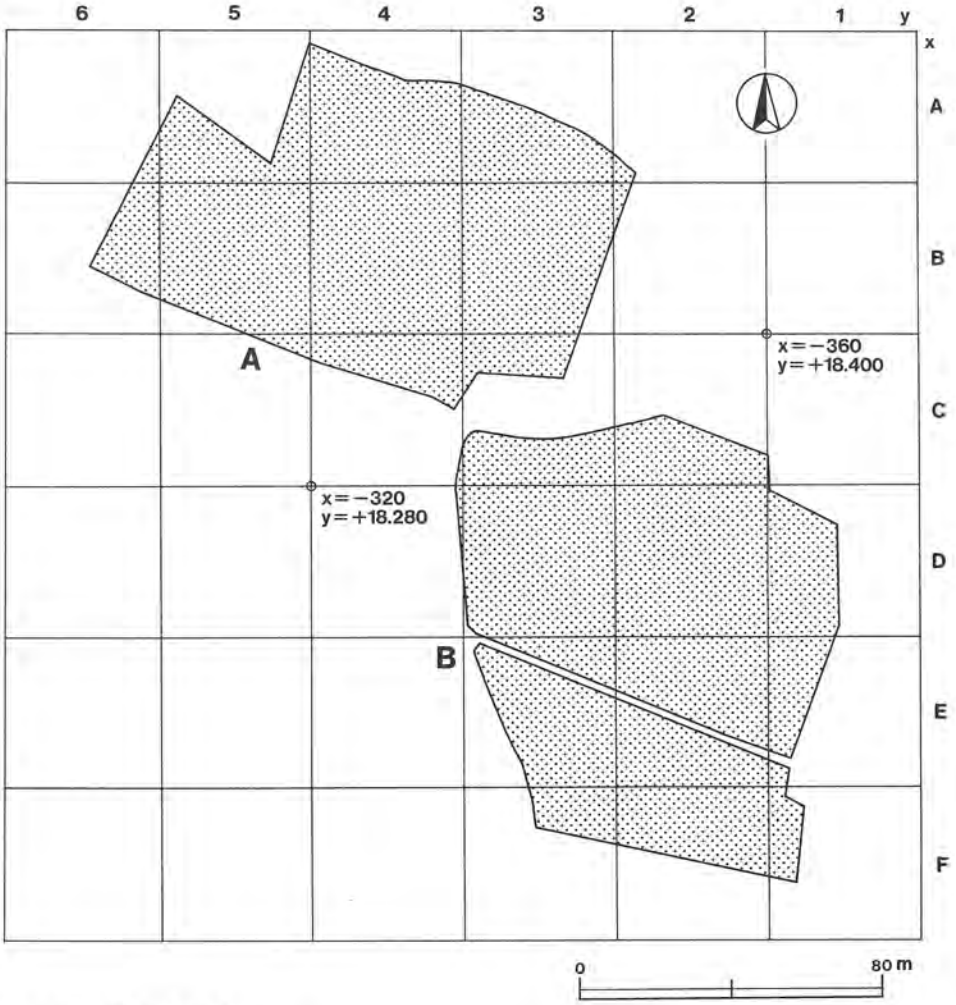
1　月　５日から前田村遺跡Ｂ地区の遺構確認作業を開始した。月末までにＢ地区の住居跡３軒，土坑17基，井戸１基を調査した。住居跡は，すべて縄文時代であった。

2　月　調査を進めた結果，住居跡51軒，土坑202基，溝15条，井戸４基を確認した。土坑には，粘土を張った遺構22基や陥し穴５基が確認できた。

3　月　上旬でほぼ調査は終了した。１日には委託者に対して報告会を行い，５日には遺跡の航空写真撮影を行い，７日には現地説明会を実施した。中旬にこれまでに作成した図面類の点検，修正等を実施し，それと並行して，遺構内の危険箇所の安全対策を行い，25日に現地の調査を終了した。



第１図　西ノ脇遺跡調査区



第 2 図　前田村遺跡調査区

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

前田村遺跡は，茨城県筑波郡谷和原村大字田字八幡957番地ほかに所在する。西ノ脇遺跡は，茨城県筑波郡谷和原村大字東楢戸字西ノ脇1351番地ほかに所在し，前田村遺跡の南１kmほどに位置している。

谷和原村は，茨城県の南西部に位置し，北部は水海道市・つくば市，南部は守谷町・伊奈町に接している。地形は，栃木県から本県に南流する鬼怒川と，これに平行して南流する小貝川によって造られた沖積低地と，北東側から続く筑波・稲敷台地及び西側の猿島・北相馬台地の一部から成り立っている。この台地の標高は，南東部が26～29mで，北西部はやや低い。台地面はいずれも北西から南東方向に流れる小野川・東谷田川・西谷田川とその支谷の浸食が進み，下流部には牛久沼をはじめ沼沢池があって灌漑水源となり，一部は干拓して水田化されている。谷和原村の大部分は沖積低地であり，この低地は鬼怒川水路の幾多の変遷と，造盆地運動の作用と考えられている。なお，鬼怒川は江戸時代以前に北相馬台地の北端の小絹地先で東流し，小貝川と合流していたため洪水の原因となっていたが，江戸時代初期に治水事業が行われ，猿島・北相馬台地の一部を開削し小貝川と分流させたことにより，当遺跡の北部で大きく南西に曲がりながら流下し，利根川に注ぎ込むようになった。

筑波・稲敷台地の地層は，貝化石を産する見和層（成田層）を基盤層として，その上に砂まじりのローム層から，クロスラミナの顕著な砂ないし砂礫層である竜ケ崎砂礫層へ漸移する。そして，その上層は所によってさまざまに変化するが，総じてローム層下に火山灰質粘土層である常総粘土層がみられる。上位は，褐色の関東ローム層におおわれており，ローム層の下底より10～20cm上に黄色軽石層が観察される。

西ノ脇遺跡・前田村遺跡は，小貝川の氾濫源である水田を南西方に見下ろす洪積台地の端にあたる。台地の西側には，谷津が南東に入り込み，両遺跡とも谷津に挟まれた平坦な台地上に位置している。標高は20～22mで，主に畑地と平地林が形成されている。近年では，ゴルフ場や工場の進出がめざましく，宅地化の波が伊奈町や谷和原村周辺地区に押し寄せている。

当遺跡の所在する台地縁辺部には，田村貝塚をはじめ，17か所の地点に縄文時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が確認されている。このうち，６か所の遺跡では発掘調査が実施されているので，遺跡の性格は明らかになっているが，他の遺跡については明らかでない。

第2節　歴史的環境

西ノ脇遺跡・前田村遺跡の周辺に所在する遺跡を，谷和原村を中心として時代毎に記載し，歴史的変遷について述べることにする。

旧石器時代の遺跡は，当教育財団が調査した筒戸A・B遺跡〈17・18〉からチャート，黒色流紋岩製のナイフ形石器2点や黒曜石の剝片などが出土している。[6] 前田村遺跡〈2〉からも安山岩製の尖頭器やメノウの剝片などが出土している。

縄文時代の遺跡は，早期から晩期まで確認されている。早期の遺跡としては，洞坂畑遺跡〈11〉，西下宿遺跡〈16〉がある。西下宿遺跡は，縄文時代早期の田戸式から茅山式期の土器片を主として出土した遺跡である。前期の遺跡は少なく，関山式期の田村貝塚〈4〉や浅間山貝塚〈13〉が知られているだけである。中期になると遺跡は増加し，前田村遺跡をはじめ大谷津A遺跡〈14〉，大谷津B遺跡〈15〉，筒戸A・B遺跡がある。前田村遺跡は，加曽利EⅢ・Ⅳ式期の集落跡が中心である。これらの住居跡は，いずれも遺跡の北側に入り込む谷津に沿った，台地上の平坦地に所在している。大谷津A遺跡は，中期の阿玉台～加曽利E式期の集落跡である。[7] 大谷津B遺跡は，加曽利EⅡ～Ⅳ式期の集落跡である。[5] また，大谷津B遺跡の南側に隣接する，筒戸A・B遺跡もほぼ同時期の集落跡である。これらの4遺跡は，いずれも谷津に沿った台地上の平坦地に所在し，前田村遺跡の立地条件と同じくしている。

弥生時代の遺跡は，現在のところ村内では確認されていない。隣接するつくば市谷田部には熊の山遺跡，高山遺跡，境松遺跡，伊奈町に勘兵新田遺跡などの後期の遺跡がある。[6]

古墳時代の遺跡は，西ノ脇遺跡〈1〉をはじめ並木古墳〈3〉，福岡南古墳群〈5〉，東楢戸古墳〈7〉，[8] 茶畑古墳〈12〉などが，台地丘陵部で確認されている。西ノ脇遺跡は，東楢戸古墳に隣接しており，時期的にも同じ頃と考えられることから，両者の関係を示唆している。

奈良・平安時代の遺跡は，村内で報告例は少なく，大谷津A遺跡や筒戸A・B遺跡から数軒の竪穴住居跡が確認されているにすぎない。前田村遺跡には，遺構は確認できなかったが八幡神社前から「真」と書かれた墨書土器が出土していることから，この付近に奈良・平安時代の集落が存在する可能性がある。

中世・近世の遺跡は，筒戸城跡〈10〉が確認されている。また，前田村遺跡には中世の五輪塔や近世の粘土を張った墓壙22基が確認されている。当遺跡付近には古くから，田村の北部にあった田村城〈20〉と呼ばれる城（現在の城山運動公園）と関連した古屋敷が八幡神社前にあったとの伝承があり，この墓地は屋敷内墓地である可能性をもつ。西ノ脇遺跡には，中央から北部にかけて中世の地下式壙7基や墓地が確認されているため，墓域として利用されていたと考えられる。

※　本文中の〈　〉内の番号は，表1・第3図中の該当番号と同じである。

表１　西ノ脇・前田村遺跡周辺遺跡一覧表

図中番号	遺跡名	遺跡の時代						図中番号	遺跡名	遺跡の時代					
		旧	縄	弥	古	奈・平	中・近			旧	縄	弥	古	奈・平	中・近
1	西ノ脇遺跡		○		○		○	11	洞坂畑遺跡		○				○
2	前田村遺跡	○	○			○	○	12	茶畑遺跡				○		
3	並木古墳				○			13	浅間山貝塚		○				
4	田村貝塚		○					14	大谷津Ａ遺跡		○		○	○	
5	福岡南古墳群				○			15	大谷津Ｂ遺跡		○				
6	下長沼貝塚		○					16	西下宿遺跡		○				
7	東楢戸古墳				○			17	筒戸Ａ遺跡	○	○			○	
8	鹿島神社遺跡		○					18	筒戸Ｂ遺跡	○	○			○	
9	小張貝塚		○					19	豊岡Ａ遺跡		○				
10	筒戸城跡						○	20	田村城跡						○

〈注・参考文献〉

(1)　茨城県　『茨城県史　市町村編II』　1975年

(2)　茨城県　『土地分類基本調査　龍ケ崎』　1975年

(3)　水海道市史編さん委員会　『水海道市史　上巻』　1983年

(4)　洞坂畑遺跡発掘調査会　『洞坂畑遺跡』　1979年

(5)　茨城県教育財団　「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1　大谷津Ｂ遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』　第18集　1981年

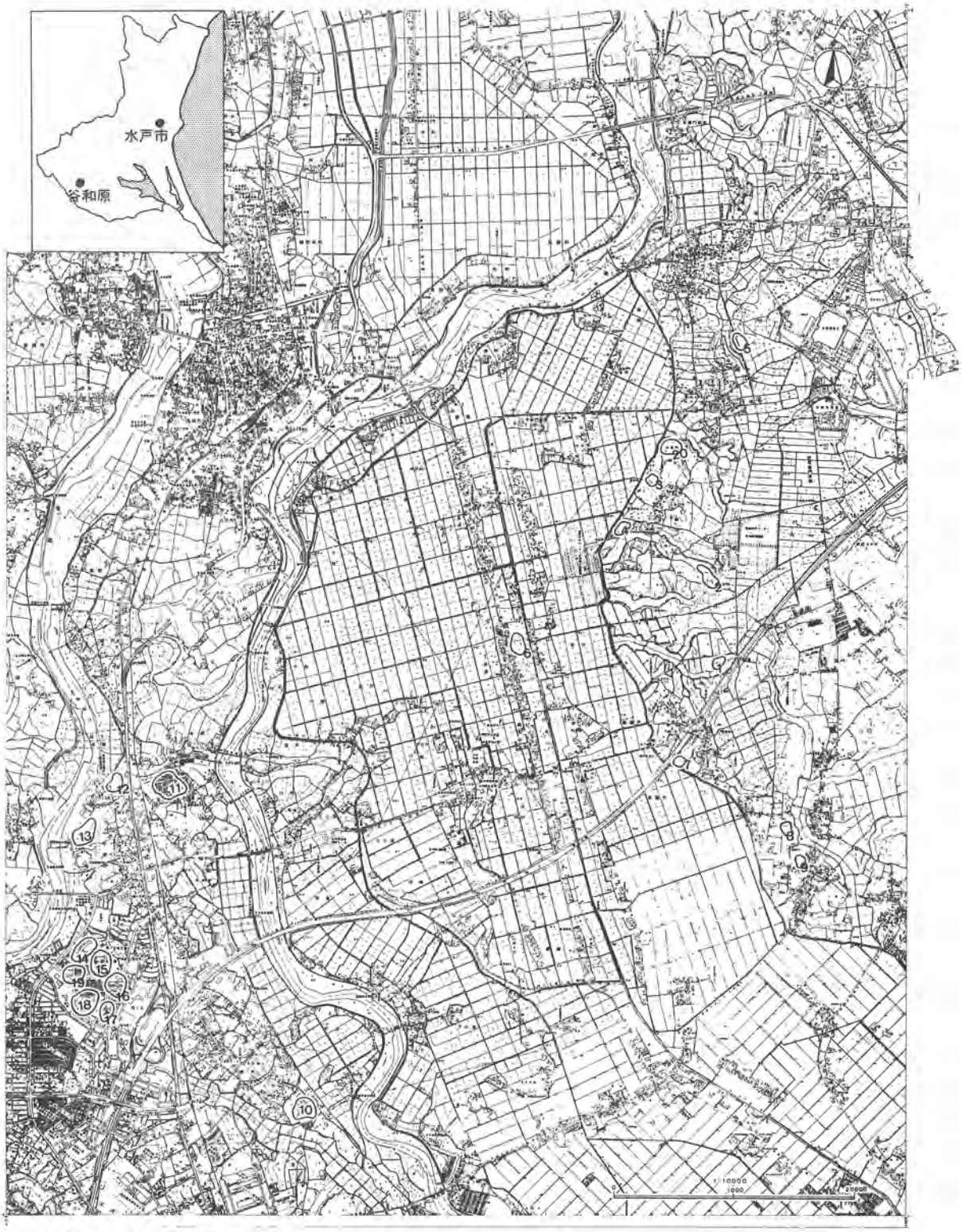
(6)　茨城県教育財団　「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2　筒戸Ａ・Ｂ遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』　第24集　1984年

(7)　茨城県教育財団　「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3　大谷津Ａ遺跡」　『茨城県教育財団文化財調査報告』　第28集　1985年

(8)　茨城県教育財団　「常磐自動車関係埋蔵文化財調査報告書III 東楢戸古墳」　『茨城県教育財団文化財調査報告XI』　1981年

(9)　『茨城県地名大辞典』　角川書店　1983年

(10)　塙　泉嶺　『筑波郡郷土史』　賢美閣　1979年



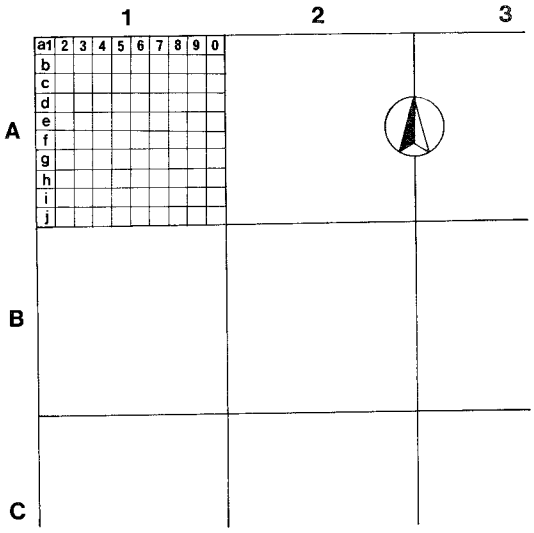
第 3 図　周辺遺跡分布図

第3章　調査方法

第1節　地区設定

西ノ脇遺跡・前田村遺跡の発掘調査を実施するに当たり，遺跡及び遺構の位置を明確にするため調査区を設定した。

調査区の設定は，日本平面直角座標第IX系座標を用いて区画し，下記のようにX軸（南北），Y軸（東西）を基準点として40m方眼を設定し，この40m四方の区画を大調査区とした。さらに，この大調査区を東西，南北に各々十等分して，4m四方の小調査区を設定した。



第4図　調査区呼称方法概念図

調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用いて表記した。大調査区の名称は，西ノ脇遺跡が北から南へ「A」・「B」・・・，西から東へ「1」・「2」・・・とし，その組み合わせで「A1区」，「B2区」・・・のように呼称した。さらに，大調査区を4m方眼に100分割した小調査区をそれぞれ同様に，北から南へ「a」・「b」・・・「j」，西から東へ「$_1$」・「$_2$」・・・「$_0$」と小文字を付した。ただし，前田村遺跡は大調査区，小調査区ともに第4図のように東から西へ「1」・「2」・・・と大文字，小文字を付した。各小調査区の名称は，大調査区の名称と合わせて，「A1a_1」区，「B2b_2」区のように呼称した。

なお，基準点の杭打ち測量は，財団法人茨城県建設技術公社に委託した。

(1)　西ノ脇遺跡　　X軸　（南北）－560m　　Y軸　（東西）　＋18,200m

(2)　前田村遺跡　　X軸　（南北）－440m　　Y軸　（東西）　＋18,440m

第2節　基本層序の検討

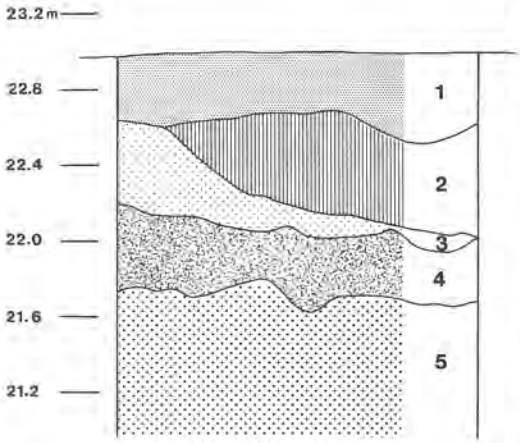
1　西ノ脇遺跡

西ノ脇遺跡の基本層序は，第5図のとおりである。第1層は，厚さ35～40cm程の褐色土の表土層で，ローム粒子を極少量含み，粘性，締まりともに弱い。第2層は，厚さ25cm程のにぶい褐色土で，ローム中ブロック，ローム粒子を多量に含み，粘性，締まりともに弱い。第3層は，厚さ20cmの橙色土のソフトローム層で，粘性，締まりとも上層に比較すると強い。第4層は，厚さ15～20

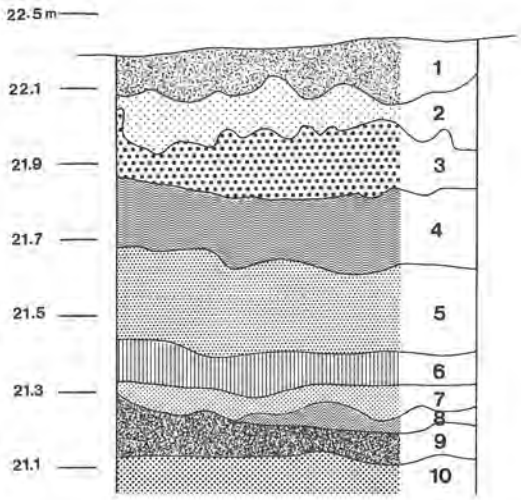
cm前後の橙色土のハードローム層で，炭化粒子，焼土粒子を極少量含み，粘性，締まりとも強い。第５層は，厚さ35cm以上の明褐色のハードローム層で，粘性，締まりとも強い。遺構は，表土下40cm程の第２層から確認されている。

2　前田村遺跡

前田村遺跡の基本層序は，第６図のとおりである。第１層は，厚さ20～30cm程のにぶい褐色土の表土層で，ローム粒子を少量，褐色土を中量含み柔らかく，粘性，締まりとも弱い。第２層は，厚さ５～25cmの明褐色土のソフトローム層で，ローム粒子を中量，褐色土を少量含み，やや硬く締まり，粘性は弱い。第３層は，厚さ20～40cmの暗褐色土で，ローム粒子を中量，褐色土を少量，炭化粒子を極少量含み，粘性，締まりともに強い。いわゆる，ブラックバンドと呼ばれる層である。第４～８層は，ハードローム層で粘土を少量含んでいる。第４層は，厚さ30cm程の褐色土で，粘性，締まりともに強い。第５層は，にぶい橙色土であり，第６～８層は，橙色土である。粘性，締まりともに強い。第５層は40cm程，第６層は20cm程，第７層は10cm程，第８層は５～10cm程の厚さである。第９層は，厚さ20cmの黄色粘土層である。粘性，締まりともに極めて強い。第10層は，厚さ20cm以上の粘土層であるが，未掘のため本来の厚さは不明である。粘性，締まりともに極めて強い。 遺構は，表土下40cm程の第２層から確認されている。



第５図　西ノ脇遺跡基本土層図



第６図　前田村遺跡基本土層図

第３節　遺構確認

西ノ脇遺跡の調査前の状況は平地林と畑地であり，縄文式土器・土師器片が採集できることから，該期の遺構の存在が予想された。

前田村遺跡の調査前の状況も平地林と畑地であり，縄文式土器が採集できることから，該期の遺構の存在が予想された。

遺構確認は次のような方法で実施した。まず，西ノ脇遺跡は調査区域全体に調査区を設定し，調査面積の16分の１，次いで８分の１の割合で試掘調査を行い，遺構の確認を試みた。その結果，縄文式土器・石器・土師器の破片とともに，住居跡や土坑・溝と思われる遺構が確認された。表土の厚さも30～40cmであることが判明したので，この試掘調査の結果をふまえ，調査区域全面にわたり重機による表土除去を実施した。前田村遺跡は，はじめＡ地区に調査区を設定し西ノ脇遺跡と同様に試掘調査を行い，遺構の確認を試みた。その結果，縄文式土器・石器の破片とともに住居跡や土坑・溝と思われる遺構が確認された。その後，同様にＢ地区の試掘調査を行い，遺構の確認を試みた。その結果Ａ地区と同時期の遺構と遺物が確認できた。

第４節　遺構調査

西ノ脇遺跡・前田村遺跡における遺構の調査は，次のように実施した。

住居跡の調査は，長軸方向とそれに直交する方向に土層観察用ベルトを設定し，四分割して掘り込む「四分割法」を基本とし，地区の名称は，北から時計回りに１～４区とした。重複している場合には，新旧関係が把握できるような位置にベルトを設定した。土坑の調査は，長径方向で二分して掘り込む「二分割法」で実施した。溝の調査は，適宜な位置に土層観察用ベルトを設定し，掘り込みを実施した。

土層観察は，色相，含有物，混入物の種類や量及び粘性，締まり具合等を観察し，分類の基準とした。色相の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄　日本色研事業株式会社）を使用した。

遺構や遺物の平面実測は，水糸方眼地張り測量と平板測量で実施した。

また，土層断面や遺構断面の実測は，遺跡内の水準点を基準とし，標高を測って水平にセットした水糸を基準にして実測した。遺物は，原位置で遺物番号・出土位置及びレベル等を遺物出土状況図や遺物台帳に記録して収納した。

調査の記録は，土層断面写真撮影→土層断面図作成→遺物出土状況写真撮影→遺物出土状況平面図作成→遺構写真撮影→遺構断面図作成→遺構平面図作成の順で行うことを基本とした。図面

や写真に記録できない事項に関しては，そのつど野帳に記録し，これを調査記録カードや遺構カードに整理した。

第４章　遺構・遺物の記載方法

第１節　遺構の記載方法

本書における遺構の記載方法は，下記の要領で統一した。

1　使用記号

名称	住居跡	土坑	溝	井戸	ピット	その他
記号	ＳＩ	ＳＫ	ＳＤ	ＳＥ	Ｐ，Ｐ１･･･	ＳＸ

2　遺構の実測図中の表示

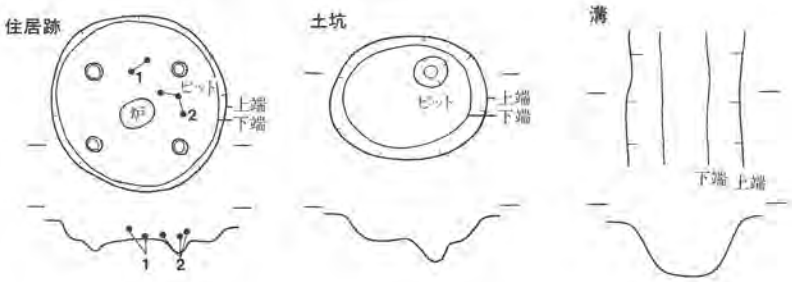
3　遺構番号

遺構番号については，調査の過程において遺構の種別ごと，調査順に付したが，整理の段階で遺構でないと判断したものは欠番とした。

4　土層の分類

土層観察における色相の判定は，図版実測図中に記載した。撹乱層については「Ｋ」と表記した。

5　遺構実測図の作成方法と掲載方法



(1)　各遺構の実測図は，縮尺20分の１の原図を60分の１の縮尺とした。

(2)　溝は，縮尺80分の１を基本とした。

(3)　実測図中のレベルは標高であり，ｍ単位で表示した。また，同一図中で同一標高の場合に限り，一つの記載で表し，標高が異なる場合は各々表示した。

(4)　本文中の記載について

①　「位置」は，遺構が占める面積の割合が最も大きい小調査区名をもって表示した。

② 「重複関係」は，他の遺構との切り合い関係を記した。

③ 「平面形」は，壁の上端部で判断し，方形，長方形，円形及び楕円形の場合は下記の分類基準を設け，そのいずれかを明記した。

方形，円形……短軸〔径〕：長軸〔径〕＝１： 1.1未満

長方形，楕円形……短軸〔径〕：長軸〔径〕＝１： 1.1以上

④ 「規模」は，壁の上端部の計測値であり，長軸〔径〕，短軸〔径〕をｍ単位で表記した。なお，（ ）を付したものは現存値を表し，［ ］を付したものは推定値を表す。

⑤ 「主軸方向」は，竈を通る線を主軸とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。

【例】Ｎ－10°－Ｅ，Ｎ－10°－Ｗ

⑥ 「壁」は，床面からの立ち上がり角度が81°～90°を垂直，65°～80°を外傾，65°未満を緩斜，さらに90°以上を内傾とした。壁高は，残存壁高の計測値であり，cm単位で表記した。

⑦ 「壁溝」は，その形状や規模を記述した。規模は床面からの計測値とした。

⑧ 「床」は，凹凸，平坦及び緩い起伏等の様子を示し，締まり等を表記した。

⑨ 「ピット」は，その住居跡に伴うと考えられるピットをＰで表示し，P_1・P_2はピット番号を表し，さらに，ピットの直径と深さを記述した。

⑩ 「貯蔵穴」は，その形状を記述し，数字は長径，短径及び深さを示した。

⑪ 「覆土」は，堆積の状態を記した。

⑫ 「遺物」は，主な遺物の種類や出土位置，出土状態を記述した。また，遺構の平面図中に第２節１に示した記号を用い，出土位置をドットで表示し，接合できたものは実線で結んだ。出土遺物に付した番号は，遺物実測図及び拓影図の番号と符合する。

⑬ 「所見」は，当該住居跡についての時期やその他特記すべき事項を記述した。

6 一覧表の見方について

(1) 住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸) (径)　(径)	壁高(cm)	床面	内部施設					炉	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	竈			

① ピット数は総数を記し，主柱穴や出入口施設ピットと思われるものはそれぞれの欄に記した。

② 炉と竈は，その種別の数を記した。

③ 「覆土」は，堆積の状態が自然堆積の場合は「自然」，人為堆積の場合は「人為」と記し

た。

④ 出土遺物は，その種類を記した。

⑤ 備考は，重複関係や特徴等を記した。

⑥ その他の項目については，本文中の記載方法に準じた。

(2) 土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					

① 規模の欄の長径〔軸〕・短径〔軸〕は上端部の計測値（m）で表した。

② 深さは，遺構確認面から坑底の最も深い部分までの計測値（cm）で表した。

③ 壁面は，坑底からの立ち上がりの状態を下記の基準で分類し表示した。

81°～ 90°の傾き　　65°～ 80°の傾き　　65°未満の傾き

垂　直　　外　傾　　緩　斜

④ その他の項目については，住居跡一覧表の記載方法に準じた。

第2節　遺物の記載方法

本書における遺物の記載方法は，下記の要領で統一した。また，遺跡から出土した遺物については，実測図，拓影図，写真等により掲載した。

1　使用記号

土器	土製品	石器・石製品	金属製品	拓本土器
P	DP	Q	M	TP

● 土器　　★ 土製品　　△ 石器・石製品　　□ 金属製品

2　遺物実測図の作成方法と掲載方法

(1) 土器の実測は，四分割法を用い中心線の左側に外面，右側に内面及び断面を示した。

(2) 土器拓影図は，右側に断面図を図示した。

(3) 石器・石製品及び土製品は，展開図法を基本とした。

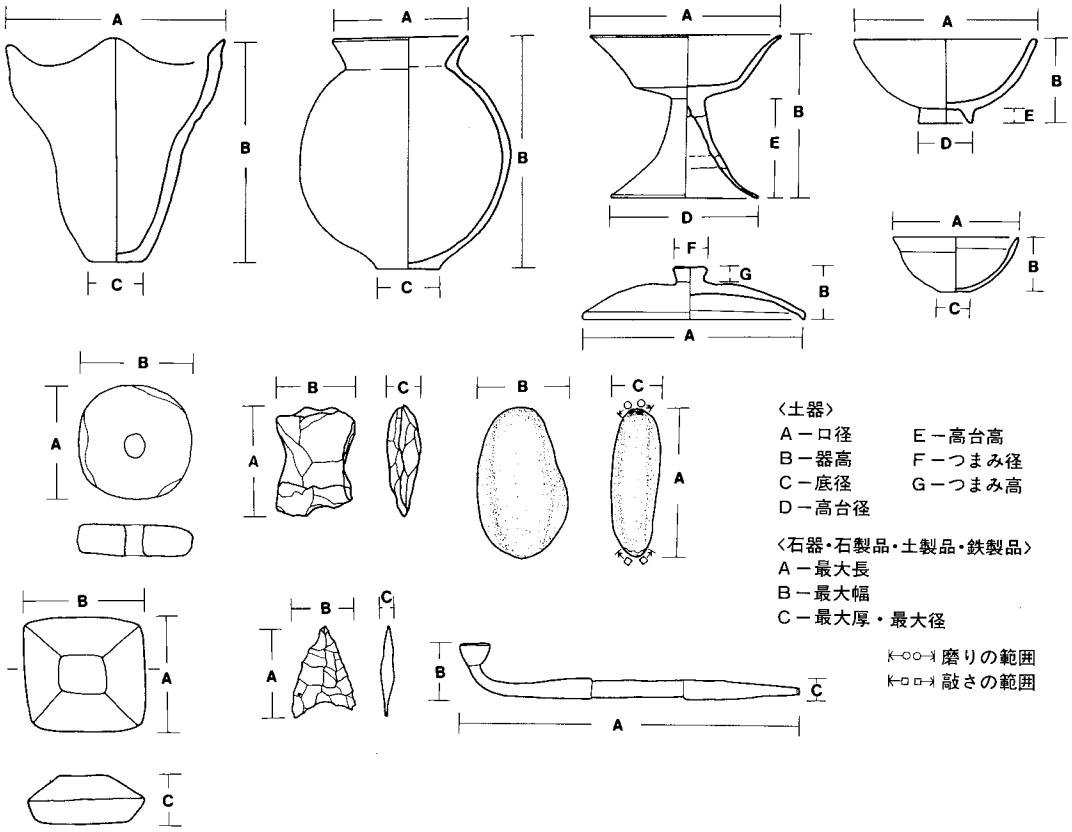
(4) 実測図中の表示方法

赤彩　　繊維(断面)　　須恵器(断面)　　釉　　黒色処理

(5) 遺物は，原則として3分の1に縮小して掲載した。しかし，種類や大きさにより異なる場

合もある。

(6) 各部位の名称と計測値表現



(7) 図版番号は，実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。

(8) 遺物に付した番号は，土器，土製品，石器・石製品，鉄製品ごとに通し番号をつけ，遺構実測図，図版，写真及び一覧表の備考欄に記した。

3 出土遺物観察表について

(1) 土器観察表

ア 縄文式土器

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備 考

イ 土師器

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考

① 計測値は，A…口径，B…器高，C…底径とする。なお，（　）を付したものは現存値を表し，［　］を付したものは復元推定値を表す。

② 器形の特徴は，底部，体部等の各部位について記した。

③ 手法の特徴は，土器の成形，整形について記した。

④ 胎土，色調，焼成の順で述べ，色調は「新版標準土色帖」を使用した。焼成については，「良好」，「普通」，「不良」に分類し，硬く焼き締まっているものは良好，焼きがあまく器面が剥離しやすいものは不良とし，その中間のものを普通とした。

⑤ 備考は，土器の現存率，実測（P）番号，出土位置，その他必要と思われる事項を記した。

(2) 土製品観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率%	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					

① 重量の欄で，（　）を付した数値は，一部を欠損しているものの現存値である。

② 備考の欄は，実測（DP）番号，その他必要と思われる事項を記した。

(3) 石器・石製品観察表

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			

① 備考の欄は，実測（Q）番号，その他必要と思われる事項を記した。

(4) 金属製品観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	重量(g)		

① 備考の欄は，実測（M）番号，その他必要と思われる事項を記した。

(5) 古銭一覧表

図版番号	銭名	初鋳年		出土地点	備考
		時代	年号		

① 備考の欄は，実測（M）番号，その他必要と思われる事項を記した。

第５章　西ノ脇遺跡

第１節　遺跡の概要

西ノ脇遺跡は，筑波郡谷和原村の南西部，筑波・稲敷台地の西端の標高20～22ｍの台地上に所在している。調査区は，東西約78ｍ，南北約114ｍ，面積8,863㎡であり，現況は畑地と山林である。

今回の調査によって，当遺跡は古墳時代の集落跡や中世の墓地跡の複合遺跡であることが判明した。確認できた遺構は，竪穴住居跡５軒，掘立柱建物跡２棟，土坑55基，地下式壙７基，溝14条，井戸２基などである。このうち古墳時代の遺構は，調査区の中央を東西にとおる溝から南側で確認された。また，北側では中世の墓地が確認された。この墓地は，調査区の北東側にあった東福寺に関連のある墓地と考えられる。

遺物は，遺物収納コンテナに25箱程出土している。縄文時代の遺物は，早期・中期の土器片が遺構外から出土している。古墳時代後期の遺物は，土師器の坏，埦，高坏，壺，甕，甑，石製模造品，須恵器片などが出土している。中世の遺物は，内耳土器，擂鉢，土師質土器，陶磁器，石臼，古銭，人骨などが出土している。

第２節　遺構と遺物

Ⅰ　竪穴住居跡

当調査区から確認された竪穴住居跡は５軒である。これらの竪穴住居跡は，調査区の中央から南側にかけて確認され，いずれも古墳時代後期のもである。

第１号住居跡（第７図）

位置　Ｄ５a_4区。

重複関係　第５号土坑に掘り込まれている。

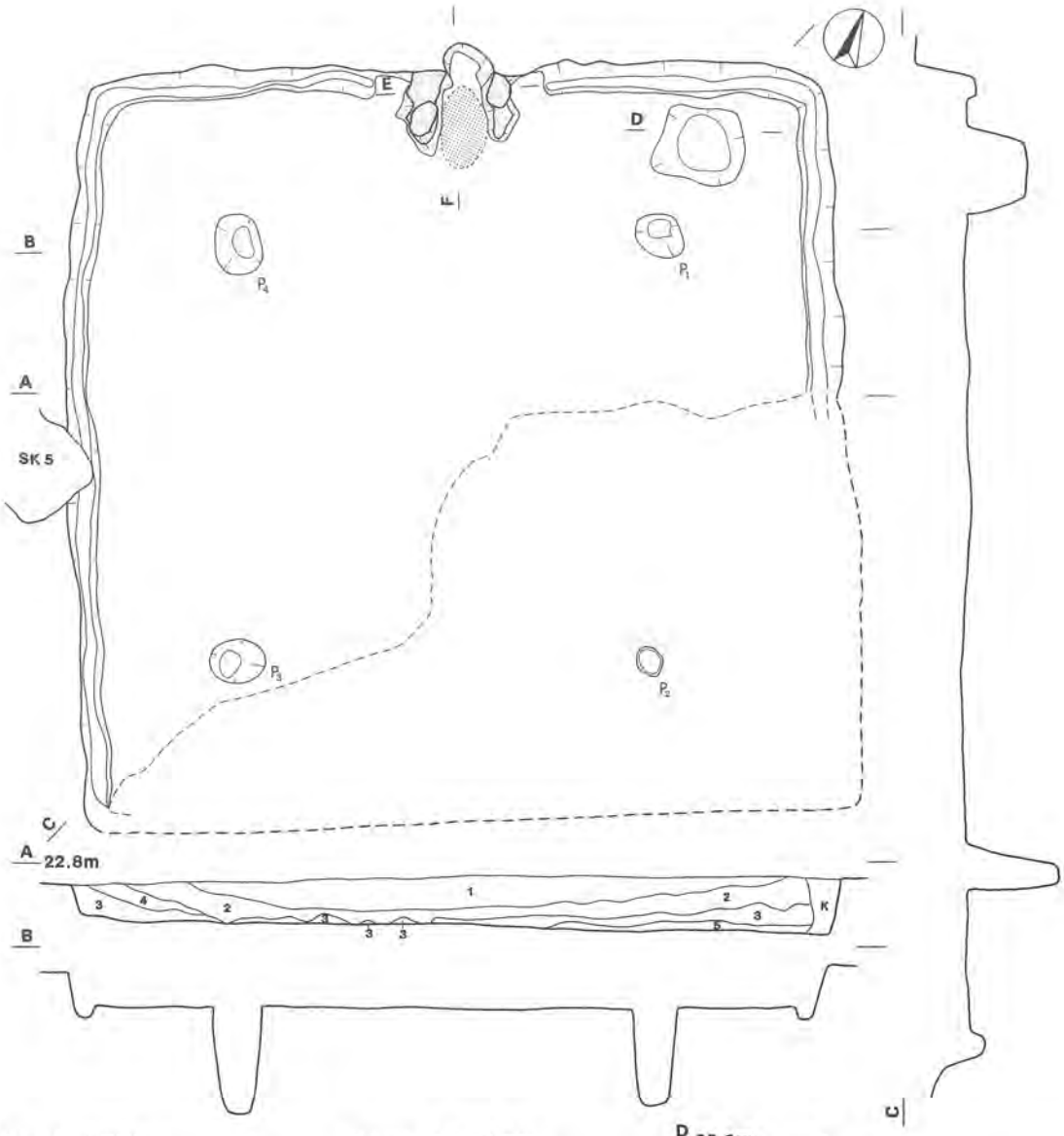
規模と平面形　長軸8.30ｍ，短軸［8.17］ｍで方形。

主軸方向　［Ｎ－24°－Ｗ］。

壁　壁高は，32～62㎝で垂直に立ち上がっている。

壁溝　南側から東側にかけて撹乱のため確認できないが，その他は壁際に確認されており，幅20～30㎝，深さ16㎝で断面形はＵ字状である。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められて硬い。南側は，撹乱のため確認できない。全域か

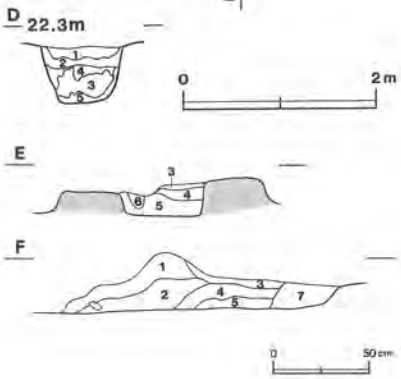


S I－1　土層解説

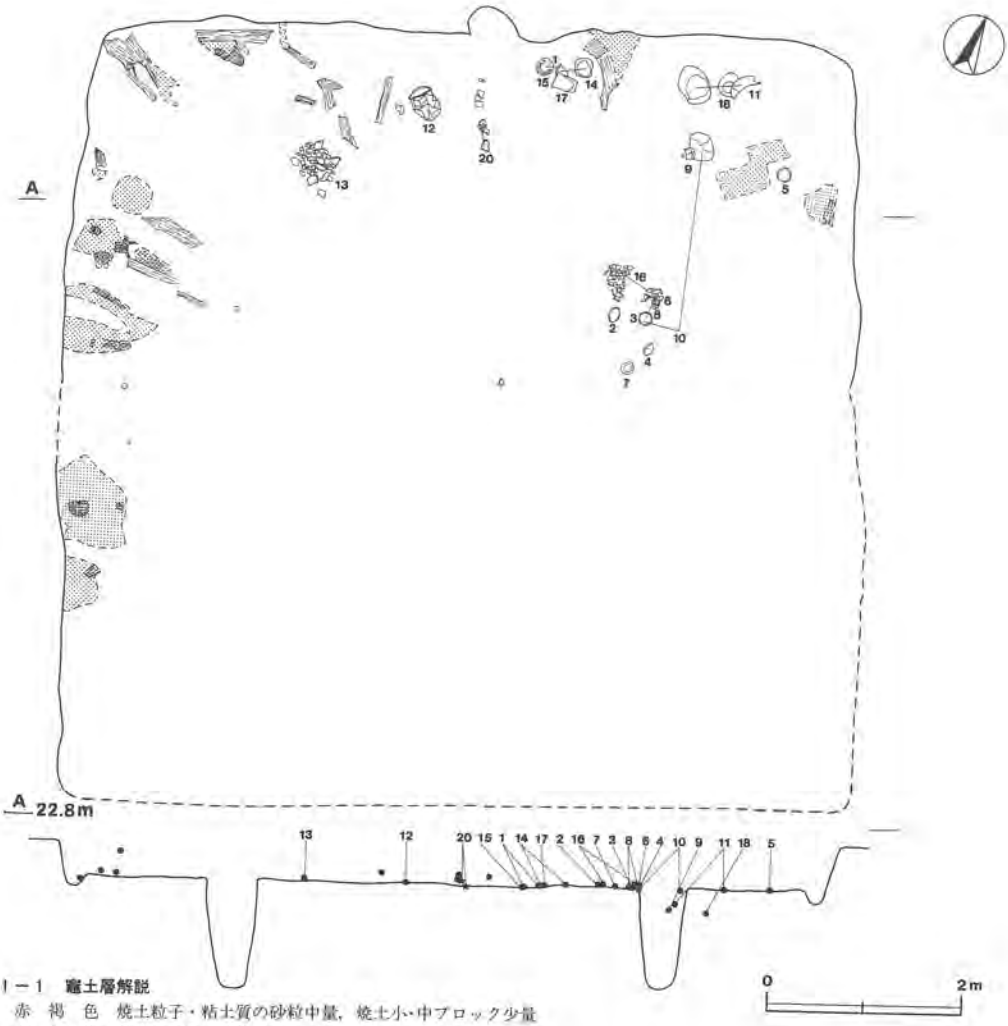
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
2　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック極少量
3　褐　　色　ソフトローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・焼土小ブロック少量
4　明　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量
5　にぶい褐色　ハードローム小・中ブロック多量

S I－1　貯蔵穴土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量，焼土粒子・炭化物極少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物極少量
5　明　褐　色　ローム粒子多量



第7図　第1号住居跡実測図



S I－1　竈土層解説
1　赤　褐　色　焼土粒子・粘土質の砂粒中量，焼土小・中ブロック少量
2　赤　褐　色　焼土小ブロック多量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・粘土粒子中量
4　灰　褐　色　粘土粒子多量，炭化粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
5　極暗赤褐色　焼土小・中ブロック中量，粘土粒子少量
6　赤　褐　色　焼土中・大ブロック
7　暗赤褐色　焼土小・中ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量

第8図　第1号住居跡出土遺物位置図

ら柱と思われる炭化材が出土している。

ピット　4か所。P_1・P_3・P_4は，長径60cm前後，短径50cm前後，深さ100cm前後で，規模と配列から主柱穴と考えられる。撹乱の底面からP_2が確認できたので，配列を考えると主柱穴の可能性が高い。

貯蔵穴　北東コーナーにある。長径100cm，短径80cmの楕円形で，深さ60cmである。

竈　北壁のほぼ中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，長さ120cm，幅125cmである。天井部は，崩落している。袖部は，床のロームを掘り残して基部としている。覆土から土製支脚が出

土している。火床は，赤変硬化している。煙道部は，火床から緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　5層からなる。1層の堆積割合が多く，1～4層には焼土粒子・焼土小ブロックが含まれいる。4層からは，炭化材が出土している。3・5層から土師器片が多量に出土している。

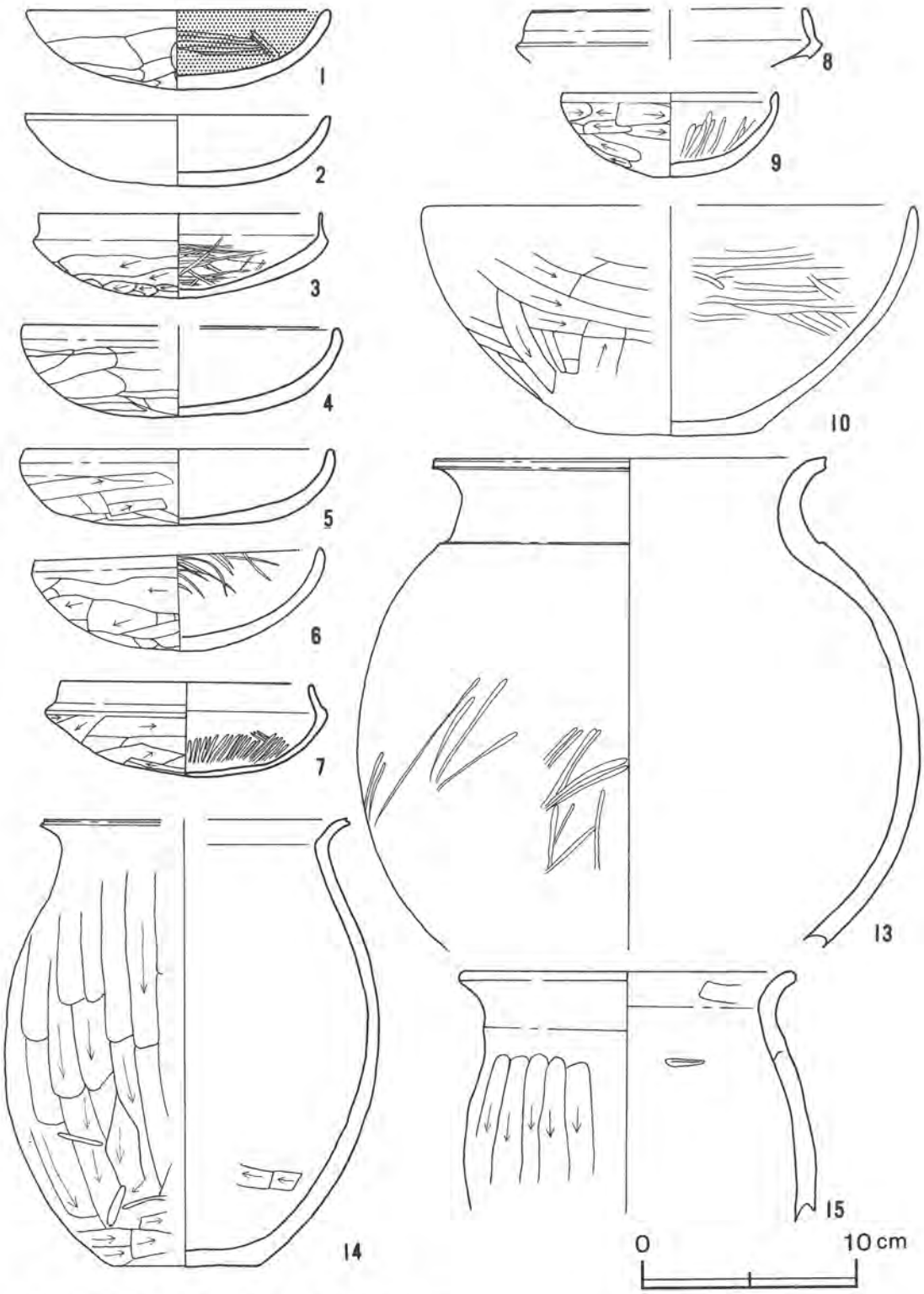
遺物　住居跡の北部，竈内から土師器片（坏8，埦1，鉢1，甕5，甑3，細片798点）が出土しており，覆土上層からは流れ込みと思われる須恵器片（2点），縄文式土器片（69点）が出土している。竈の左側からは第9～11図12・13の甕が斜位の状態で，右側から14・15の甕と16・17の甑が斜位の状態で出土している。焚き口から20の支脚が斜位の状態で出土している。中央からやや東側の床面からは1～8の坏，10の鉢が正位の状態で出土している。貯蔵穴からは9の小形埦，11の甕，18の甑が正位の状態で出土している。覆土から19の須恵器小形壺片，21の管状土錘，22の石錘が出土している。

所見　本跡は，古墳時代後期（鬼高式期）の住居跡である。また，床面から焼土や炭化材が確認されており，焼失家屋と考えられる。

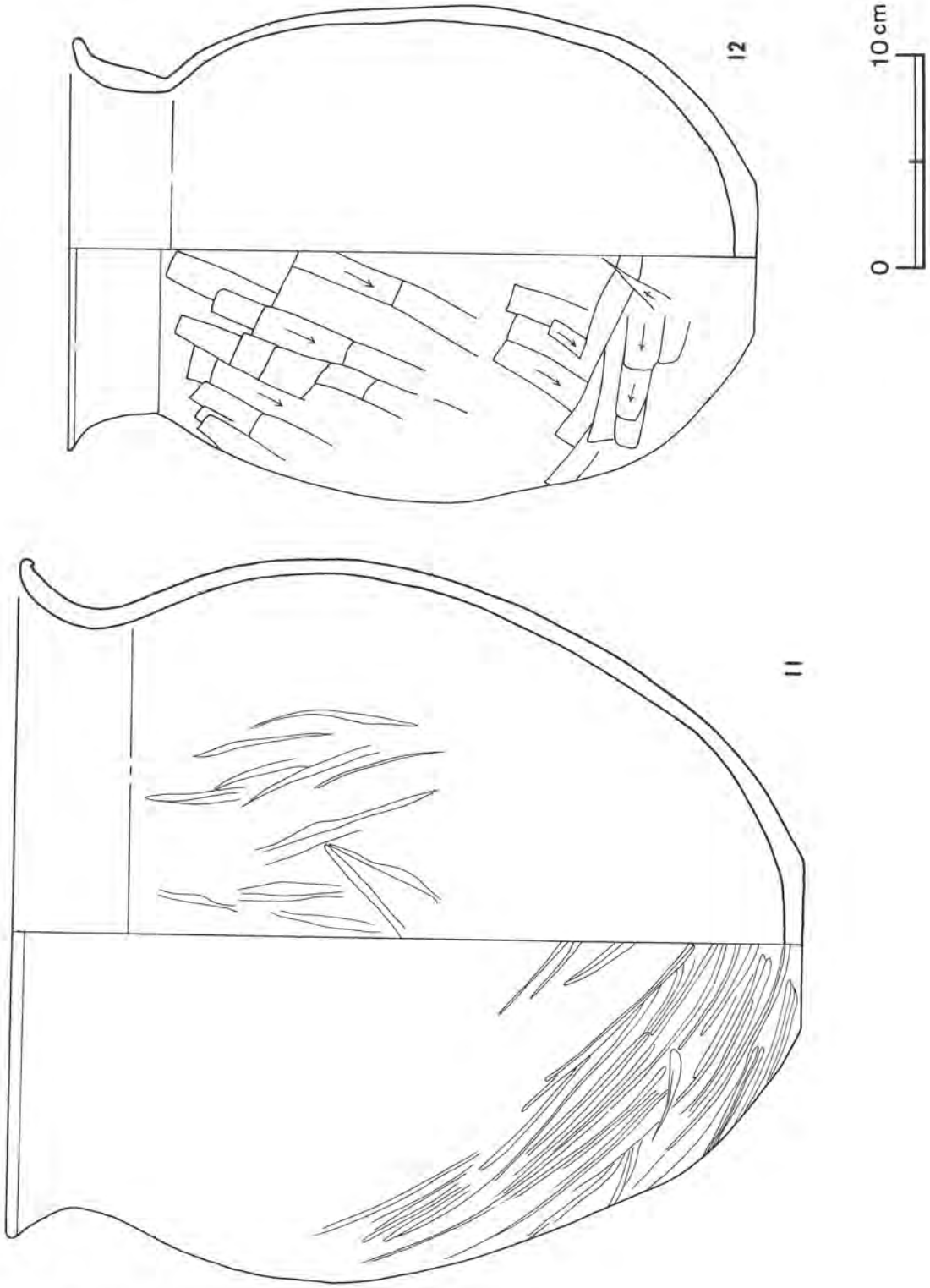
第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9～11図 1	坏 土師器	A 14.2 B 3.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は短く直立する。	体部へラケズリ，内面横ナデ後へラミガキ。内面黒色処理。	砂粒・石英・パミス 黒色 普通	P 1 80%
2	坏 土師器	A 14.2 B 3.4	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は短く直立する。	体部外面へラナデ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・パミス にぶい橙色 普通	P 2 80%
3	坏 土師器	A 13.3 B 4.0	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部は直立する。	体部外面へラナデ後へラミガキ，内面へラミガキ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・石英・長石・パミス にぶい橙色 普通	P 3 90%
4	坏 土師器	A [14.8] B 4.3	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部は短く直立する。	体部外面へラケズリ，内面丁寧なミガキ，口縁部内外面横ナデ。	石英・スコリア・パミス 橙色 普通	P 4 70%
5	坏 土師器	A 14.3 B 3.7	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部は短く直立する。	体部外面へラケズリ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	長石・スコリア・パミス 黒褐色 普通	P 6 100%
6	坏 土師器	A 13.5 B 4.4	丸底。口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり。口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部は短く直立する。	体部外面へラケズリ，内面へラミガキ。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P 7 90%
7	坏 土師器	A 11.8 B 4.6	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部やや内彎する。	体部外面へラケズリ，内面へラミガキ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 良好	P 5 100%

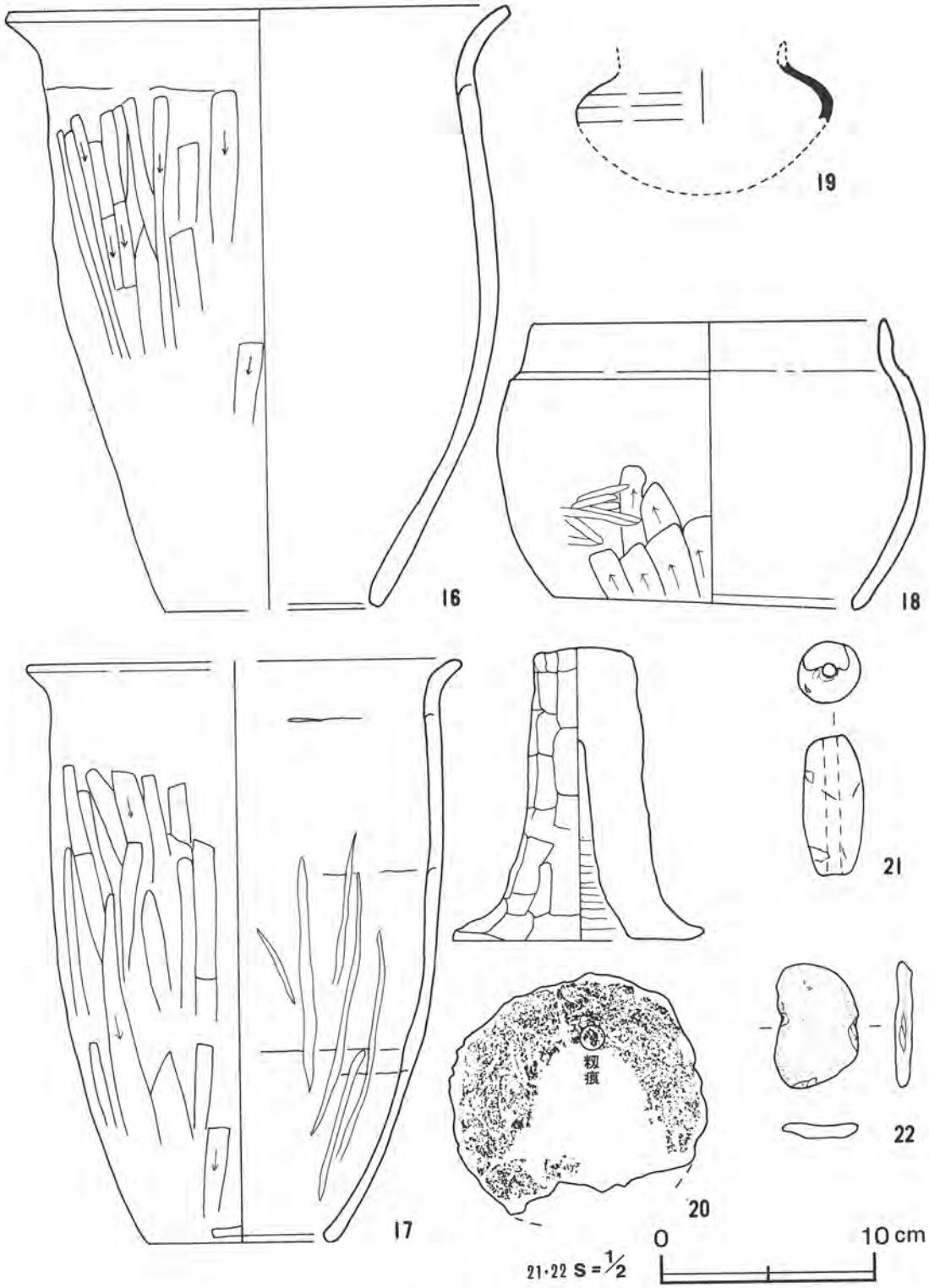
8	坏 土師器	A [12.8] B (2.8)	口縁部片。体部との境に明瞭な稜を有する。口縁部はやや内彎する。	口縁部内外面横ナデ。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P 8 25%
9	小形埦 土師器	A 10.0 B 3.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は短く直立する。口唇部はわずかにつまみ上げられている。	体部外面横位のヘラケズリ，内面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P 9 90%
10	鉢 土師器	A 22.9 B 10.8 C 8.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は短く直立する。	底部ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。口縁部横ナデ。	砂粒・長石・スコリア・パミス 黒色 普通	P10 80%
11	甕 土師器	A 31.8 B 36.8 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部から口縁部にかけて丸みをもって外反する。	底部ヘラナデ。体部内外面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 良好	P11 95%
12	甕 土師器	A 19.5 B 31.9 C 7.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	底部ヘラナデ。体部内外面ヘラナデ。口縁部・頸部内外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・スコリア 明赤褐色 やや不良	P12 95%
13	甕 土師器	A 18.4 B (23.4)	体部は内彎しながら立ち上がり，頸部との境に稜を有する。口縁部は外反し，口唇部は面取りされている。	体部外面縦位のヘラナデ後ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P13 50%
14	甕 土師器	A 12.5 B 21.2 C 7.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は卵形。口縁部は短く外反し，口唇外面部に浅い凹線が巡る。	外面ヘラケズリ。体部外面ヘラナデ，内面一部ヘラケズリ後横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母・石英 橙色 普通	P14 70%
15	甕 土師器	A 15.8 B (11.4)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。口唇部は丸い。	体部外面縦位のヘラナデ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。体部内面に輪積痕。	砂粒・石英・スコリア 橙色 普通	P15 40%
16	甑 土師器	A 23.6 B 28.2 C [9.4]	口縁部・体部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。口唇部は面取りされている。	体部外面ヘラケズリ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。体部内外面に輪積痕。	砂粒・長石・パミス にぶい赤褐色 普通	P16 80%
17	甑 土師器	A [19.5] B 27.1 C 8.7	口縁部・体部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し，口唇部は丸い。	体部外面ヘラナデ，内面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。体部内面に輪積痕。	長石・石英・パミス・スコリア 明赤褐色 普通	P17 60%
18	甑 土師器	A 16.4 B 13.4	無底式。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部はやや内彎する。	体部外面ヘラナデ後ヘラミガキ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P18 95%
19	小形壺 須恵器	B (2.7)	肩部片。肩部が強く張る。	外面ヘラケズリ。	砂粒 黄灰色　良好	P146 5 %



第9図　第1号住居跡出土遺物実測図（1）



第10図　第１号住居跡出土遺物実測図（2）



第11図　第１号住居跡出土遺物実測図（3）

図版番号	器　種	計測値(cm)		孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	備　考
		最大長	最大幅				
20	支　脚	13.7	11.8		(594.2)	90	DP1
21	管状土錘	4.4	1.9	0.4	(14.7)	85	DP2

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
22	石　錘	2.7	4.0	0.6	8.3	砂　岩	Q1

第2号住居跡（第12図）

位置　D4j_4区。

規模と平面形　長軸5.72m，短軸5.68mの方形。

主軸方向　N－34°－E。

壁　壁高は32～40cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝　幅18～20cm，深さ10cm前後，断面形はU字状で，壁際を全周している。

床　ほぼ平坦で，全域にわたって良く踏み固められている。

ピット　4か所。P_1～P_4は長径40～50cm，短径40cm前後，深さ40～50cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　南東コーナーにあり，長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さ60cmである。

竈　東壁の中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，長さ90cm，幅75cmである。天井部は，崩落している。火床は，赤変硬化している。袖部の一部がトレンチャーによりひどく破壊されている。煙道は，火床から急な傾斜で立ちあっがている。また，覆土から手捏土器片が出土している。

覆土　3層からなる。トレンチャーにより撹乱されているが，自然堆積と考えられる。1・2層から流れ込みと思われる土師器片が出土している。

土層解説

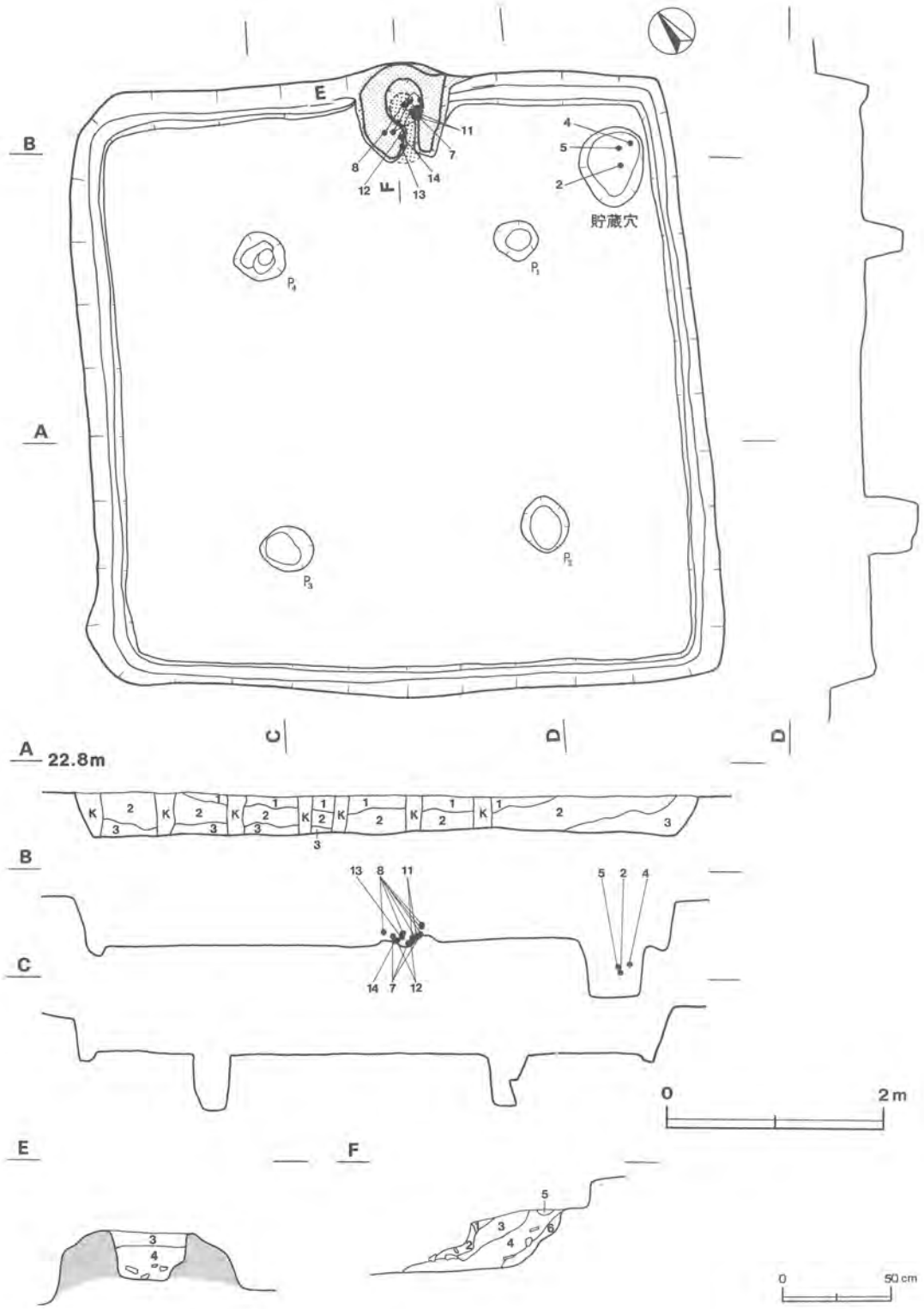
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
2　褐　色　ローム粒子多量，明褐色土中ブロック・焼土小ブロック極少量
3　にぶい褐色　ソフトローム小・中ブロック少量，焼土粒子極少量

竈土層解説

1　赤褐色　焼土粒子・粘土質の砂粒中量，焼土小・中ブロック少量
2　赤褐色　焼土小ブロック多量
3　黒褐色　ローム小ブロック・粘土粒子中量
4　灰褐色　粘土粒子多量，炭化粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
5　暗褐色　褐色土中量，粘土粒子極少量
6　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量

遺物　竈内，貯蔵穴を中心に土師器片（坏5，　1，器台1，甕4，手捏土器4，細片177点）が出土しており，他に覆土上層から流れ込みと思われる縄文式土器片が多量に出土している。竈内からは第13図7の甕，8の甕の底部，11～14の手捏土器が出土している。貯蔵穴からは2・4・5の坏が出土している。覆土からは1・3の坏，6の高坏の脚部，9・10の甕の口縁部が出土している。床面からの遺物は，ほとんどなかった。

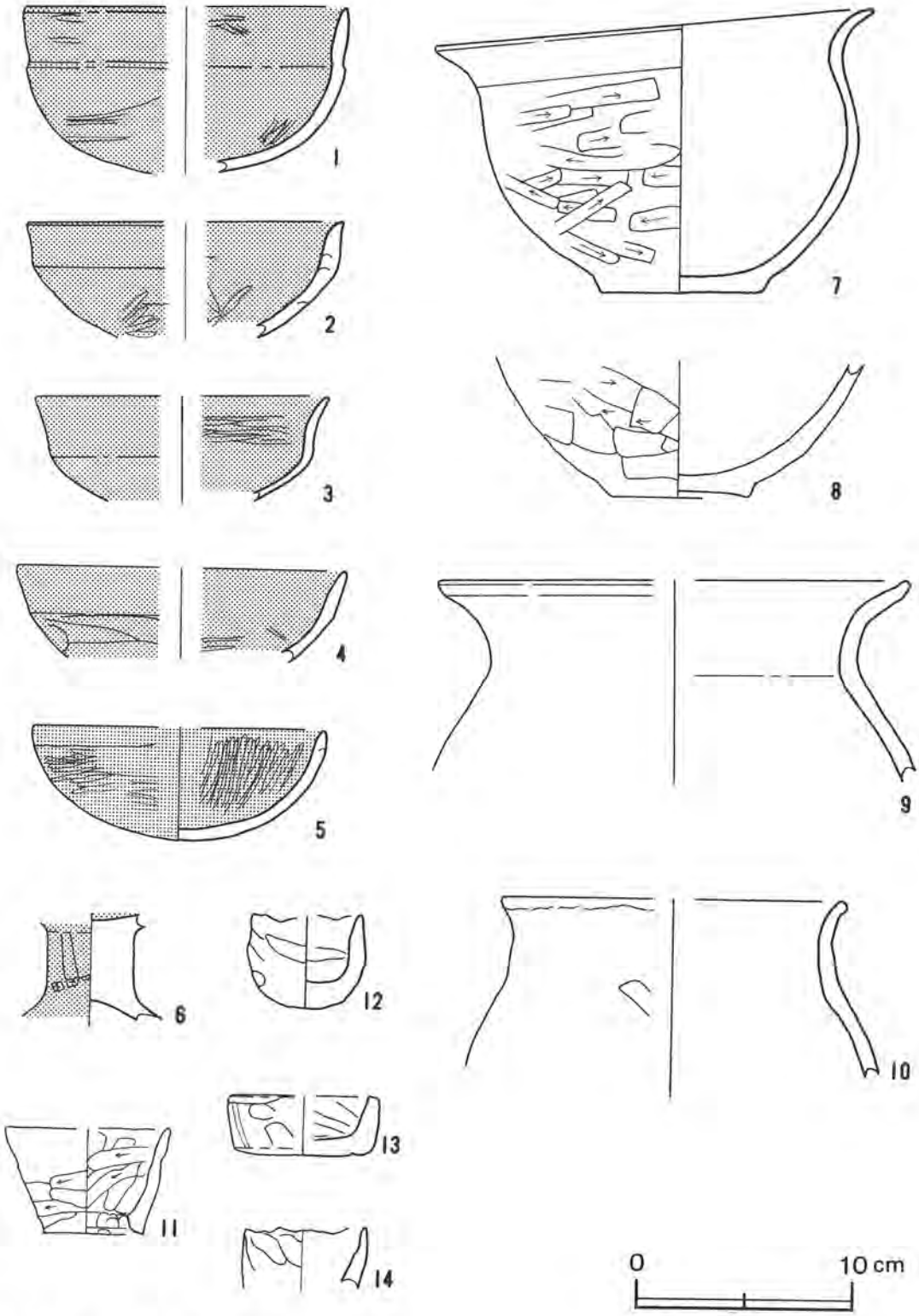
所見　本跡は，古墳時代後期（鬼高式期）の住居跡である。



第12図　第２号住居跡実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	坏 土師器	A [15.0] B (7.7)	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部は直立する。	体部外面横ナデ後ヘラミガキ，内面ヘラミガキ。口縁部内外面ヘラミガキ。内外面赤彩。	砂粒・スコリア・パミス 暗赤色 普通	P19 40%
2	坏 土師器	A 14.6 B 6.4	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラナデ後ヘラミガキ，内面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・石英・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P20 30%
3	坏 土師器	A 13.7 B (4.8)	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。稜から上位はやや内彎し，口縁部は外反する。	体部外面ヘラナデ，内面横位のヘラナデ。口縁部外面横ナデ，内面ヘラミガキ。内外面赤彩。	砂粒・雲母・パミス 赤褐色 普通	P21 20%
4	坏 土師器	A [15.4] B (4.3)	口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部は外傾する。	体部外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・スコリア 赤色 普通	P23 20%
5	坏 土師器	A [13.6] B 5.3	丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は短く，ほぼ直立する。	体部内外面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・雲母・パミス 赤色　普通	P24 60%
6	高坏 土師器	B (4.9)	脚部片。円柱状の脚部。	外面ヘラケズリ後ヘラナデ。坏部内面・脚部に赤彩。	長石・スコリア・パミス にぶい黄橙色，普通	P25 10%
7	甕 土師器	A [20.3] B 12.3 C 7.4	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は球形に近く，中位に最大径を有する。頸部から口縁部にかけて，丸みもって外反する。	底部ヘラケズリ。体部外面ヘラケズリ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P26 70%
8	甕 土師器	B (6.3) C 6.6	底部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	底部ヘラケズリ。体部外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ。	砂粒・スコリア・パミス・石英・礫 橙色　普通	P27 30%
9	甕 土師器	A [21.9] B (9.5)	口縁部から体部片。頸部から口縁部にかけて，丸みをもって外反する。口唇部が面取りされ上方につまみ上げている。	体部外面ヘラナデ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。	石英・長石・雲母 橙色 普通	P28 5%
10	甕 土師器	A [15.1] B (8.1)	口縁部から体部片。口縁部は外反する。	口縁部内外面横ナデ。	砂粒・スコリア・パミス にぶい橙色 普通	P29 10%
11	手捏土器 土師器	A [7.6] B 5.0 C 4.5	無底式。体部は，外傾する。	体部外面ヘラケズリ，内面ヘラケズリ，指頭痕。手捏ね。	砂粒・スコリア・長石 にぶい褐色　普通	P30 80%
12	手捏土器 土師器	A [5.0] B 4.5	丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部内面指頭痕。体部内外面ヘラケズリ。手捏ね。	砂粒・スコリア・パミス にぶい黄橙色 普通	P31 50%
13	手捏土器 土師器	A [6.8] B 2.8 C 6.6	平底。体部はやや外傾する。	底部ヘラナデ。体部外面指頭痕，内面横ナデ。手捏ね。	パミス にぶい黄橙色 普通	P32 30%
14	手捏土器 土師器	A 5.6 B (3.0)	底部欠損。体部はやや外反する。	手捏ね。	砂粒・長石・スコリア・パミス にぶい黄橙色 普通	P33 50%



第13図　第２号住居跡出土遺物実測図

第４号住居跡（第14図）

位置　Ｄ４b_5区。

規模と平面形　一辺6.9ｍの方形。

主軸方向　Ｎ－５°－Ｗ。

壁　壁高は31～46cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝　幅12～20cm，深さ10cm前後，断面形はＵ字状で，壁際を全周している。

床　ほぼ平坦で，中央部を中心に踏み固められている。竈の周辺から粘土，ローム，焼土が多量に確認されている。南側に焼土が点在している。

ピット　４か所。P_1～P_4は長径65～80cm，短径60cm，深さ40～60cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　南壁際中央部で確認され，長径140cm，短径100cmの不整円形で，深さ43cmである。

竈　北壁の中央からやや東寄りに砂質粘土で構築されている。規模は長さ110cm，幅90cmである。天井部は，崩落している。火床と袖部の一部は，トレンチャーによる撹乱を受け，遺存状況が悪い。煙道は，火床から急な傾斜で立ち上がっている。

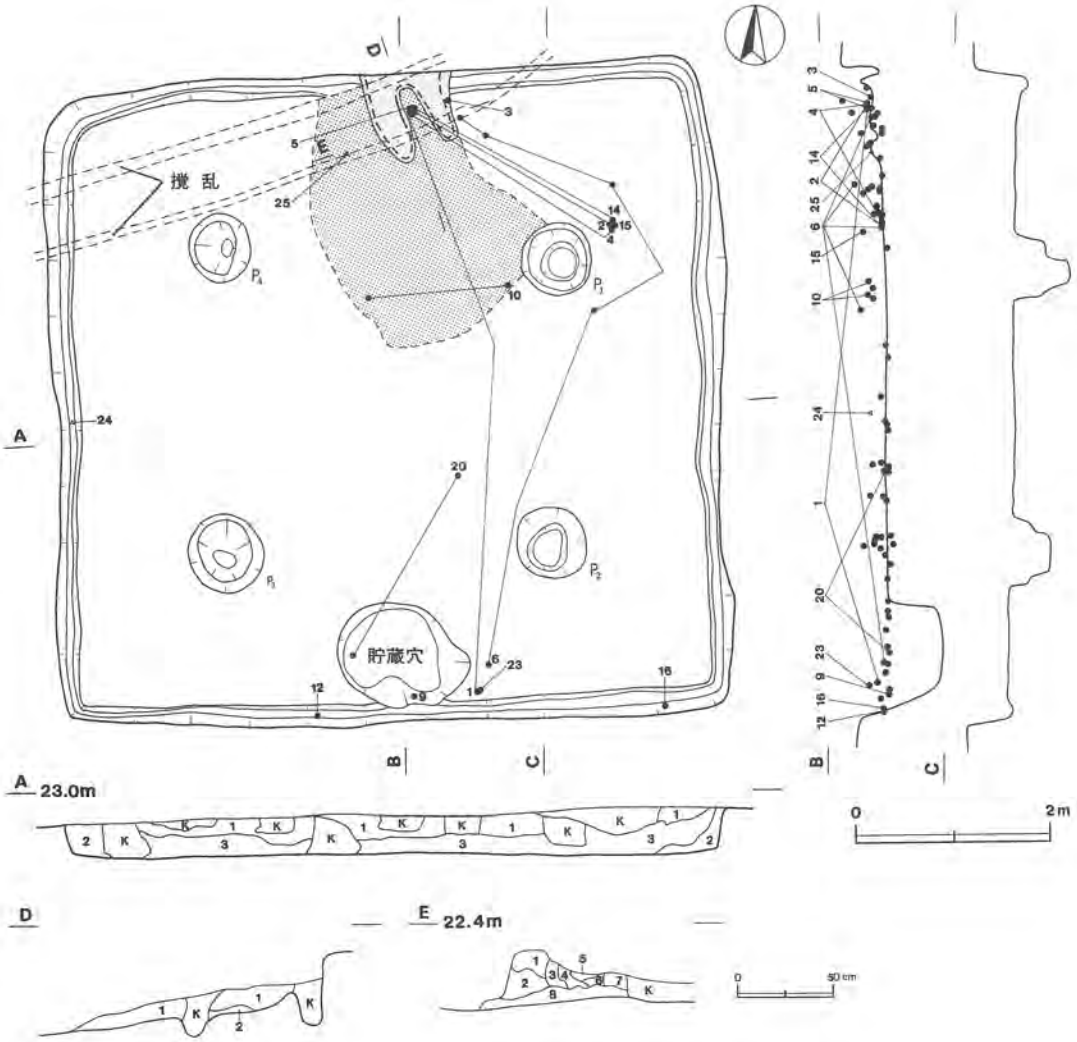
覆土　３層からなる。各層にロームブロックが含まれ不自然な堆積をしている。１・２層から流れ込みと思われる土器片が出土している。３層から土師器片が多量に出土している。トレンチャーによる二段の撹乱を受けている。

遺物　住居跡の全域，特に南側，竈付近，貯蔵穴から土師器片（坏16，埦３，高坏２，甕２，細片620点）が出土している。覆土上層からは，流れ込みと思われる縄文式土器片（17点），第15・16図26の石鏃が出土している。竈内から2・3・5の坏が正位の状態で出土している。竈付近から4の坏，21の高坏の脚部が出土している。貯蔵穴から17の埦が斜位の状態で，7・9・12の坏の破片が出土している。中央から南側の床面から20の高坏の破片が出土している。覆土から6・8・10・11・13・14・15・19の坏の破片，1の坏，16・18の埦，22・23の甕の破片，24の磨石，25の砥石，27の管玉が出土している。

所見　本跡は，古墳時代後期（鬼高式期）の住居跡である。南壁際中央のピットは当初出入口に伴うものと思われたが，規模や出土遺物から貯蔵穴と判断した。

第４号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第15・16図 1	坏 土師器	A [15.0] B (2.2)	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P51 30%



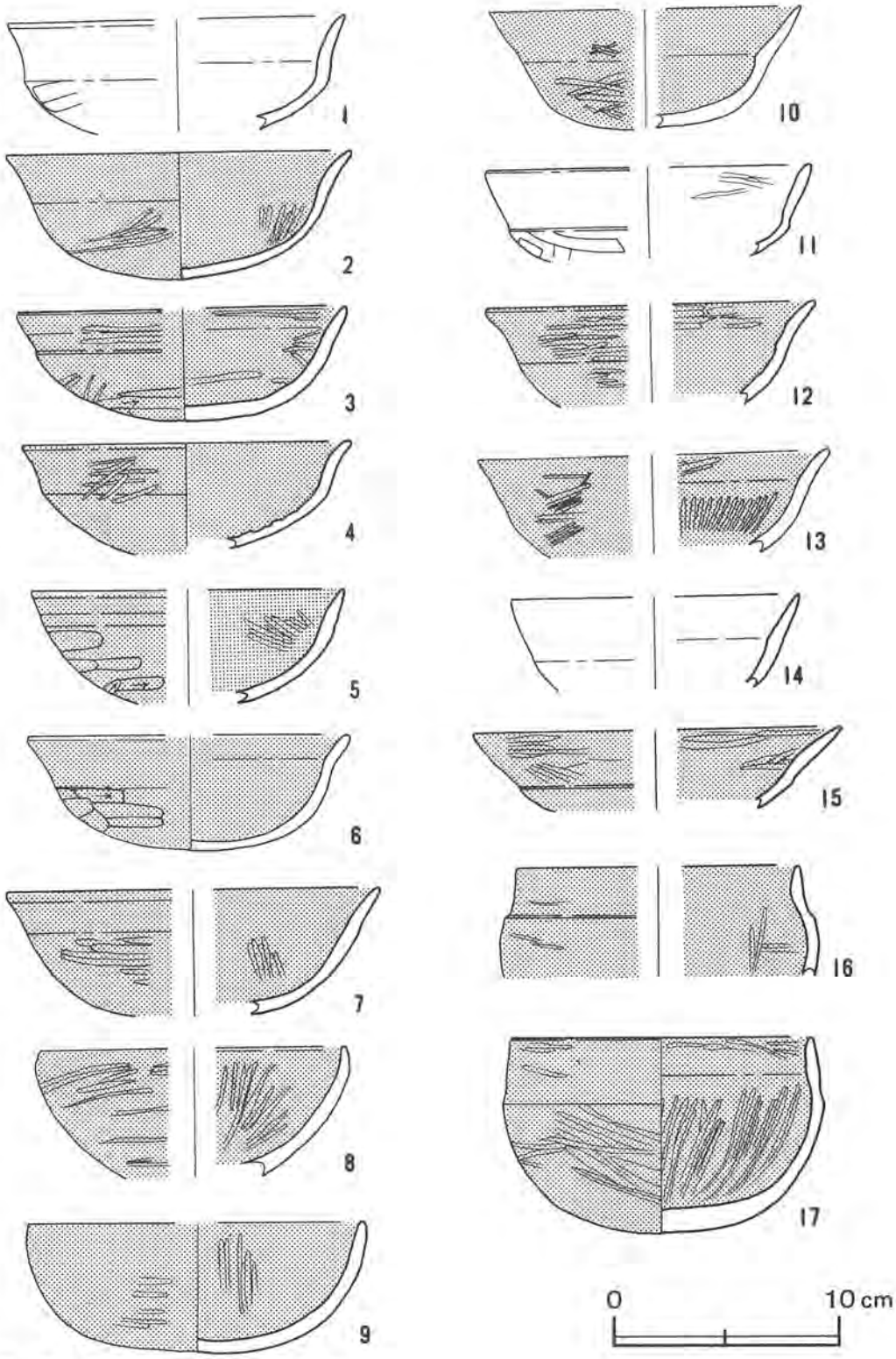
S I－4　土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　焼土小ブロック多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量

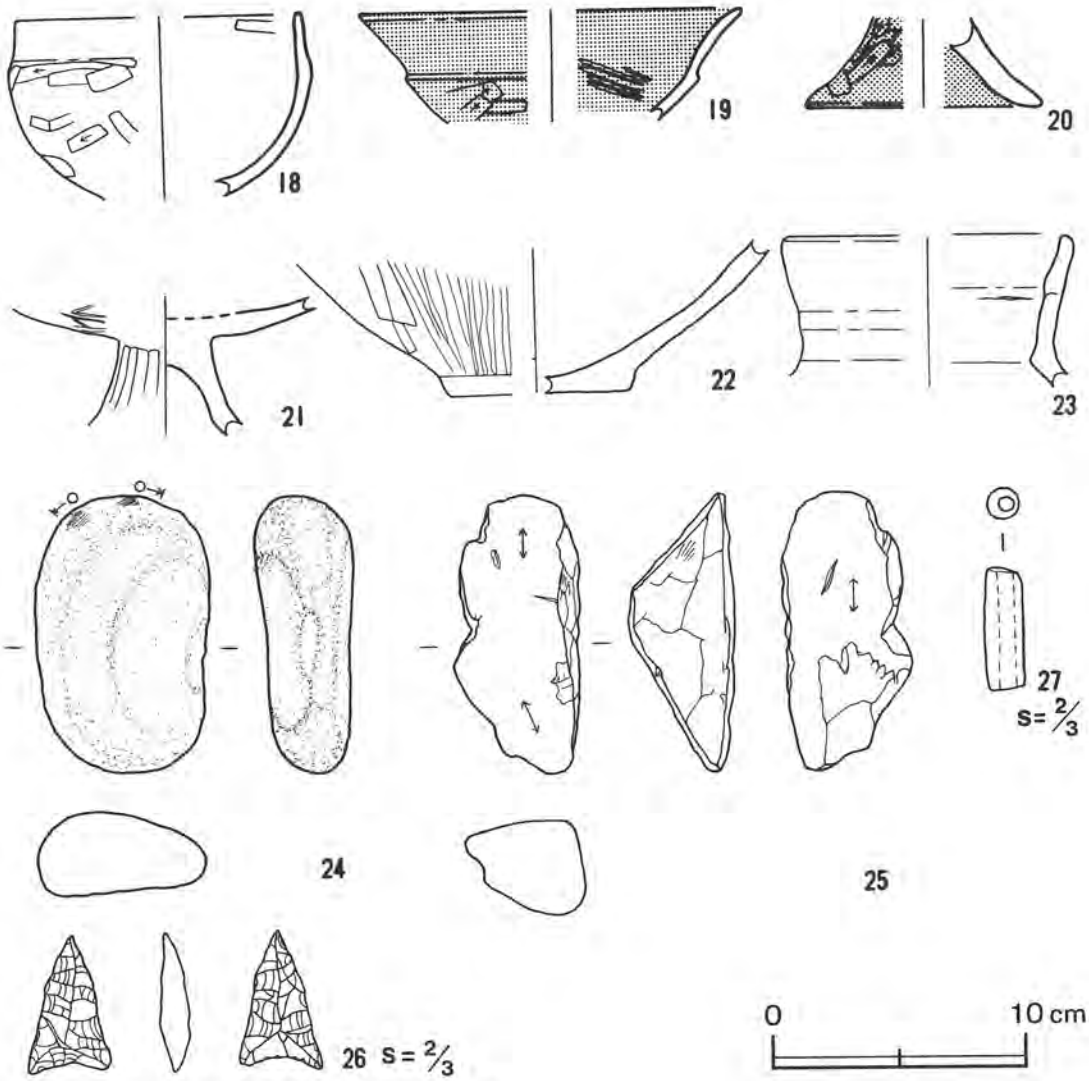
S I－4　竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・砂極少量
2　灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・砂極少量
3　にぶい橙色　粘土多量，焼土粒子・粘土粒子・砂極少量
4　褐　　色　焼土中ブロック中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　褐色土中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　褐　　色　砂中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
7　にぶい橙色　粘土中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
8　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量

第14図　第４号住居跡実測図



第15図　第４号住居跡出土遺物実測図（1）



第16図　第4号住居跡出土遺物実測図 (2)

2	坏 土師器	A 15.6 B 5.8	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部内外面へラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・礫・スコリア・パミス 暗赤色 普通	P34 80%
3	坏 土師器	A [14.8] B 5.2	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラケズリ後へラミガキ，内面へラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P35 70%
4	坏 土師器	A 14.8 B 5.0	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラミガキ，内面剝離。口縁部外面横ナデ後へラミガキ，内面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P36 60%

5	坏 土師器	A [14.2] B (5.2)	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部は外傾する。	体部外面ヘラケズリ，内面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P37 60%
6	坏 土師器	A [14.5] B 5.3	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P38 50%
7	坏 土師器	A [16.6] B (5.7)	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部内外面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・石英・スコリア 黄橙色 良好	P39 20%
8	坏 土師器	A [13.8] B (5.8)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は短くほぼ直立する。	体部内外面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・石英・パミス 明赤褐色 良好	P40 30%
9	坏 土師器	A [15.2] B (5.8)	丸底。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は短く直立する。	体部内外面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・石英・長石 明赤色 普通	P41 20%
10	坏 土師器	A [14.0] B (5.4)	丸底。体部は内彎しながら外傾し，内面の口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部は外傾する。口唇部は尖る。	体部外面ヘラミガキ，内面横ナデ。口縁部外面横ナデ後ヘラミガキ，内面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 赤褐色 良好	P42 20%
11	坏 土師器	A [14.6] B (4.1)	口縁部・体部片。体部は内彎し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部は外傾する。	体部外面ヘラナデ，内面剥離。口縁部外面横ナデ，内面ヘラミガキ。	礫・スコリア 橙色 普通	P43 20%
12	坏 土師器	A [14.8] B (4.5)	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラミガキ，内面剥離。口縁部内外面ヘラミガキ。内外面赤彩。	砂粒・石英 赤色 良好	P44 20%
13	坏 土師器	A [15.2] B (5.6)	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はわずかに外反する。	体部内外面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ後ヘラミガキ。内外面赤彩。	砂粒・長石 赤色 普通	P45 10%
14	坏 土師器	A [13.0] B (4.2)	口縁部片。体部は内彎し，内外面の口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部は外傾する。口唇部は尖る。	口縁部内外面横ナデ。	砂粒・石英・スコリア 橙色 普通	P47 10%
15	坏 土師器	A [16.4] B (3.6)	口縁部片。体部は内彎し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部は大きく外反する。	口縁部内外面ヘラミガキ。内面に輪積痕。内外面赤彩。	砂粒・長石 赤色 普通	P49 10%
16	埦 土師器	A [12.8] B (5.0)	口縁部片。体部と口縁部の境に明瞭な稜を有する。口縁部はやや内傾する。	口縁部内外面ヘラミガキ。内外面赤彩。	砂粒・長石 赤色 普通	P48 10%
17	埦 土師器	A 13.6 B 8.9	丸底。口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部の境に不明瞭な稜を有する。口縁部はほぼ直立する。	体部・口縁部内外面ヘラミガキ。内外面赤彩。	礫・石英・スコリア 赤色 良好	P50 80%

18	埦 土師器	A [11.2] B (7.3)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、上位に稜を有する。口縁部はほぼ直立する。	体部内外面ヘラナデ。口縁部外面横ナデ、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア 暗褐色 普通	P52 30%
19	高坏 土師器	A [15.2] B (4.4)	口縁部片。体部は内彎し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部は大きく外反する。	体部外面ヘラナデ，内面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。口縁部は大きく外反する。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P46 5%
20	高坏 土師器	B (5.4)	脚部・坏部片。脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は内彎気味に外傾する。	脚部外面ヘラナデ，内面横ナデ。坏部外面ヘラミガキ，内面剝離。内外面赤彩。	砂粒・長石・スコリア 暗赤褐色 普通	P53 30%
21	高坏 土師器	B (3.6) C [9.4]	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラナデ，内面横ナデ。裾部内外面横ナデ。	長石・パミス・スコリア 橙色　普通	P54 10%
22	甕 土師器	B (5.4) C [7.0]	底部片。突出した平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部ヘラケズリ。体部外面ヘラナデ後ヘラミガキ，内面剝離。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P55 10%
23	甕 土師器	A [11.4] B (6.2)	口縁部片。口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部内外面横ナデ。内面に輪積痕。	雲母・石英 赤褐色　普通	P56 5%

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
24	磨石	11.1	6.9	4.1	411.8	砂岩	Q2
25	砥石	10.1	5.0	4.1	200.0	凝灰岩	Q3
26	石鏃	3.0	1.7	0.6	1.7	チャート	Q4
27	管玉	2.5	0.6		2.1	緑色凝灰岩	孔径0.3cm　Q5

第6号住居跡（第17図）

位置　C4c$_4$区。

規模と平面形　長軸4.7m，短軸4.5mの長方形。

主軸方向　N－16°－W。

壁　壁高は，24～25cmで外傾して立ち上がっている。

壁溝　幅14cm，深さ10cm前後のU字状で，東壁の一部から南壁を除いた部分に確認されている。

床　ほぼ平坦で，竈周辺は良く踏み固められているが，他はあまり硬くない。出入口付近には，粘土が薄く張られている。

ピット　8か所。P$_1$～P$_4$は，長径30～50cm，短径30cm前後，深さ40～60cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P$_5$は，長径26cm，短径24cm，深さ37cmで配列から補助柱穴と考えられる。P$_6$～P$_8$は，長径36～40cm，短径30～34cm，深さ9～28cmで配列から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナーにある。長径70cm，短径30cm前後の楕円形で，深さ40cmである。

竈　北壁のほぼ中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，長さ130cm，幅90cmである 天井部は，崩落している。袖部は，良好に遺存している。火床は，長径60cm，短径30cmの浅い楕円形で赤変硬化している。煙道は，火床から緩やかに立ち上がり住居外に延びている。覆土から支脚に転用したと思われる裾部の欠けた脚付小型壺が出土している。

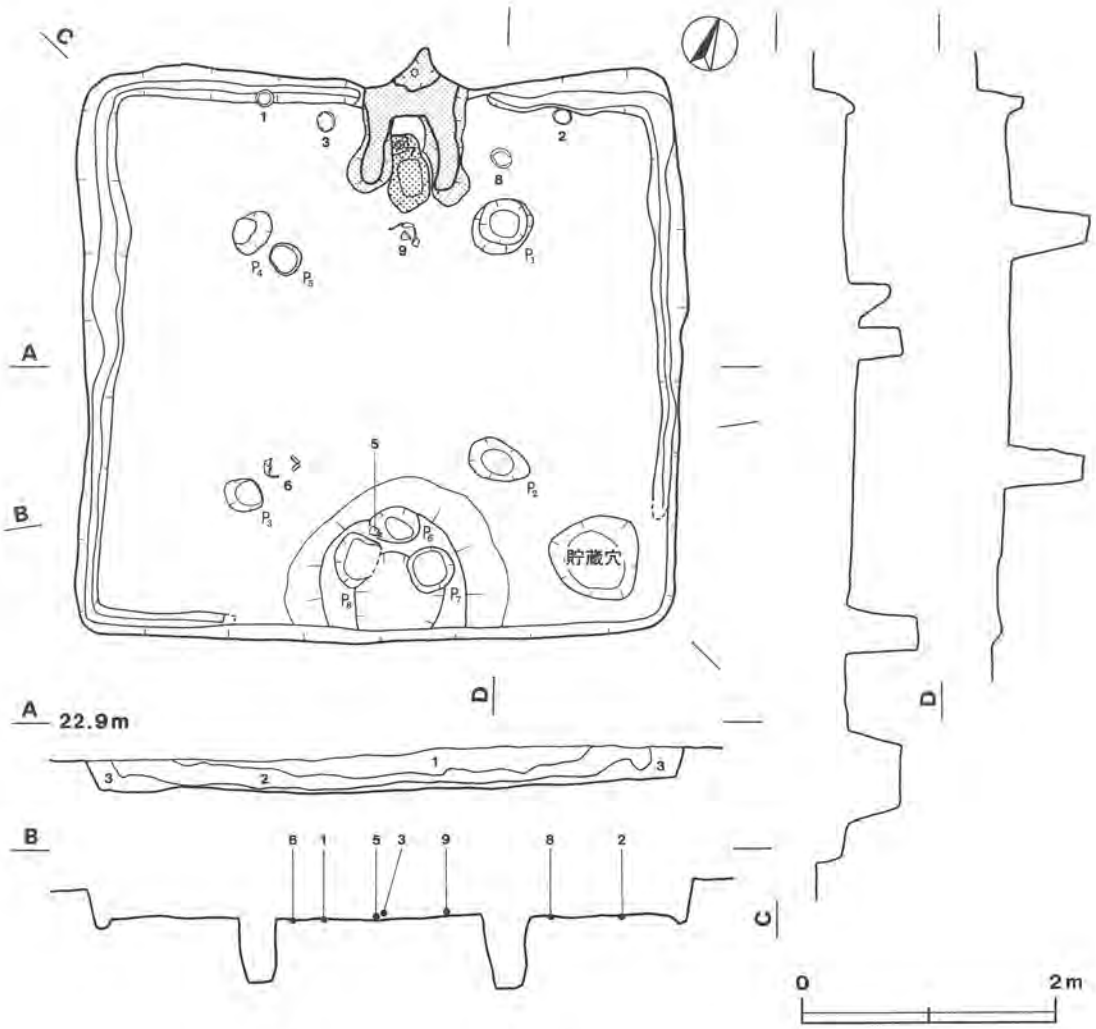
覆土　3層からなり，自然堆積と思われる。1層から流れ込みと思われる土器片が出土している。3層から土師器片が多量に出土している。

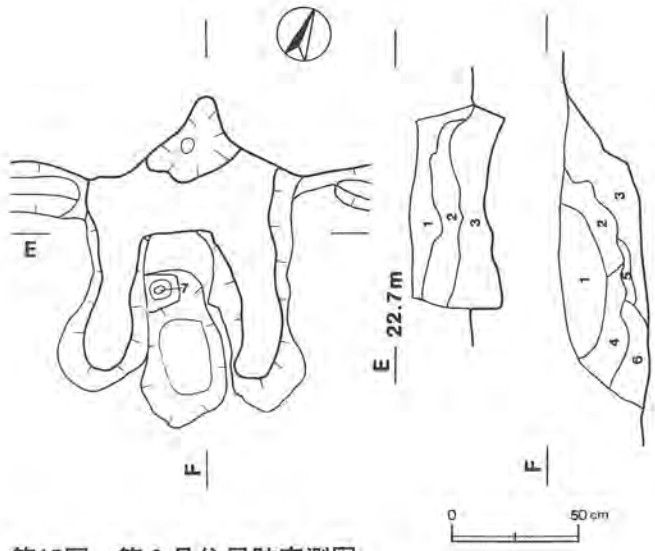
遺物　覆土から土師器片（坏6，鉢1，脚付小型壺1，甕3，細片93点）が出土している。覆土上層からは，流れ込みと思われる縄文式土器片が出土している。北壁際の西側壁溝からは，第18図1の完形の坏が正位の状態で出土している。竈の左側からは3の坏が正位の状態で出土している。北壁際の東側からは2の坏が正位の状態で出土している。竈の東側からは8の甕の体部が出土している。焚き口の付近からは9の鉢の破片が出土している。P_3の東側床面からは6の甕が出土している。P_6から5の坏の破片が出土している。竈内から4の坏の破片，7の脚付小形壺が倒位の状態で出土している。

所見　本跡は，古墳時代後期（鬼高式期）の住居跡である。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.8	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はほぼ直立する。	体部外面ヘラナデ，内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・石英・雲母・パミス 赤褐色 普通	P57 100%
2	坏 土師器	A 13.1 B 5.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部は上方に立ち上がる。	体部外面ヘラナデ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。口縁部外面に輪積痕。内外面赤彩。	長石・石英・雲母・パミス 明赤褐色 普通	P58 80%
3	坏 土師器	A 14.8 B 5.9	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はやや外反する。	体部外面ヘラナデ，内面剥離。口縁部外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・石英・雲母・礫・パミス 褐色 普通	P59 75%
4	坏 土師器	A [12.8] B (3.9)	体部・口縁部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はほぼ直立する。	体部・口縁部内外面横ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P60 15%
5	坏 土師器	A [13.8] B (2.9)	口縁部片。体部と口縁部の境に不明瞭な稜を有する。口縁部は短くほぼ直立する。口唇部は尖る。	口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・スコリア・パミス 赤褐色 普通	P61 10%
6	鉢 土師器	A 16.0 B (13.2)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はやや外反する。	体部外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。口縁部内外面に輪積痕。	砂粒・長石・スコリア にぶい褐色 やや不良	P63 90%





S I－6　土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量

2　暗　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量

3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

S I－6　竈土層解説

1　にぶい橙色　砂中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量

2　にぶい橙色　砂多量，焼土粒子・炭化粒子極少量

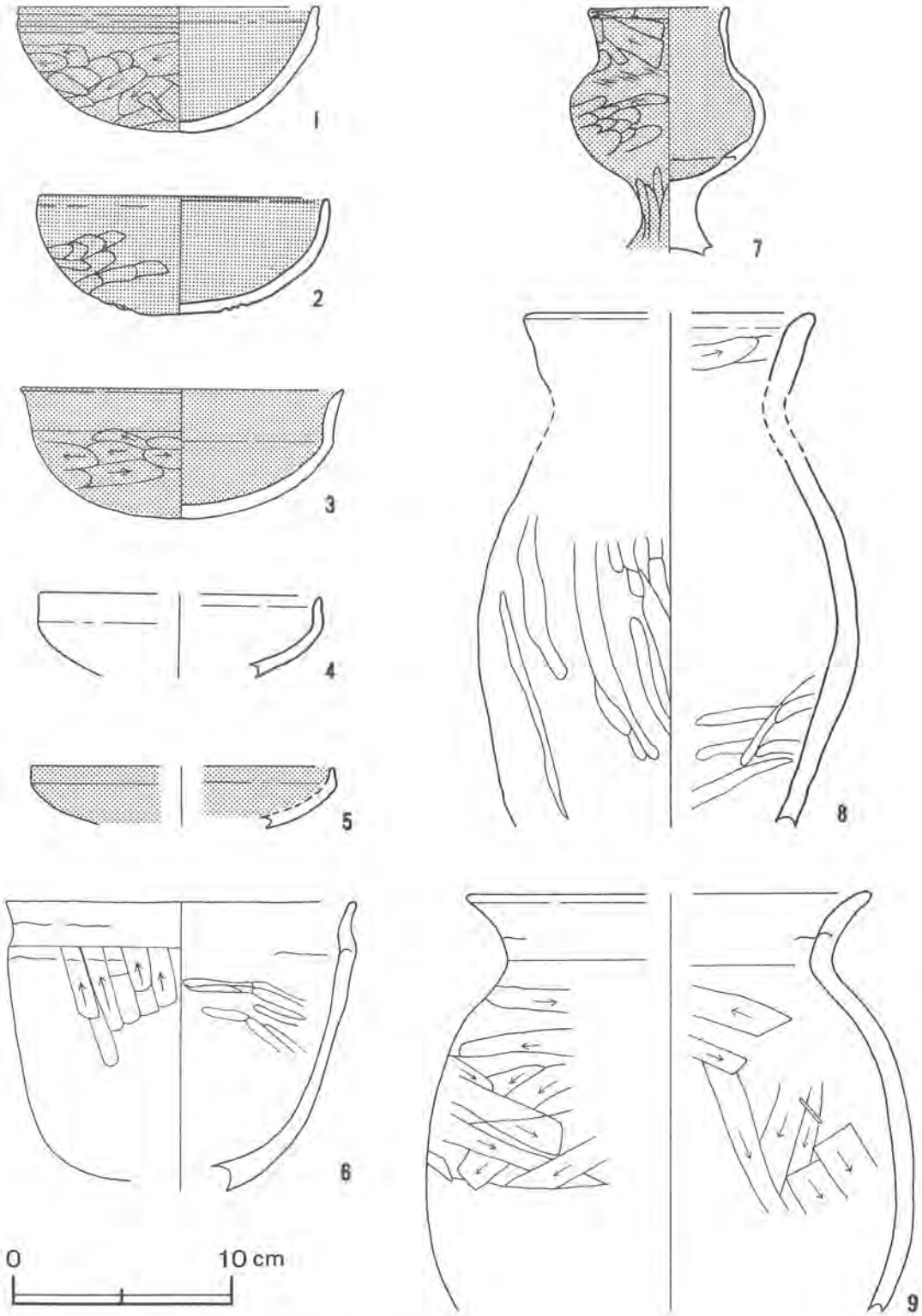
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，褐色土少量

4　褐　　色　ローム粒子・砂少量，焼土粒子・炭化粒子極少量

5　暗赤褐色　焼土粒子中量

6　暗赤褐色　焼土粒子・焼土中ブロック多量，砂極少量

第17図　第6号住居跡実測図



第18図　第6号住居跡出土遺物実測図

7	脚付小形壺 土　師　器	A　6.4 B (11.5)	裾部・口縁部一部欠損。体部は球形をなし、中位に最大径を有する。口縁部はやや外傾する。	脚部・体部外面へラケズリ。口縁部外面へラナデ、内面横ナデ。内面に輪積痕。内外面赤彩。	砂粒・長石・スコリア・パミス にぶい赤褐色 良好	P64 90%
8	甕 土　師　器	A [13.5] B (23.4)	口縁部・体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はやや外傾する。	体部外面へラナデ後ヘラミガキ、口縁部外面横ナデ、内面へラナデ。	石英・長石・スコリア・パミス 橙色 やや不良	P65 60%
9	甕 土　師　器	A [18.2] B (19.5)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は強く外反する。	体部内外面へラナデ。口縁部内外面横ナデ。輪積痕。	砂粒・長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P66 30%

第7号住居跡（第19図）

位置　B3f_7区。

規模と平面形　一辺7mの方形。

主軸方向　N－27°－W。

壁　壁高は，19cmで外傾して立ち上がっている。

壁溝　幅16～20cm，深さ10～20cmのU字状である。壁際を全周している。

床　ほぼ平坦で，中央が特に踏み固められ，東側に焼土が細長く確認されている。

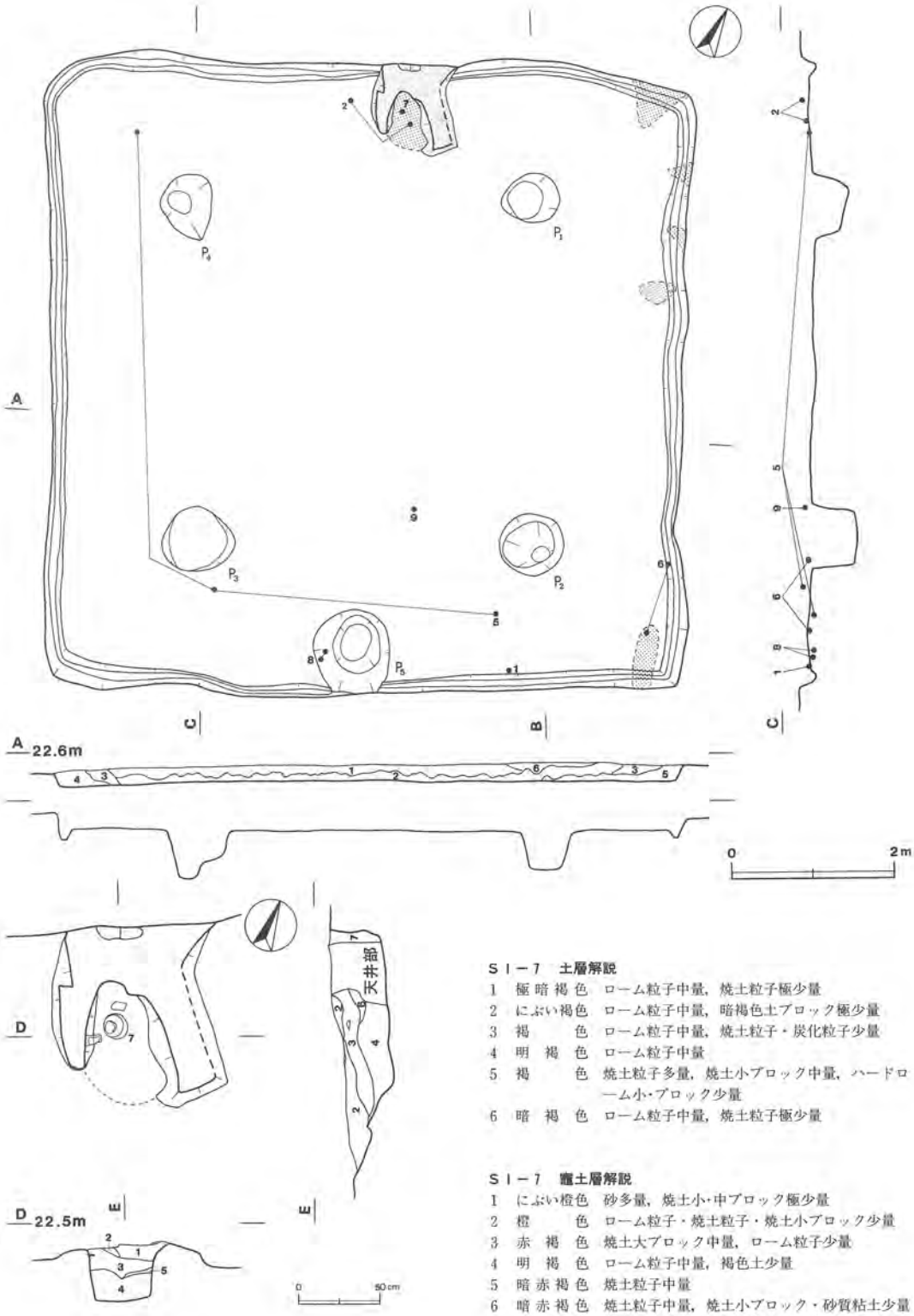
ピット　5か所。P_1～P_4は，長径80～90cm，短径60～70cm，深さ50～60cmで規模や配列から主柱穴と考えられる。P_5は，長径100cm，短径90cm，深さ80cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈　北壁の中央から少し東側に砂質粘土で構築されている。規模は，長さ110cm，幅90cmである。天井部は，崩落している。火床は，赤変硬化している。右袖部の遺存が悪い。煙道は，火床から急な傾斜で立ち上がっている。また，覆土から支脚に転用したと思われる裾部の欠けた高坏が出土している。

覆土　5層からなる。1・2層は，流れ込みと思われる土器片，土師器片を含み，自然的な堆積をしている。東側の6・7層には焼土・焼土小ブロックが多量に含まれている。

遺物　土師器片（坏4，高坏1，埦3，甕3，細片211片）が出土している。覆土上層からは混入と思われる縄文式土器片が出土している。竈の左側床面からは第20図2・3の坏の破片が出土している。竈内からは12の石鏃，7の高坏が倒位の状態で出土している。5の埦は，P_2・P_3の南側とP_4の北側の床面から出土した土器片を接合したものである。南東コーナーの壁際からは6の埦の破片が出土している。P_5の上層からは8の甕の破片が出土している。南壁際の東側からは1の坏が出土している。中央からやや南側の床面から9の甕の破片が出土している。覆土から4の坏の破片，10・11の磨石，13の石製模造品が出土している。

所見　本跡は，古墳時代後期（鬼高式期）の住居跡である。貯蔵穴は確認されなかった。



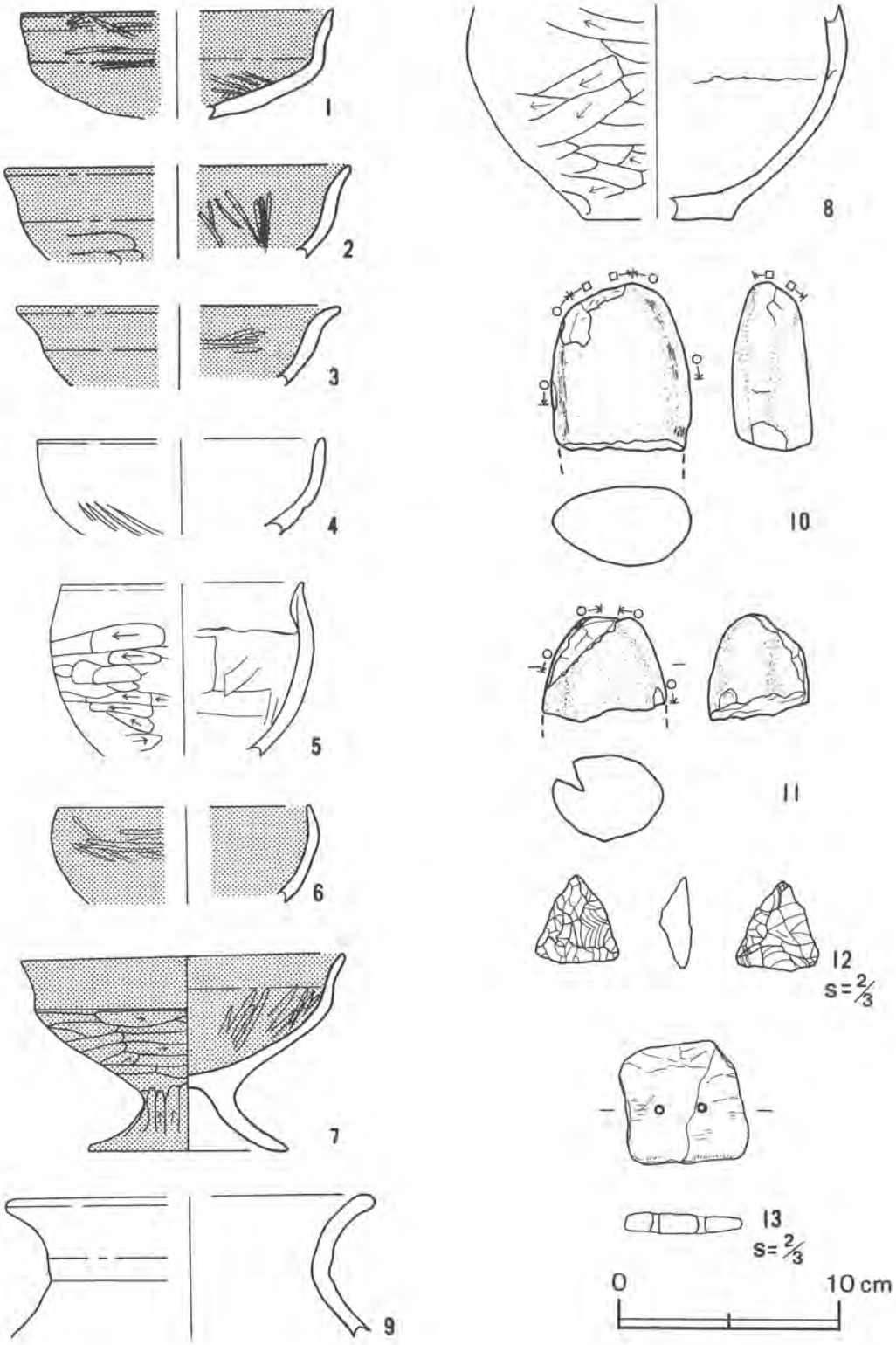
Ｓ Ｉ－７　土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，暗褐色土ブロック極少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　明　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，ハードローム小・ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量

Ｓ Ｉ－７　竈土層解説

1　にぶい橙色　砂多量，焼土小・中ブロック極少量
2　橙　　色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量
3　赤　褐　色　焼土大ブロック中量，ローム粒子少量
4　明　褐　色　ローム粒子中量，褐色土少量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土少量
7　赤　褐　色　ローム粒子中量，砂少量，焼土粒子極少量

第19図　第７号住居跡実測図



第20図　第７号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 1	坏 土師器	A [14.1] B (4.9)	体部・口縁部片。体部と口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部はやや外反する。口唇部はわずかにつまみ上げている。	体部内外面ヘラミガキ。口縁部外面横ナデ後ヘラミガキ，内面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・石英・パミス・スコリア 明赤褐色 やや不良	P67 40%
2	坏 土師器	A [15.7] B (4.3)	口縁部片。体部と口縁部の境に不明瞭な稜を有する。口縁部は外反する。	体部外面ヘラナデ，内面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	長石・石英・スコリア・パミス 赤色 普通	P68 20%
3	坏 土師器	A [14.7] B (3.7)	口縁部片。体部と口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ，内面横ナデ後ヘラミガキ。内外面赤彩。	砂粒・石英・パミス・スコリア 明赤褐色 普通	P70 10%
4	坏 土師器	A [13.0] B (4.4)	体部・口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部はほぼ直立する。	体部・口縁部内外面横ナデ。	砂粒・スコリア・パミス 明赤褐色 普通	P148 10%
5	埦 土師器	A [10.9] B (7.9)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は短くほぼ直立する。口縁部の内面に粘土紐を張り付けている。	体部内外面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・パミス・スコリア にぶい黄橙色 普通	P72 50%
6	埦 土師器	A [11.4] B (4.4)	体部・口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部はやや内彎する。	体部外面ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P73 15%
7	高坏 土師器	A 14.5 B 9.0 C 9.0	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎しながら外傾し，下位に不明瞭な稜を有する。口縁部はやや外傾する。	裾部内外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ。坏部外面ヘラナデ，内面横ナデ後ヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P71 95%
8	甕 土師器	B (9.7) C [6.8]	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	底部ヘラナデ。体部外面ヘラナデ。内面に輪積痕。	砂粒・雲母・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P75 20% 外面にススト付着
9	甕 土師器	A [16.8] B (6.3)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内外面横ナデ。	長石・スコリア 橙色 普通	P77 5% 外面にススト付着

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
10	磨石	(7.7)	6.4	3.7	(264.6)	凝灰岩	半欠 Q6
11	磨石	(4.7)	5.7	4.6	(113.4)	安山岩	半欠 Q7
12	石鏃	2.1	1.9	0.7	1.9	チャート	Q8
13	石製模造品	2.9	2.9	0.5	6.6	緑泥片岩	孔径0.15cm Q9

表2 西ノ脇遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	竈	覆土	出土遺物	備考
1	D5a4	[N-24°-W]	方形	8.30×(8.17)	32~62	平坦	有	4	1	4		1	人為	土師器,須恵器,土製品,石製品	SK-5と重複
2	D4j4	N-34°-E	方形	5.72×5.68	32~40	平坦	有	4	1	4		1	人為	土師器,手捏土器	

4	D4b$_5$	N－5°－W	方　形	6.90 × 6.90	31～46	平坦	有	4	1	4		1	人為	土師器，石器，石製品	
6	C4c$_4$	N－16°－W	長方形	4.70 × 4.50	24～25	平坦	有	4	1	8	3	1	自然	土師器	
7	B3f$_7$	N－27°－W	方　形	7.00 × 7.00	19	平坦	有	4		5	1	1	自然	土師器，石製模造品，石器，石製品	

2　掘立柱建物跡

当調査区から確認された掘立柱建物跡は２棟である。これらは中央から北東にかけて確認されている。当初は，土坑として調査したが，遺構の配列から掘立柱建物跡と判断した。

第１号掘立柱建物跡［ＳＫ－98.101.102.104.105.106］（第21図）

位置　Ｂ３ａ$_7$区。

規模　東西２間(5ｍ)，南北１間(3ｍ)の建物で，柱間寸法は桁行2.2ｍ，梁行3ｍ程である。柱穴の掘り方は，平面形が，長径0.8ｍ，短径0.6ｍの楕円形で，深さ0.3～0.6ｍである。柱痕跡は，確認できなかった。柱穴内覆土は，ロームブロックを含む暗褐色土で人為的に埋め戻したものと考えられる。

桁行方向　Ｎ－84°－Ｅ。

遺物　覆土上層から混入と思われる縄文式土器片，土師器片が出土している。

所見　時期を決定する遺物が出土していないので，時期不明である。第13号溝が本跡の東側を鉤の手に通じているため，関連があると思われる。

第２号掘立柱建物跡［ＳＫ－94.96.99.100.104.105.106.110］（第21図）

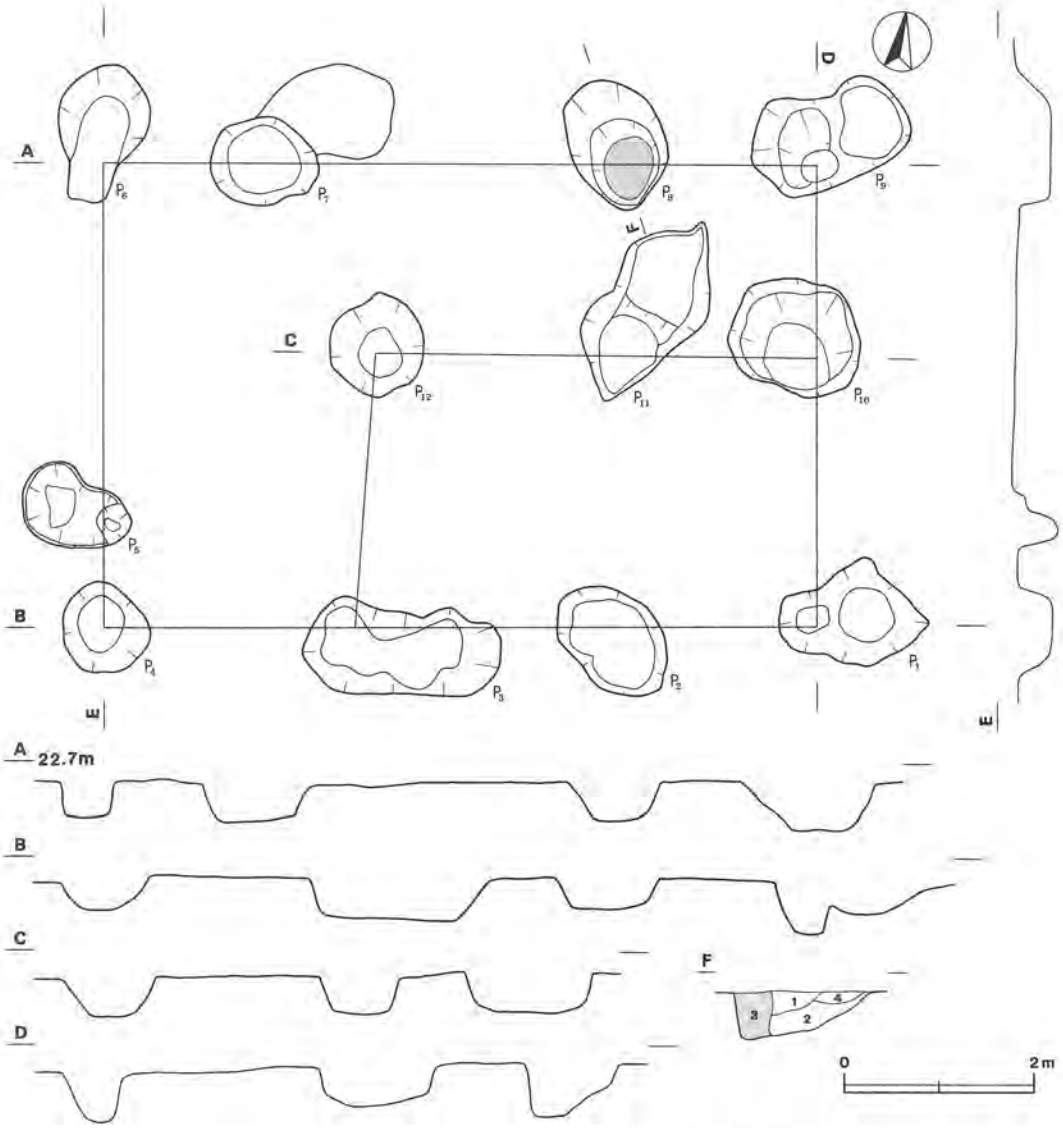
位置　Ａ３ｊ$_6$区。

規模　東西３間(7.5ｍ)，南北１間（5ｍ）の建物で，柱間寸法は桁行2.2～2.6ｍ，梁行5ｍ程である。柱穴の掘り方は平面形が長径0.8ｍ，短径0.6ｍの楕円形で，深さ0.4～0.6ｍである。柱痕跡は，Ｐ$_8$から確認されており，径35cm程と考えられる。柱穴内覆土は，ロームブロックを含む暗褐色土で人為的に埋め戻したものと考えられる。

桁行方向　Ｎ－84°－Ｅ。

遺物　覆土上層から混入と思われる縄文式土器片，土師器片が出土している。

所見　時期を決定する遺物が出土していないので，時期不明である。第１号掘立柱建物跡と重複しているが，新旧関係は不明である。



P8 土層解説

1 にぶい褐色 褐色土中量，ローム粒子少量，炭化物を含む
2 褐 色 ローム粒子中量
3 黒 色 褐色土中量，ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子中量，褐色土少量

第21図 第1・2号掘立柱建物跡実測図

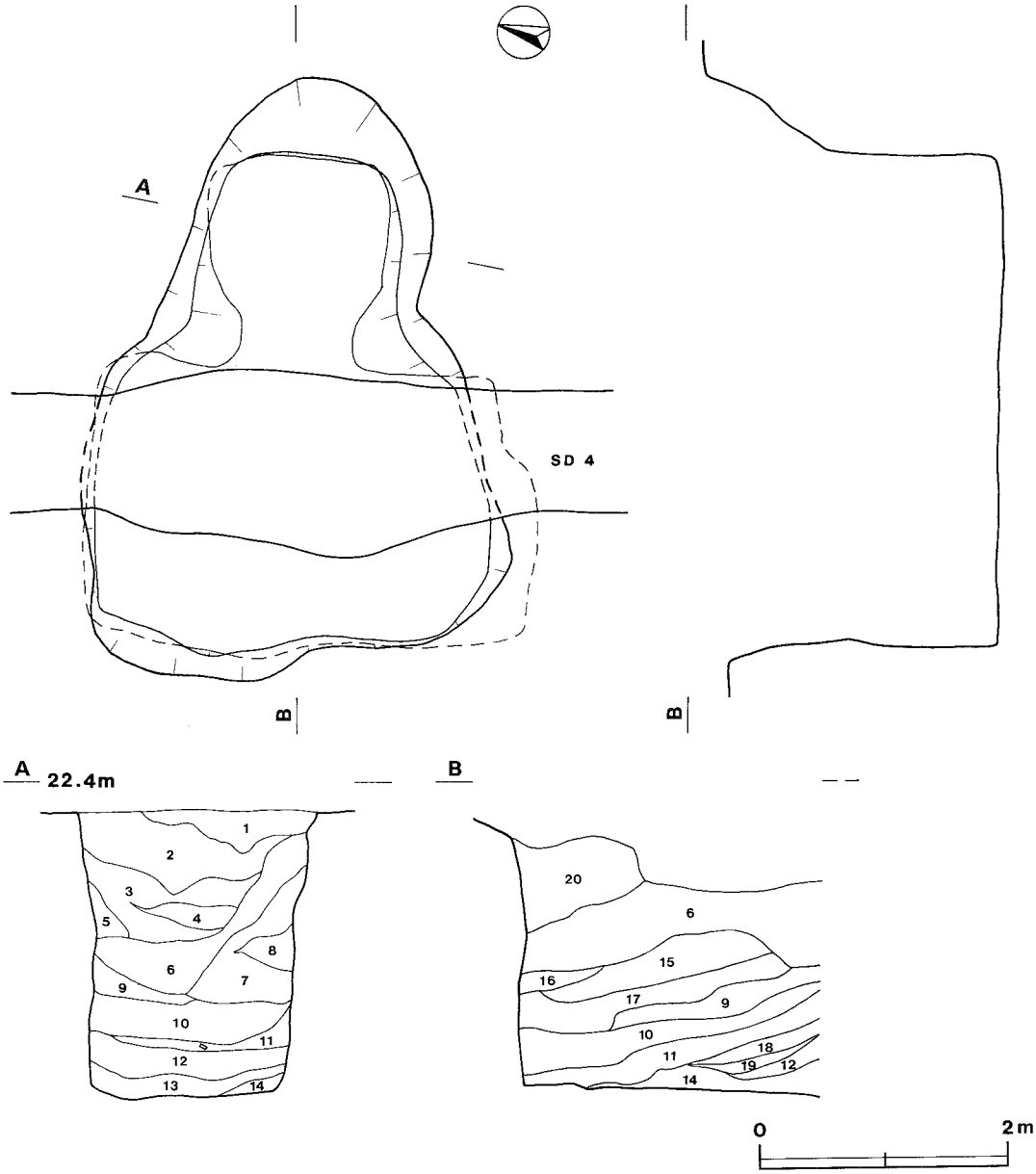
3 土坑

(1) 地下式壙

第1号地下式壙 [SK－52] (第22図)

位置 B3j_3区。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。



第1号地下式壙　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
2　にぶい褐色　ローム小・中ブロック多量，褐色土中ブロック中量
3　褐　　色　ローム小・中ブロック中量，暗褐色土中ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム小・中ブロック少量，焼土小ブロック少量
5　明　褐　色　ローム小ブロック多量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量，焼土粒子極少量
7　褐　　色　暗褐色土中ブロック・ソフトローム中・大ブロック少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
9　明　褐　色　ハードローム小・中ブロック多量，暗褐色土小・中ブロック少量
10　暗赤褐色　ローム小・中ブロック中量，極暗褐色土中量
11　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
12　明　褐　色　ローム小・中ブロック多量，黒褐色土少量
13　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，赤褐色土少量
14　暗　褐　色　ローム小・中ブロック少量
15　にぶい褐色　ソフトローム中ブロック・暗褐色土小・中ブロック中量
16　明　褐　色　ローム大ブロック
17　にぶい褐色　ソフトローム中ブロック・暗褐色土中ブロック多量
18　明　褐　色　ソフトローム小・中ブロック多量，暗褐色土小ブロック少量
19　極暗褐色　ソフトローム小ブロック中量，炭化粒子少量
20　ロームブロック

第22図　第1号地下式壙実測図

主軸方向　N－78°－E。

竪坑　上面は，長径2.4m，短径2.0mの楕円形で，深さは2.2mである。底面は，長径1.6m，短径1.4mの楕円形である。

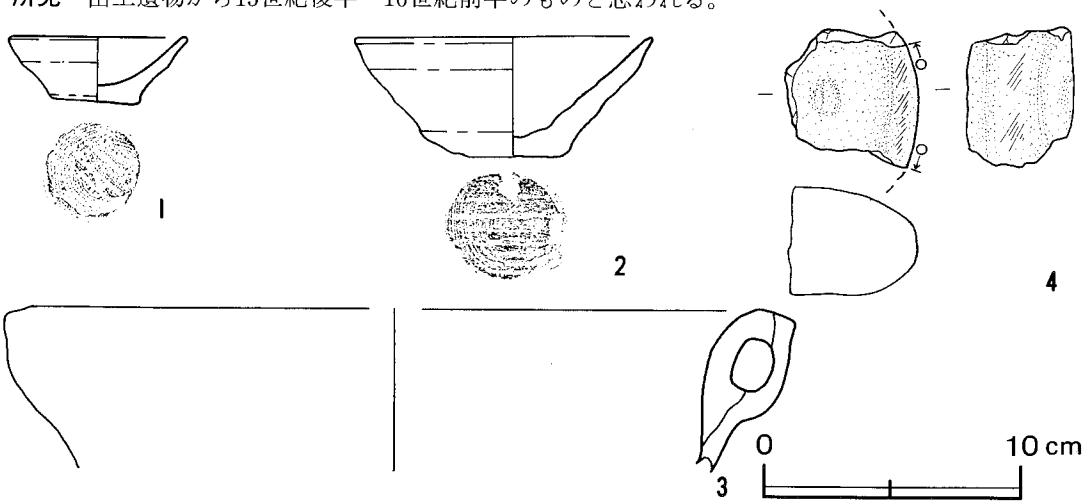
主室　底面は，長軸3.6m，短軸2.2mの長方形で平坦である。確認面から底面までの深さは，2.2mである。

壁　竪坑，主室ともにほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土　19層からなる。ロームブロックを含み不自然な堆積をしており，一挙に埋め戻したものと思われる。主室の天井部と思われる地山層が上層部に確認されている。

遺物　覆土中層から第23図1･2の土師質土器（皿）や3の内耳鍋，4の磨石，アカニシなどが出土している。また，混入と思われる縄文式土器片が出土している。

所見　出土遺物から15世紀後半～16世紀前半のものと思われる。



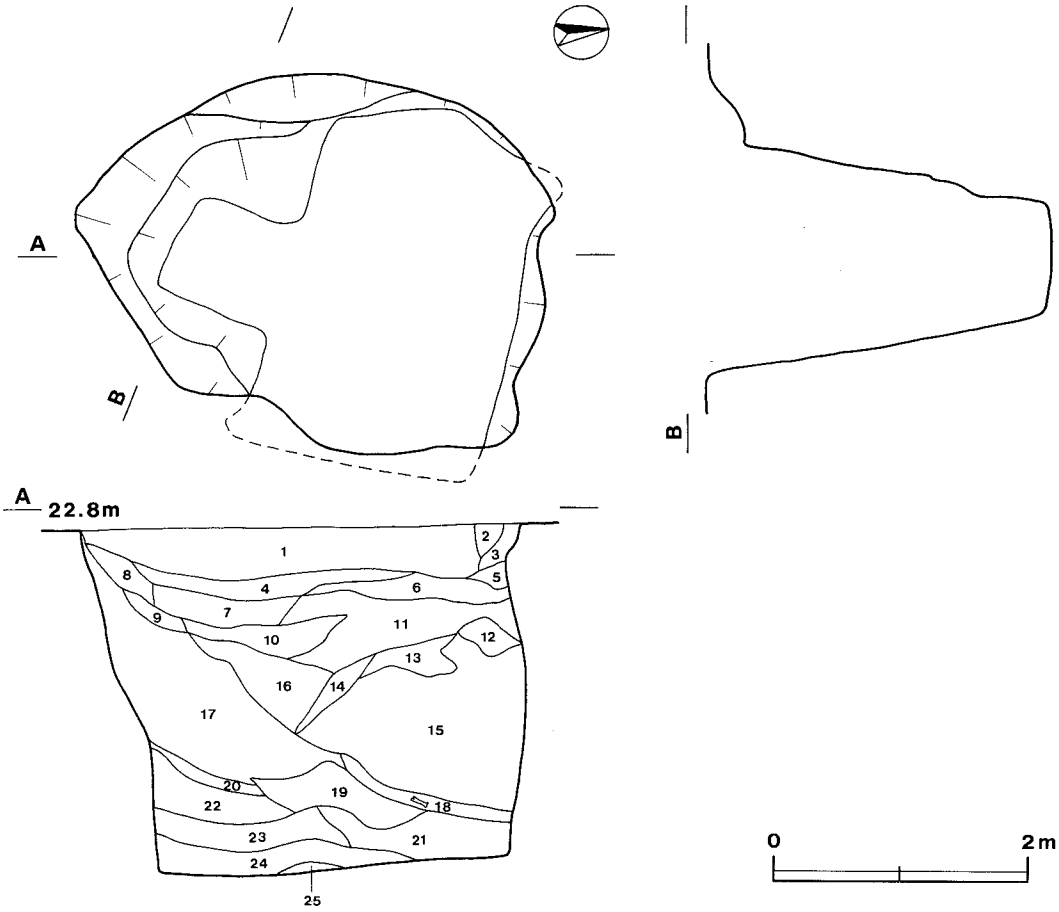
第23図　第1号地下式壙出土遺物実測図

第1号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土･色調･焼成	備　考
第23図 1	皿 土師質土器	A 7.0 B 2.7 C 3.6	平底で突出気味。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色　良好	P93 100%
2	皿 土師質土器	A [11.7] B 4.8 C 3.9	平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。内外面剥離。	砂粒・雲母・スコリア 橙色　普通	P94 60%
3	内耳鍋 土師質土器	A [28.4] B (6.5)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P96 5% 外面にススが付着

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	磨　石	(5.6)	(5.3)	4.2	(162.1)	砂　岩	一部欠損　Q12

第２号地下式壙［ＳＫ－76］（第24図）



第２号地下式壙　土層解説

1	褐　　色	ハードローム小･中ブロック多量，焼土粒子･炭化粒子少量
2	褐　　色	ローム小ブロック少量，炭化粒子少量
3	にぶい褐色	ソフトローム小･中ブロック･暗褐色土中ブロック少量
4	明　褐　色	ローム小ブロック多量，暗褐色土小ブロック少量
5	明　褐　色	ソフトローム大ブロック・褐色土ブロック中量
6	褐　　色	ローム小･中ブロック少量，暗褐色土中量
7	褐　　色	ローム中･大ブロック多量，焼土粒子極少量
8	暗　褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
9	明　褐　色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
10	暗　褐　色	ローム小ブロック中量，極暗褐色土少量
11	暗　褐　色	ローム小ブロック中量，極暗褐色土極少量
12	暗　褐　色	ローム小ブロック中量
13	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，褐色土大ブロック少量
14	にぶい褐色	ソフトローム中ブロック少量
15	明　褐　色	ハードローム中･大ブロック中量
16	にぶい褐色	ローム粒子・ローム中ブロック多量，暗褐色土少量
17	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
18	暗　褐　色	ハードローム中ブロック中量
19	褐　　色	ハードローム大ブロック少量
20	暗　褐　色	ハードローム小･中ブロック少量
21	褐　　色	ハードローム大ブロック少量
22	極暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
23	褐　　色	ハードローム小･中ブロック多量
24	暗　褐　色	ハードローム中ブロック少量，焼土粒子極少量
25	明　褐　色	粘土質のローム層

第24図　第２号地下式壙実測図

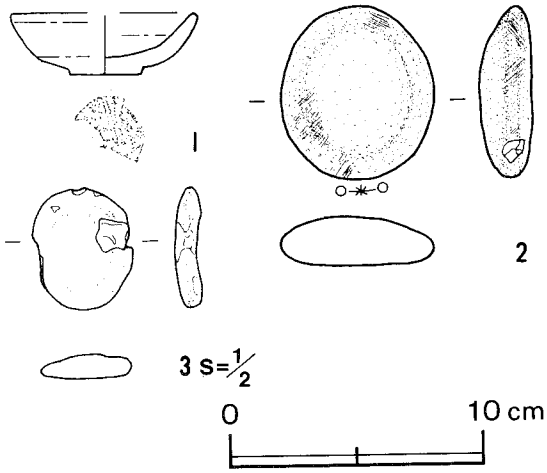
位置　A 2 j_8 区。

主軸方向　N－21°－E。

竪坑　上面は長径1.6m，短径1.2mの楕円形で，深さは2.7mである。底面は，長径0.9m，短径0.8mの長方形である。

主室　底面は，長軸2.9m，短軸2.0mの長方形で平坦である。確認面から底面までの深さは，2.75mである。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がっている。主室は，ほぼ垂直に立ち上がっている。



第25図　第2号地下式壙出土遺物実測図

覆土　26層からなる。16層は，天井部が崩落したものと思われる。10～15･17～26層は，人為的に埋め戻したものと思われる。2・3・5層は，壁際から流れ込んだものと思われる。1層は，自然堆積したものである。

遺物　主室からは第25図1の土師質土器（皿）が出土している。覆土中層から混入と思われる2の磨石，3の石錘などが出土している。

所見　出土遺物から15世紀後半～16世紀前半のものと思われる。

第2号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土･色調･焼成	備　考
第25図 1	皿 土師質土器	A [7.3] B 2.5 C [2.8]	わずかに突出する平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P98 25%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	磨　石	7.0	6.1	2.1	117.0	砂　岩	Q19
3	石　錘	3.2	2.6	0.7	7.8	砂　岩	Q20

第3号地下式壙［SK－78］（第26図）

位置　A 2 g_8 区。

主軸方向　N－32°－W。

竪坑　上面は，長径1.7m，短径1.6mの楕円形で，深さは2.5mである。底面は，長径1.2m，短径1.0mの長方形である。主室に向かって，緩やかなスロープ状になっている。

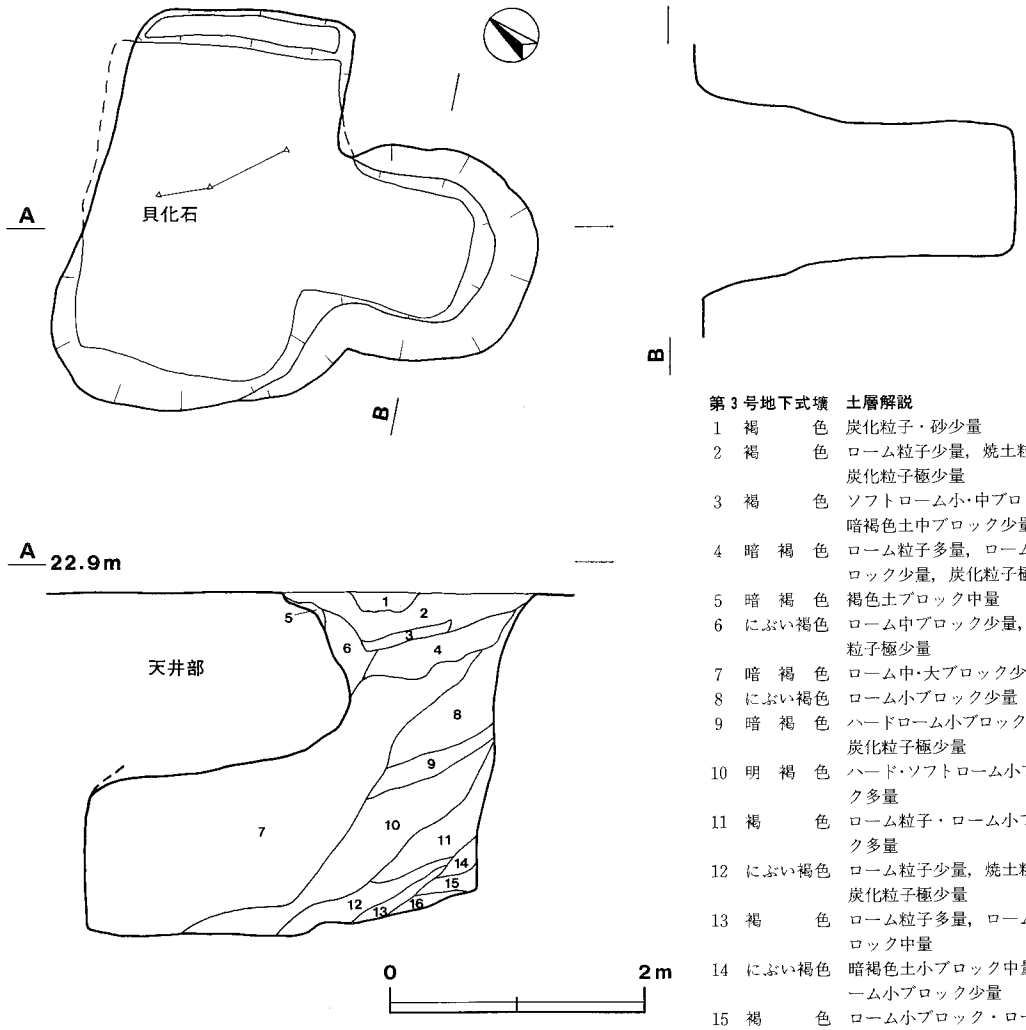
主室　底面は，長軸3.35m，短軸1.81mの長方形で，平坦である。底面から天井部までの高さは，1.30～1.40mである。確認面から底面までの深さは，2.75mである。

壁　竪坑，主室ともに，ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土　16層からなる。いずれの層もハードローム小ブロック，ソフトローム小ブロックを含み人為堆積であるが，特に7層は，一挙に埋め戻したものと思われる。主室奥の上層は，天井部の崩落土があるため層の確認は不可能である。

遺物　主室から第27図1の土師質土器(火鉢)，土師質土器片，2の磨石が出土し，底面から貝化石が出土している。覆土上層から流れ込みと思われる縄文式土器片，擂鉢の底部，陶器片などが出土している。

所見　出土遺物から15世紀後半～16世紀前半のものと思われる。天井部は，残存している。



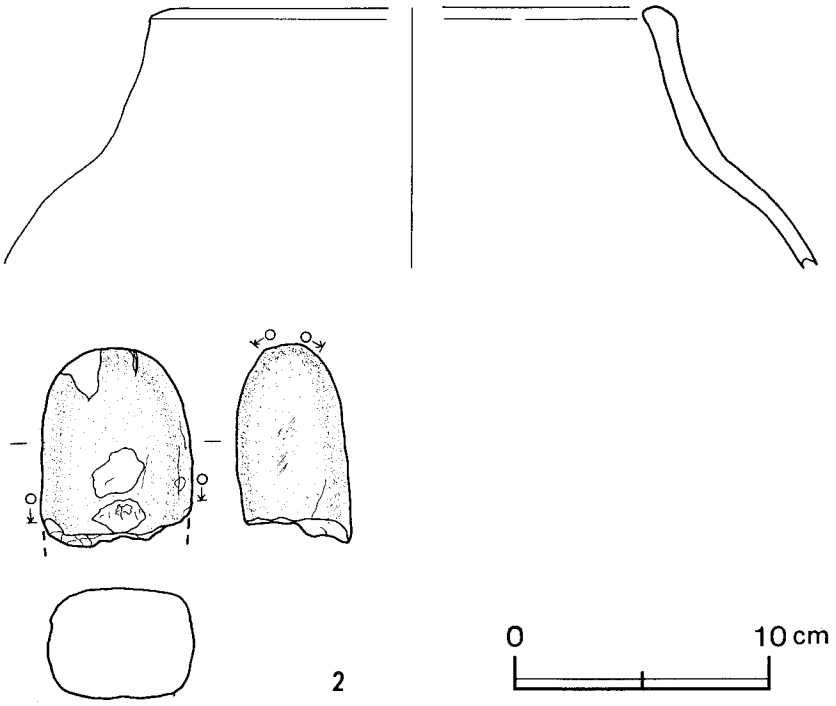
第3号地下式壙	土層解説
1　褐　色	炭化粒子・砂少量
2　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐　色	ソフトローム小・中ブロック・暗褐色土中ブロック少量
4　暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
5　暗褐色	褐色土ブロック中量
6　にぶい褐色	ローム中ブロック少量，炭化粒子極少量
7　暗褐色	ローム中・大ブロック少量
8　にぶい褐色	ローム小ブロック少量
9　暗褐色	ハードローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
10　明褐色	ハード・ソフトローム小ブロック多量
11　褐　色	ローム粒子・ローム小ブロック多量
12　にぶい褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
13　褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
14　にぶい褐色	暗褐色土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
15　褐　色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
16　明褐色	ローム小・中ブロック中量

第26図　第3号地下式壙実測図

第3号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第27図 1	火　鉢 土師質土器	A [18.6] B (10.4)	口縁部片。体部から口縁部は内彎しながら内傾する。口唇部は面取りしている。	内外面剥離。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 不良	P99 20%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	磨　石	(8.0)	5.9	5.4	(292.3)	安山岩	半欠　Q21



第27図　第3号地下式壙出土遺物実測図

第4号地下式壙［SK－81］(第28図)

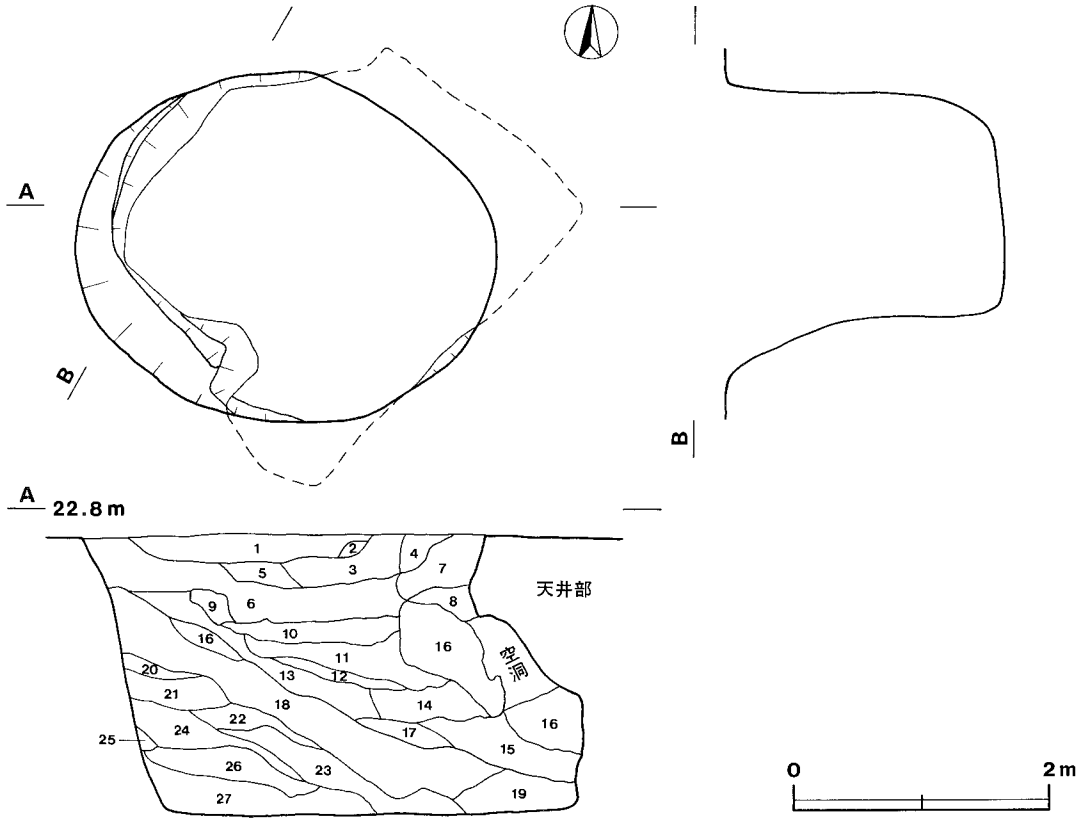
位置　B3a$_6$区。

主軸方向　N－52°－W。

竪坑　上面は，長径2.6m，短径1.5mの楕円形で，深さは2.17mである。底面は，長径2.0m，短径1.0mの不定形である。

主室　底面は，長軸3.22m，短軸1.58mの不定形で平坦である。確認面から底面までの深さは，2.2mである。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がっている。主室は，ほぼ垂直に立ち上がっている。主室の天井部



第4号地下式壙　土層解説

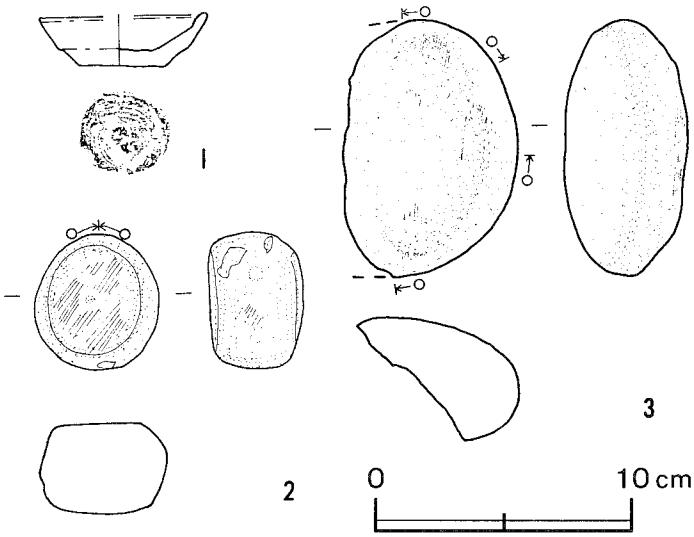
1　明　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
4　明　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，暗褐色土少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・暗褐色土中量
6　褐　　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子・暗褐色土少量
7　明　褐　色　暗褐色土少量
8　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
9　褐　　色　ローム小・中ブロック中量，暗褐色土少量，焼土粒子極少量
10　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，極暗褐色土少量
11　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
12　褐　　色　ローム小・中ブロック中量，ローム粒子少量
13　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　褐　　色　ローム粒子・ローム中ブロック多量
15　褐　　色　ハードローム小・中ブロック中量
16　明　褐　色　ハードローム層
17　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
18　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック中量
19　明　褐　色　ハードローム大ブロック多量
20　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
21　褐　　色　ローム小・中ブロック少量
22　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
23　明　褐　色　ローム小・中ブロック多量
24　暗　褐　色　ローム中ブロック中量
25　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
26　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，暗褐色土少量
27　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量

第28図　第4号地下式壙実測図

に空洞が確認されている。

覆土　27層からなる。主室の下層部は，天井部のロームが崩落して堆積したものと思われる。また，16層の上部に空洞が確認されている。その他は，ロームブロックが多量に含まれており，埋め戻したものと思われる。

遺物　覆土下層から第29図1の土師質土器（皿）が出土している。覆土中層から混入と思われる縄文式土器片，2・3の磨石が出土している。



第29図　第4号地下式壙出土遺物実測図

所見　出土遺物から15世紀後半～16世紀前半のもと考えられる。主室の天井部は一部崩落したため，上層に空洞ができている。すなわち，主室は空洞であったと考えられる。

第4号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第29図 1	皿 土師質土器	A [6.6] B 2.1 C 3.2	平底。体部は直線的に外傾する。口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色　普通	P100 60%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	磨　石	5.5	5.0	3.8	155.1	安山岩	Q23
3	磨　石	10.4	(6.7)	4.9	(354.1)	砂　岩	半欠　Q24

第5号地下式壙［ＳＫ－89］（第30図）

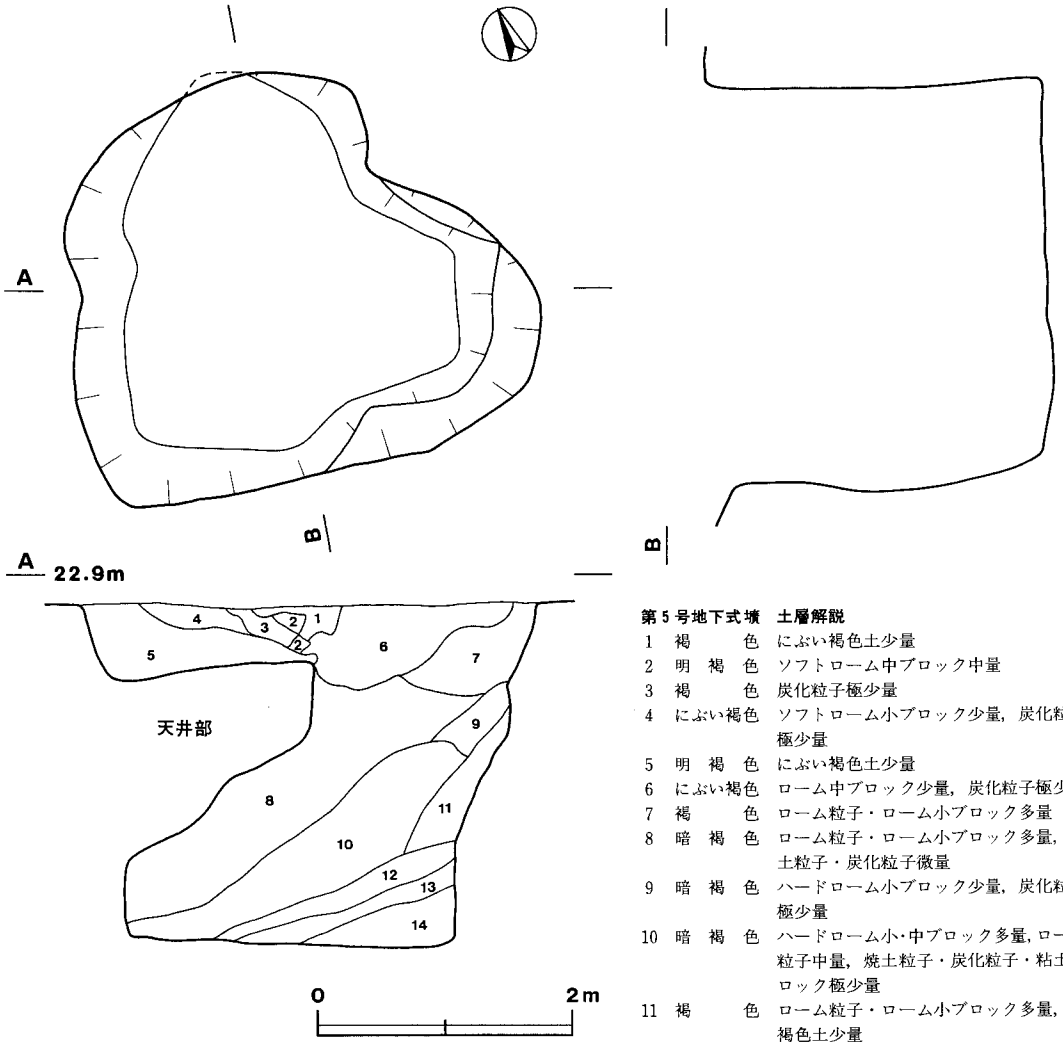
位置　Ａ3ｂ₂区。

主軸方向　Ｎ－63°－Ｗ。

竪坑　上面は，長径2.4ｍ，短径1.5ｍの楕円形で，深さは2.72ｍである。底面は，長径2.1ｍ，短径1.46ｍの台形である。

主室　底面は，長軸3.36ｍ，短軸2.18ｍの不定形で平坦である。底面から天井部までの高さは，奥が70㎝，手前が150㎝と奥へ行くほど低い。確認面から底面までの深さは，2.78ｍである。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がっている。主室は，ほぼ垂直に立ち上がっている。



第5号地下式壙　土層解説

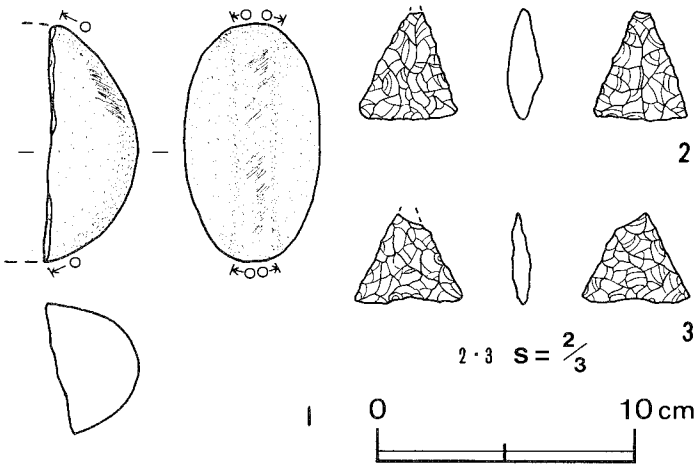
1	褐　色	にぶい褐色土少量
2	明褐色	ソフトローム中ブロック中量
3	褐　色	炭化粒子極少量
4	にぶい褐色	ソフトローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
5	明褐色	にぶい褐色土少量
6	にぶい褐色	ローム中ブロック少量，炭化粒子極少量
7	褐　色	ローム粒子・ローム小ブロック多量
8	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ハードローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
10	暗褐色	ハードローム小・中ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック極少量
11	褐　色	ローム粒子・ローム小ブロック多量，暗褐色土少量
12	明褐色	ハードローム小・中ブロック多量
13	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
14	にぶい褐色	ローム小ブロック多量，暗褐色土小ブロック少量

第30図　第5号地下式壙実測図

覆土　14層からなる。いずれの層もロームブロックを多量に含み複雑な堆積をしているが，6～14層は，一挙に埋め戻したものと思われる。

遺物　覆土中層から混入と思われる土師器片，縄文式土器片，第31図1の磨石，2･3の石鏃などが出土している。

所見　出土遺物から15世紀後半～16世紀前半と考えられる。天井部は，残存している。



第31図　第5号地下式壙出土遺物実測図

第5号地下式壙出土石製品一覧表

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第31図1	磨　石	(9.4)	(3.7)	5.3	(219.9)	砂　岩	半　欠　Q26
2	石　鏃	(2.2)	1.9	0.9	(1.9)	チャート	先端欠　Q27
3	石　鏃	(1.8)	2.1	0.4	(1.0)	黒曜石	先端欠　Q49

第6号地下式壙［ＳＫ－91］（第32図）

位置　Ａ３d_5区。

主軸方向　Ｎ－26°－Ｗ。

竪坑　上面は，長径2.4ｍ，短径1.4ｍの不定形で，深さは2.6ｍである。底面は，長径1.1ｍ，短径0.9ｍの長方形である。

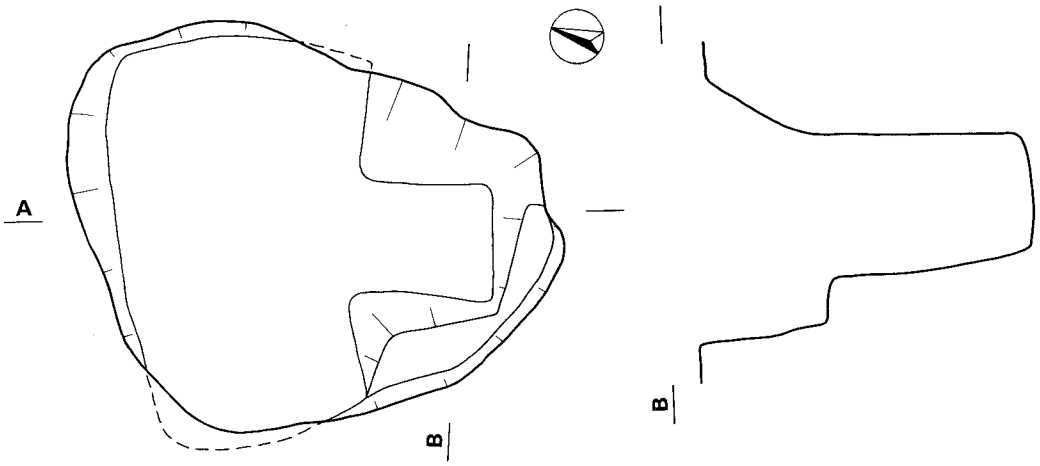
主室　底面は，長軸3.4ｍ，短軸1.8ｍの長方形で平坦である。確認面から底面までの深さは，2.5ｍである。

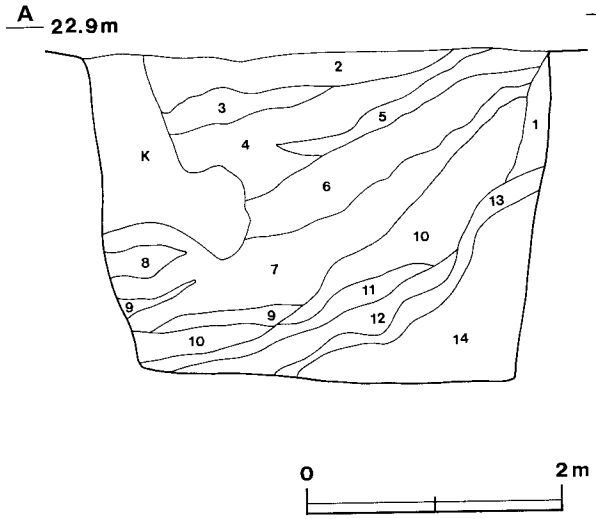
壁　竪坑は，外傾して立ち上がっている。主室は，ほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土　天井部は，撹乱を受けているため確認不可能である。８～10層は，天井部の一部が崩壊したのもと思われる。それ以外の層は，人為的に埋め戻したものと思われる。

遺物　主室から第33図1･2の土師質土器（Ⅲ）が出土している。覆土上層から混入と思われる縄文式土器片，4の石臼，3の砥石などが出土している。

所見　出土遺物から15世紀後半～16世紀前半のものと考えられる。





第6号地下式壙　土層解説

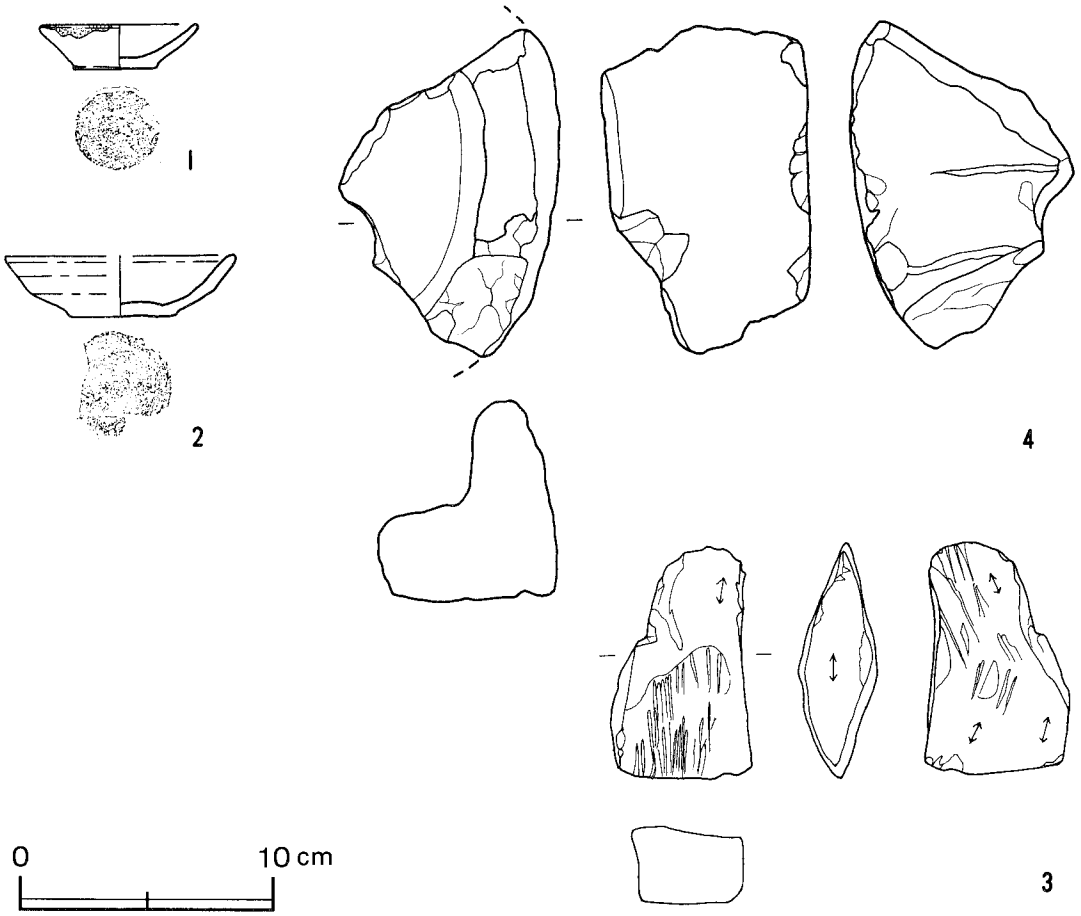
1　明　褐　色　ローム小ブロック多量
2　明　褐　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量，炭化粒子微量
3　にぶい褐色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小ブロック中量
5　褐　　色　明褐色土・炭化粒子少量
6　褐　　色　ローム中ブロック・炭化粒子少量
7　にぶい褐色　ローム小ブロック多量，明褐色土・暗褐色土少量
8　明　褐　色　ハードローム中・大ブロック多量
9　暗　褐　色　ハードローム小ブロック多量，炭化粒子極少量
10　褐　　色　ローム粒子中量，ハードローム小・中ブロック少量
11　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，暗褐色土少量
12　褐　　色　ローム粒子中量，ハードローム小・中ブロック少量
13　褐　　色　ローム粒子中量，ハードローム小ブロック中量，粘土ブロック極少量
14　褐　　色　ハードローム小ブロック多量，粘土ブロック少量

第32図　第6号地下式壙実測図

第6号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第33図 1	皿 土師質土器	A 6.3 B 1.8 C 3.3	わずかに突出した平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P101 100% 口唇部に油煙付着
2	皿 土師質土器	A [9.1] B 2.0 C 4.2	平底で突出気味。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P102 50%

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	砥　石	9.3	5.6	3.1	156.9	砂　岩	Q29
4	石　臼	(13.0)	(8.6)	8.2	(519.5)	安 山 岩	一部欠損 上臼 Q30



第33図　第6号地下式壙出土遺物実測図

第7号地下式壙［ＳＫ－114］(第34図)

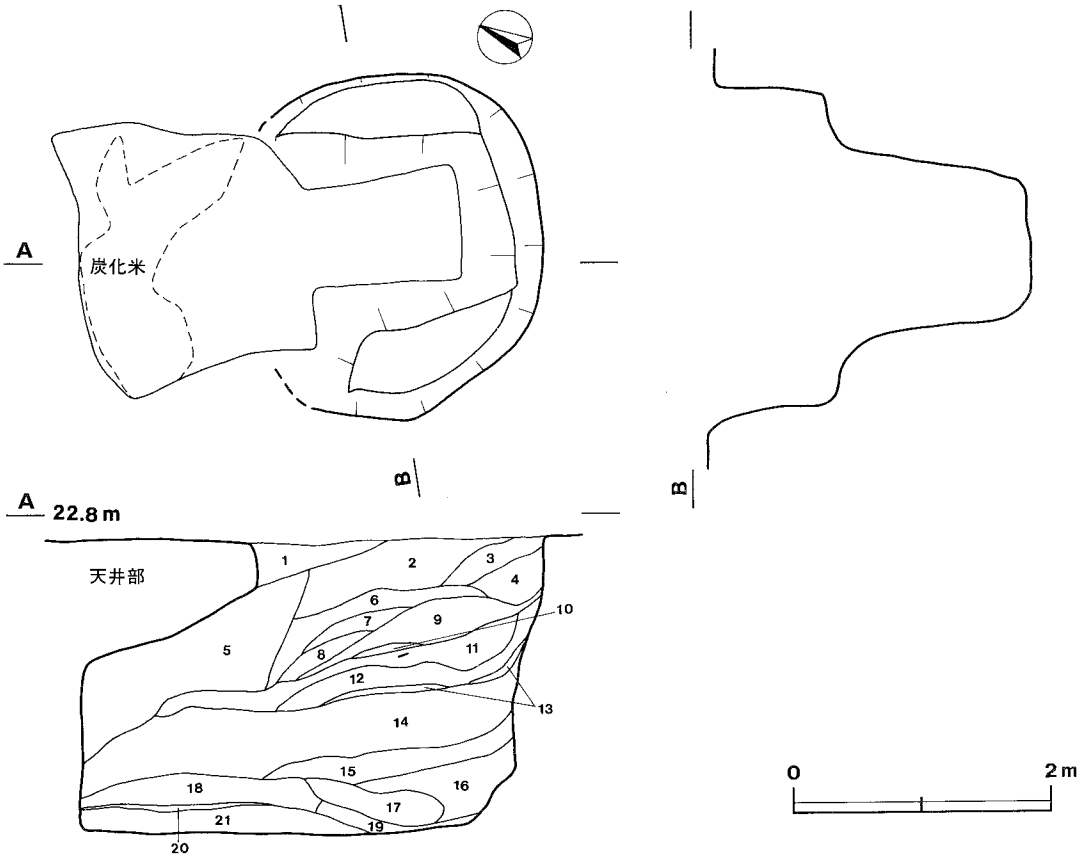
位置　Ｃ４a_7区。

主軸方向　Ｎ－33°－Ｗ。

竪坑　上面は，長径2.6ｍ，短径1.8ｍの不定形で，深さは2.47ｍである。底面は，長径1.1ｍ，短径0.8ｍの長方形である。

主室　底面は，長軸1.88ｍ，短軸1.82ｍの不定形で平坦である。確認面から底面までの深さは，2.31ｍである。底面から多量の炭化米が出土している。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がっている。主室は，ほぼ垂直に立ち上がっている。



第7号地下式壙　土層解説

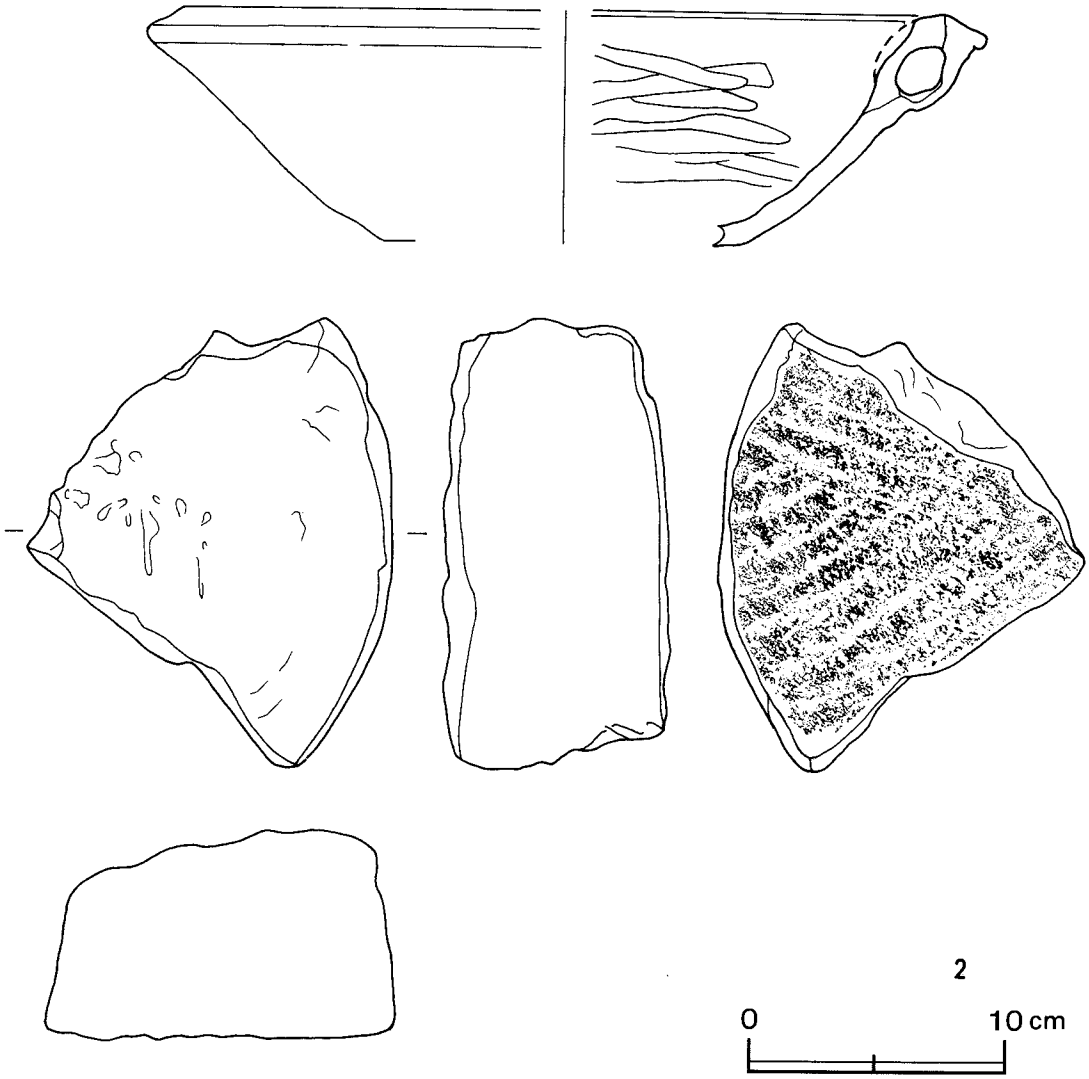
1　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，炭化粒子極少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・暗褐色土少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
7　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック極少量
8　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック極少量
9　明　褐　色　ローム小・中ブロック多量
10　極暗褐色　ローム小ブロック中量
11　褐　　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子極少量
12　にぶい褐色　ローム小・中ブロック中量
13　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック極少量
14　明　褐　色　ローム小ブロック多量
15　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量
16　褐　　色　ローム小・中ブロック多量
17　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
18　明　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック中量
19　明　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量
20　褐　　色　炭化物，焼土小ブロック中量
21　明　褐　色　ハードローム中・大ブロック多量

第34図　第7号地下式壙実測図

覆土　5・6・11層は，天井部の一部が崩落したものと考えられる。それ以外の層は，一挙に埋め戻したものと思われる。11層から内耳土器片が多数出土している。

遺物　覆土中層から第35図1の内耳鍋の破片や2の石臼などが出土している。

所見　出土遺物から15世紀後半～16世紀前半のものと考えられる。主室の底面から多量の炭化米がまとまって出土しているが，性格不明である。



第35図　第７号地下式壙出土遺物実測図

第７号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第35図 1	内耳鍋 土師質土器	A [33.1] B 9.28 C [14.1]	体部は内彎気味に外傾する。口縁部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラナデ。口縁部内外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英にぶい橙色 普通	P104 15% 外面にススが付着

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	石　臼	(17.8)	(14.5)	8.9	(1954.8)	安　山　岩	一部欠損　Q33

(2)　その他の土坑

ここでは，主な土坑についてのみ記述し，その他は一覧表に記載した。

第43号土坑（第36図）

位置　C3b$_6$区。

規模と平面形　長軸1.32m，短軸0.88mの不定形で，深さは0.21mである。

長軸方向　N－62°－W。

壁　ほぼ垂直に立ち上がっている。

床面　平坦。

ピット　2か所。P$_1$，P$_2$ともに長径30cm，短径20cmの楕円形で，深さは35cmである。いずれも柱穴と考えられる。

覆土　1層から土器片が出土し，自然堆積と思われる。2・3層は，人為堆積である。

遺物　覆土から第38図1の土師質土器（皿）が出土している。覆土上層から混入と思われる縄文式土器片が出土している。

所見　出土遺物や遺構形態から中世の小竪穴状遺構と考えられる。

第70号土坑（第36図）

位置　B3a$_1$区。

規模と平面形　長軸2.31m，短軸1.85mの長方形で，深さは0.67mである。

長軸方向　N－49°－W。

壁　ほぼ垂直に立ち上がっている。

床面　平坦。北東コーナーに多量の灰が確認されている。

ピット　2か所。P$_1$，P$_2$ともに径18cmの円形で，深さは50cmである。いずれも柱穴と思われる。

覆土　1層が大部分を占め，ハードローム大ブロックを含み，一挙に埋め戻したと考えられる。2・3層は壁際から流れ込んだものと思われる。

遺物　覆土上層から混入と思われる土師器片，縄文式土器片，礫などが出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土していないので，時期不明である。遺構形態から小竪穴状遺構と考えられる。

第92号土坑（第36図）

位置　A3f_7区。

規模と平面形　長軸2.67m，短軸1.92mの不定形で，深さは0.34mである。

長軸方向　N－3°－W。

壁　ほぼ垂直に立ち上がっている。

床面　平坦。

ピット　2か所。P_1，P_2とも径35cmの円形である。深さは，P_1が1m，P_2が1.2mである。いずれも柱穴と思われる。

覆土　6層からなり，ロームブロックを含み，複雑な堆積をしている。特に，4層の占める割合が多い。

遺物　覆土から混入と思われる縄文式土器片（2点）が出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土しないので，時期不明である。遺構の形態から小竪穴状遺構と考えられる。

第112号土坑（第36図）

位置　B3b_4区。

規模と平面形　長軸1.76m，短軸1.75mの方形で，深さは0.48mである。

長軸方向　N－62°－E。

壁　ほぼ垂直に立ち上がっている。

床面　平坦。北コーナーから多量の灰と石が出土している。

覆土　1層は，ロームブロックを含み，大部分を占め，一挙に埋め戻したものと思われる。2～5層は，壁際から流れ込んだものと思われる。

遺物　北コーナーの灰の中から短辺10cm，長辺18cmの台形に近い方形の石が出土している。また，覆土から混入と思われる縄文式土器片，土師器片，土師質土器片などが出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土していないので，時期不明である。北コーナーの灰・石は，性格不明である。遺構の形態から小竪穴状遺構と考えられる。

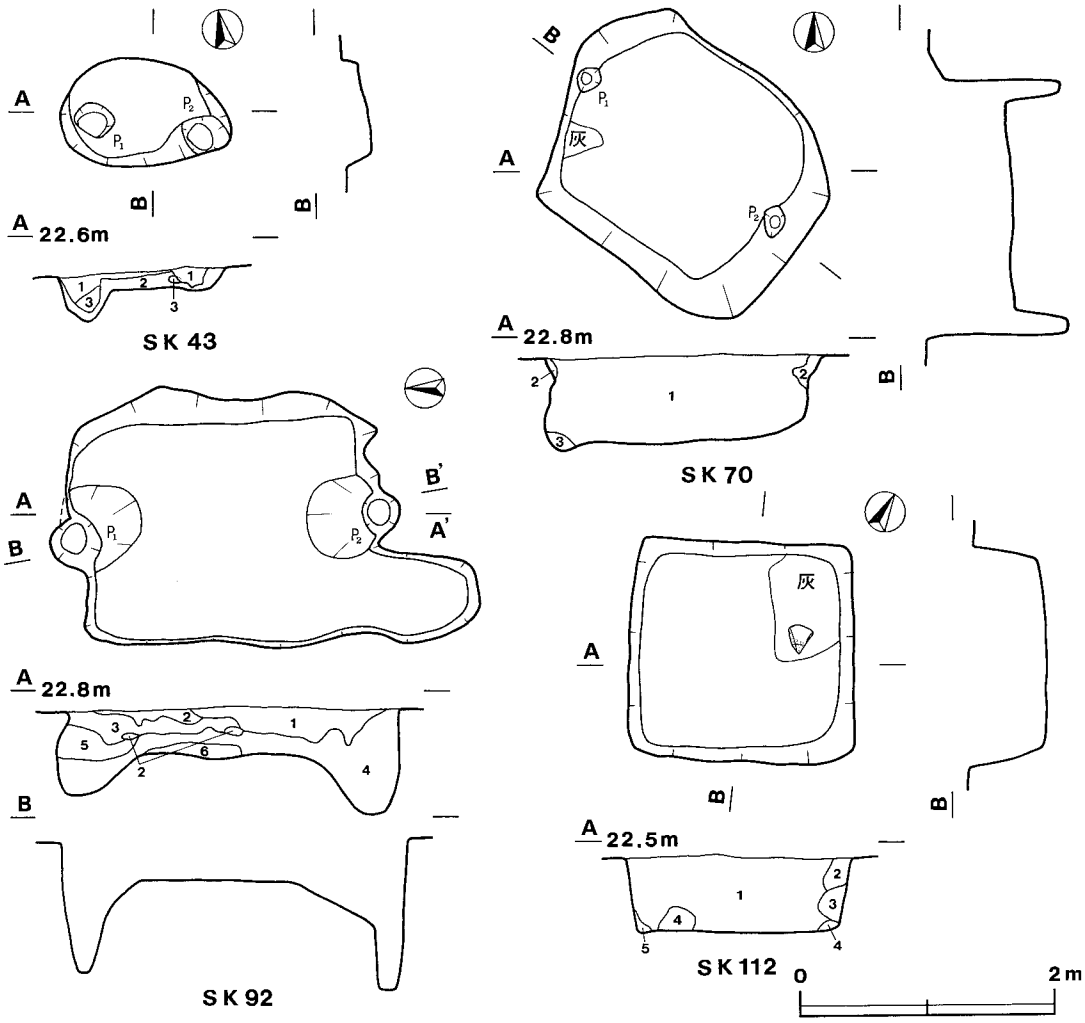
第16号土坑（第37図）

位置　D4d_6区。

規模と平面形　長軸2.43m，短軸2.38mの円形で，深さは0.56mである。

長軸方向　N－15°－W。

壁　ほぼ垂直に立ち上がっている。



ＳＫ－43　土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子・褐色土中量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，褐色土中量

ＳＫ－70　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　明　褐　色　ソフトローム小ブロック・褐色土中量
3　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，灰少量

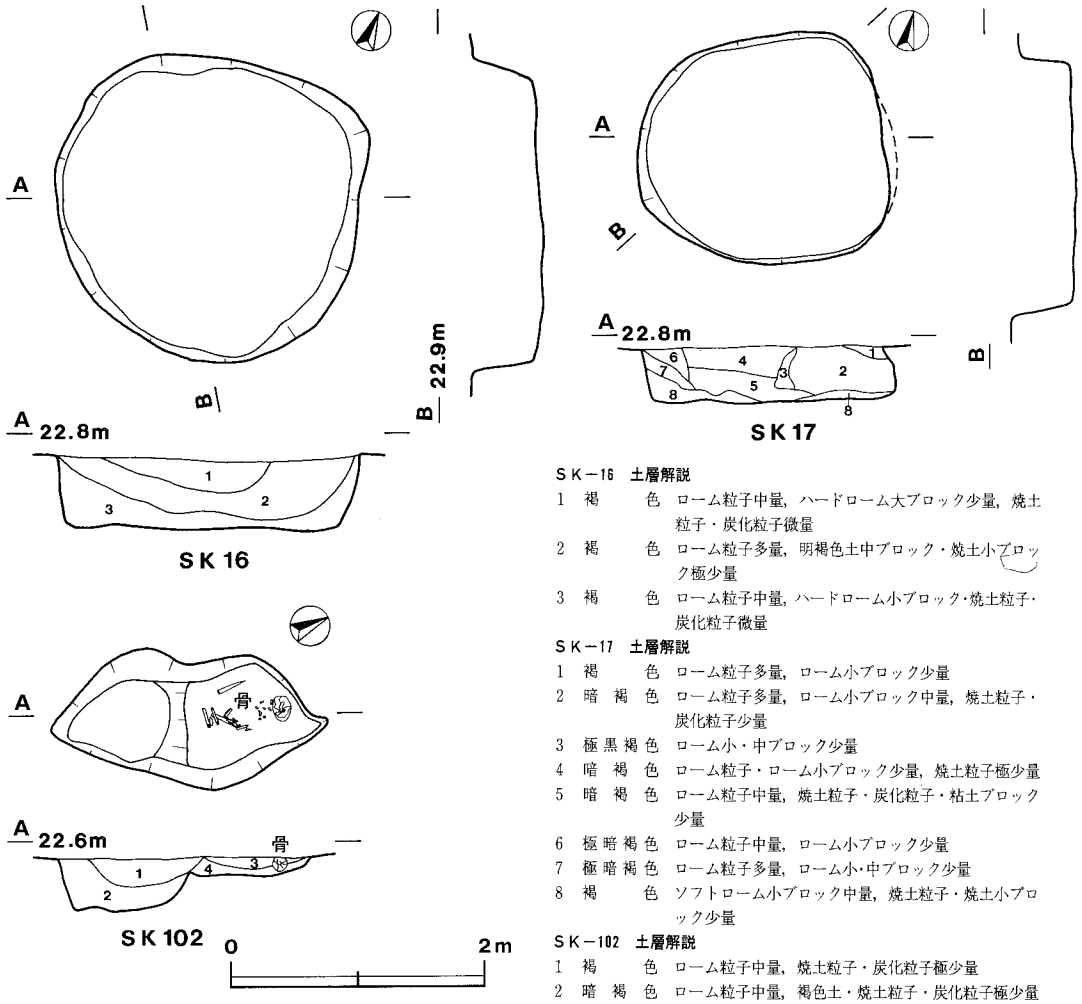
ＳＫ－92　土層解説

1　明　褐　色　ハードローム中ブロック多量，暗褐色土微量
2　灰　褐　色　灰白色粘土ブロック・暗褐色土少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム小ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
5　明　褐　色　ローム中ブロック多量，粘土ブロック少量
6　にぶい褐色　ローム小ブロック少量

ＳＫ－112　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
2　明　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム中ブロック少量
4　暗　褐　色　黒褐色土・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ローム大ブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量

第36図　その他の土抗実測図 (1)



SK－16　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ハードローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

2　褐　　色　ローム粒子多量，明褐色土中ブロック・焼土小ブロック極少量

3　褐　　色　ローム粒子中量，ハードローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

SK－17　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

2　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

3　極黒褐色　ローム小・中ブロック少量

4　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量

5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量

6　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

7　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量

8　褐　　色　ソフトローム小ブロック中量，焼土粒子・焼土小ブロック少量

SK－102　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

2　暗　褐　色　ローム粒子中量，褐色土・焼土粒子・炭化粒子極少量

3　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量

4　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子少量

第37図　その他の土抗実測図（2）

底面　平坦。

覆土　いずれの層も，自然的な堆積をしている。1・3層から，土器片が出土している。

遺物　覆土下層から第38図2・3の土師器(坏)，4の高坏の脚部，5の甕の胴部から口縁部，土師器片が出土している。覆土上層から混入と思われる縄文式土器片が数点出土している。

所見　出土遺物から古墳時代後期のものと思われる。

第17号土坑（第37図）

位置　C4j_5区。

規模と平面形　長軸9.7m，短軸9.2mの円形で，深さは0.45mである。

長軸方向　N－30°－W。

壁　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　平坦。

覆土　8層からなり，複雑な堆積をしている。極暗褐色土でロームブロックを含む人為堆積である。8層は自然堆積と思われる。

遺物　覆土下層から第38図6の埦，7の高坏の破片が出土している。覆土から土師器片が出土している。

所見　出土遺物から古墳時代後期のものと思われる。

第102号土坑（第37図）

位置　A3j_7区。

規模と平面形　長軸2.17m，短軸0.95mの不定形で，深さは0.41mである。

長軸方向　N－24°－E。

壁　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　皿状。

覆土　3・4層は，ローム粒子，ロームブロックを含んでおり，人骨が出土している。1・2層は堆積状況から後世に堆積したものと思われる。

遺物　人骨と第38図8・9の古銭（2枚）が出土している。覆土から混入と思われる縄文式土器片が出土している。

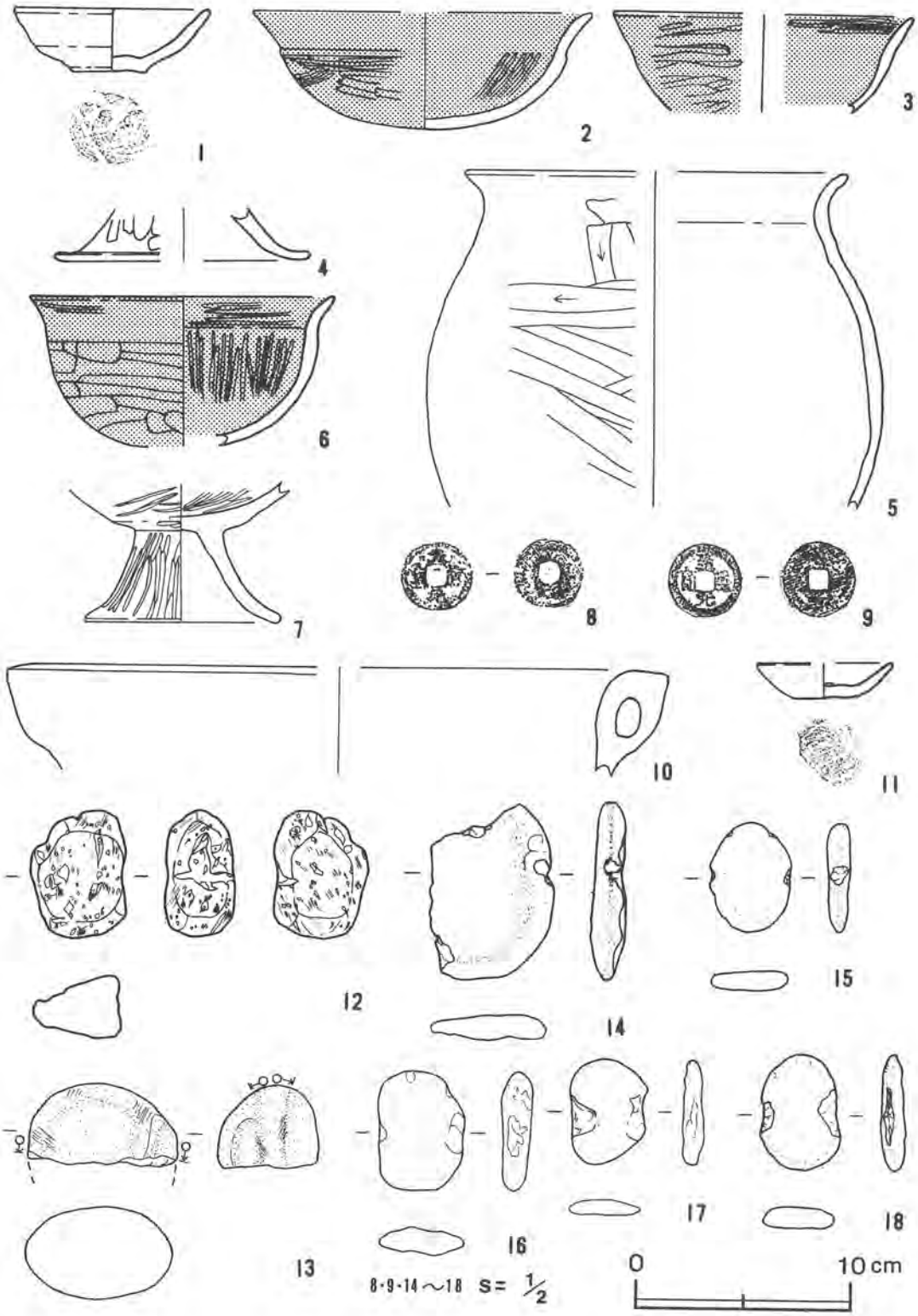
所見　古銭の銭名が判読不能のため，時期不明の墓壙である。

第43号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第38図 1	皿 土師質土器	A 9.1 B 2.9 C 3.5	わずかに突出した平底。体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	P92 60%

第16号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第38図 2	坏 土師器	A [15.8] B 5.4	丸底。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。口縁部は外傾する。	体部外面ヘラナデ後ヘラミガキ，内面縦位の丁寧なヘラミガキ。口縁部内外面横ナデ。内外面赤彩。	砂粒・長石・パミス 赤褐色 良好	P79 70%
3	坏 土師器	A [13.9] B (4.6)	体部から口縁部片。体部から口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部は外傾する。	体部外面縦位のヘラミガキ，内面剥離。口縁部内外面ヘラミガキ。内外面赤彩。	砂粒・石英・パミス 赤色 良好	P80 10%
4	高坏 土師器	B (2.5) C [11.9]	脚部片。脚部は，ラッパ状に開く。	裾部の内外面横ナデ。脚部外面ヘラナデ，内面剥離。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P82 5%



第38図　その他の土抗出土遺物実測・拓影図

5	甕 土師器	A [17.8] B (15.7)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	体部外面ヘラケズリ，内面剝離。口縁部内外面横ナデ。	長石・スコリア 浅黄橙色 普通	P83 10% 外面にススつ付着

第17号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 6	埦 土師器	A 14.2 B (7.0)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部との境に不明瞭な稜を有する。口縁部は外反する。	体部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。内面縦位の丁寧なヘラミガキ。口縁部内外面横位のヘラミガキ。内外面赤彩。	砂粒・長石 赤褐色 良好	P85 95%
7	高坏 土師器	A (6.6) B 9.2	坏部・脚部片。脚部は，ラッパ状に開く。坏部は内彎しながら外傾する。	裾部・脚部外面縦位のヘラミガキ，内面ヘラナデ。坏部内外面丁寧なヘラミガキ。	石英・長石 赤色 良好	P86 60%

第102号土坑出土古銭一覧表

図版番号	鋳名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	備考
第38図 8	不明			六道銭か　M1
9	不明			六道銭か　M2

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 10	内耳鍋 土師質土器	A [3.0] B (5.0)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・スコリア 明赤褐色 普通	P97 5% SK-57覆土 外面にススつ付着
11	皿 土師質土器	A 4.4 B 1.7 C 3.1	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・パミス にぶい黄橙色 普通	P107 50% SK-107覆土

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	軽石	6.0	4.4	3.2	20.9	流紋岩	SK-58 覆土	Q13
13	磨石	(3.9)	6.9	4.6	(160.4)	安山岩	SK-68 覆土	半欠 Q16
14	石錘	(4.0)	(5.5)	1.1	(25.5)	砂岩	SK-63 覆土	一部欠損 Q14
15	石錘	3.4	2.6	0.7	9.0	砂岩	SK-63 覆土	Q17
16	石錘	3.7	2.7	0.9	10.8	砂岩	SK-72 覆土	Q18
17	石錘	2.5	3.3	0.7	5.9	砂岩	SK-85 覆土	Q25
18	石錘	3.7	2.5	0.8	9.1	安山岩	SK-113 覆土	Q32

表3　西ノ脇遺跡土坑一覧表（付図1）

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
5	D5a3	N−62°−W	不定形	1.60 × 1.06	30	垂直	平坦	自然	土師器，縄文式土器	SI−1と重複
26	C4g3	N−6°−W	楕円形	2.24 × 1.68	46	緩斜	平坦	自然	土師器，瓦質土器，縄文式土器	

34	C3i_4	N－38°－W	楕円形	1.33 × 1.09	24	外傾	凹凸	人為	縄文式土器	
51	B3f_0	N－79°－E	不定形	2.35 × 0.80	40	外傾	凹凸			
53	B3b_9	N－47°－E	隅丸長方形	1.76 × 1.36	50	外傾	平坦			
54	B3f_1	N－20°－W	楕円形	1.60 × 0.99	9	外傾	平坦	自然		
55	B2e_7	N－55°－E	楕円形	2.18 × 1.41	31	外傾	平坦	自然	瓦質土器，縄文式土器，石製品	
56	B2b_7	N－46°－E	不定形	1.85 × 1.25	26	外傾	平坦	自然	土師質土器，縄文式土器，石製品	
57	B2d_6	N－75°－E	不定形	1.48 × 1.15	20	外傾	平坦	人為	石製品	
58	B2d_5	N－28°－E	楕円形	1.35 × 0.80	20	外傾	平坦	自然	軽石	
59	B2d_6	N－8°－E	不定形	1.45 × 1.28	19	垂直	平坦	人為	縄文式土器	
60	B2d_5	N－75°－E	楕円形	0.73 × 0.56	46	外傾	凹凸	人為		
61	B2c_6	N－1°－W	円形	1.20 × 1.18	65	外傾	平坦	自然		
62	B2c_5	N－20°－W	隅丸長方形	2.12 × 1.11	28	外傾	平坦	人為		
63	B2d_4	N－19°－E	隅丸長方形	3.60 × 2.22	40	緩斜	平坦	自然	土師器，縄文式土器，石製品	
64	B2d_5	N－89°－E	不明	1.79 ×(0.97)	42	垂直	平坦	人為	石製品	
65	B2d_4	N－12°－W	不明	2.65 ×(1.75)	131	垂直	皿状	自然	土師器，縄文式土器，石製品	
66	B2b_9	N－62°－E	隅丸長方形	2.21 × 1.32	47	外傾	平坦	自然	瓦質土器，縄文式土器，石器	
67	B2d_2	N－4°－W	不定形	2.66 × 1.02	102	外傾	凹凸	自然	土師器，縄文式土器，石器	
68	B2b_9	N－56°－E	不整長方形	1.88 × 0.89	88	垂直	皿状	自然	土師器，縄文式土器，石器，石製品	
69	B2b_0	N－67°－E	隅丸長方形	1.86 × 1.16	42	垂直	平坦	自然	土師器，縄文式土器，石製品	
71	B3a_1	N－85°－E	楕円形	1.33 × 1.07	26	緩斜	皿状	自然	土師器，縄文式土器，石製品	
72	A3a_3	N－37°－W	楕円形	1.35 × 1.00	88	外傾	平坦	自然	土師器，石製品	
73	A3i_1	N－80°－W	楕円形	1.80 × 1.35	31	外傾	凹凸	自然		
74	A3h_1	N－58°－W	楕円形	1.75 × 1.40	68	外傾	皿状	自然	土師器	
75	A2g_0	N－23°－W	不整円形	1.52 × 1.50	65	外傾	皿状	自然	石製品	
77	A2j_8	N－58°－W	円形	1.20 × 1.13	10	緩斜	平坦	自然		
79	A2g_7	N－51°－E	楕円形	1.60 × 1.80	14	外傾	平坦	自然		
80	A2i_7	N－4°－E	楕円形	1.25 × 1.03	45	外傾	皿状	自然		
82	B2b_8	N－17°－W	楕円形	2.88 × 1.22	16	垂直	平坦	自然		
83	A2j_6	N－70°－E	楕円形	3.11 × 1.33	65	緩斜	皿状	自然	縄文式土器	
84	A2j_4	N－31°－W	円形	2.33 × 2.28	67	外傾	凹凸	自然	縄文式土器	
85	A2h_5	N－34°－E	隅丸長方形	2.40 × 1.45	40	外傾	平坦	人為	石製品	
86	B2c_1	N－31°－W	楕円形	2.62 × 1.95	27	外傾	平坦	自然		
87	A2h_7	N－70°－E	楕円形	1.60 × 1.04	107	垂直	平坦	人為		
92	A3f_7	N－3°－W	不定形	2.67 × 1.92	34	外傾	平坦	人為		
93	B3j_5	N－15°－E	不定形	1.48 × 0.70	71	外傾	凹凸	人為	縄文式土器，石製品	
95	B3j_5	N－70°－E	隅丸長方形	1.08 × 0.81	35	外傾	皿状	人為		
97	A3j_6	N－48°－W	楕円形	1.16 × 1.05	46	緩斜	皿状	人為	土師器，縄文式土器	
103	A3j_8	N－40°－W	楕円形	1.27 × 0.87	46	外傾	皿状	人為	土師器，縄文式土器	

107	B3a7	N－11°－E	円　　形	1.00 × 0.93	52	外傾	平坦	自然	縄文式土器，石製品	
108	B3a6	N－75°－E	楕 円 形	2.15 × 1.00	14	緩斜	平坦	人為	縄文式土器	
109	B3c6	N－43°－W	楕 円 形	1.43 × 1.27	40	外傾	凹凸	人為	土師器	
113	B3d6	N－19°－W	不整長方形	3.41 × 1.13	52	緩斜	凹凸	人為	縄文式土器，石製品	
118	C4h8	N－33°－W	楕 円 形	1.48 × 1.32	85	外傾	平坦	自然		
121	B3a8	N－0°	円　　形	1.13 × 1.05	54	外傾	平坦	人為		
123	D3c6	N－20°－E	楕 円 形	1.13 × 0.98	9.5	緩斜	凹凸	自然		

4　溝

ここでは，主な溝２条についてのみ記述し，その他は一覧表に記載する。

第６号溝（第39図）

位置　Ｂ３区。

重複関係　第４号溝と重複するが，新旧関係は不明である。

規模と形状　上幅1.36～2.53m，下幅0.16～0.85m，深さ0.54m，全長［39.6］ｍで，二段掘り込みである。断面形は，「⌣」状をしている。

方向　Ｎ－77°－Ｅ。

覆土　５層からなり，自然的な堆積をしているが，１層は，後世に人為的に埋め戻したものと思われる。３層は，流れ込んだものと思われる。特に，１・４層から土器片や石器片が多量に出土している。

遺物　覆土から第41～46図1～24の土師質土器(皿)，27～33の内耳鍋，26の土師器(甕)，25の香炉，36の青磁片の底部，35の灰釉陶器（高台付皿），37の瀬戸・美濃系の灰釉瓶子，34の瀬戸・美濃系の皿，41の磨石，42～44の砥石，45の石錘，46～48の石臼，アカニシなどが出土している。38～40は，擂鉢の破片である。

所見　出土遺物から13～14世紀のものと考えられる。

第13号溝（第40図）

位置　Ａ３区～Ｂ３区。

重複関係　第51・53号土坑が重複するが，新旧関係は不明である。

規模と形状　上幅2.22～0.40m，下幅2.02～0.30m，深さ0.26m，全長50.40mである。断面形は，「⌣」状をしている。

方向　Ｎ－14°－Ｗ。

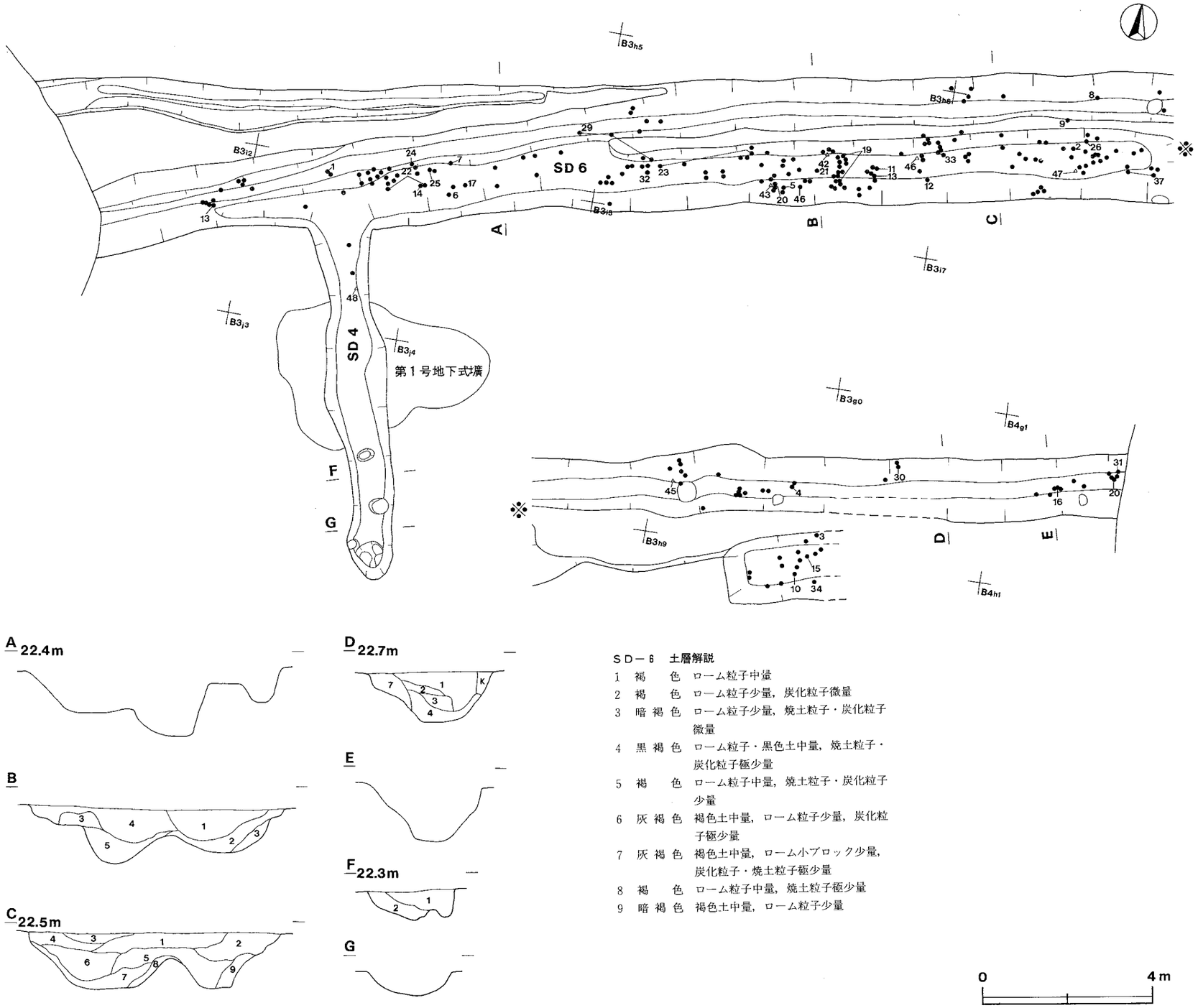
覆土　２層からなり，１層の占める割合が大部分である。堆積状況からみて，自然堆積である。

遺物　覆土から第47図1の土師質土器（Ⅲ），2の砥石が出土している。

所見　掘立柱建物跡を避けるように，その東側を鉤の手に通じているので，掘立柱建物の後に作られた可能性があるが，時期不明である。

第6号溝出土遺物観察表

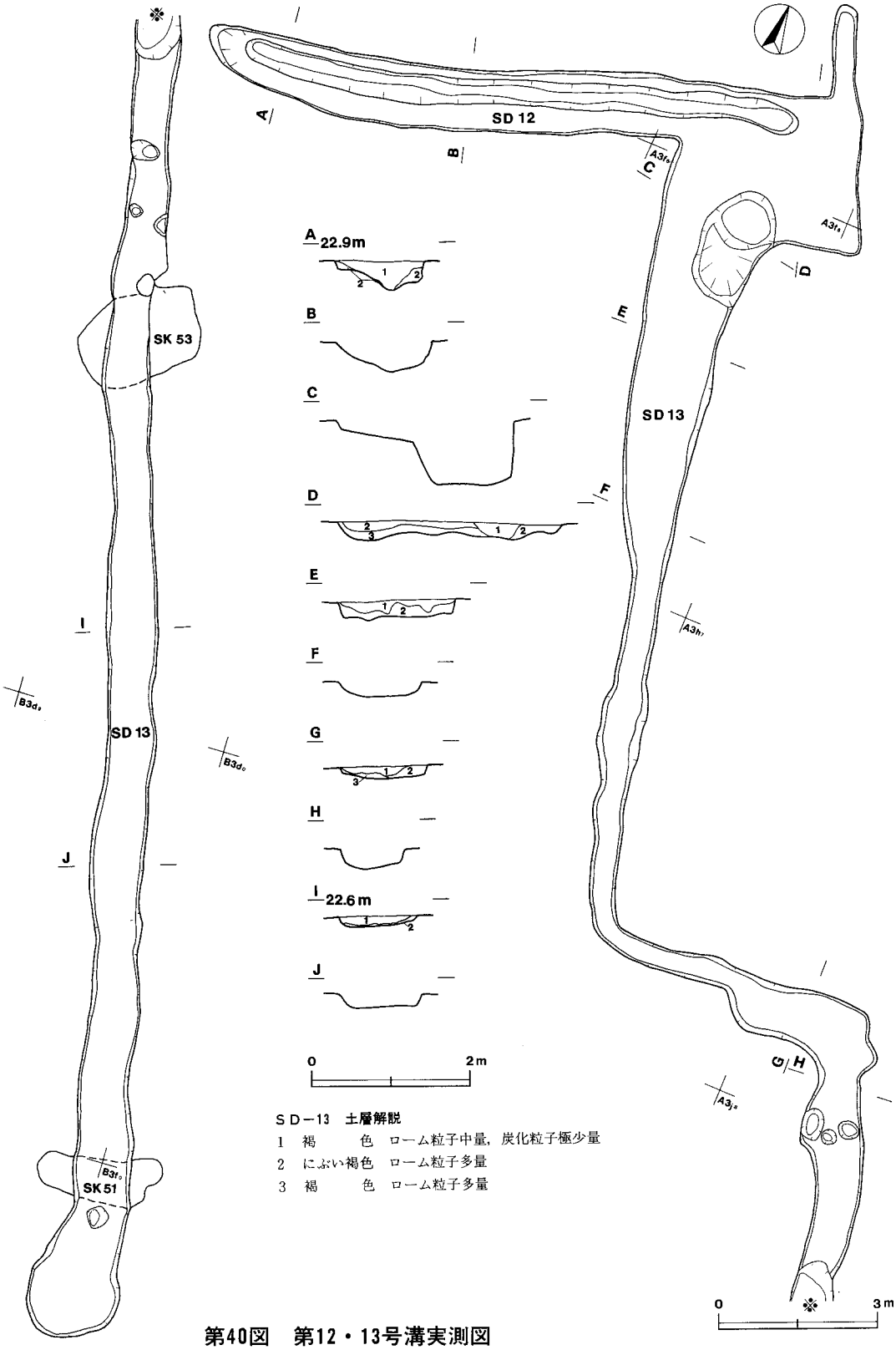
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第41～46図 1	Ⅲ 土師質土器	A 7.8 B 2.2 C 4.3	平底。底部内面円盤状に盛り上がる。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。内外面ナデ。	雲母 橙色 普通	P106 95% 口唇部油煙付着
2	Ⅲ 土師質土器	A 9.8 B 3.0 C 3.8	平底。底部内面円盤状に盛り上がる。体部は内彎気味に外傾する。口縁部は外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。内外面ナデ。	砂粒・スコリア 橙色 良好	P109 95% 内外面スス付着
3	Ⅲ 土師質土器	A 9.6 B 3.2 C 4.8	平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 良好	P116 75% 口唇部油煙付着
4	Ⅲ 土師質土器	A 7.5 B 2.3 C 3.1	平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 橙色 良好	P107 100%
5	Ⅲ 土師質土器	A 6.6 B 2.1 C 3.3	わずかに突出した平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。内面底部ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 良好	P108 100% 口唇部油煙付着
6	Ⅲ 土師質土器	A 7.6 B 2.2 C 3.8	口縁部一部欠損。平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P110 95%
7	Ⅲ 土師質土器	A 7.4 B 2.2 C 4.0	わずかに突出した平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P111 95% 口唇部油煙付着
8	Ⅲ 土師質土器	A 6.7 B 2.3 C 2.6	平底。体部は内彎気味に外傾する。口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。底部内面に指頭痕。	砂粒・雲母 黒色 普通	P112 95% 内外面スス付着
9	Ⅲ 土師質土器	A 6.6 B 2.0 C 3.3	底部欠損。体部・口縁部は外傾する。	水挽き成形。	砂粒・雲母 橙色 普通	P113 80% 口唇部油煙付着
10	Ⅲ 土師質土器	A 8.8 B 2.8 C 4.0	わずかに突出した平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P114 90%
11	Ⅲ 土師質土器	A 7.5 B 2.1 C 3.8	平底。体部・口縁部は外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P115 80%
12	Ⅲ 土師質土器	A 9.2 B 2.6 C 3.6	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石 明褐色 普通	P117 70%



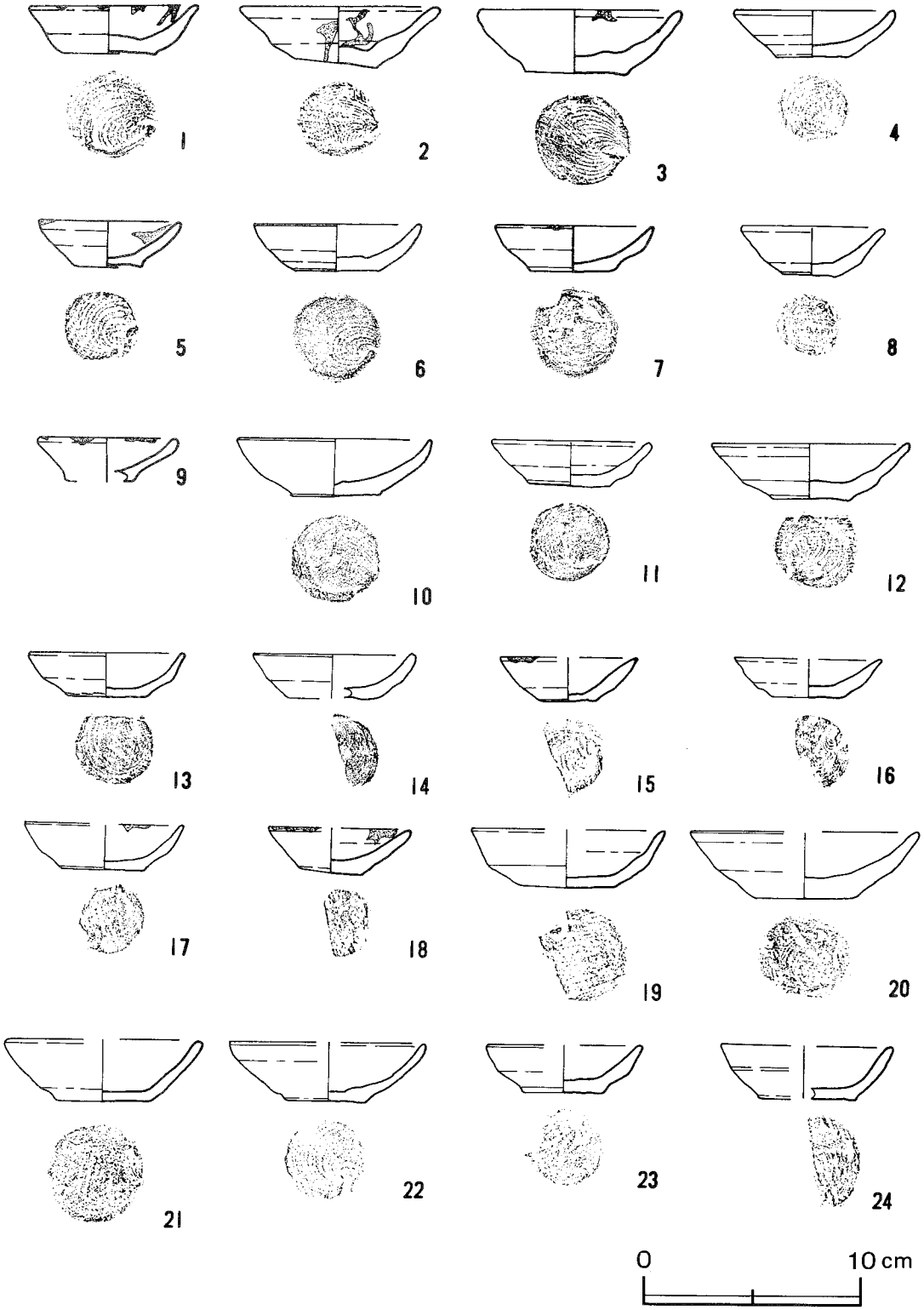
SD－6　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子・黒色土中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　灰 褐 色　褐色土中量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量
7　灰 褐 色　褐色土中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
8　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
9　暗 褐 色　褐色土中量，ローム粒子少量

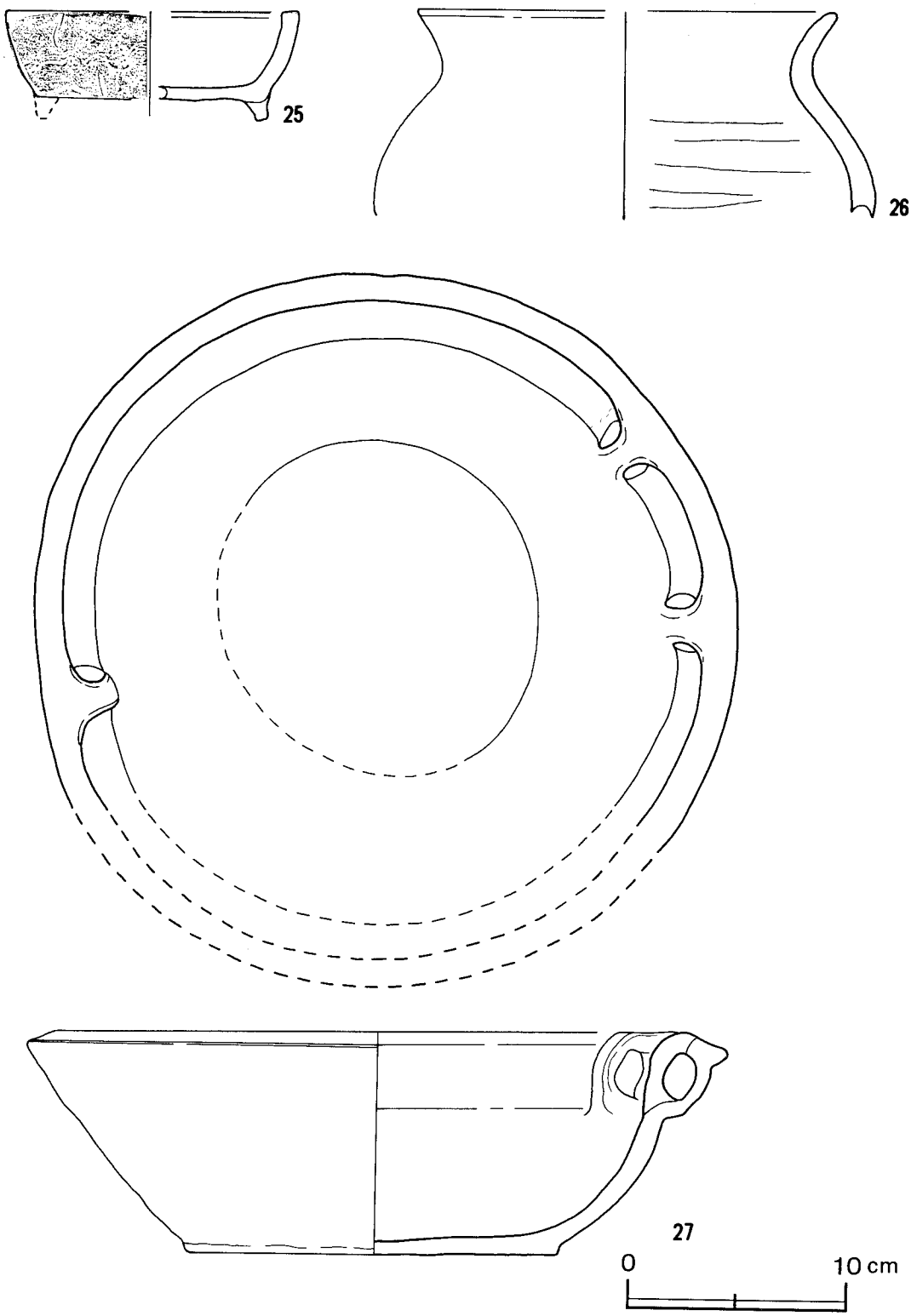
第39図　第４・６号溝実測図



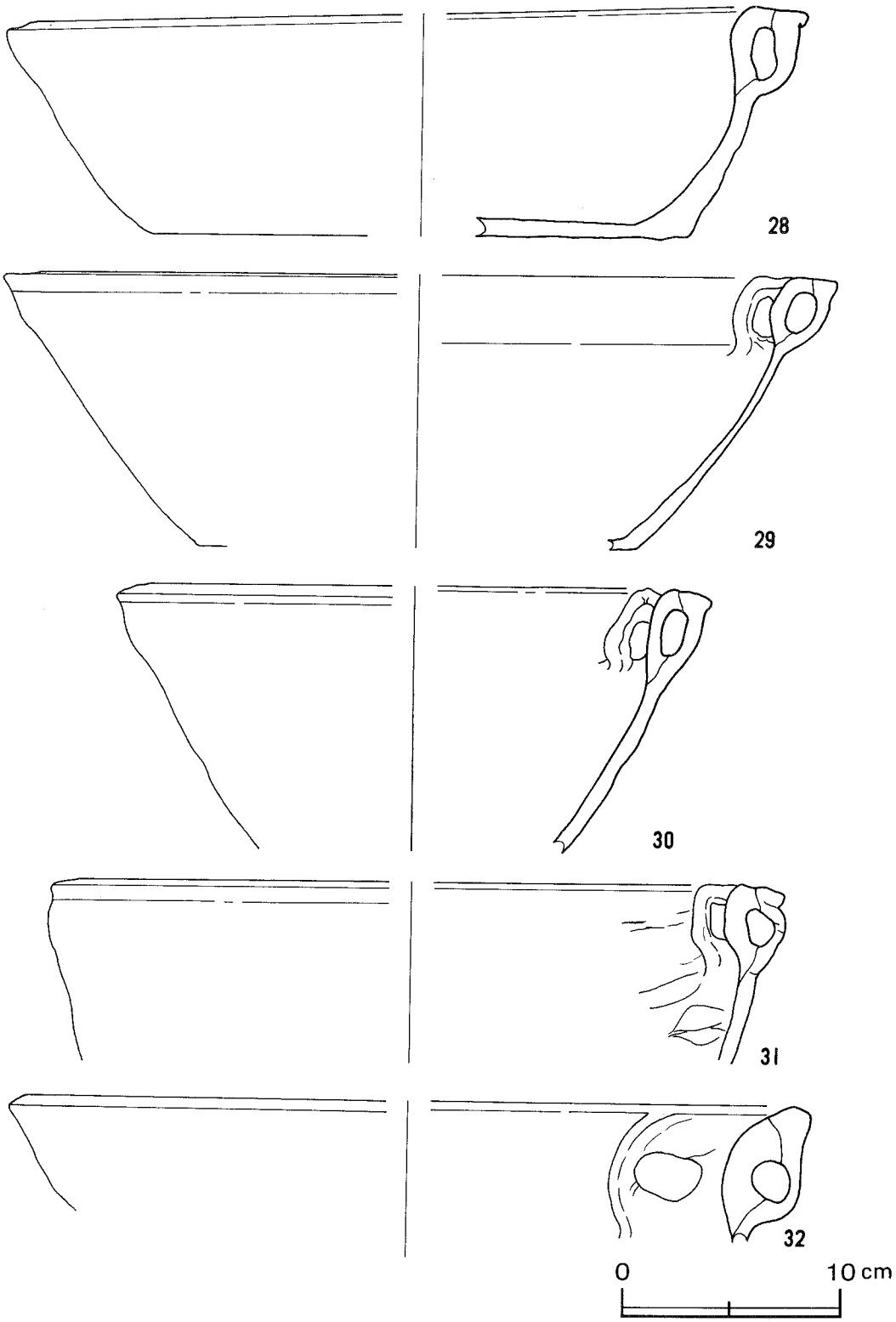
第40図 第12・13号溝実測図



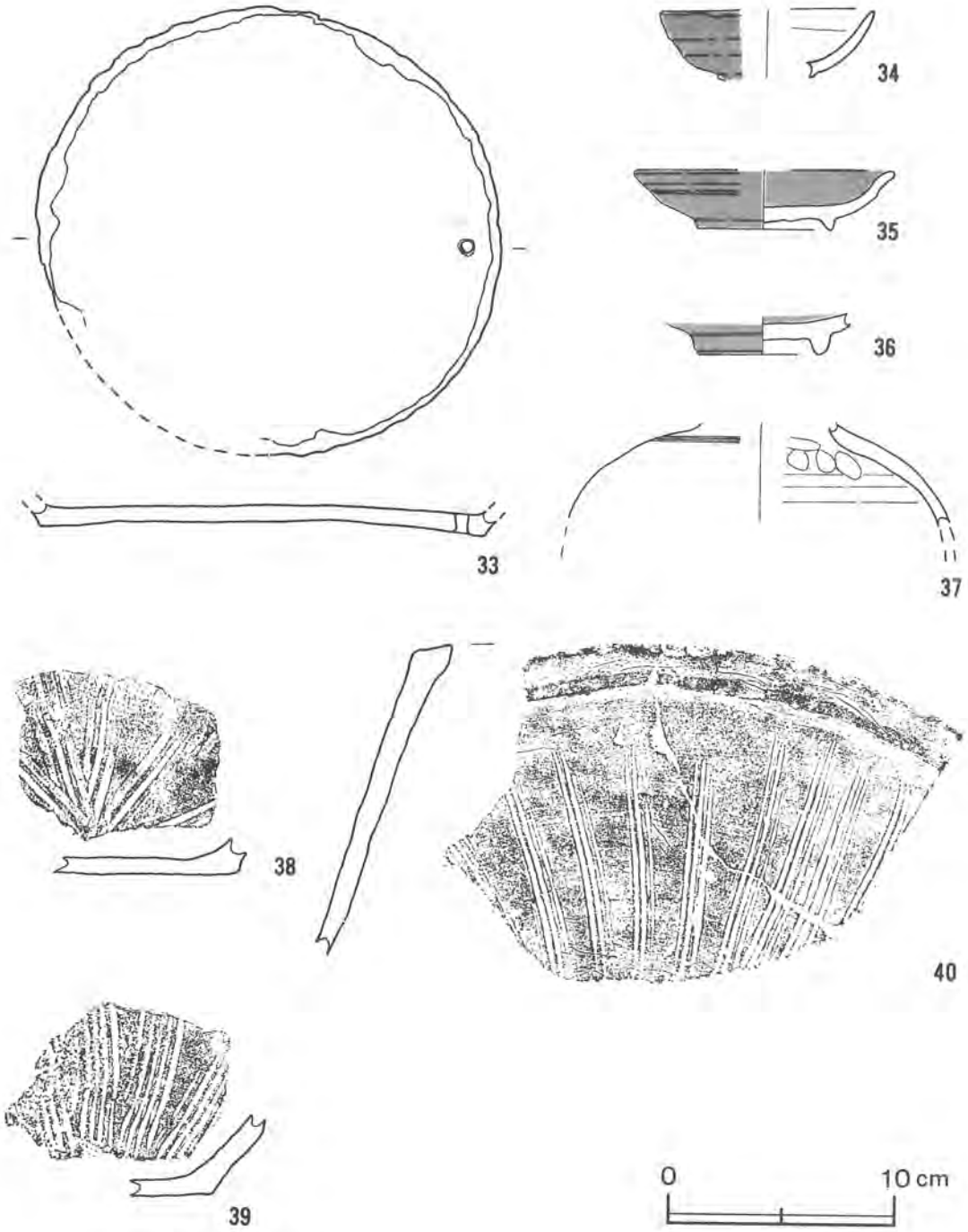
第41図　第６号溝出土遺物実測図（1）



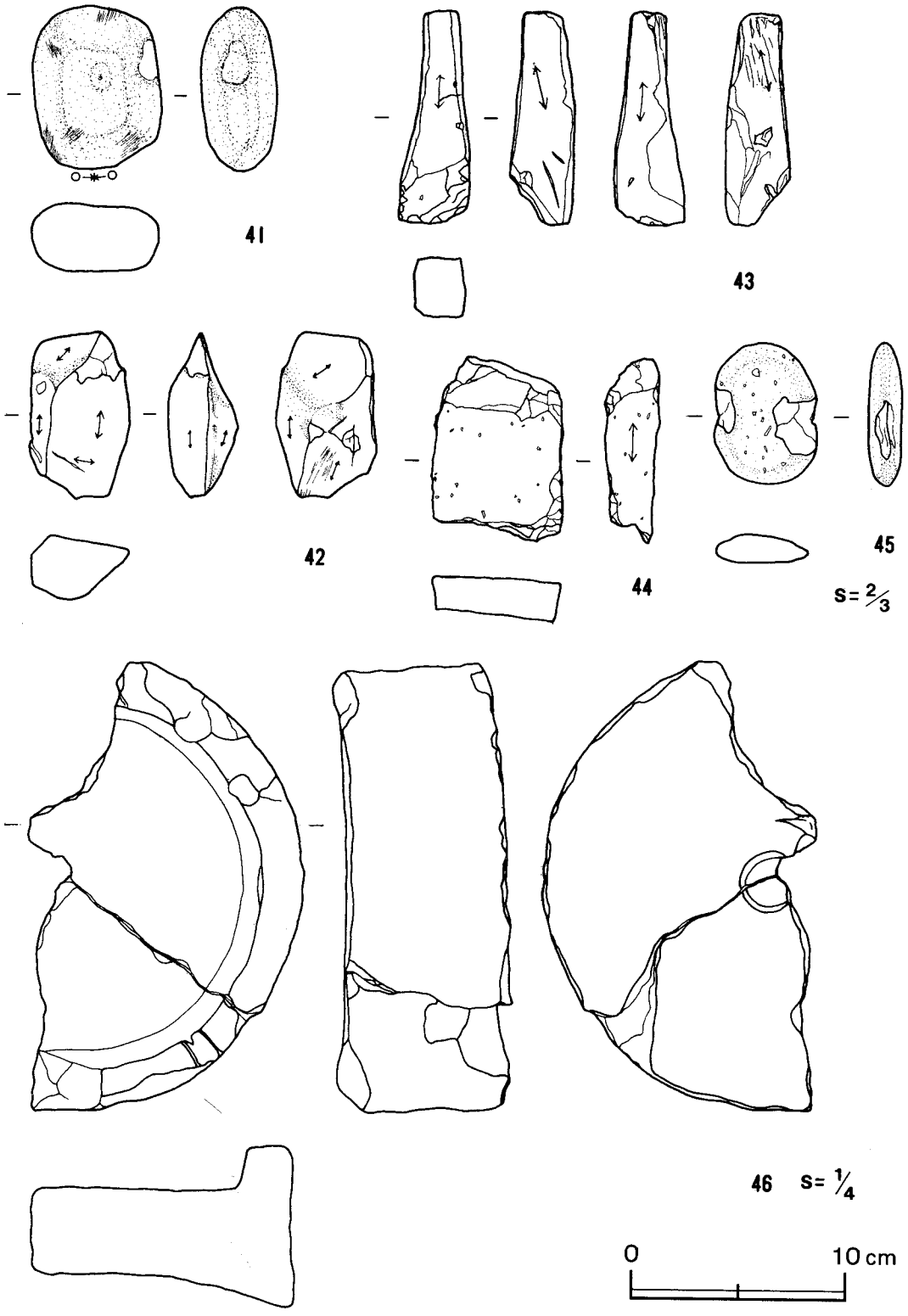
第42図　第６号溝出土遺物実測図（2）



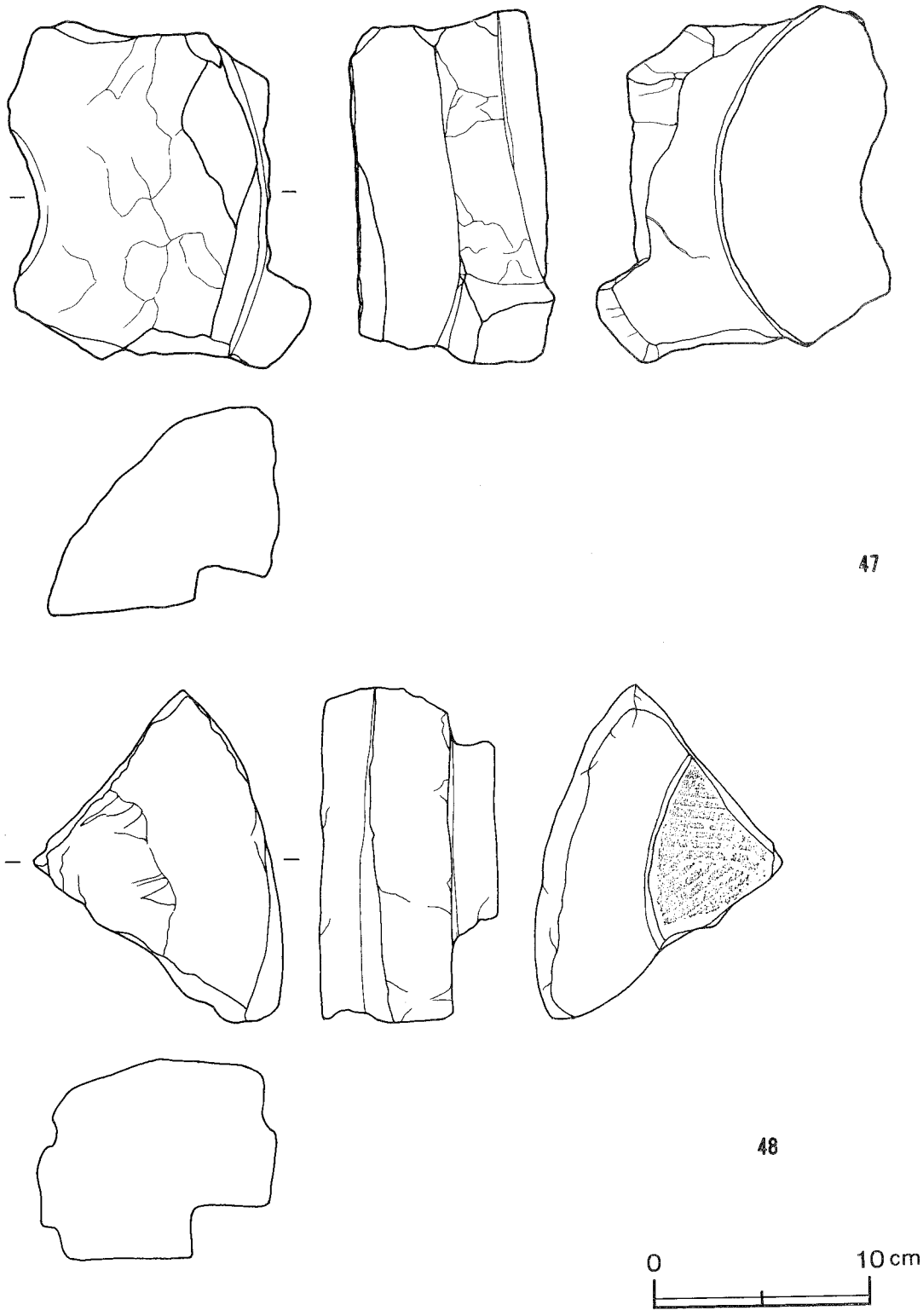
第43図　第 6 号溝出土遺物実測図 (3)



第44図　第 6 号溝出土遺物実測・拓影図 (4)



第45図　第6号溝出土遺物実測図（5）



第46図　第6号溝出土遺物実測図（6）

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
13	皿 土師質土器	A　7.2 B　2.1 C　3.7	突出気味の平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・礫・スコリア 橙色 良好	P118 70%
14	皿 土師質土器	A　7.3 B　2.1 C　3.8	平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・礫・スコリア 橙色 普通	P119 60%
15	皿 土師質土器	A　[6.4] B　2.1 C　[2.1]	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P120 55% 口唇部油煙付着
16	皿 土師質土器	A　[6.8] B　1.8 C　[3.4]	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P121 50% 外面にススつ付着
17	皿 土師質土器	A　[7.5] B　2.2 C　3.3	平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・パミス 橙色 普通	P122 40% 口唇部油煙付着
18	皿 土師質土器	A　[6.6] B　2.2 C　2.9	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P123 40% 口唇部油煙付着
19	皿 土師質土器	A　[9.0] B　2.8 C　4.4	平底。体部は内彎気味に外傾する。口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア・パミス 橙色 普通	P124 50%
20	皿 土師質土器	A　10.4 B　3.1 C　4.4	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り後ヘラナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P125 40%
21	皿 土師質土器	A　[9.4] B　2.9 C　4.5	平底。体部・口縁部は外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 橙色 良好	P126 40%
22	皿 土師質土器	A　[9.1] B　2.8 C　3.6	わずかに突出した平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P127 40%
23	皿 土師質土器	A　7.0 B　2.3 C　3.6	わずかに突出した平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P128 40%
24	皿 土師質土器	A　[8.0] B　2.6 C　[4.4]	突出気味の平底。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア にぶい黄褐色 普通	P129 30%
25	香　炉 土　師　器	A　[13.4] B　5.1	三足を付す。平底。体部・口縁部は内彎しながら立ち上がる。	足は粘土をつまんで貼り付けている。底部ナデ。体部外面に3本1単位の櫛目が波状に施されている。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	P138 40%
26	甕 土　師　器	A　[19.2] B　(9.8)	体部から口縁部片。体部上位は内彎しながら立ち上がる。頸部から口縁部にかけて丸みをもって外反する。	体部外面剥離，内面ヘラナデ。口縁部内外面剥離。	砂粒・雲母・石英・長石 黒褐色 普通	P137 10%
27	内　耳　鍋 土師質土器	A　32.8 B　10.7 C　17.2	平底。体部・口縁部は内彎しながら立ち上がる。	底部ヘラナデ。体部内外面横ナデ。内耳部分外側にふくれる。口唇部に凹みがある。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P130 75% 外面にススつ付着

28	内耳鍋 土師質土器	A [37.0] B 11.0 C [24.9]	平底。体部・口縁部は内彎しながら立ち上がる。	底部ヘラナデ。体部内外面横ナデ。内耳部分外側にふくれる。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P131 50% 外面にスス付着
29	内耳鍋 土師質土器	A [38.6] B 12.8 C [20.2]	平底。体部・口縁部は内彎しながら立ち上がる。	底部ヘラナデ。体部・口縁部内外面横ナデ。内耳部分外側にふくれる。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P132 25% 外面にスス付着
30	内耳鍋 土師質土器	A [27.6] B (12.5)	底部欠損。体部・口縁部は外傾する。	体部・口縁部横ナデ。	砂粒・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P133 10% 外面にスス付着
31	内耳鍋 土師質土器	A 30.8 B 8.4	口縁部片。口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内外面横ナデ。内耳部分外側にふくれる。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P134 10%
32	内耳鍋 土師質土器	A [23.6] B (6.4)	口縁部片。口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内外面横ナデ。内耳部分外側にふくれる。	砂粒・雲母・石英 にぶい赤褐色 普通	P135 5%
33	内耳鍋 土師質土器		底部片。平底。有孔をもつ。	底部ヘラナデ。	長石 褐色 普通	P136 外面にスス付着
34	皿 陶器	A [9.7] B 3.1 C [4.2]	体部から口縁部片。体部・口縁部は内彎しながら外傾する。	水挽き成形。釉は外面に施されている。	灰白色 (釉)茶褐色 良好	P144 20% 瀬戸産
35	皿 陶器	A [11.6] B 2.6 C 5.8	体部から口縁部一部欠損。高台付。体部は内彎しながら外傾し，口縁部はやや外反する。	釉は全体に施されている。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	P142 70% 瀬戸大窯
36	碗 青磁	B (1.9) C [5.6]	底部片。高台部の断面は「U」字状である。	釉は均一に施されている。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	P141 20% 龍泉窯
37	瓶子 陶器	B (5.4)	肩部片。	肩部外面に櫛描きが施されている。内面にロクロ目，指頭痕を残す。	灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	P143 10% 瀬戸・美濃系

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
41	磨石	7.7	6.1	3.6	227.0	凝灰岩	Q35
42	砥石	7.8	4.8	3.4	97.2	凝灰岩	Q36
43	砥石	10.0	3.3	3.0	104.6	砂岩	Q37
44	砥石	8.7	6.1	2.6	194.1	凝灰岩	Q38
45	石錘	3.4	2.5	0.8	8.3	硬砂岩	Q39
46	石臼	(28.0)	(17.3)	11.3	(5023.4)	安山岩	一部欠損 上臼 Q40
47	石臼	(16.4)	(13.8)	10.7	(2065.5)	安山岩	一部欠損 下臼 Q41
48	石臼	(15.6)	(11.5)	8.3	(1352.9)	安山岩	一部欠損 下臼 Q42

第13号溝出土遺物観察表

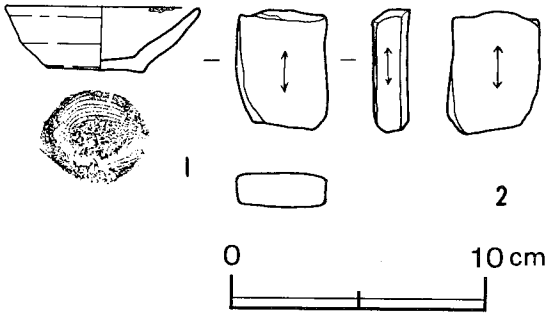
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第 47 図 1	皿 土師質土器	A 7.5 B 2.6 C 3.9	平底。体部・口縁部は外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P139 95% 口唇部油煙付着

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	砥　石	(4.9)	3.6	1.6	(40.4)	凝灰岩	一部欠損　Q45

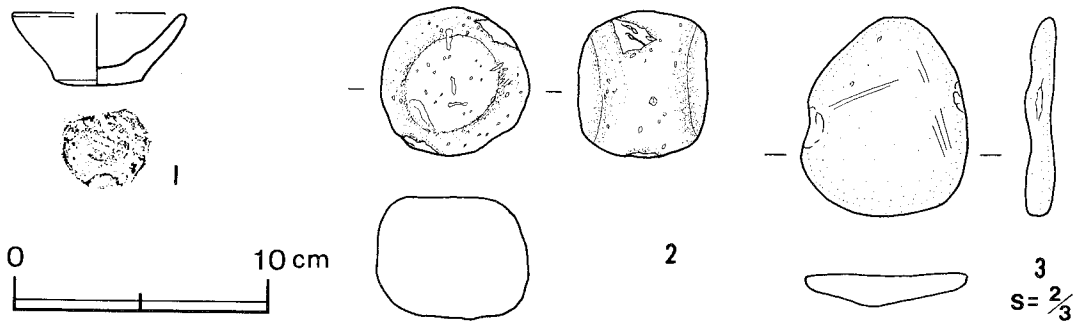
その他の溝出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第 48 図 1	皿 土師質土器	A [6.8] B 5.0 C 3.6	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。内外面ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P105 60% SD-5 覆土

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2	磨　石	5.8	5.8	6.1	188.1	安山岩	SD-4 覆土	Q34
3	石　錘	4.0	3.3	0.7	8.8	凝灰岩	SD-9 覆土	Q44



第47図　第13号溝出土遺物実測図



第48図　その他の溝出土遺物実測図

表4　西ノ脇遺跡溝一覧表（付図1）

溝番号	位置	主軸方向	規模（m）				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
			長さ	上幅	下幅	深さ					
1	D4	N−11°−W	35.54	0.7~0.3	0.6~0.3	0.27	外傾	平坦	自然	土師器，須恵器，縄文式土器	
2	C3h5	N−76°−E	[4.42]	0.7~0.4	0.7~0.2	0.18	外傾	皿状	自然	縄文式土器	
3	C3	N−3°−W	10.86	0.7~0.3	0.6~0.2	0.11	外傾	平坦	自然	土師質土器	
4	B3j3	N−16°−W	8.44	1.5~0.9	0.9~0.4	0.28	外傾	皿状	自然	土師質土器，縄文式土器，石製品	SD-6と重複
5	B3	N−77°−E	15.50	1.0~0.9	0.8~0.5	0.22	外傾	皿状	自然	土師質土器	
7	B3h9	N−77°−E	[2.26]	1.6~1.0	0.9~0.8		外傾		自然	土師質土器	
8	A2~B2	N−62°−E	31.49	1.0~0.9	0.2~0.1	0.72	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
9	B2	N−56°−E	23.45	1.0~0.3	0.9~0.2	0.16	外傾	平坦	自然	縄文式土器，石製品	
10	A2~A3	N−78°−E	9.02	1.1~0.8	1.0~0.8	0.11	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
11	A2~A3	N−77°−E	13.03	0.5~0.2	0.4~0.1	0.22	外傾	皿状	自然	縄文式土器	
12	A3	N−76°−E	11.09	1.3~1.0	0.4~0.2	0.39	外傾	皿状	自然	縄文式土器，古銭	
15	C4	N−4°−W	14.75	1.0~0.4	0.9~0.2	0.14	外傾	平坦	自然	土師器	

5　井戸

第2号井戸（第49図）

位置　C4g2区。

規模と形状　掘り方は，上面が長径3.32m，短径3.04mの楕円形で，確認面から1.6mの深さまで傾斜をもち，そこから下は深さ0.6mまで円筒形である。底面までは，掘っていない。

覆土　各層ともローム粒子，ロームブロックを含み，人為堆積である。また，土器片が出土している。

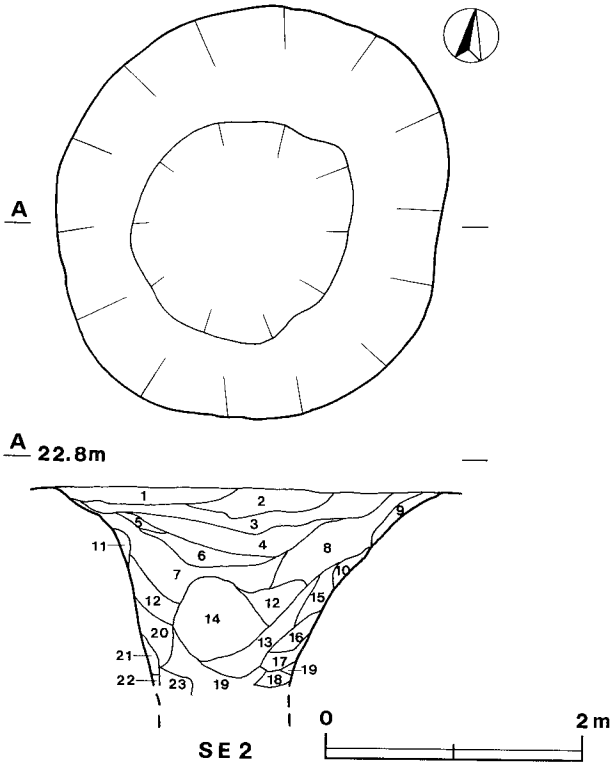
遺物　覆土から混入と思われる第50図1の有孔円板，2の古銭（永楽通寶），縄文式土器片，土師器片，土師質土器片などが出土している。

所見　出土遺物から中世のものと思われる。

第2号井戸出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）			孔径（cm）	重量（g）	現存率（%）	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第50図1	有孔円板		2.9	1.0	0.5	7.2	100	DP3

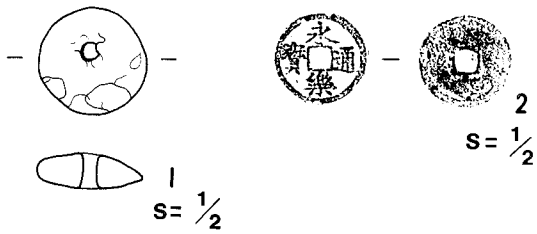
図版番号	銭名	初鋳年（西暦）	鋳造地名	備考
2	永楽通寶	1408	明	M4



SE－2　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，褐色土・炭化物極少量
3　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量，焼土粒子極少量
7　極暗褐色　黒色土中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
8　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，黒色土少量
9　にぶい褐色　ローム粒子多量
10　褐　　色　ローム粒子中量
11　褐　　色　ローム粒子中量
12　暗　褐　色　ローム小・中ブロック中量，褐色土少量，焼土粒子極少量
13　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子微量
14　暗　褐　色　暗褐色土多量
15　黒　褐　色　暗褐色土中量，ローム粒子少量
16　黒　褐　色　黒色土中量，ローム粒子極少量
17　暗　褐　色　黒色土中量，ローム大ブロック少量
18　暗　褐　色　黒色土中量，ローム大ブロック少量
19　黒　褐　色　黒色土多量，焼土粒子極少量
20　灰　褐　色　ローム粒子中量
21　黒　褐　色　黒褐色土・ローム粒子中量
22　にぶい褐色　ローム粒子中量
23　暗　褐　色　暗褐色土中量，ローム小ブロック少量

第49図　第2号井戸実測図



第50図　第2号井戸出土遺物実測・拓影図

第3号井戸（第51図）

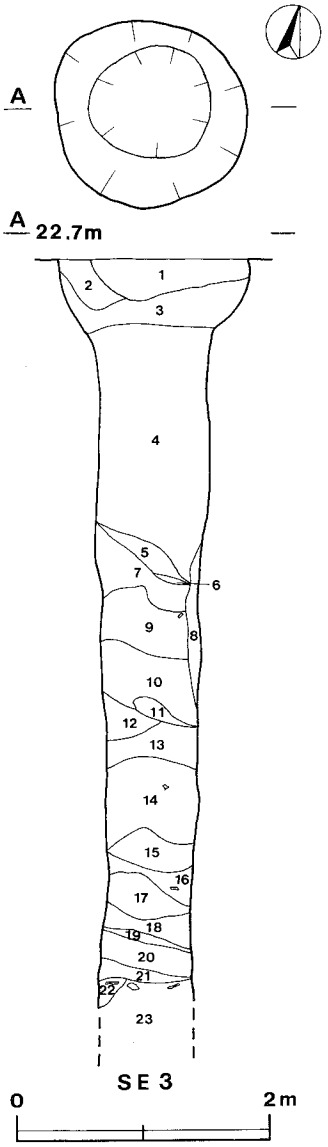
位置　D4d$_3$区。

規模と形状　掘り方は，上面が径1.5mの円形で，確認面から1.0mまで急傾斜をもち，そこから下は深さ5.0m程の円筒形である。底面までは，掘っていない。

覆土　各層とも，ロームブロックを含み，人為堆積である。また，土器片が出土している。

遺物　覆土下層から混入と思われる第52図1の内耳鍋，2の擂鉢が出土している。覆土上層から混入と思われる土師器片が出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土していないので，時期不明である。



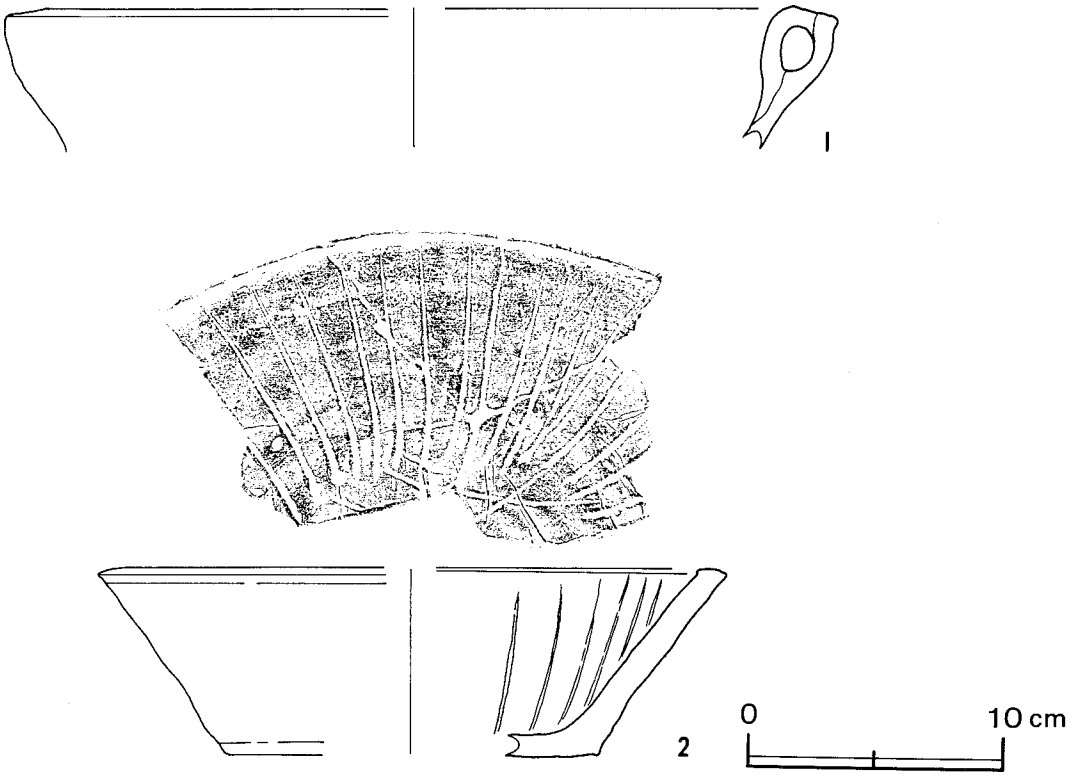
第51図　第3号井戸実測図

SE－3　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
4　極暗褐色　褐色土中ブロック中量，ローム小ブロック少量
5　にぶい褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
6　明　褐　色　ローム小ブロック多量
7　暗　褐　色　褐色土中量，炭化粒子少量
8　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量
9　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
10　暗　褐　色　ローム大ブロック多量
11　にぶい褐色　ローム小・中ブロック中量
12　暗　褐　色　ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
13　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
14　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
15　明　褐　色　暗褐色土中量，ローム小・中ブロック少量
16　暗　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子極少量
17　明　褐　色　15層と同じ
18　黒　褐　色　ローム小ブロック・粘土ブロック少量
19　にぶい褐色　ローム小・中ブロック中量
20　暗　褐　色　炭化粒子・粘土ブロック少量
21　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
22　明　褐　色　ローム小・中ブロック多量
23　黒　褐　色　ローム小・中ブロック・粘土ブロック中量

第3号井戸出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第52図 1	内耳鍋 土師質土器	A [29.2] B (5.6)	口縁部片。口縁部は内彎しながら立ち上がる。	口縁部内外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 褐色 普通	P89 5％ 外面にススつ着
2	擂　鉢 土師質土器	A [24.8] B 7.4 C [14.6]	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	底部ヘラナデ。体部・口縁部内外面ナデ。内面に規則正しい擂目が付けられている。	雲母・石英・スコリア 褐色 普通	P90 20％ 外面にススつ着



第52図　第3号井戸出土遺物実測図

6　遺構外出土遺物

当調査区内の遺構外から出土した遺物について，拓影図でその一部を掲載する。縄文式土器片の分類については次のとおりとした。

縄文式土器片拓影図（第53～55図）

第1群の土器(1～10)　縄文時代早期に比定される土器を本群とする。

a類

1は口縁部片，2～6は胴部片で内面は平滑に整形され，胎土に長石・石英を多く含み，外面に粒子の移動痕が顕著にみられる。花輪台II式（無文土器群）に比定される土器である。

b類

7は胴部片で，平行沈線文帯を施し，以下に斜格子目文帯を多段に繰り返す構成を採るものと推定される。三戸式に比定される土器である。

c類

8～10は胴部片で，条痕文が施されている。茅山上層式に比定される土器である。

第2群の土器(11・12)　縄文時代前期に比定される土器を本群とする。

a類

11・12は胴部片で，11は撚糸文と半截竹管文が施されている。12は撚糸文が施文されている。黒浜式に比定される土器である。

第3群の土器(13～15)　縄文時代中期に比定される土器

a類

13は口縁部片で，キャタピラ文が施されている。勝坂式に比定される土器である。

b類

14・15は口縁部である。14は楕円形の口縁部文様帯内に単節縄文RLを充塡し，以下に直線的な磨消帯を構成する。15は渦巻状の区画を描き，区画外に単節縄文RLを施文している。加曽利EIII式に比定される土器である。

第4群の土器(16～33)　縄文時代後期に比定される土器

a類

16～20は口縁部片で，21～30は胴部片である。16は口縁部直下に一条の沈線を描き，波頂部に1孔を有し，以下は縄文地文上に2条の沈線で「U」字状や蛇行沈線文が描かれている。17は口縁部直下に1条の沈線を巡らし，隆線上に刻み目が加えられている。18は口縁部直下に1条の沈線を巡らし，深い刺突が施され隆線上に刻み目が加えられている。以下は縄文地文上に沈線が蛇行している。19は断面三角形の微隆線で口縁部無文帯を区画する。以下は縄文地文上に沈線が口縁部から垂下する。21・23・24は条線文が施されている。22は縄文地文上に蛇行沈線文が描かれ，25は沈線文が描かれている。26は多截竹管状施文具による縦位の条線文が施されている。27は縄文地文上に半截竹管による曲線が描かれ，28は沈線が施されている。29・30は縄文が施文されている。堀之内I式に比定される土器である。

b類

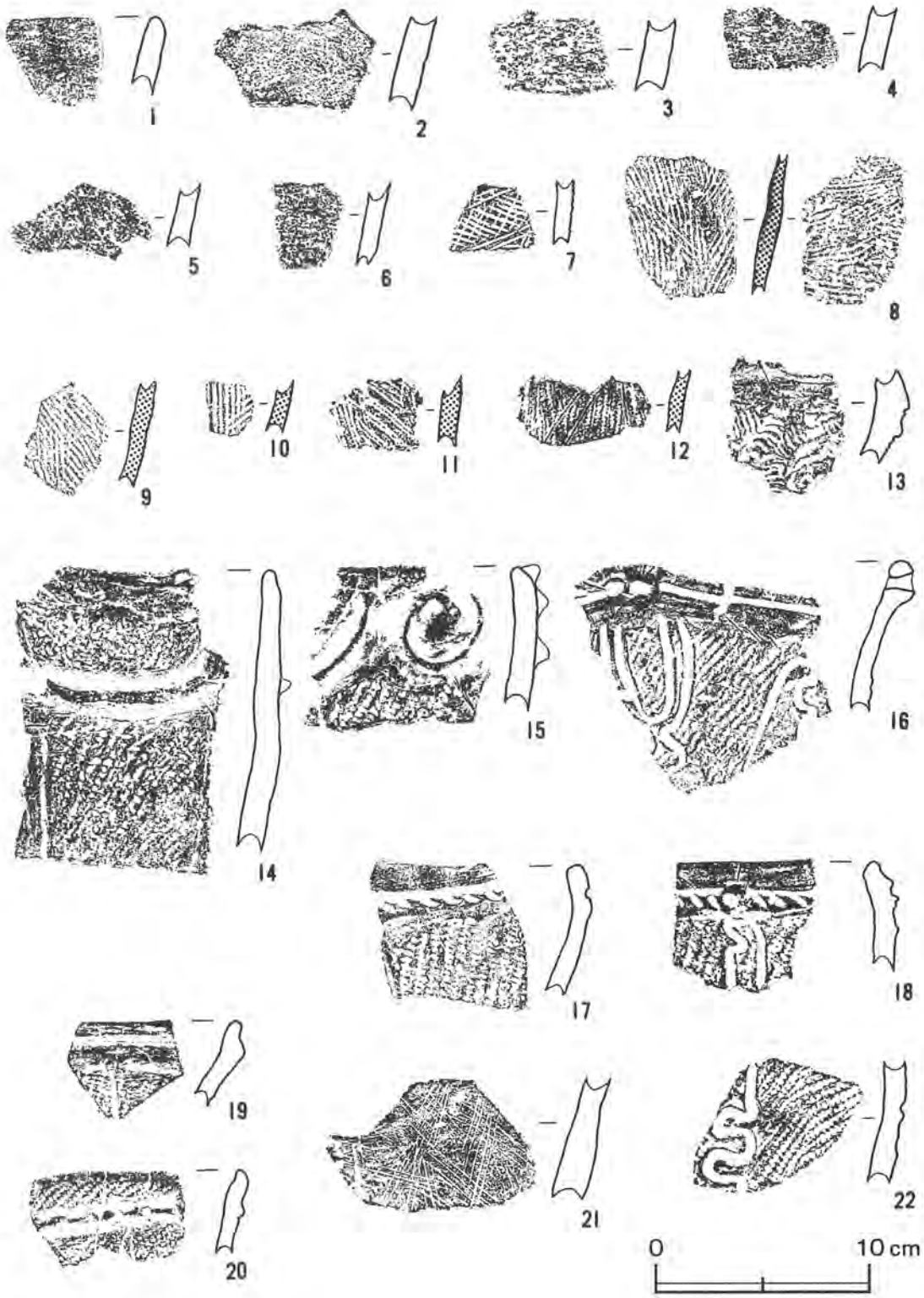
31・32は口縁部片で，横位の磨消縄文が施されている。加曽利BI式に比定される土器である。

c類

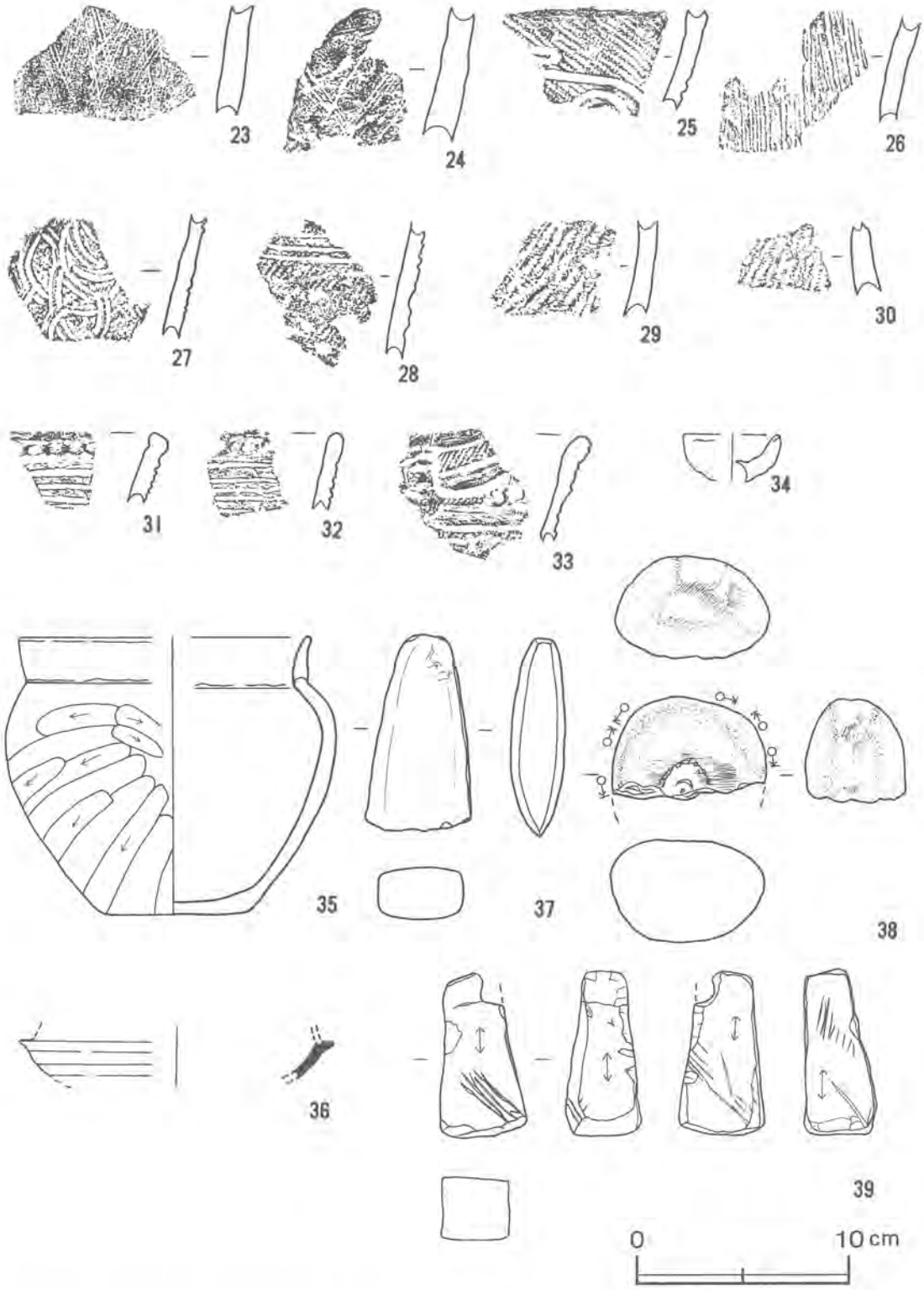
33は口縁部片で，帯縄文部に双指押瘤が施されている。安行II式に比定される土器である。

遺構外出土遺物観察表

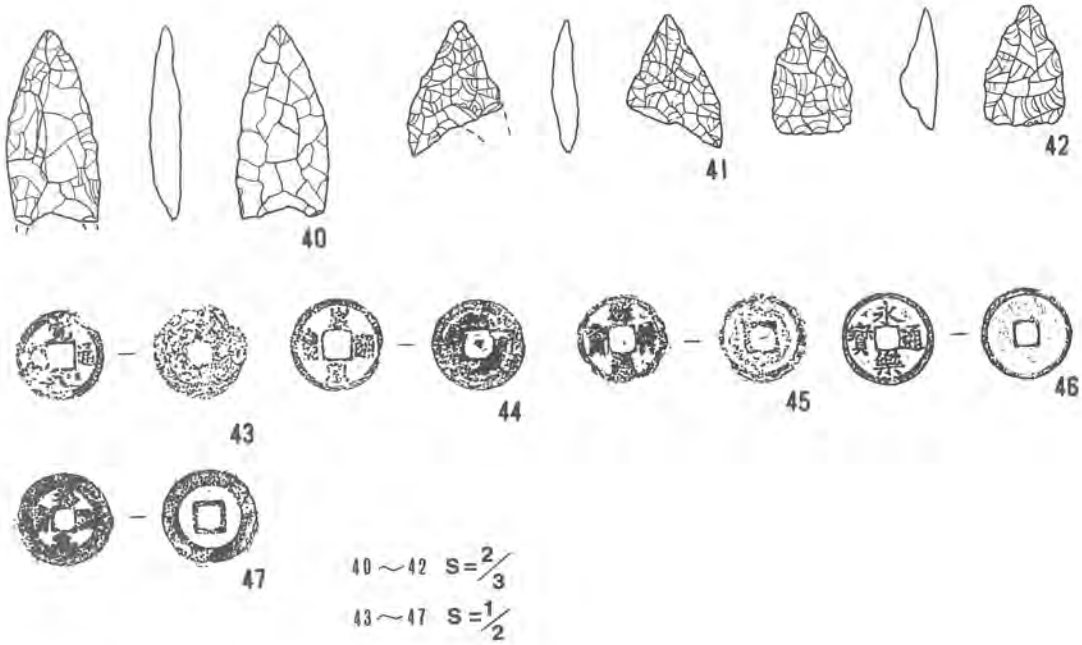
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第53～55図 34	手捏土器 土師器	A [4.2] B (2.2)	体部片。体部は外傾する。	手捏ね。指頭痕。	砂粒・長石 橙色 普通	P140 25% 北側



第53図　遺構外出土遺物拓影図（1）



第54図　遺構外出土遺物実測・拓影図 (2)



第55図　遺構外出土遺物実測・拓影図（3）

35	甕 土師器	A [13.6] B (13.0) C 6.8	平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は垂直に立ち上がる。	底部ヘラナデ。体部外面ヘラケズリ，内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。輪積痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P145 75% 表採
36	坏 須恵器	B (1.8)	体部片。体部は内彎しながら外傾し，口縁部との境に明瞭な稜を有する。	体部外面横ナデ。外面自然釉。	砂粒 灰色 良好	P147 5% SI-1 北側

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
37	磨製石斧	9.4	5.0	2.6	200.5	蛇紋岩	遺構北側	Q46
38	磨石	(4.9)	7.2	4.8	(224.8)	安山岩	遺構中央	半欠　Q31
39	砥石	7.8	4.1	3.4	137.5	凝灰岩	表採	Q11
40	尖頭器	(3.9)	(1.8)	0.6	(4.0)	安山岩	遺構北側	両脚部欠　Q48
41	石鏃	2.6	2.0	0.5	(1.6)	黒曜石	表採	右脚欠　Q10
42	石鏃	2.4	1.6	0.7	2.3	チャート	SK-89	Q47

図版番号	鋳名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	出土地点	備考
43	寛永通寳	1668	日本	SD-12 北側	M3
44	皇宋通寳	1039	北宋	SK-77 南側	M5
45	不明			SD-6 南側	M6
46	永樂通寳	1408	明	表採	M7
47	不明			SD-13 西側	M8

第3節　まとめ

当調査区からは，縄文時代早期から後期，古墳時代後期および中世の遺構・遺物が確認されている。縄文時代の遺構は確認されず，土器片のみが出土している。時期別に見ると，早期では花輪台II式，三戸式，茅山上層式，前期では黒浜式，中期では勝坂式，加曽利EIII式，後期では堀之内I式，加曽利BI式，安行II式の土器片が確認できる。これらの状況から，調査区外に縄文時代の遺構が存在するものと考えられる。古墳時代の遺構は，調査区の中央から南側にかけて住居跡が確認されている。中世の遺構は，調査区中央から南側にかけて井戸，北側に地下式壙・墓壙・溝などが確認されている。

ここでは，特に古墳時代後期の住居跡と中世の遺構についてまとめることにする。

1　竪穴住居跡について

当調査区から確認された古墳時代の竪穴住居跡5軒(第1・2・4・6・7号住居跡)は，いずれも後期(鬼高式期)のものである。平面形はほぼ方形であり，主柱穴はコーナーに4か所規則的に配列されている。竈は，第2号住居跡は東壁に設けられているが，ほかの4軒は北壁に設けられている。貯蔵穴は，第7号住居跡だけが確認できなかった。5軒の住居跡のうち，第1号住居跡と第2号住居跡は隣接していることから，新旧関係を有するものか土器の様相から検討してみる。第1号住居跡から出土している坏は，体部が内彎しながら外傾し口縁部は短く直立する古い様相のものが多いが，体部と口縁部との境に明瞭な稜を有し口縁部はやや内彎している模倣坏も出土している。甕は長胴化が見られ底径も大きく安定し，甑は胴部が直線的で口縁部の外反も強く，いずれも7世紀前半と考えられる。第2号住居跡から出土している坏は，体部が内彎しながら外傾し，口縁部は短く直立するものも1点出土しているが，口縁部がわずかに外反しているものが多数出土しているため6世紀後半に位置付けられる。高坏は脚部片であるが，柱状の脚をしているため6世紀前半の様相をもっている。甕は口縁部をわずかにつまみ上げる常総型甕がみられるため，坏と同じく6世紀後半と考えられる。すなわち，第1号住居跡より第2号住居跡の方が古いことがいえる。また，第2号住居跡から出土している土師器と第4・6・7号住居跡から出土している土師器は，その器形等からほぼ同時期であるとみられる。さらに，第2・4・6・7号住居跡は西側にある谷に向かって35～40mの間隔で半円状に配置されていることから，これらの住居跡は同時期に存在したものと考えられる。

2　中世の墓域について

当調査区からは，地下式壙7基・墓壙1基・小竪穴状遺構4基・溝14条・井戸2基が確認されている。

まず，地下式壙についてであるが，先学によると墓壙説と貯蔵庫説が考えられている。本遺跡の地下式壙について見ると，出土遺物は土師質土器(皿)が目立ち，ほかに土師質土器(内耳鍋・火鉢)，石臼，砥石などがある。これらは供膳の風習一式に関連するものと考えられている。[1] 出土遺物から時期は，15世紀後半から16世紀前半と考えられる。また，第3号地下式壙からは貝化石が，第7号地下式壙からは炭化米がいずれも主室底面から出土し，壙に伴う遺物と考えられる。また，第1号地下式壙の覆土からは，アカニシが出土している。これらの伴出遺物は，宗教的・信仰的な儀礼に伴うものと考えられる。[2] 分布状況を見ると，第1・7号地下式壙は第6号溝の南側から確認され，第2～6号地下式壙は調査区の北側で第5・7～13号溝による区画内から確認されている。これらの状況から，本遺跡の地下式壙は人骨こそ確認できなかったが，地下式壙のみでなく墓壙・溝・小竪穴状遺構・井戸などの中世遺構が計画的に構築され相互に関連する存在といえるため，これら一連の遺構は宗教的色彩がうかがえ，墓壙説を裏付ける傍証をかためている。

次に，溝について述べてみたい。調査区から14条の溝が確認されているが，第1～3・15号溝は性格不明である。第6号溝は調査区の北側にある墓地を仕切るように遺跡の中央に確認されているのに対し，第5・7～13号溝は北側にある墓地を囲むように北から東にかけて鉤の手状に確認されている。さらに，第6号溝はほかの溝と異なる点がある。1点目は，掘り方の違いである。第6号溝の幅は広いところで2m50cm以上，深さ50cm以上あり，二段掘り込みである。他の溝は幅も狭く，深さも20～30cmと浅い。このように掘り方の浅い溝は，近世に多くみられる。2点目は，出土遺物の違いである。第6号溝からは全体的に青磁片をはじめ灰釉陶器片，土師質土器(皿，内耳鍋)，石臼(茶臼を含む)，砥石，アカニシなどが多量に出土している。出土遺物からその時期は，13～15世紀と考えられる。ほかの溝からは，流れ込みと思われる縄文式土器片などが出土しているだけである。これらの状況から，第6号溝は13～15世紀のものであるのに対し，第5・7～13号溝はそれよりも新しい時期に墓地を区画したものと思われる。

溝に囲まれた遺構の中で，第102号墓壙や小竪穴状遺構は確認状況から第6号溝によって区画されたものと考えられる。それに対して，第6号溝の区画外からも地下式壙や井戸が確認されているため，これらの遺構は第6号溝を埋めた後のもので，第5・7～13号溝に伴うものと考えられ，墓地の拡張が行われた可能性が考えられる。

第6号溝で区画された遺構の中で，第102号墓壙から人骨と六道銭と思われる古銭(2枚)が出土している。時期は古銭が判読不能のため不明であるが，「六道銭を副葬する習俗は遅くとも中世以降には行われている」[3]ことから，この墓壙は中世以降のものであろう。また，時期を判断する出土遺物がないため時期不明であるが，小竪穴状遺構が確認されている。その中で第70号土坑，第112号土坑の北コーナーから多量の灰が出土していることや，墓地内から確認されていることなどを考慮すると葬送に伴うものと想像される。

以上のことから，この地域は墓域としての性格をもっていると考えられる。

〈注・参考文献〉

(1) 江崎　武「中世地下式壙の研究」『古代探叢II』　早稲田大学出版部　1985年

(2) 円福寺西方遺跡調査会『都営西台三丁目団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 五段田遺跡Ⅰ』東京都住宅局　1985年

(3) 櫻木晋一「六道銭」『國史大辭典 14』　吉川弘文館　1993年

(4) 半田堅三「本邦地下式壙の類型学的研究」『伊知波良』 2　1974年

(5) 小林　克「地下室考」『物質文化』 47　1986年

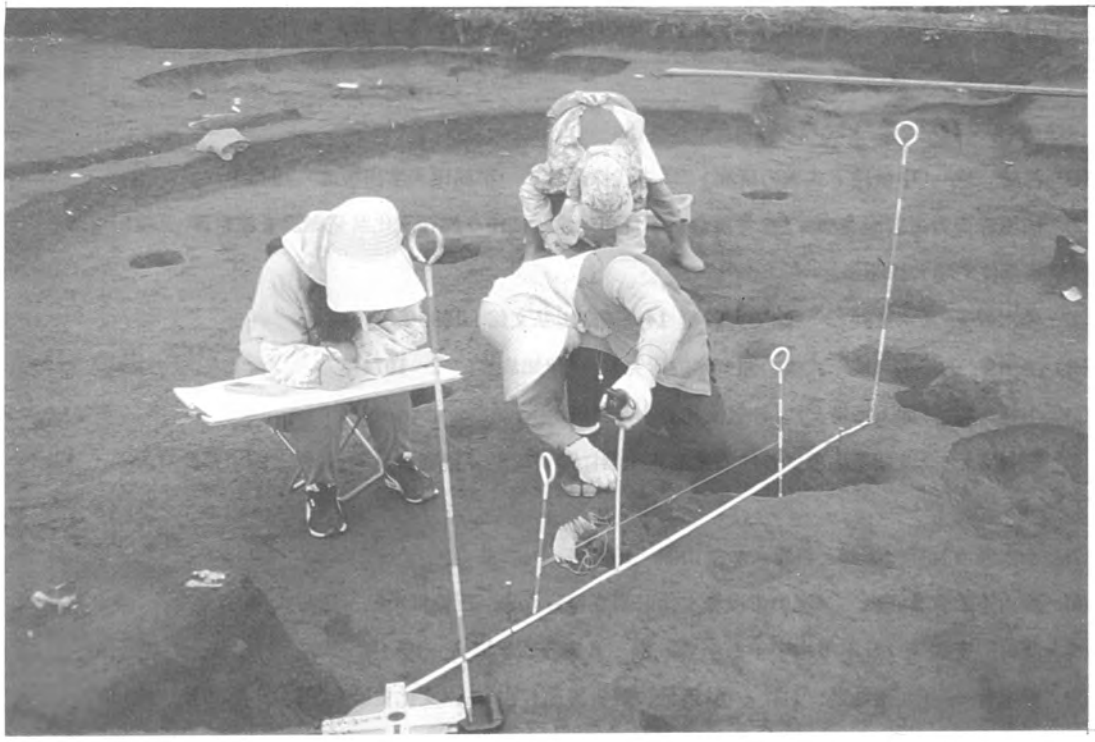
(6) 樫村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号　茨城県教育財団　1993年

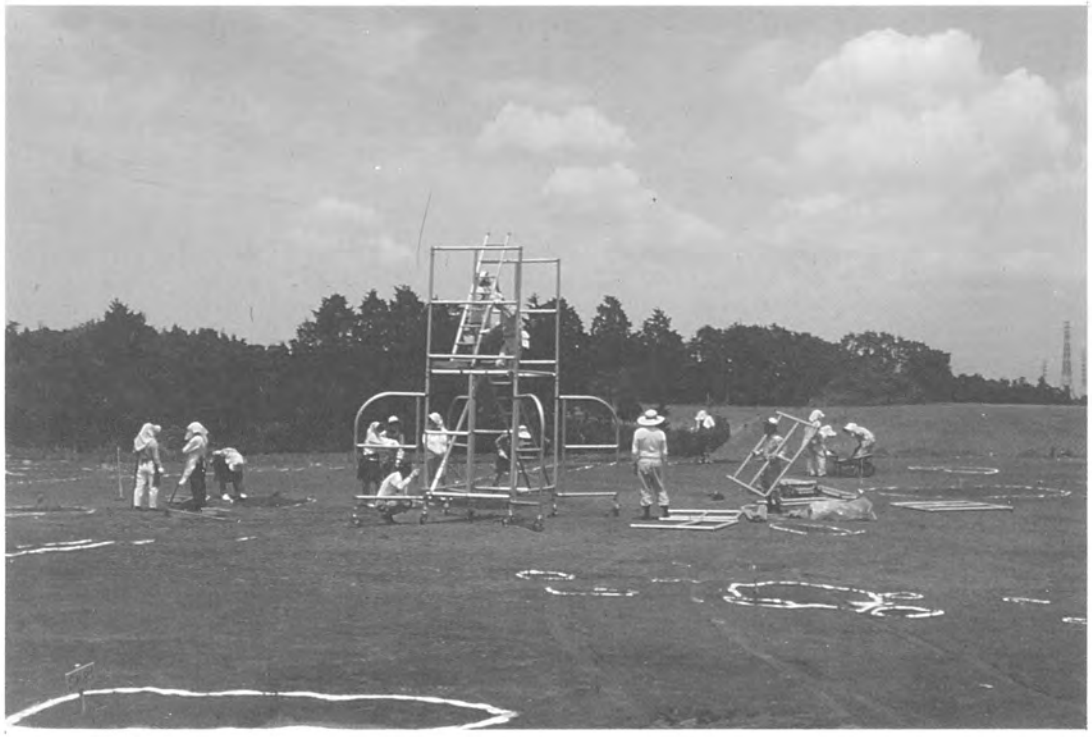
(7) 小出義治『土師器と祭祀』　雄山閣　1991年

(8) 流山市教育委員会『流山市埋蔵文化財調査報告vol6　三輪野山第三遺跡』 1987年

(9) 滝口　宏編『日本考古学年報』 No.24　日本考古学協会　1971年

(10) 櫻木晋一「九州地域における中・近世の銭貨流通」『九州文化史研究紀要』 第36号　1992年





第６章　前田村遺跡

第１節　遺跡の概要

前田村遺跡は，総面積約130,000m²の規模をもち，筑波郡谷和原村の西部，筑波･稲敷台地の西端の標高23.0ｍの台地上に所在し，現況は畑地と山林である。今年度調査したＡ・Ｂ地区は，Ａ地区東西約122ｍ，南北約80ｍ，面積9,291m²であり，Ｂ地区東西約80ｍ，南北約100ｍ，面積8,420m²である。今回の調査では，旧石器時代の石器集中地点，縄文時代中期の集落跡，および中・近世の墓地跡の複合遺跡であることが判明した。旧石器時代の遺物は，Ｂ地区の八幡神社参道の北側から頁岩製の尖頭器が表採され，土坑からは頁岩製のナイフ形石器やＢ地区南側端の石器集中地点が１か所確認された。縄文時代以降の遺構は，竪穴住居跡51軒，土坑202基，溝14条，井戸４基などである。縄文時代の遺構は，調査区全域にわたって確認されているが，竪穴住居跡のほとんどがＡ地区に集中している。中・近世の遺構は，Ａ地区の南東部一帯に確認されている。

遺物は，遺物収納コンテナに130箱程出土している。旧石器時代の遺物は，尖頭器，ナイフ形石器，剥片などが出土している。縄文時代の遺物は，縄文式土器，石製品，石器などが出土している。奈良･平安時代の遺物は，墨書土器が出土している。中・近世の遺物は，五輪塔，宝篋印塔，内耳土器，土師質土器，陶磁器，煙管，古銭などが出土している。

第２節　遺構と遺物

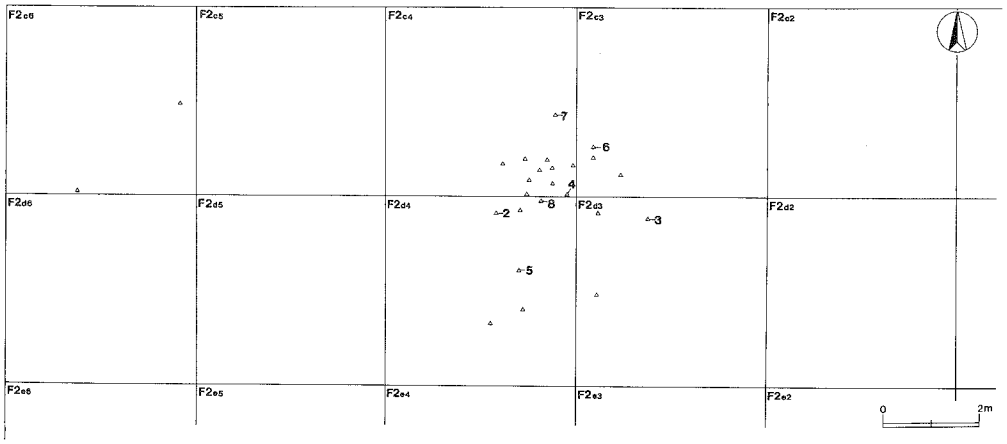
１　旧石器時代（第56図）

旧石器時代石器類集中地点（以下，ブロックと称する）は，Ｂ地区で１か所確認されている。ブロックからは，石刃状剥片，剥片などが出土しているが，いわゆるブラックバンド層の堆積が薄いこともあって，若干の新旧遺物の混在がみられ，しかも石材が新旧ともに同質のものが多く把握しにくい。従って，平面分布を中心としてとらえ，個々の遺物の記録にあたっては，調査時点で記入されている層位を付記した。

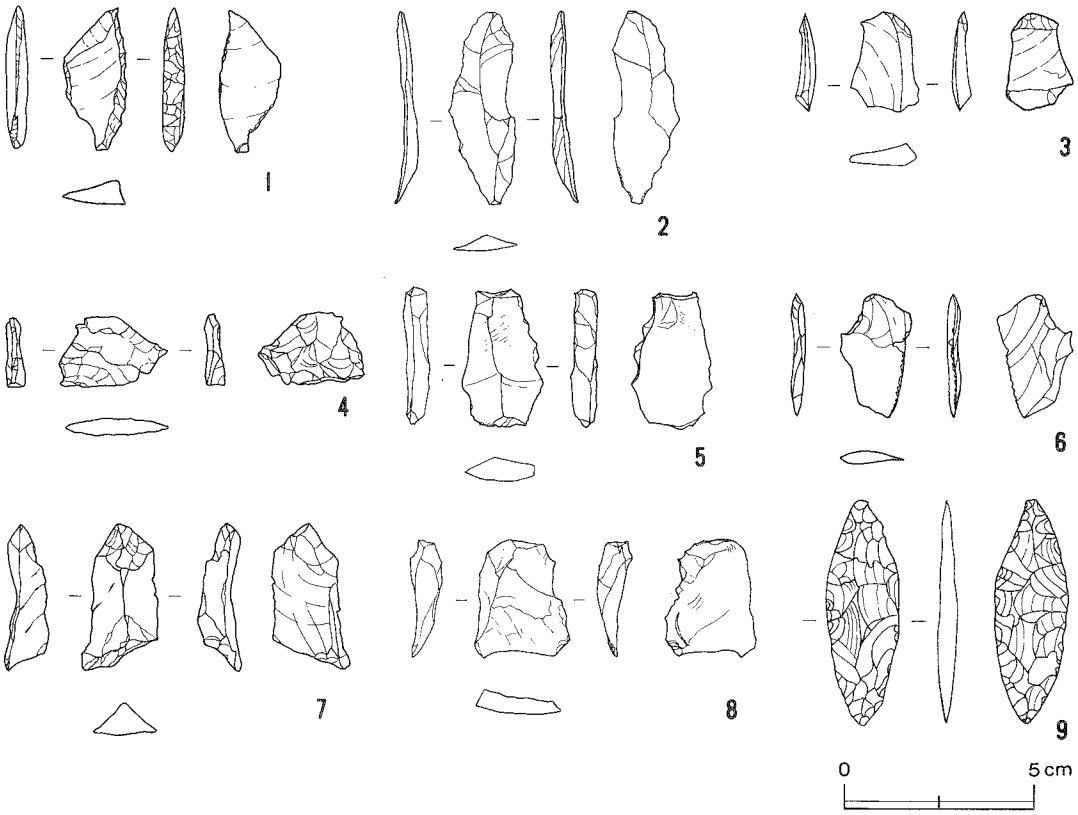
また，ブロック外では，第122号土坑から流れ込んだと思われるナイフ形石器が出土し，ほかに表採で尖頭器がある。

遺物総数24点。平面分布は，東西約５ｍ，南北約５ｍの広がりをもつ。すべて，出土層位は第６図の４層上面である。石材は，チャート９点，メノウ８点，頁岩６点，安山岩１点である。第57図2はメノウ製の石刃状剥片である。3･8はメノウ製の剥片で4･5･7はチャート製の剥片である。6は，頁岩製の剥片で，表面上部に粗い調整痕がみられる。ブロック外の1は硬質砂岩のナイフ形

石器で，9は珪質頁岩製の尖頭器である。



第56図　旧石器時代石器集中地点



第57図　旧石器時代出土遺物実測図

旧石器時代出土遺物観察表

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第57図1	ナイフ形石器	3.8	1.7	0.6	3.3	硬質砂岩	SK-112 覆土	Q112

2	剥　　片	5.1	1.8	0.4	3.1	メノウ		Q152
3	剥　　片	2.6	1.8	0.4	2.0	メノウ		Q153
4	剥　　片	1.8	2.8	0.5	2.5	チャート		Q154
5	剥　　片	3.7	2.1	0.6	5.3	チャート		Q155
6	剥　　片	3.3	1.9	0.3	1.7	頁　　岩		Q156
7	剥　　片	3.9	2.0	0.9	6.0	チャート		Q157
8	剥　　片	3.1	2.4	0.8	5.2	メノウ		Q158
9	尖　頭　器	5.9	1.9	0.5	5.7	珪質頁岩	B地区　表採	Q159

2　竪穴住居跡

当調査区から確認された竪穴住居跡は，51軒である。これらの竪穴住居跡は，主に調査A地区から確認され，いずれも縄文時代中期のものである。なお，縄文式土器片の拓影図は，遺構外出土遺物の分類に準じた。

第1号住居跡（第58図）

位置　B6e_1区。

規模と平面形　長径6.42m，短径5.98mの円形。

壁　壁高は30～34cmで，外傾して立ち上がっている。

床　炉の周辺を中心に，良く踏み固められている。

炉　中央から東側にある。平面形は長径60cm，短径40cmの楕円形であり，深さは10cmで西側を土器片で仕切られた地床炉である。炉床は，赤変硬化している。

ピット　13か所。P_1，P_2，P_5，P_6，P_8，P_9，P_{11}は，径20～30cmの円形で，深さが40～60cmであり規模や配列から主柱穴と考えられる。P_3，P_7，P_{10}，P_{12}，P_{13}は，径30～40cmの円形で深さ30～50cmであり，補助柱穴と考えられる。P_4は，径80cmの円形で，深さ50cmであり，性格不明である。

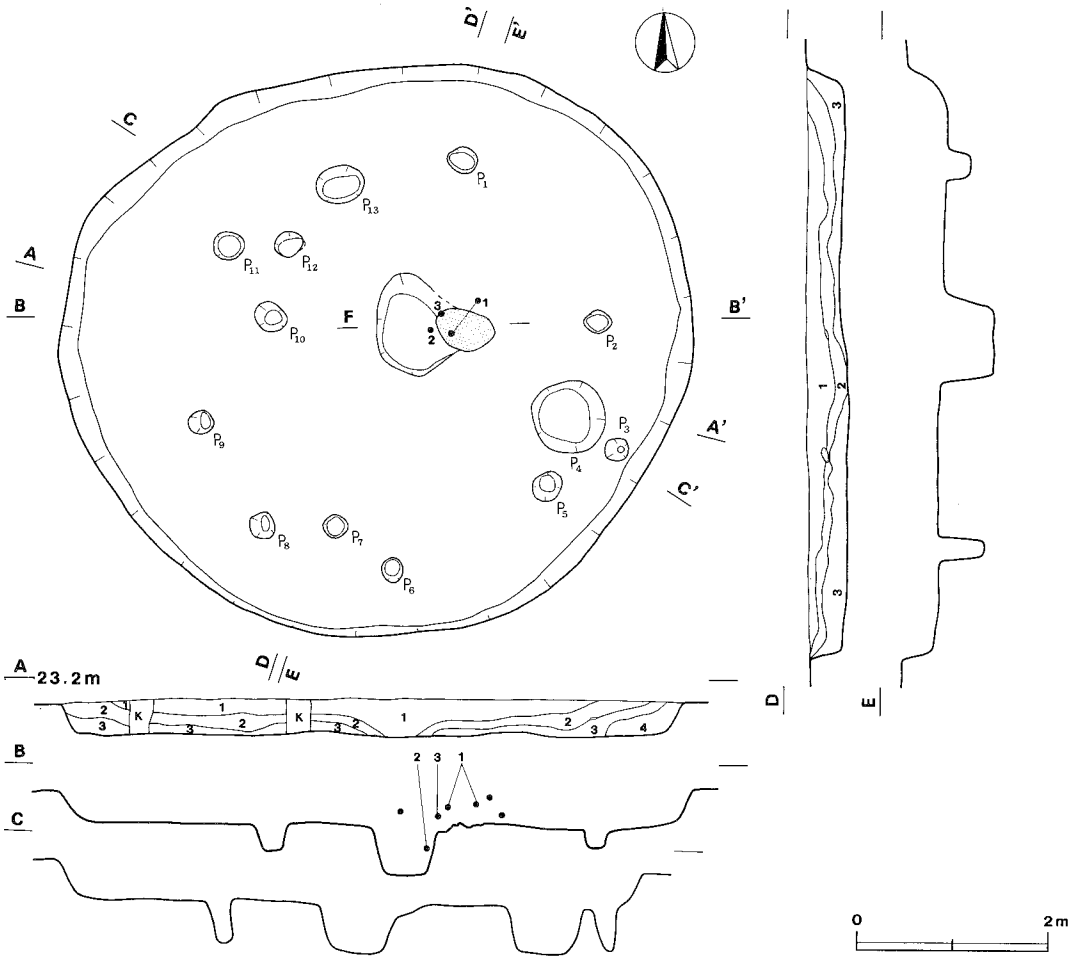
覆土　4層からなる。1・2・3層から流れ込みと思われる土器片が出土している。各層とも壁際から自然に流れ込んだものと考えられる。

遺物　中央から東側の覆土から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部76，胴部118，底部14点）が出土している。第59図1の深鉢の口縁部と3の深鉢の底部は，覆土から出土している。炉西側からは2の深鉢の胴部から口縁部が倒位の状態で出土している。P_5付近からは17の磨製石斧が出土している。

4～16は縄文式土器片の拓影図である。4～7・10・11・13は第1群のj類，8はk類，9はf類に該当する口縁部片である。12は沈線によって横位や縦位や丸が描かれている。13は口縁部直下に2条の沈線を巡らす。14は堀之内I式の口縁部片と考えられる。15・16はj類に該当する胴部片であ

る。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利ＥⅣ式期）の住居跡である。



ＳＩ－１　土層解説

1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック極少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム小・中ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック少量，炭化粒子微量

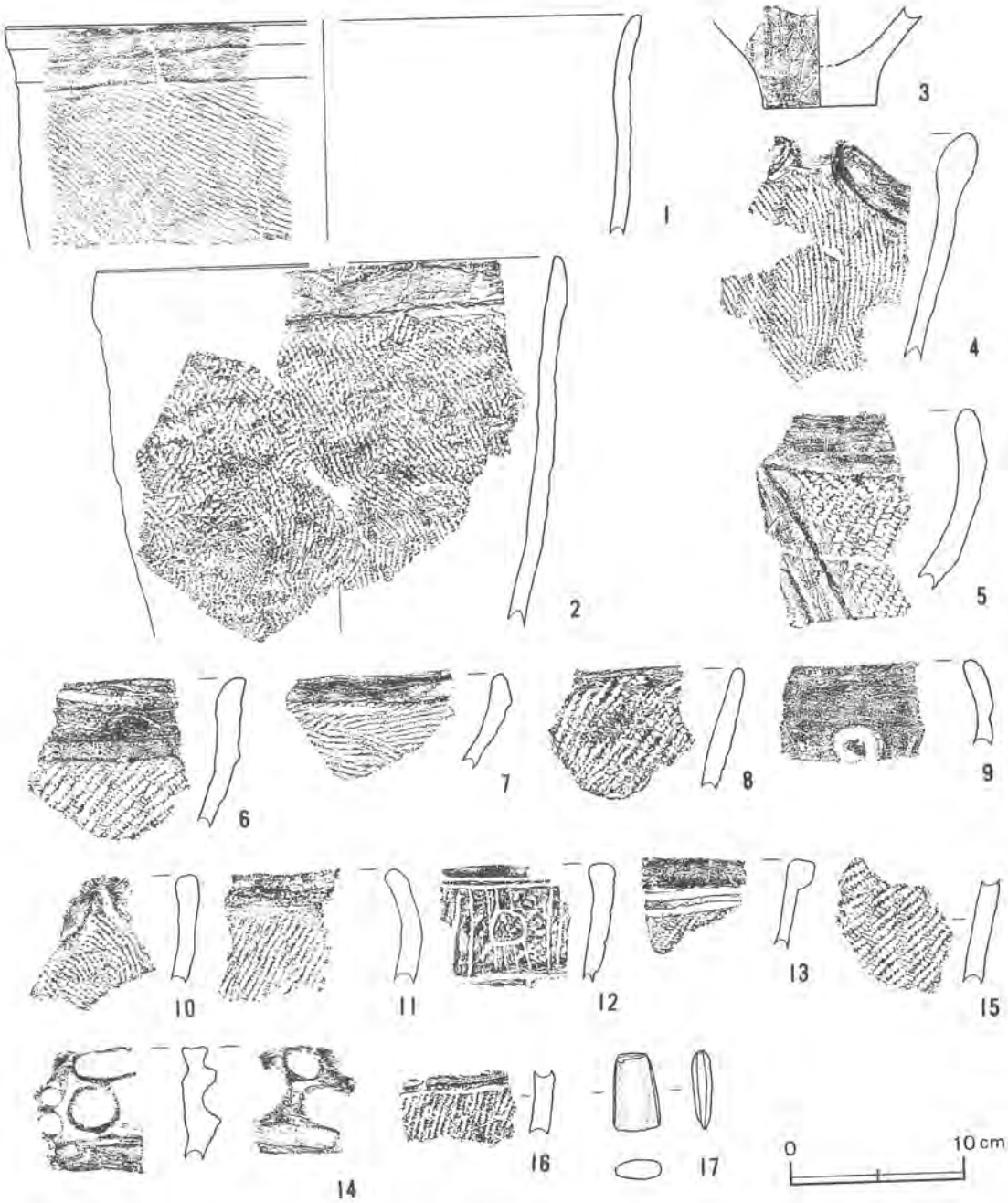
ＳＩ－１　炉土層解説

1　赤褐色　焼土粒子・焼土小・中ブロック中量
2　赤褐色　焼土ブロック
3　赤褐色　ハードロームブロック・粘土粒子中量

第58図　第１号住居跡実測図

第１号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第59図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A［49.2］ B（17.0）	胴部から口縁部片。胴部上位は垂直に立ち上がり，口縁部はやや外傾する。口縁部無文帯は幅４cm程で，１条の低平な隆線で区画し，以下に単節縄文ＬＲを縦位回転で施文している。	長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	Ｐ１ 15%



第59図　第1号住居跡出土遺物実測・拓影図

2	深鉢形土器 縄文式土器	A [26.6] B (21.5)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部無文帯は3cm程で，1条の低平な隆線で区画し，以下に単節縄文LRを充填している。口縁部内面は，横位ナデが施されている。	長石・パミス・スコリア にぶい橙色 普通	P 2 10%
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (5.7) C [6.6]	底部片。突出した底部。底面から1cm程に横位ナデを施し，以上に縦位ナデが施され，無文のまま残されている。	砂粒・パミス にぶい橙色 普通	P 6 5%

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
17	磨製石斧	4.5	2.7	1.2	20.9	頁　岩	Q1

第2A号住居跡（第60図）

位置　B5h_0区。

重複関係　第19号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径5.86m，短径5.06mの楕円形。

壁　壁高は14～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏しているが，炉の周辺が特に踏み固められている。

炉　ほぼ中央にある。埋甕炉が確認されている。埋甕に利用された土器は，深鉢形土器で最大径が20cm，現在高10cmである。底部は，火熱により赤変硬化している。

ピット　14か所。P_3，P_4，P_6，P_8，P_{10}，P_{12}は，径30cm前後の円形で，深さは30～50cmであり規模や配列から主柱穴と考えられる。P_1，P_2，P_5，P_7，P_{11}，P_{13}，P_{14}は，径30cm前後の円形で，深さ20～30cmであり補助柱穴と考えられる。

覆土　7層からなる。ローム粒子，ロームブロックを含み複雑な堆積をしている。4層から一括投棄されたと思われる土器片が出土している。

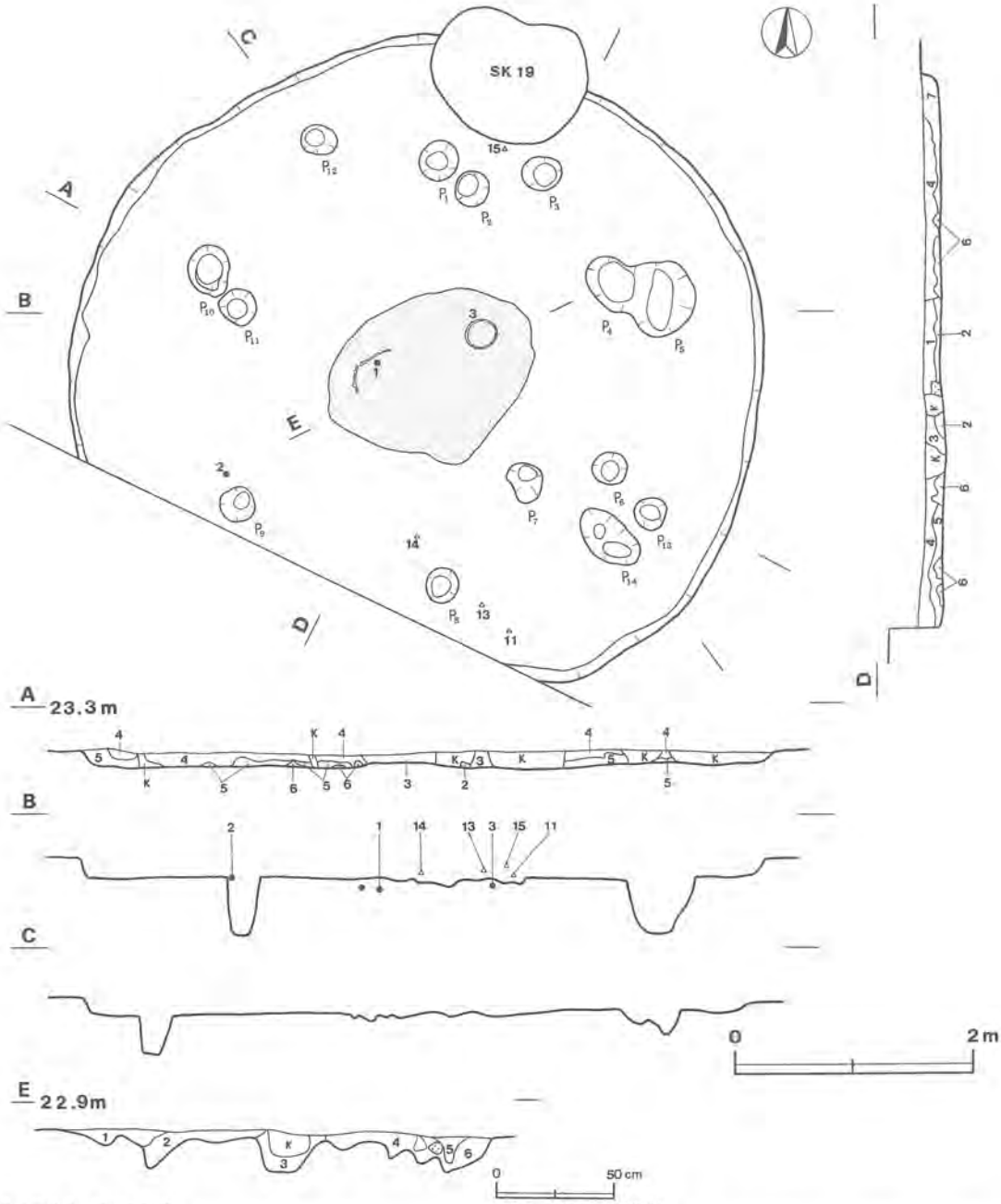
遺物　覆土上・中層から縄文式土器片（口縁部38，胴部485，底部8点）が出土している。炉に伴うと思われる第61図1の深鉢の口縁部と胴部，埋甕炉に使用したと思われる3の底を欠いた深鉢が正位の状態で出土している。南側の覆土から2の深鉢の底部が出土している。南側床面からは11の打製石斧，13の磨製石斧，14の石棒が出土している。北側覆土からは12の磨製石斧，15の軽石が出土している。

4～10は縄文式土器片の拓影図である。4・5・7・8は第1群のh類，6はj類に該当する口縁部片である。4・7は口縁部直下に竹管による刺突文と沈線を巡らしている。9はf類，10はj類に該当する胴部片である。

所見　耕作により表土が削られたため，確認面から床面までは浅い。南側端が農道のため，確認できなかった。本跡は，縄文時代中期（加曽利EIII式期）の住居跡である。

第2A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第61図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [46.6] B (16.6)	口縁部片。口縁部は内彎しながら立ち上がる。楕円形の口縁部文様帯内に縄文を充填し，以下に直線的磨消帯を構成している。	長石・石英 橙色 普通	P7 5%



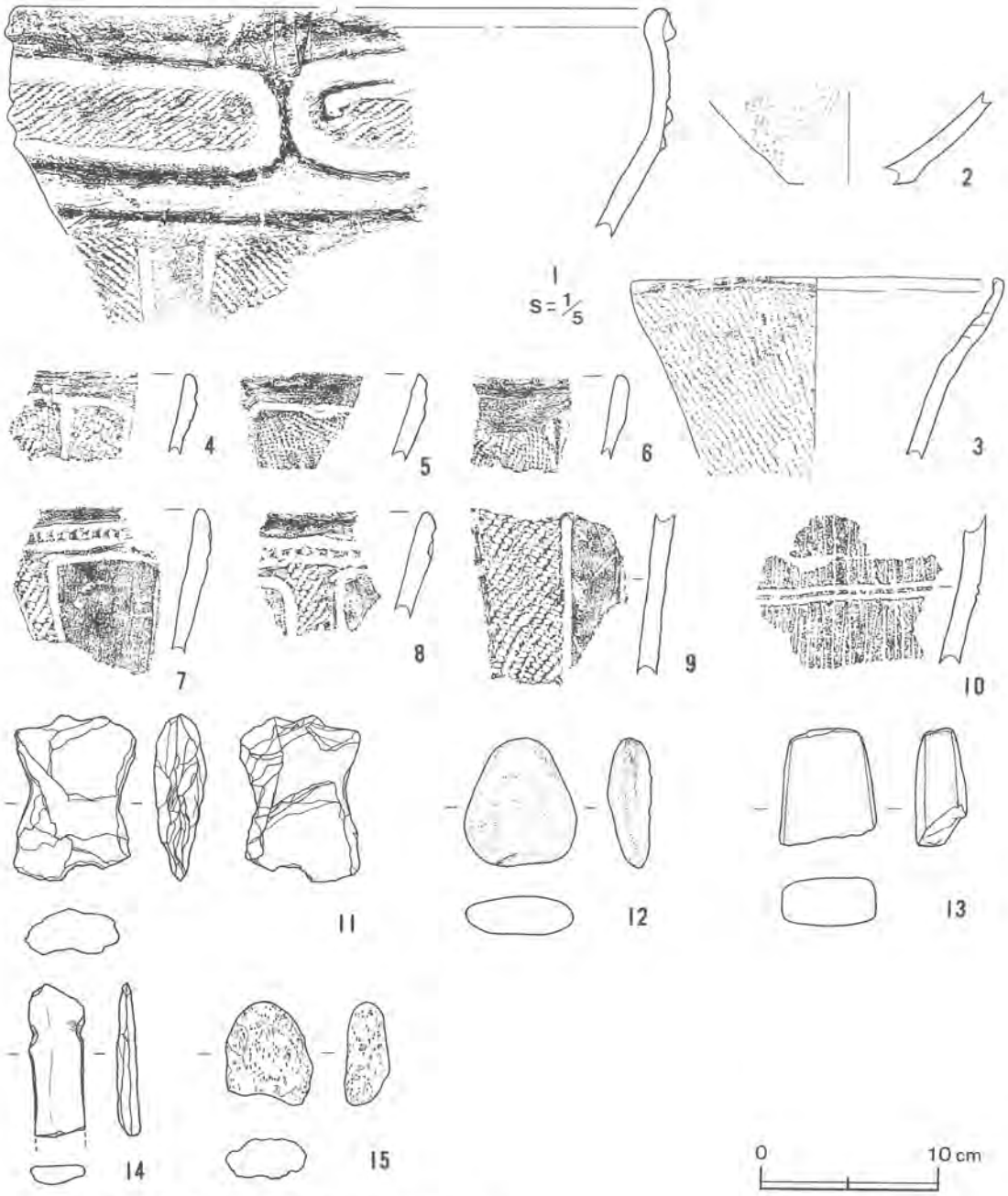
S I－2A　炉土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
2　暗　褐　色　焼土中ブロック少量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，ローム粒子少量
4　灰　褐　色　褐色土中量，焼土小ブロック極少量
5　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量

S I－2A　土層解説

1　極暗赤褐色　炭化粒子・焼土粒子中量，ローム粒子・ローム小ブロック微量
2　極赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，炭化粒子少量
6　にぶい褐色　ハードローム小ブロック・焼土粒子少量
7　明　褐　色　ハードローム小・中ブロック多量，暗褐色土大ブロック

第60図　第2A号住居跡実測図



第61図　第２Ａ号住居跡出土遺物実測・拓影図

2	深鉢形土器 縄文式土器	B　(5.4) C　[6.8]	底部片。胴部下位から底面にかけて直線的磨消帯が垂下している。	砂粒・雲母・パミス 灰褐色　普通	P９ ５％
3	深鉢形土器 縄文式土器	A　21.0 B　(10.6)	胴部から口縁部片。胴部・口縁部は外傾して立ち上がる。全面に単節縄文Ｌを縦位回転で施文している。	砂粒・パミス 明赤褐色 普通	P100 50％ 二次焼成痕

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	打製石斧	9.6	6.9	3.0	200.9	頁　岩	Q2
12	磨製石斧	7.5	6.5	2.4	150.3	砂　岩	Q3
13	磨製石斧	(6.6)	5.6	3.3	(173.9)	凝　灰　岩	一部欠損　Q4
14	石　棒	(8.9)	3.3	1.4	(51.0)	頁　岩	頭部片　Q5
15	軽　石	5.0	2.5	6.1	14.4	流　紋　岩	Q6

第2B号住居跡（第62図）

位置　B5h_8区。

重複関係　第1号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径4.72m，短径［4.62］mの楕円形。

壁　壁高は24～26cmで，外傾して立ち上がっている。

床　凹凸であり，炉の周辺が踏み固められている。

炉　ほぼ中央にある。平面形は，径90cm前後の不定形で，深さは10～15cmの地床炉である。炉床は，赤変硬化している。

ピット　16か所。P_1，P_3，P_5，P_{10}，P_{15}は，径20～30cmの円形で，深さ40cm前後であり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_4，P_7，P_{14}は，径18～20cmの円形で，深さ10cm前後と浅く補助柱穴と考えられる。その他のピットは，性格不明である。

覆土　6層からなる。1～3層は，壁際から自然に流れ込んだものと思われるが，4～6層は，人為的に埋め戻したものと思われる。特に，5層はロームの固まりである。

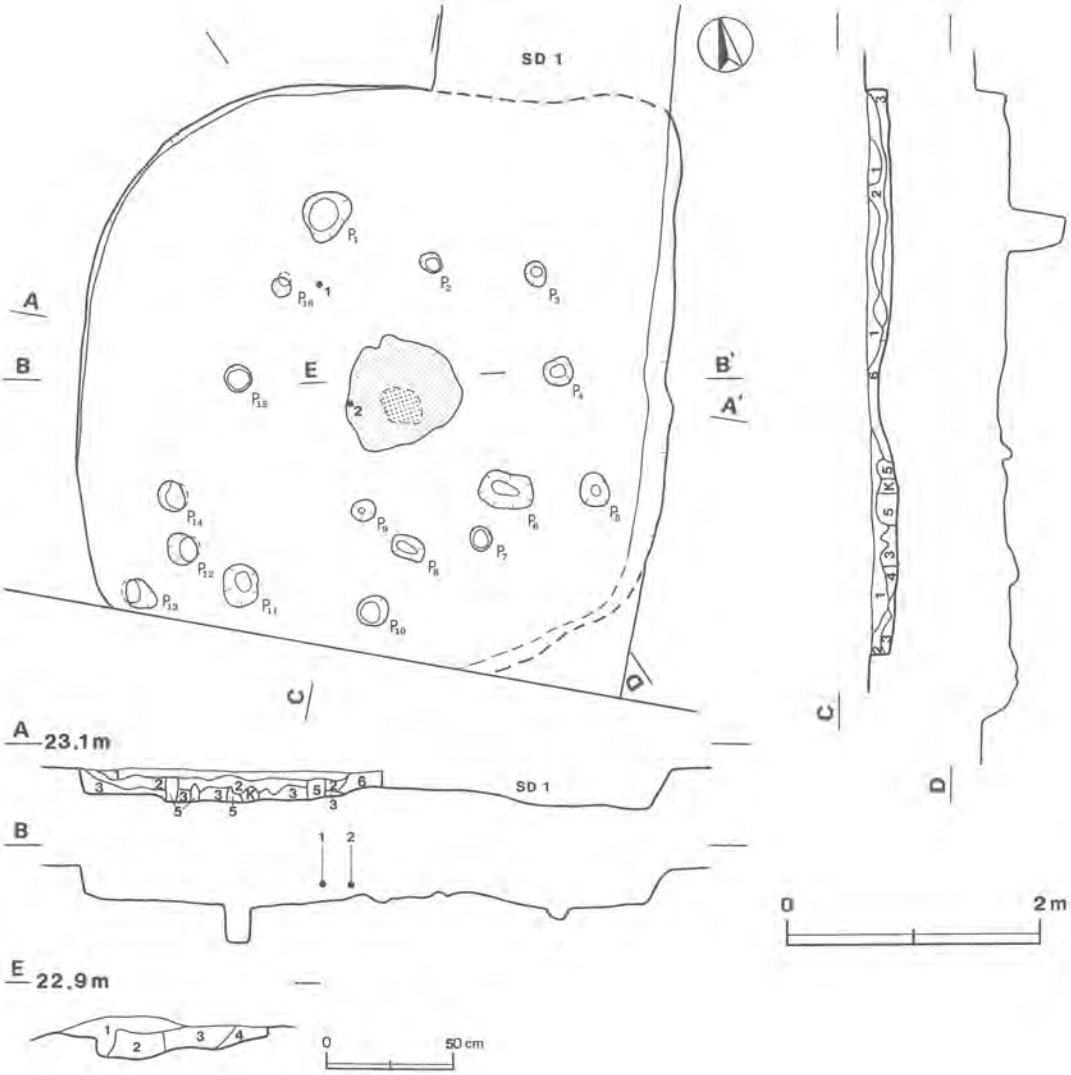
遺物　覆土から混入したと思われる縄文式土器片（口縁部7，胴部52点）が出土している。覆土から第63図1･2の深鉢の口縁部と胴部が出土している。床面から遺物は出土していない。

3～12は縄文式土器片の拓影図である。3～5は第1群のj類，6はd類に該当する口縁部片である。3は口縁部に2列の刺突文を施し，4は口縁部直下に1列の刺突文と沈線を施している。7･8･12はj類，9･10･11はf類に該当する胴部片である。

所見　南側端は，農道のため確認されていない。覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第2B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第63図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A［24.0］ B（11.4）	胴部から口縁部片。口縁部は内彎しながら立ち上がり，小突起が見られる。胴部上位から口縁部にかけて「U」状の渦巻文の連続するモチーフが描かれ，モチーフ内には，単節縄文LRを充填している。	長石・石英 橙色 普通	P10 10%



Ｓｉ－２Ｂ　土層解説

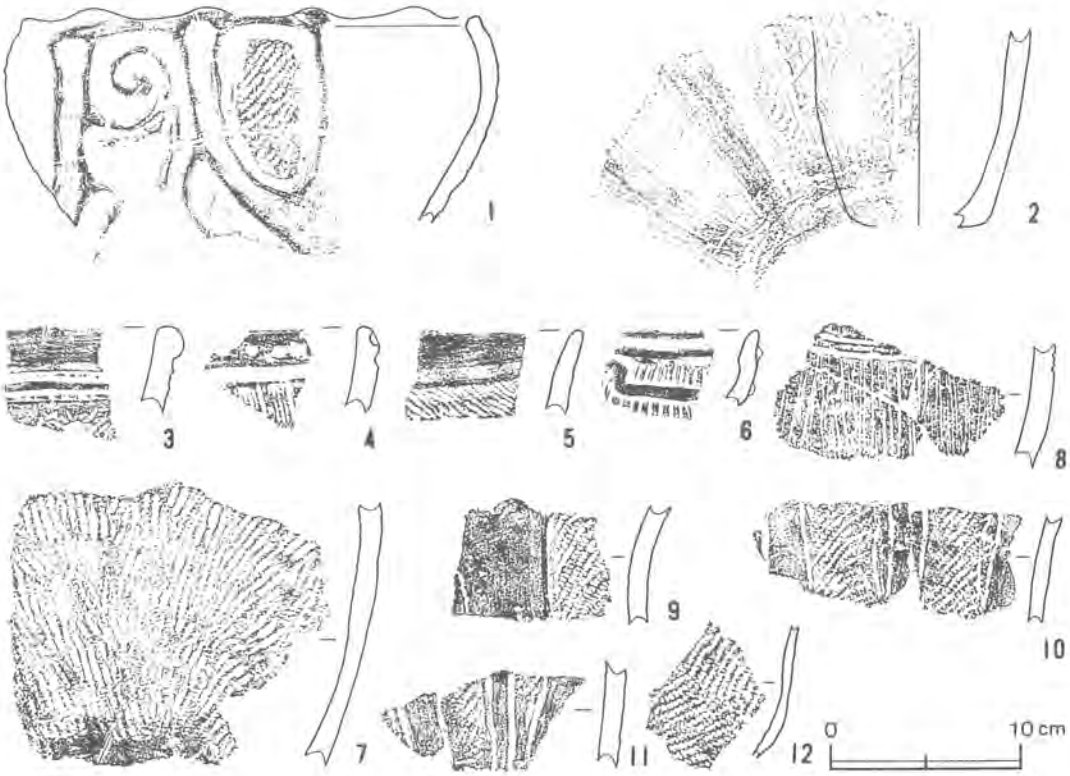
1　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　にぶい褐色　ハードローム中・大ブロック斑点状に含む，焼土粒子・炭化粒子極少量
4　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
5　明　褐　色　ハードローム大ブロック多量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量

Ｓｉ－２Ｂ　炉土層解説

1　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子極少量
3　赤　褐　色　焼土中ブロック中量，ローム粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子中量

第62図　第２Ｂ号住居跡実測図

2	深鉢形土器 縄文式土器	B〔10.5〕 C（7.5）	底部から胴部片。胴部下位はほぼ垂直に立ち上がる。外面には単節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。	砂粒・パミス・雲母 赤褐色　普通	P11 20%



第63図　第２Ｂ号住居跡出土遺物実測・拓影図

第３Ａ号住居跡（第64図）

位置　Ｂ５f_9区。

重複関係　第３Ｂ号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長径5.07ｍ，短径4.83ｍの円形。

壁　壁高は22～26cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の北東側が特に踏み固められている。

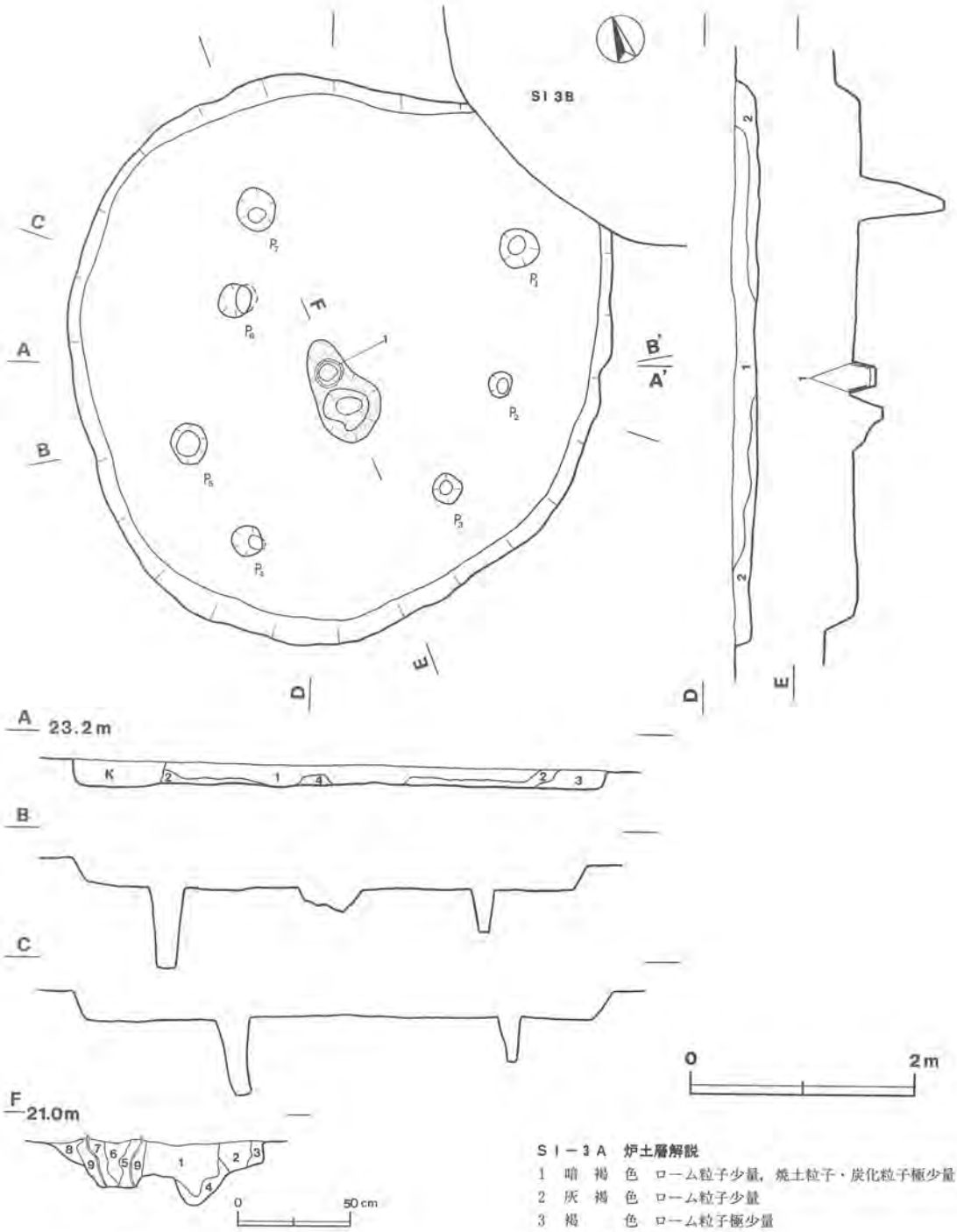
炉　ほぼ中央にある。径60cm，深さ50cmの掘り方の中に深鉢形土器を埋設した埋甕炉である。炉床は，ロームがレンガ状に赤変硬化している。

ピット　７か所。いずれも炉を囲むようにあり，径20～40cmの円形で，深さは40～70cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。

覆土　４層からなる。１・２層が堆積の大部分を占め，土器片が出土している。３層は，壁際から流れ込んだものである。４層には，焼土粒子・焼土小ブロックを多量に含んでいる。

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部26，胴部285，底部10点）が出土している。第65図1の底部を欠いた深鉢は，埋甕炉に使用されたものである。

２～6は縄文式土器片の拓影図である。2は第１群のｇ類，3はｊ類に該当する口縁部片である。



S I－3 A　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック中量
3　にぶい褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量

S I－3 A　炉土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　灰　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子極少量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ローム粒子極少量
7　極暗褐色　褐色土中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
8　褐　　色　ローム粒子少量
9　赤　褐　色　焼土ブロック

第64図　第３Ａ号住居跡実測図

3は口縁部に２列の刺突文を施している。4は橋状把手を有する口辺部片と考えられる。5･6はｊ類に該当する胴部片と底部片である。

所見　本跡は，縄文時代中期（中峠式期）の住居跡である。

第３Ａ号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第 65 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (14.7)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反し、口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁直下に隆帯による楕円形の区画２単位と両側渦巻文３単位を施している。以下は、単節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。	長石・石英・パミス 橙色 普通	P12 50%

第65図　第３Ａ号住居跡出土遺物実測・拓影図

第３Ｂ号住居跡（第66図）

位置　Ｂ5e_8区。

重複関係　第３Ａ号住居跡を掘り込み，第18号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径4.66ｍ，短径4.36ｍの円形。

壁　壁高は18～21cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　わずかな起伏はあるが，ほぼ平坦である。炉の南西側が特に踏み固められている。

炉　中央から東側にある。長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さは８cmの地床炉である。炉床は，ロームがレンガ状に赤変硬化している。

ピット　７か所。P_1～P_3，P_5，P_7は，径40～50cmの円形で，深さは40～50cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_4，P_6は，径30～40cmの円形で，深さは40cm前後であり，補助柱穴と考えられる。

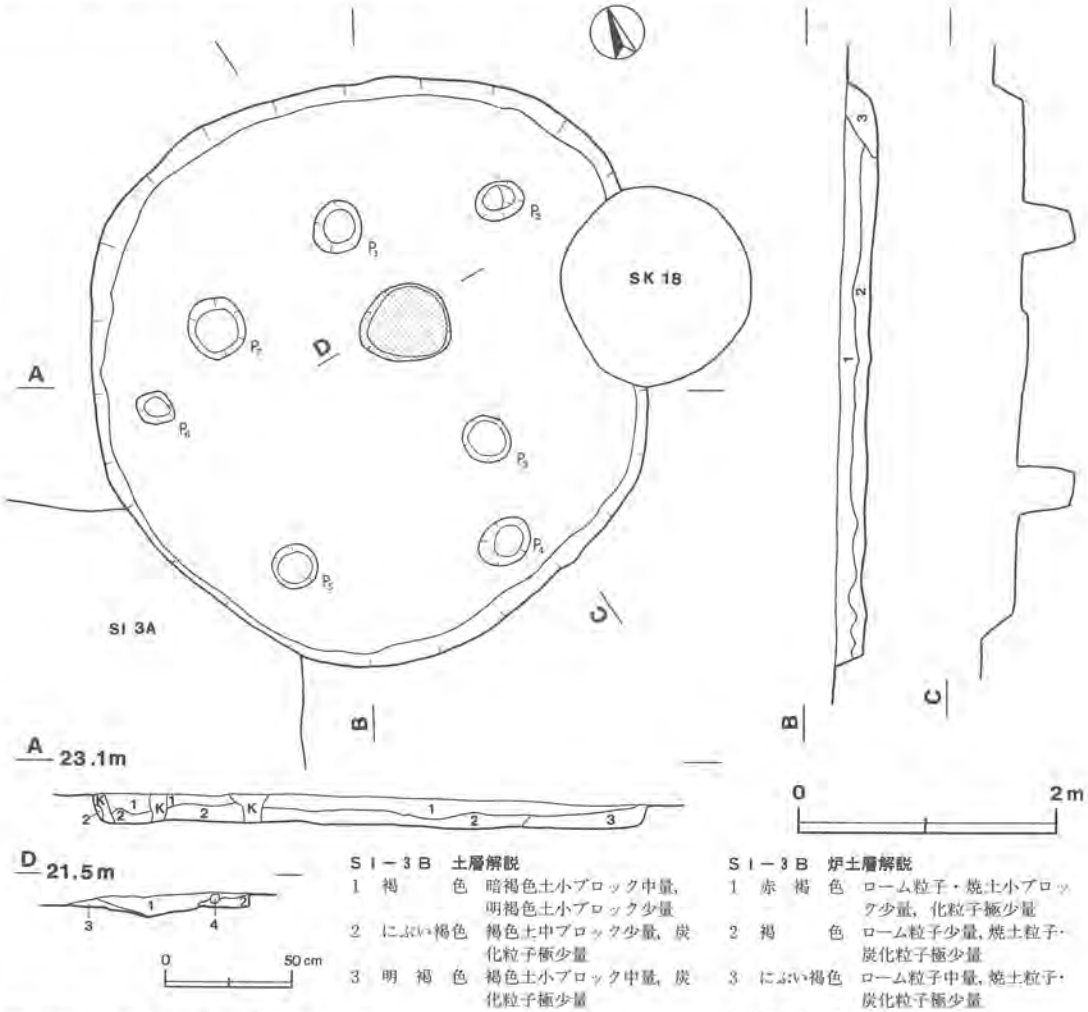
覆土　３層からなる。１・２層が堆積の大部分を占め，土器片が出土している。３層は，壁際から流れ込んだものである。

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部14，胴部167，底部3点）が出土し

ている。床面から遺物は出土していない。

第67図は縄文式土器片の拓影図である。1は第1群のa類に該当する波状口縁部片で，2はj類に該当する口縁部片である。3は第2群のc類に該当する胴部片である。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



第66図　第3B号住居跡実測図

第67図　第3B号住居跡出土遺物拓影図

第4号住居跡（第68図）

位置　B6b_1区。

規模と平面形　長径5.22m，短径4.33mの楕円形。

壁　壁高は23～33cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏はあるが，ほぼ平坦である。あまり踏み固められていない。

炉　ほぼ中央にある。平面形は，長径80cm，短径50cmの不定形で，掘り込みはほとんどない地床炉である。炉の底面が赤く焼けていないことから短期間の使用であったと考えられる。

ピット　9か所。P_1，P_4，P_6，P_8，P_9は，径30cm前後の円形で，深さ30～50cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_2は径30cmの円形で，深さ50cmでありP_1の補助柱穴と考えられる。P_3，P_7は径20cmの円形で，深さ25cm前後であり，炉の両側にある。P_5は径1.2mの楕円形で，深さ0.8mと大きなものであるが，性格不明である。

覆土　4層からなる。いずれの層もロームブロックを含み，人為的に埋め戻している。1層から土器片が出土している。

遺物　覆土上層から混入したと思われる縄文式土器片（口縁部16，胴部296，底部2点）が出土している。覆土から第69図1の壺形土器，2の深鉢の口縁部，13の石皿が出土している。床面から遺物は出土していない。

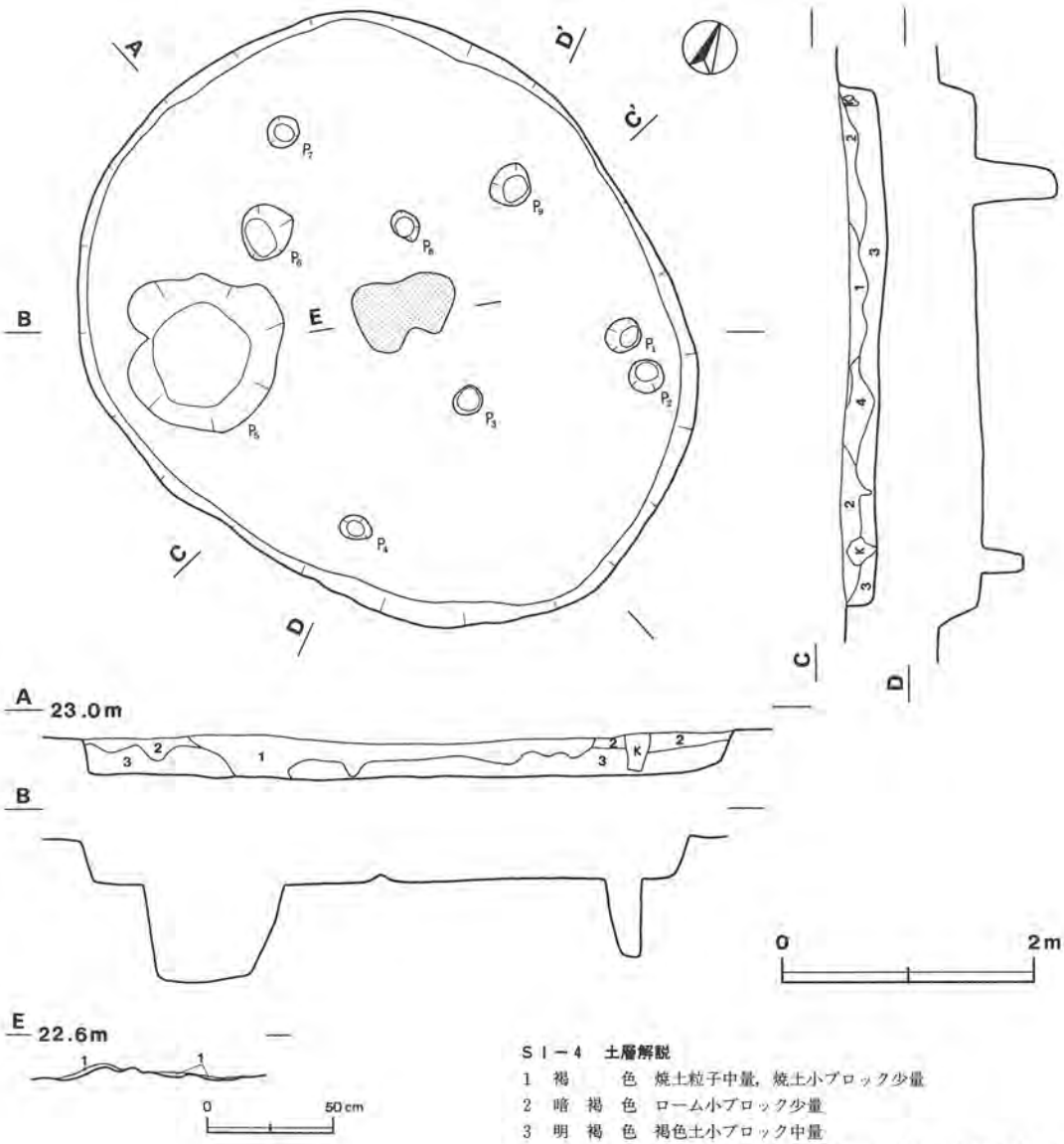
3～12は縄文式土器片の拓影図である。3は第1群のa類，4･5･7はj類，6はk類，8はf類に該当する口縁部片である。4は口縁部無文帯に焼成後の穿孔が認められる。9･10･11はj類に該当する胴部片である。12は1類に該当する胴部で，隆帯による渦巻文や曲線文が描かれている。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第69図 1	壺形土器 縄文式土器	B (8.8)	胴部片。胴部上位は内傾する。外面には隆線による渦巻文が描かれ，「S」字状の橋状把手が付されている。内面は，ナデが施されている。	パミス・砂粒・雲母 橙色 普通	P13 15%
2	深鉢形土器 縄文式土器	A [20.4] B (8.2)	胴部から口縁部片。胴部，口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部無文帯は2cm程で断面三角形の微隆線で区画され，以下に単節縄文RLが充填されている。	砂粒・パミス にぶい黄橙色 普通	P14 5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
13	石　皿	(12.8)	(9.9)	6.8	(665.1)	安山岩	裏面が凹み 一部欠損　Q7



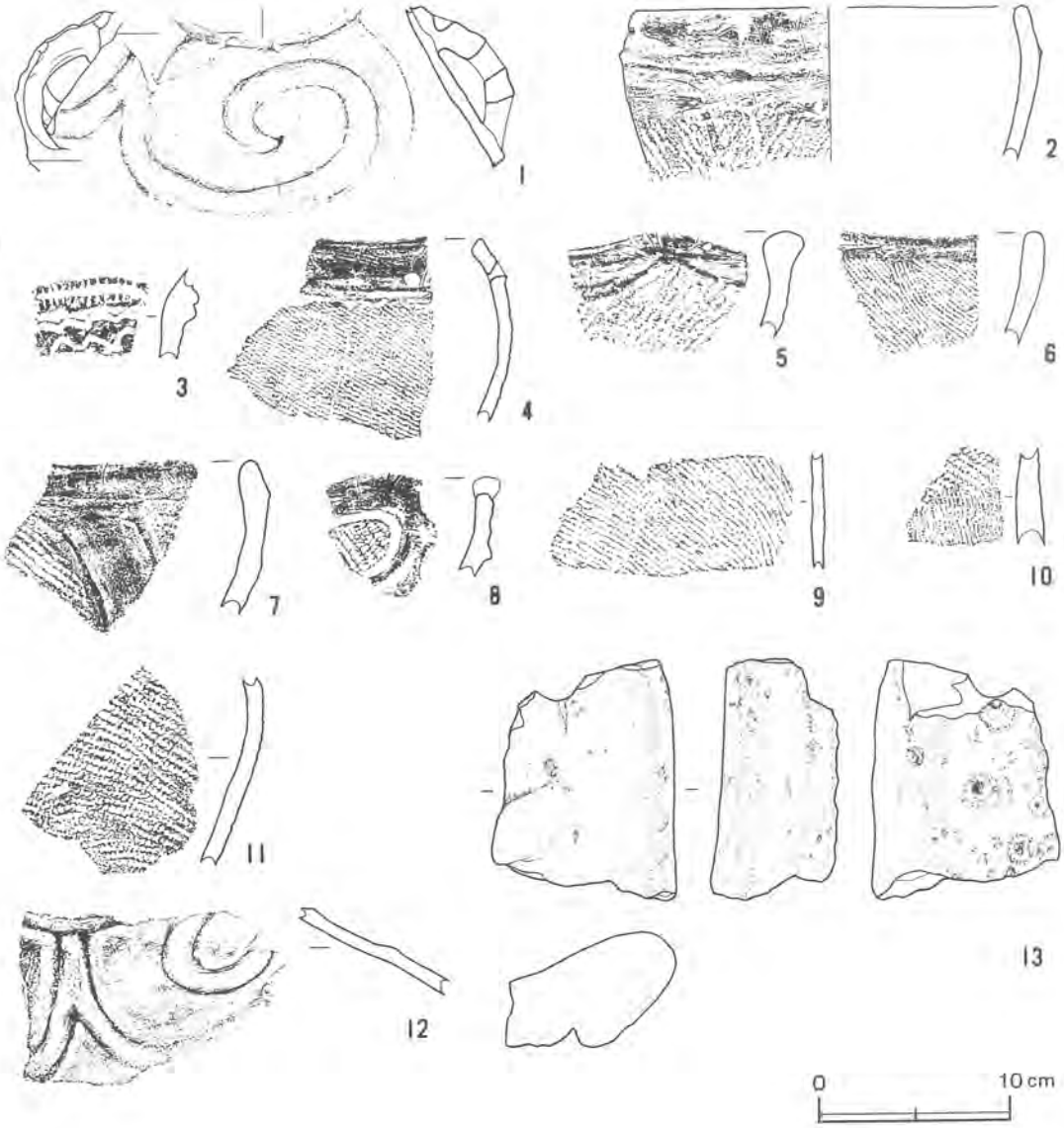
Ｓ Ⅰ－４　土層解説

1　褐　　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
3　明　褐　色　褐色土小ブロック中量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子極少量

Ｓ Ⅰ－４　炉土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量

第68図　第４号住居跡実測図



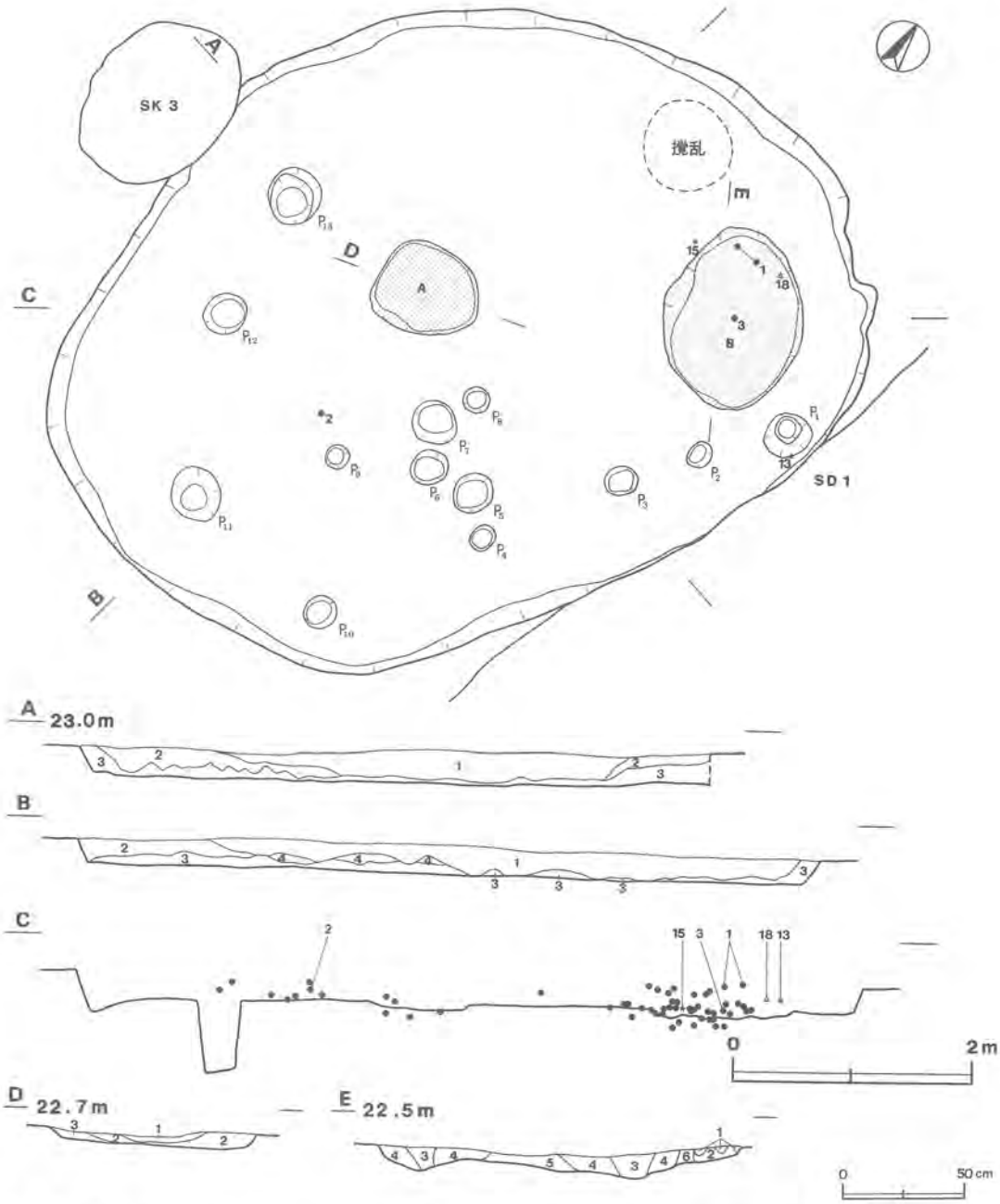
第69図　第４号住居跡出土遺物実測・拓影図

第５号住居跡（第70図）

位置　B5a$_9$区。

重複関係　第１号溝と第３号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径7.00ｍ，短径5.20ｍの楕円形。



S I－5　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　明　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ソフトローム小ブロック極少量

S I－5　炉A土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子極少量
3　褐　　色　ローム粒子少量

S I－5　炉B土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック中量
2　褐　　色　ハードローム中ブロック中量
3　極暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子極少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
6　ロームブロック

第70図　第5号住居跡実測図

壁　壁高は18～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏はあるが，ほぼ平坦である。あまり踏み固められていない。

炉　2か所。炉Aの平面形は，長径80cm，短径70cmの楕円形で，深さ5～8cmの地床炉であり，炉の底面が赤く焼けていないことから短期間の使用であったと考えられる。炉Bは，長径1.5m，短径1.1mの楕円形で，深さ10cm前後の地床炉であり，炉床は赤変硬化しロームがゴツゴツしていることから長期間使用したものと考えられる。

ピット　13か所。P_1，P_3，P_{10}～P_{13}は，径30～40cmの円形で，深さ40～70cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_4～P_9は，不規則に並び性格不明である。

覆土　4層からなる。1～3層は，壁際から流れ込んだものである。4層は，人為的に埋め戻したものと考えられる。北東側の1層から一括投棄したと思われる土器片が多量に出土している。

遺物　覆土上層から混入したと思われる縄文式土器片（口縁部88，胴部963，底部18点）が出土している。炉Bからは第71・72図3の深鉢の底部が出土している。炉Bの上層からは1の深鉢の口縁部が出土している。南側の覆土から2の深鉢の底部が出土している。覆土から13・15の有孔円板，14の土製円板，16の石皿，17の礫石斧，18の磨石，19・20の石鏃が出土している。

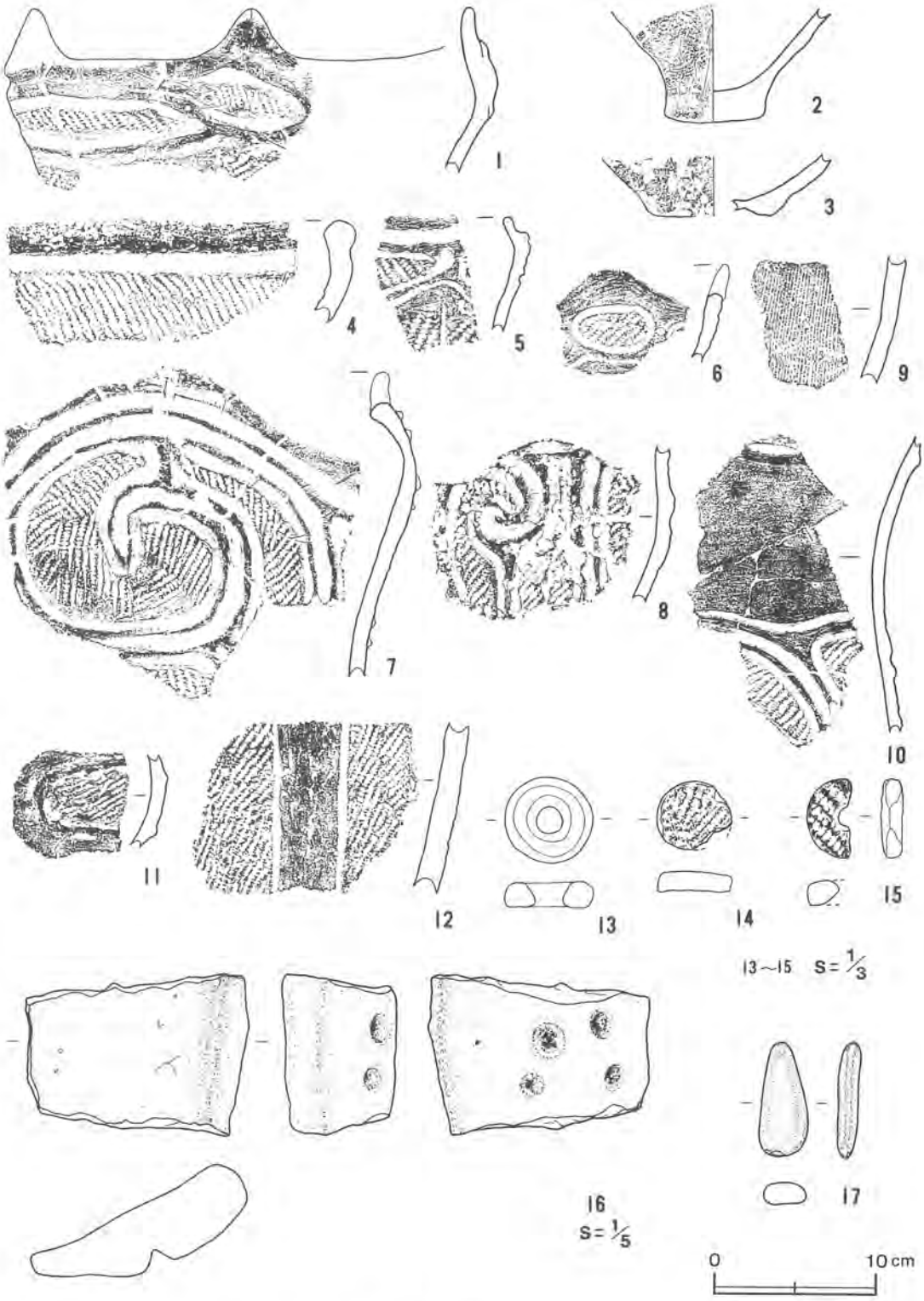
4～12は縄文式土器片の拓影図である。4は第1群のj類，5～7・11はf類に該当する口縁部片である。8は胴部に隆帯による渦巻文が描かれ，9はk類，10はh類，12はf類に該当する胴部片である。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利EⅣ式期）の住居跡である。

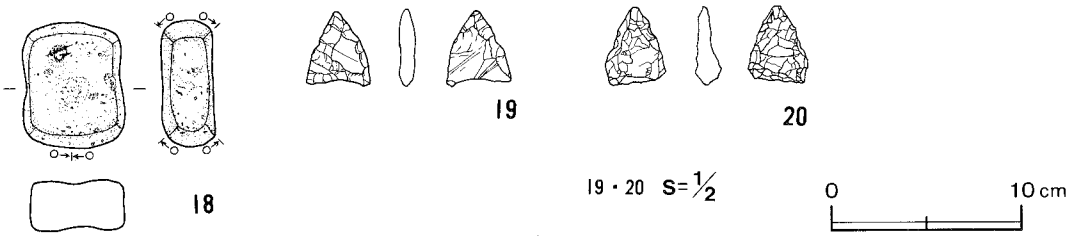
第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第71・72図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [27.4] B (10.3)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。山形の波頂部を有し口縁部の楕円区間に縄文を充填している。内面は，横位ナデが施されている。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P16 5%
2	深鉢形土器 縄文式土器	B [6.6] C 6.3	底部片。突出気味の底部である。底面から胴部下位は，内彎気味に外傾する。底面から7cm程までは，縦位ナデが施され，無文のまま残されている。	砂粒・パミス・石英 にぶい橙色 普通	P19 5%
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (3.8) C [7.2]	底部片。剥離が著しいため，詳細は不明である。	砂粒・長石・パミス 灰黄褐色 不良	P20 5%

図版番号	器　種	計測値 (cm)			孔径 (cm)	重量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
13	有孔円板	4.1	4.2	1.3	1.2	17.0	100	DP 1
14	土製円板	(3.2)	3.5	1.0		(10.4)	80	DP 2
15	有孔円板	3.8	2.1	1.2		(7.4)	50	一部欠損　DP 3



第71図　第５号住居跡出土遺物実測・拓影図（1）



第72図　第5号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	石　皿	(12.6)	(17.4)	9.0	(1429.3)	安山岩	Q 8
17	礫石斧	7.2	3.1	1.4	43.8	砂　岩	Q 9
18	磨　石	6.7	5.4	2.7	184.1	安山岩	Q10
19	石　鏃	2.0	1.7	0.4	1.3	黒曜石	Q11
20	石　鏃	2.1	1.6	0.7	1.4	石　英	Q12

第6号住居跡（第73図）

位置　A5j_9区。

重複関係　第1号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径6.86m，短径［5.22］mの楕円形。

壁　壁高は17～22cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏はあるが，ほぼ平坦である。全域踏み固められている。

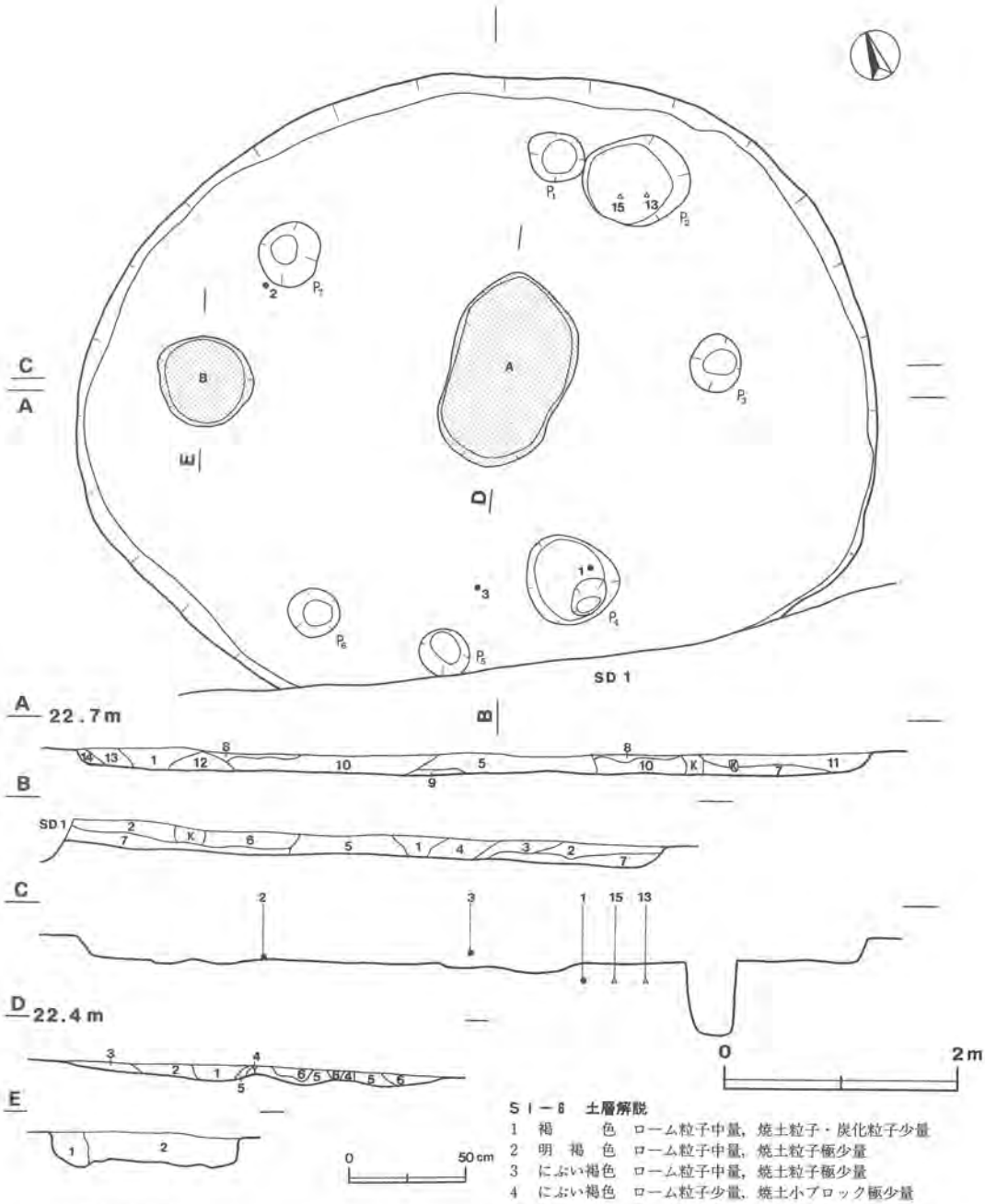
炉　2か所。炉Aの平面形は，長径1.6m，短径1.0mの楕円形で，深さ5～8cmの地床炉である。炉床は，赤変硬化している。炉Bは，径75cmの円形で，深さ15cm前後の地床炉であり，炉床は炉Aより赤変硬化しロームがレンガ状であるため，長期間使用したものと考えられる。

ピット　7か所。P_1，P_3，P_5～P_7は，径40cm前後の円形で，深さ50～65cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_4は径60～70cmの円形で，深さ60cmであり，性格不明である。

覆土　14層からなる。いずれの層もローム粒子を多量に含み，複雑な堆積をしている。6層から投棄されたと思われる土器片が出土している。

遺物　覆土上層と炉Aの付近から混入したと思われる縄文式土器片（口縁部98，胴部1,057，底部8点）が出土している。P_7の南側床面から第74図2の深鉢の底部が出土している。P_4からは1の深鉢の口縁部が出土している。P_2の覆土からは13・15の石鏃が出土している。P_5の北側からは3の台付深鉢の台部が出土している。炉Bの西側床面から14の石鏃が出土している。覆土から4の深鉢の把手，10～12の土製円板が出土している。

5～9は縄文式土器片の拓影図である。5・6は第1群のf類，7はh類，8はk類に該当する口縁部



Ｓ Ｉ － 6　炉Ａ土層解説

1　極暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子極少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量
3　褐　　色　ハードローム小・中ブロック少量
4　赤　褐　色　焼土ブロック
5　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
6　赤　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量

Ｓ Ｉ － 6　炉Ｂ土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量

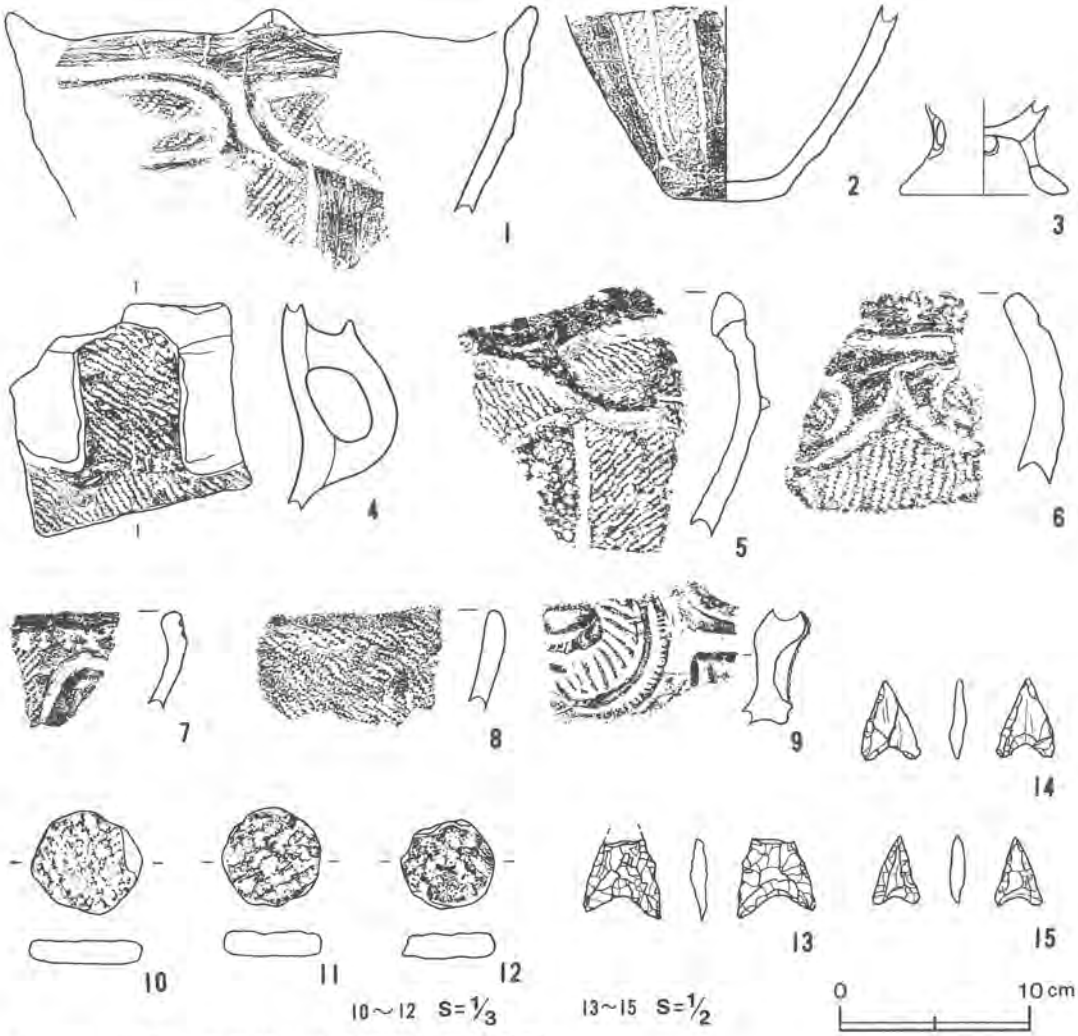
Ｓ Ｉ － 6　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　明　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
4　にぶい褐色　ローム粒子少量，焼土小ブロック極少量
5　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
7　褐　　色　ローム粒子少量
8　にぶい褐色　ローム粒子多量
9　褐　　色　ローム粒子中量
10　にぶい褐色　ローム粒子中量，　褐色土少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
11　明　褐　色　ローム粒子・褐色土少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
12　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
13　にぶい褐色　ローム粒子中量
14　明　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子極少量

第73図　第６号住居跡実測図

片である。7は口縁部直下に棒状工具による押圧が施されている。9はａ類に該当する胴部片である。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。



第74図　第６号住居跡出土遺物実測・拓影図

第６号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第74図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [28.1] B (10.9)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。山形の波頂部を有し，口縁部の楕円区間に単節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。以下直線的磨消帯が垂下している。	砂粒・スコリア・長石 黒褐色 普通	P25 5％ 外面にススが付着
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (9.8) C 6.0	底部から胴部片。底部から胴部下位にかけて，内彎気味に外傾する。胴部下位から底部にかけて，直線的磨消懸垂文が８単位施文され，区画間には単節縄文ＲＬが縦位回転で施文されている。底面から，1.5cm程までは横位ナデを施している。	砂粒・長石・パミス 明赤褐色 普通	P27 10％

3	台付鉢 縄文式土器	B (5.0) C 8.2	台部。裾はラッパ状に開く。台部中位に4つの円孔を有する。剥離が著しいため，詳細は不明である。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P28 10%

図版番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備考
		最大長	最大幅	最大厚			
10	土製円板	4.2	4.5	0.9	17.9	100	DP 4
11	土製円板	4.1	3.9	1.0	16.8	100	DP 5
12	土製円板	3.6	3.8	0.9	11.8	100	DP 6

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
13	石鏃	(2.1)	2.1	0.5	(1.5)	頁岩	先端欠 Q14
14	石鏃	2.1	1.6	0.4	0.8	チャート	Q13
15	石鏃	1.3	1.8	0.4	0.6	黒曜石	Q15

第7号住居跡（第75図）

位置　B5g_8区。

重複関係　第1号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径7.31m，短径6.22mの楕円形。

壁　壁高は23～27cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏はあるが，ほぼ平坦である。全域踏み固められている。

炉　2か所。炉Aの平面形は，長径90cm，短径70cmの不定形で，深さ5～10cmの地床炉である。炉床は，赤変硬化している。炉Bは，径50cmの楕円形で，深さ8cm前後の地床炉である。炉床は，炉Aより赤変硬化しロームがレンガ状であるため，長期間使用したものと考えられる。

ピット　11か所。P_1，P_3，P_6，P_7，P_9，P_{10}は，径25～30cm前後の円形で，深さ30～40cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_4，P_5，P_{11}は，径25～40cmの円形で，深さ70cmであり補助柱穴と考えられる。P_8は長径60cm，短径50cmで，深さ65cmとやや大きく土器片が多量に出土している。

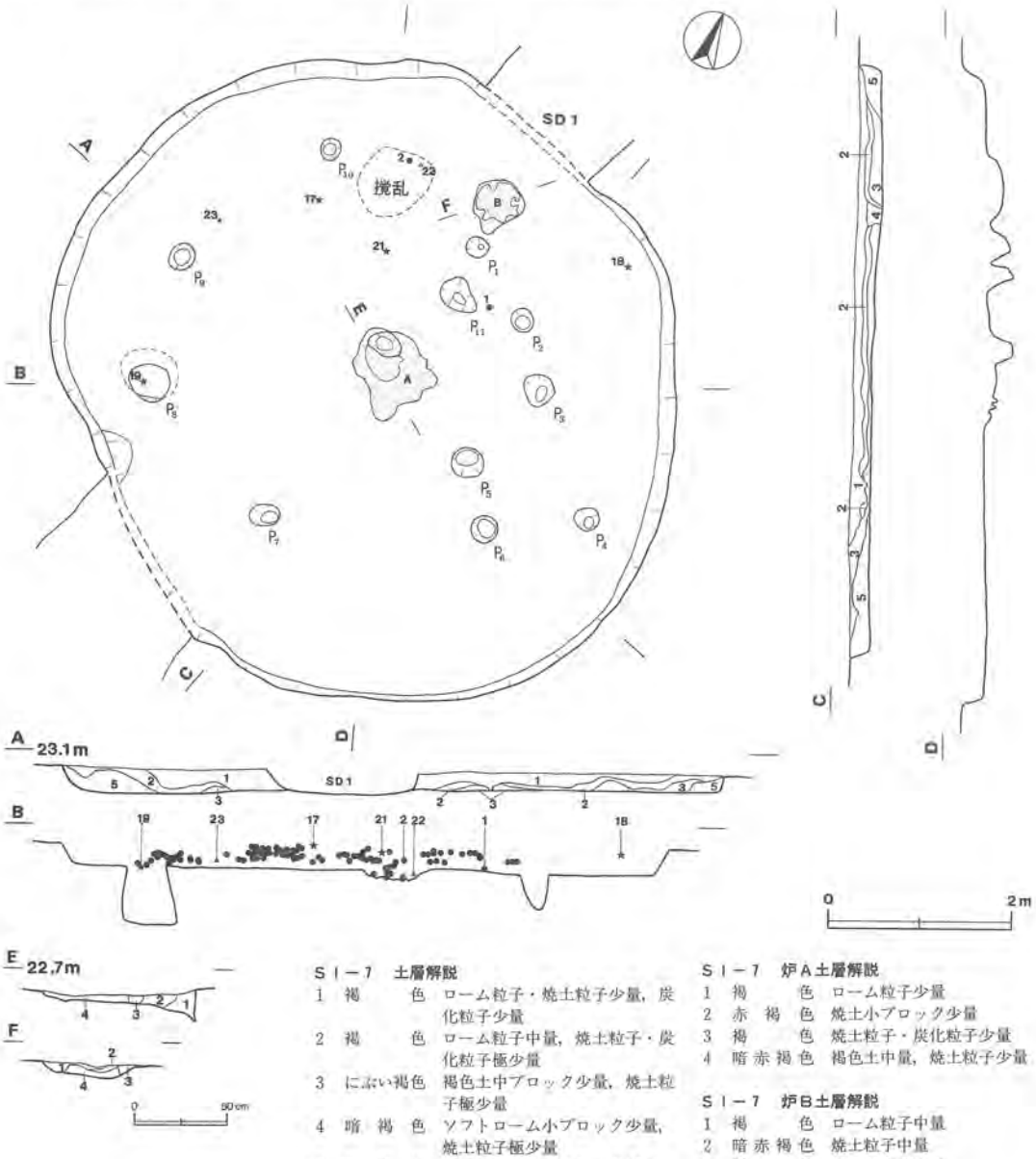
覆土　5層からなる。中央から北西側にかけた1・3・5層から，一括投棄されたと思われる土器片が多量に出土している。いずれの層にもローム粒子とロームブロックが多量に含まれているため，人為堆積と考えられる。

遺物　覆土上・中層から混入したと思われる縄文式土器片（口縁部80，胴部688，底部16点）が出土している。P_{11}の東側床面からは第76図1の深鉢の底部が倒位の状態で出土している。北西側からは17～19の土製円板が出土している。床面の北側からは22の石皿，西側からは23の磨製石斧が出土している。P_6からは24のメノウの剥片が出土している。覆土から2の深鉢の把手，20・21の有孔

円板が出土している。

3～16は縄文式土器片の拓影図である。3･11は第1群のf類，4～10はj類に該当する口縁部片である。7は沈線直下に円形の刺突文が施されている。12はf類，14･15はj類に該当する胴部片である。13は胴部に隆帯による渦巻状の文様が描かれている。16は第3群のc類に該当する胴部片である。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）の住居跡である。



S I－7　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　にぶい褐色　褐色土中ブロック少量，焼土粒子極少量
4　暗　褐　色　ソフトローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
5　明　褐　色　ハードローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量

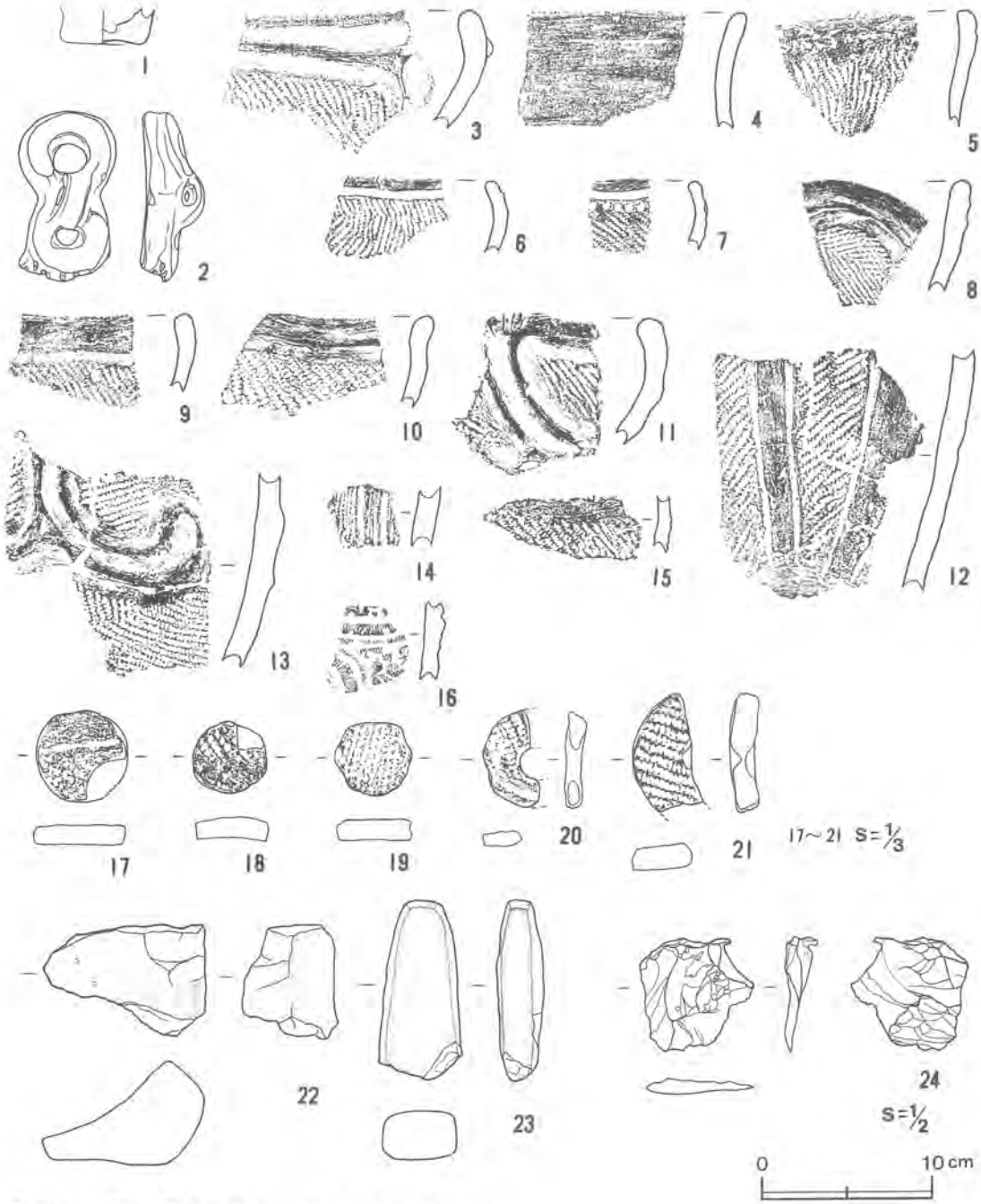
S I－7　炉A土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量
2　赤　褐　色　焼土小ブロック少量
3　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　褐色土中量，焼土粒子少量

S I－7　炉B土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　ロームブロック

第75図　第7号住居跡実測図



第76図　第７号住居跡出土遺物実測・拓影図

第７号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 76 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (2.1) C 5.0	底部片。底面から1.5cm程まで横位ナデを施している。内面は剝離が著しいため，詳細は不明である。	砂粒 橙色 普通	P31 5％

図版番号	器　種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
17	土製円板	4.1	4.1	0.9	(17.6)	90	DP 7
18	土製円板	3.2	3.3	1.1	(12.2)	90	DP 8
19	土製円板	3.2	3.5	0.9	11.1	100	DP 9
20	有孔円板	(4.4)	(2.5)	0.7	(6.0)	45	一部欠損　DP10
21	有孔円板	(5.3)	(3.0)	1.2	(16.1)	30	一部欠損　DP11

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
22	石　皿	(6.5)	(9.4)	5.6	(310.2)	安山岩	裏面が凹み 一部欠損　Q16
23	磨製石斧	(10.6)	4.9	2.8	(237.5)	緑泥片岩	刃部欠　Q17
24	剝　片	3.4	3.4	1.0	5.4	メノウ	Q18

第8号住居跡（第77図）

位置　B5e_7区。

重複関係　第1号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径6.45m，短径5.00mの楕円形。

壁　壁高は21～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周辺が特に踏み固められている。

炉　中央部にある。平面形は，長径80cm，短径70cmの楕円形で，深さ12cmの地床炉である。炉床は，ロームがレンガ状に赤変硬化している。

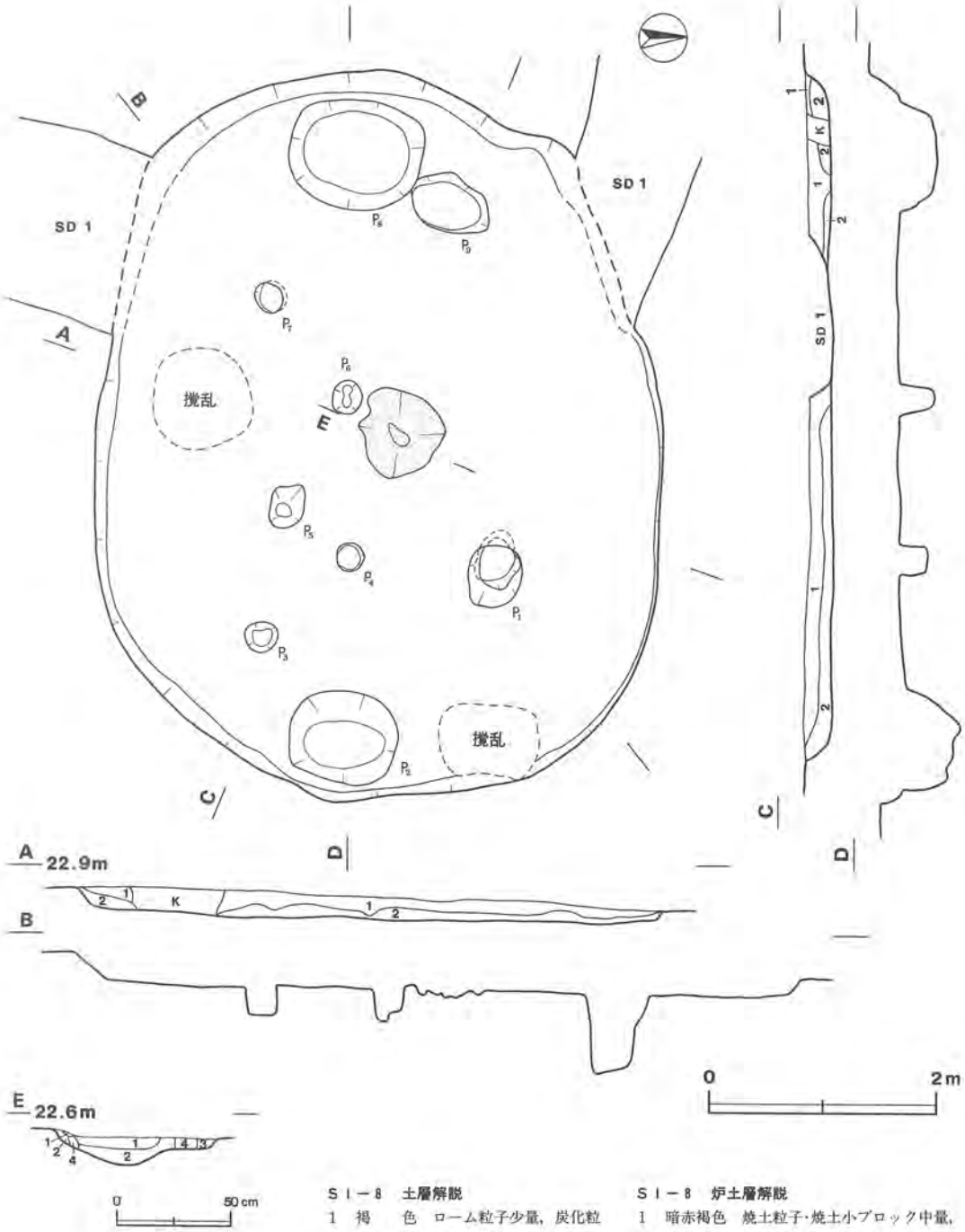
ピット　9か所。P_3，P_7は，径30cm前後の円形で，深さ30cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_4～P_6は，径30cm前後の円形で，深さ26～30cmであり補助柱穴と考えられる。P_1，P_9は長径70cm，短径50cmの楕円形で，深さ70cmであり，位置的には主柱穴と思えるが，性格不明である。P_2，P_8は，長径1.2～1.0m，短径1.0～0.8mの楕円形で，深さ30～50cmであり土器片が出土しているが，性格不明である。

覆土　2層からなり，自然堆積と考えられる。1層から流れ込みと思われる土器片が出土している。

遺物　覆土から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部20，胴部222，底部2点），陶器片（1点）が出土している。覆土から第78図2の深鉢の把手，1の深鉢の底部，8のチャートの剝片が出土している。床面から遺物は出土していない。

3～7は縄文式土器片の拓影図である。3は第1群のf類，4･5はj類に該当する口縁部片である。7はj類に該当する胴部片である。6は第2群のd類に該当する口縁部片で沈線が蛇行し，口唇部に幅の広い沈線が施されている。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



S I－8　土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量

2　明 褐 色　褐色土中量，ハードローム小ブロック少量

S I－8　炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量

2　暗赤褐色　焼土大ブロック少量，焼土粒子少量

3　暗 褐 色　ソフトローム小・中ブロック少量

4　ロームブロック

第77図　第8号住居跡実測図

第78図　第8号住居跡出土遺物実測・拓影図

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第78図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (3.6) C [7.0]	底部片。突出した底部。底面から3cm程まで横位ナデを施している。	砂粒・長石 明赤褐色　普通	P35 5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	剥　片	2.9	2.9	1.8	16.1	チャート	Q20

第9号住居跡（第79図）

位置　B5d_6区。

規模と平面形　長径5.83m，短径5.55mの円形。

壁　壁高は14～20cmで，外傾して立ち上がっている。

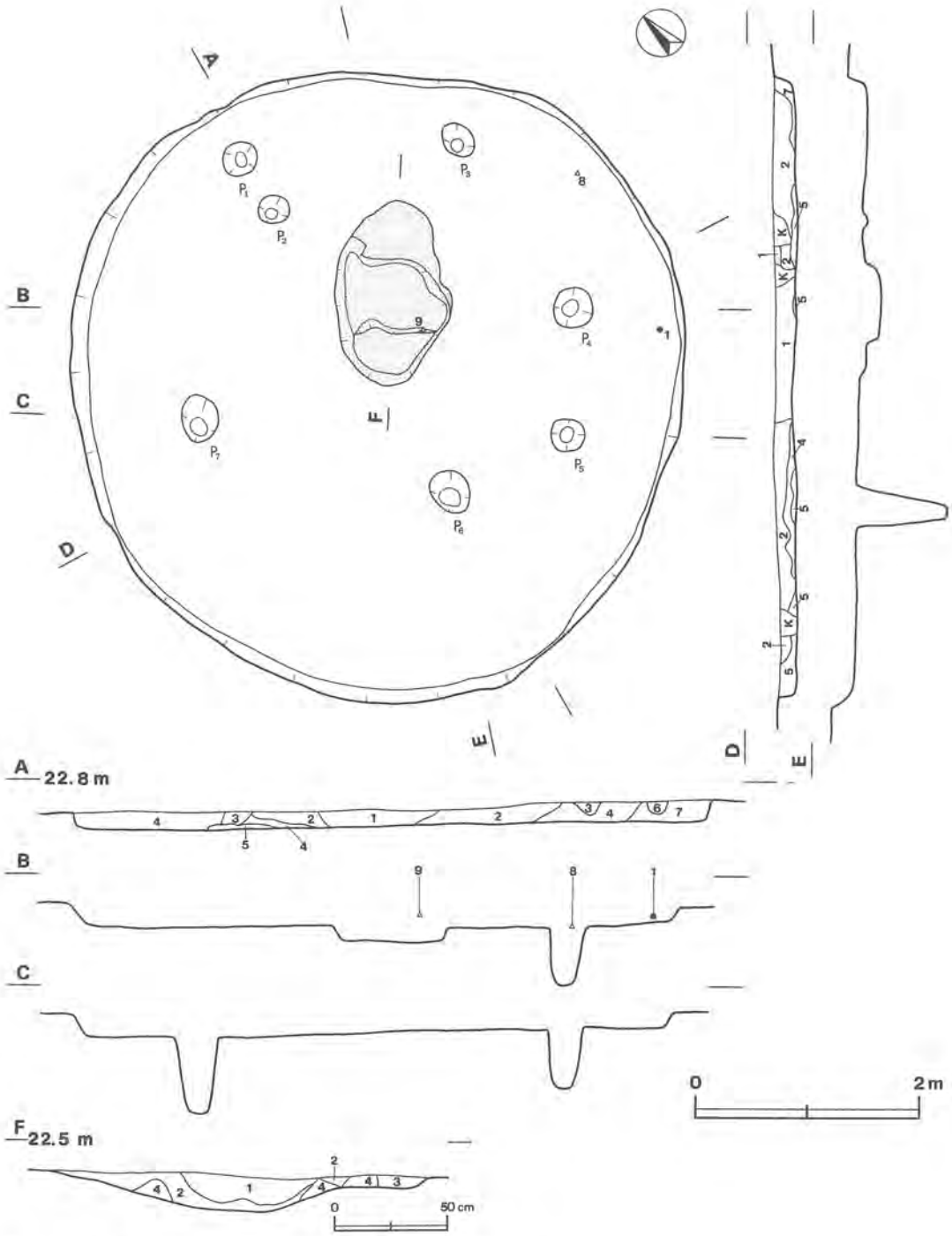
床　ほぼ平坦で，炉の周辺が特に踏み固められている。

炉　中央から北東にある。平面形は，長径1.2m，短径1.0mの楕円形で，深さ15cmの地床炉である。炉床は，ロームがレンガ状に赤変硬化している。

ピット　7か所。P_2～P_7は，径30～40cmの円形で，深さ55～85cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_1は，径30cmの円形で，深さ63cmでありP_2の補助柱穴と考えられる。

覆土　7層からなる。1・2層の占める割合が大きいが，各層ともロームブロックを含み，複雑な堆積をしている。

遺物　覆土から混入と思われる縄文式土器片（口縁部17，胴部201点）が出土している。南側壁際から第80図1の深鉢の底部が出土している。東壁際から東向きに横たわった状態で凹石に使用され



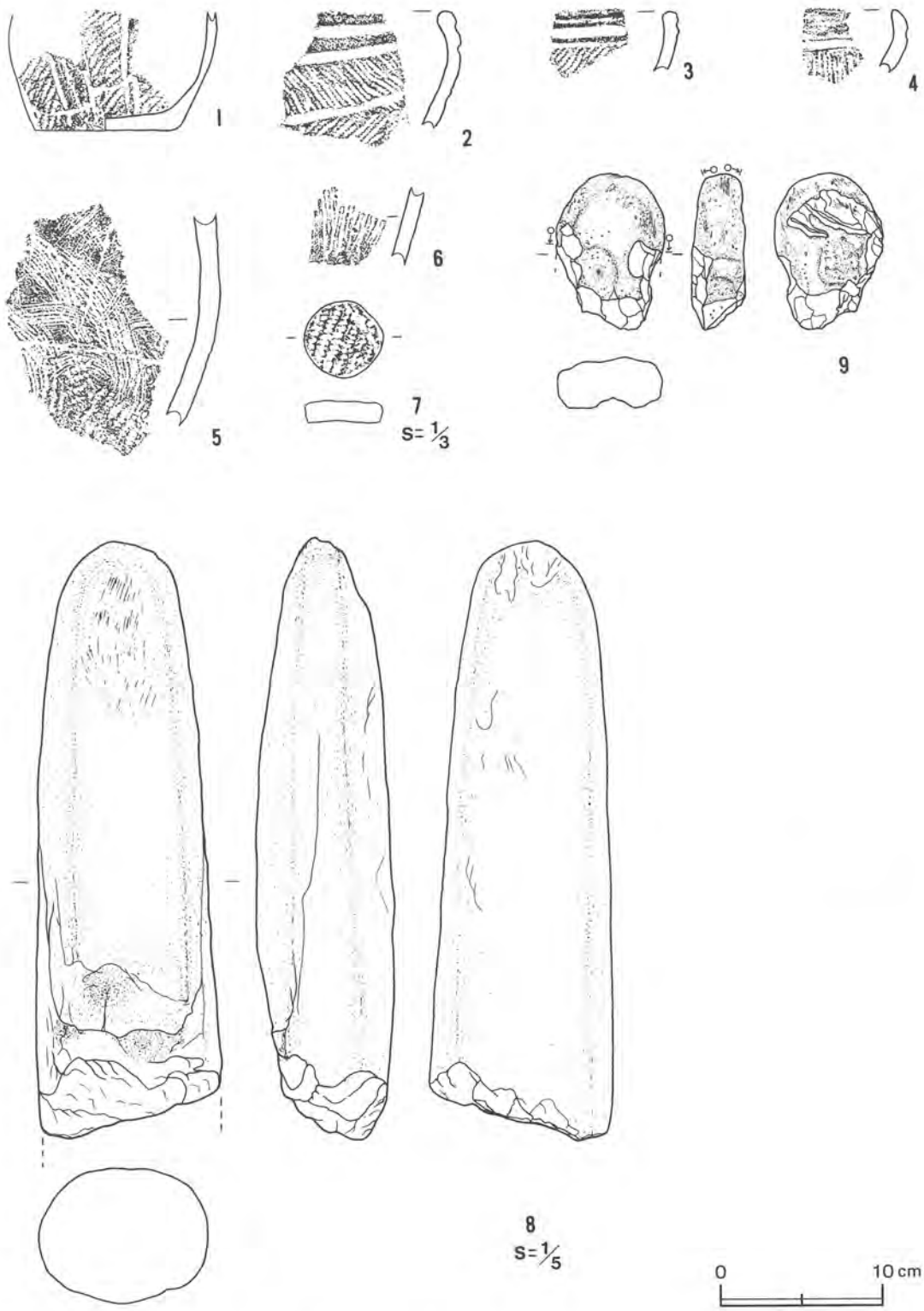
S I－9　炉土層解説

1　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，炭化粒子極少量
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック少量
4　赤　褐　色　焼土ブロック

S I－9　土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ソフトローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ソフトローム小ブロック少量
4　にぶい褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック極少量
5　明　褐　色　ハードローム小・中ブロック中量，焼土粒子極少量
6　暗　褐　色　ソフトローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
7　明　褐　色　ハードローム中ブロック少量，焼土粒子極少量

第79図　第9号住居跡実測図



第80図　第9号住居跡出土遺物実測・拓影図

た8の巨大石棒が出土している。炉内からは9の磨石が出土している。覆土から7の土製円板が出土している。床面から遺物は出土していない。

2～6は縄文式土器片の拓影図である。2は第1群のf類，3･4はj類に該当する口縁部片である。5･6はj類に該当する胴部片である。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第 80 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (7.3) C 8.6	底部から胴部片。底部から胴部下位は内彎しながら立ち上がる。外面には2本組の沈線による磨消懸垂文を施し，一部には磨消帯に1本の沈線を付加している。区画間には，撚りの弱い単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 不良	P36 10%

図版番号	器　種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
7	土製円板	3.7	3.8	1.0	14.8	100	DP12

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	石　棒	(46.7)	14.2	11.0	(11100.0)	緑色凝灰岩	Q21
9	磨　石	(9.7)	7.2	3.2	(151.5)	安山岩	Q22

第10号住居跡（第81図）

位置　B5c_7区。

規模と平面形　長径5.10m，短径4.91mの円形。

壁　壁高は25～31cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，全域踏み固められている。南側は，撹乱により確認できない。

炉　中央からやや東側にある。平面形は，径60cmの円形で，深さ5cmの地床炉である。炉床は，ロームがレンガ状に赤変硬化している。

ピット　7か所。P_1，P_3，P_5～P_7は，径30～40cmの円形で，深さ32～53cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_4は，長径50cm，短径30cmの楕円形で，深さ40cmであり，底部が狭くなっている。位置的に補助柱穴と考えられる。炉の南側にあるP_2は，撹乱を受けている。

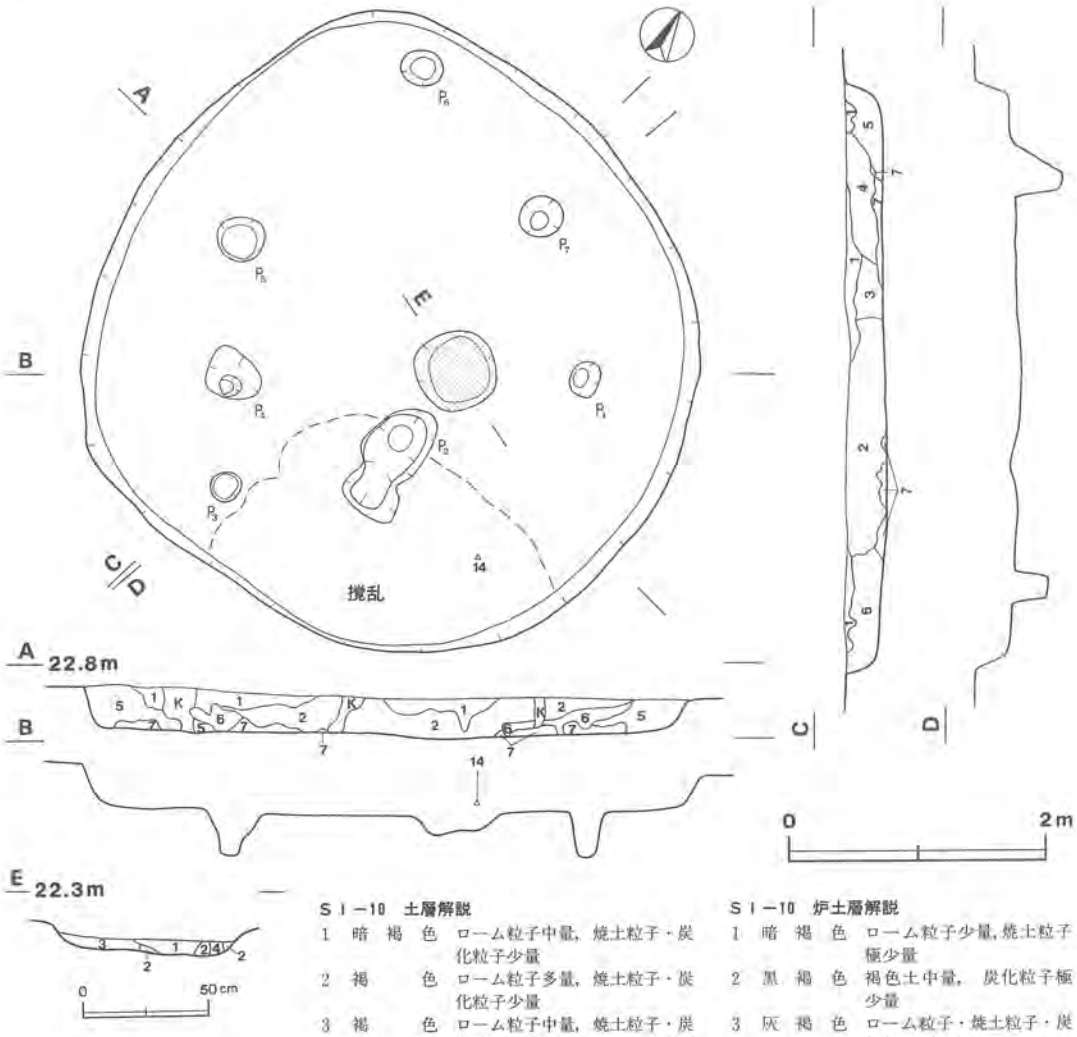
覆土　7層からなり，非常に複雑な堆積をしている。各層から土器片が出土しているが，特に2層から一括投棄と思われる多量の土器片がまとまって出土している。

遺物　覆土全域から混入と思われる縄文式土器片（口縁部48，胴部298点），擂鉢片（1点），内耳土器片（1点），陶器片（7点）が出土している。南東側壁際から第82図14の石皿が出土している。

覆土から12の土製円板，13の有孔円板，15のチャートの剥片が出土している。床面から遺物は出土していない。

1～11は縄文式土器片の拓影図である。1は第1群のa類，2はb類，3･4はf類，5～8はj類に該当する口縁部片である。1はヒダ状の指圧痕，7･8は沈線直下に円形刺突文が施されている。9はf類，10・11はj類に該当する胴部片である。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



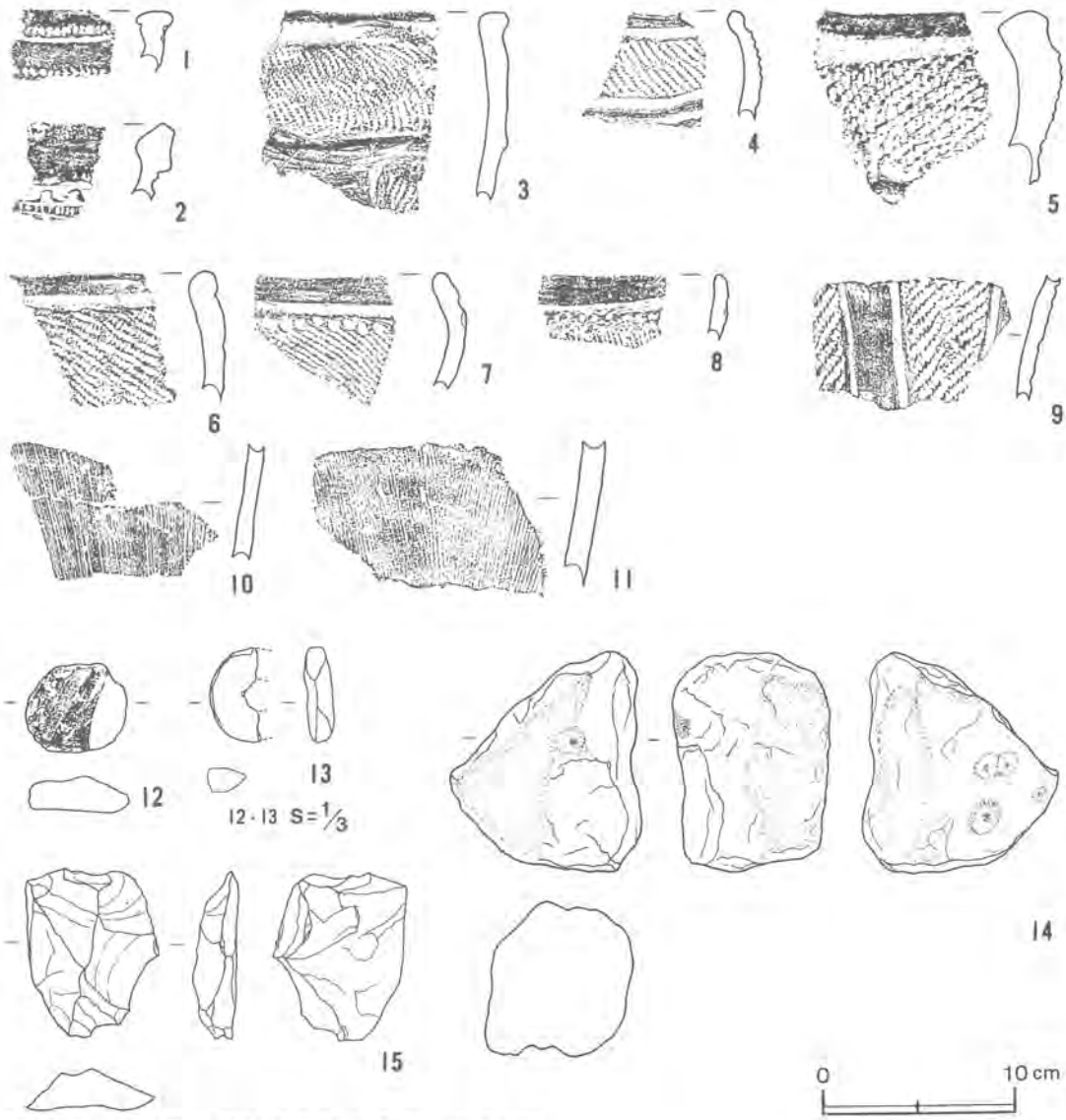
S I－10　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ソフトローム小ブロック極少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　にぶい褐色　褐色土中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　明　褐　色　ハードローム小ブロック・褐色土中ブロック少量
7　にぶい褐色　ハードローム小・中ブロック中量

S I－10　炉土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
2　黒　褐　色　褐色土中量，炭化粒子極少量
3　灰　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量
4　赤　褐　色　焼土大ブロック中量，褐色土少量

第81図　第10号住居跡実測図



第82図　第10号住居跡出土遺物実測・拓影図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			重　量 (g)	現存率 (%)	備　　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第82図12	土製円板	3.7	4.1	1.4	(20.9)	85	一部欠損　DP13
13	有孔円板	(3.9)	(1.9)	1.0	(6.6)	45	一部欠損　DP14

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	石　皿	(11.8)	(10.2)	8.5	(1119.9)	花 崗 岩	表裏面が凹み 一部欠損　Q23
15	剥　片	4.5	3.6	1.2	16.6	チャート	Q24

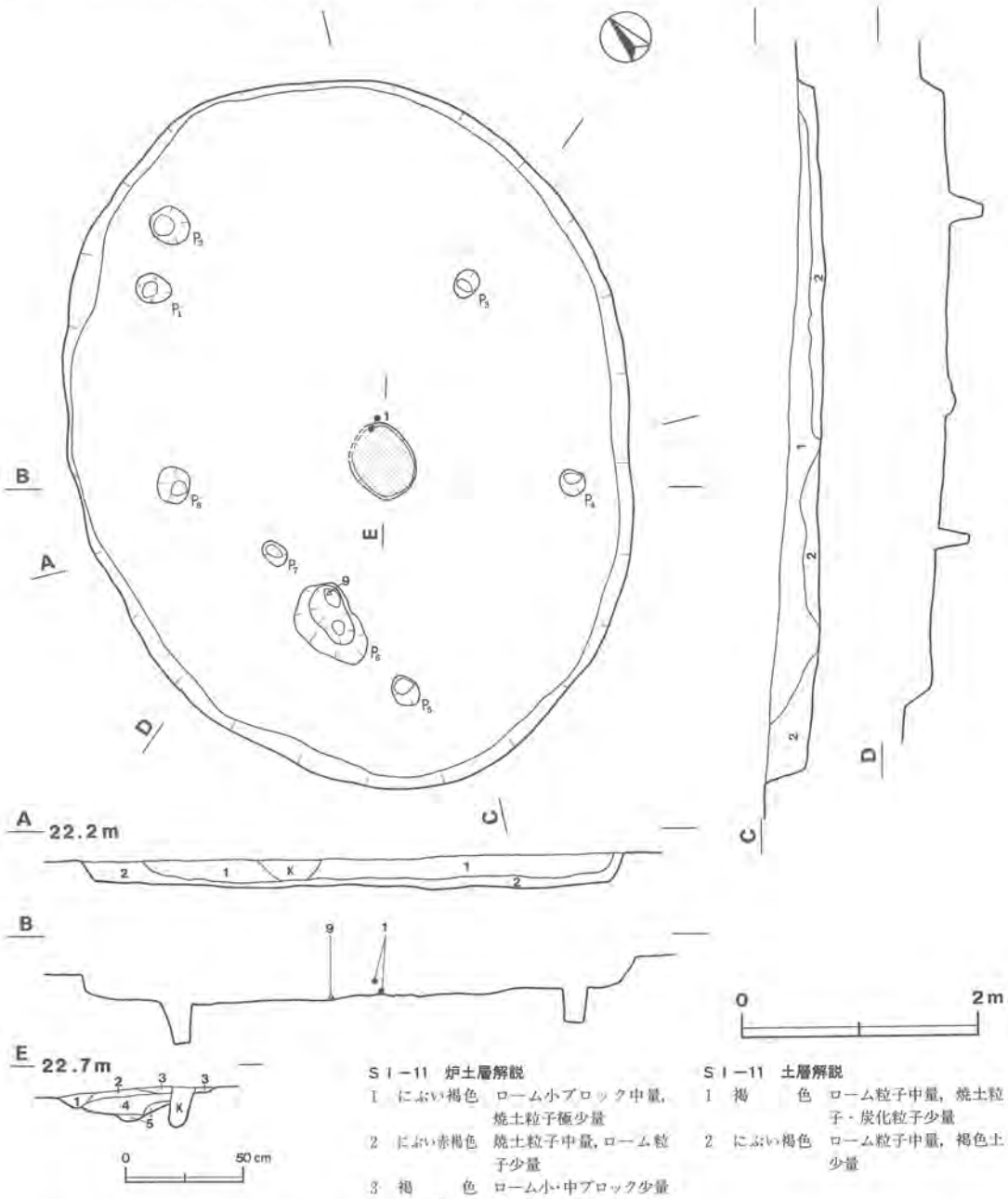
第11号住居跡（第83図）

位置　A5i5区。

規模と平面形　長径6.13m，短径4.70mの楕円形。

壁　壁高は16～31cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周辺が特に踏み固められている。



S I－11　炉土層解説

1　にぶい褐色　ローム小ブロック中量，焼土粒子極少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
3　褐　色　ローム小・中ブロック少量
4　赤 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子極少量
5　明 赤 褐 色　焼土中ブロック多量

S I－11　土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量

第83図　第11号住居跡実測図

炉　ほぼ中央にある。長径60cm，短径50cmの楕円形，深さ10cm程の地床炉である。炉床は，赤変硬化している。

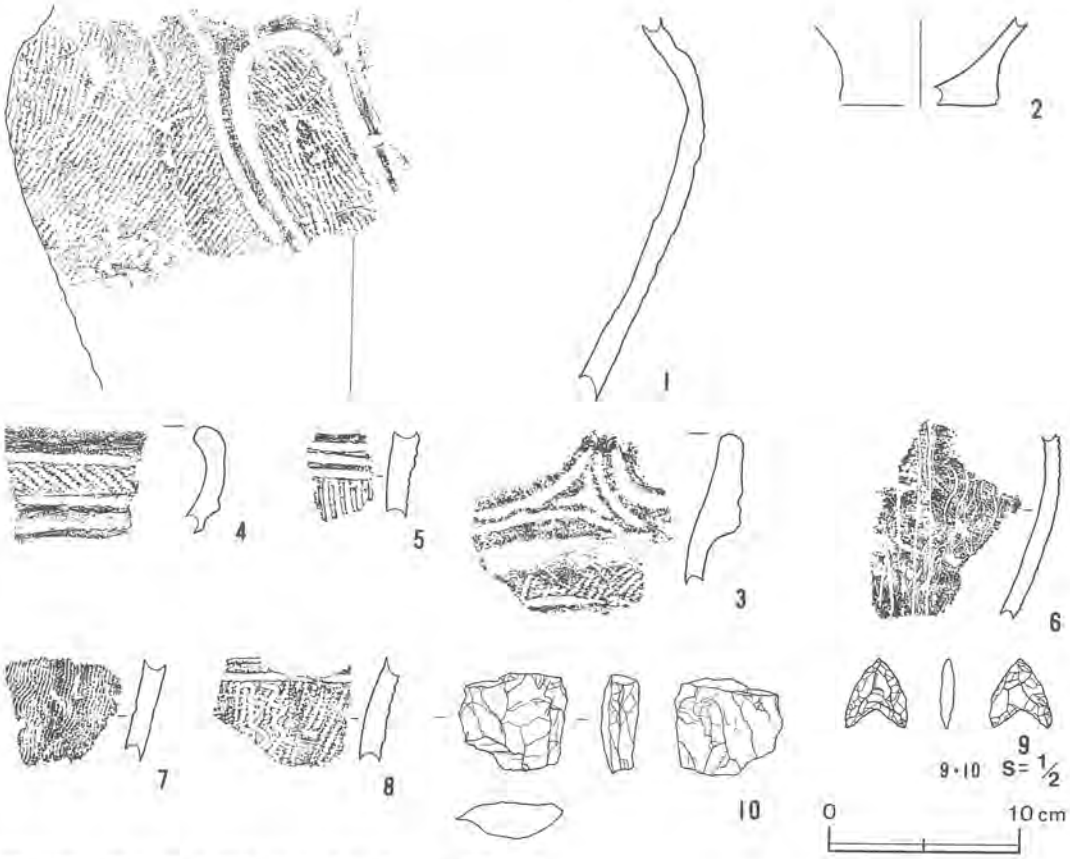
ピット　8か所。P_2～P_5，P_8は，径20～30cmの円形で，深さ30～40cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_1，P_7は，径20cm前後の円形で，深さ30～40cmであり，補助柱穴と考えられる。P_6は，性格不明である。

覆土　2層からなる。1層が大部分を占め，流れ込みと思われる土器片を多量に含み，自然的な堆積をしている。

遺物　覆土上層から縄文式土器片（口縁部55，胴部613，底部5点）が出土している。炉内から第84図1の深鉢の胴部が出土している。覆土から2の深鉢の底部が出土している。P_6からは，9の石鏃が出土している。P_7の南側からは，10のチャートの剥片が出土している。

3～8は縄文式土器片の拓影図である。3は第1群のa類，4はg類に該当する口縁部片である。5はa類，6・7はj類，8は第2群のc類に該当する胴部片である。6は直線と曲線の沈線が施され，8は沈線が蛇行している。

所見　本跡は縄文時代中期（加曽利EIII式期）の住居跡である。



第84図　第11号住居跡出土遺物実測・拓影図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 84 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (20.3)	胴部片。胴部は外傾しながら立ち上がる。胴部上位から口縁部にかけて楕円形の区画に縄文を充填し，胴部に単節縄文ＬＲを縦位回転で施文している。	砂粒・パミス・スコリア にぶい橙色　普通	P37 10%
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (4.7)	底部片。底面から３cm程までは横位ナデが施されている。	砂粒・長石 灰黄褐色　普通	P42 5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	石　鏃	1.9	1.6	0.3	0.3	チャート	Q25
10	剝　片	2.6	2.9	1.0	6.8	チャート	Q26

第12号住居跡（第85図）

位置　B5a_4区。

重複関係　第14・21号土坑，第３号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径6.68ｍ，短径6.00ｍの楕円形。

壁　壁高は24～90cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　わずかに起伏があり，全域踏み固められている。

炉　ほぼ中央にある。長径2.2ｍ，短径1.5ｍの不定形で，深さ25cmの大きな地床炉である。炉床は赤変硬化している。

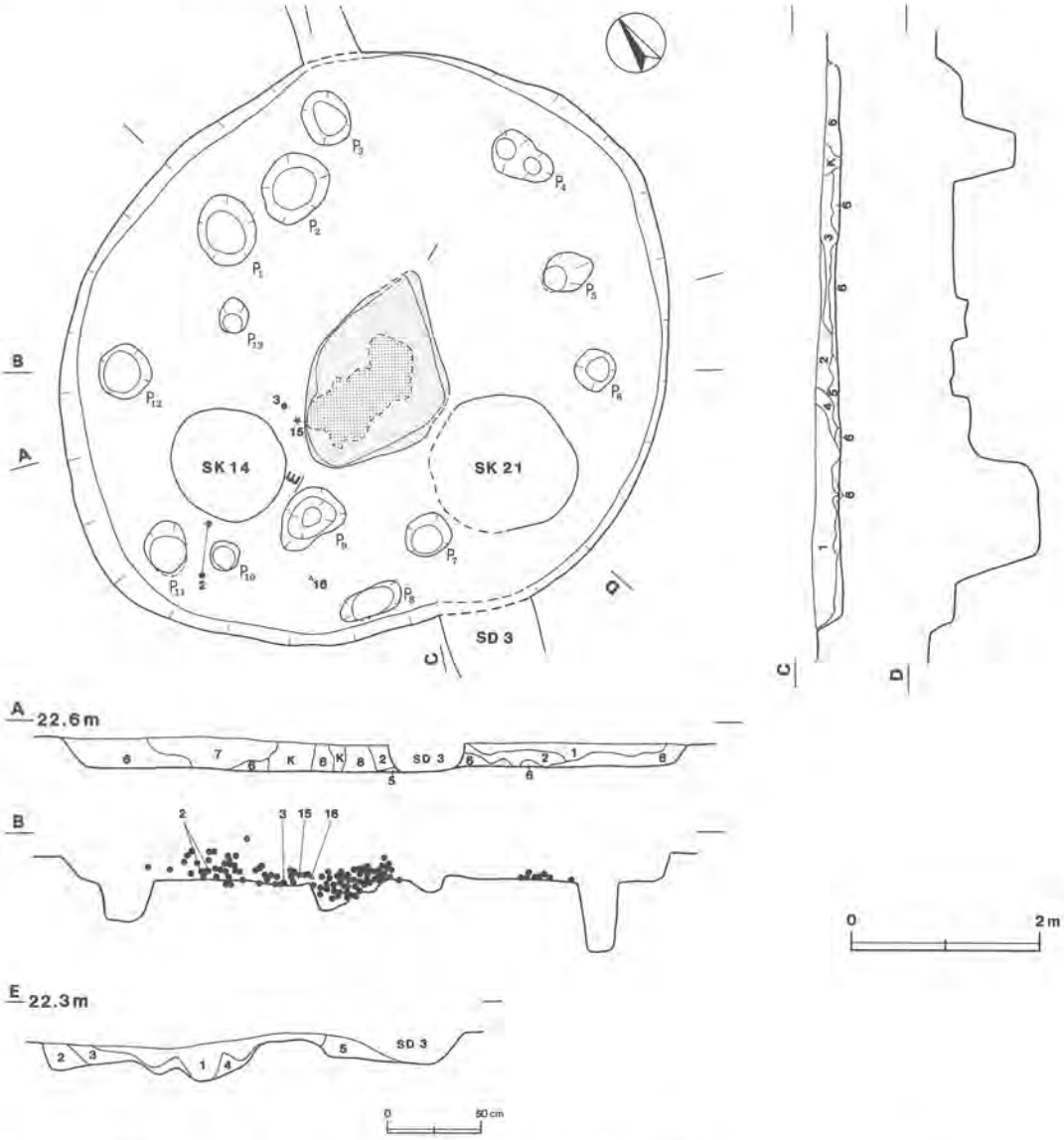
ピット　13か所。P_3，P_4，P_6，P_7，P_{10}，P_{12}は，径30～50cmの円形で，深さ40～70cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_1，P_2，P_9は，径60cm円形で，深さ40～60cmであり，性格は不明である。P_8，P_{11}は壁際に位置しており，補助柱穴と考えられる。P_5は，径50cmの円形で，深さ70cmで外側向きに掘り込まれている。

覆土　８層からなる。ローム粒子を含み，人為堆積をしている。中央から西側にかけての７・８層から多量の土器片が出土している。

遺物　覆土下層から縄文式土器片（口縁部132，胴部1,213，底部15点）が出土している。P_{10}の北側から第86図2の深鉢の胴部が出土している。炉の西側床面から3の深鉢の底部が出土している。南側の覆土中から1の深鉢の口縁が出土している。炉の西側から15の土製円板が出土している。南西壁際から16の磨石が出土している。覆土から17の凹石が出土している。

4～14は縄文式土器片の拓影図である。4～9は第１群のｊ類に該当する口縁部片である。4･6は２条の沈線を巡らし，7は沈線間に１列の刺突文，8･9は口縁部直下に２列の刺突文を巡らしている。10･11はｆ類に該当する口縁部片と考えられる。12は口縁部直下に１条の沈線を巡らし，下に沈線による１対の蕨手状文が描かれている。13はａ類，14はｊ類に該当する胴部片である。

所見　中央から西側にかけて土器片が集中しているため，一括投棄したものと考えられる。本跡は，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。



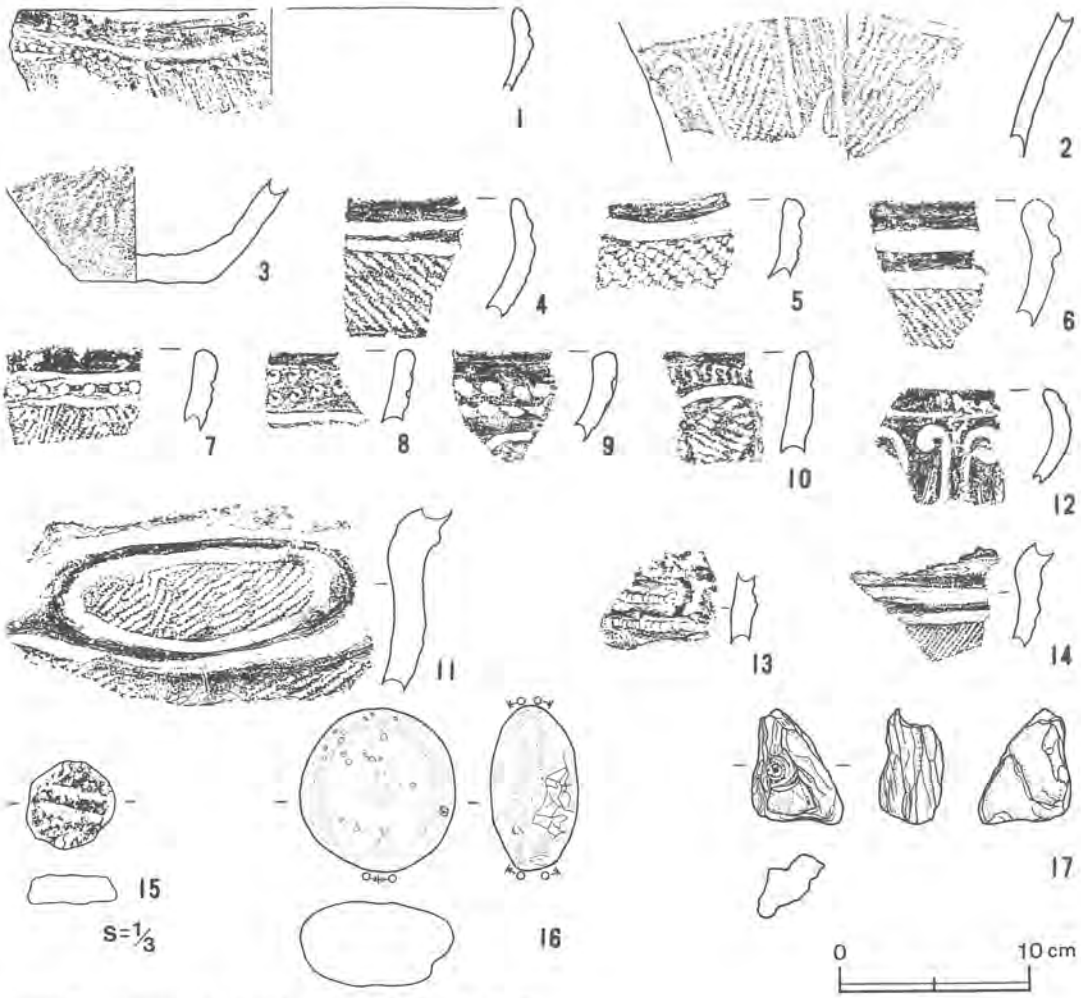
Ｓｉ－12　土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量
2　褐　　色　ローム粒子少量，　焼土中ブロック極少量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　灰　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土極少量
7　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量，焼土粒子極少量
8　灰　褐　色　褐色土・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

Ｓｉ－12　炉土層解説

1　暗 赤 褐 色　黒色土中量，　焼土小ブロック少量
2　にぶい褐色　褐色土中量，焼土小ブロック極少量
3　にぶい褐色　褐色土・焼土粒子少量
4　褐　　色　褐色土中量，焼土小ブロック少量
5　ロームブロック

第85図　第12号住居跡実測図



第86図　第12号住居跡出土遺物実測・拓影図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第86図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [25.2] B (4.3)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部直下に1条の沈線を加え，その下に棒状施文具による刺突列を1条巡らしている。以下は，条線文が施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P43 5%
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (7.6)	胴部片。外面には磨消懸垂文を施し，区画間には粗い単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒・長石 にぶい橙色　普通	P44 5%
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (5.5) C 6.9	底部片。外面は摩耗が著しいため，詳細は不明である。	砂粒・長石・パミス にぶい橙色　普通	P45 5%

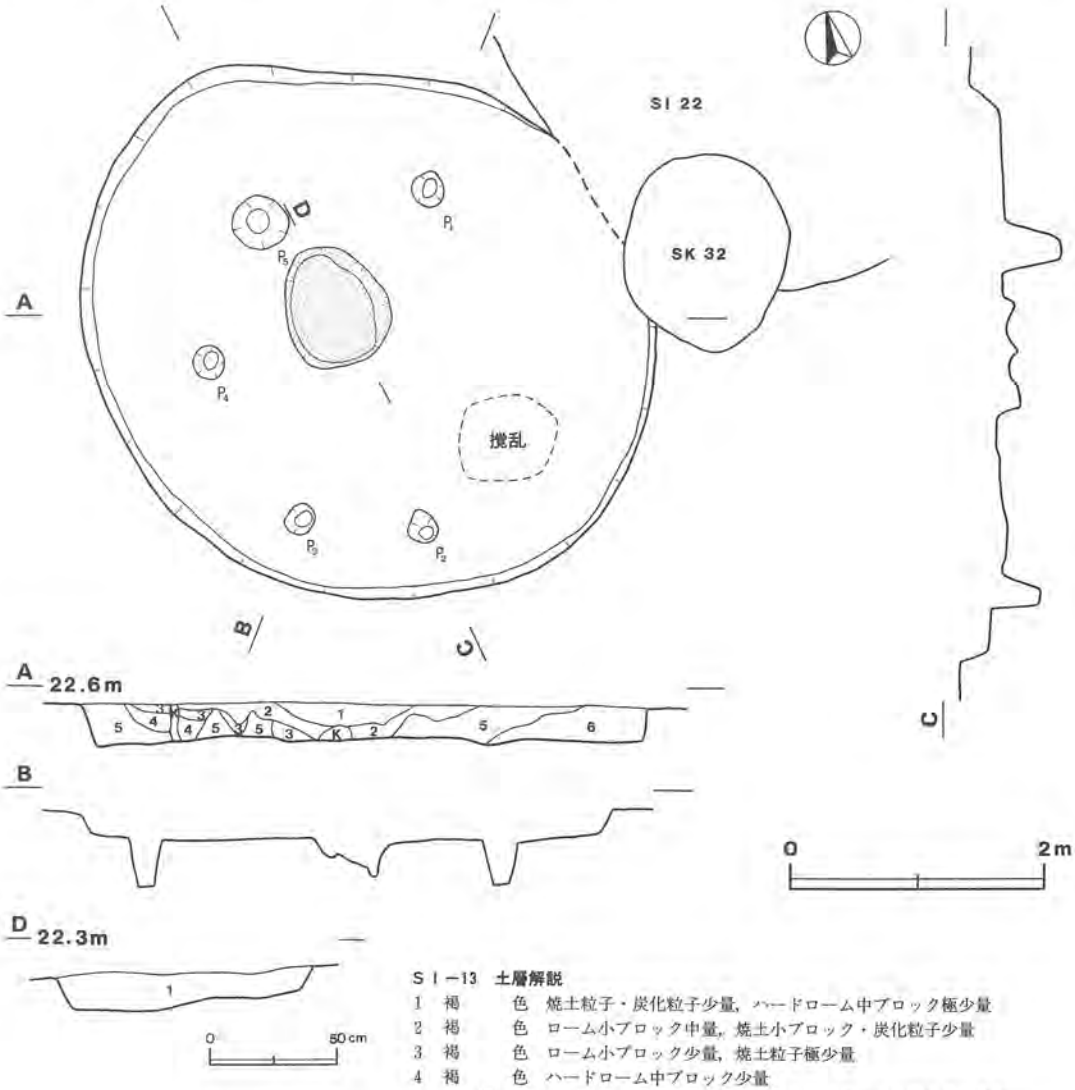
図版番号	器　種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
15	土製円板	3.5	3.5	1.2	12.2	100	DP15

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	磨　石	8.7	8.2	4.5	405.4	凝 灰 岩	Q27
17	凹　石	(6.1)	(4.9)	(6.1)	(84.8)	雲母片岩	一部欠損　Q28

第13号住居跡（第87図）

位置　B5d₂区。

重複関係　第22号住居跡と重複しているが，新旧関係は不明である。第32号土坑に掘り込まれて



SI－13　土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ハードローム中ブロック極少量
2　褐　　色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
4　褐　　色　ハードローム中ブロック少量
5　明　褐　色　ハードローム中ブロック・褐色土中ブロックを斑点状に含む
6　明　褐　色　ハードローム中ブロック斑点状に含む

SI－13　炉土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

第87図　第13号住居跡実測図

いる。

規模と平面形　長径4.77m，短径4.19mの楕円形。

壁　壁高は16～20cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　凹凸し，あまり硬くない。

炉　ほぼ中央にある。長径1.0m，短径0.8mの楕円形で，深さ5cm程の地床炉である。焼土ブロックが少量で，炉床もあまり赤く焼けていないので，短期間の使用であったと考えられる。

ピット　5か所。いずれも径20cm程の円形で，深さ40～45cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。

覆土　6層からなる。ハードロームブロックを含み，人為的な堆積をしている。1～3層に焼土粒子や焼土ブロックが含まれている。

遺物　覆土中層から縄文式土器片（口縁部8，胴部46，底部1点）が出土している。床面から遺物は出土していない。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第15号住居跡（第88図）

位置　B5f_5区。

重複関係　第3号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径5.57m，短径5.36mの円形。

壁　壁高は10～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

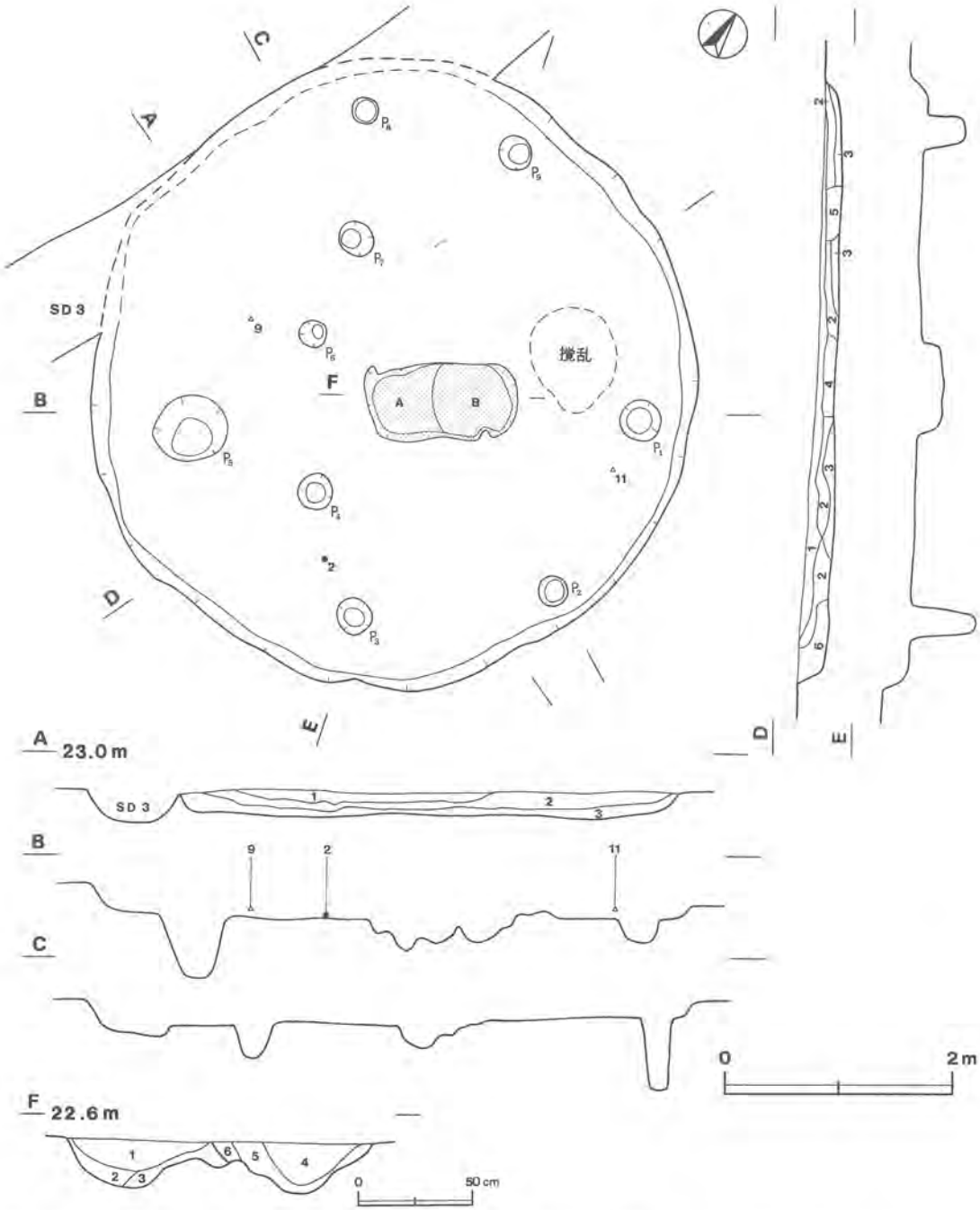
床　わずかに起伏があり，炉周辺が特に踏み固められている。

炉　中央からやや東側にある。長径1.2m，短径0.6mの隅丸長方形の中に，炉A・Bの2か所がある。覆土の状況から，炉Aを先に使用し，後に炉Bを使用したものと考えられる。また，炉Aの方が炉床の被熱の様子から長期間使用されたと考えられる。

ピット　9か所。P_1～P_4，P_6，P_7，P_9は径30cm程の円形で，深さ22～80cmのばらつきがあるが配列から主柱穴と考えられる。P_8は，第3号溝の底面から確認されている。P_5は，径60cmの円形で，深さ60cmと少し大きめである。

覆土　6層からなる。ローム粒子・ロームブロックを多量に含み，人為的な堆積と考えられる。4層は焼土ブロックを含み非常に硬く，5層はハードロームブロックが多量に含まれているため，人為的に堆積したものと考えられる。1～3層から土器片が多量に出土している。

遺物　覆土下層から縄文式土器片（口縁部43，胴部639，底部9点）が出土している。炉南側床面からは第89・90図2の深鉢の底部が出土している。炉西側床面からは9の石皿が出土している。東壁際から11の砥石と12の石棒が出土している。覆土中から1の深鉢の胴部，10の磨石，13のチャート



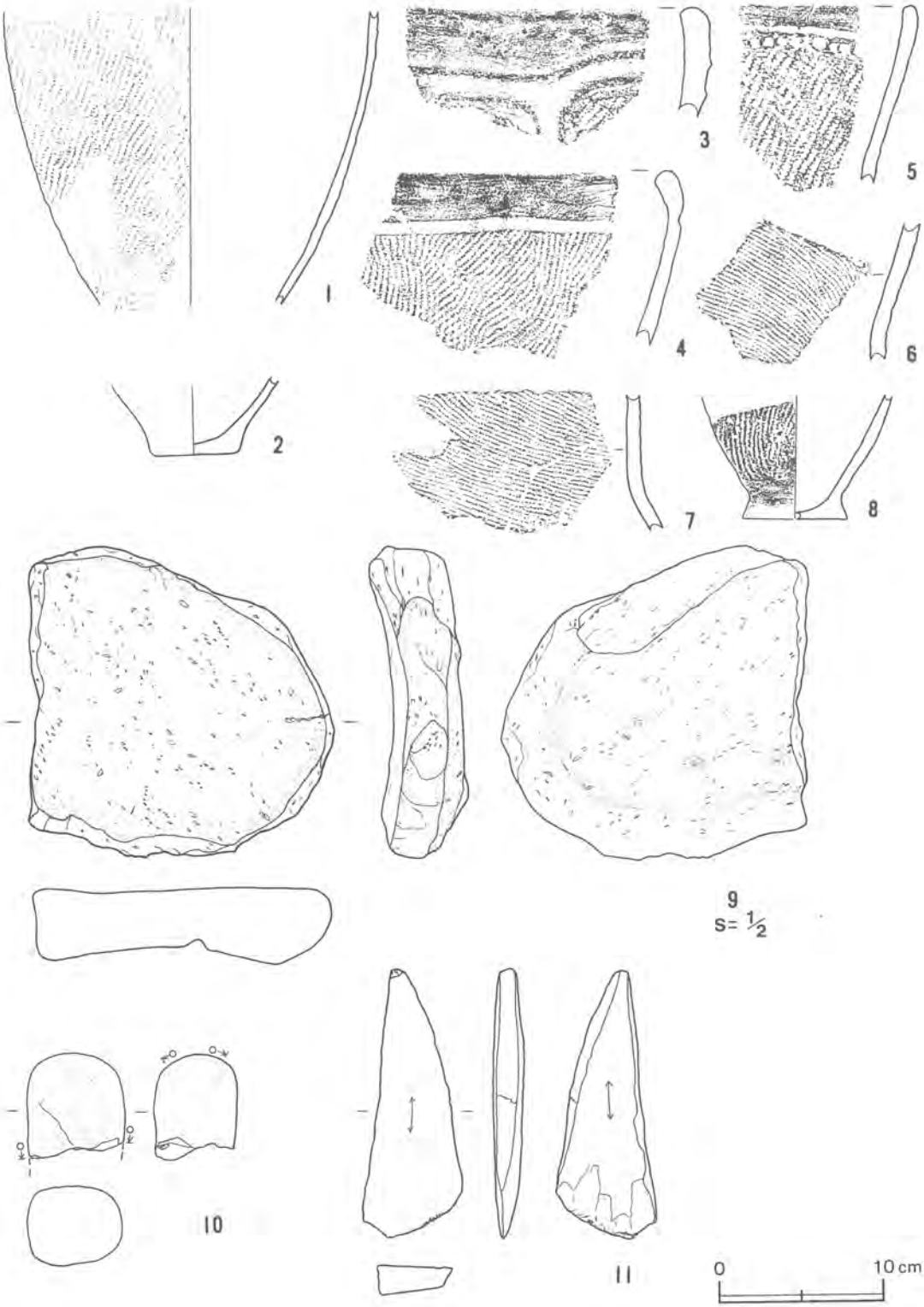
S I −15　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土小ブロック極少量
3　にぶい褐色　ハードローム大ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　極暗褐色　炭化粒子・焼土粒子多量，ローム粒子微量
5　明　褐　色　ハードローム中ブロック・ローム粒子多量，褐色土少量
6　橙　　色　ローム粒子多量，褐色土少量，炭化粒子微量

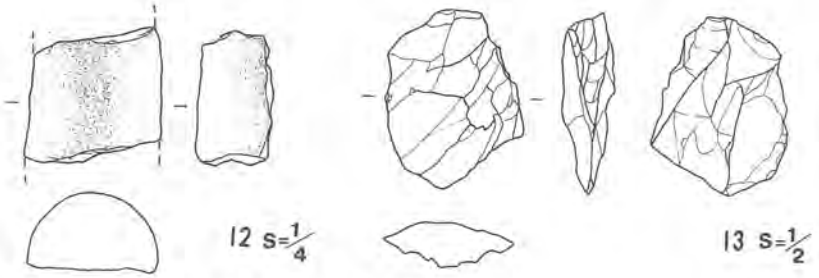
S I −15　炉土層解説

1　暗　褐　色　褐色土中量，焼土小ブロック少量
2　暗　褐　色　褐色土・焼土小ブロック・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック少量
4　暗　褐　色　褐色土少量，焼土小ブロック極少量
5　暗　褐　色　褐色土中量，焼土粒子極少量
6　明　褐　色　ローム粒子中量，褐色土少量

第88図　第15号住居跡実測図



第89図　第15号住居跡出土遺物実測・拓影図 (1)



第90図　第15号住居跡出土遺物実測（2）

の剝片が出土している。

3～8は縄文式土器片の拓影図である。3は第1群のf類，4･5はj類に該当する口縁部片である。5は沈線直下に円形刺突文を施している。6･7はj類に該当する胴部片と考えられる。8はj類に該当する底部から胴部片である。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利E式期）の住居跡である。

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第89・90図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B（18.0）	胴部片。胴部は，内彎気味に立ち上がる。外面は，単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒・長石 明褐色　普通	P48 10%
2	深鉢形土器 縄文式土器	B　(4.7) C　5.5	底部片。底面から4cm程までは縦位ナデが施されている。	長石・パミス にぶい橙色　普通	P50 5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考	
		長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)			
9	石　皿	(24.0)	(22.4)	7.8	(4969.4)	安山岩	裏面が凹み 一部欠損	Q29
10	磨　石	(6.6)	6.0	5.0	(292.2)	砂　岩	半欠	Q30
11	砥　石	16.7	6.2	1.9	196.9	凝灰岩		Q31
12	石　棒	(7.3)	(7.2)	(4.2)	(282.6)	砂　岩		Q32
13	剝　片	4.8	3.7	1.4	18.8	チャート		Q33

第16号住居跡（第91図）

位置　B5i_7区。

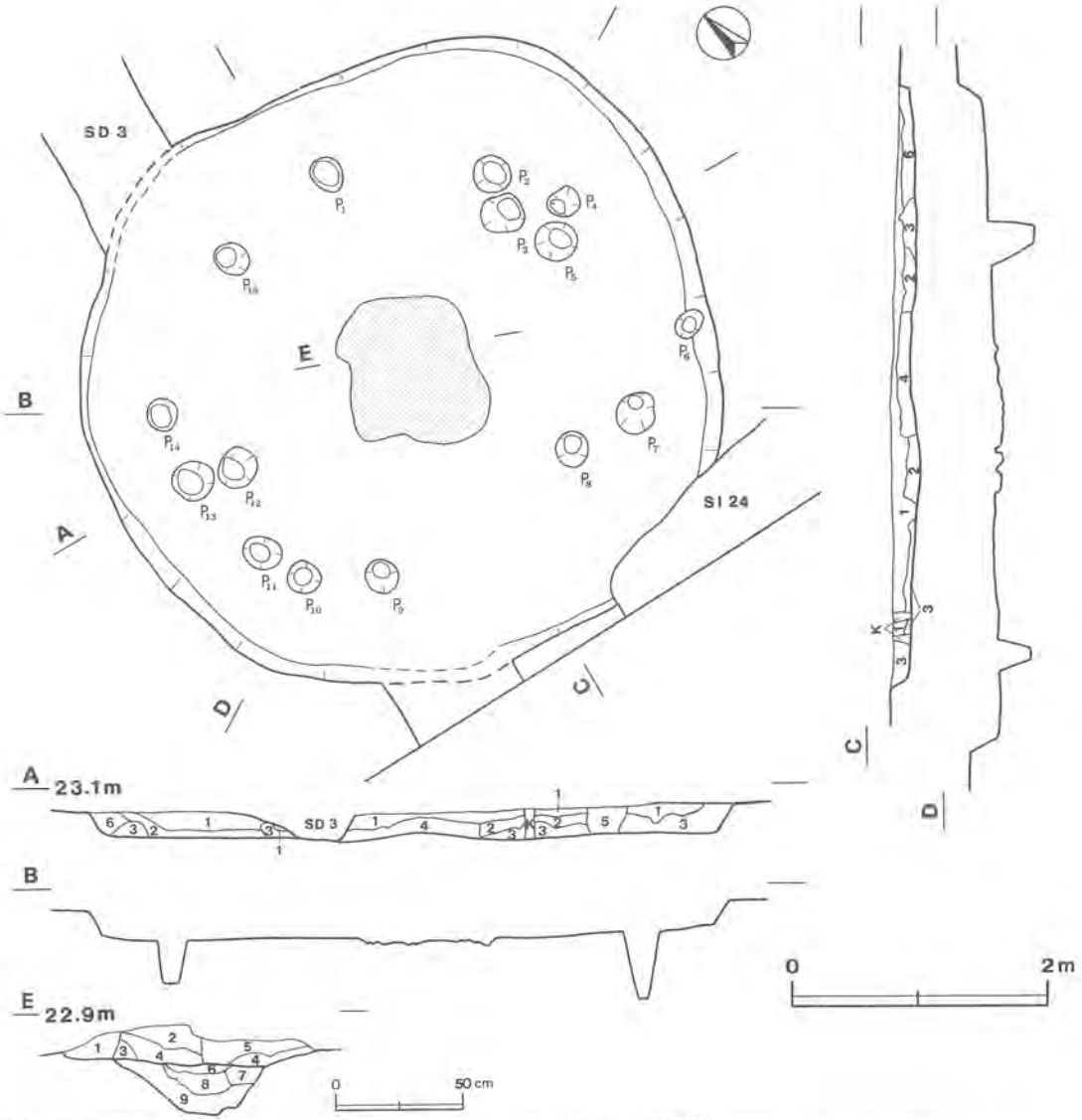
重複関係　第3号溝に掘り込まれ，第24号住居跡と重複している。

規模と平面形　長径5.04m，短径4.94mの円形。

壁　壁高は17～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　わずかに起伏があり，炉周辺が特に踏み固められている。

炉　ほぼ中央にある。径1.0mの不定形で，深さ36cmの地床炉である。焼土を多量に含み，炉床もロームがレンガ状に赤変硬化している。



SI－16　土層解説

1　暗　褐　色　褐色土中量，ソフトローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　褐色土・ソフトローム小ブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ハードローム大ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子極少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子極少量
6　にぶい褐色　ハードローム大ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子微量

SI－16　炉土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子極少量
3　明　褐　色　ハードロームブロック
4　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック多量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
6　褐　　色　焼土粒子極少量
7　にぶい褐色　褐色土中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
8　にぶい褐色　褐色土中量，焼土粒子極少量
9　赤　褐　色　焼土ブロック

第91図　第16号住居跡実測図

ピット　15か所。P_1，P_2，P_6，P_7，P_9，P_{11}，P_{14}，P_{15}は，径30cm程の円形で，深さ26～56cmとばらつきがあるが配列から主柱穴と考えられる。P_3，P_4，P_8，P_{10}，P_{12}，P_{13}は，径20～30cmの円形で，深さ30～40cmであり，配列から補助柱穴と考えられる。P_6は壁際に確認され，径25cmの円形

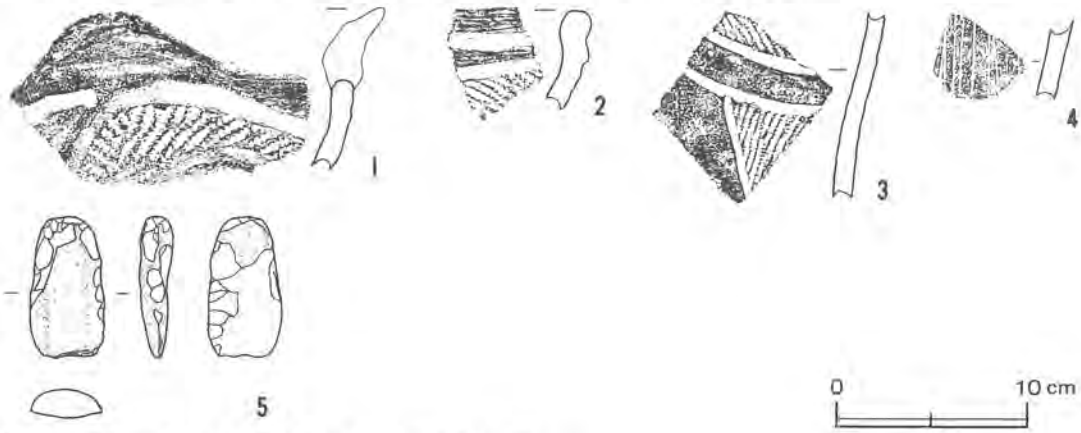
で，深さ19cmであり，性格不明である。

覆土　6層からなる。各層ともローム粒子・ロームブロックを含み，人為的な堆積をしている。5層は，黒褐色土を含む。

遺物　覆土から混入と思われる縄文式土器片(口縁部19，胴部243，底部2点)，第92図5の礫石斧が出土している。床面から遺物は出土していない。

1～4は縄文式土器片の拓影図である。1は第1群のf類に該当する波状口縁である。2はj類に該当する口縁部片で，2条の沈線を巡らしている。3はh類に該当する胴部片と考えられる。4はj類に該当する胴部片で，縦位の条線文が施されている。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



第92図　第16号住居跡出土遺物実測・拓影図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第92図5	礫石斧	7.4	3.9	1.8	59.7	砂　岩	Q34

第17号住居跡（第93図）

位置　B5h_5区。

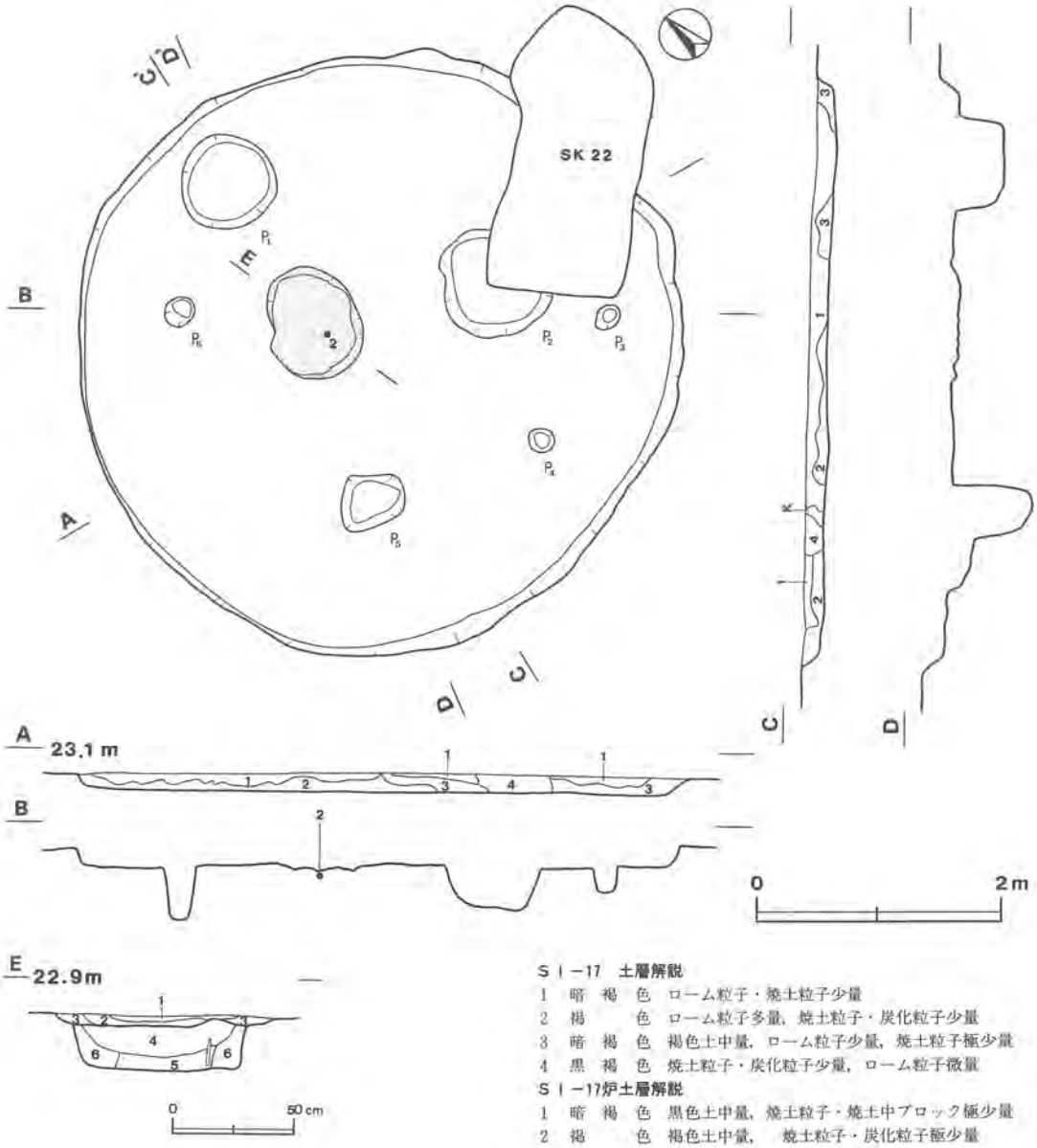
重複関係　第22号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径5.05m，短径4.85mの円形。

壁　壁高は15～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，全域踏み固められている。東側が第22号土坑により撹乱を受けている。

炉　中央からやや北側にある。長径90cm程の円形で，深さ22cm程である。4層と5層にかけて，埋甕と思われる土器片が出土している。炉床は，あまり赤化していない。



S I −17　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量，焼土粒子極少量
4　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量

S I −17炉土層解説

1　暗　褐　色　黒色土中量，焼土粒子・焼土中ブロック極少量
2　褐　　色　褐色土中量，　焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐　　色　黒色土中量，　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
4　褐　　色　焼土粒子・焼土小ブロック極少量
5　褐　　色　焼土小ブロック極少量
6　褐　　色　褐色土中量，ローム粒子少量

第93図　第17号住居跡実測図

ピット　6か所。P_3，P_4，P_6は，径20cm程の円形で，深さ20～40cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_1，P_2，P_5は，径50～80cmの円形で，深さ50～80cmであり，性格不明である。

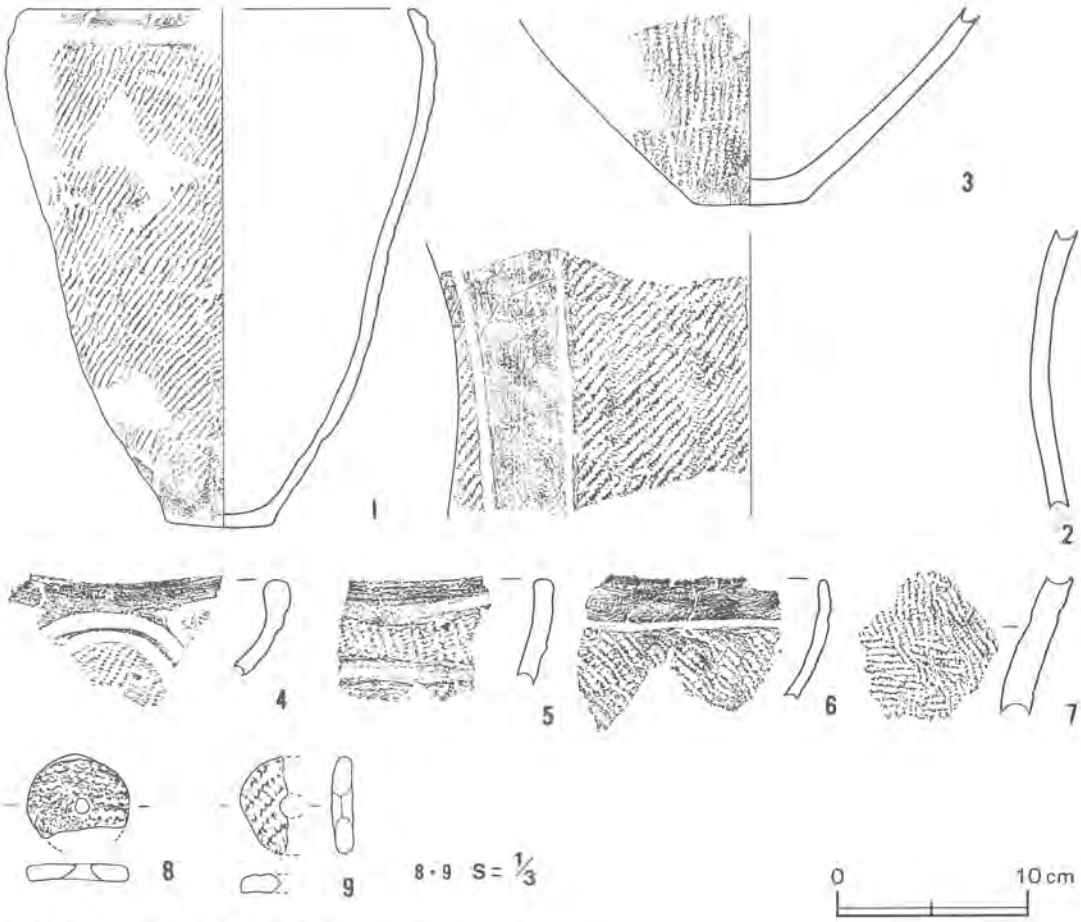
覆土　4層からなる。中央から東側の4層は，黒褐色土を含む。1層からは混入したと考えられる礫や土器片が出土している。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部22，胴部234，底部3点）が出土している。炉内から埋甕と

して使用されたと考えられる第94図2の深鉢の胴部片が出土している。住居跡に伴うと考えられる1･3の深鉢は覆土と西側床面から出土している。覆土から8･9の有孔円板が出土している。

4～7は縄文式土器片の拓影図である。4･5は第1群のg類、6はj類に該当する口縁部片である。7はj類に該当する胴部片で，縄文を充填させている。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）の住居跡である。



第94図　第17号住居跡出土遺物実測・拓影図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第94図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [20.2] B 27.4 C 5.7	キャリパー状をした小形深鉢形土器である。口縁直下に幅1.5cmの無文帯を設け，以下に前々段多条の縄文RLを縦位回転で施文している。底面から3cm程までは横位ナデが施されている。	砂粒･長石･パミス 橙色 普通	P51 40%
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (15.0)	胴部片。外面に幅の広い磨消帯が垂下し，区画間に単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒･雲母･長石 橙色　普通	P52 5%
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (10.4) C 5.6	底部から胴部片。胴部下位は，外傾して立ち上がる。外面に単節縄文RLを縦位回転で施文している。底面から3.5cm程までは横位ナデが施されている。	砂粒･雲母･長石 にぶい褐色 普通	P53 10%

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			孔　径 (cm)	重　量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
8	有孔円板	(3.4)	4.1	0.7	0.6	(9.5)	80	一部欠損　DP16
9	有孔円板	(4.0)	(1.9)	0.7		(5.6)	40	一部欠損　DP17

第18号住居跡（第95図）

位置　B5i_4区。

規模と平面形　長径5.15m，短径4.86mの円形。

壁　壁高は16～22cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が特に踏み固められている。南部が撹乱を受けている。

炉　中央からやや北西寄りにある。長径1.5m程，短径0.9mの楕円形で，深さ20cm程の地床炉である。

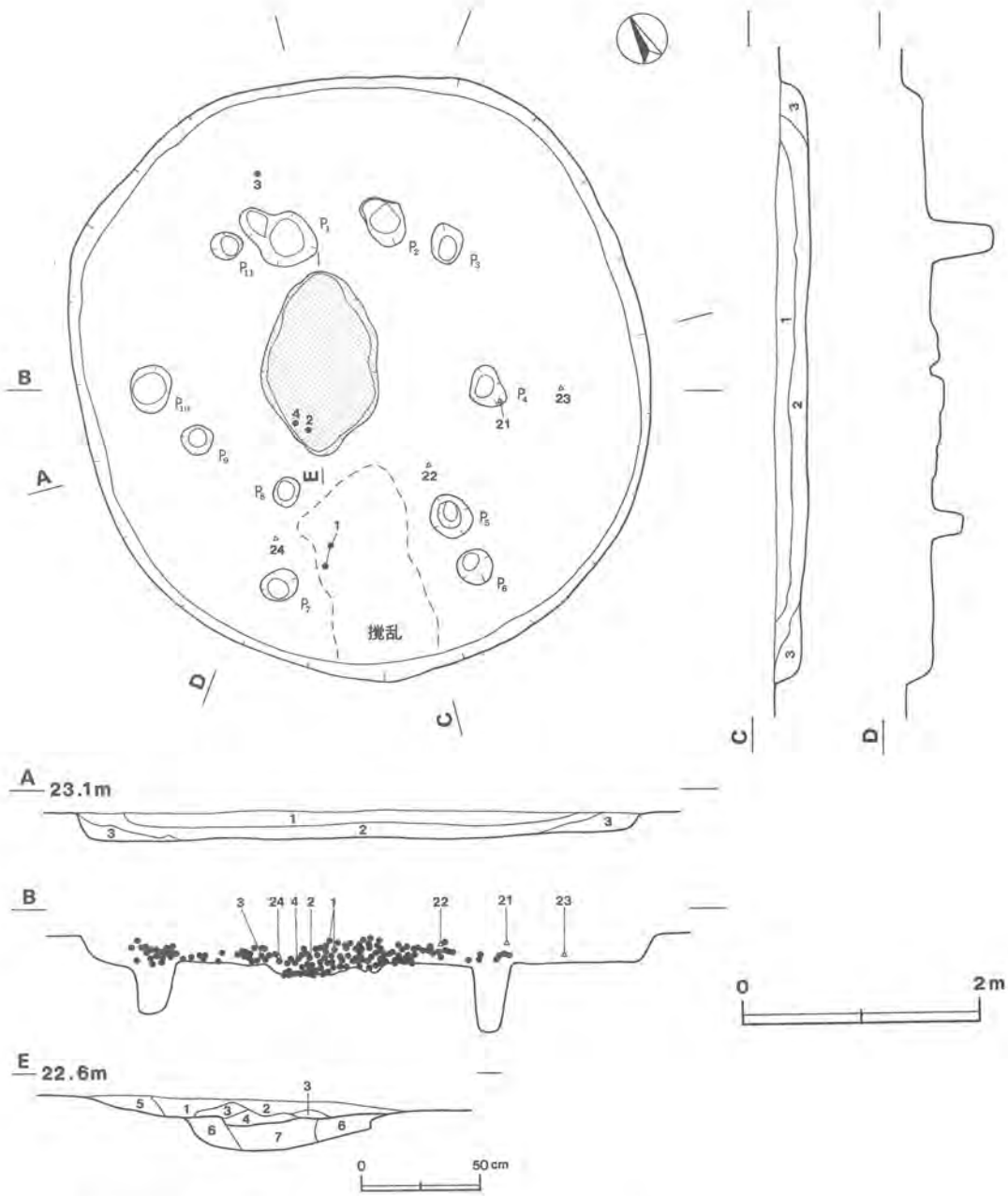
ピット　11か所。P_3，P_4，P_5，P_7，P_9，P_{11}は，径25～30cm程の円形で，深さ42～50cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_1，P_2，P_6，P_8，P_{10}は，径30cm前後の円形で，深さ40～50cmであり，補助柱穴と考えられる。

覆土　3層からなる。規則正しく自然的に堆積している。流れ込みと思われる土器片が1・2層から多量に出土している。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部217，胴部1,781，底部24点）が出土している。撹乱の上層からは第96・97図1の深鉢の口縁部が出土している。炉からは2・4の深鉢の口縁部と底部が出土している。北壁際からは3の深鉢の底部が出土している。P_4から21の磨石が出土している。P_5の北側からは22の磨石が出土している。南東の壁際からは23の磨石が出土している。P_7の北側からは24の凹石が出土している。覆土から25～29の石鏃，30の黒曜石の剝片が出土している。

5～20は縄文式土器片の拓影図である。5～8は第1群のf類，9～12はj類に該当する口縁部片である。9・11は口縁部直下に棒状工具による2列の刺突文，10・12は1列の爪形刺突を施している。13はf類に該当する胴部片である。14～16はi類，17・18はk類に該当する胴部片と考えられる。19はf類，20はj類に該当する底部から胴部片である。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）の住居跡である。



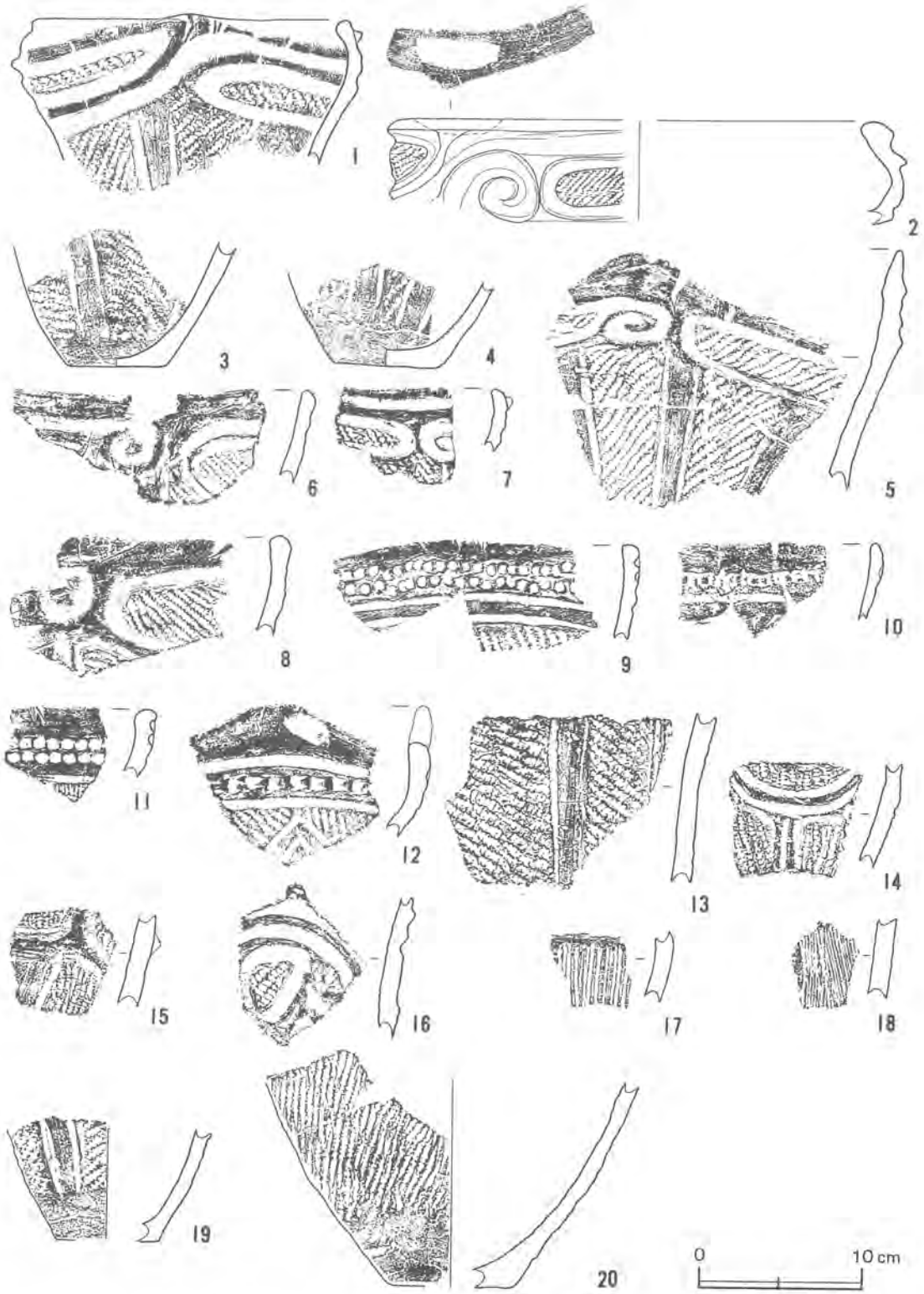
S I −18　土層解説

1　暗　褐　色　褐色土多量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　　色　褐色土中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量

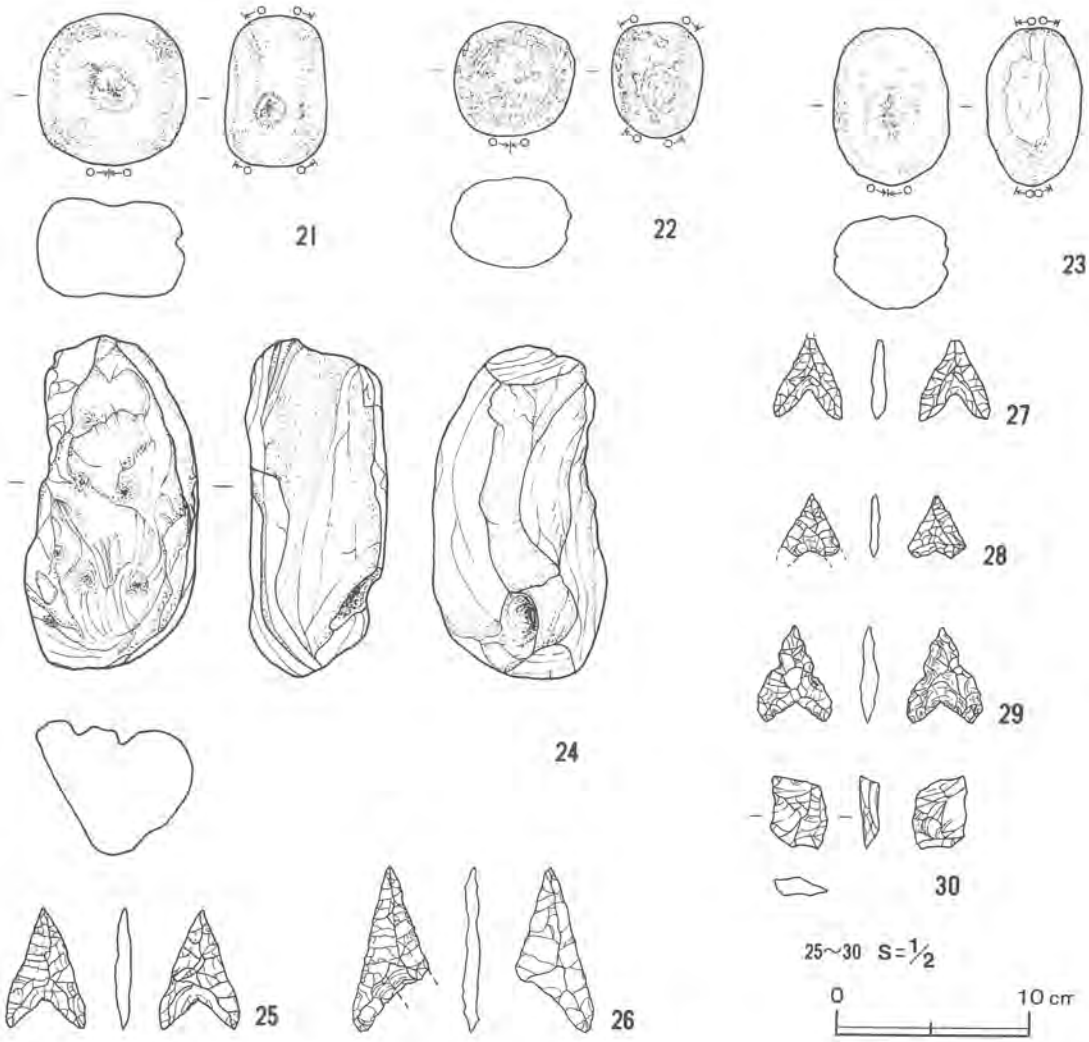
S I −18　炉土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量
5　暗　褐　色　ハードローム中ブロック中量
6　にぶい赤褐色　褐色土中量，焼土粒子少量
7　褐　　色　褐色土中量，焼土粒子極少量

第95図　第18号住居跡実測図



第96図　第18号住居跡出土遺物実測・拓影図 (1)



第97図　第18号住居跡出土遺物実測図（2）

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第96・97図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [19.2] B (9.4)	口縁部片。口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部文様帯内に，縄文を充填している。以下に磨消帯を構成している。	石英・パミス 赤褐色 普通	P54 5％
2	深鉢形土器 縄文式土器	A [30.8] B (6.4)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁直下に隆帯による渦巻文が施され，区画内に単節縄文ＬＲを横位回転で施文している。	砂粒・長石・スコリア 橙色　普通	P56 5％
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (8.0) C 6.4	底部片。胴部下位に直線的磨消帯を垂下し，区画内に粗い単節縄文ＲＬを充填している。底面から1.5cm程までは横位ナデを施している。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P59 10％
4	深鉢形土器 縄文式土器	B (5.7) C 6.4	底部片。胴部下位に直線的磨消帯を垂下し，区画内に粗い縄文を充填している。底面から1.5cm程までは横位ナデを施している。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P60 5％

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
21	磨　石	8.1	7.8	5.3	515.5	安 山 岩		Q35
22	磨　石	6.1	6.1	4.7	237.7	安 山 岩		Q36
23	磨　石	8.4	6.1	4.9	333.8	安 山 岩		Q37
24	凹　石	(17.8)	(9.0)	7.5	(1493.7)	雲母片岩	一部欠損	Q38
25	石　鏃	3.2	2.1	0.5	1.9	チャート		Q39
26	石　鏃	4.3	(2.0)	0.5	(2.0)	チャート	右脚欠	Q40
27	石　鏃	(2.1)	1.8	0.4	(1.1)	チャート	先端欠	Q41
28	石　鏃	(1.7)	(1.5)	0.3	(0.4)	黒 曜 石	左脚欠	Q42
29	石　鏃	2.5	2.0	0.5	1.2	黒 曜 石		Q43
30	剝　片	1.9	1.5	0.6	1.6	黒 曜 石		Q44

第20号住居跡（第98図）

位置　B4b_0区。

規模と平面形　長径4.98m，短径4.97mの円形。

壁　壁高は25～31cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周辺が特に踏み固められている。壁際に周溝が確認されている。

炉　中央から南側にある。長径50cm，短径40cmの楕円形で，深さ25cm程の地床炉である。南側から焼土粒子や焼土ブロックなどが確認されているので，炉から南側へかき出したものと考えられる。5層の底が赤変硬化しているので炉床と考えられる。

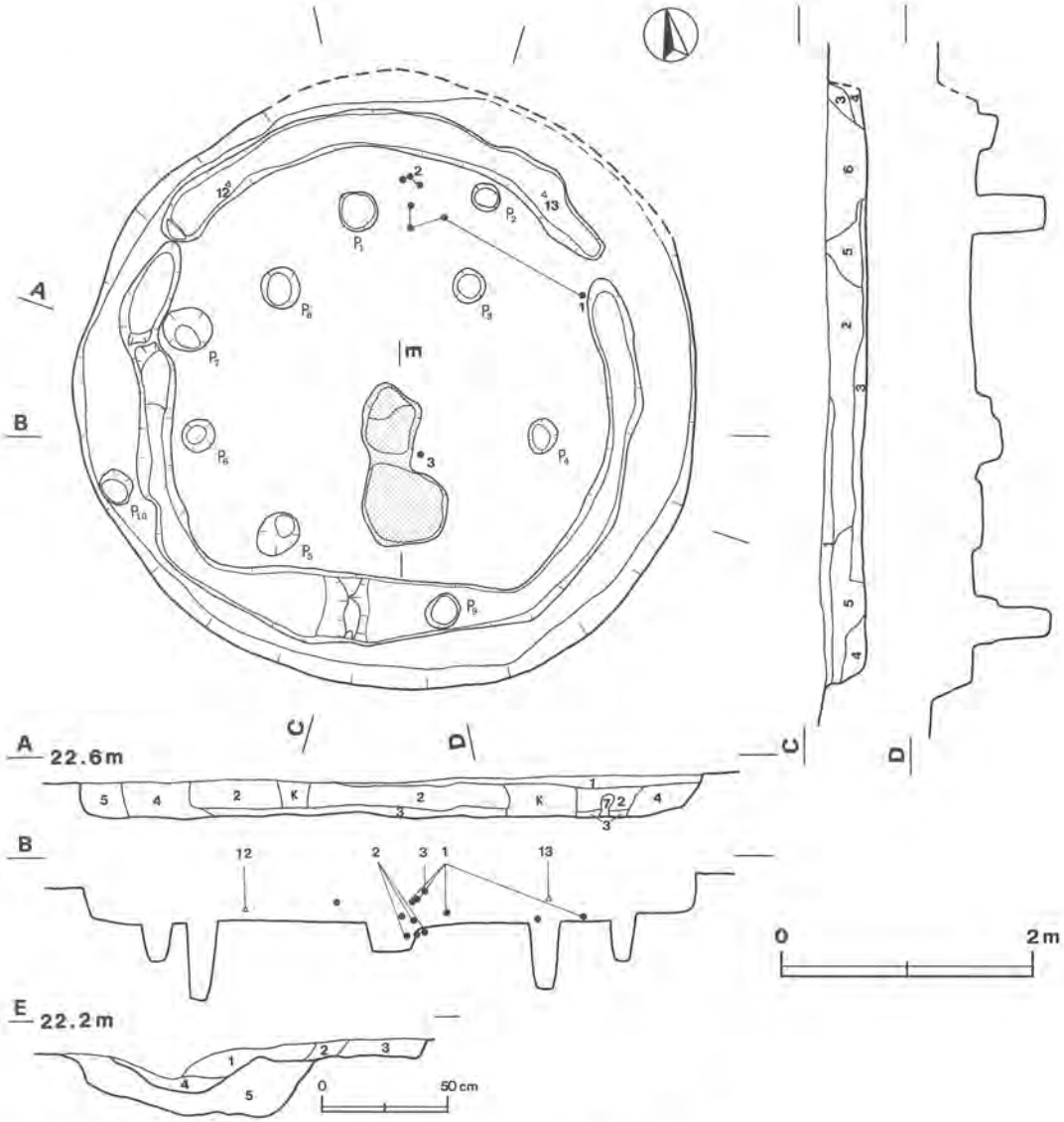
ピット　10か所。P_1，P_3～P_7は，径25～30cmの円形で，深さ50～80cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_8，P_{10}は，径20～30cmの円形で，深さ50～65cmであり，補助柱穴と考えられる。P_9は，周溝の中に確認され他のピットの配列に比べると，特に南壁際に位置し，出入り口に伴うものと考えられる。

覆土　6層からなる。各層ともロームブロックを含み，人為堆積をしている。2・3層から土器片が多量に出土している。4層はハードロームブロックや黒褐色土ブロックがはん点状に含まれているため，人為的に埋め戻したと考えられる。

遺物　覆土上・中層から縄文式土器片（口縁部37，胴部342，底部8点）が出土している。P_1の東側床面からは第99・100図1・2の深鉢の口縁部から胴部が出土している。炉の東側からは3の深鉢の底部が倒位の状態で出土している。北西側の周溝からは，12の磨石が出土している。覆土から11の土製円板が，13のチャートの石錐が出土している。

4～10は縄文式土器片の拓影図である。4は第1群のc類に該当する口縁部片である。5～9はj類，10はi類に該当する胴部片である。6・7は縦位の条線文を密に施し，8は無節縄文を充填している。

所見　本跡は，周溝をもつ縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。



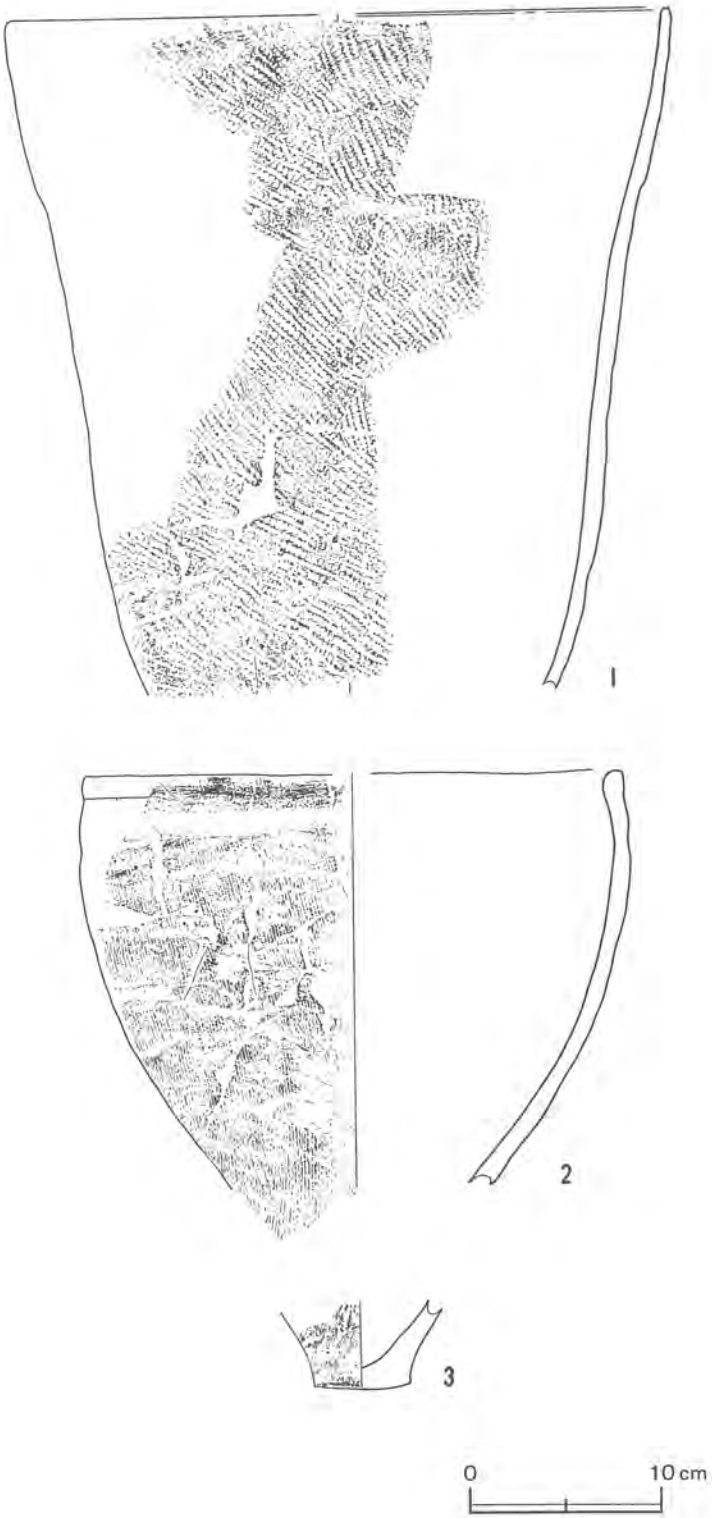
Ｓ Ⅰ－20　土層解説

1　褐　　色　暗褐色土中量
2　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子極少量
3　にぶい褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子極少量
4　褐　　色　ハードローム中ブロック少量，暗褐色土を斑点状に含む
5　暗 褐 色　ローム小ブロック中量，褐色色少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
7　ロームブロック

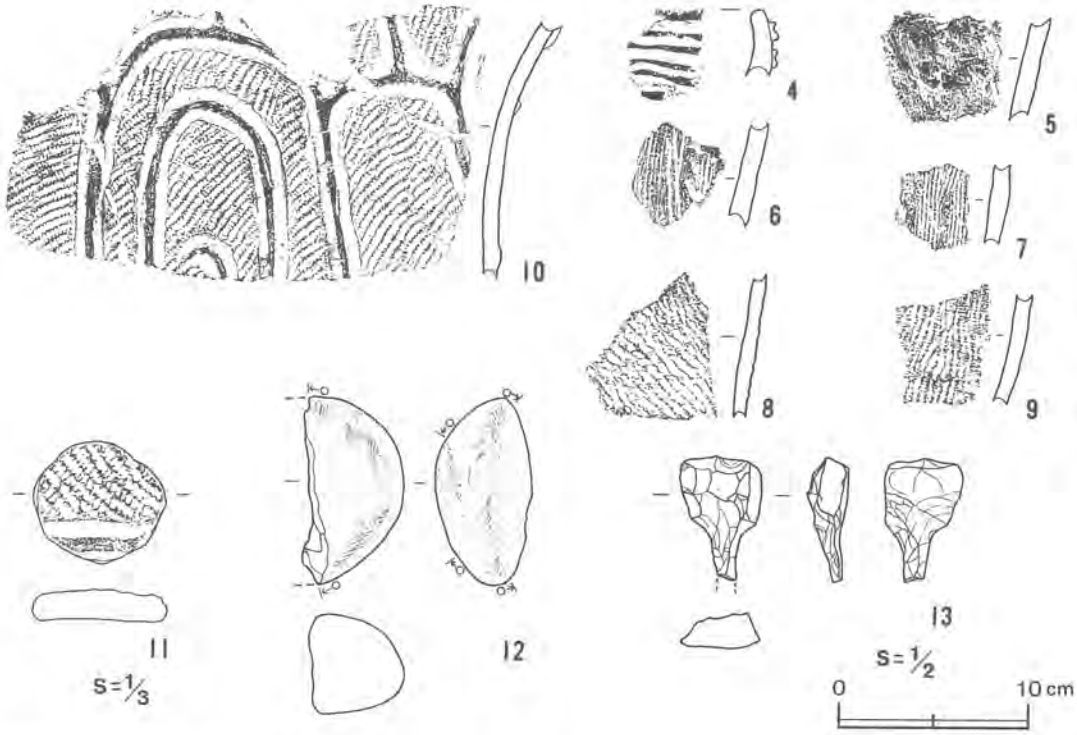
Ｓ Ⅰ－20　炉土層解説

1　赤 褐 色　焼土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土小・中ブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
4　暗 赤 褐 色　焼土大ブロック多量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量

第98図　第20号住居跡実測図



第99図　第20号住居跡出土遺物実測図（1）



第100図　第20号住居跡出土遺物実測・拓影図（2）

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第99・100図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [34.4] B (36.1)	胴部から口縁部片。胴部は外傾しながら立ち上がり，口縁部は内彎気味に立ち上がる。全面に単節縄文LRを縦位回転で施文している。	石英 にぶい褐色 普通	P64 10%
2	深鉢形土器 縄文式土器	A [27.8] B (21.7)	胴部から口縁部片。胴部・口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁直下に太い沈線を巡らし，狭い無文帯を設けている。以下全面に縦位の条線文が施されている。	砂粒・長石・雲母 黒褐色 普通	P65 15% 外面にススが付着
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (4.7) C 5.0	底部片。胴部下位に縄文が施されているが，摩耗が著しいため詳細は不明である。底面から2cm程までは，横位ナデが施されている。	砂粒・長石 橙色 普通	P68 5%

図版番号	器　種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
11	土製円板	4.9	5.3	1.2	33.1	100	DP18

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	磨　石	(9.8)	(5.4)	5.0	(312.5)	安山岩	半欠　Q45
13	石　錐	(3.3)	2.2	1.1	(6.4)	チャート	先端欠　Q46

第21号住居跡（第101図）

位置　B5a₁区。

重複関係　第26・27・28号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径6.50m，短径6.08mの円形。

壁　壁高は22～33cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，炉周辺が特に踏み固められている。

炉　中央からやや西側にある。径1.2mの円形で，深さ10cmの地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット　9か所。P_2，P_6～P_9は，径30～40cmの円形で，深さ25～44cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_3は，径30cmの円形で，深さ25cmであり，補助柱穴と考えられる。P_4は，径1.0mの円形で，深さ34cm程で遺物が多量に出土している。P_1，P_4は，性格不明である。

覆土　3層からなる。1層は焼土粒子を多量に含んでおり，後世の焼土痕と考えられる。2層は，流れ込みと思われ，土器片が多量に出土している。堆積の大部分は2・3層が占めている。

土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量
2　褐　　色　ローム小ブロック中量
3　にぶい褐色　ハードローム小ブロック中量，ローム粒子極少量

炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子中量
2　褐　　色　ハードローム小ブロック中量，焼土粒子少量
3　明褐色　ハードローム中ブロック多量

遺物　覆土中層から縄文式土器片（口縁部37，胴部287，底部3点）が出土している。P_4からは第102図1の深鉢の口縁部から胴部が倒位の状態で出土し，また4の磨石が出土している。覆土から5～7の砥石と流れ込みと思われる土師質土器片（皿）が出土している。

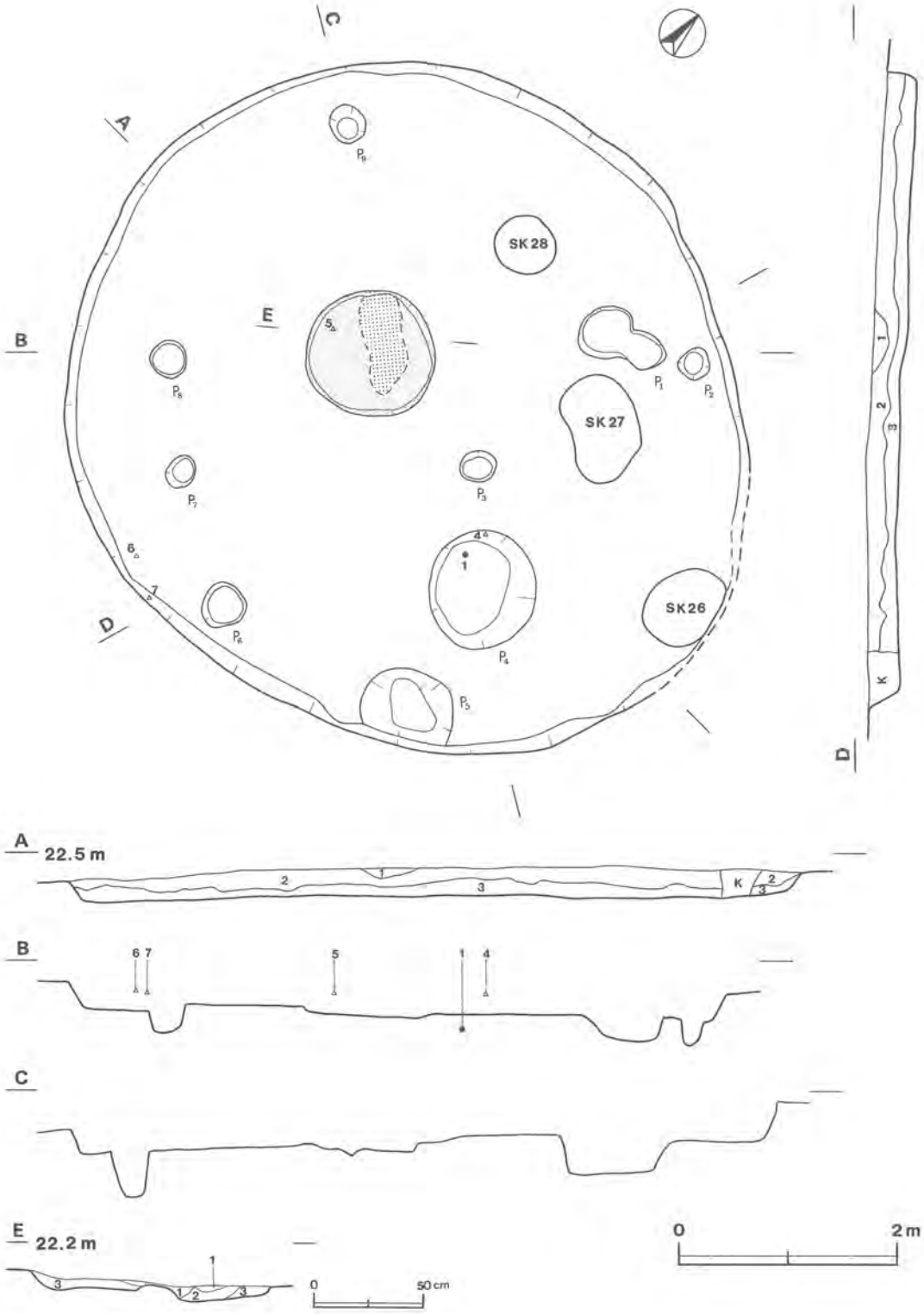
2・3は縄文式土器片の拓影図である。2は第1群のf類に該当する波状口縁と考えられる。3は第2群のd類に該当する口縁部片で，縦位の沈線が施されている。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利E式期）の住居跡と考えられる。

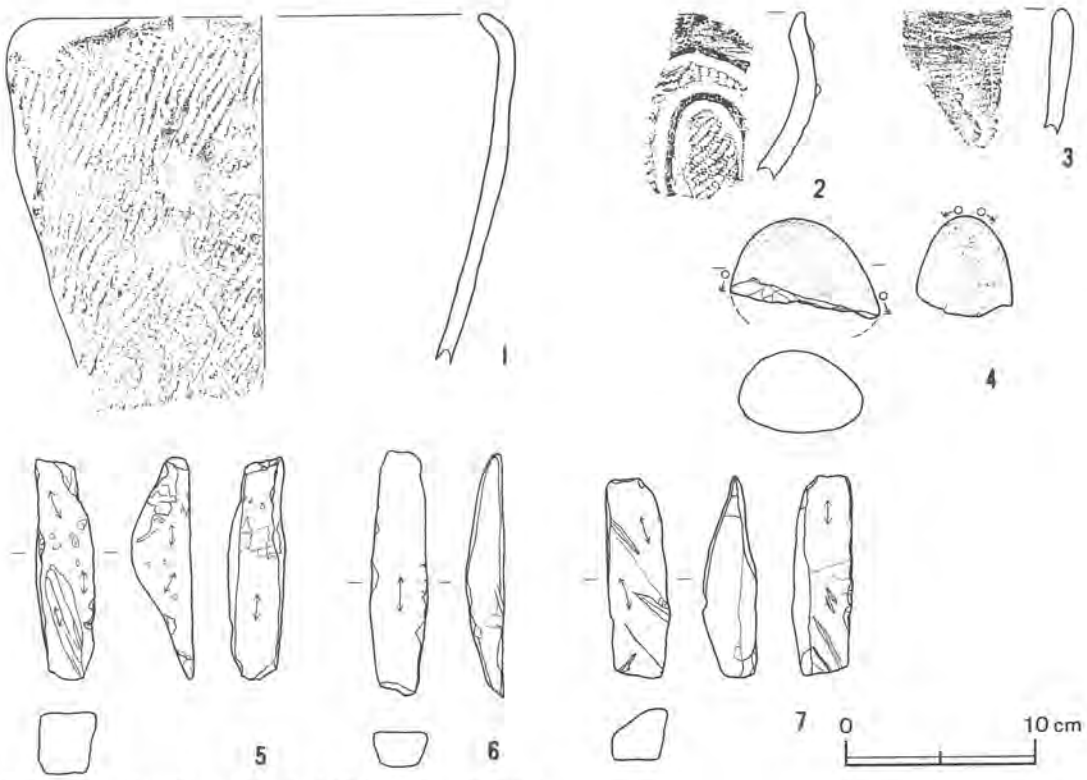
第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第102図1	深鉢形土器 縄文式土器	A［23.0］ B（18.7）	胴部から口縁部片。胴部は外傾しながら立ち上がり，口縁部は大きく内彎する。全面に単節縄文RLが充填されている。	砂粒・長石 褐色 普通	P69 10%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	磨　石	(5.4)	(7.9)	5.0	(200.4)	安山岩	半欠　Q47
5	砥　石	11.7	3.0	3.2	120.5	凝灰岩	Q48
6	砥　石	13.0	13.0	2.1	96.8	凝灰岩	Q49
7	砥　石	10.6	3.3	2.8	86.3	凝灰岩	Q50



第101図　第21号住居跡実測図



第102図　第21号住居跡出土遺物実測・拓影図

第22号住居跡（第103図）

位置　B4a₁区。

重複関係　第13号住居跡と重複しているが，新旧関係は不明である。第32号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径5.53m，短径5.00mの楕円形。

壁　壁高は18～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，全域踏み固められている。

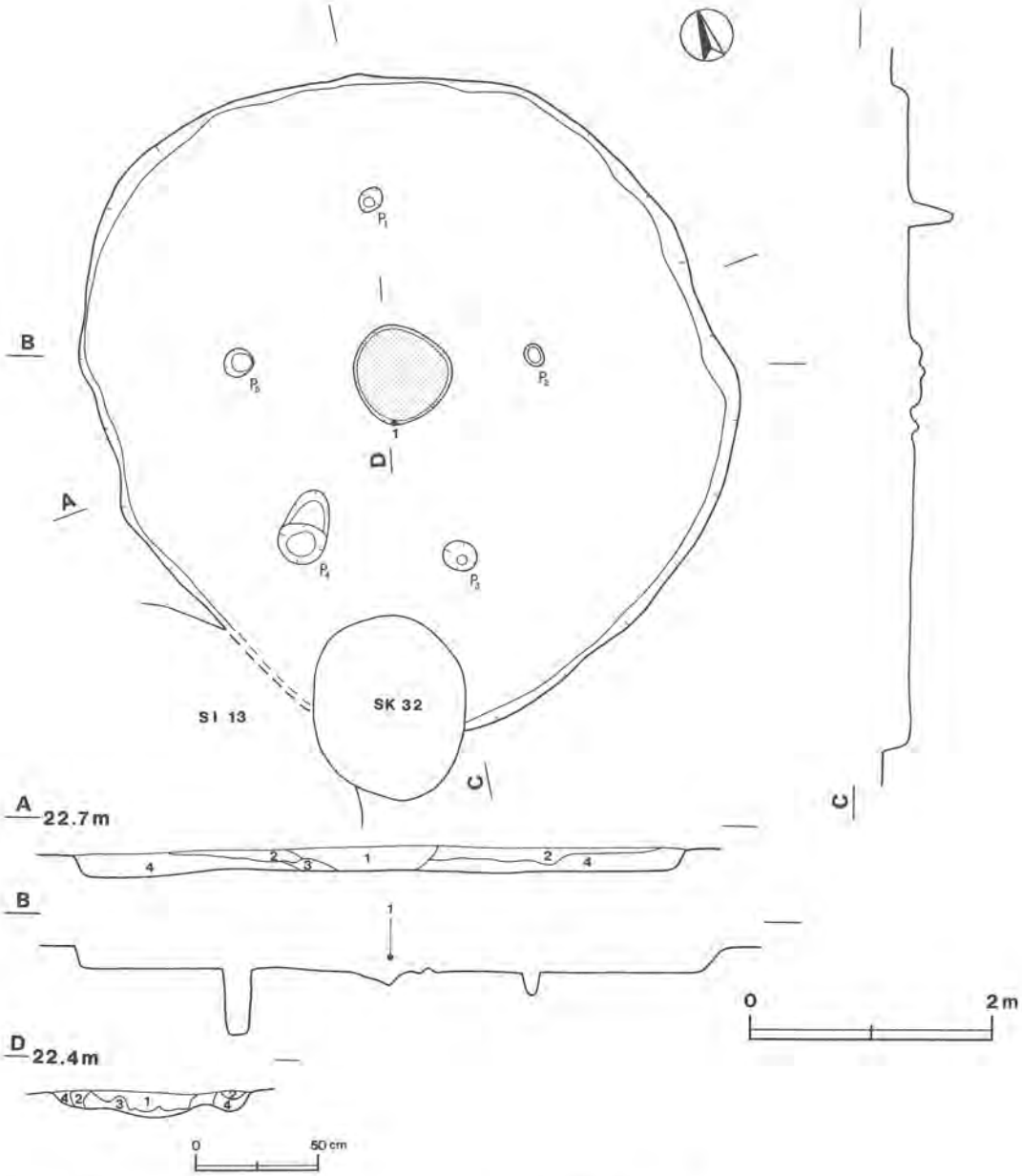
炉　ほぼ中央にある。径80cmの円形で，深さ10cm程の地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット　5か所。いずれも径20～40cmの円形で，深さ21～55cmとばらつきがあるが，配列から主柱穴と考えられる。

覆土　4層からなる。ローム粒子・ロームブロックを含み，人為堆積をしている。1層から土器片が数点出土している。

遺物　覆土下層から縄文式土器片（胴部9点）が出土している。炉内からは第104図1の深鉢の底部が正位の状態で出土している。

2･3は縄文式土器片の拓影図である。2は第1群のj類に該当する口縁部片である。3は1類に該



ＳＩ－22　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　にぶい褐色　ローム小･中ブロック中量
4　明　褐　色　ローム中ブロック少量，褐色土小ブロックを斑点状に含む

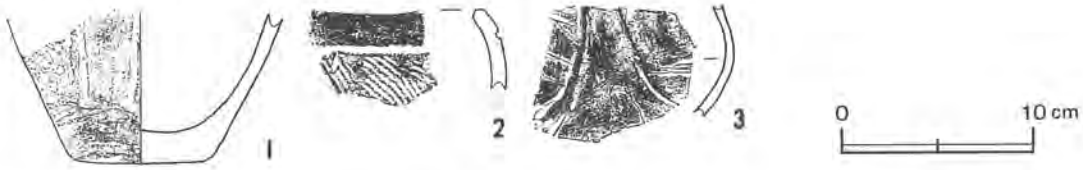
ＳＩ－22　炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子･焼土小ブロック中量，炭化粒子極少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子極少量，
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小･中ブロック少量
4　褐　　色　ハードローム中ブロック少量，焼土粒子極少量

第103図　第22号住居跡実測図

当する薄手の壺形土器の胴部片と考えられる。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。



第104図　第22号住居跡出土遺物実測・拓影図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第104図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (23.0) C　7.7	底部片。胴部下位に直線的磨消帯が垂下し，区画内に粗い縄文が充填されている。底面から2cm程までは横位ナデが施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P70 10%

第23号住居跡（第105図）

位置　A4g_9区。

規模と平面形　長径4.62m，短径4.25mの楕円形。

壁　壁高は27～42cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，全域踏み固められている。炉の付近が盛り上がっている。

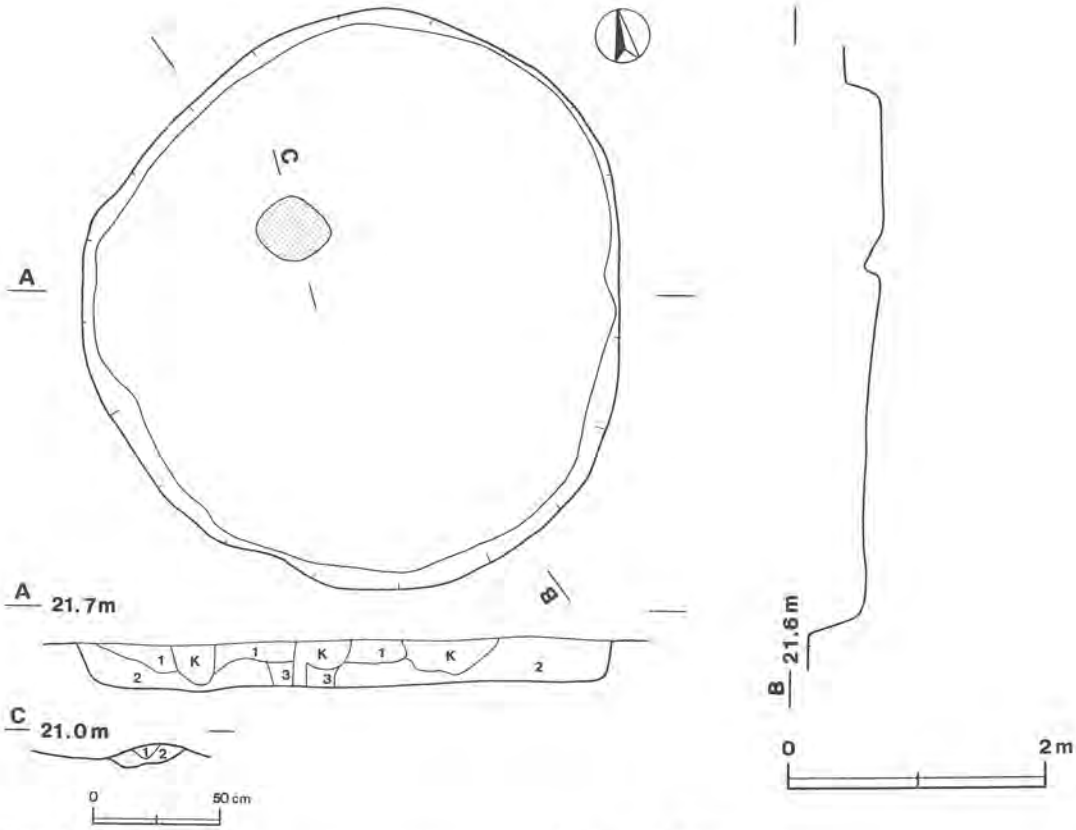
炉　中央から北西側にある。径50cmの円形で，深さ6cm程の地床炉である。炉の底面はあまり赤く焼けていないので，短期間の使用であったと考えられる。

ピット　柱穴と思われるピットは確認できなかった。

覆土　3層からなり，上層は撹乱を受けている。1層から流れ込みと思われる土器片が出土している。

遺物　覆土上層から縄文式土器片（口縁部6，胴部60点）が出土している。床面から遺物は出土していない。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



S I－23 土層解説
1 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子少量
2 褐 色 ハードローム大ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3 にぶい褐色 ローム粒子多量，褐色土少量，焼土粒子・炭化粒子微量

S I－23 炉土層解説
1 にぶい赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック中量
2 にぶい赤褐色 焼土ブロック

第105図 第23号住居跡実測図

第25号住居跡（第106図）

位置 B5i_3区。

規模と平面形 長径5.48m，短径4.78mの楕円形。

壁 壁高は21～39cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり，全体的に軟らかい。

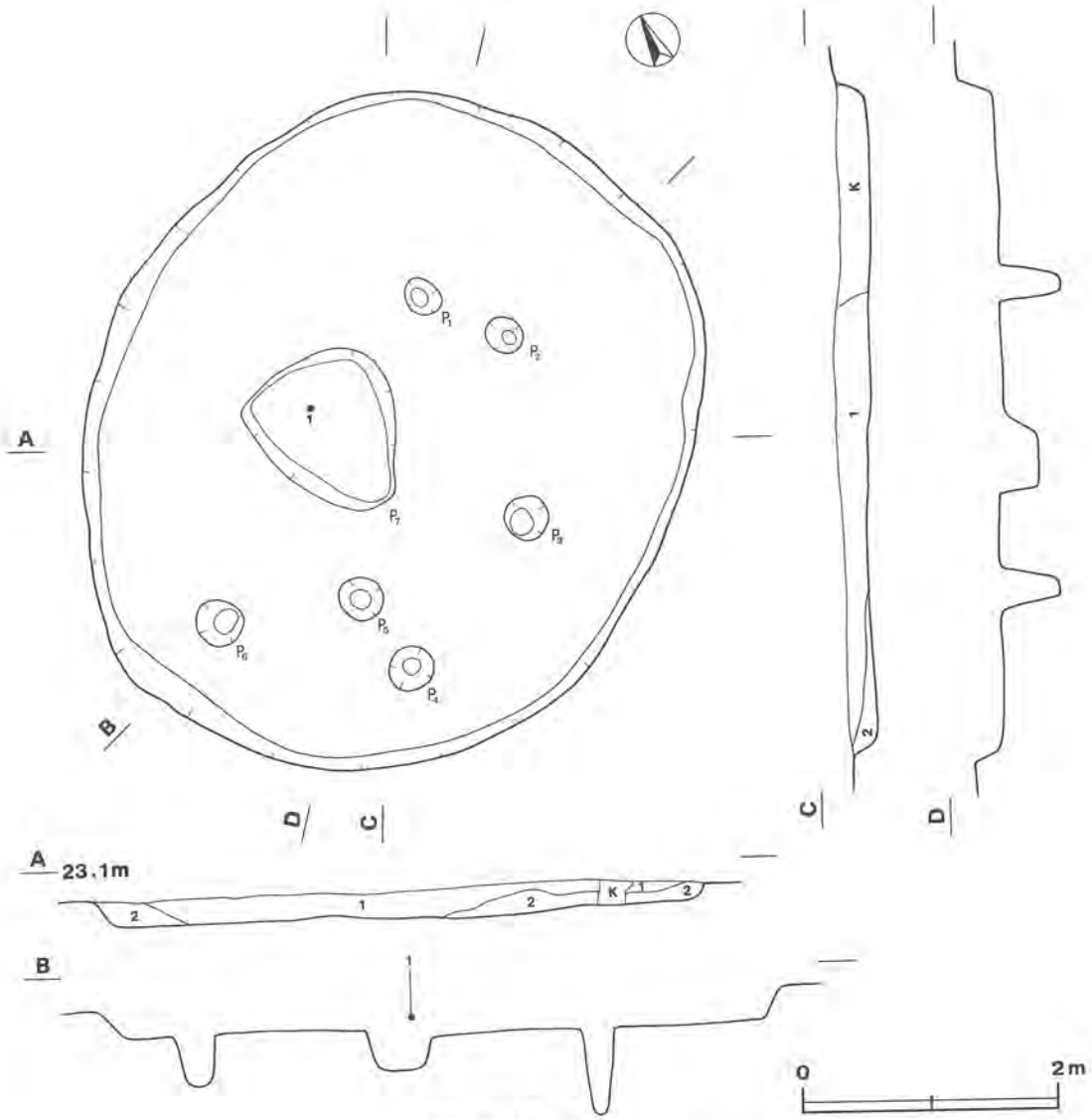
ピット 7か所。P_1～P_3，P_5，P_6は径30～40cmの円形で，深さ36～69cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_4は，径35cmの円形で，深さ60cmで補助柱穴と考えられる。P_7は，長径1.3m，短径1.0mの楕円形で，深さ32cmであり，土器片が数点出土しており，覆土から焼土粒子や炭化粒子が多量に出土している。

覆土 2層からなり，北側は覆土がかなりの範囲撹乱を受けている。堆積の大半は1層が占める。

遺物　覆土全域から縄文式土器片（口縁部10，胴部142，底部１点）が出土している。覆土から第107図1の把手が出土している。床面から遺物は出土していない。

2は縄文式土器片の拓影図である。2は第１群のｊ類に該当する口縁部片である。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。炉は確認できないが，P_7は覆土から多量の焼土粒子や炭化粒子が出土しているので，炉若しくは炉に関係あると考えられる。



ＳＩ－25　土層解説

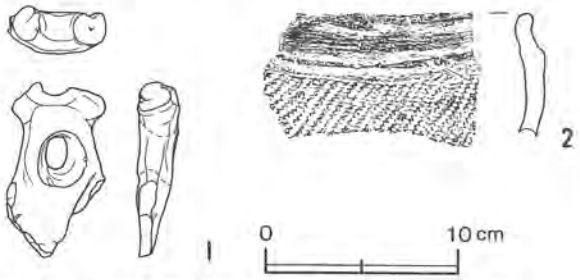
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量

2　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極少量

第106図　第25号住居跡実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 107 図 1	把　手 縄文式土器	把手片。把手の頂部2か所は皿状に凹み，中位に貫通孔を有する。	パミス・スコリア 橙色 普通	P71



第107図　第25号住居跡出土遺物実測・拓影図

第26号住居跡（第108図）

位置　B3e_3区。

規模と平面形　長径6.36m，短径5.74mの円形。

壁　壁高は28～33cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，炉周辺が踏み固められている。

炉　ほぼ中央にある。長径90cm，短径75cmの楕円形で，深さ10cm程の地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット　8か所。P_1，P_4～P_8は，径25～30cm程の円形で，深さ21～40cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_3は，径30cm程の円形で，深さ13cm前後であり，性格不明である。

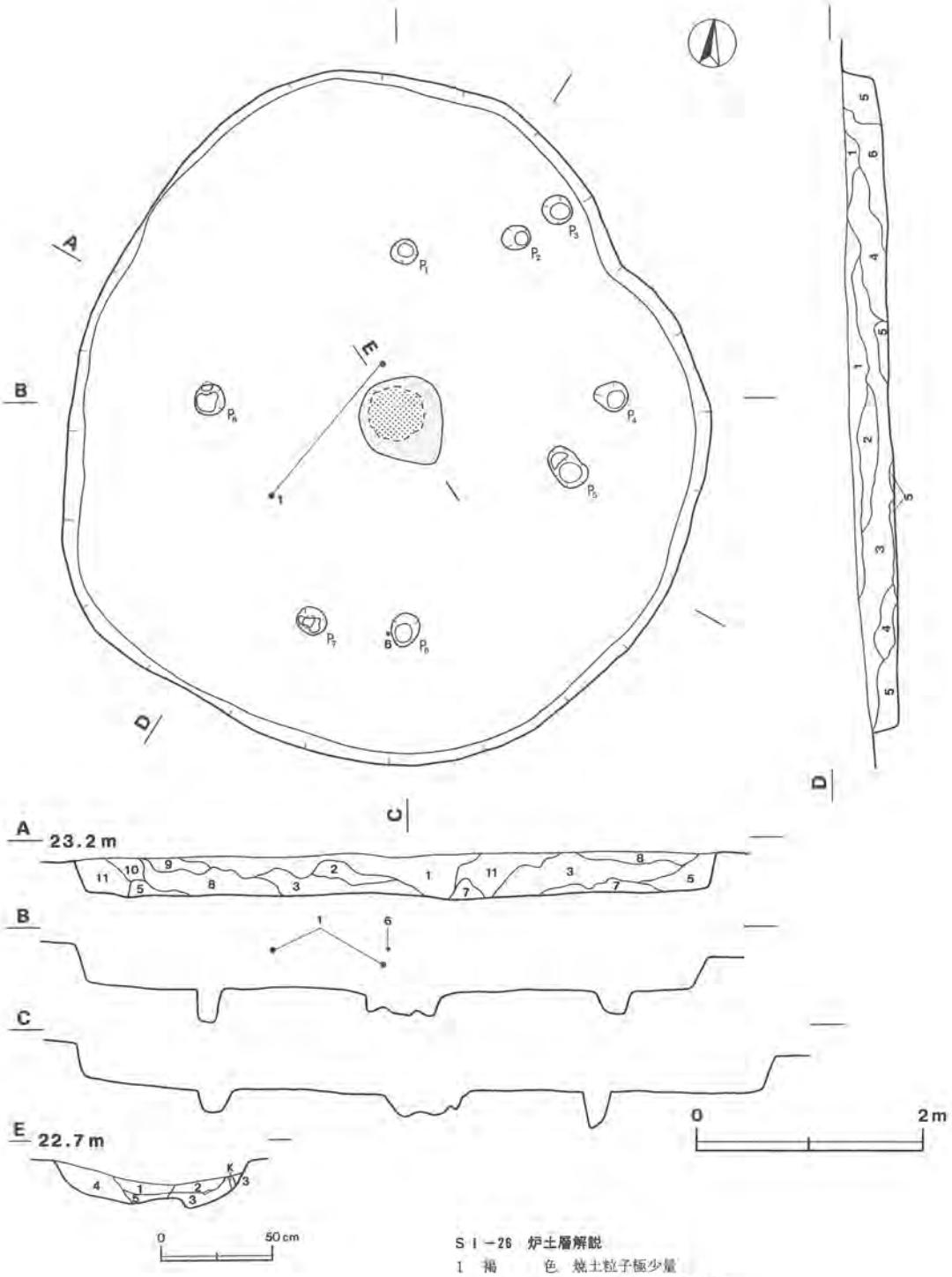
覆土　11層からなる。ロームブロックを含み，人為堆積である。1・2層から土器片が出土している。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子極少量
3　褐　色　ローム小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
4　灰 褐 色　褐色土中量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量
5　にぶい明褐色　ローム粒子中量，褐色土極少量
6　褐　色　ローム中ブロック中量，焼土粒子極少量
7　灰 褐 色　褐色土中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
8　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
9　灰 褐 色　褐色土・ローム粒子少量，炭化粒子極少量
10　褐　色　ローム粒子少量
11　明 褐 色　ローム粒子多量，褐色土少量

遺物　覆土全域から縄文式土器片（口縁部32，胴部291，底部4点）が出土している。P_6の上層からは第109図6の土製円板が出土している。覆土から1の深鉢の胴部から口縁部が倒位の状態で出土し，7の土製円板，8の磨製石斧が出土している。床面から遺物は出土していない。

2～5は縄文式土器片の拓影図である。2～5は第1群のf類に該当する口縁部片である。5は口縁



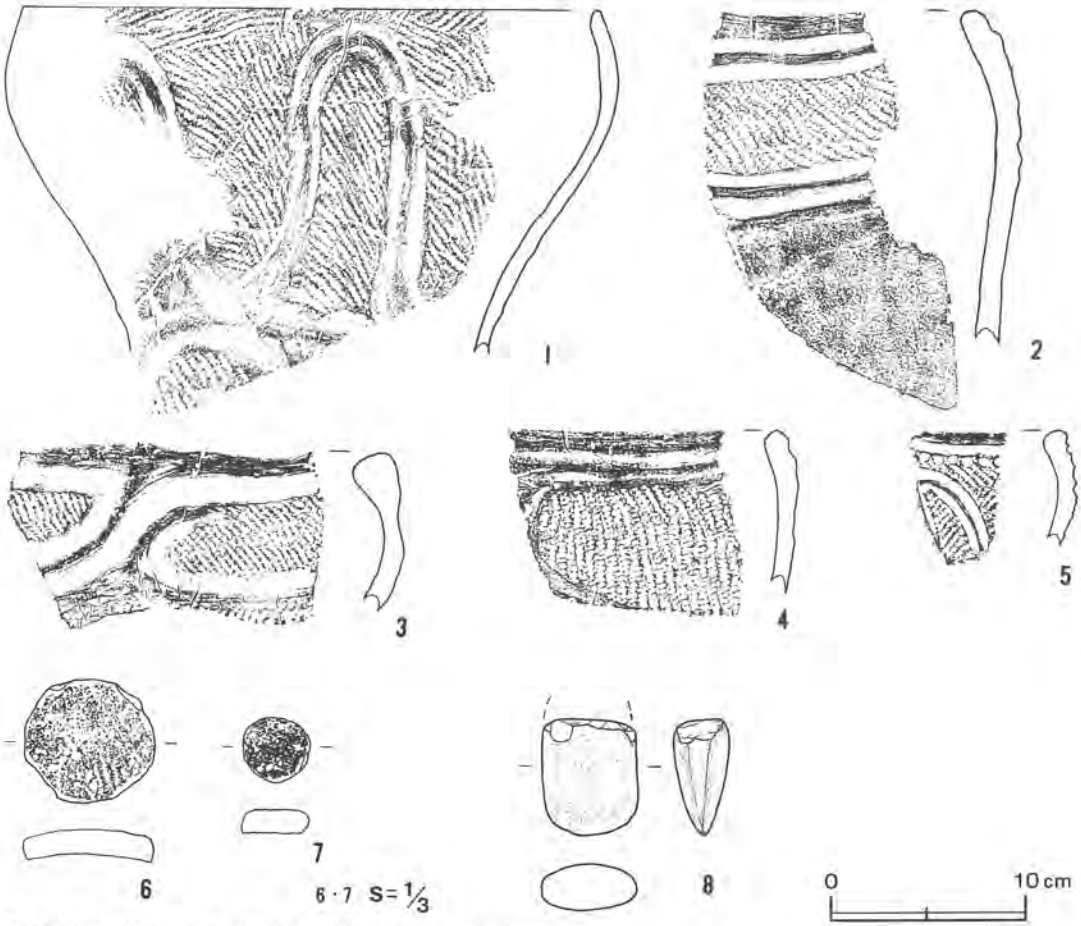
S I −26　炉土層解説

1　褐　　色　焼土粒子極少量
2　褐　　色　焼土小ブロック極少量
3　暗　褐　色　焼土中ブロック少量
4　にぶい褐色　褐色土・焼土中ブロック少量

第108図　第26号住居跡実測図

部直下に１条の沈線と円形刺突文を施している。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



第109図　第26号住居跡出土遺物実測・拓影図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第109図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [30.0] B (18.3)	胴部から口縁部片。キャリパー状をしている。口縁直下から胴部にかけて沈線で「U」「Π」状のモチーフを描き，モチーフ外に単節縄文ＬＲを縦位回転で施文している。	砂粒・雲母・長石 黒褐色 普通	P72 10% 外面にススが付着

図版番号	器　種	計測値 (cm)			重量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
6	土製円板	5.4	4.9	1.3	33.1	100	DP19
7	土製円板	2.7	2.7	1.0	9.2	100	DP20

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	磨製石斧	(6.2)	(5.0)	(3.0)	(139.8)	砂　岩	刃部片　Q51

第27号住居跡（第110図）

位置　B3f_5区。

重複関係　第10号溝に掘り込まれている。

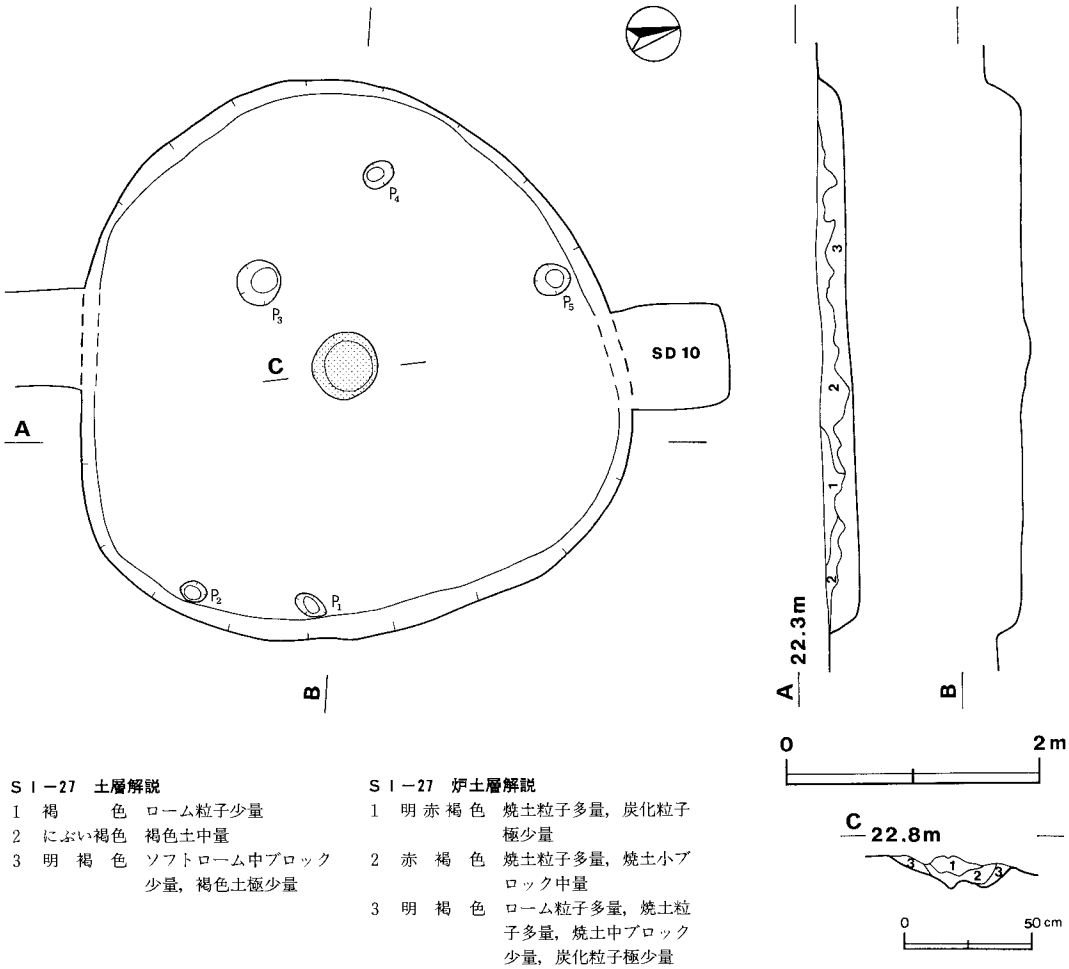
規模と平面形　長径4.56m，短径4.44mの円形。

壁　壁高は9～17cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　わずかに起伏をもち，あまり硬くない。

炉　中央が第10号溝によって撹乱を受けているが，炉床には達していない。径55cmの円形で，深さ10cm程の地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット　5か所。P_3～P_5は，径20～30cmの円形で，深さ20～30cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_1，P_2は，壁際に位置し，径20cmの円形で，深さ12cmであり，補助柱穴と考えられる。



S I－27　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量
2　にぶい褐色　褐色土中量
3　明　褐　色　ソフトローム中ブロック少量，褐色土極少量

S I－27　炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子極少量
2　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
3　明　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子多量，焼土中ブロック少量，炭化粒子極少量

第110図　第27号住居跡実測図

覆土　3層からなり，不自然な堆積をしている。各層から土器片が出土している。

遺物　覆土上層から縄文式土器片（口縁部3，胴部64点）が出土している。床面から遺物は出土していない。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第28号住居跡（第111図）

位置　A4j_9区。

規模と平面形　長径5.53m，短径5.08mの円形。

壁　壁高は18～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，炉周辺が特に踏み固められている。

炉　中央からやや北側にある。径50cmの円形で，深さ35cm程の地床炉である。6層の底面のロームがレンガ状に赤変硬化しているので，炉床になると考えられる。

ピット　10か所。P_1～P_3，P_7～P_{10}は，径30～40cmの円形で，深さ42～56cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_4～P_6は，径25～35cmの円形で，深さ34cmであり，補助柱穴と考えられる。

覆土　2層からなる。大部分を1層が占めている。1層から土器が多量に出土しており，人為的に埋め戻したと考えられる。

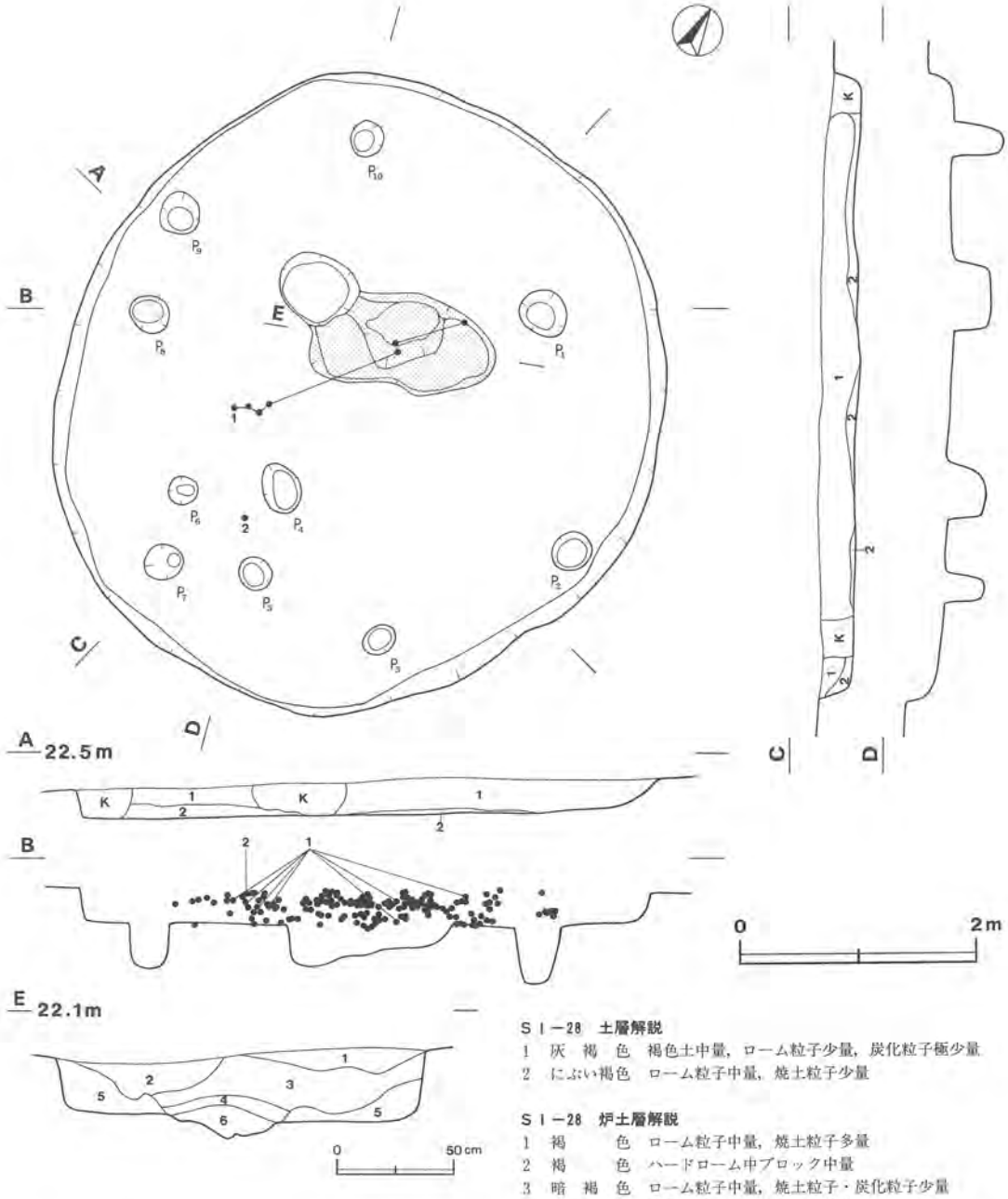
遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部103，胴部631，底部20点）が出土している。炉内と炉南側からは，第112図1の深鉢の口縁部から胴部が正位の状態で出土している。覆土から2の有孔鍔付土器，12の有孔円板が出土している。

3～11は縄文式土器片の拓影図である。3は第1群のb類，4～7はf類，8はh類，9はk類に該当する口縁部片である。6･9は口縁部直下に1列の刺突文を施している。8は口縁部に円形の刺突文を施し，下に蕨手状文が描かれている。10･11はj類の胴部片である。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）の住居跡である。

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第112図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A 22.9 B (15.9)	胴部から口縁部片。キャリパー状をしている。口縁直下に1条の凹線を巡らし，胴部にかけて沈線で「Π」状のモチーフが6単位描かれ，モチーフ外に単節縄文RLを縦位回転で施文している。 内面は横位ナデを施している。	砂粒･長石･石英 にぶい橙色 普通	P74 40%
2	有孔鍔付土器 縄文式土器	B (5.8)	口縁部片。頸部の横位隆帯に縦に2つ1組の孔を有する。全体で9組の孔が推測される。	砂粒・雲母・長石・スコリア 明褐色　普通	P75 5%



S I－28　土層解説

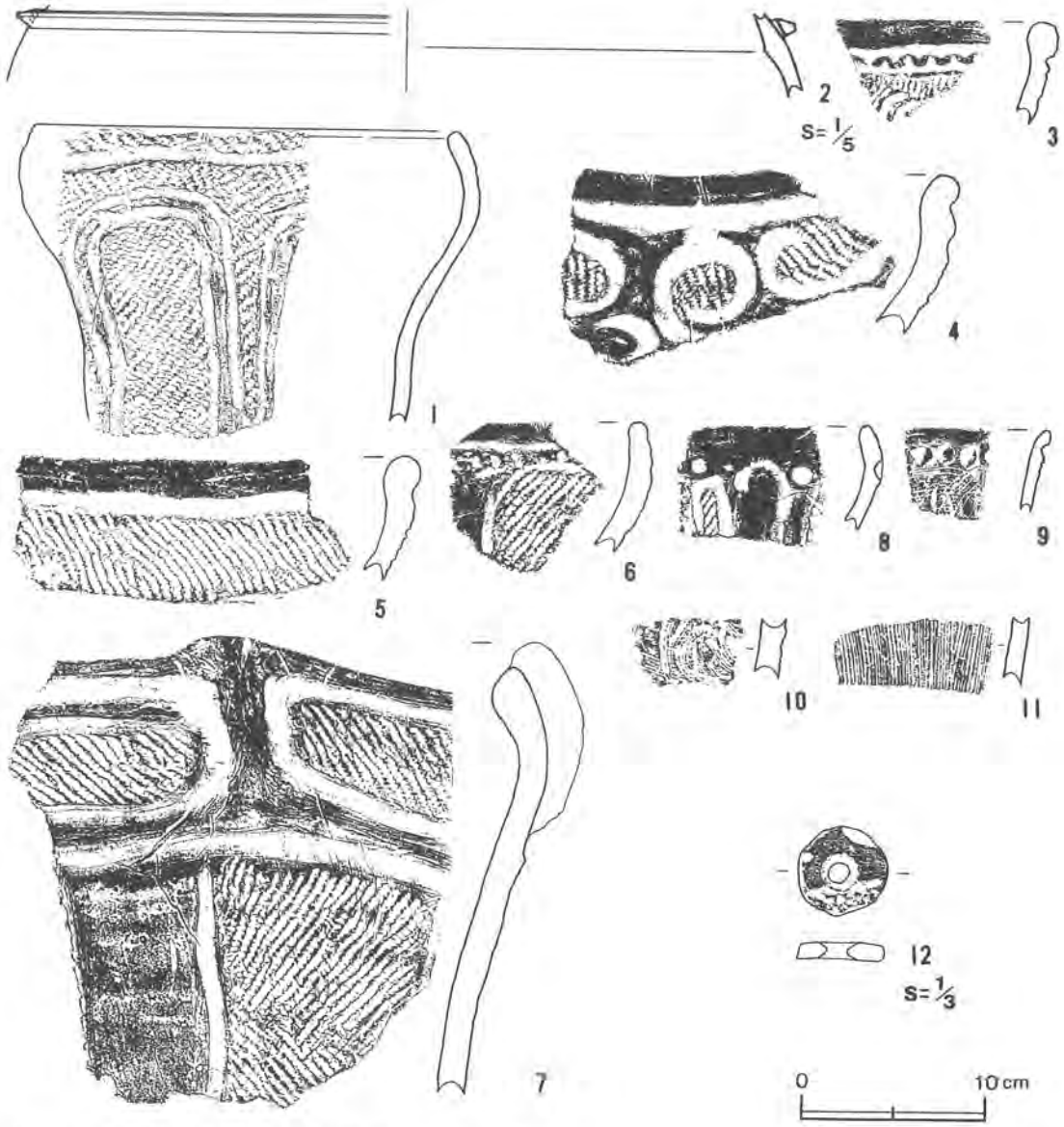
1　灰　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

S I－28　炉土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子多量
2　褐　　色　ハードローム中ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
5　褐　　色　ハードローム小・中ブロック多量，焼土粒子少量

第111図　第28号住居跡実測図

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			孔　径 (cm)	重　量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
12	有孔円板	3.8	3.7	0.8	0.9	12.5	100	DP21



第112図　第28号住居跡出土遺物実測・拓影図

第30号住居跡（第113図）

位置　B4a$_7$区。

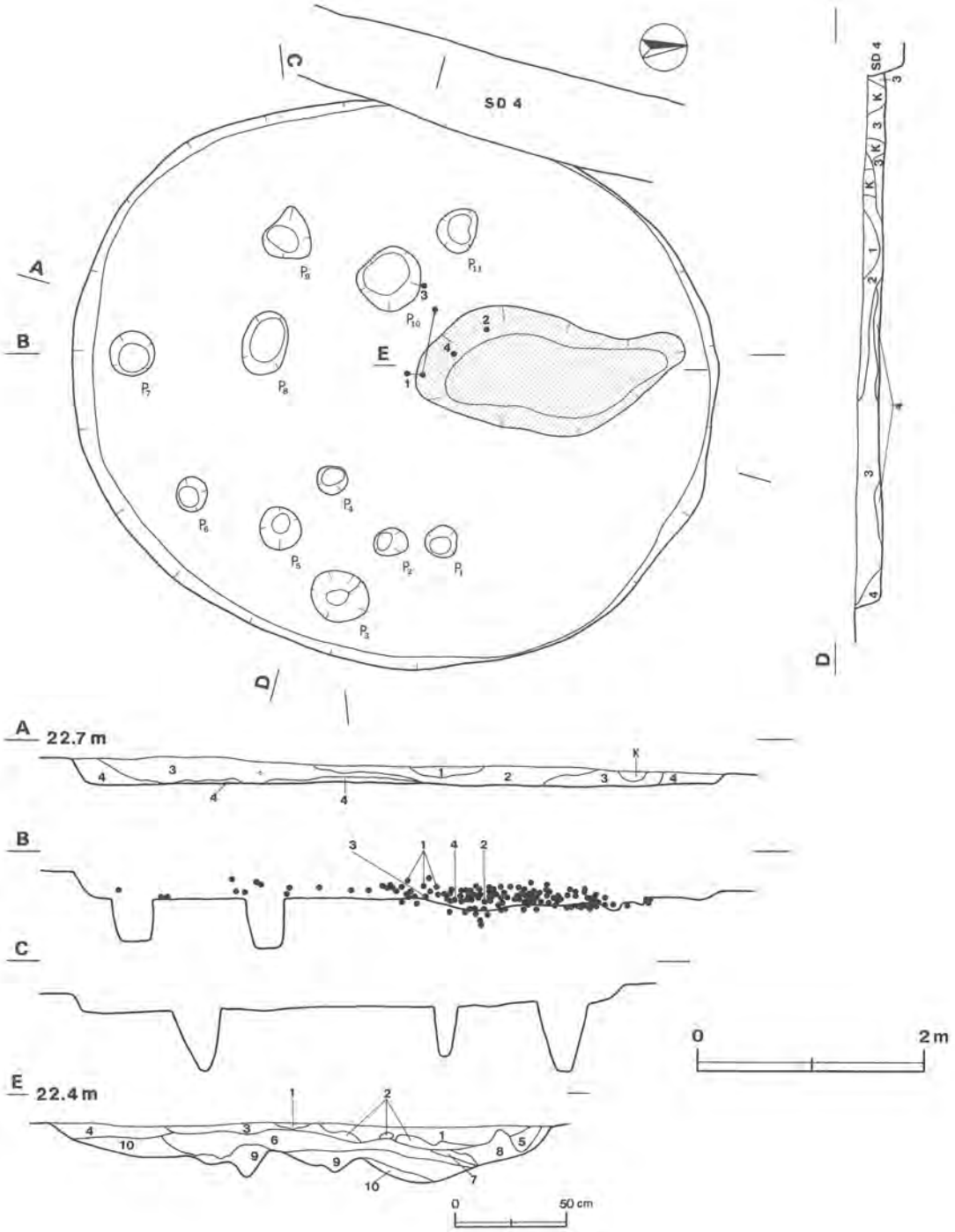
重複関係　第4号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径5.85m，短径［5.00］mの楕円形。

壁　壁高は12～14cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，全域踏み固められている。

炉　北側にある。南北に細長い炉で，長径2.4m，短径1.0mの不定形で，深さ15cm程のやや大型



S I－30　土層解説

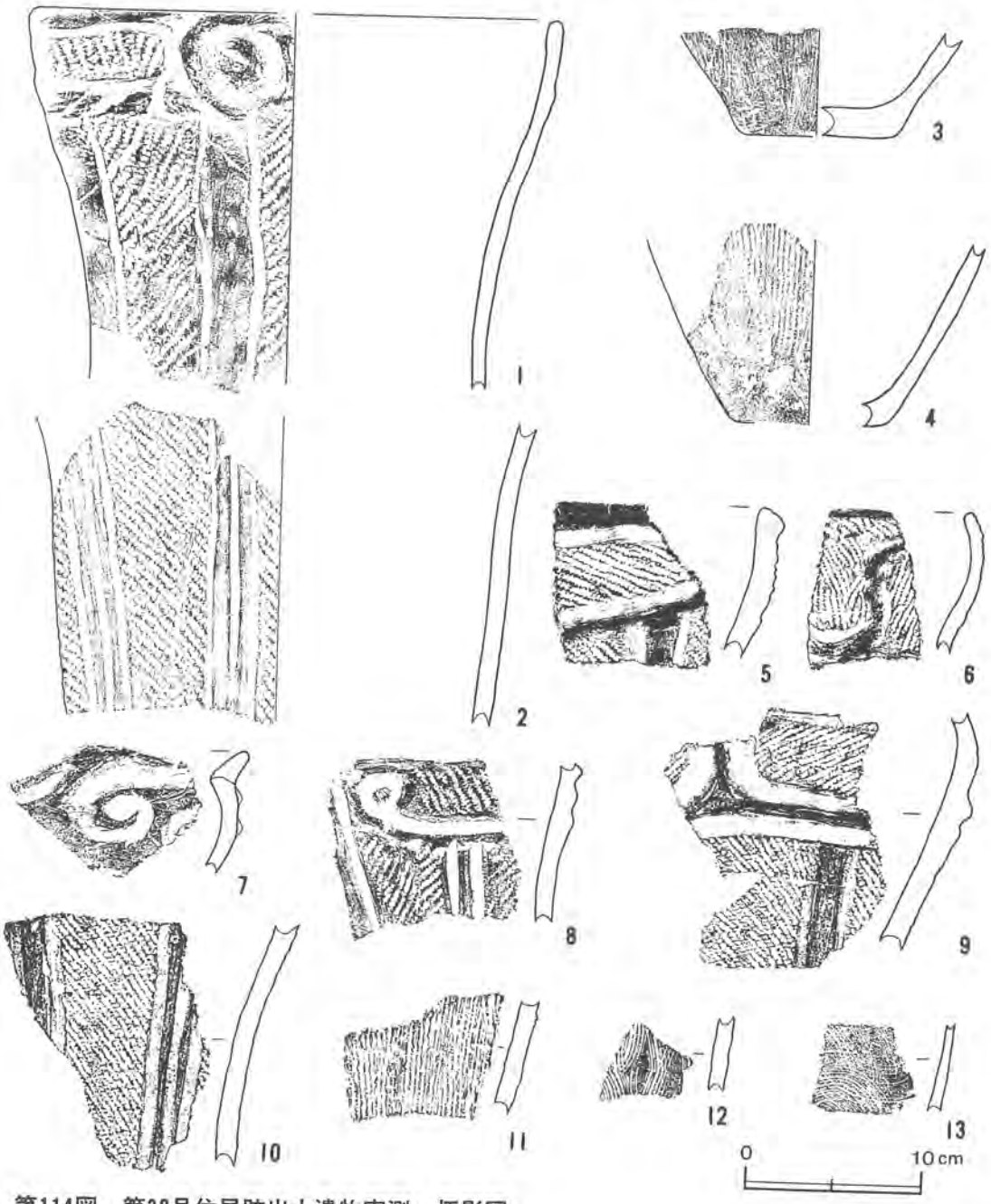
1　極暗褐色　炭化粒子・焼土粒子少量，ローム粒子極少量，
2　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
4　にぶい褐色　ハードローム中ブロック・褐色土中量

第113図　第30号住居跡実測図

の地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット　11か所。P_1，P_2，P_5～P_7，P_9，P_{11}は，径30～40cmの円形で，深さ40～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_4は，径25cmの円形で，深さ47cmであり，P_5の補助柱穴と考えられる。P_3，P_8，P_{10}は，性格不明である。

覆土　4層からなる。その中でも，3層の占める割合が大きい。1～3層から土器片が多量に出



第114図　第30号住居跡出土遺物実測・拓影図

土している。

炉土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
2　赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
3　明赤褐色　焼土粒子多量
4　赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小・中ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　明赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
7　赤 褐 色　焼土粒子多量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
9　明 褐 色　ローム粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック少量
10　明 褐 色　ローム粒子・炭化粒子多量
11　褐　　色　ハードローム大ブロック・ローム粒子多量

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部76，胴部427，底部５点）が出土し，特に炉周辺に多い。炉からは第114図2の深鉢の胴部，4の底部が倒位の状態で出土している。P_{10}北側床面からは3の深鉢の底部が倒位の状態で出土している。覆土から1の深鉢の胴部から口縁部が出土している。

5～13は縄文式土器片の拓影図である。5～9は第１群のｆ類に該当する口縁部片である。10はｆ類，11～13はｊ類に該当する胴部片である。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 114 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A［30.3］ B（21.7）	胴部から口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は隆線と沈線で楕円形と円形に区画され，楕円形の区画内には単節縄文ＲＬを縦位回転で施文し，円形の区画内は磨消している。以下は直線的磨消帯が垂下し，区画間に単節縄文ＲＬを縦位回転で旋文している。	砂粒・長石・スコリア・パミスにぶい橙色 普通	P76 10%
2	深鉢形土器 縄文式土器	B（17.8）	胴部片。外面に直線的磨消帯が垂下し，磨消帯の中央に沈線が縦位に施されている。区画間は単節縄文ＬＲを縦位回転で施文している。	長石・スコリア・パミス 橙色　普通	P77 5％
3	深鉢形土器 縄文式土器	B　(6.2) C　[8.7]	底部片。胴部下位に条線文が施されている。内面は縦位のナデが施されている。	砂粒・石英・長石 にぶい橙色　普通	P78 5％
4	深鉢形土器 縄文式土器	B（10.9） C　[8.8]	底部片。胴部下位に条線文が施されている。底面から３cm程までは横位ナデが施されている。	石英・長石・パミス 橙色　普通	P79 5％

第31号住居跡（第115図）

位置　B4b_5区。

重複関係　第５号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径4.82ｍ，短径［4.04］ｍの楕円形。

壁　壁高は11～25cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，炉周辺が特に踏み固められている。

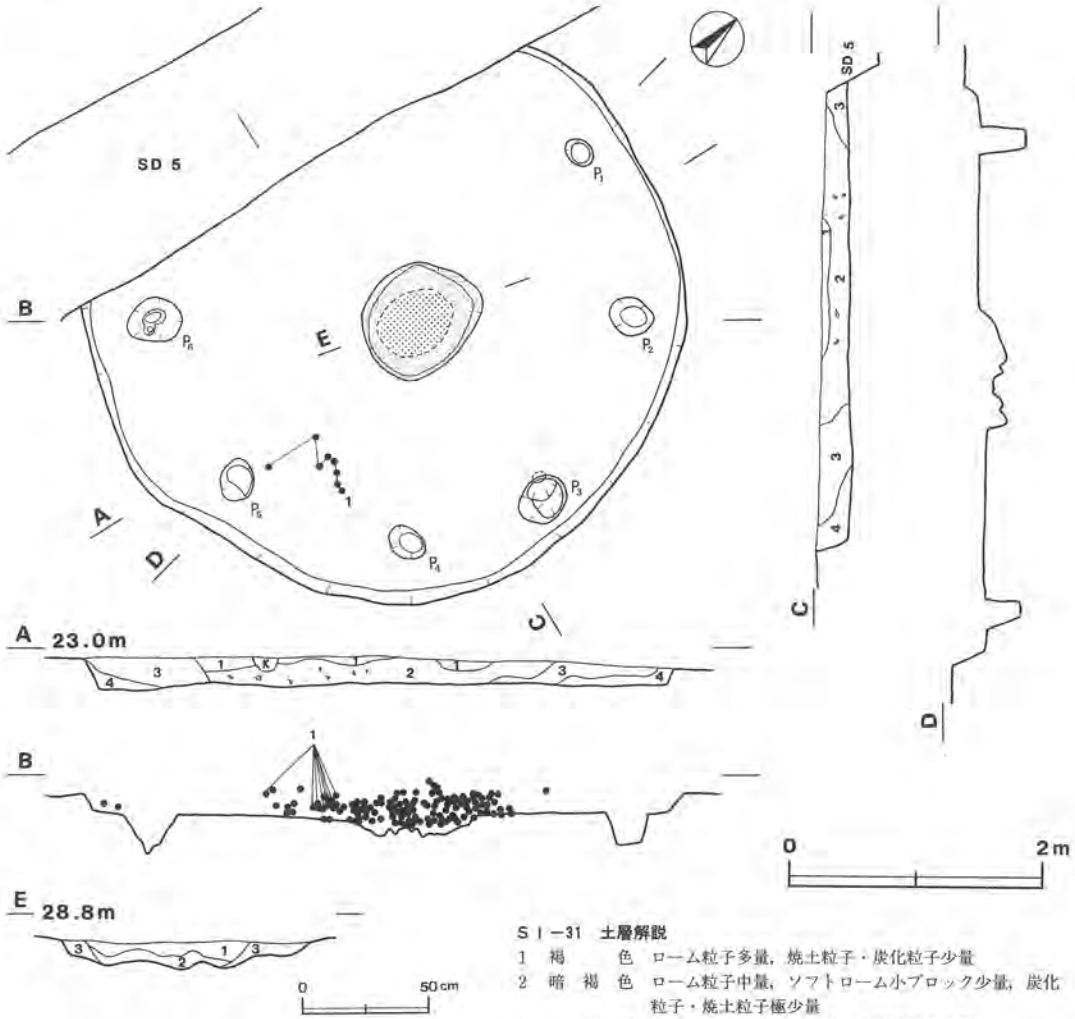
炉　ほぼ中央にある。径80cmの円形で，深さ10cm程の地床炉である。焼土が多量に含まれており，炉床はロームがレンガ状に赤変硬化しているので，長期間の使用であったと考えられる。

ピット　６か所。P_1，P_2，P_4～P_6は，径20～40cmの円形で，深さ30～35cmであり，規模と配列か

ら主柱穴と考えられる。P_3は，径35cmの円形で，深さ50cmであり，外側に向かって掘られ，東壁際に位置しているので，出入り口に伴うものと考えられる。

覆土　4層からなる。1・2層が大部分を占め，2層から一括投棄したものと思われる土器片が多量に出土している。3・4層は，壁際から流れ込んだものと思われる。

遺物　覆土中層から縄文式土器片（口縁部80，胴部664，底部11点）が出土している。P_5の北側からは第116図1の深鉢が出土している。南壁際の覆土から22の赤彩されている耳栓が完形で出土している。覆土から23の打製石斧，24の石鏃が出土している。遺物は，炉付近から多量に出土している。



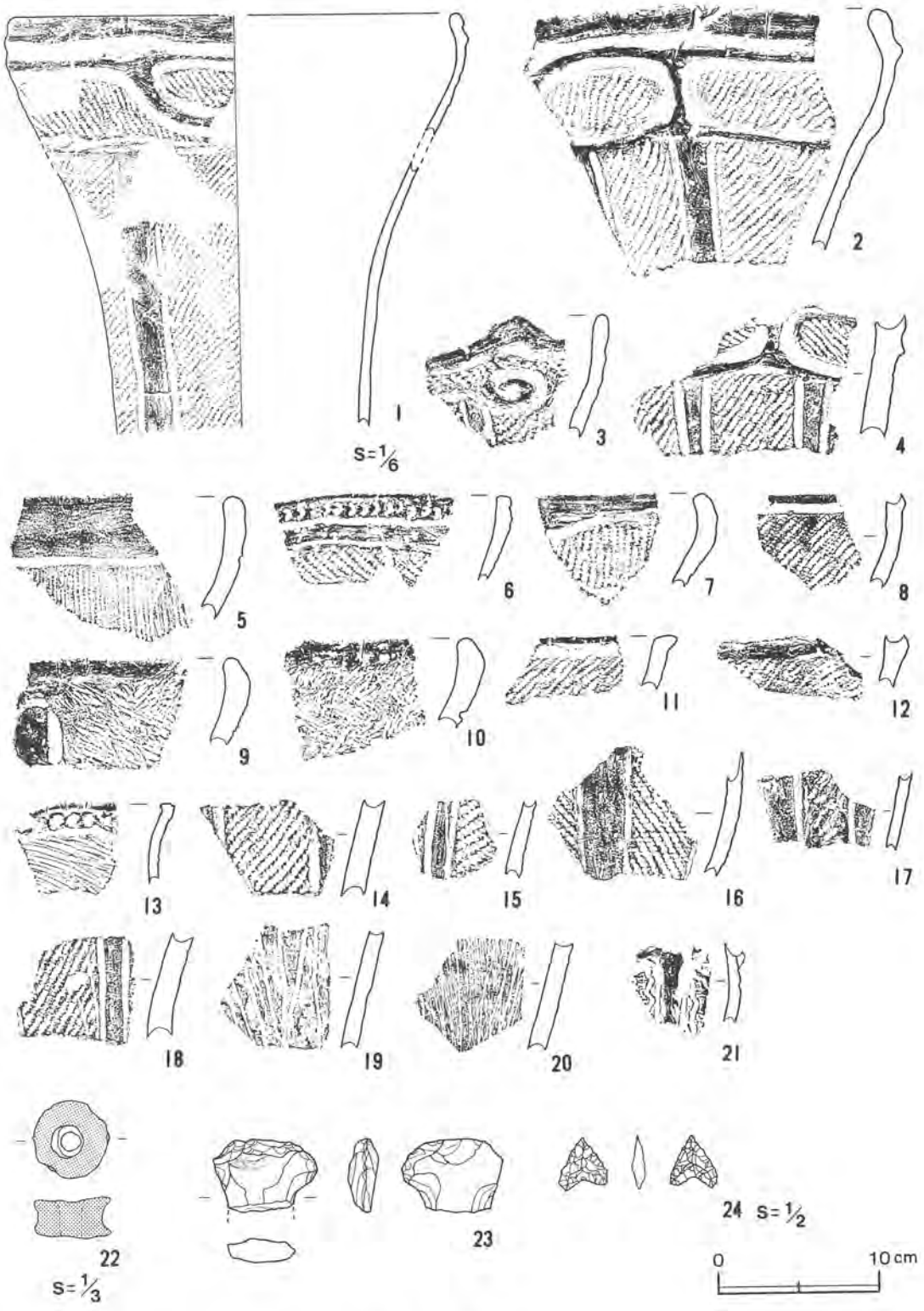
S I −31　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ソフトローム小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
3　明 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
4　明 褐 色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック少量，炭化粒子極少量

S I −31　炉土層解説

1　極暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
2　暗 赤 褐 色　焼土小・中ブロック・焼土粒子多量
3　にぶい赤褐色　ローム小・中ブロック少量

第115図　第31号住居跡実測図



第116図　第31号住居跡出土遺物実測・拓影図

2～21は縄文式土器片の拓影図である。2～4は第1群のf類，5～8はj類，9～12はk類，13は第2群のd類に該当する口縁部片である。6は口縁部直下に1列の爪形刺突，2条の沈線を施している。13は口縁部直下に円形の刺突列を施し，以下に斜位の沈線が描かれている。14～18は第1群のf類，19･20はk類に該当する胴部片である。21は第2群のd類に該当する胴部片で，沈線が蛇行している。

所見　柱穴の配列から，第5号溝の中に主柱穴があったと考えられる。P_3が出入り口に伴うものと考えられるため，東側が出入り口と思われる。覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第116図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [55.0] B (51.5)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部は隆線と沈線で区画され，区画内には単節縄文LRを縦位回転で施文している。以下は直線的磨消帯が垂下し，区画間に単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒・長石・パミス・スコリア 橙色 普通	P80 15%

図版番号	器　種	計測値 (cm)			孔径 (cm)	重量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
22	耳　栓	3.7	3.7	1.9	1.5	17.1	100	DP22

図版番号	器　種	計測値				石質	備　考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
23	打製石斧	(4.6)	(6.4)	1.9	(142.5)	凝灰岩	半欠	Q54
24	石　鏃	1.6	1.4	0.4	0.7	チャート		Q55

第32号住居跡（第117図）

位置　A4i_2区。

重複関係　第75号土坑に掘り込まれている。

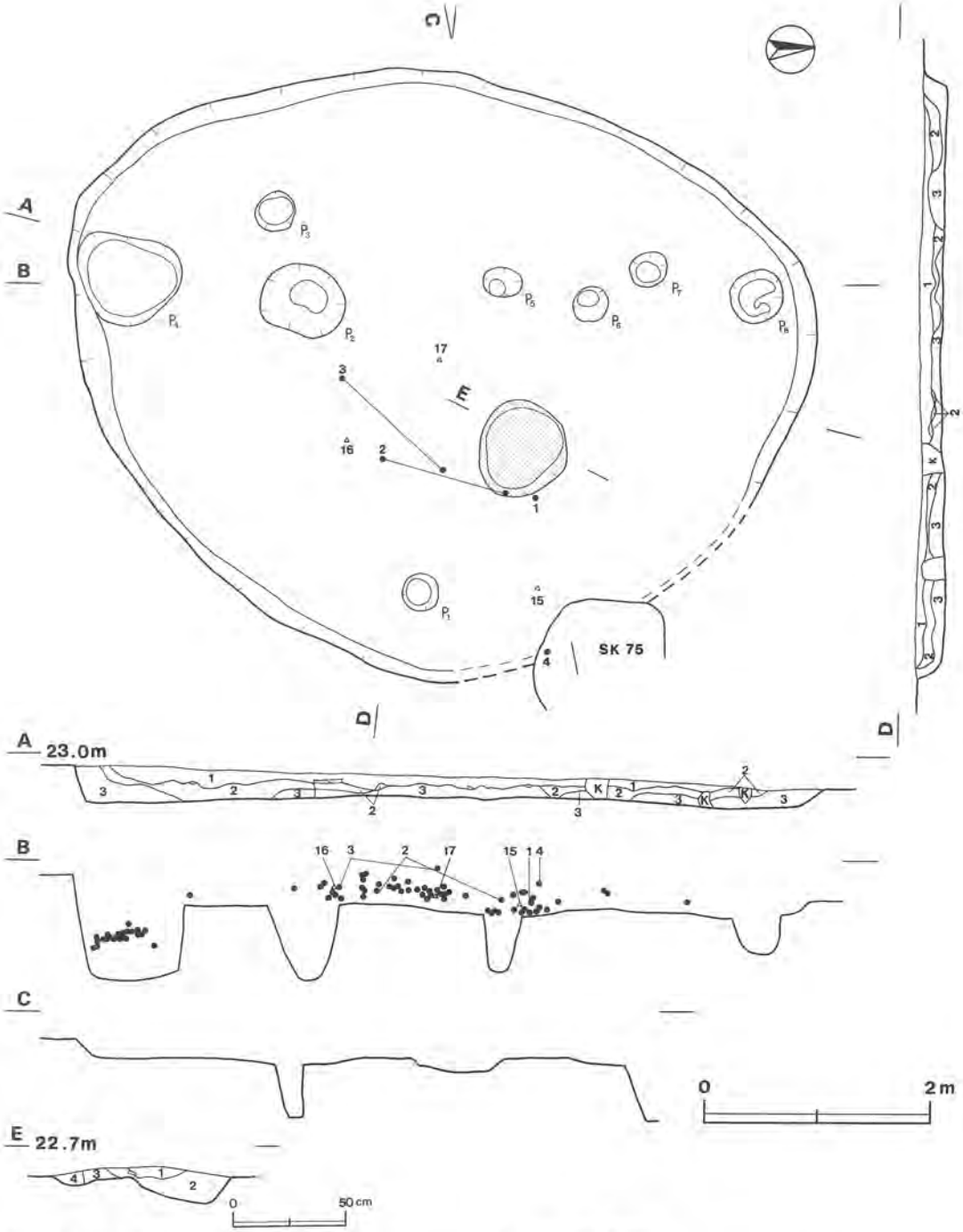
規模と平面形　長径6.52m，短径5.30mの楕円形。

壁　壁高は16～22cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。北側壁は，掘り過ぎである。

床　わずかに起伏し，全域踏み固められている。

炉　中央から北東側にある。径80cmの円形で，深さ25cm程の地床炉で，北側に傾斜している。炉床は赤変硬化している。

ピット　8か所。P_1，P_3，P_7は，径30cm程の円形で，深さ34～46cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_5，P_6は，径30cm程の円形で深さ50cm前後であり，補助柱穴と考えられる。P_4は，南壁際に確認され，径80cmの円形で，深さ60cmであり，遺物が多量に出土している。



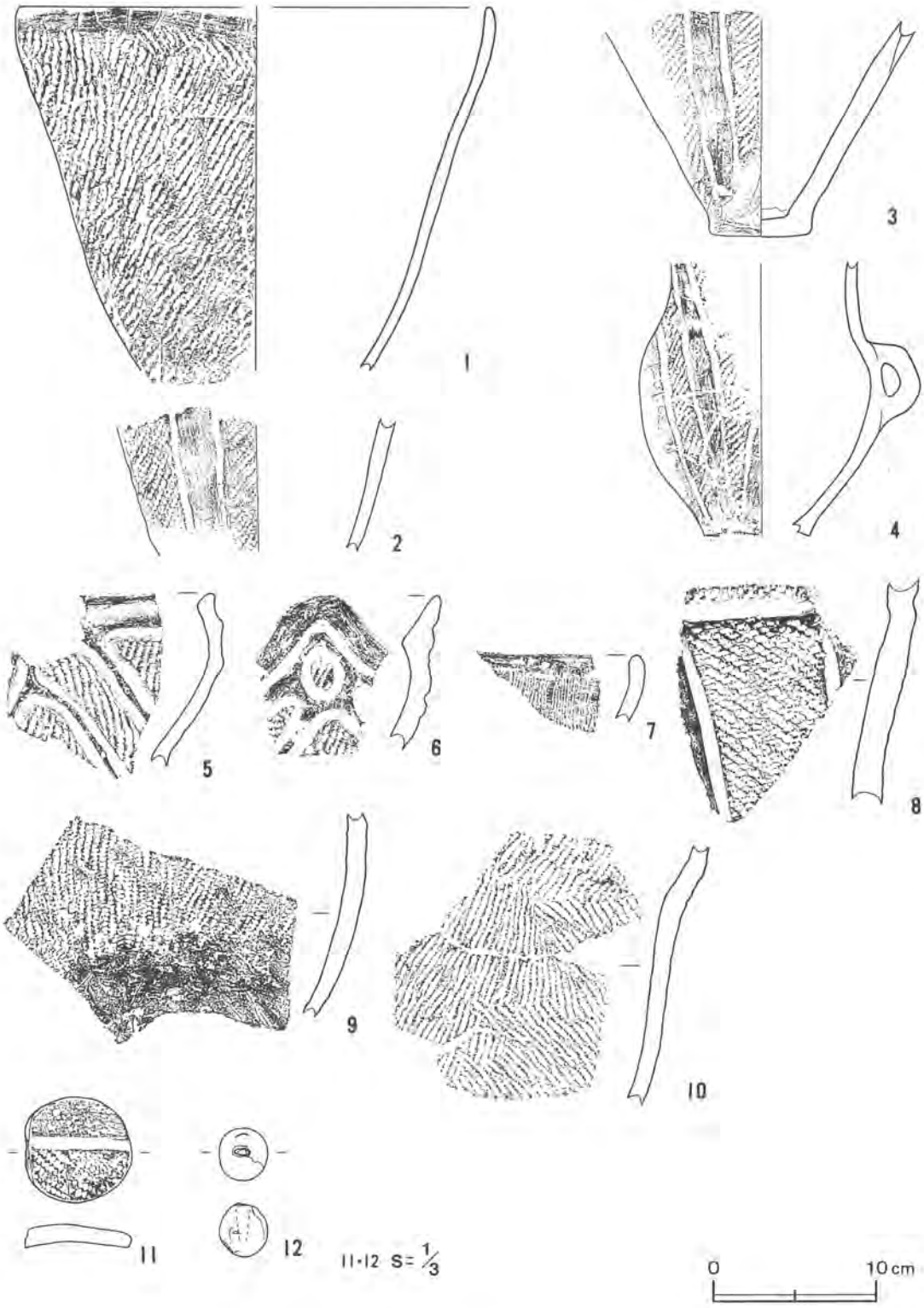
S I－32　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　にぶい褐色　ローム粒子多量，ソフトローム小ブロック・褐色土少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
3　明　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

S I－32　炉土層解説

1　灰　褐　色　黒色土中量，焼土小ブロック極少量
2　にぶい褐色　褐色土中量，焼土粒子極少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，褐色土少量
4　褐　　色　焼土粒子少量

第117図　第32号住居跡実測図



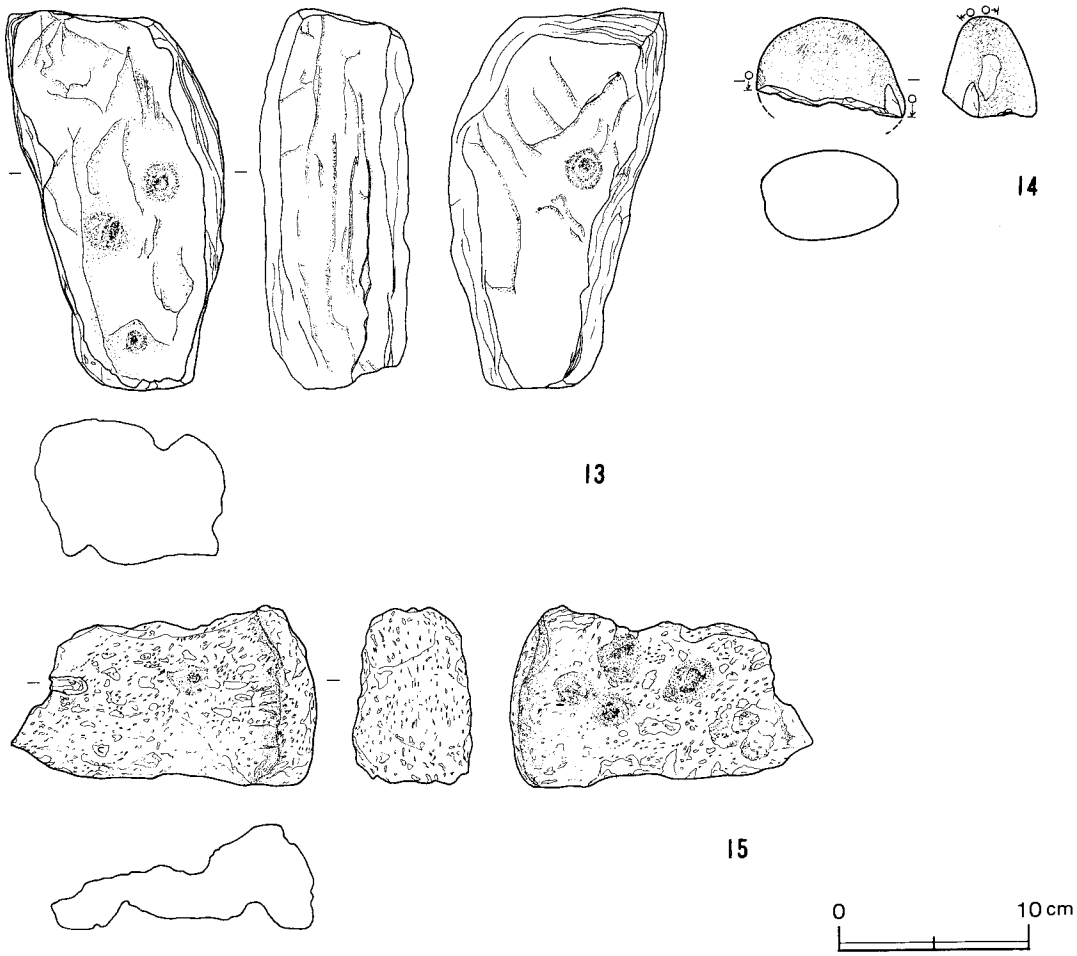
第118図　第32号住居跡出土遺物実測・拓影図（1）

覆土　3層からなる。各層とも壁際から流れ込んで堆積したものと考えられる。1・2層の間に土器片が多量に出土している。

遺物　覆土中層から縄文式土器片（口縁部45，胴部440，底部7点）が出土している。特にP_4から接合できないが縄文式土器片が多量に出土している。第75号土坑の南側から第118・119図13の凹石が出土している。覆土から1・2・3・4の深鉢，11の土製円板，12の土製品，14の磨石，15の石皿が出土している。

5～10は縄文式土器片の拓影図である。5・6は第1群のg類，7はk類に該当する口縁部片である。8はf類，9・10はk類に該当する胴部片である。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



第119図　第32号住居跡出土遺物実測図（2）

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第118・119図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [29.0] B (22.6)	胴部から口縁部片。口縁部は内彎する。全面に単節縄文ＲＬが充填されている。	砂粒・長石 橙色　普通	P81 20%
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (8.3)	胴部片。外面に直線的磨消帯が垂下し，区画間に縄文を施文している。摩滅が著しい。	長石・石英・パミス 橙色　普通	P83 10%
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (13.4) C 6.2	底部から胴部片。突出気味の底部。胴部下位は直線的磨消帯が垂下し，区画間に縄文を縦位回転で施文している。	長石・スコリア・パミス 橙色　普通	P84 10%
4	深鉢形土器 縄文式土器	B (16.9) C [6.2]	突出気味の底部。胴部は内彎しながら立ち上がる。外面に直線的摩消帯が垂下し，区画間に前々段多条の縄文ＲＬを縦位回転で施文し，中位に橋状把手が付されている。	砂粒・長石 にぶい黄褐色 普通	P103 40%

図版番号	器　種	計測値(cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
11	土製円板	4.8	5.0	1.2		23.7	100	DP23
12	土製品	2.2	2.3		0.7	12.7	100	DP24

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
13	凹　石	(20.1)	(11.5)	8.2	(2320.1)	雲母片岩	一部欠損	Q56
14	磨　石	(5.3)	(7.8)	(5.0)	(222.5)	安山岩	半欠	Q57
15	石　皿	(9.6)	(15.1)	6.2	(519.9)	安山岩	表裏が凹み 一部欠損	Q58

第33号住居跡（第120図）

位置　B4a_2区。

規模と平面形　長径5.46ｍ，短径5.16ｍの円形。

壁　壁高は24～30cmで，外傾して立ち上がっている。北側壁は，掘り過ぎである。

床　ほぼ平坦で，全域踏み固められている。

炉　中央から北西寄りにある。長径1.0ｍ，短径0.8ｍの楕円形で，深さ35cm程の椀状に掘り込んだ地床炉である。炉床はロームがレンガ状に赤変硬化している。

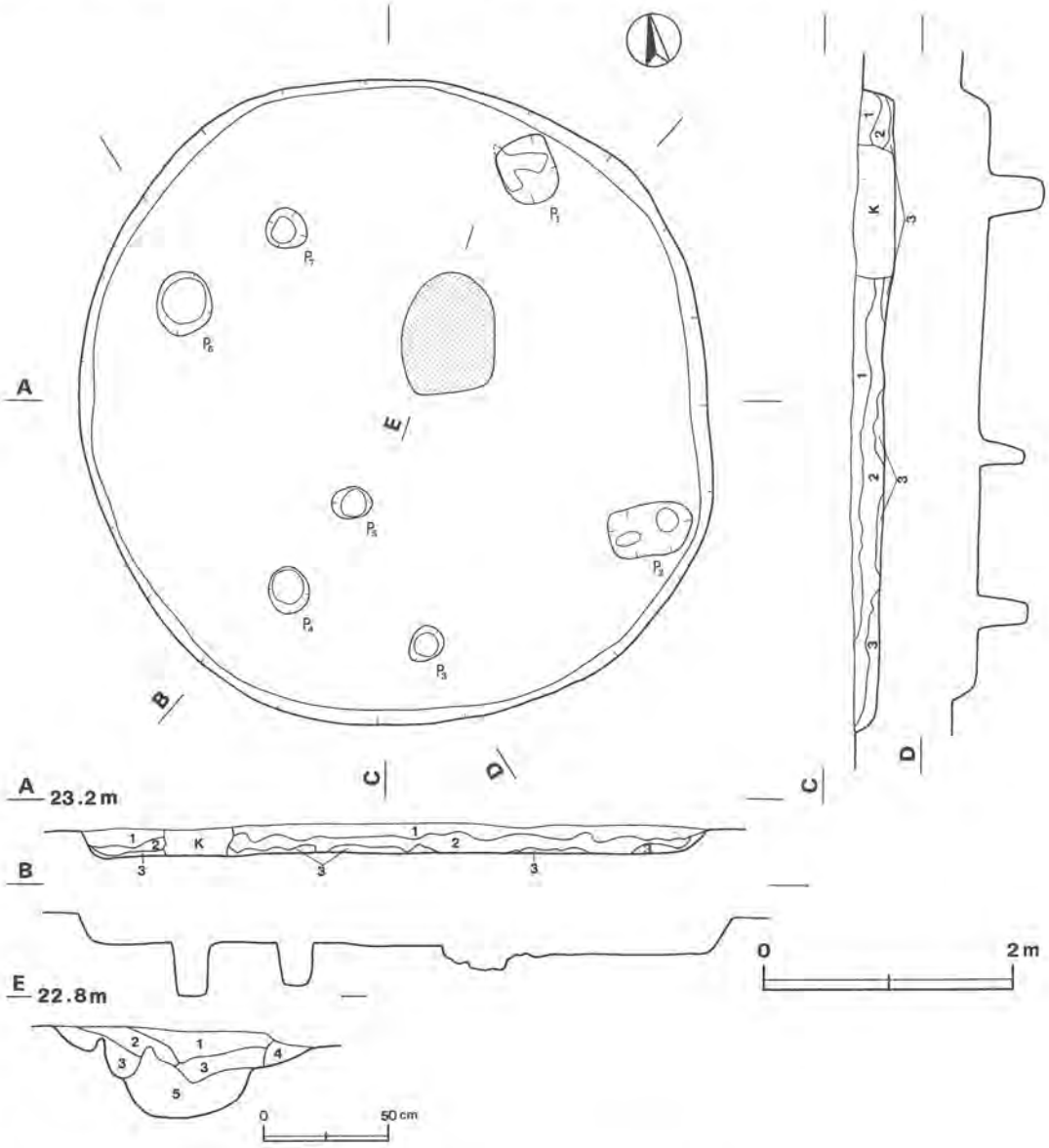
ピット　7か所。P_2内の西側ピット，P_3，P_4，P_6，P_7は，径30～40cmの円形で，深さ45cm前後であり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径30cmの円形で，深さ36cmであり，配列から補助柱穴と考えられる。P_1は，土器片が出土しているが，性格不明である。

覆土　3層からなる。自然的な堆積をしている。1層から流れ込みと思われる土器片が出土している。

遺物　覆土上層から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部21，胴部141，底部3点）が出土している。覆土から第121図1の深鉢の底部が出土している。床面から遺物は出土していない。

2～7は縄文式土器片の拓影図である。2は第1群のg類，3･4はj類，5はk類に該当する口縁部片である。6はk類に該当する胴部片で，縦位の沈線が密に描かれている。7は第3群のb類に該当する胴部片と考えられる。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



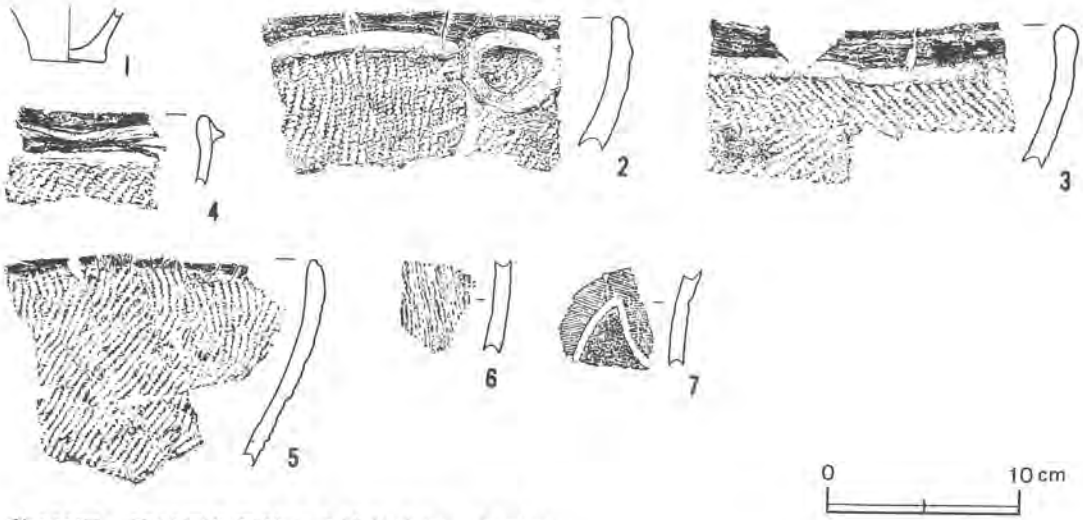
S I－33土層解説

1　明　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・焼土粒子極中量
3　褐　　色　ハードローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量

S I－33炉土層解説

1　にぶい褐色　焼土粒子少量
2　褐　　色　明褐色土中量，焼土粒子極少量
3　暗赤褐色　焼土小･中ブロック少量
4　明　褐　色　ハードローム中ブロック中量
5　赤　褐　色　焼土粒子・焼土ブロック多量，炭化粒子中量

第120図　第33号住居跡実測図



第121図　第33号住居跡出土遺物実測・拓影図

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 121 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (2.9) C 4.0	底部片。突出気味の底部。底面近くは，縦位のナデが施されている。	砂粒・長石 橙色　普通	P86 5%

第34号住居跡（第122図）

位置　B4e_4区。

規模と平面形　長径5.05m，短径5.02mの円形。

壁　壁高は8～9cmで，外傾して立ち上がっている。北側壁は，掘り過ぎである。

床　わずかに起伏し，炉周辺が特に踏み固められている。

炉　中央からやや北側にある。長径70cm，短径60cmの楕円形で，深さ7～8cmと浅い地床炉である。1層底面のロームがレンガ状に赤変硬化しているため，炉床と考えられる。

ピット　7か所。P_1，P_2，P_4，P_6，P_7は，径30～40cmの円形で，深さ34～46cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径25cmの円形で，深さ14cmであり，P_6の補助柱穴と考えられる。P_3は，径90cmの円形で，深さ30cmであり，遺物が少し出土している。

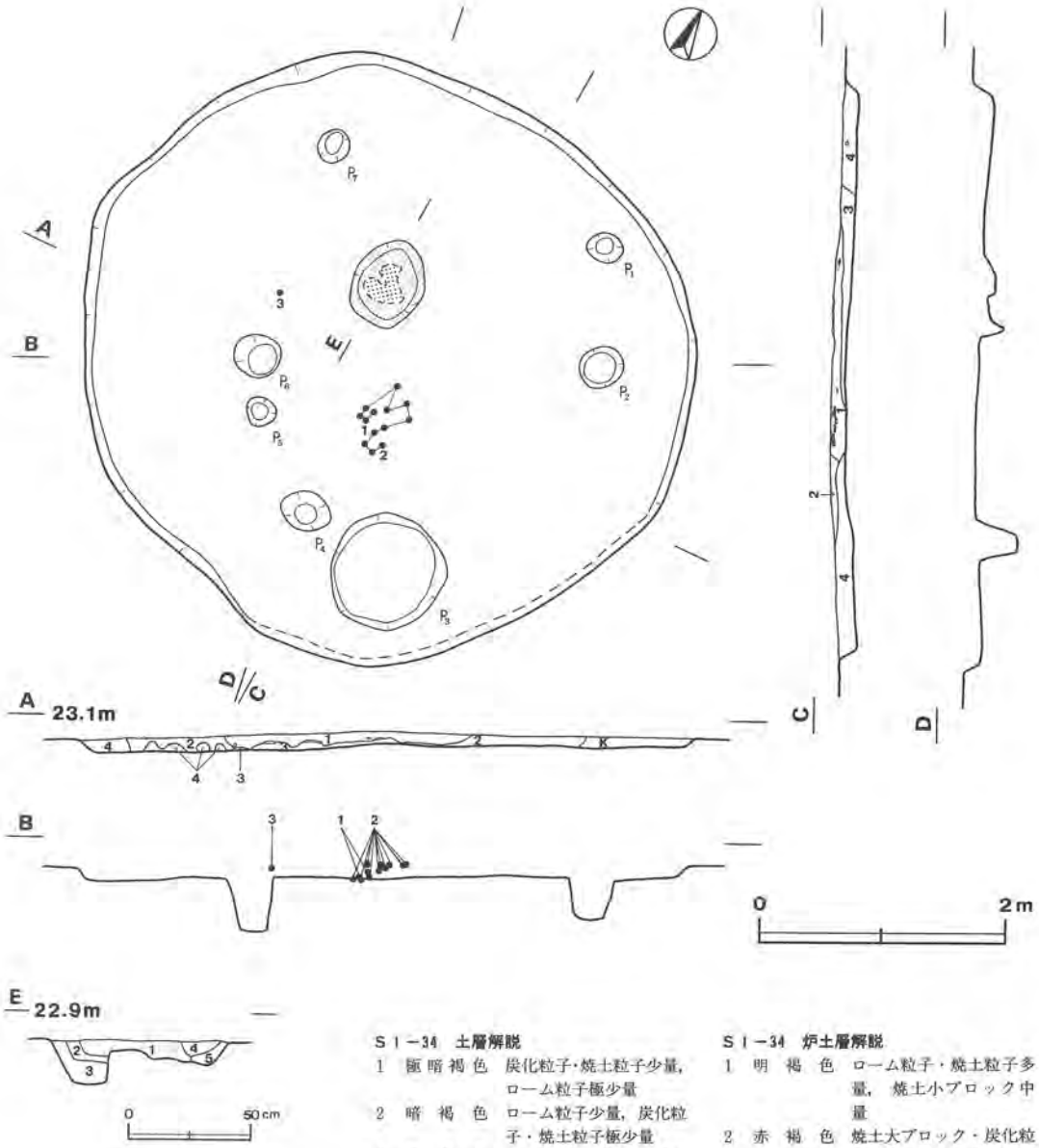
覆土　4層からなる。1層から一括投棄と考えられる土器片が多量に出土している。4層はハードロームがブロック状に堆積しており，人為的に埋め戻したと考えられる。

遺物　覆土上層から縄文式土器片（口縁部49，胴部458，底部9点）が出土している。炉の南東側の床面と覆土から，接合できた第123図1の赤彩された壺形の深鉢の口縁部，2の深鉢の胴部が出土している。P_6の北側床面からは3の深鉢の胴部が出土している。

4～10は縄文式土器片の拓影図である。4～8は第1群のg類，9はi類に該当する口縁部片であ

る。10はｊ類に該当する胴部片で，縦位の沈線が密に描かれている。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。



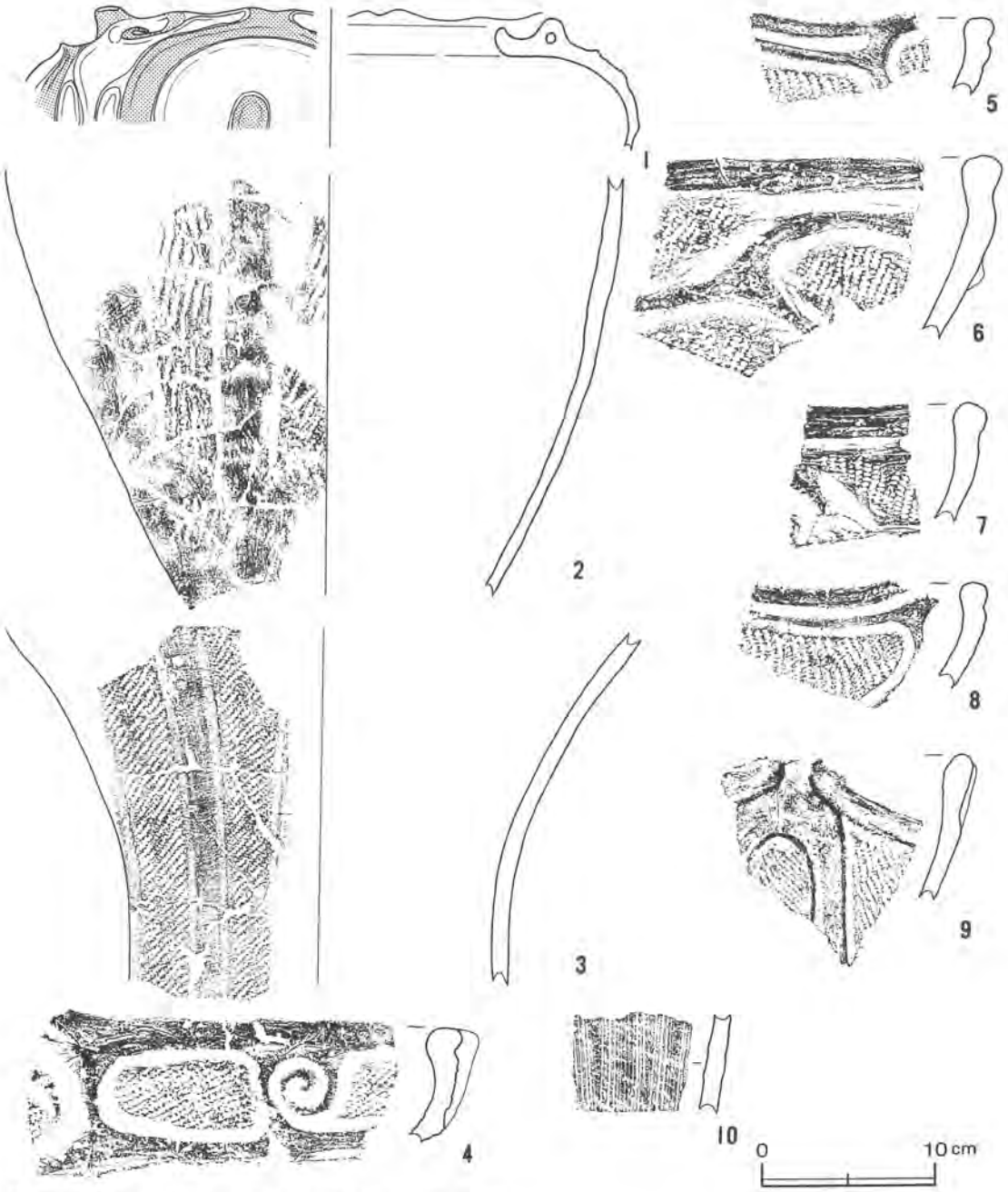
Ｓ１－34　土層解説

1	極暗褐色	炭化粒子・焼土粒子少量，ローム粒子極少量
2	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子極少量
3	明褐色	ハードローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量
4	にぶい褐色	ローム粒子多量，ハードローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

Ｓ１－34　炉土層解説

1	明褐色	ローム粒子・焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
2	赤褐色	焼土大ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子極少量
3	明褐色	ローム粒子多量，焼土粒子中量
4	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子少量
5	褐色	ハードローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量

第122図　第34号住居跡実測図



第123図　第34号住居跡出土遺物実測・拓影図

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 123 図 1	壺形土器 縄文式土器	A [26.7] B　9.9	肩部から口縁部片。口縁部は内彎する。肩部に隆帯による渦巻文や曲線文が描かれ，ところどころに丸い凹みが見られる。また，鍔にあたる肩部の隆帯に横方向に小孔が貫通している。内外面ともに丁寧なナデが施されている。外面赤彩。	長石・パミス・礫 外面赤色 内面赤黒色 普通	P87 10%

2	深鉢形土器 縄文式土器	B (24.5)	胴部片。胴部は内彎気味に立ち上がる。外面に直線的磨消帯が垂下し，区画間に単節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。全面に単節縄文ＲＬが充填されている。	砂粒・パミス にぶい橙色 普通	P88 50%
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (20.4)	胴部片。外面に直線的磨消帯が垂下し，区画間に単節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。	砂粒・長石 橙色　普通	P89 5%

第35Ａ号住居跡（第124図）

位置　B3j_5区。

規模と平面形　長径5.66m，短径5.27mの円形。

壁　壁高は14～21cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，炉周辺が特に踏み固められている。炉の西側一帯に焼土の広がりがあり，北側に傾斜している。

炉　中央から北側にある。径1.0m程の円形で，深さ8cm程と浅い地床炉である。炉床は赤変硬化している。

ピット　8か所。P_1～P_8は，径25～40cmの円形で，深さ35～50cm程であり，規模や配列から主柱穴と考えられる。

覆土　2層からなる。1層が大部分を占め，土器片が多量に出土している。2層は壁際から流れ込んだものと思われる。

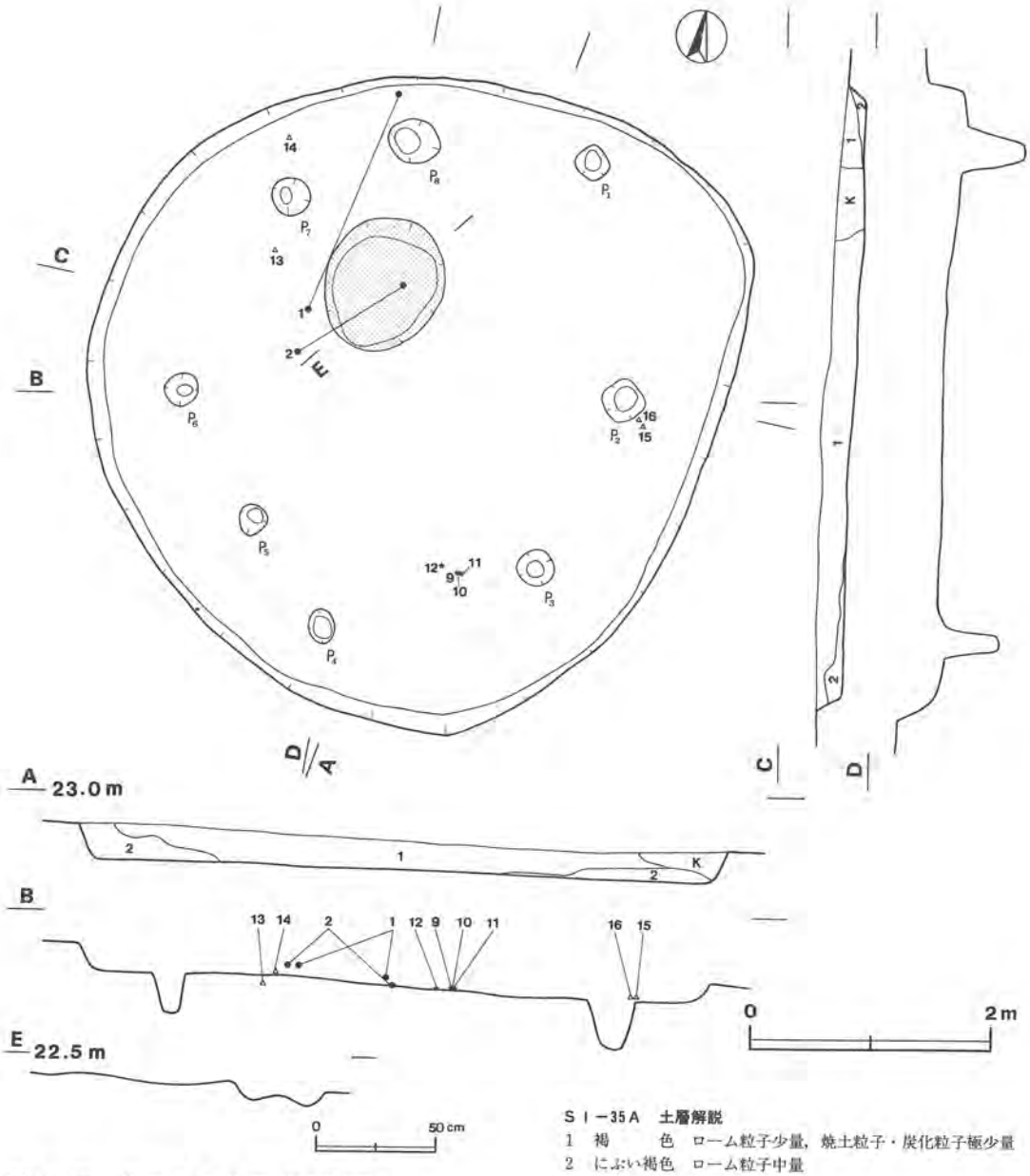
遺物　覆土上層から混入と思われる縄文式土器片（口縁部61，胴部579，底部11点）が出土している。第125図1は炉の西側とP_8の北側から出土した土器片の接合による深鉢の底部から胴部である。2は炉内と炉の南西側から出土した土器片の接合による深鉢の底部から胴部であり，被熱され炉で使用されたものと考えられる。P_3の西側床面からは，9～12の有孔円板がまとまって出土している。北側床面からは，13の磨石，15の打製石斧が出土している。覆土から14の磨石，16の磨製石斧の刃部が出土している。

3～8は縄文式土器片の拓影図である。3･4は第1群のｇ類，5～7はｊ類，8はk類に該当する口縁部片である。7は2列の円形刺突文を施している。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。炉が北西側に位置しているため，南東側にスペースをもった住居跡である。

第35Ａ号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第 125 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (26.7) C [6.2]	底部から胴部片。胴部は内彎しながら立ち上がる。外面には狭い直線的磨消帯が垂下し，区画間に撚糸文を施文している。	スコリア・パミス 橙色 普通	P90 10%

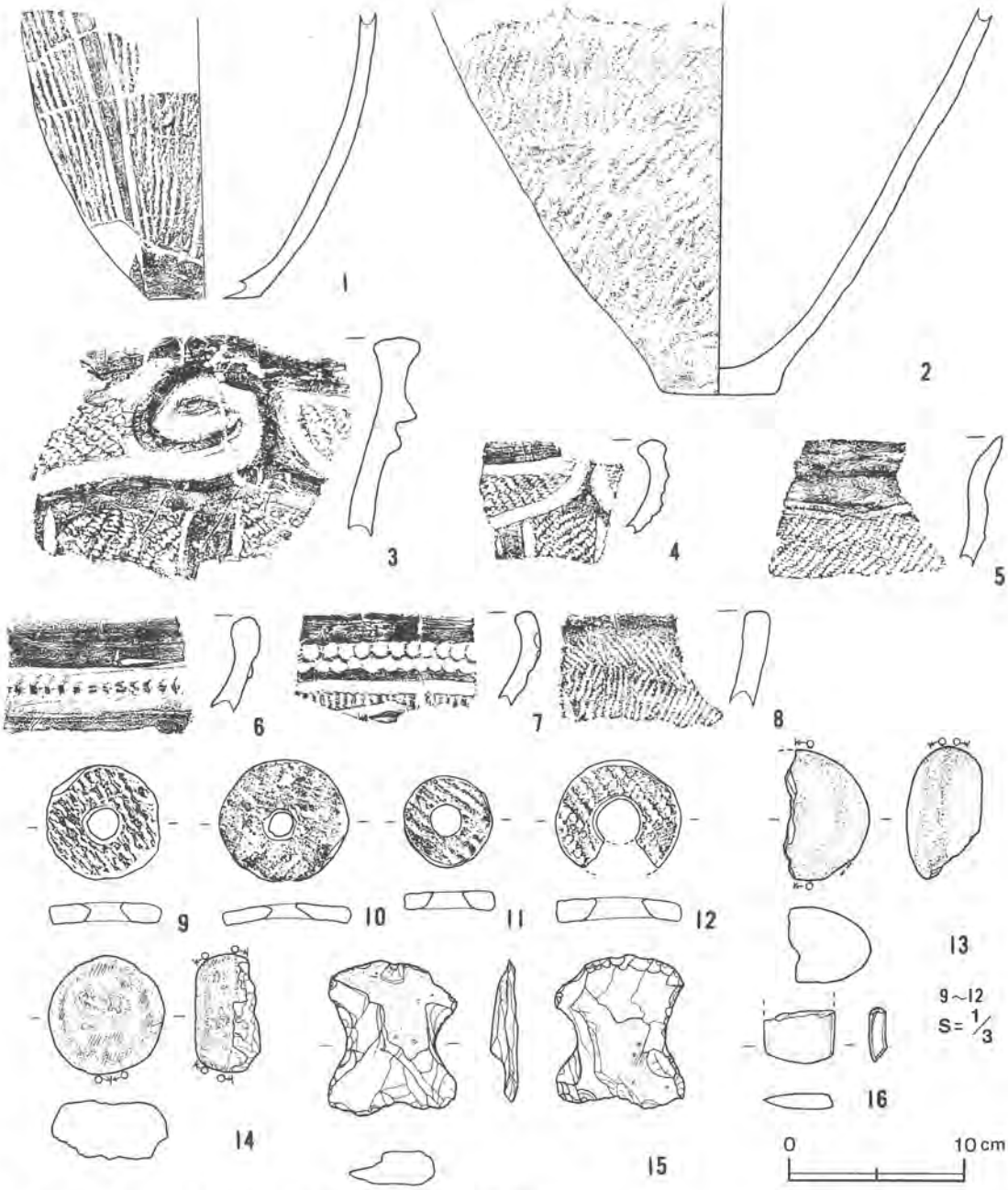


S I −35A 土層解説
1 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2 にぶい褐色 ローム粒子中量

第124図 第35A号住居跡実測図

2	深鉢形土器 縄文式土器	B (22.5) C 6.5	底部から胴部片。突出気味の底部。胴部は外傾しながら立ち上がる。外面に単節縄文RLが充填されている。底面から3cm程までは横位ナデが施されている。	石英・スコリア 明褐色 普通	P104 40%

図版番号	器 種	計 測 値 (cm)			孔 径 (cm)	重 量 (g)	現存率 (%)	備 考
		最大長	最大幅	最大厚				
9	有孔円板	5.0	4.9	1.0	1.3	23.6	100	DP25
10	有孔円板	5.3	5.6	0.9	1.0	24.6	100	DP26



第125図　第35A号住居跡出土遺物実測・拓影図

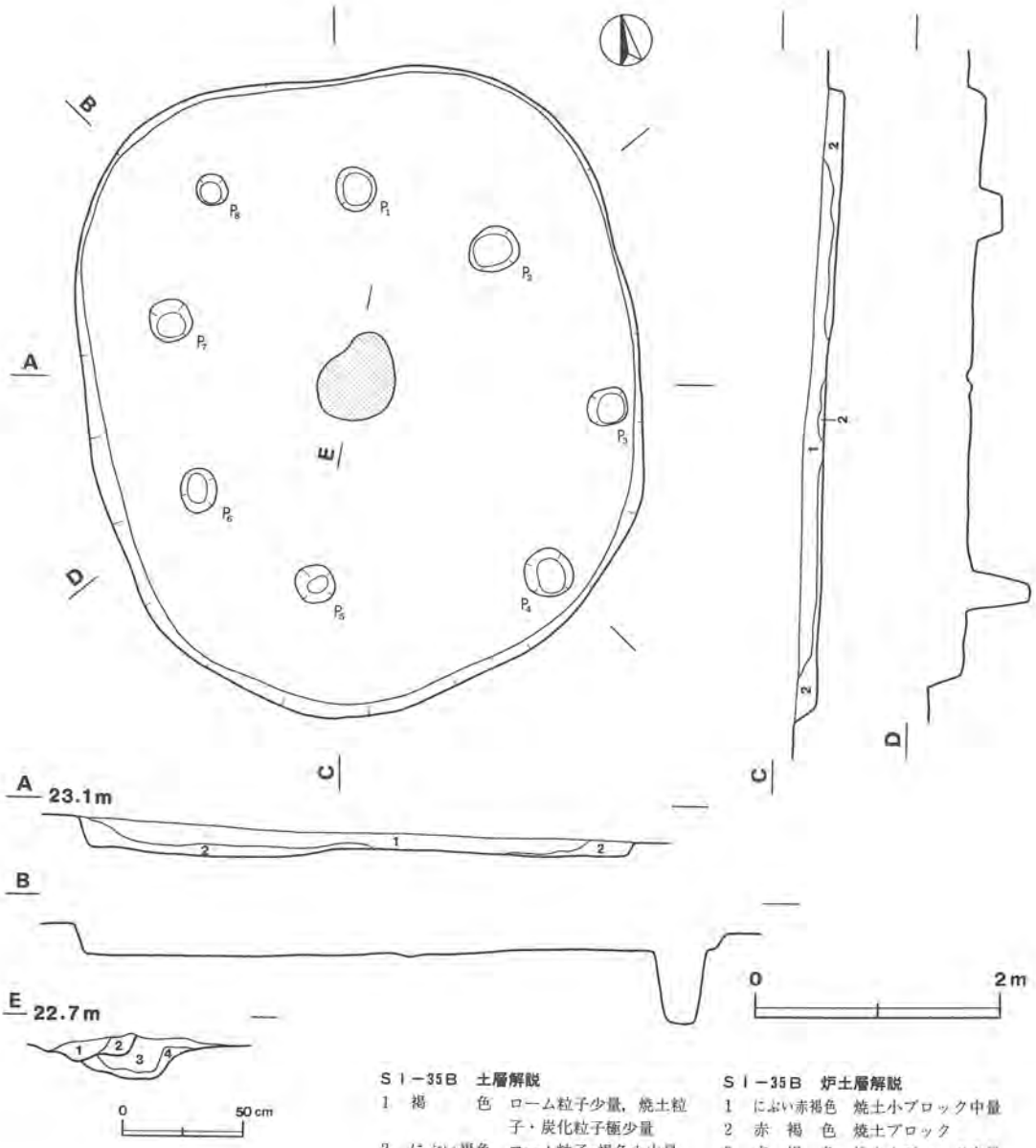
11	有孔円板	4.1	3.9	0.8	1.3	9.5	100	DP27
12	有孔円板	(4.8)	5.4	1.0	1.9	(20.2)	80	一部欠損　DP28

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
13	磨　石	(7.6)	(4.9)	4.4	(187.2)	安山岩	一部欠損　Q59

14	磨　石	6.8	6.6	(3.7)	(210.4)	安 山 岩	一部欠損	Q60
15	打製石斧	8.9	7.4	1.6	124.8	凝 灰 岩		Q61
16	磨製石斧	(3.0)	4.1	(1.0)	(17.6)	砂　岩	刃部片	Q62

第35B号住居跡（第126図）

位置　B3a$_5$区。



S I－35B　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子・褐色土中量，焼土粒子極少量

S I－35B　炉土層解説

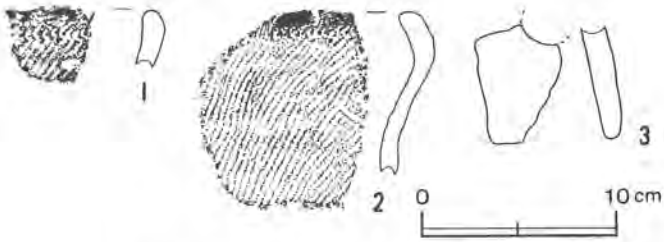
1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量
2　赤　褐　色　焼土ブロック
3　赤　褐　色　焼土小ブロック多量
4　赤　褐　色　硬化した焼土ブロック

第126図　第35B号住居跡実測図

規模と平面形　長径5.44m，短径4.72mの楕円形。

壁　壁高は13～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，炉周辺が特に踏み固められている。北東側にやや傾斜している。



第127図　第35B号住居跡出土遺物実測・拓影図

炉　ほぼ中央にある。断面から1・2層の底面が被熱し，ロームがレンガ状に赤変硬化している。4層の底面も赤変硬化しているため，二期にわたり使用したものと考えられる。

ピット　8か所。いずれも径25～45cmの円形で，深さは21～60cmとばらつきがあるが，規模や配列から主柱穴と考えられる。

覆土　2層からなる。1層が大部分を占めている。北東側が谷津であるため，やや傾斜しているので，南西壁際から北東側に流れ込んだと考えられる堆積である。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部5，胴部16，底部2点）が出土している。床面から遺物は出土していない。

第127図は縄文式土器片の拓影図である。1･2は第1群のk類に該当する口縁部片で，口縁部直下に1列の爪形刺突文が施されている。3は器台片で，孔が1か所確認される。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第36号住居跡（第128図）

位置　B3d_5区。

規模と平面形　長径7.14m，短径6.17mの楕円形。

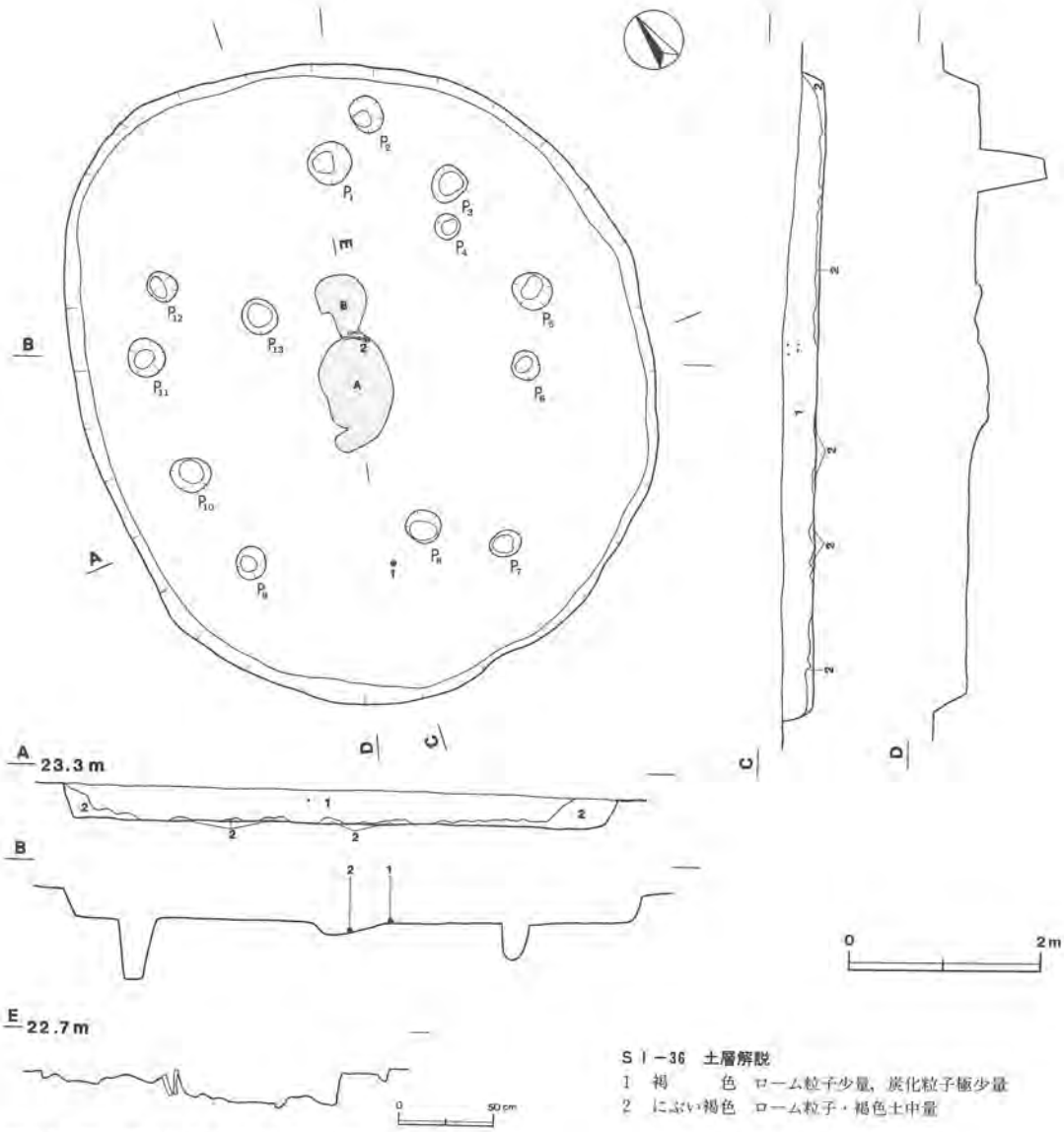
壁　壁高は26～32cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，炉周辺が特に踏み固められている。

炉　ほぼ中央にある。炉A・Bは土器片で仕切られ，同時に使用されていた複式炉と考えられる。炉Aは，長径1.1m，短径0.7mの不定形で，深さ10cm程であり，炉Bは長径50cm，短径40cmの不定形で，深さ5cm程であり，両者とも浅い地床炉である。火床はロームがレンガ状に赤変硬化している。

ピット　13か所。P_1，P_4，P_6，P_8～P_{12}は，径30～40cmの円形で，深さ40～70cm程であり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_3，P_5，P_7，P_{13}は，径30～40cmの円形で，深さ50cm前後であり，配列から補助柱穴と考えられる。

覆土　2層からなる。1層が堆積のほとんどを占め，土器片も多量に含まれ，人為的に埋め戻し



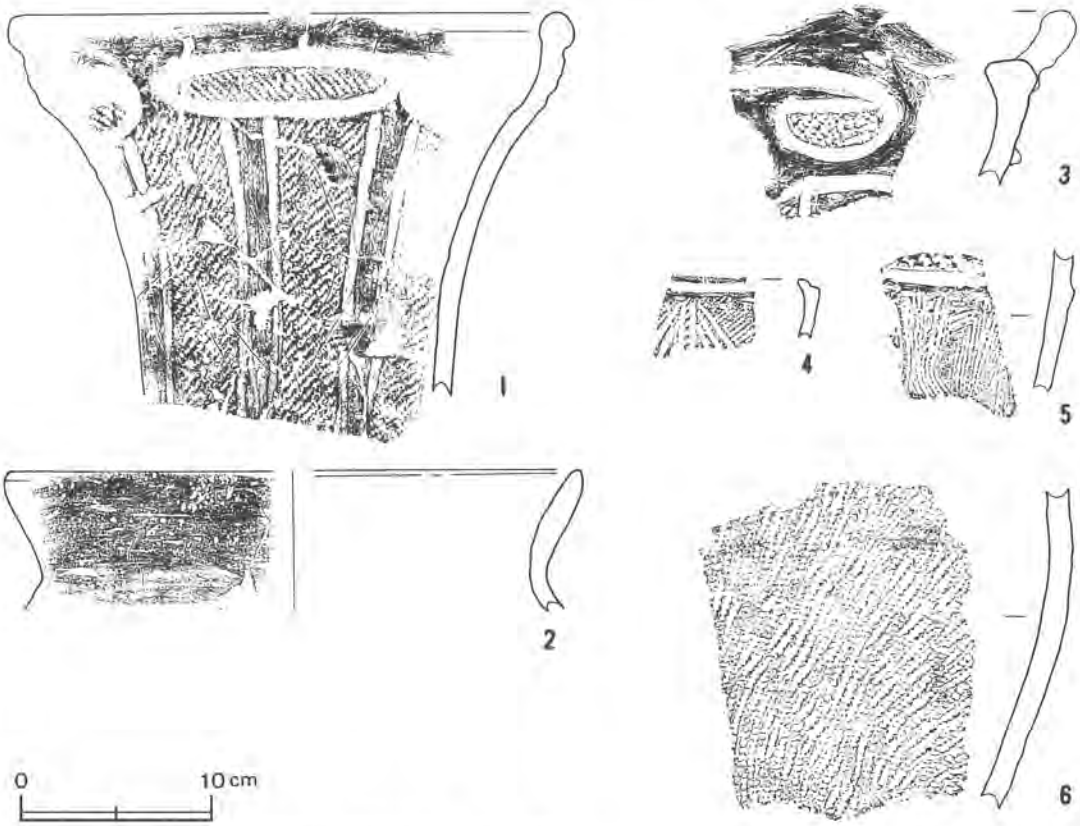
第128図　第36号住居跡実測図

たものと思われる。2層は，壁際から流れ込んだものと思われる。

遺物　覆土上層から混入と思われる縄文式土器片（口縁部54，胴部425，底部11点）が出土している。第129図2の深鉢の口縁部は，炉A・Bの仕切りに使用した土器片の一部である。南西側床面からは1の深鉢が出土している。P_8の西側には，一括投棄したと思われる縄文式土器片がかたまって出土している。

3～6は縄文式土器片の拓影図である。3は第1群のg類，4は第2群のc類に該当する口縁部片である。3は波状口縁である。4は口縁部直下に1条の沈線を施し，以下に沈線帯を中心に斜位の沈線文が描かれている。5･6は第1群のj類に該当する胴部片と考えられる。

所見　本跡は，縄文時代中期(加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。



第129図　第36号住居跡出土遺物実測・拓影図

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 129 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A　29.1 B　(20.4)	胴部から口縁部片。胴部は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部直下に楕円形の文様帯を設け，区画内に縄文を充填している。以下に直線的磨消帯が垂下し，区画間に単節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。	砂粒・石英・スコリア・パミス 橙色 普通	P91 50%
2	深鉢形土器 縄文式土器	A　[29.7] B　(7.3)	口縁部片。口縁部は外傾しながら立ち上がる。内外面に横位ナデが施されている。	砂粒・長石・パミス 赤褐色　普通	P92 10%

第37号住居跡（第130図）

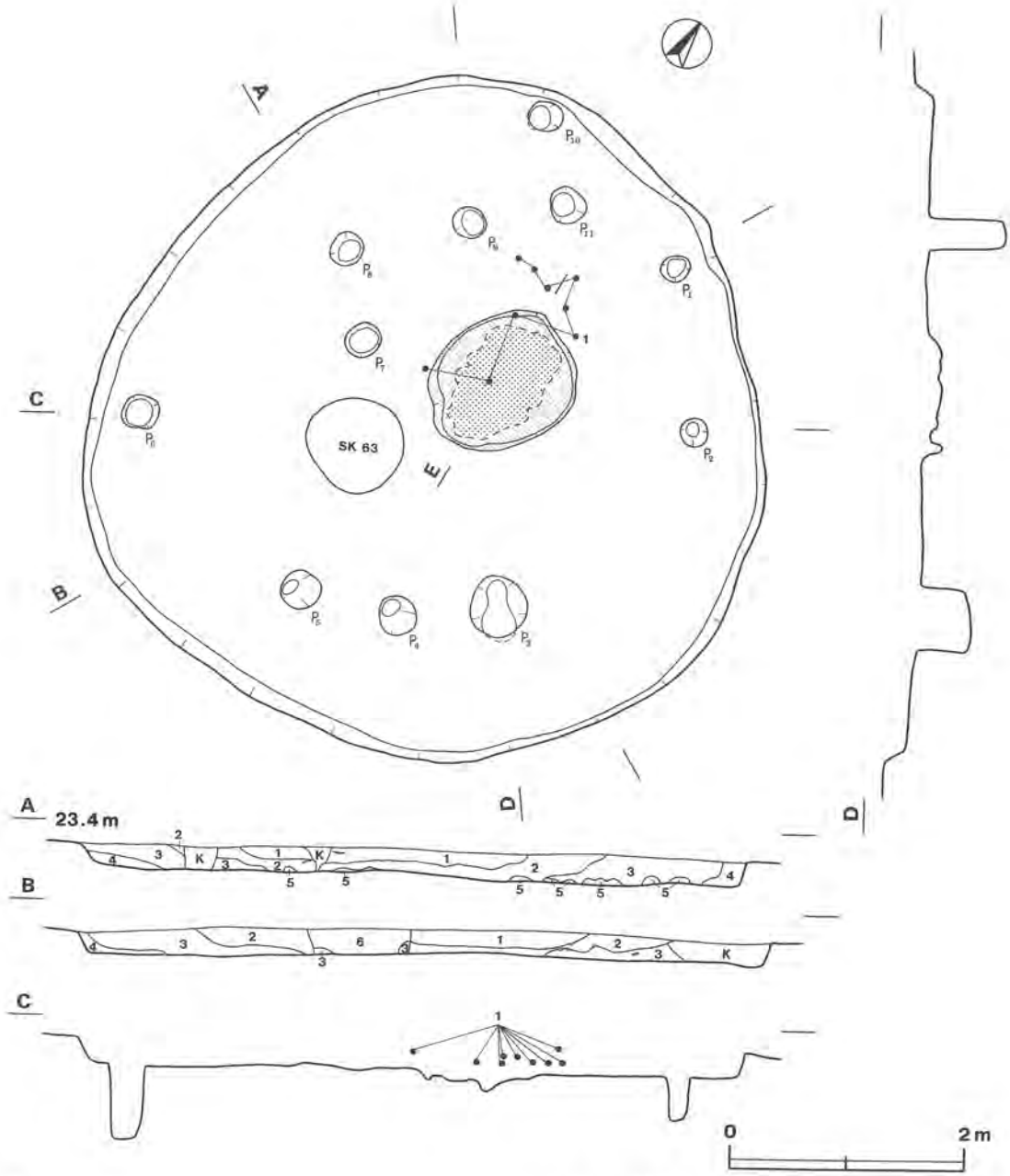
位置　B3j_5区。

重複関係　第63号土坑(粘土張り遺構)に掘り込まれている。

規模と平面形　長径5.78m，短径5.72mの円形。

壁　壁高は20～21cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，あまり硬くない。炉の南西側から第63号土坑(粘土張り遺構)が確認されて



S I－37　土層解説

1　暗　褐　色　黒褐色土中量，ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子・褐色土少量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量
5　明　褐　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　黒褐色土中量，粘土少量

S I－37　炉土層解説

1　明 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子少量

第130図　第37号住居跡実測図

いる。

炉　中央よりやや東側にある。長径1.2m，短径1.0mの楕円形で，深さ15cm程の地床炉である。炉床は赤変硬化している。

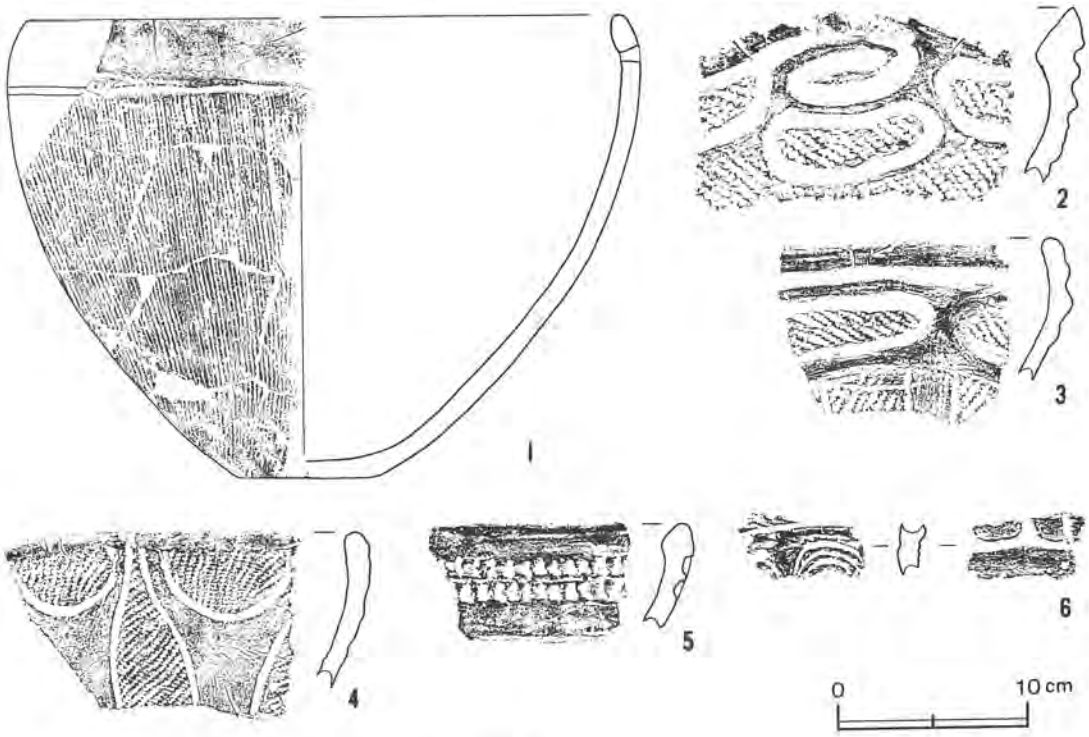
ピット　11か所。P_1，P_2，P_4，P_5，P_8，P_9，P_{11}は，径25～30cmの円形で，深さ45～52cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_6，P_7，P_{10}は，径30cm程の円形で，深さ28～66cmとさまざまであるが，配列から補助柱穴と考えられる。P_3は，性格不明である。

覆土　6層からなる。1～4層は自然的な堆積をしている。1・2層から流れ込みと思われる土器片が多量に出土している。6層は，黒褐色で粘土が含まれている。

遺物　炉中心から縄文式土器片（口縁部64，胴部576，底部12点）が出土している。第131図1の深鉢は，炉の北側覆土から出土した土器を接合したものである。床面から遺物は出土していない。

2～6は縄文式土器片の拓影図である。2～4は第1群のf類に該当する口縁部片である。4は口縁部に上向き弧状の沈線区画を有し，以下に磨消帯が垂下している。5はj類に該当する口縁部片で，2列の爪形刺突文を巡らしている。6はa類に該当する胴部片と考えられる。

所見　第63号土坑（粘土張り遺構）は，後世につくられたものと思われる。覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



第131図　第37号住居跡出土遺物実測・拓影図

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 131 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [31.2] B 24.3 C 7.2	口縁部は内彎する。口縁部直下3.5cmを無文帯として，1条の沈線を巡らしている。以下全面に縦位の沈線が密に施されている。口縁部には補修したと思われる孔が穿たれている。	砂粒・雲母・スコリア・パミス 明褐色　普通	P95 70%

第43号住居跡（第132図）

位置　D3a_8区。

規模と平面形　長径6.59m，短径5.63mの楕円形。

壁　壁高は17～21cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，あまり踏み固められていない。

ピット　7か所。いずれも径50～60cmの円形で，深さ18～83cmとさまざまであるが，P_2，P_3，P_6，P_7は，ほぼ長方形に配置され主柱穴と考えられる。P_5から焼土が中量出土している。P_1，P_4は，性格不明である。

覆土　3層からなる。いずれも不自然な堆積をしている。3層は，後世に堆積したものと考えられる。

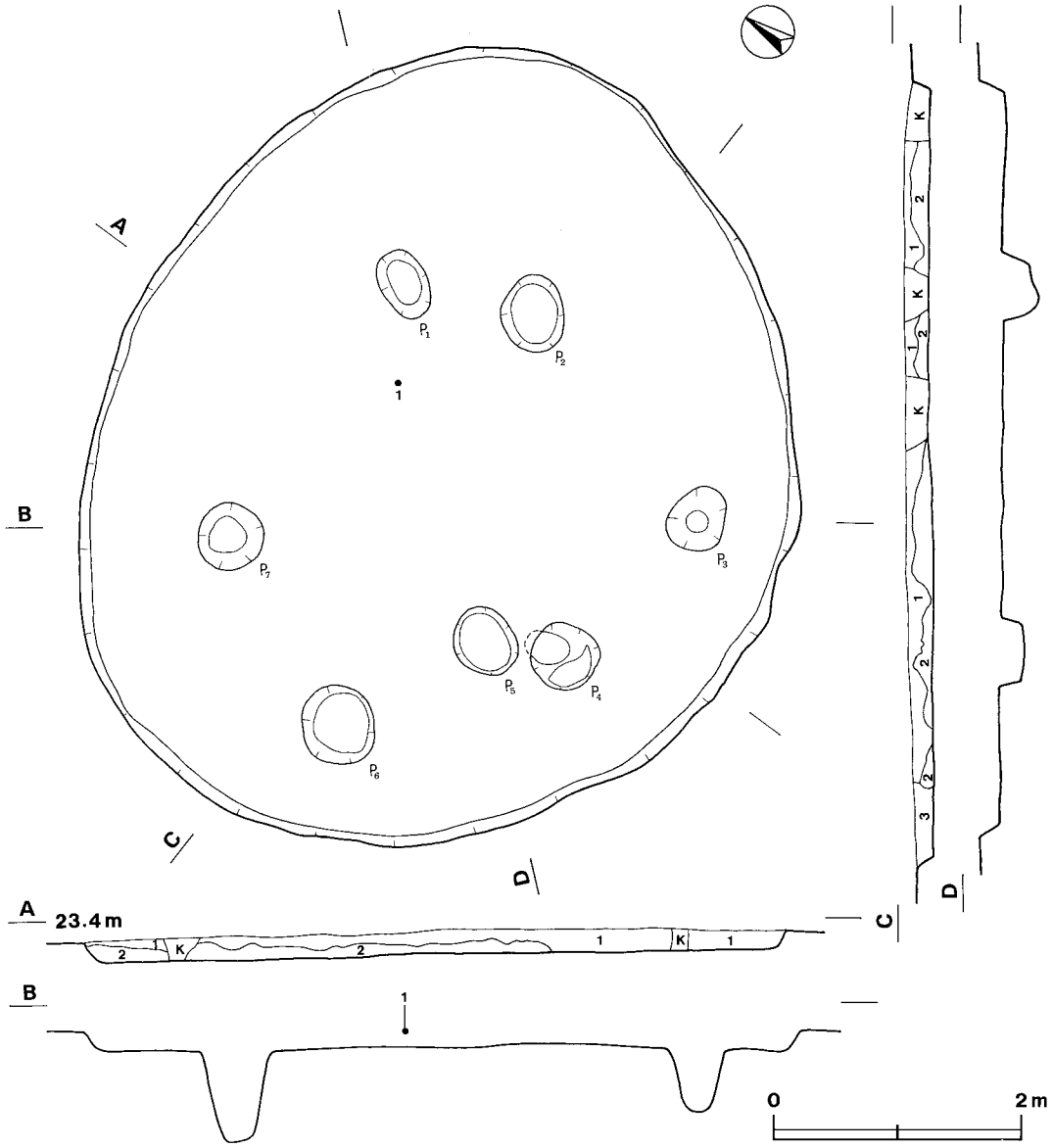
遺物　覆土から混入と思われる縄文式土器片（口縁部10，胴部121，底部1点）が出土している。住居跡ほぼ中央の覆土から第133図1の深鉢の底部が正位の状態で出土している。床面から遺物は出土していない。

2～7は縄文式土器片の拓影図である。2は第1群のj類に該当する口縁部片と考えられ，頸部の屈曲が著しい。3は橋状把手を有する波頂部片で，把手上にも縄文が施文されている。4･5は第2群のd類に該当する口縁部片である。6･7は第1群のj類に該当する胴部片である。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期のものと考えられる。しかし，炉が確認できなかったため，住居跡と判断する要因に欠ける遺構であり，竪穴状遺構の可能性が高い。

第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 133 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (5.3) C 3.9	底部片。底面近くに縦位ナデが施されている。	スコリア・パミス にぶい橙色　普通	P98 5%



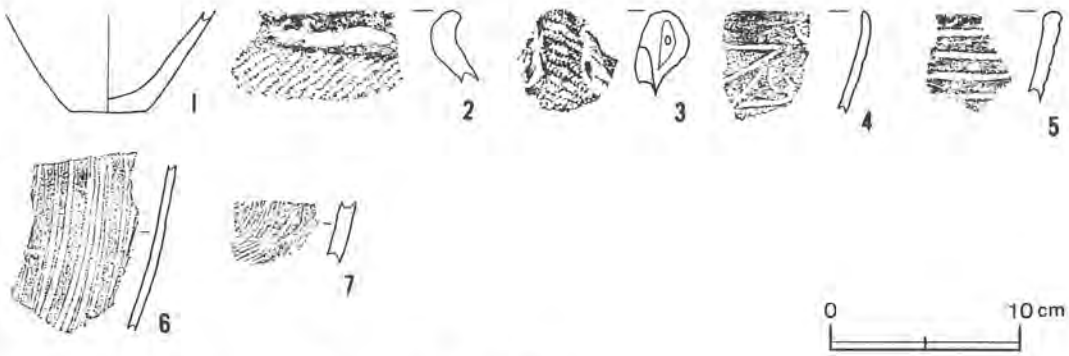
S I −43　土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子極少量

2　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子極少量

3　暗　褐　色　炭化粒子極少量

第132図　第43号住居跡実測図



第133図　第43号住居跡出土遺物実測・拓影図

第45号住居跡（第134図）

位置　E2b_3区。

規模と平面形　長径5.25m，短径4.85mの楕円形。

壁　壁高は10～12cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が特に踏み固められている。

炉　中央からやや北西側にある。長径1.2m，短径0.8mの楕円形で，深さ10～15cmの地床炉である。炉床は，ロームがレンガ状に赤変硬化している。

ピット　11か所。P_1，P_2，P_7～P_{11}は，径20～40cmの円形で，深さ30～40cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_3，P_6は，径25～30cmの円形で深さ10cmと浅く，補助柱穴と考えられる。P_4，P_5は，径40cmの円形で，深さ70cmと深く，性格不明である。

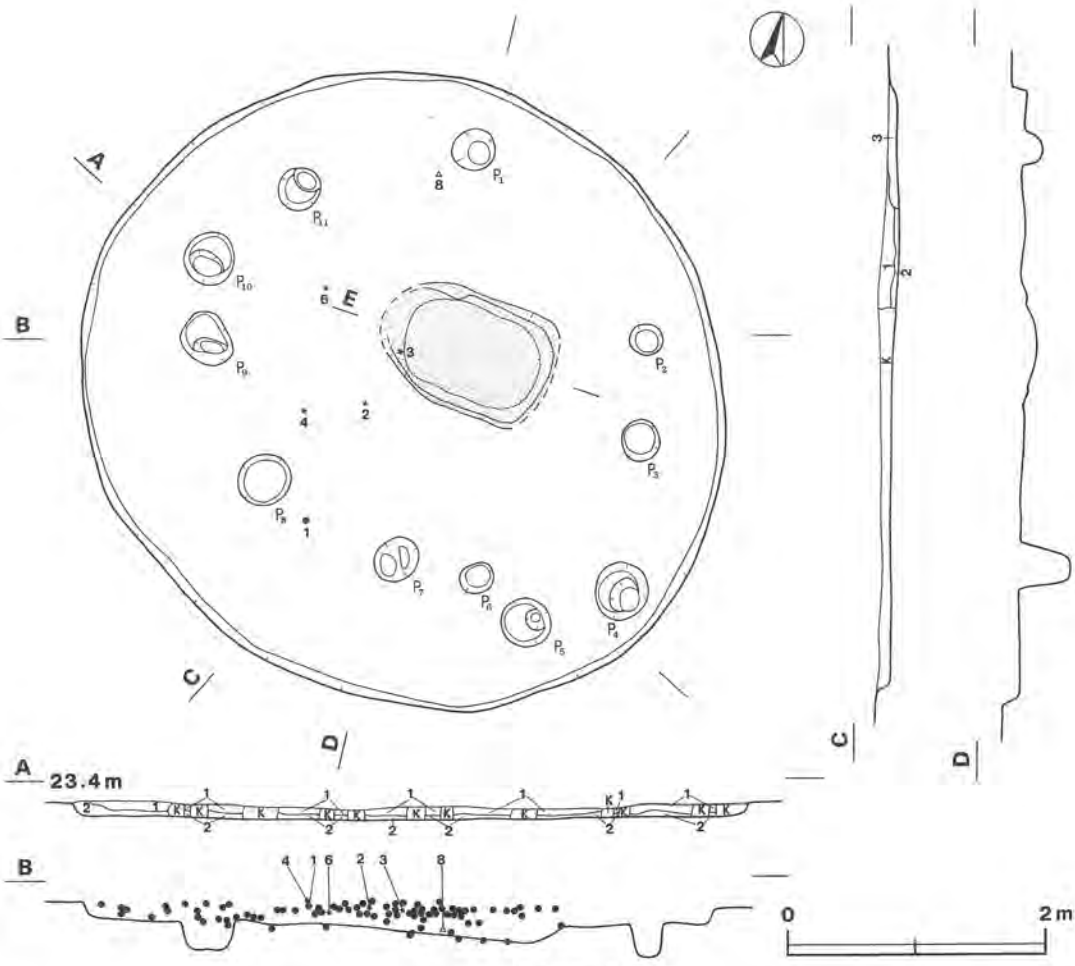
覆土　3層からなる。壁際から流れ込んだ自然堆積と考えられる。南東側は，等間隔のトレンチャーによる撹乱を受けている。

遺物　覆土から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部23，胴部170，底部1点）が出土している。P_1の南側から第135図8の磨石が出土している。南側覆土から1の深鉢の口縁部が出土している。ほぼ中央の覆土から2･3の土製円板，4～7の有孔円板が出土している。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第45号住居跡出土遺物察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土･色調･焼成	備　考
第135図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [27.2] B (14.3)	胴部から口縁部片。胴部上位・口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部直下に1条の沈線を巡らし，幅の狭い無文帯を設け，以下全面に単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒・長石 橙色 普通	P99 5％



ＳＩ－45　土層解説

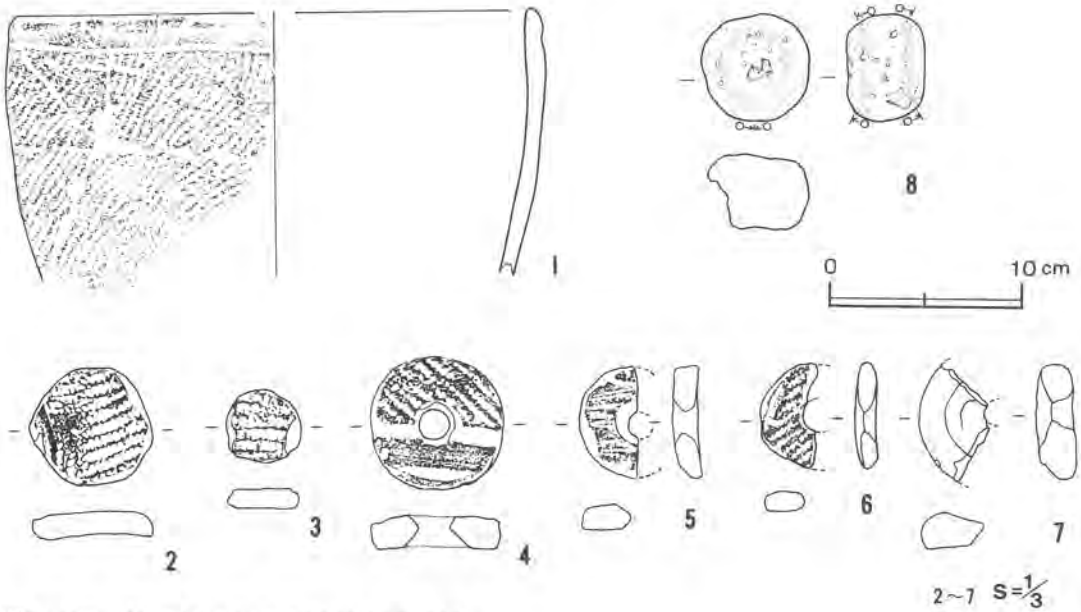
1　暗　褐　色　暗褐色土中量，ローム粒子少量，焼土粒子極少量
2　褐　　色　褐色土少量，ローム粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土極少量

ＳＩ－45　炉土層解説

1　にぶい褐色　焼土粒子少量
2　にぶい褐色　焼土粒子中量，炭化粒子極少量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子極少量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量

第134図　第45号住居跡実測図

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			孔　径 (cm)	重　量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
2	土製円板	4.2	4.9	1.2		26.5	100	DP30
3	土製円板	3.0	3.1	0.9		8.3	100	DP31
4	有孔円板	5.3	5.2	1.4	1.2	38.2	100	DP32
5	有孔円板	4.6	(2.3)	1.1	0.9	(10.2)	50	一部欠損　DP33
6	有孔円板	(2.3)	(2.2)	0.8		(6.7)	40	一部欠損　DP34



第135図　第45号住居跡出土遺物実測図

7	有孔円板	(4.6)	1.5	(2.5)		(14.9)	30	一部欠損　DP35

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	磨　石	(5.7)	5.7	4.2	(189.7)	安 山 岩	一部欠損　Q65

第48号住居跡（第136図）

位置　E2b_5区。

規模と平面形　長径［5.62］m，短径5.47mの円形。

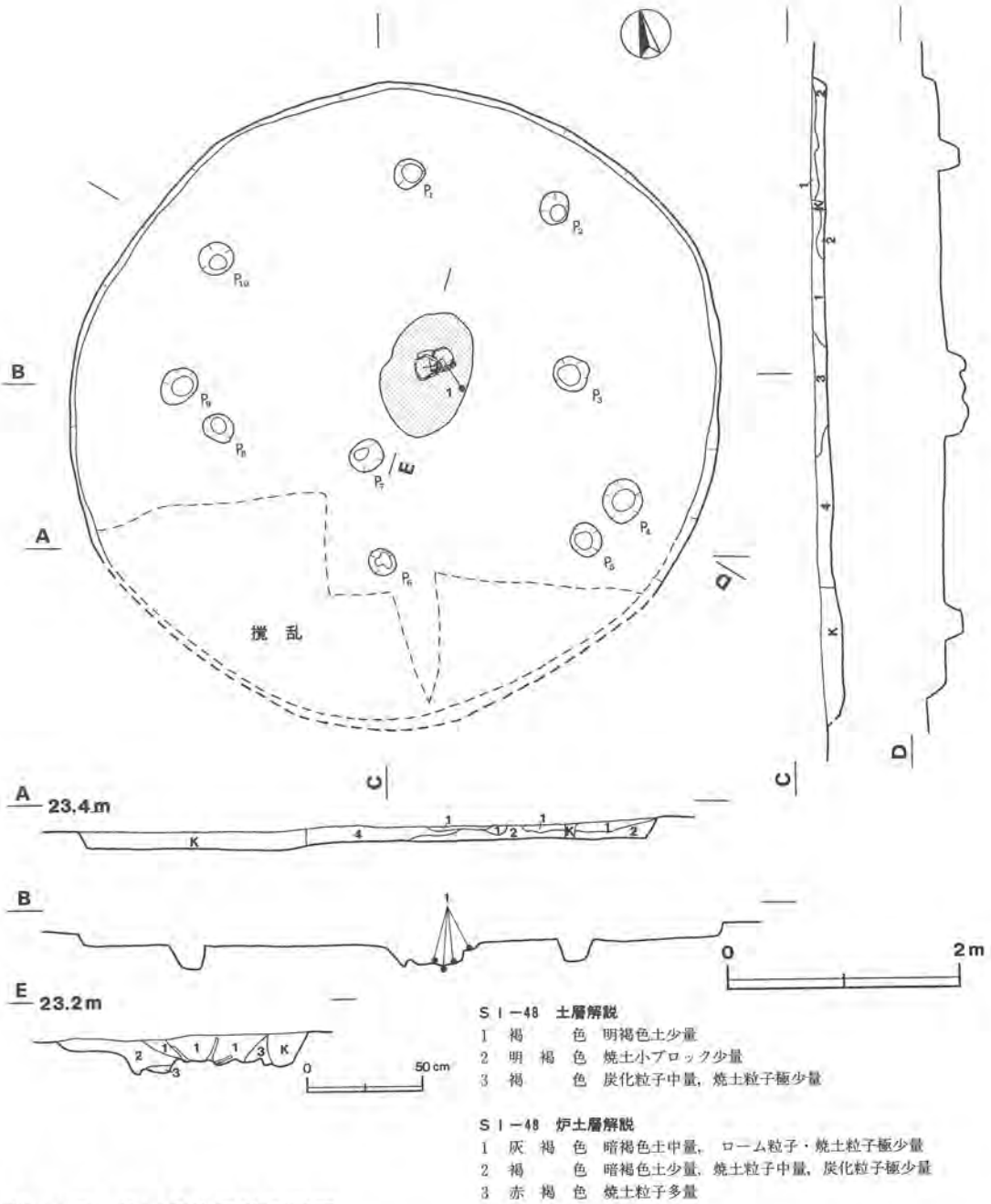
壁　壁高は12～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　わずかに起伏し，全域踏み固められている。南側が撹乱を受けている。

炉　中央からやや北西側にある。長径1.1m，短径0.7mの楕円形で，深さ10cm程の地床炉である。炉内から煮炊きに使用したと考えられる被熱した深鉢の土器片が出土している。炉床は赤変硬化している。

ピット　10か所。P_1～P_3，P_5，P_6，P_8，P_{10}は，径25～30cmの円形で，深さ18～25cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。P_4，P_7，P_9は，径30cmの円形で，深さ20cm前後であり，配列から補助柱穴と考えられる。

覆土　4層からなる。各層とも褐色土小・中ブロックを含み，人為堆積をしている。3層から土器片が出土している。

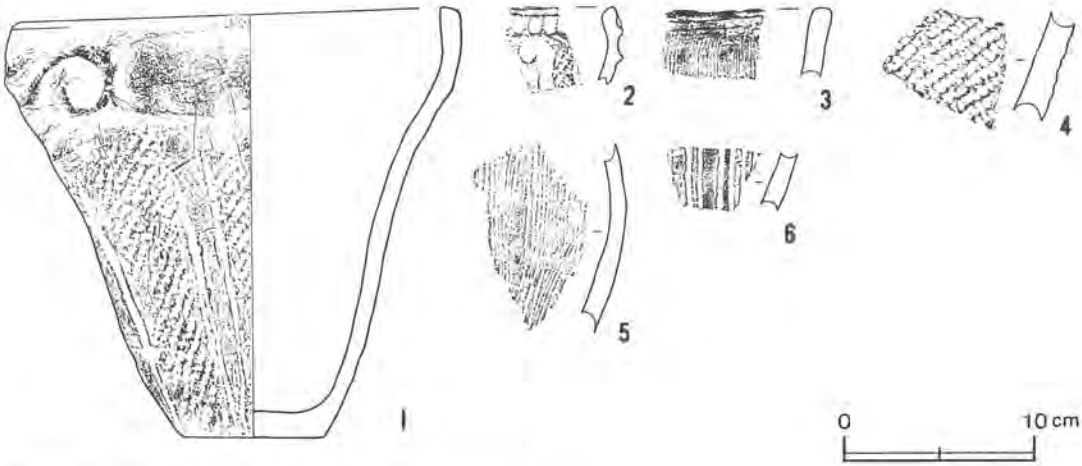


第136図　第48号住居跡実測図

遺物　覆土から混入と思われる縄文式土器片（口縁部18，胴部206，底部２点）が出土している。炉内から第137図1の深鉢が出土している。

2～6は縄文式土器片の拓影図である。2は第１群のｊ類，3はｋ類に該当する口縁部片である。2は口縁部直下に１列の円形刺突文を施し，下に蕨手状文が描かれている。4～5はｊ類に該当する胴部片と考えられる。

所見　本跡は，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）の住居跡である。



第137図　第48号住居跡出土遺物実測・拓影図

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 137 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A 23.5 B 22.9 C 7.2	胴部は外傾して立ち上がり，胴部上位・口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部直下は隆帯による渦巻文や楕円文で区画されている。以下直線的磨消帯が垂下し，区画間に複節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。底面から1.5cm程までは横位ナデが施されている。	スコリア・長石 橙色 普通	P106 90%

第51号住居跡（第138図）

位置　C2i_6区。

規模と平面形　長径4.67ｍ，短径4.61ｍの円形。

壁　壁高は21～23cmで，外傾して立ち上がっている。

床　トレンチャーにより撹乱を受けているので，確認不能である。

炉　中央からやや南側にある。長径1.0ｍ，短径0.8ｍの楕円形で，深さ20cm程の皿状の地床炉である。焼土を多量に含み，炉床も赤変硬化している。

ピット　6か所。いずれも径20～25cmの円形で，深さ20～40cmであり，規模や規則正しい配列から主柱穴と考えられる。

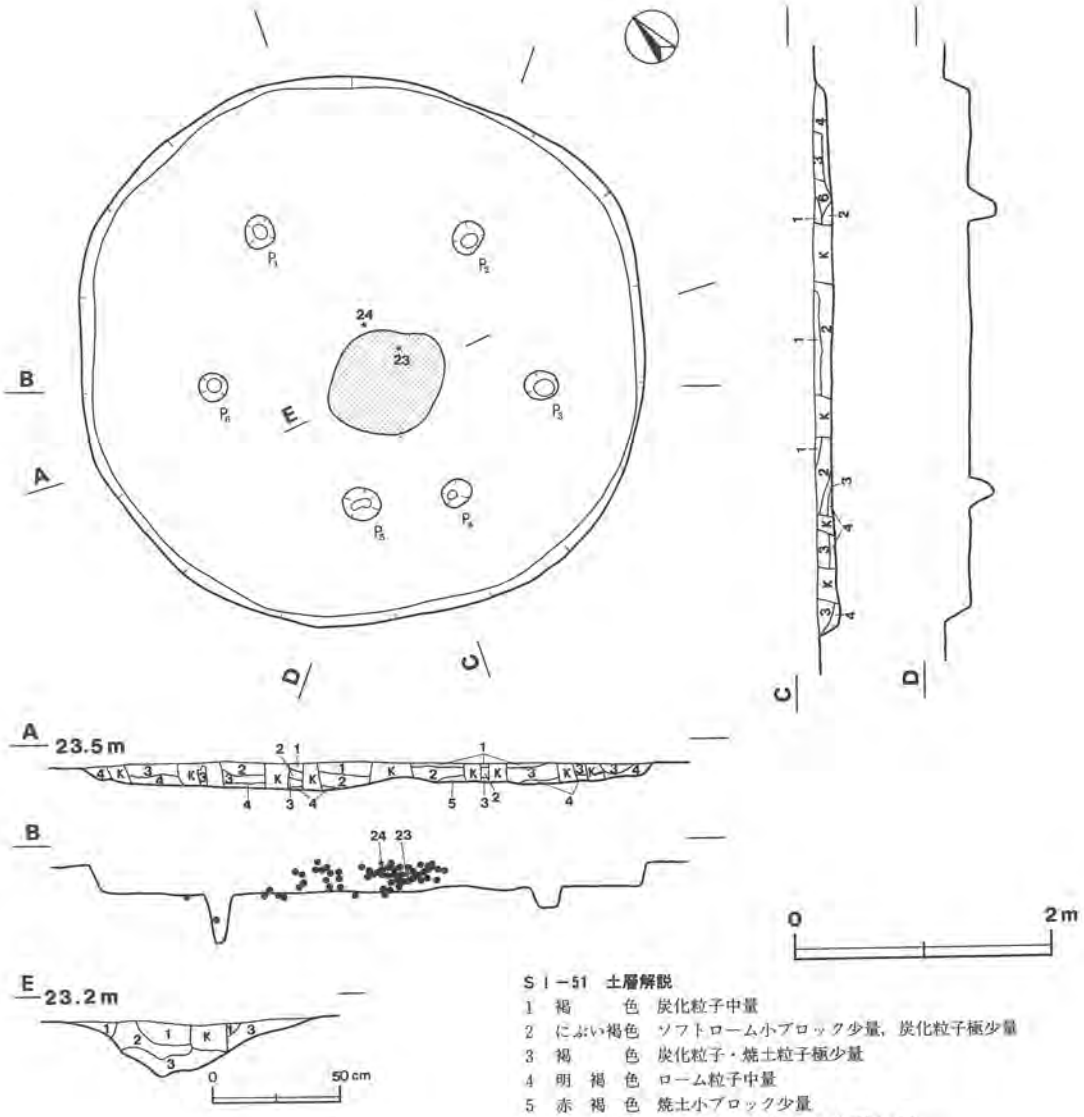
覆土　6層からなる。1～4層は壁際から流れ込んだ自然堆積と考えられるが，5層は焼土ブロックを含んだ赤褐色土であり，トレンチャーによって炉の覆土が掘り起こされたものと考えられる。6層は，暗褐色土で後世に堆積したものと考えられる。

遺物　覆土上層の中央から西側にかけて，一括投棄と思われる縄文式土器片（口縁部55，胴部454，

底部８点)が出土している。北側床面から第139図26の石鏃が出土している。覆土から20～24の土製円板，25の磨石，27の軽石が出土している。

1～19は縄文式土器片の拓影図である。1は第１群のｆ類，2～4はｊ類，5･6はｋ類に該当する口縁部片である。4は横位のナデが顕著に認められる。7～9はｆ類，10～13はｉ類，14～19はｊ類に該当する胴部片と考えられる。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。



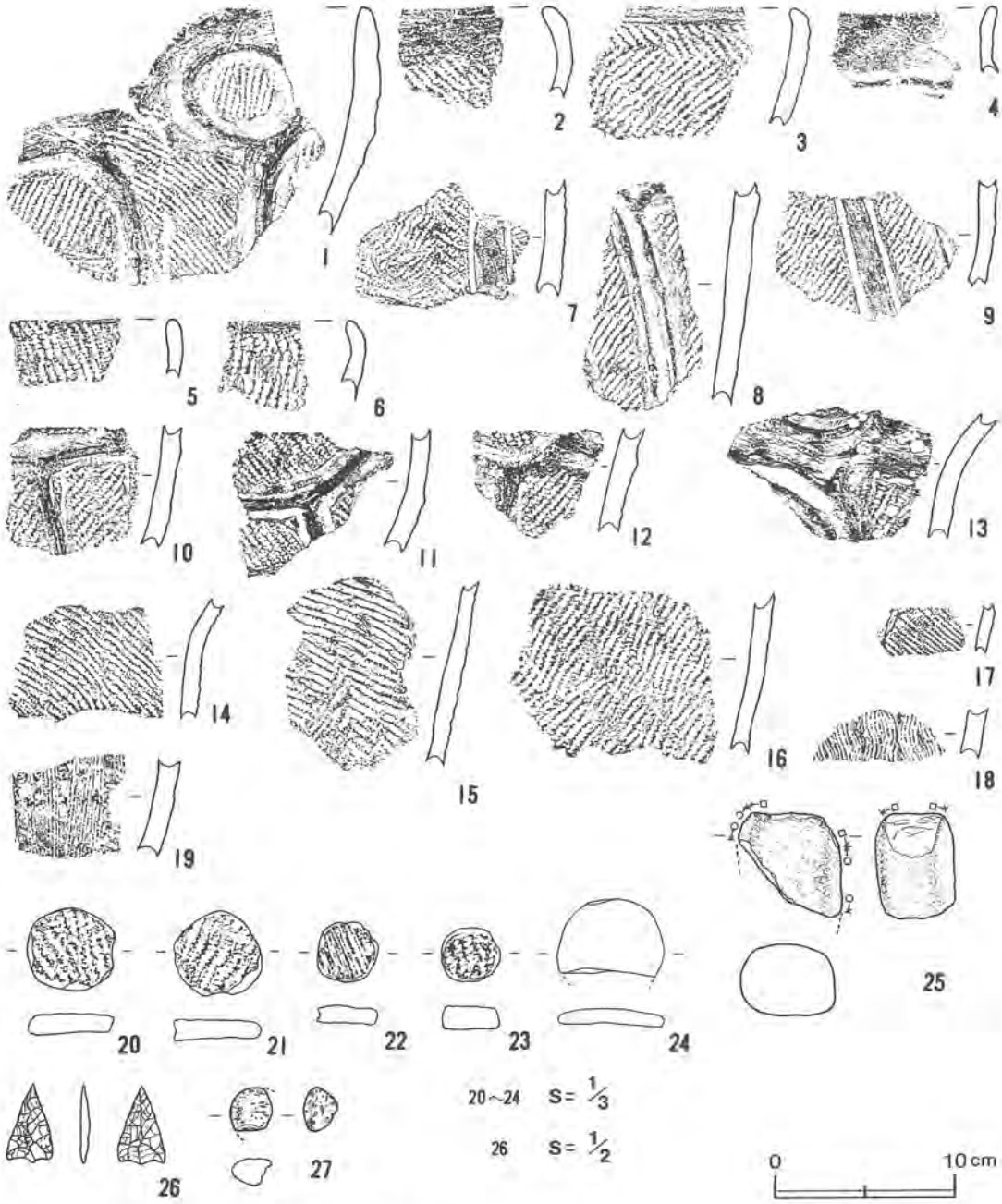
Ｓｉ－51　土層解説

1　褐　　色　炭化粒子中量
2　にぶい褐色　ソフトローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
3　褐　　色　炭化粒子・焼土粒子極少量
4　明　褐　色　ローム粒子中量
5　赤　褐　色　焼土小ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量

Ｓｉ－51　炉土層解説

1　にぶい褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　赤　褐　色　焼土粒子中量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量

第138図　第51号住居跡実測図



第139図　第51号住居跡出土遺物実測・拓影図

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			重　量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第139図20	土製円板	3.6	3.8	0.9	13.2	100	DP36
21	土製円板	3.7	3.9	1.0	16.9	100	DP37

22	土製円板	2.5	2.6	0.8	6.4	100	DP38
23	土製円板	2.4	2.6	1.0	7.3	100	DP39
24	土製円板	(3.4)	4.7	0.8	(11.3)	60	一部欠損　DP40

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
25	磨　石	(6.0)	5.9	4.5	(166.0)	砂　岩	一部欠損　Q66
26	石　鏃	2.2	1.3	0.3	0.8	チャート	Q67
27	軽　石	(2.5)	(2.4)	(1.9)	(0.8)	流紋岩	一部欠損　Q68

第52号住居跡（第140図）

位置　B5c_8区。

重複関係　第15号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径5.78m，短径［4.62］mの楕円形。

壁　壁高は14～17cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床　あまり踏み固められていない。東側は，第15号土坑により撹乱を受けているため，確認できない。西側に焼土が確認されている。

炉　北側にある。長径0.7cm，短径0.5cmの楕円形で，深さ10cm程の地床炉である。

ピット　7か所。不規則な並びで，柱穴とは考えられない。

覆土　6層からなる。1・2層が大部分を占め，自然的な堆積をしている。3層は暗褐色で遺構の東側，4層は赤褐色で遺構の西側に後世に堆積したものと思われる。

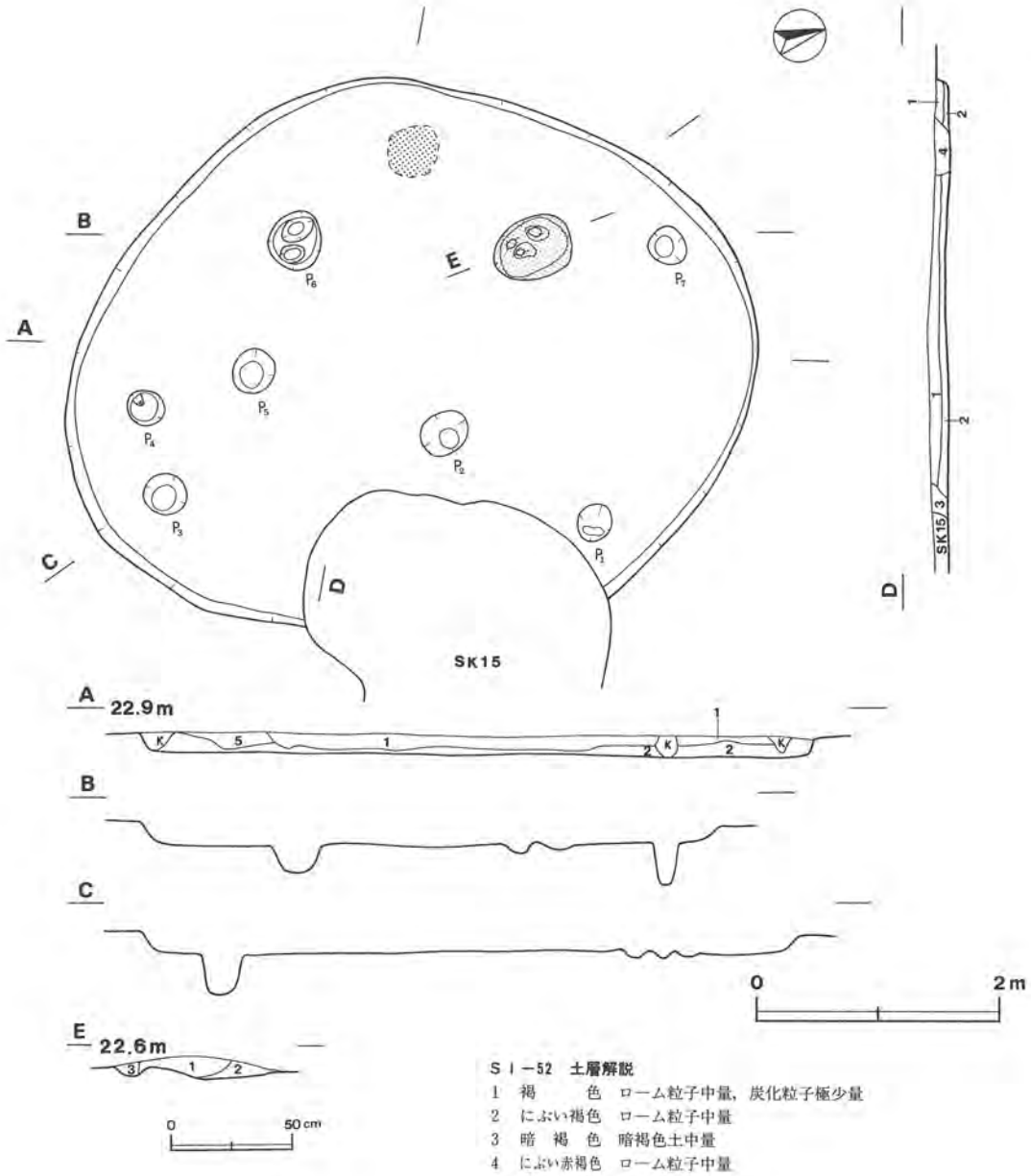
遺物　覆土から混入と思われる縄文式土器片（口縁部6，胴部76点）が出土している。P_5から第141図4の石棒が出土している。床面から遺物は出土していない。

1～3は縄文式土器片の拓影図である。1は第1群のk類に該当する口縁部片である。2はf類，3は第3群のa類に該当する胴部片である。

所見　覆土の出土遺物から，本跡は縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第141図4	石　棒	(14.6)	(7.9)	(6.8)	(869.6)	砂　岩	Q69



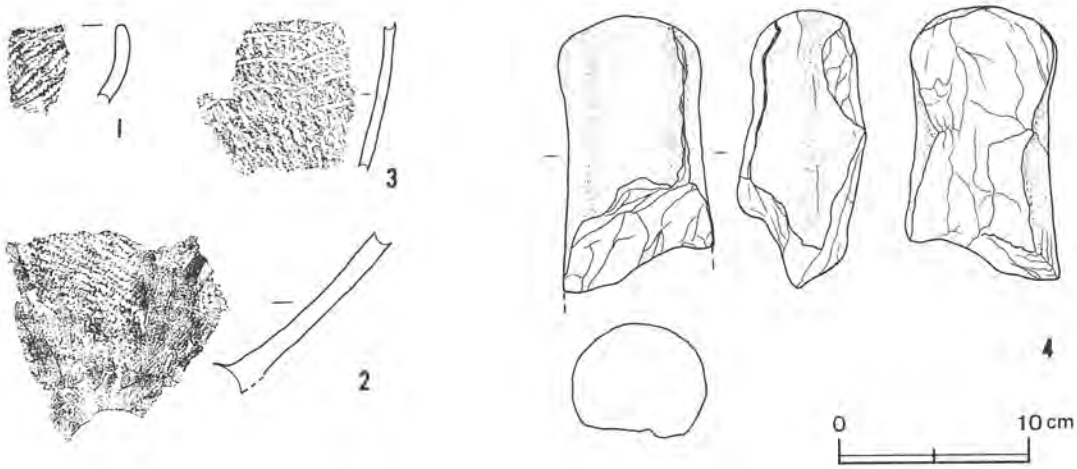
S I −52　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　暗褐色土中量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子中量

S I −52　炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量

第140図　第52号住居跡実測図



第141図　第52号住居跡出土遺物実測・拓影図

表5　前田村遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)(長径×短径)	壁高(cm)	床面	内部施設					炉	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	B6e_1		円形	6.42 × 5.98	30~34	平坦	無	7		13		1	自然	縄文式土器，石器	
2A	B5h_0		楕円形	5.86 × 5.06	14~18	平坦	無	6		14		1	人為	縄文式土器，石器	SK－9と重複，埋甕炉
2B	B5h_8		楕円形	4.72 ×(4.62)	24~26	凹凸	無	5		16		1	人為	縄文式土器，石器	SD－1と重複
3A	B5f_9		円形	5.07 × 4.83	22~26	平坦	無	7		7		1	人為	縄文式土器	SI－3Bと重複，埋甕炉
3B	B3e_8		円形	4.66 × 4.36	18~21	平坦	無	5		7		1	自然	縄文式土器	SI－3A，SK-18と重複
4	B6b_1		楕円形	5.22 × 4.33	23~33	平坦	無	5		9		1	人為	縄文式土器，石器	
5	B5a_9		楕円形	7.00 × 5.20	18~30	平坦	無	6		13		2	人為	縄文式土器，土製品，石器，石製品	SK－3，SD－1と重複
6	A5j_9		楕円形	6.86 ×(5.22)	17~22	平坦	無	5		7		2	人為	縄文式土器，土製品，石器，石製品	SD－1と重複
7	B5j_8		楕円形	7.31 × 6.22	23~27	平坦	無	6		11		2	人為	縄文式土器，土製品，石器	SD－1と重複
8	B5e_7		楕円形	6.45 × 5.00	21~22	平坦	無	2		9		1	自然	縄文式土器，剥片	SD－1と重複
9	B5d_6		円形	5.83 × 5.55	14~20	平坦	無	6		7		1	人為	縄文式土器，土製品，石器	
10	B5c_7		円形	5.10 × 4.91	25~31	平坦	無	5		7		1	人為	縄文式土器，土製品，石器	
11	A5i_7		楕円形	6.13 × 4.70	16~31	平坦	無	5		8		1	自然	縄文式土器，石製品，剥片	
12	B5a_4		楕円形	6.68 × 6.00	24~30	平坦	無	6		13		1	人為	縄文式土器，土製品，石器	SK-14·21，SD-3と重複
13	B5d_2		楕円形	4.77 × 4.19	16~20	凹凸	無	5		5		1	人為	縄文式土器	SI－22，SK-32と重複
14	B5d_4		楕円形	4.92 × 3.95	10~11	平坦	無			0		0	自然	縄文式土器	竪穴状遺構
15	B5f_5		円形	5.57 × 5.36	10~22	平坦	無	7		9		2	人為	縄文式土器，石器，剥片	SD－3と重複
16	B5i_7		円形	5.04 × 4.94	17~22	平坦	無	8		15		1	人為	縄文式土器，石器	SD－3と重複

17	B5h_5		円　形	5.05 × 4.85	15~18	平坦	無	3		6		1	人為	縄文式土器，土製品	SK−22と重複，埋甕炉
18	B5i_4		円　形	5.15 × 4.86	16~22	平坦	無	6		11		1	自然	縄文式土器，石器，石製品，剥片	竪穴状遺構
19	B5g_2		円　形	5.98 × 5.50	29~35	平坦	無			2		0	自然	縄文式土器	
20	B4b_6	N−30°−E	円　形	4.98 × 4.97	25~31	平坦	有	6		10	1	1	人為	縄文式土器，土製品，石器，剥片	
21	B5a_1		円　形	6.50 × 6.08	22~33	平坦	無	5		9		1	自然	縄文式土器，石器	SK−26·27·28と重複
22	B4a_1		楕円形	5.53 × 5.00	18~20	平坦	無	5		5		1	人為	縄文式土器	SK−32と重複
23	A4g_9		楕円形	4.62 × 4.25	27~42	平坦	無			0		1	人為	縄文式土器	
24	B5i_6		楕円形	5.04 ×(1.04)	26	皿状	無			0		0	人為	縄文式土器	竪穴状遺構
25	B5i_3		楕円形	5.48 × 4.78	21~39	平坦	無	5		7		0	自然	縄文式土器	
26	B3e_3		円　形	6.36 × 5.74	28~33	平坦	無	6		8		1	人為	縄文式土器，土製品，石器	
27	B3f_5		円　形	4.56 × 4.44	9~17	平坦	無	3		5		1	人為	縄文式土器	SD−10と重複
28	A4j_9		円　形	5.53 × 5.08	18~20	平坦	無	7		10		1	人為	縄文式土器	
29	B4c_9		円　形	4.32 × 3.94	29~32	平坦	無			3		0	自然	縄文式土器，石器，剥片	竪穴状遺構
30	B4a_7		楕円形	5.85 × [5.00]	12~14	平坦	無	7		11		1	人為	縄文式土器	SD−4と重複
31	B4b_5	N−46°−E	楕円形	4.82 ×(4.04)	11~25	平坦	無	5		6	1	1	人為	縄文式土器，石器，石製品	SD−5と重複
32	A4i_2		楕円形	6.52 × 5.30	16~22	平坦	無	3		8		1	自然	縄文式土器，土製品，石器	
33	B4a_2		円　形	5.46 × 5.16	24~30	平坦	無	5		7		1	自然	縄文式土器	
34	B4e_2		円　形	5.05 × 5.02	8~ 9	平坦	無	5		7		1	人為	縄文式土器	
35 A	B3j_5		円　形	5.66 × 5.27	14~21	平坦	無	8		8		1	自然	縄文式土器，石器	
35 B	B3a_5		楕円形	5.44 × 4.72	13~24	平坦	無	8		8		1	自然	縄文式土器	
36	B3d_5		楕円形	7.14 × 6.17	26~32	平坦	無	8		13		2	人為	縄文式土器	
37	B3j_5		円　形	5.87 × 5.72	20~21	平坦	無	7		11		1	自然	縄文式土器	SK−63と重複
38	C3b_5		楕円形	5.44 × 4.91	24~26	平坦	無			6		0	自然	縄文式土器	竪穴状遺構
39	C3b_6		楕円形	4.18 × 3.62	16~22	平坦	無			4		0	自然	縄文式土器	竪穴状遺構
40	D2i_2		楕円形	5.65 × 4.31	14~16	平坦	無			6		0	自然	縄文式土器，石器	SI−47と重複，竪穴状遺構
42	D2f_2		楕円形	5.61 × 4.84	12~17	平坦	無			7		0	自然	縄文式土器，土製品	竪穴状遺構
43	D3a_8		楕円形	6.58 × 5.63	17~21	平坦	無	4		7		0	自然	縄文式土器	
45	E2b_3		楕円形	5.25 × 4.85	10~12	平坦	無	7		11		1	自然	縄文式土器，土製品，石器	
46	E1e_0		円　形	3.59 × 3.46	12~18	平坦	無			6		0	自然	縄文式土器	竪穴状遺構
47	D2h_1		楕円形	5.98 × 4.87	17~18	平坦	無			8		0	自然	縄文式土器	SI−40と重複，竪穴状遺構
48	E2b_5		円　形	[5.62]×5.47	12~16	平坦	無	7		10		1	人為	縄文式土器	
51	C2i_6		円　形	4.67 × 4.61	21~23	平坦	無	6		6		1	自然	縄文式土器，土製品，石器，石製品，浮子	
52	B5c_8		楕円形	5.78×[4.62]	14~17	平坦	無			7		1	人為	縄文式土器，石器	SK−15と重複

3　土坑

(1)　粘土張り遺構

第13号土坑（第142図）

位置　B5c_5区。

重複関係　第3号溝に掘り込まれている。

長径方向　N－57°－E。

規模と平面形　長径3.71m，短径3.61mの円形で，深さ48cm程である。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　掘り込んだ結果，底部から粘土張り遺構A・B・Cが確認された。さらに，粘土張り遺構Dが南西部から確認された。粘土張り遺構のうち，Aは褐色土に粘土ブロックを混ぜ固めている。Bは粘土の厚さ5cmである。Cは一部分に粘土を張っている。Dは粘土張りの厚さ5cm程である。

覆土　堆積状況から人為的に埋め戻したと考えられる。

遺物　覆土から混入と思われる縄文式土器片（5点），土師質土器片（2点），陶器片（1点）が出土している。覆土中層から第143図1の土師質土器（皿），2の内耳土器片が出土している。

所見　形状から近世の墓壙と考えられる。遺構の四隅に4か所のピットが確認されているが，性格不明である。いずれも統一した形状でないため，単独墓壙と考えられる。

第15号土坑（第142図）

位置　B5c_8区。

重複関係　第52号住居跡を掘り込んでいる。

長径方向　N－79°－W。

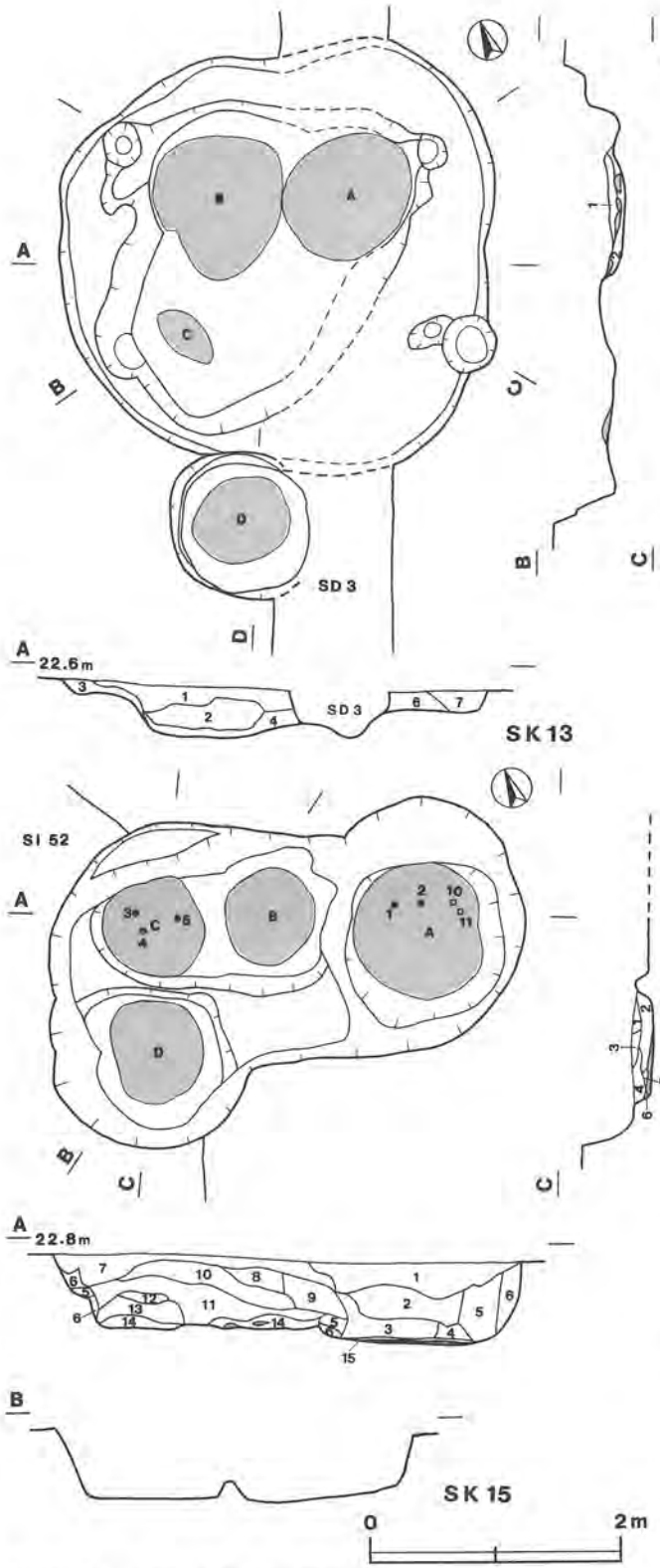
規模と平面形　長径8.83m，短径1.84mの不定形で，深さ60cm程である。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　掘り込んだ結果，底部から粘土張り遺構A・B・C・Dが確認されている。いずれも，粘土は径0.7～1.0mの皿状に張られ，粘土は薄く4cm程である。

覆土　堆積状況から人為的に埋め戻したと考えられる。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部17，胴部162，底部3点），内耳土器片（口縁部2，底部1点），陶器片（1点），鉄（3点），礫（1点）が出土している。粘土張り遺構Aの底面からは，骨粉と第144・145図1の土師質土器（皿），2の磁器の蓋，10・11の煙管（吸口），12～47の古銭（寛永通寶他36枚）が出土している。粘土張り遺構Bの覆土からは，6の土製品，7の土製円板，9の磨製石斧が出土している。粘土張り遺構Cの底面からは，3の陶器の灯明受皿，4の陶器の碗，5の陶器



SK−13　土層解説

1　暗褐色　黒色土中量，ローム小ブロック少量
2　にぶい黄橙色　粘土粒子多量，ローム小ブロック極少量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量，粘土粒子極少量
5　にぶい褐色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
6　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子少量

SK−13A・B　土層解説

1　灰褐色　粘土ブロック多量
2　暗褐色　粘土粒子中量，粘土ブロック極少量

SK−13D　土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　褐　色　粘土小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子中量，暗褐色土少量，粘土粒子微量

SK−15　土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック中量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック極少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　灰褐色　粘土粒子多量，ローム中ブロック中量
5　明褐色　ローム大ブロックを斑点状に含む
6　明褐色　褐色土微量
7　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
8　褐　色　ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子極少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
11　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　極暗褐色　粘土粒子中量
13　暗褐色　粘土小ブロック多量，ローム粒子少量
14　灰褐色　粘土小ブロック多量
15　黄褐色　粘土小ブロック多量，ローム粒子中量

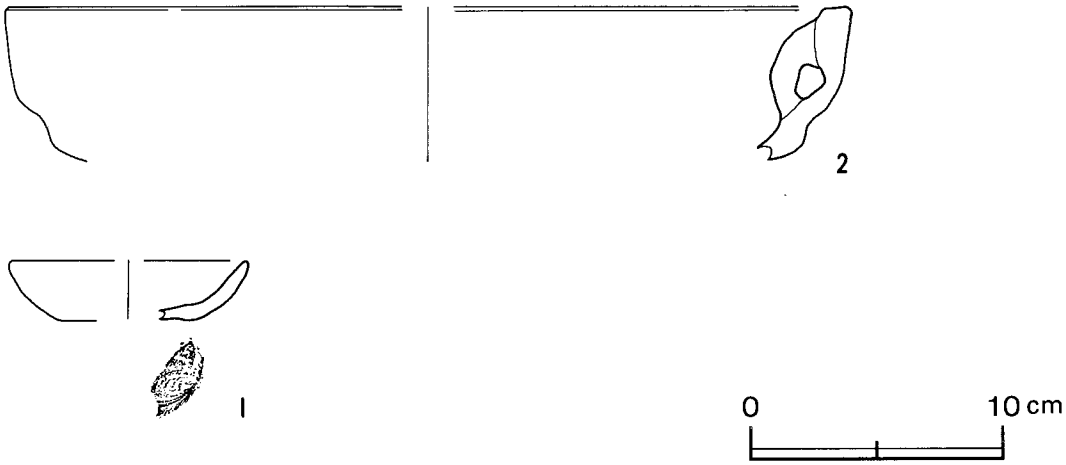
SK−15D　土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子極少量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　にぶい褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
5　灰褐色　ローム小ブロック中量
6　暗褐色　ローム粒子極少量

第142図　第13・15号土坑実測図

の香炉が出土している。粘土張り遺構Dの覆土からは，8の磨石が出土している。

所見　出土遺物から近世の墓壙と考えられるが，複合墓壙か単独墓壙かは不明である。



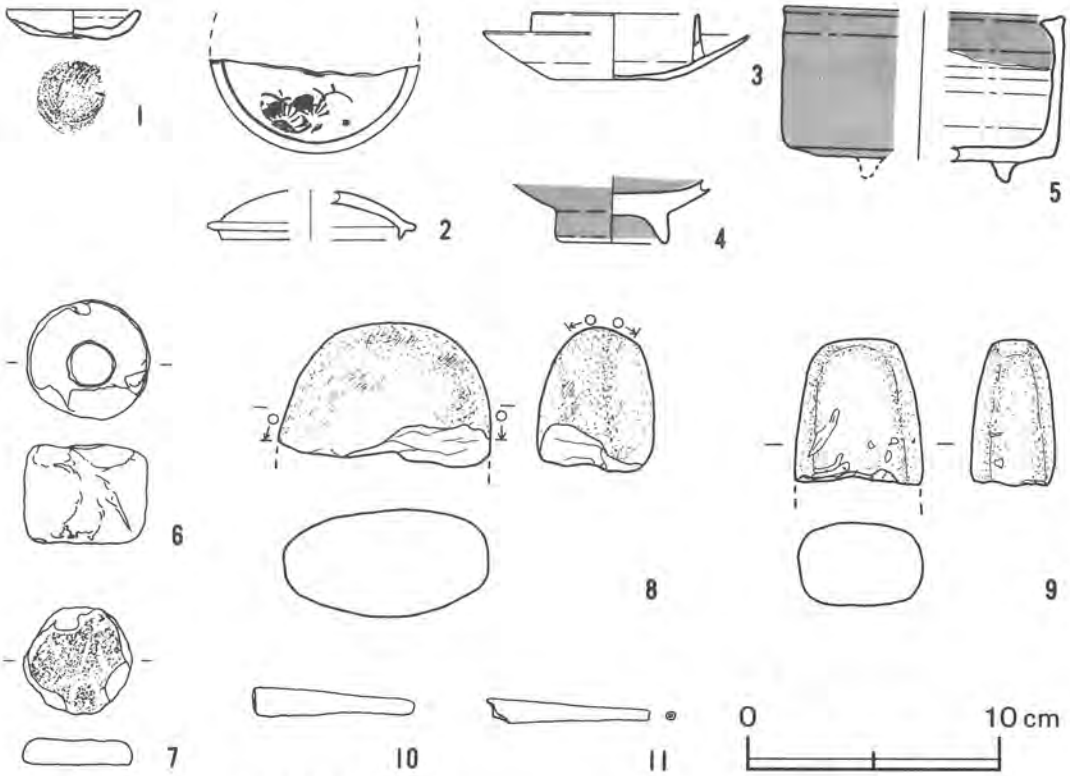
第143図　第13号土坑出土遺物実測図

第13号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第143図 1	皿 土師質土器	A [9.3] B 2.4 C [5.5]	体部から口縁部片。体部・口縁部は内彎気味に立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア・パミス 橙色　普通	P115 20% 口唇部油煙付着
2	内耳鍋 土師質土器	A [33.4] B (6.2)	口縁部片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色　普通	P116 5%

第15号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第144・145図 1	皿 土師質土器	A 5.2 B 1.2 C 3.0	底部は窪んでいる。体部・口縁部は内彎気味に立ち上がる。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア・パミス 橙色　普通	P117 100%
2	蓋 磁器	A [7.2] B (1.9)	小物の蓋の破片。染付。草花文が描かれている。	水挽き成形。	砂粒 (胎土)灰白色 (釉)明青灰白色 普通	P118 40% 肥前系 18c
3	灯明受皿 炻器	A [10.6] B 2.7 C 4.7	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。内面に径6.5cm，高さ1.5cmの円筒形の受部を有する。受部にヘラで切り取ったような孔が対で施されている。	底部回転ヘラ切り。体部外面回転ヘラ削り。	砂粒 にぶい褐色 良好	P119 60% 志戸呂 18c
4	碗 陶器	B (2.6) D [4.5] E 1.2	丸碗の底部片。高台は低く直立する。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	淡黄色 砂粒 良好	P120 15% 肥前系(呉器手) 17c後半
5	香炉 陶器	A (11.1) B 6.8 E 0.8	三足が付く。体部はほぼ垂直に立ち上がる。口唇部に面をもつ。	水挽き成形。底部回転ヘラ切り。体部にロクロ目を残す。	(胎土)にぶい黄褐色(釉)黄色 良好	P121 15% 瀬戸・美濃系 18c



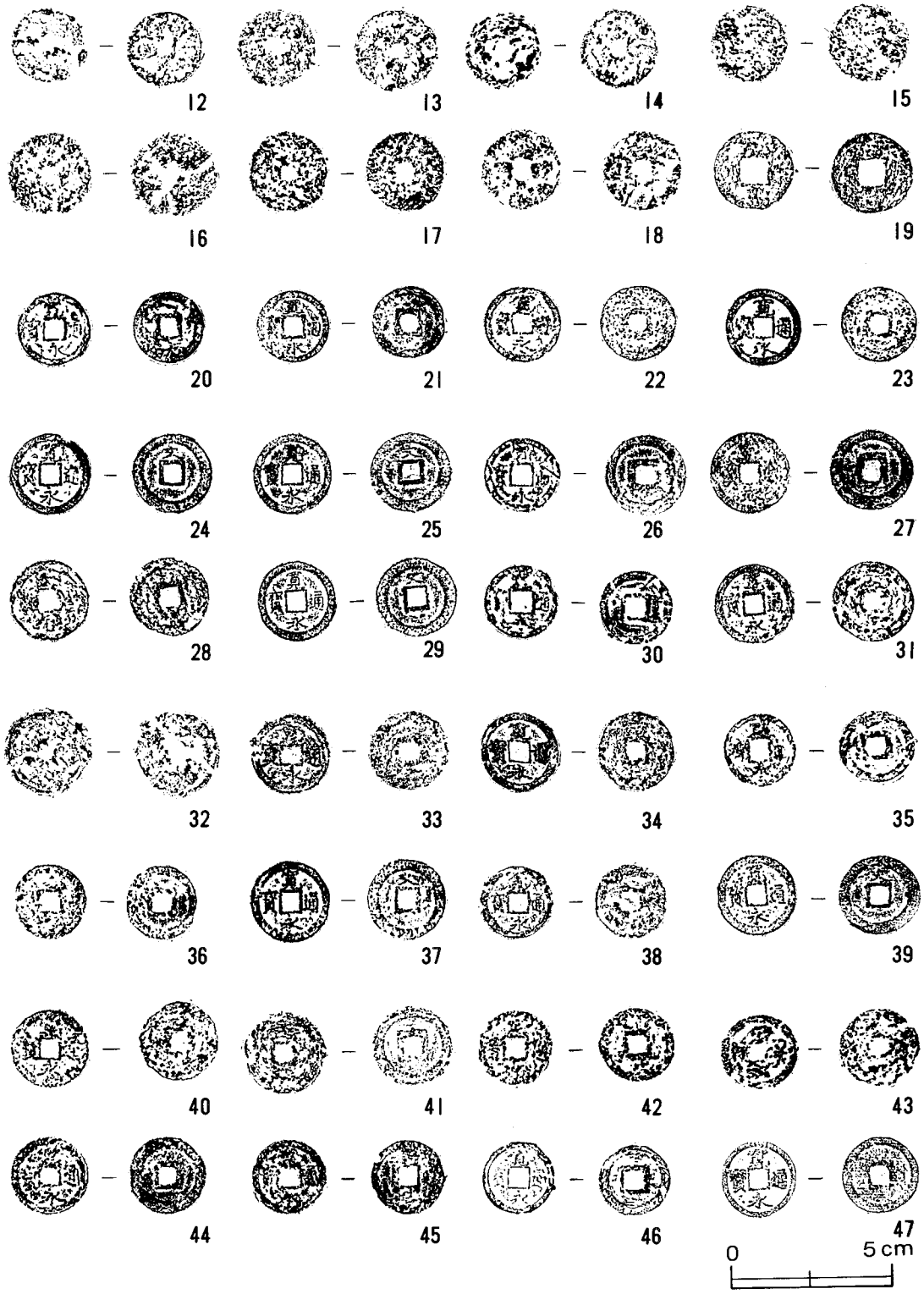
第144図　第15号土坑出土遺物実測図（1）

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			孔　径 (cm)	重　量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
6	土 製 品	4.8	4.9	4.0	1.7	(105.3)	90	DP41
7	土製円板	4.3	4.4	1.0		20.2	100	DP42

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	磨　石	(5.8)	(8.8)	4.6	(288.8)	安 山 岩	半　欠　Q74
9	磨製石斧	(5.9)	4.1	3.4	(148.3)	安 山 岩	一部欠損　Q75

図版番号	器　種	計　測　値				備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	径(cm)	重量(g)	
10	煙　管	(6.5)		1.2	(6.2)	吸　口　M5
11	煙　管	(6.5)		(1.0)	(3.6)	吸　口　M6

図版番号	銭　名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	備　考
12	寛 永 通 寶	1 6 6 8	日　本	M 7
13	寛 永 通 寶	1 6 6 8	日　本	M 8
14	寛 永 通 寶	1 6 6 8	日　本	M 9



第145図　第15号土坑出土古銭拓影図 (2)

15	寛永通寶	1668	日本	M10
16	寛永通寶	1668	日本	M11
17	寛永通寶	1668	日本	M12
18	寛永通寶	1668	日本	M13
19	寛永通寶	1668	日本	M14
20	寛永通寶	1668	日本	M15
21	寛永通寶	1668	日本	M16
22	寛永通寶	1668	日本	M17
23	寛永通寶	1668	日本	M18
24	寛永通寶	1668	日本	M19
25	寛永通寶	1668	日本	M20
26	寛永通寶	1668	日本	M21
27	寛永通寶	1668	日本	M22
28	不明			M23
29	寛永通寶	1668	日本	M24
30	寛永通寶	1668	日本	M25
31	寛永通寶	1668	日本	M26
32	不明			M27
33	寛永通寶	1668	日本	M28
34	寛永通寶	1668	日本	M29
35	寛永通寶	1668	日本	M30
36	不明			M31
37	寛永通寶	1668	日本	M32
38	寛永通寶	1668	日本	M33
39	寛永通寶	1668	日本	M34
40	寛永通寶	1668	日本	M35
41	不明			M36
42	不明			M37
43	不明			M38
44	寛永通寶	1668	日本	M39
45	不明			M40
46	寛永通寶	1668	日本	M41
47	寛永通寶	1668	日本	M42

第69号土坑（第146図）

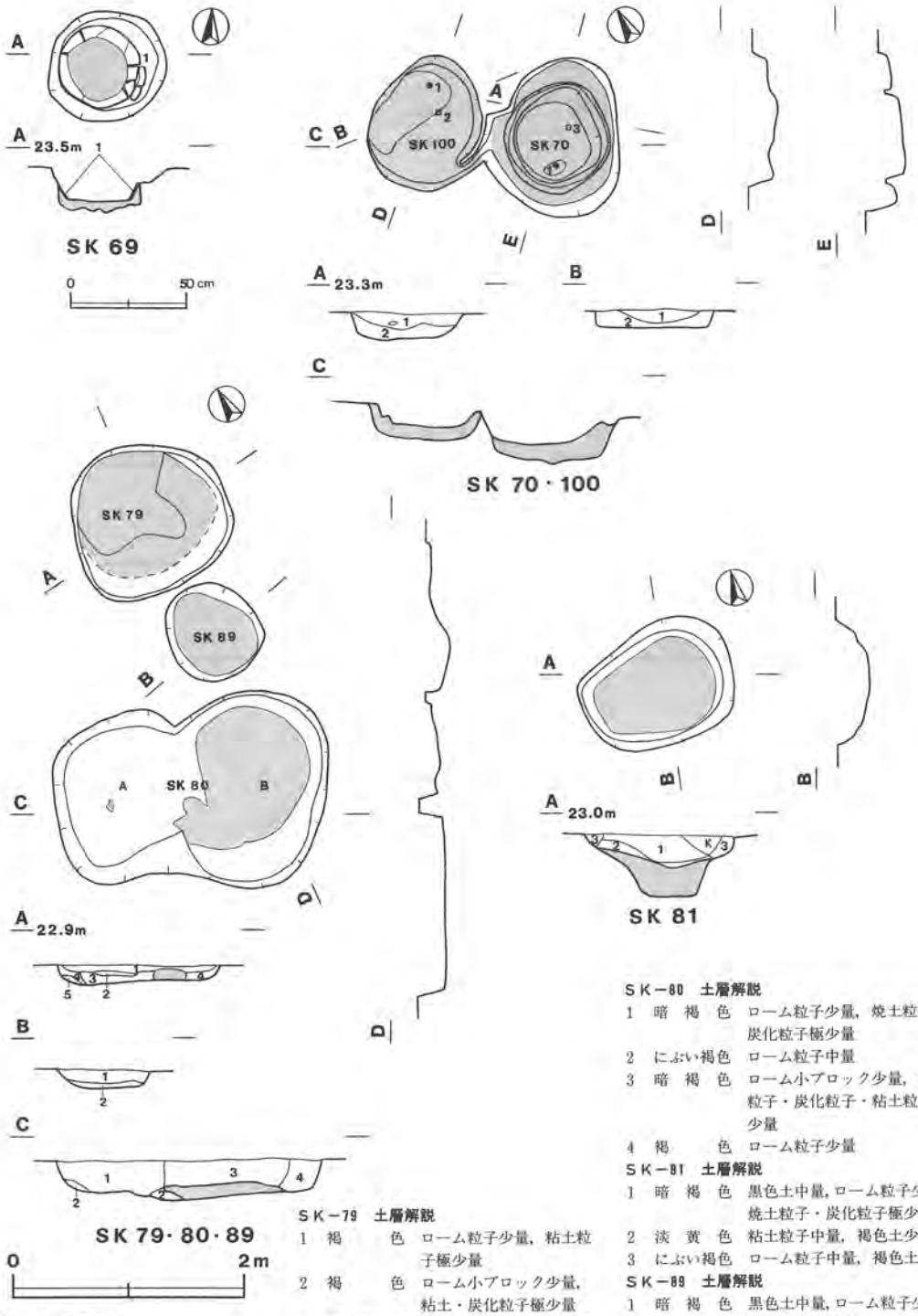
位置　B3h_0区。

長径方向　N－79°－W。

規模と平面形　長径0.54m，短径0.48mの楕円形で，深さ30cm程である。

壁面　底を欠いた土器を埋め込んでいる。

底面　厚さ5cm程の粘土張りで，平坦である。



SK－70　土層解説

1　褐　　色　粘土粒子少量，炭化粒子極少量

2　褐　　色　ローム粒子中量，粘土少量，炭化粒子極少量

SK－79　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，粘土粒子極少量

2　褐　　色　ローム小ブロック少量，粘土・炭化粒子極少量

3　暗　褐　色　褐色土中量，粘土小ブロック・ローム粒子少量

4　褐　　色　ローム粒子少量

5　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量

SK－80　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量

2　にぶい褐色　ローム粒子中量

3　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子極少量

4　褐　　色　ローム粒子少量

SK－81　土層解説

1　暗　褐　色　黒色土中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量

2　淡　黄　色　粘土粒子中量，褐色土少量

3　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量

SK－89　土層解説

1　暗　褐　色　黒色土中量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量

2　褐　　色　粘土粒子少量

SK－100　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子極少量

2　灰　白　色　粘土中量，褐色土中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

第146図　第69・70・79～81・89・100号土坑実測図

遺物　覆土上層から縄文式土器片（口縁部６，胴部48点）が出土している。覆土から第147図1の内耳土器と考えられる胴部が出土している。

所見　遺構の形態から近世の「流し溜」と考えられる。

第147図　第69号土坑出土遺物実測図

第69号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第147図 1	内耳鍋 土師質土器	B (8.8) C [29.8]	体部片。体部は外傾する。	体部内外面横ナデ。	長石・石英 橙色　普通	P132 40%

第70号土坑（第146図）

位置　B3g_7区。

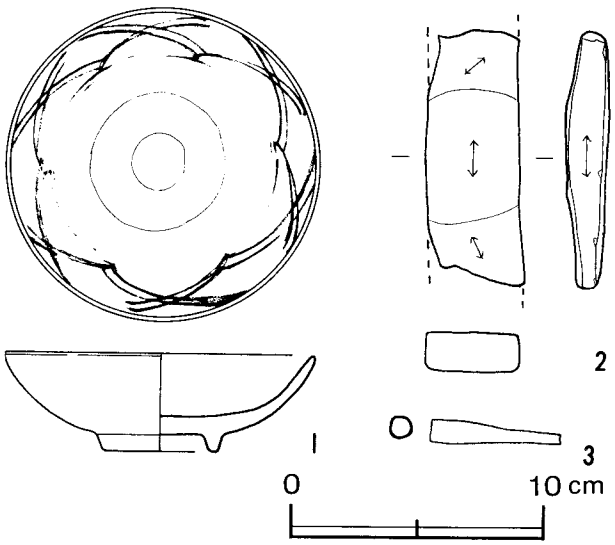
長径方向　N－49°－E。

規模と平面形　長径1.38m，短径1.05mの楕円形で，深さ33cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　皿状である。粘土張りは厚さ15cm程で，タライ状に作られている。

覆土　いずれの層にも粘土が含まれている。



第148図　第70号土坑出土遺物実測図

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部２，胴部２点），石片（２点），陶器片（２点）が出土している。覆土中層から第148図1の磁器の皿，3の煙管（吸口）と2の砥石が出土している。

所見　出土遺物から近世の墓壙と考えられる。

第70号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第148図 1	皿 磁器	A 12.4 B 3.9 D 4.5 E 0.7	染付の延形皿。高台は低く直立する。体部は内彎しながら大きく外上方に開く。内面には二重の圏線，その上に二重線の斜格子状の文様が描かれ，重ね焼き痕(蛇の目釉ハギ)が見られる。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)明青灰白色 良好	P133 100% 肥前系(波佐見) 18c

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	砥石	(10.1)	4.0	1.7	(89.9)	凝灰岩	Q86

図版番号	器種	計測値				備考
		長さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	重量(g)	
3	煙管	(5.2)		1.0	(4.5)	吸口 M44

第79号土坑（第146図）

位置　B4f_8区。

長径方向　N－67°－E。

規模と平面形　長径1.49m，短径1.37mの円形で，深さ22cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　凹凸で，粘土張りは中央から北側に確認されている。粘土張りの厚さは，10cm程である。

覆土　ロームブロックを含んでおり，人為堆積と考えられる。

遺物　覆土から縄文式土器片（1点）が出土している。

所見　底部の南側は，粘土と褐色土を混ぜ合わせ固めている。遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の「流し溜」と考えられる。

第80号土坑（第146図）

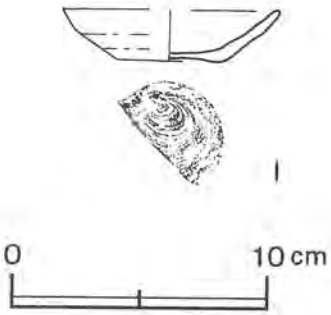
位置　B4g_9区。

長径方向　N－66°－W。

規模と平面形　長径2.39m，短径1.33mの不定形で，深さ24cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　掘り込んだ結果，粘土張り遺構A・Bが確認された。いずれも粘土張りの厚さは7cm程で，平坦である。



第149図　第80号土坑出土遺物実測図

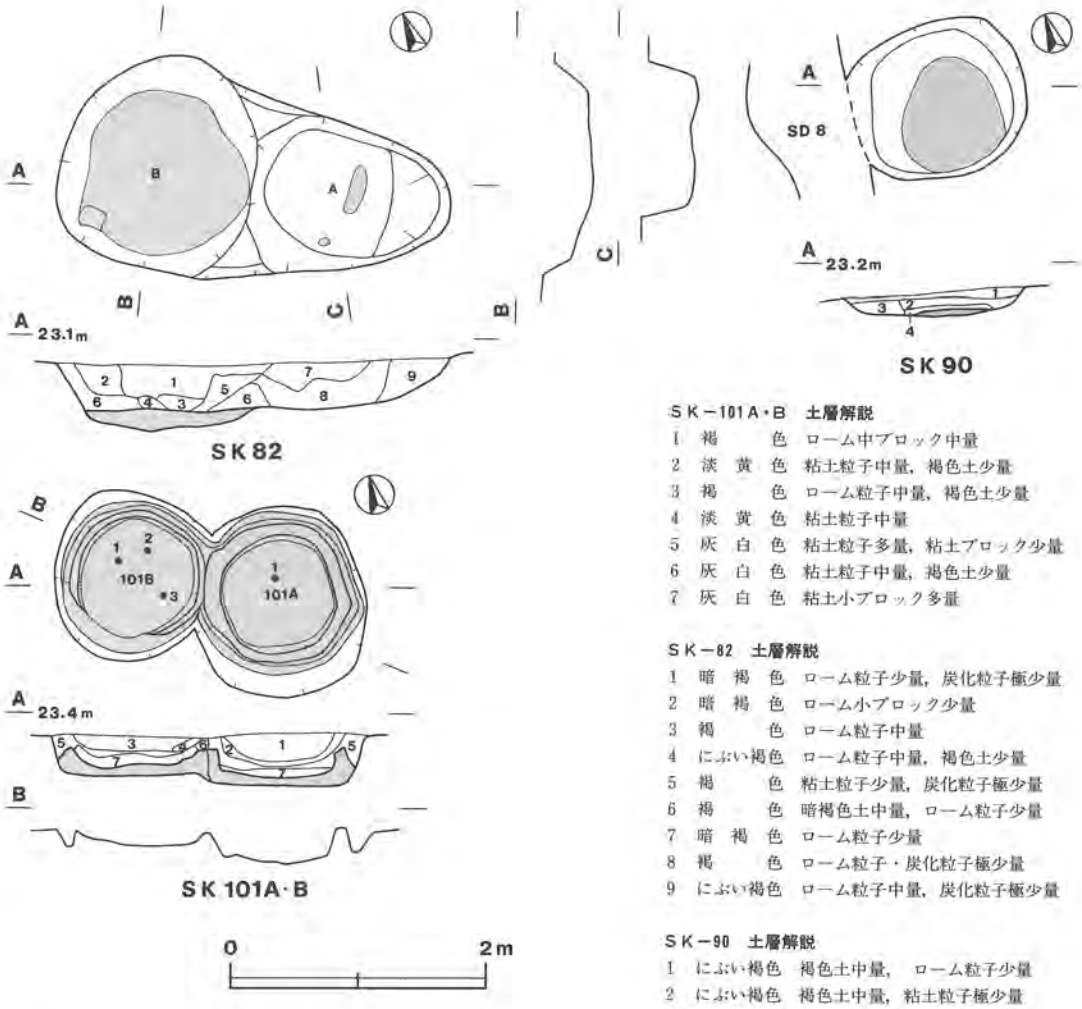
覆土　堆積状況から一挙に埋められたものと考えられる。3層から土器片が出土している。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部5，胴部20点），陶器（2点），第149図1の土師質土器の皿が出土している。

所見　堆積状況から粘土張り遺構Aが古く，Bは後に作られたものと考えられる。出土遺物と遺構の形態から近世の墓壙と考えられる。

第80号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第149図 1	皿 土師質土器	A [8.6] B 2.0 C 4.0	平底。底部は窪んでいる。体部・口縁部は外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P134 40%



SK－101A・B　土層解説

1　褐　　色　ローム中ブロック中量
2　淡　黄　色　粘土粒子中量，褐色土少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，褐色土少量
4　淡　黄　色　粘土粒子中量
5　灰　白　色　粘土粒子多量，粘土ブロック少量
6　灰　白　色　粘土粒子中量，褐色土少量
7　灰　白　色　粘土小ブロック多量

SK－82　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量
5　褐　　色　粘土粒子少量，炭化粒子極少量
6　褐　　色　暗褐色土中量，ローム粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子極少量
9　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極少量

SK－90　土層解説

1　にぶい褐色　褐色土中量，ローム粒子少量
2　にぶい褐色　褐色土中量，粘土粒子極少量
3　明　褐　色　ローム粒子中量，褐色土少量
4　褐　　色　粘土粒子中量

第150図　第82・90・101A・B号土坑実測図

第81号土坑（第146図）

位置　B4h_9区。

長径方向　N－73°－W。

規模と平面形　長径1.37m，短径1.01mの楕円形で，深さ27cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　粘土は5層からなり，厚さ25cmと厚く，粘土張りは皿状に張られている。

覆土　人為的に一挙に埋めたものと考えられる。

遺物　なし。

所見　遺構に伴う遺物が出土していないが，遺構の形態から近世の「流し溜」と考えられる。

第82号土坑（第150図）

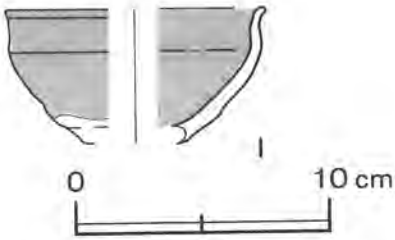
位置　B4i_9区。

長径方向　N－54°－W。

規模と平面形　長径3.08m，短径1.47mの楕円形で，深さ42cmである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　掘り込んだ結果，粘土張り遺構A・Bが確認された。Aは凹凸で，Bは皿状である。Aは褐色土の中に粘土ブロックを混ぜ固めている。Bの粘土張りの厚さは15cm程である。



第151図　第82号土坑出土遺物実測図

覆土　堆積状況から人為的に埋め戻したと考えられる。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部2，胴部24点），第151図1の陶器の天目碗が出土している。

所見　出土遺物と遺構の形態から近世の墓壙と考えられる。土層の状況から粘土張り遺構Aが古く，Bは後に作られたものと考えられる。

第82号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第151図 1	碗 陶器	A [10.2] B 5.3 C [3.8]	天目碗の体部から口縁部片。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部はやや外反する。いわゆる，スッポン口作り。内外面に鉄釉を施し，体部外面下半露胎。	水挽き成形。	(胎土)灰白色 (釉)茶褐色 良好	P135 20% 瀬戸・美濃系 18c前半

第89号土坑（第146図）

位置　B4g_8区。

長径方向　N－11°－W。

規模と平面形　長径0.89m，短径0.80mの楕円形で，深さ16cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　粘土ブロックを含み，凹凸である。

覆土　2層には，粘土が含まれている。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部1，胴部1点），石（1点）が出土している。

所見　遺構に伴う遺物は出土していないが，遺構の形態から近世の「流し溜」と考えられる。

第90号土坑（第150図）

位置　B4j_3区。

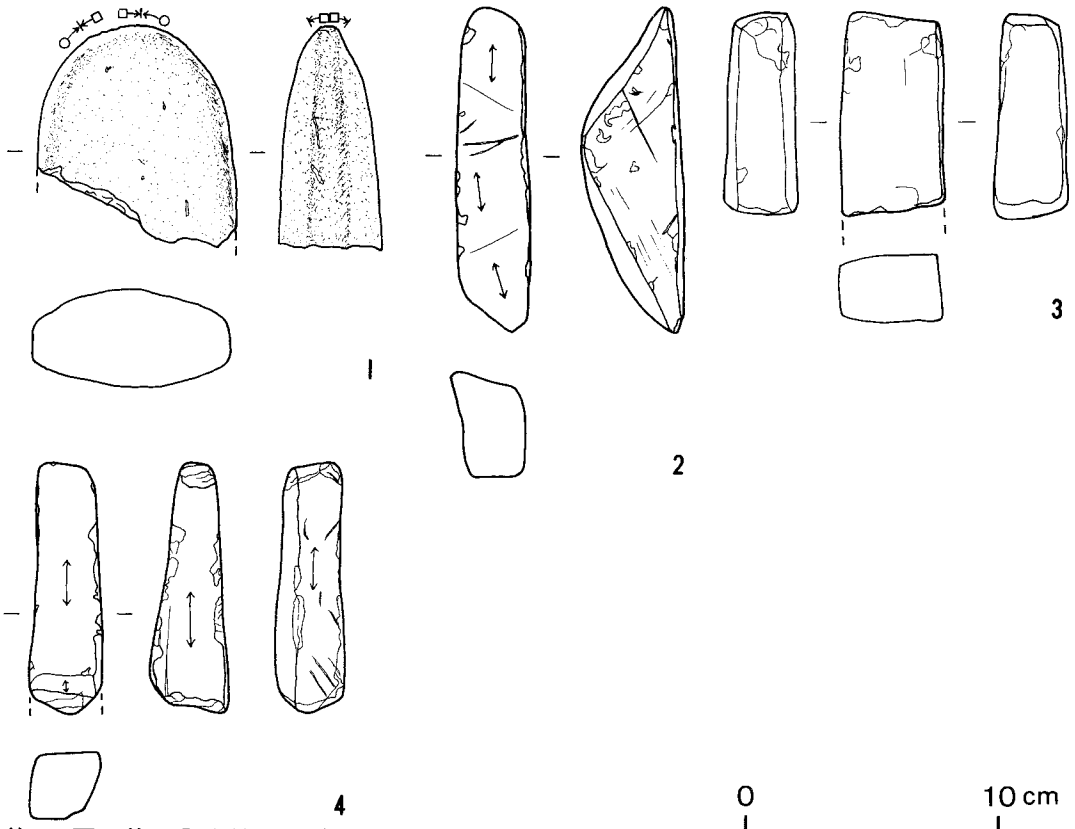
重複関係　第8号溝と重複している。

長径方向　N－62°－E。

規模と平面形　長径1.46m，短径1.29mの楕円形で，深さ23cmである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　粘土張りで平坦である。粘土張りの厚さは，5cm程である。



第152図　第90号土坑出土遺物実測図

覆土　堆積状況から人為的に埋め戻したと考えられる。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部２，胴部６点），礫（３点），第152図1の磨石，2～4の砥石が出土している。

所見　遺構に伴う遺物が出土していないが，遺構の形態から第８号溝に伴う近世の「流し溜」と考えられる。

第90号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第152図1	磨　石	(8.8)	7.8	4.0	(354.9)	砂　岩	一部欠損	Q104
2	砥　石	12.9	2.8	4.4	171.2	凝灰岩		Q105
3	砥　石	(8.1)	4.15	3.0	(159.5)	凝灰岩	一部欠損	Q106
4	砥　石	(10.0)	2.8	3.1	(108.8)	凝灰岩	一部欠損	Q107

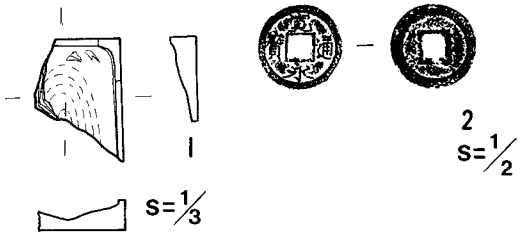
第100号土坑（第146図）

位置　B3e_7区。

長径方向　N－31°－E。

規模と平面形　長径1.11ｍ，短径0.97ｍの楕円形で，深さ23cmである。

壁面　粘土張りで，外傾して立ち上がっている。



第153図　第100号土坑出土遺物実測・拓影図

底面　凹凸である。粘土張りは厚さ10cmで，タライ状に張られている。

覆土　いずれの層にも粘土が含まれている。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部３，胴部19点），鉄片（１点），礫片（２点），内耳土器片（１点），陶器片（６点）が出土している。覆土下層から第153図1の硯，2の古銭（寛永通寶1枚）が出土している。

所見　出土遺物から近世の墓壙と考えられる。

第100号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第153図1	硯	(4.5)	(3.5)	1.1	(21.2)	凝灰岩	破片	Q111

図版番号	鋳　名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	備　考
2	寛永通寶	1668	日本	M52

第101A号土坑（第150図）

位置　C3a$_6$区。

長径方向　N－28°－E。

規模と平面形　長径1.52m，短径［1.36］mの楕円形で，深さ35cmである。

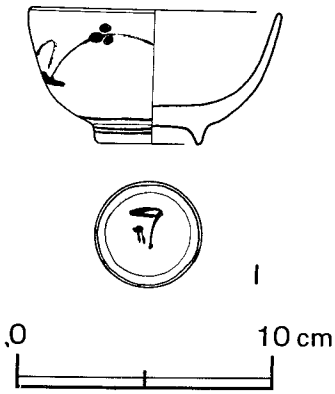
壁面　粘土張りで，外傾して立ち上がっている。

底面　粘土張りで皿状である。粘土張りの厚さは中央が5cm，側面は10～15cmで皿状に張られている。

覆土　堆積状況から人為的に一挙に埋め戻したと考えられる。

遺物　覆土上層から縄文式土器片（10点），内耳土器片（2点）が出土している。覆土から第154図1の磁器の碗が出土している。

所見　出土遺物から近世の墓壙と考えられる。



第154図　第101A号土坑出土遺物実測図

第101A号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154図 1	碗 磁器	A 10.0 B 5.3 D 4.1 E 0.7	染付の碗。高台は低く直立し，体部は内彎しながら立ち上がる。外面と底部外面には草文が描かれている。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)明緑灰色 良好	P137 60% 肥前系(波佐見) 18c

第101B号土坑（第150図）

位置　C3a$_6$区。

重複関係　第101A号土坑と重複している。

長径方向　N－28°－E。

規模と平面形　長径1.33m，短径［1.14］mの円形で，深さ20cmである。

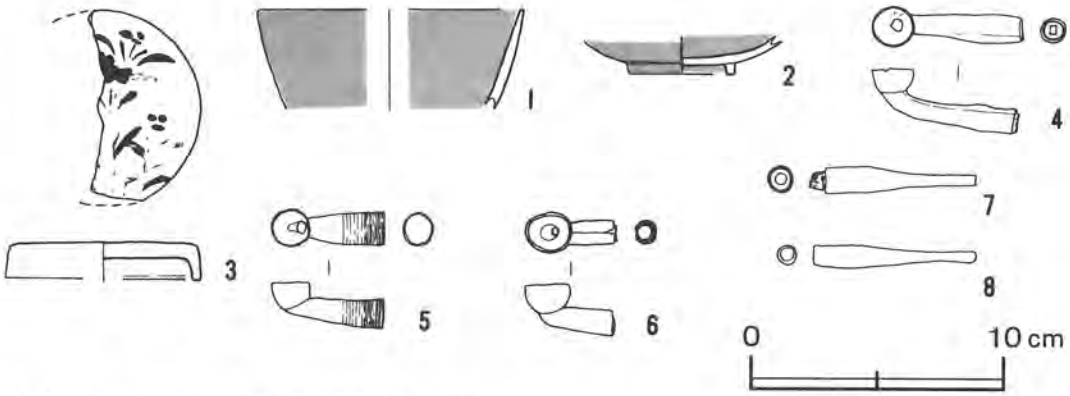
壁面　粘土張りで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　粘土張りで皿状である。粘土張りの厚さは中央が10cm程，側面は15cm程で皿状に張られている。

覆土　堆積状況から人為的に一挙に埋め戻したと考えられる。

遺物　覆土上層から縄文式土器片（16点），内耳土器片（6点），土師器片（6点），礫片（3点）が出土している。覆土から第155図1・2の陶器の碗，3の陶器の蓋，4～8の煙管が出土している。

所見　出土遺物から近世の墓壙と考えられる。



第155図　第101Ｂ号土坑出土遺物実測図

第101Ｂ号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第155図 1	碗 陶器	A [10.6] B (4.0)	中碗の体部から口縁部片。体部・口縁部は垂直に立ち上がる。	水挽き成形。	(胎土)灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	P138 60％ 瀬戸・美濃系 18c～19c
2	碗 陶器	B (1.5) D 4.2	底部片。体部下位は内彎しながら立ち上がる。内外面に鉄釉を施している。畳付は平坦。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)茶褐色 良好	P139 10％ 瀬戸・美濃系 18c
3	蓋 陶器	A 5.2 B 1.0	小物の蓋の破片。染付の蓋。上面に上絵（グリーン・赤）で草花文が描かれている。全面に透明感のある釉がかけられている。	水挽き成形。	(胎土)灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	P140 50％ 京都・信楽系 18c

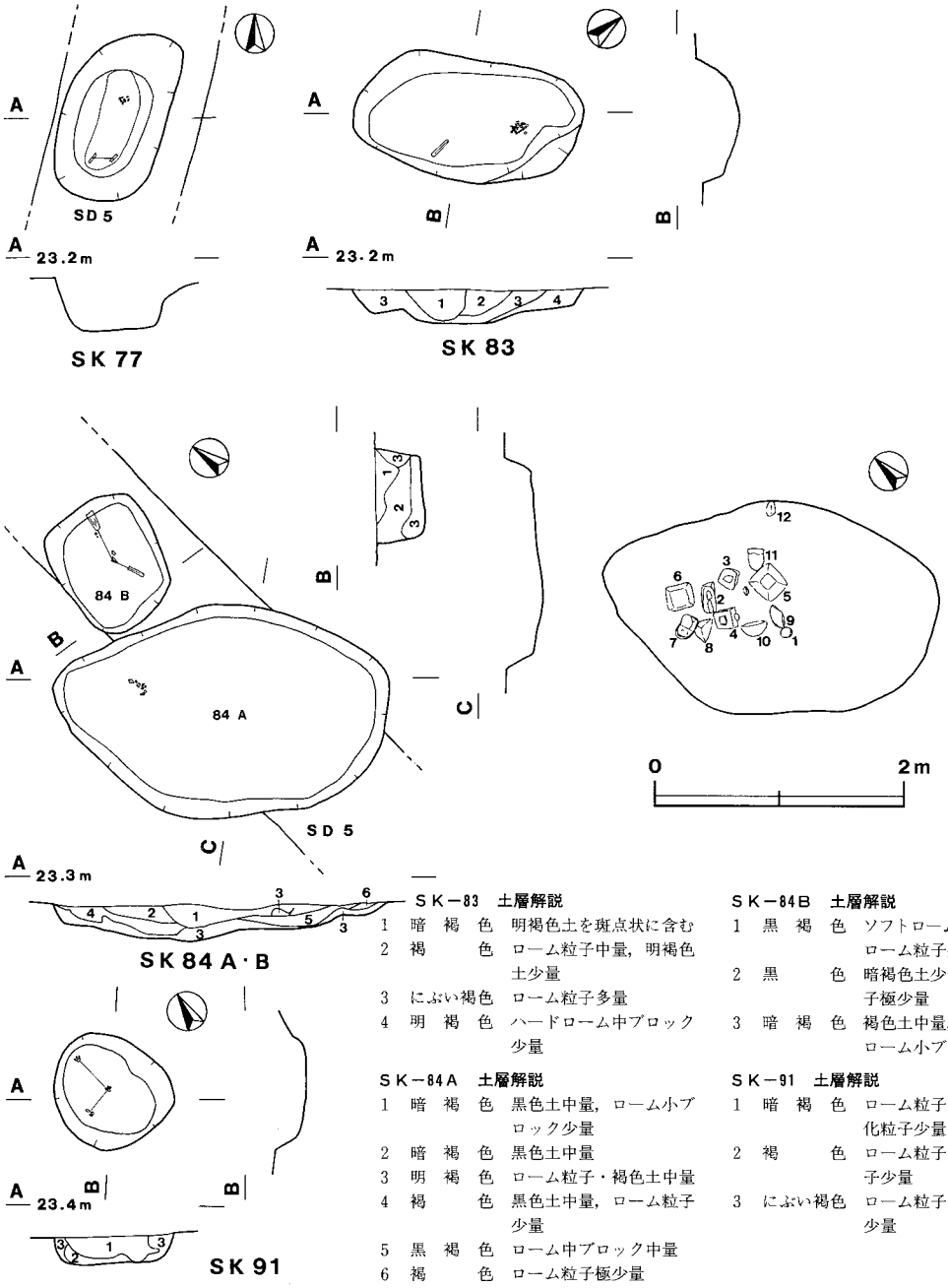
図版番号	器　種	計測値				備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	重量(g)	
4	煙管	6.0	2.4	1.6	7.1	雁首 M53
5	煙管	4.5	1.8	1.3	6.4	雁首 M54
6	煙管	3.6	2.0	1.1	6.3	雁首 M55
7	煙管	(6.6)		1.1	(4.8)	吸口 M56
8	煙管	(6.5)		0.9	(4.0)	吸口 M57

(2) 墓　壙

第77号土坑（第156図）

位置　B4i_8区。

重複関係　第5号溝と重複している。



ＳＫ－83　土層解説

1　暗　褐　色　明褐色土を斑点状に含む
2　褐　　色　ローム粒子中量，明褐色土少量
3　にぶい褐色　ローム粒子多量
4　明　褐　色　ハードローム中ブロック少量

ＳＫ－84Ａ　土層解説

1　暗　褐　色　黒色土中量，ローム小ブロック少量
2　暗　褐　色　黒色土中量
3　明　褐　色　ローム粒子・褐色土中量
4　褐　　色　黒色土中量，ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム中ブロック中量
6　褐　　色　ローム粒子極少量

ＳＫ－84Ｂ　土層解説

1　黒　褐　色　ソフトローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　　色　暗褐色土少量，ローム粒子極少量
3　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子・ローム小ブロック少量

ＳＫ－91　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・褐色土・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子多量，褐色土少量

第156図　第77・83・84Ａ・Ｂ・91号土坑実測図

長径方向　N－22°－E。

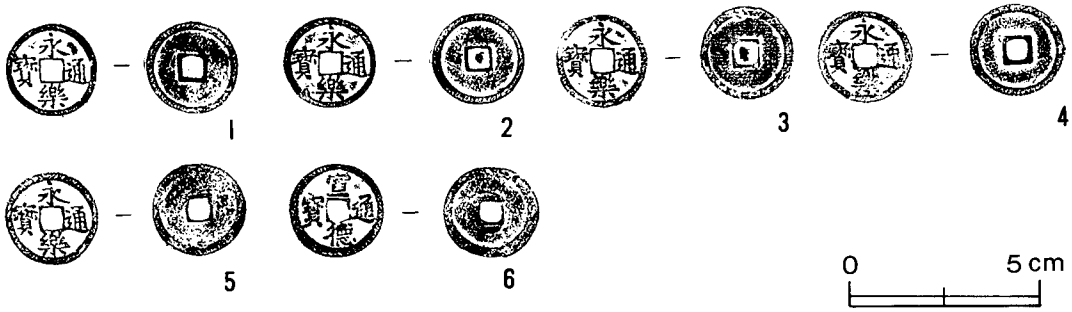
規模と平面形　長径［1.42］m，短径0.86mの楕円形で，深さ41cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　平坦である。

遺物　覆土中から土師質土器の皿が出土し，下層の北側から残りの良い歯が出土し，南側から骨片，第157図1～6の古銭（永楽通寶５枚，宣徳通寶１枚）が出土している。

所見　第５号溝に掘り込んで作られたものと考えられる。時期は，出土遺物から中世と考えられる。



第157図　第77号土坑出土古銭拓影図

第77号土坑出土古銭一覧表

図版番号	鋳　名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	備　考
第157図1	永楽通寶	1408	明	六道銭　M59
2	永楽通寶	1408	明	六道銭　M60
3	永楽通寶	1408	明	六道銭　M61
4	永楽通寶	1408	明	六道銭　M62
5	永楽通寶	1408	明	六道銭　M63
6	宣德通寶	1433	明	六道銭　M64

第83号土坑（第156図）

位置　B4j_9区。

長径方向　N－50°－E。

規模と平面形　長径1.82m，短径0.99mの楕円形で，深さ32cmである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　皿状である。

覆土　４層からなり，ローム小ブロックを含む人為堆積である。

遺物　下層北西側から残りの良い歯が出土し，南側から骨片が出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土していないが，隣接する第84A・B号土坑とほぼ同時代と考えられる。

第84A号土坑（第156図）

位置　B4j_8区。

重複関係　第5号溝と重複している。

長径方向　N－31°－W。

規模と平面形　長径2.68m，短径1.74mの楕円形で，深さ30cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　ほぼ平坦である。

覆土　6層からなり，ロームブロックを含む複雑な人為堆積である。1層から五輪塔，宝篋印塔が出土し，3・4層から骨片や歯が出土している。

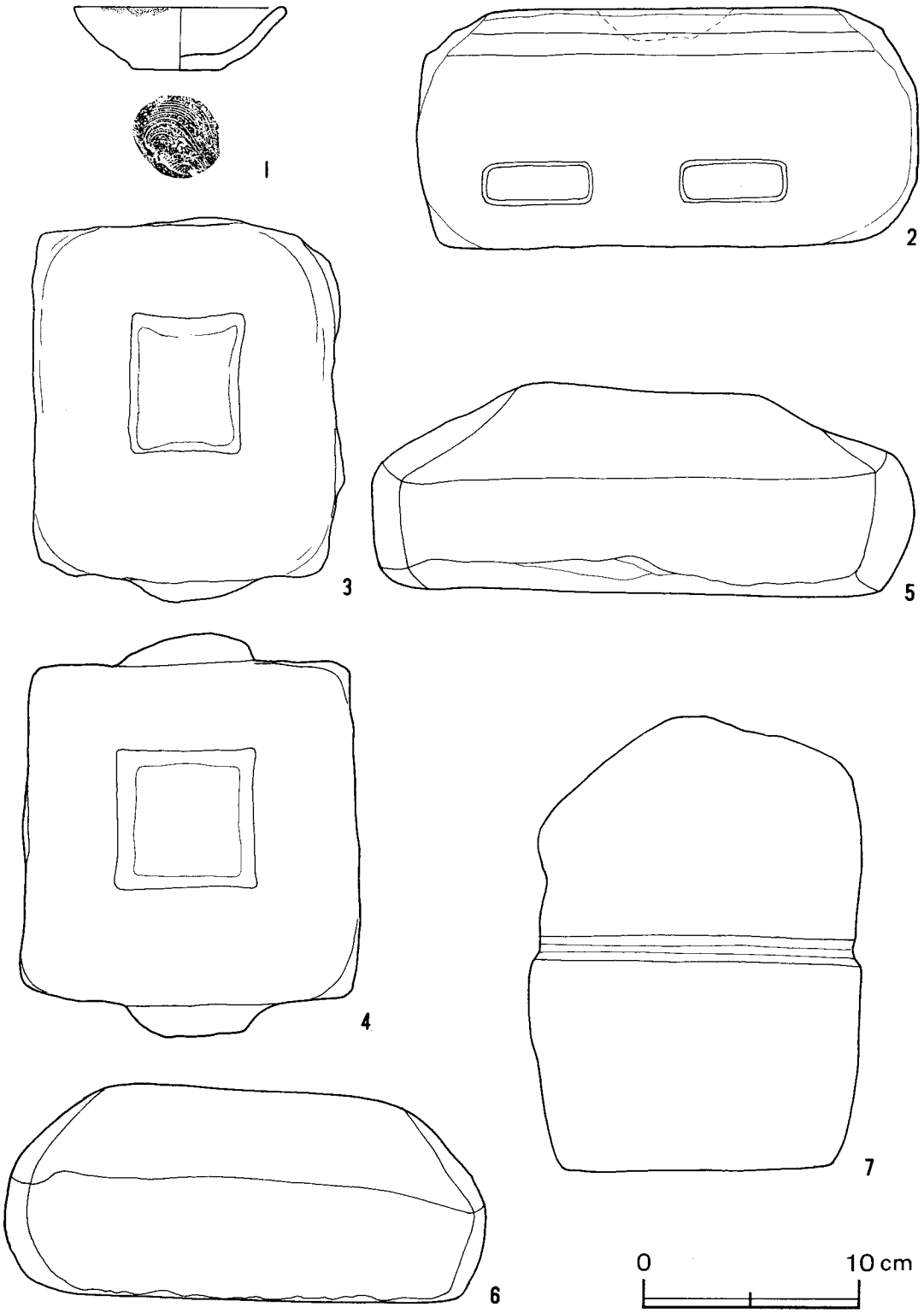
遺物　底部から残りの良い歯が出土している。上層から第158・159図1の土師質土器の皿，5～12の五輪塔（空・風・火・水・地輪），2～4の宝篋印塔（塔身・基礎）が出土している。

所見　時期は，出土遺物から中世と考えられる。

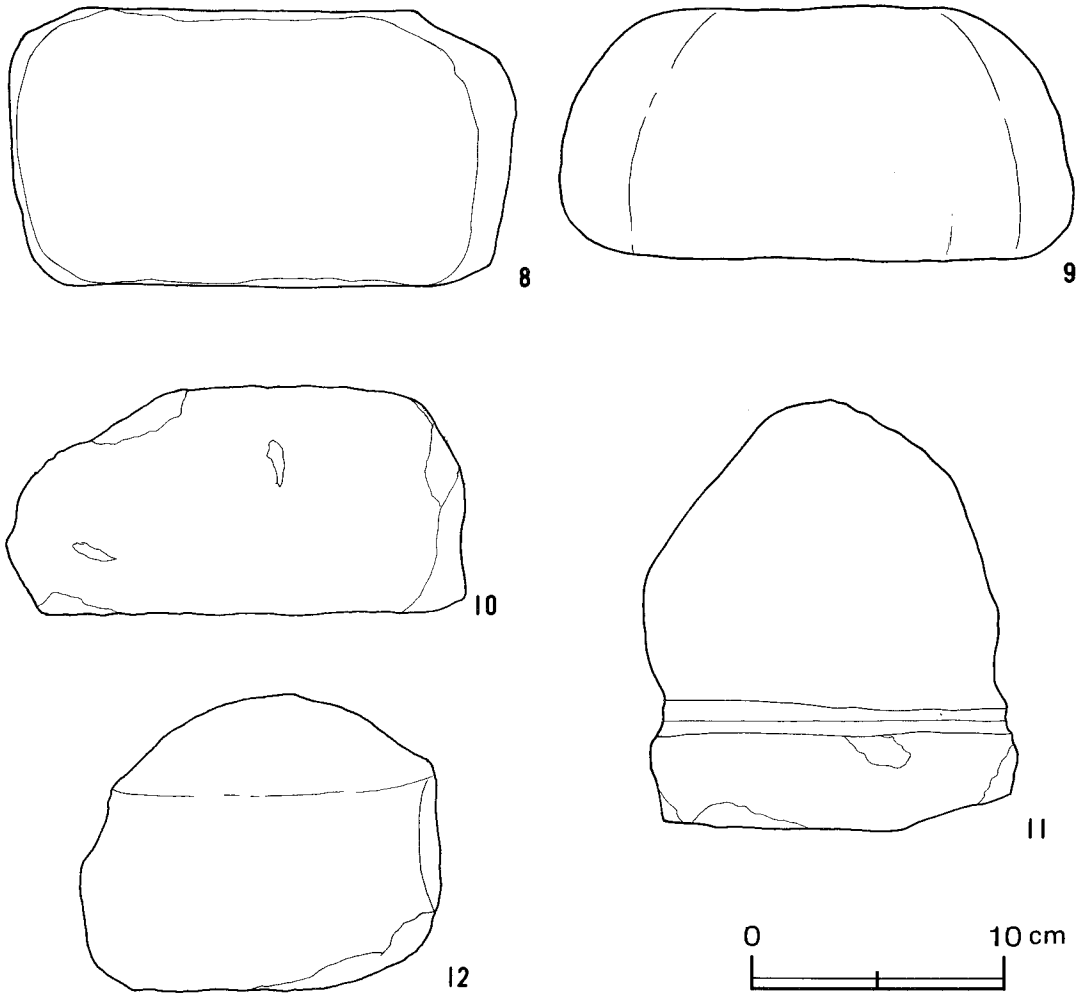
第84A号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第158・159図 1	皿 土師質土器	A　9.6 B　3.0 C　4.1	平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部はやや外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・パミス・スコリア 橙色 普通	P136 90% 口唇部油煙付着

図版番号	器　種	計測値			石　質	備　考	
		高さ(cm)	幅(cm)	重量(g)			
2	宝篋印塔	23.1	11.0	10000.0	花崗岩	基礎	Q88
3	宝篋印塔	17.8	14.7	5820.0	花崗岩	塔身	Q92
4	宝篋印塔	18.9	15.4	7080.0	花崗岩	塔身	Q101
5	五輪塔	9.7	25.0	8450.0	花崗岩	火輪	Q89
6	五輪塔	10.0	22.1	7350.0	花崗岩	火輪	Q90
7	五輪塔	21.0	15.5	6800.0	花崗岩	空風輪	Q91
8	五輪塔	11.0	20.0	7180.0	花崗岩	地輪	Q93
9	五輪塔	9.9	20.0	2660.0	花崗岩	水輪	Q94
10	五輪塔	9.1	(15.1)	(2640.0)	花崗岩	水輪	Q95
11	五輪塔	17.0	15.0	3550.0	花崗岩	空風輪	Q96
12	五輪塔	(11.8)	(14.3)	(1710.0)	花崗岩	空輪	Q97



第158図　第84Ａ号土坑出土遺物実測図（1）



第159図　第84A号土坑出土遺物実測図（2）

第84B号土坑（第156図）

位置　B4j_8区。

重複関係　第5号溝と重複している。

長径方向　N－20°－E。

規模と平面形　長径1.03m，短径0.86mの不整長方形で，深さ40cmである。

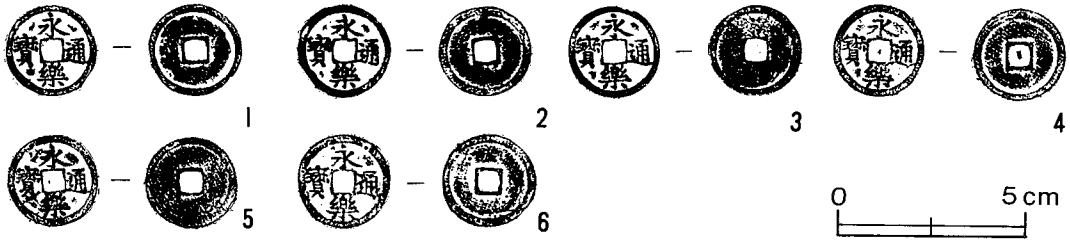
壁面　垂直に立ち上がっている。

底面　ほぼ平坦である。

覆土　3層からなり，ロームブロックを含む人為堆積である。3層から，人骨が出土している。

遺物　下層から人骨が出土している。北側より歯，骨片，覆土から第160図1～6の古銭（永楽通寶6枚）が出土している。

所見　時期は，出土遺物から中世と考えられる。



第160図　第84B号土坑出土古銭拓影図

第77号土坑出土古銭一覧表

図版番号	鋳　名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	備　考	
第160図1	永楽通寳	1408	明	六道銭	M46
2	永楽通寳	1408	明	六道銭	M47
3	永楽通寳	1408	明	六道銭	M48
4	永楽通寳	1408	明	六道銭	M49
5	永楽通寳	1408	明	六道銭	M50
6	永楽通寳	1408	明	六道銭	M51

第91号土坑（第156図）

位置　C4a_5区。

重複関係　第5号溝と重複している。

長径方向　N－43°－E。

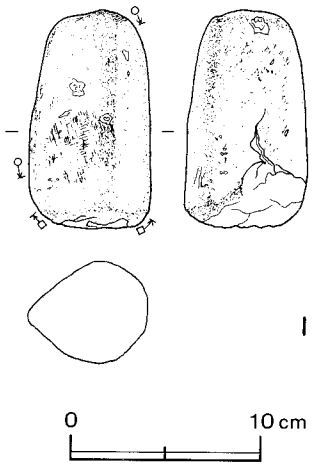
規模と平面形　長径0.97m，短径0.89mの楕円形で，深さ17cmである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　平坦である。

覆土　3層からなり，1層の占める割合が大きい。

遺物　底部から歯や骨片が出土している。覆土から第161図1の磨石が出土している。



第161図　第91号土坑出土遺物実測図

所見　時期を判断する遺物が出土していないが，周辺の墓壙とほぼ同時代のものと考えられる。

第91号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第161図1	磨　石	11.5	6.4	5.5	589.8	安山岩	Q108

第96A号土坑（第162図）

位置　C4a$_6$区。

長径方向　N－67°－W。

規模と平面形　長径1.17m，短径0.54mの楕円形で，深さ20cmである。

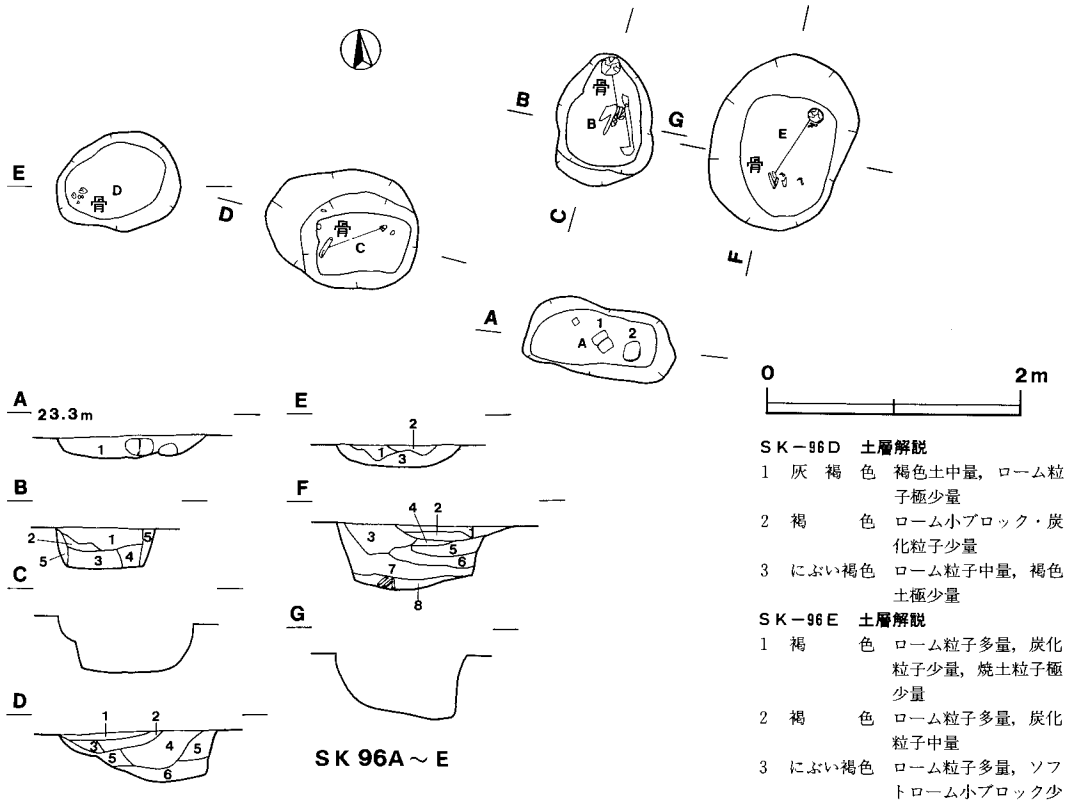
壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　皿状である。

覆土　1層からなり，一挙に埋めたと考えられる。また，五輪塔が出土している。

遺物　覆土から第163図1･2の五輪塔（空･風･水輪）が出土している。

所見　時期は，出土遺物から中世と考えられる。



SK－96A　土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，黒色土中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量

SK－96B　土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量
2　灰褐色　黒褐色土中量，ローム小ブロック極少量
3　褐　色　ローム小ブロック極少量
4　暗褐色　黒色土中量，ローム粒子・焼土粒子極少量
5　にぶい明褐色　ローム粒子多量，褐色土極少量

SK－96C　土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　明褐色　褐色土･ソフトローム小ブロック少量，焼土粒子極少量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
5　にぶい褐色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック中量
6　明褐色　ローム粒子多量，ソフトローム小ブロック少量

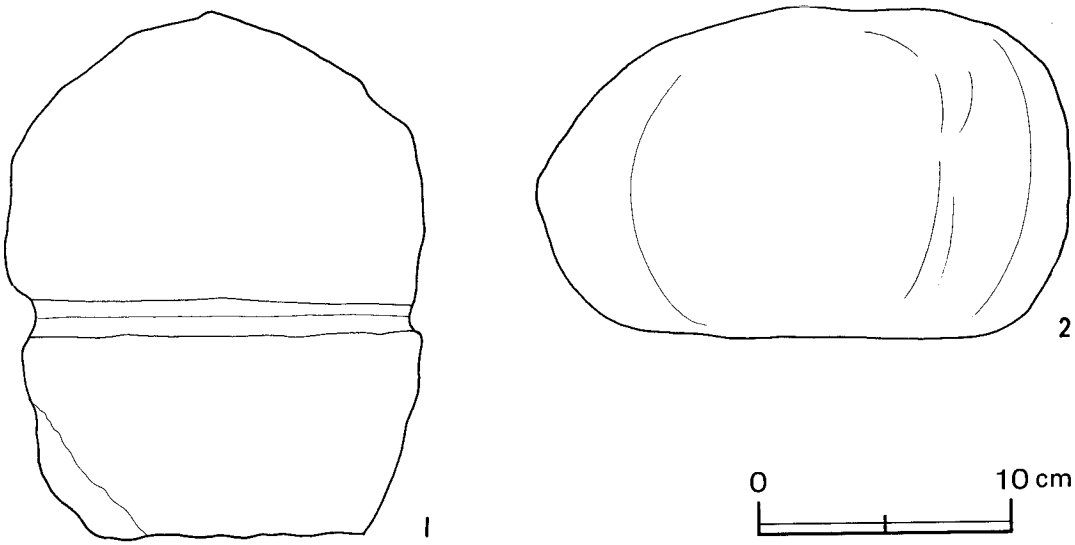
SK－96D　土層解説

1　灰褐色　褐色土中量，ローム粒子極少量
2　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土極少量

SK－96E　土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子極少量
2　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量
3　にぶい褐色　ローム粒子多量，ソフトローム小ブロック少量，炭化粒子少量
4　1層に同じ
5　2層に同じ
6　にぶい褐色　ローム粒子多量，ソフトローム中ブロック少量，炭化粒子多量
7　2層に同じ
8　明褐色　ローム粒子多量，褐色土少量

第162図　第96A～E号土坑実測図



第163図　第96Ａ号土坑出土遺物実測図

第96Ａ号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計　測　値			石　質	備　考	
		高さ(cm)	幅 (cm)	重量(g)			
第163図1	五 輪 塔	20.7	16.5	6380.0	花 崗 岩	空風輪	Q109
2	五 輪 塔	13.4	(20.8)	(3000.0)	花 崗 岩	水輪	Q110

第96Ｂ号土坑（第162図）

位置　C4a_6区。

長径方向　N－16°－E。

規模と平面形　長径1.06ｍ，短径0.76ｍの楕円形で，深さ41cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　ほぼ平坦である。

覆土　５層からなり，ロームブロックを含み，複雑な人為堆積をしている。３層から人骨が出土している。

遺物　北側下層から頭蓋骨，中央部下層から骨片が出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土していないが，周辺の墓壙とほぼ同時代と考えられる。

第96Ｃ号土坑（第162図）

位置　C4a_6区。

長径方向　N－32°－E。

規模と平面形　長径1.19m，短径0.98mの楕円形で，深さ40cmである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。上層の北西側は，掘り過ぎである。

底面　皿状である。

覆土　6層からなり，ハードロームブロックを含み，複雑な人為堆積をしている。6層から人骨が出土している。

遺物　下層から骨片が出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土していないが，周辺の墓壙とほぼ同時代と考えられる。

第96D号土坑（第162図）

位置　C4a_7区。

長径方向　N－81°－E。

規模と平面形　長径0.98m，短径0.76mの楕円形で，深さ18cmである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　皿状である。

覆土　3層からなり，人為堆積である。3層から人骨が出土している。

遺物　西側下層から骨片が出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土していないが，周辺の墓壙とほぼ同時代と考えられる。

第96E号土坑（第162図）

位置　C4a_5区。

長径方向　N－28°－W。

規模と平面形　長径1.40m，短径1.07mの楕円形で，深さ51cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　東側に傾斜している。

覆土　8層からなり，ロームブロックを含む人為堆積である。8層から人骨や歯が出土している。

遺物　底部北東側から頭蓋骨，歯，南側から骨片が出土している。

所見　時期を判断する遺物が出土していないが，周辺の墓壙とほぼ同時代と考えられる。

(3) 陥し穴

第108号土坑（第164図）

位置　D2h_9区。

長径方向　N－67°－W。

規模と平面形　長径2.42m，短径0.86mの楕円形で，深さ1.63mである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　皿状である。

覆土　堆積状況から人為堆積である。

遺物　なし。

所見　陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期不明である。

第128号土坑（第164図）

位置　D3g_5区。

長径方向　N－45°－W。

規模と平面形　長径1.67m，短径0.71mの楕円形で，深さ1.37mである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　楕円形で平坦である。

覆土　ハードロームブロックを含み，人為堆積である。

遺物　なし。

所見　陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期不明である。

第153号土坑（第164図）

位置　D2i_9区。

長径方向　N－62°－W。

規模と平面形　長径2.96m，短径0.98mの楕円形で，深さ1.76mである。

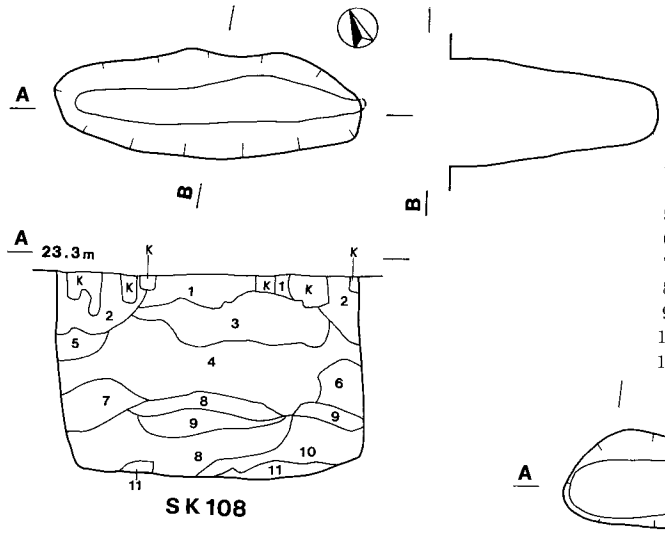
壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　皿状である。

覆土　ハードロームブロックを含んでおり，人為堆積と考えられる。

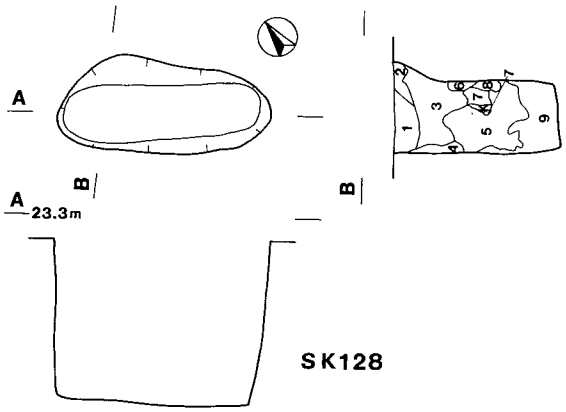
遺物　なし。

所見　陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期不明である。



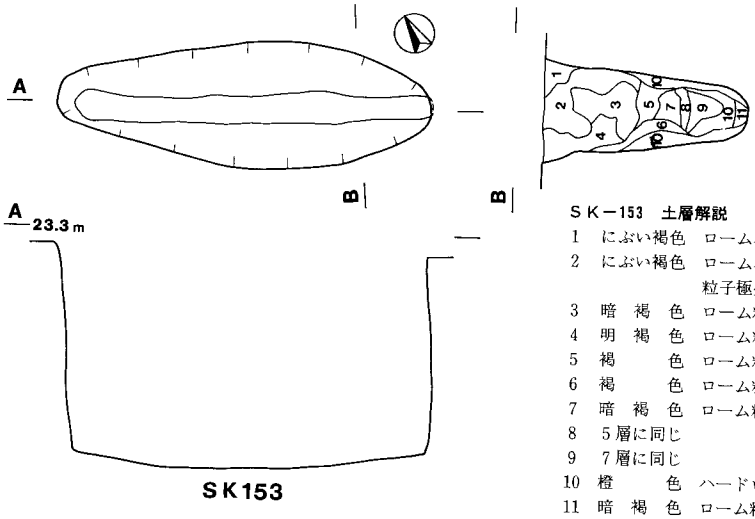
SK－108　土層解説

1　暗　褐　色　黒色土中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量
3　暗　褐　色　黒色土中量，ローム中ブロック中量，焼土粒子炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，黒色土少量
7　にぶい褐色　褐色土中量，ローム小ブロック少量
8　明　褐　色　ローム粒子中量
9　暗　褐　色　黒色土中量，褐色土少量
10　褐　　色　ローム粒子中量
11　明　褐　色　ローム粒子多量



SK－128　土層解説

1　にぶい褐色　明褐色土・暗褐色土を斑点状に含む
2　明　褐　色　ハードローム中ブロック中量
3　褐　　色　明褐色土中ブロックを斑点状に含む
4　褐　　色　ハードローム小・中ブロック少量
5　褐　　色　明褐色土を斑点状に含む
6　褐　　色　ハードローム中ブロック中量，焼土粒子極少量
7　にぶい褐色　ハードローム小ブロック少量
8　褐　　色　ハードローム中ブロック中量
9　明　褐　色　ソフトローム大ブロックを斑点状に含む

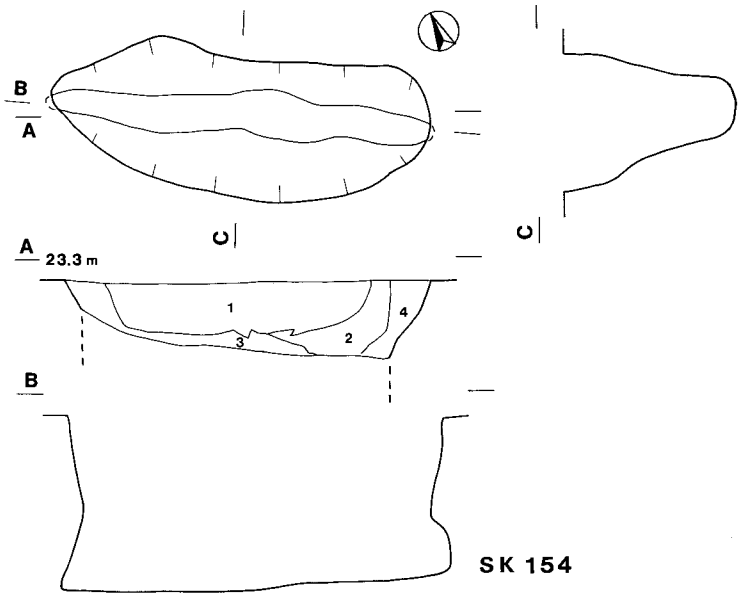


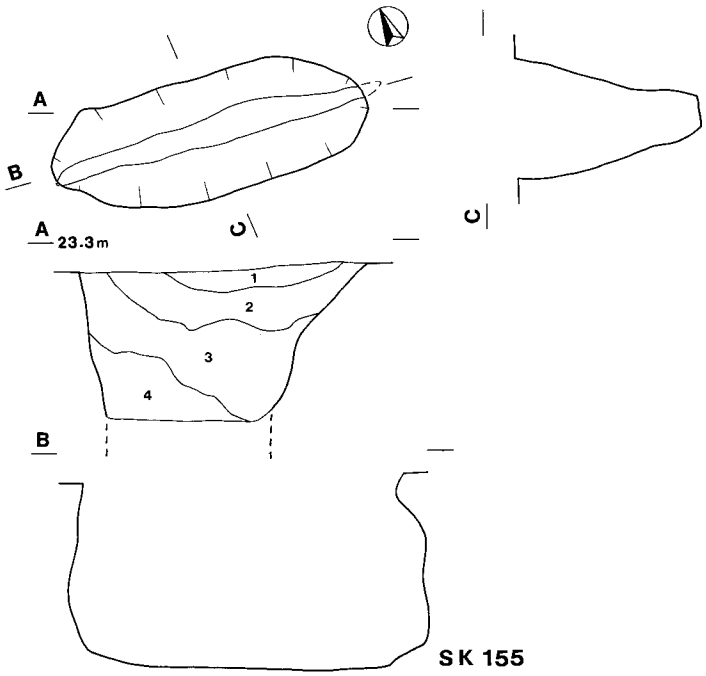
SK－153　土層解説

1　にぶい褐色　ローム小ブロック・炭化粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム小ブロック多量，　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　明　褐　色　ローム粒子多量
5　褐　　色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ローム粒子中量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
8　5層に同じ
9　7層に同じ
10　橙　　色　ハードローム中ブロック中量
11　暗　褐　色　ローム粒子中量

第164図　第108・128・153号土坑実測図

0　2m





SK－154　土層解説

1　黒　褐　色　暗褐色土多量，ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　暗　褐　色　ソフトローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小・中ブロック少量

SK－155　土層解説

1　暗　褐　色　暗褐色土中量，ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ハードローム中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土極少量

第165図　第154・155号土坑実測図

第154号土坑（第165図）

位置　E2c_9区。

長径方向　N－62°－W。

規模と平面形　長径3.01m，短径1.41mで，深さ1.39mである。

壁面　外傾して立ち上がっている。東西の下端は袋状に掘り込まれている。

底面　皿状である。

覆土　ロームブロックを含んでおり，人為堆積と考えられる。

遺物　覆土から混入したと思われる縄文式土器片が数点出土している。

所見　陥し穴と考えられる。時期を判断する遺物が出土していないので，時期不明である。

第155号土坑（第165図）

位置　E2b_8区。

長径方向　N－80°－W。

規模と平面形　長径2.53m，短径0.96mの楕円形で，深さ1.52mである。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　平坦である。

覆土　堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺物　なし。

所見　陥し穴と考えられる。出土遺物がないため，時期不明である。

(4)　その他の土坑

ここでは，主な土坑のみ記述し，その他は一覧表に記した。

第1号土坑（第166図）

位置　B(5)a_0区。

長径方向　N－82°－W。

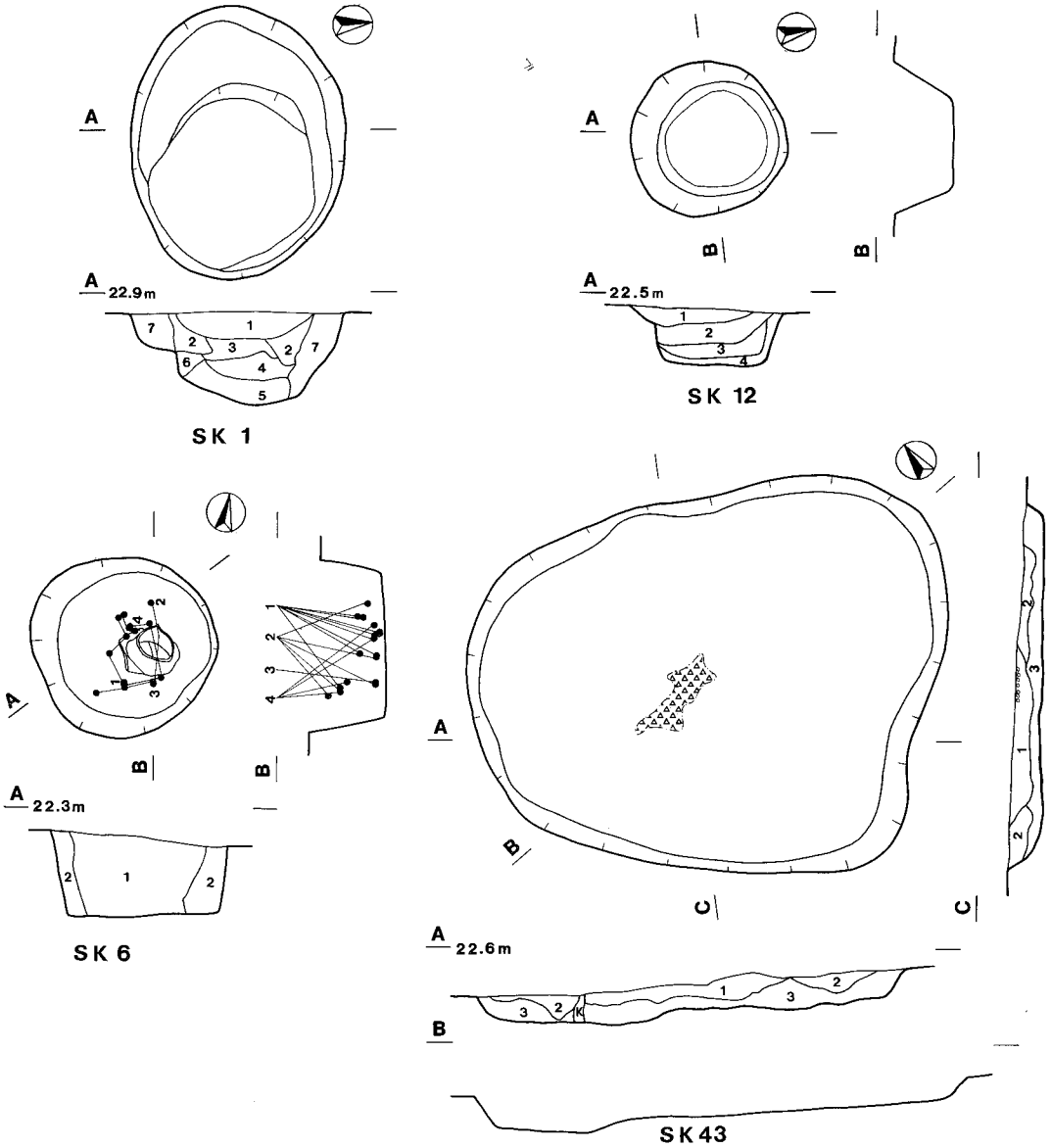
規模と平面形　長径2.22m，短径1.71mの楕円形で，深さ1.6mである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　ほぼ平坦である。

覆土　7層からなり，ローム粒子，ハードロームブロックを含み，複雑な堆積をしている。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部9，胴部112，底部3点），第167図1の深鉢の底部，2の石鏃が出土している。



ＳＫ－１　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　炭化粒子中量，暗褐色土少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子極少量
5　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
6　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
7　橙　　色　ハードローム大ブロック・ローム粒子多量，褐色土少量

ＳＫ－６　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極少量

ＳＫ－12　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，暗褐色土少量，粘土粒子微量

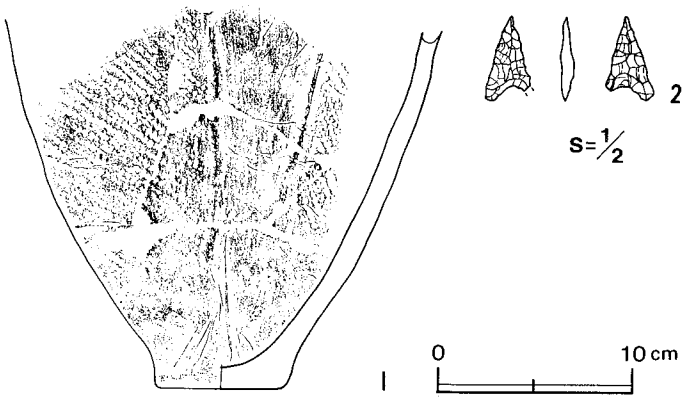
ＳＫ－43　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　褐　　色　炭化粒子極少量
3　明　褐　色　ハードローム小・中ブロック少量

0　2m

第166図　第1・6・12・43号土坑実測図

所見　出土遺物から縄文時代中期（加曽利EIII式期）のものと考えられる。



第167図　第1号土坑出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第167図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (19.3) C 6.7	底部から胴部片。突出した底部。外面に微隆線の区画による直線的磨消帯が垂下し，区画間に単節縄文LRを縦位回転で施文している。底面から4cm程までは横位ナデを施している。	砂粒・長石・石英・スコリア 橙色　普通	P107 40%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	石　鏃	2.2	1.2	0.4	(0.6)	珪質頁岩	右脚欠　Q70

第6号土坑（第166図）

位置　A5h_8区。

長径方向　N－65°－W。

規模と平面形　長径1.51m，短径1.48mの円形で，深さ61cmである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　ほぼ平坦である。

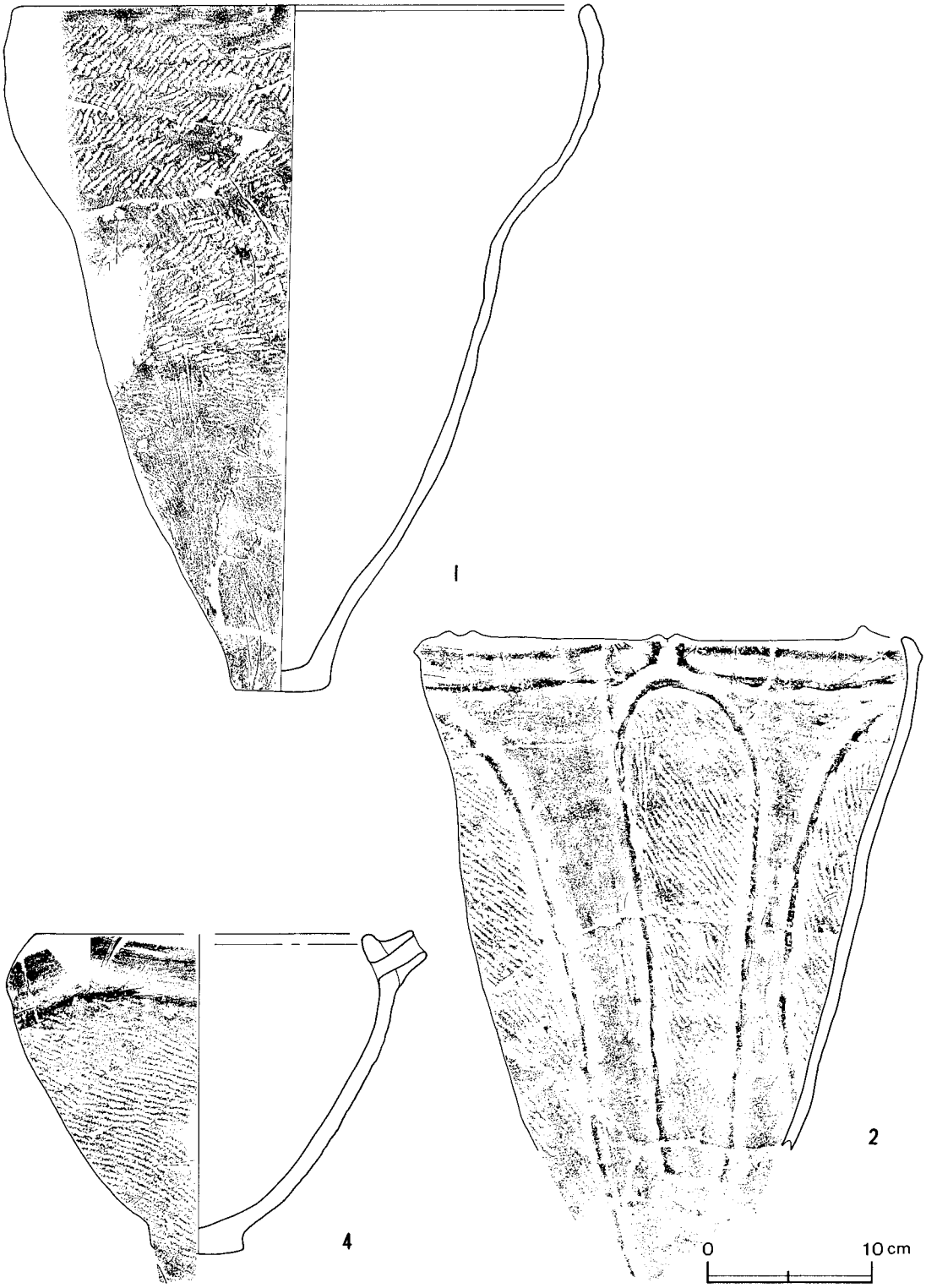
覆土　2層からなり，一挙に埋め戻している。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部8，胴部72，底部2点），石片（2点）が出土している。1層からは，第168・169図1～3の深鉢，4の注口土器が出土している。

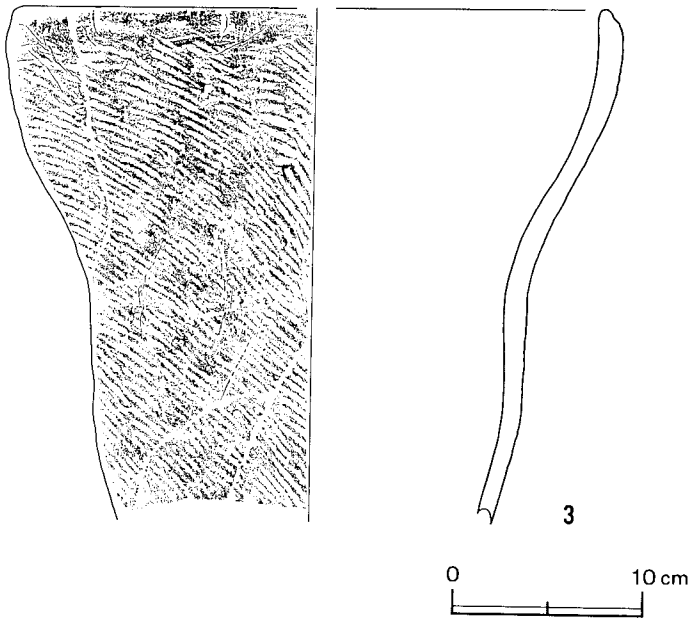
所見　出土遺物から縄文時代中期（加曽利EIV式期）のものと考えられる。

第6号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第168・169図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A 35.9 B 43.4 C 6.0	突出した底部。胴部上位から外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部から胴部中位まで縄文を充塡し，下位から底面にかけて，2本1組の縦位の沈線7単位が施されている。摩耗が著しいため詳細は不明である。	長石・スコリア・パミス にぶい橙色 普通	P108 70% 外面にススの付着



第168図　第6号土坑出土遺物実測図（1）



第169図　第６号土坑出土遺物実測図（2）

2	深鉢形土器 縄文式土器	A　39.4 B（48.8）	底部欠損。胴部は外反気味に立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部無文帯を隆線で区画し，隆線が両側からせり上がることによって表出され，小突起が見られる。胴部には隆帯によって「Ω」状に区画され，区画間に縄文を施文している。区画外は磨消帯を施している。	砂粒・長石・パミス 黄橙色 普通	P109 60%
3	深鉢形土器 縄文式土器	A　30.8 B（27.4）	底部欠損。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎する。全面に縄文を充填している。摩耗が著しいため詳細は不明である。	砂粒・長石・パミス 黄橙色 普通	P110 70%
4	注口土器 縄文式土器	A［20.7］ B　20.2 C　5.7	突出した底部。胴部は外傾し，口縁部は内彎する。口縁部に３cm程の無文帯を施し，注口を取り付けている。口縁直下を波状隆帯で区画している。以下全面単節縄文ＲＬで充填している。底面から２cm程までは横位ナデを施している。	砂粒・長石・パミス 橙色 普通	P111 40% 外面にススが付着

第12号土坑（第166図）

位置　B5a_6区。

長径方向　N－47°－W。

規模と平面形　長径1.28ｍ，短径1.22ｍで，深さ44cm程である。

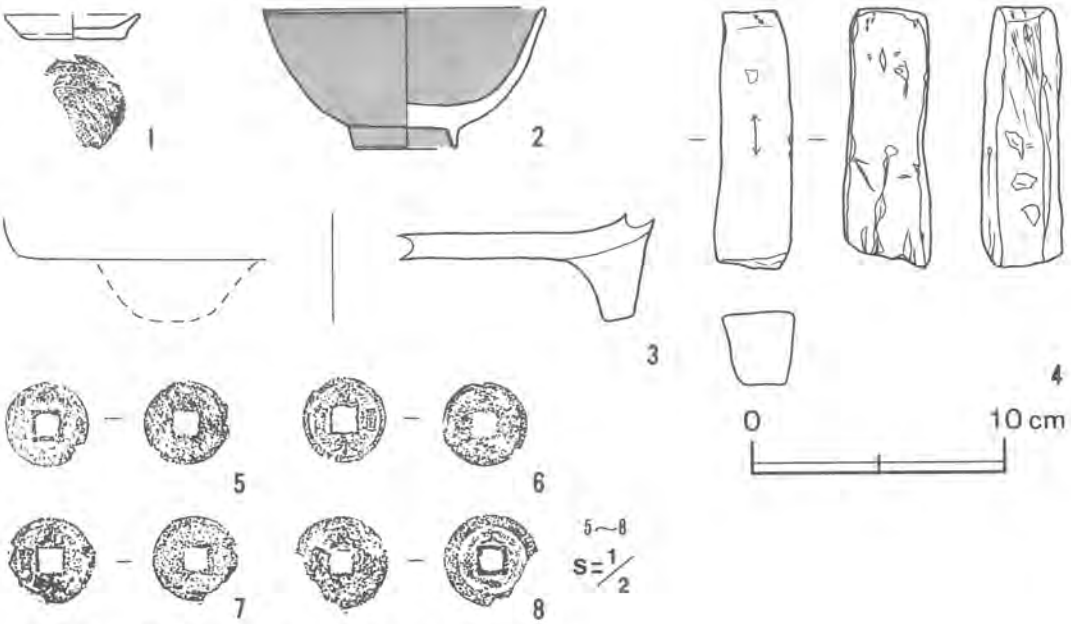
壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　ほぼ平坦である。

覆土　４層からなり，２・３層から土器片が出土している。４層の底部は，粘土混じりで古銭が出土している。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部１，胴部17点），内耳土器片（口縁部２，底部６点），陶器片，石（４点），第170図3の瓦質土器の火鉢，1の土師質土器の皿，2の陶器の碗，4の砥石が出土している。底部からは，5～8の古銭（４枚）が重なって出土している。

所見　古銭が判読不能のため時期不明である。



第170図　第12号土坑出土遺物実測・拓影図

第12号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第 170 図 1	皿 土師質土器	A [4.4] B 1.0 C 2.0	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・パミス 橙色 普通	P113 50%
2	碗 陶　器	A 11.2 B 5.6 D 4.0 E 0.9	丸形中碗。高台低く直立し，体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。畳付が露胎。畳付に砂粒付着。	水挽き成形。削り出し高台。	砂粒(胎土)灰色 (釉)白色 普通	P114 90% 肥前系 17c～18c
3	火　鉢 瓦質土器	B (4.3) D [25.1] E 2.5	底部片。厚手の作りで三足が付く。	底部へラナデ。	小石 褐灰色 良好	P112 5%

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	砥　石	10.3	3.0	3.4	160.9	凝灰岩	Q73

図版番号	鋳　名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	備　考
5	不　明			M 1
6	不　明			M 2
7	不　明			M 3
8	不　明			M 4

第43号土坑（第166図）

位置　A 4 i_6区。

長径方向　N－51°－W。

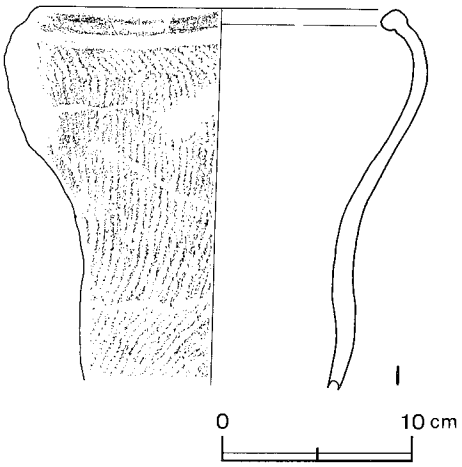
規模と平面形　長径3.76m，短径2.98mで，深さ38cm程である。

壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　南側が少し低い。ほぼ平坦である。

覆土　3層はロームブロックを含み，人為堆積と考えられる。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部11，胴部180，底部2点）が出土している。中央部1層からは，貝（ヤマトシジミ）が多量に出土している。中央部中層からは，第171図1の深鉢が出土している。



第171図　第43号土坑出土遺物実測図

所見　出土遺物から縄文時代中期（加曽利EⅣ式期）のものと考えられる。

第43号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第171図1	深鉢形土器 縄文式土器	A 18.9 B (20.2)	底部欠損。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁直下に幅広い1条の沈線を巡らし，以下全面に単節縄文RLを横位と縦位回転で施文している。	砂粒・長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P123 60%

第47号土坑（第172図）

位置　A 4 i_1区。

長径方向　N－71°－W。

規模と平面形　長径1.94m，短径1.70mの楕円形で，深さ1.0mである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

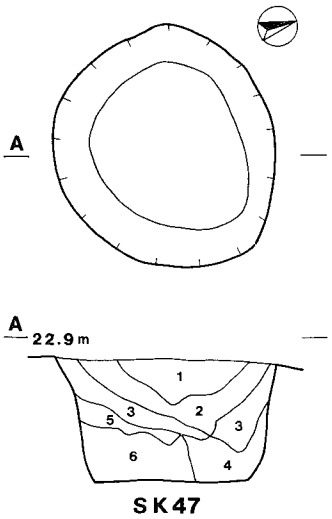
底面　平坦である。

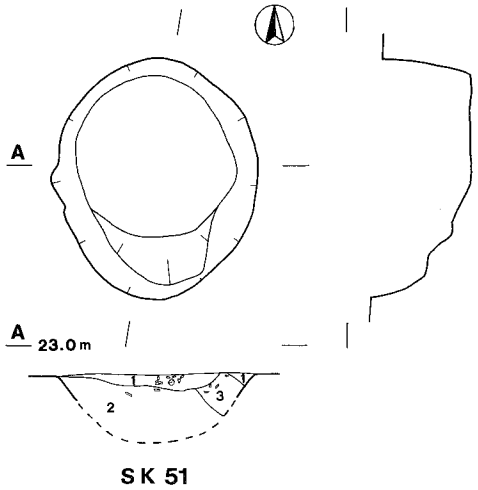
覆土　6層からなる。各層ともロームブロックを含んでおり，人為堆積と考えられる。3～5層

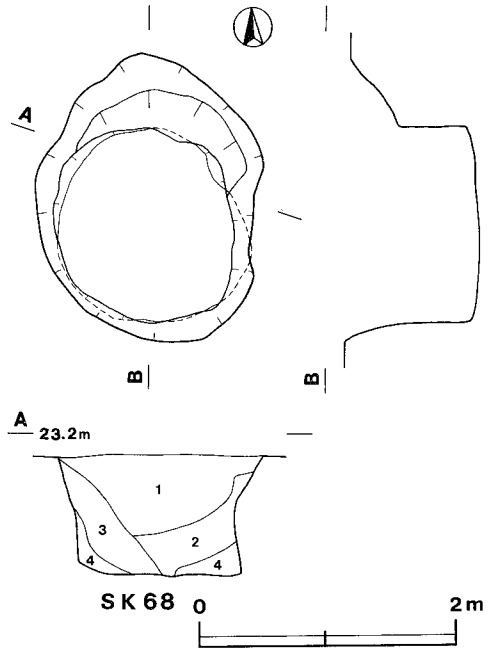
から大量の土器片が出土している。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部６，胴部67，底部５点），礫（１点），第173図1の深鉢が出土している。

所見　覆土の出土遺物から縄文時代中期のものと思われる。







ＳＫ－47　土層解説

1　暗　褐　色　褐色土・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子･ソフトローム小ブロック少量，焼土粒子･炭化粒子極少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小ブロック中量，炭化粒子極少量

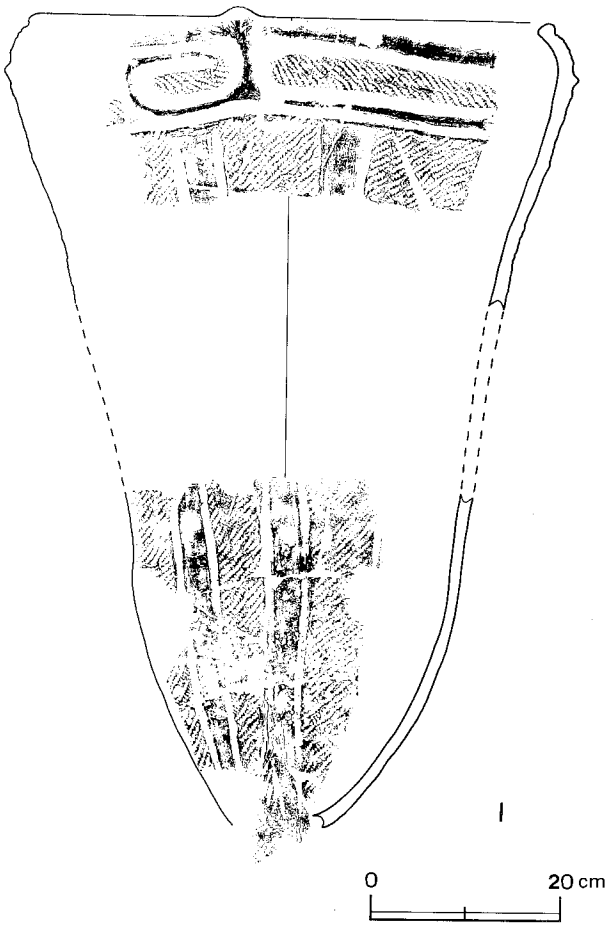
ＳＫ－51　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，暗褐色土少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

ＳＫ－68　土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子極中量，ソフトローム中ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
4　極暗褐色　ローム粒子･ハードローム小･中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量

第172図　第47･51･68号土坑実測図



第173図　第47号土坑出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 173 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [54.2] B [85.9]	底部欠損。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部は隆帯により楕円形に区画し，区画内に縄文を施文している。その下に幅広い1条の沈線を巡らし，以下に直線的磨消帯を垂下させ，区画間に単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P124 40%

第51号土坑（第172図）

位置　A3j_8区。

長径方向　N－5°－E。

規模と平面形　長径1.92m，短径1.61mの楕円形で，深さ72cmである。

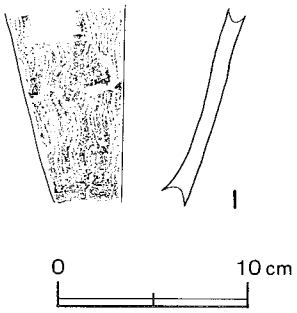
壁面　ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面　傾斜している。

覆土　ローム粒子，ロームブロックを含み，人為堆積と考えられる。各層から土器片が出土している。

遺物　覆土から縄文式土器片(口縁部32，胴部264，底部４点)，礫（３点)，第174図1の深鉢の胴部が出土している。

所見　一括投棄と思われる土器片がまとまって出土している。覆土の出土遺物から縄文時代中期のものと考えられる。



第174図　第51号土坑出土遺物実測図

第51号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 174 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (10.6)	胴部片。胴部下位は外傾して立ち上がる。外面には縦位波状の条線文が施されている。	長石・スコリア 明赤褐色　普通	P125 20%

第68号土坑（第172図）

位置　B3b_8区。

長径方向　N－14°－W。

規模と平面形　長径2.31m，短径1.82mの楕円形で，深さ1.02mである。

壁面　外傾して立ち上がっている。

底面　平坦である。

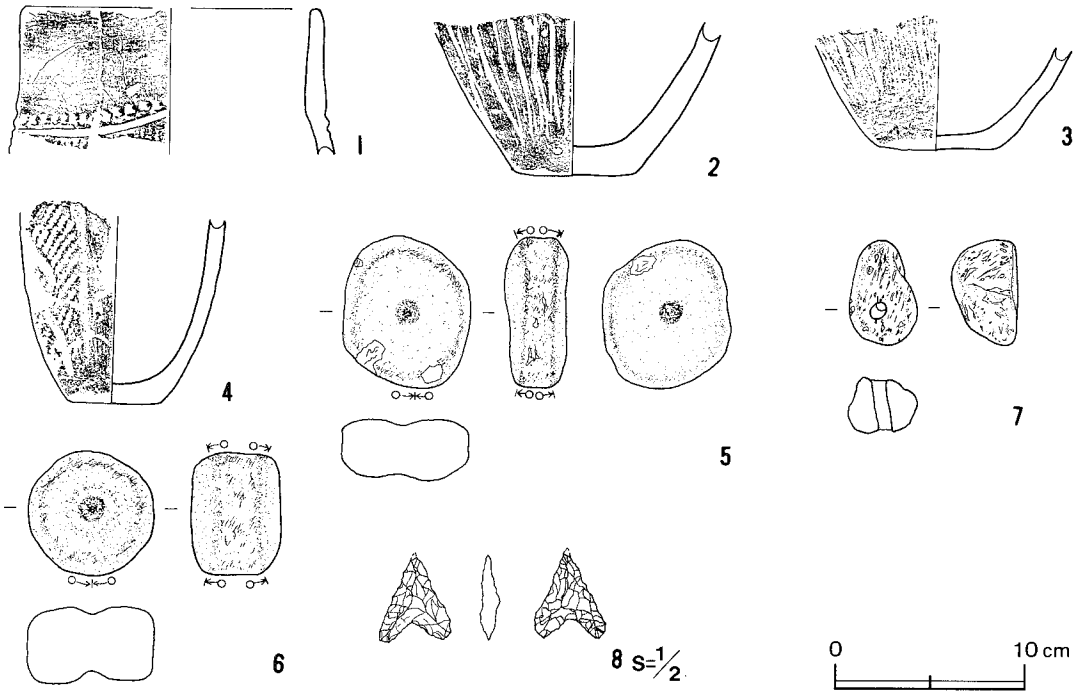
覆土　４層からなる。各層ともソフトロームブロックを含んでおり人為堆積と考えられる。１・２層から大量の土器片が出土している。

遺物　覆土から縄文式土器片（口縁部26，胴部302，底部３点)，礫（３点)，第175図1～4の深鉢，5･6の磨石，8の石鏃，7の浮子が出土している。

所見　覆土の出土遺物から縄文時代中期のものと考えられる。

第68号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 175 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [15.4] B (7.8)	口縁部片。口縁部無文帯直下に「C」状の刺突文と沈線を巡らしている。	長石・石英 明赤褐色　普通	P128 5%
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (8.2) C 6.3	底部から胴部片。胴部下位は外傾して立ち上がる。外面には縦位の条線文が施されている。底面から1.5cm程までは，横位ナデが施されている。	砂粒・長石・石英・スコリア 赤褐色　普通	P129 5%



第175図　第68号土坑出土遺物実測図

3	深鉢形土器 縄文式土器	B　(5.3) C　6.3	底部から胴部片。胴部下位は外傾して立ち上がる。外面には縦位の条線文が施されている。底面から1cm程までは，横位ナデが施されている。	長石・スコリア 橙色 普通	P130 5％
4	深鉢形土器 縄文式土器	B (10.0) C　4.9	底部から胴部片。胴部下位に直線的磨消帯を垂下させ，区画間に縄文を施文している。摩耗が著しいため，詳細は不明である。	砂粒・長石・スコリア 赤褐色　普通	P131 10％

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	磨　石	8.0	6.7	3.3	288.5	安山岩	Q82
6	磨　石	6.6	6.7	4.6	307.5	安山岩	Q84
7	浮　子	5.6	3.6	3.5	9.2	流紋岩	Q85
8	石　鏃	(2.3)	1.9	0.5	(1.2)	チャート	先端欠　Q83

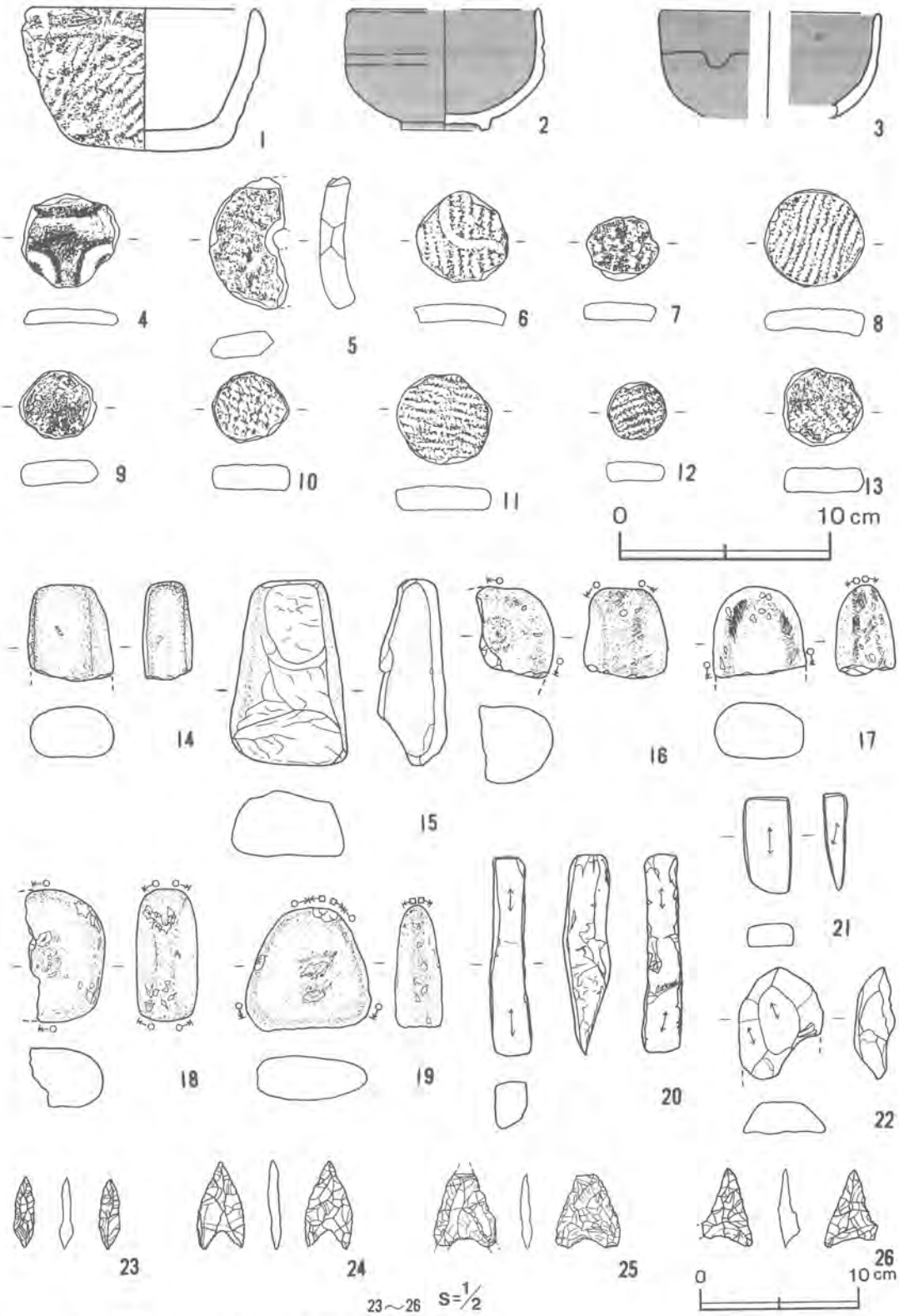
その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第176・177図 1	浅鉢形土器 縄文式土器	A 10.6 B 6.8 C 7.6	胴部・口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁直下に幅の広い沈線を施し，以下全面に無節縄文Lを縦位回転で施文している。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 やや不良	P122 95% SK-32覆土 加曽利EIII式

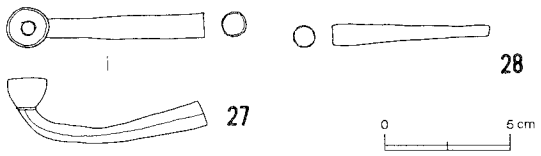
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	碗 陶器	A [9.2] B 5.8 D 4.2 E 0.4	高台は低く直立し，体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。外面に灰釉と鉄釉をかけ分けている。畳付は露胎。外面下半ヘラ目痕。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)明オリーブ灰色，暗褐色 良好	P126 40% SK-52覆土 瀬戸・美濃系 18c後半
3	碗 陶器	A [10.4] B (5.1)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。外面に灰釉と鉄釉をかけ分けている。外面下半ヘラ目痕。	水挽き成形。	(胎土)灰白色 (釉)明オリーブ灰色，暗褐色 良好	P127 30% SK-52覆土 瀬戸・美濃系 18c

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
4	土製円板	4.5	4.7	0.8	18.0	100	SK-42 覆土	DP44
5	有孔円板	6.3	(3.6)	1.4	(29.5)	50	SK-42 覆土	一部欠損 DP45
6	土製円板	4.3	4.4	1.0	16.2	100	SK-56 覆土	DP46
7	土製円板	3.1	3.4	0.9	10.4	100	SK-87 覆土	DP47
8	土製円板	4.7	4.8	1.1	25.7	100	SK-103 覆土	DP48
9	土製円板	3.3	3.7	1.1	14.0	100	SK-160 覆土	DP49
10	土製円板	3.4	3.7	1.2	13.9	100	SK-167 覆土	DP50
11	土製円板	4.4	4.6	1.2	21.5	100	SK-174 覆土	DP51
12	土製円板	2.8	2.8	0.9	7.6	100	SK-174 覆土	DP52
13	土製円板	3.8	3.8	1.2	18.3	100	SK-201 覆土	DP53

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	磨製石斧	(6.2)	5.3	3.2	(145.1)	安山岩	SK-11 覆土	刃部欠 Q72
15	磨製石斧	11.8	7.6	4.3	481.8	砂岩	SK-32 覆土	Q77
16	磨石	(5.7)	(5.7)	5.4	(197.2)	安山岩	SK-34 覆土	一部欠損 Q78
17	磨石	(5.7)	(5.8)	3.8	(157.3)	安山岩	SK-63 覆土	半欠 Q81
18	磨石	8.4	(5.1)	3.9	(246.1)	凝灰岩	SK-75 覆土	半欠 Q87
19	磨石	7.7	7.9	2.9	(303.6)	安山岩	SK-202 覆土	一部欠損 Q117
20	砥石	12.7	2.6	3.0	111.7	凝灰岩	SK-30 覆土	Q76
21	砥石	6.1	3.0	1.5	37.8	凝灰岩	SK-52 覆土	Q79
22	砥石	(7.1)	5.4	(2.5)	(74.8)	砂岩	SK-88 覆土	一部欠損 Q103
23	石鏃	2.2	0.7	0.4	0.5	チャート	SK-7 覆土	Q71
24	石鏃	2.8	1.5	0.4	1.2	チャート	SK-57 覆土	Q80



第176図　その他の土坑出土遺物実測図（1）



第177図　その他の土坑出土遺物実測図（2）

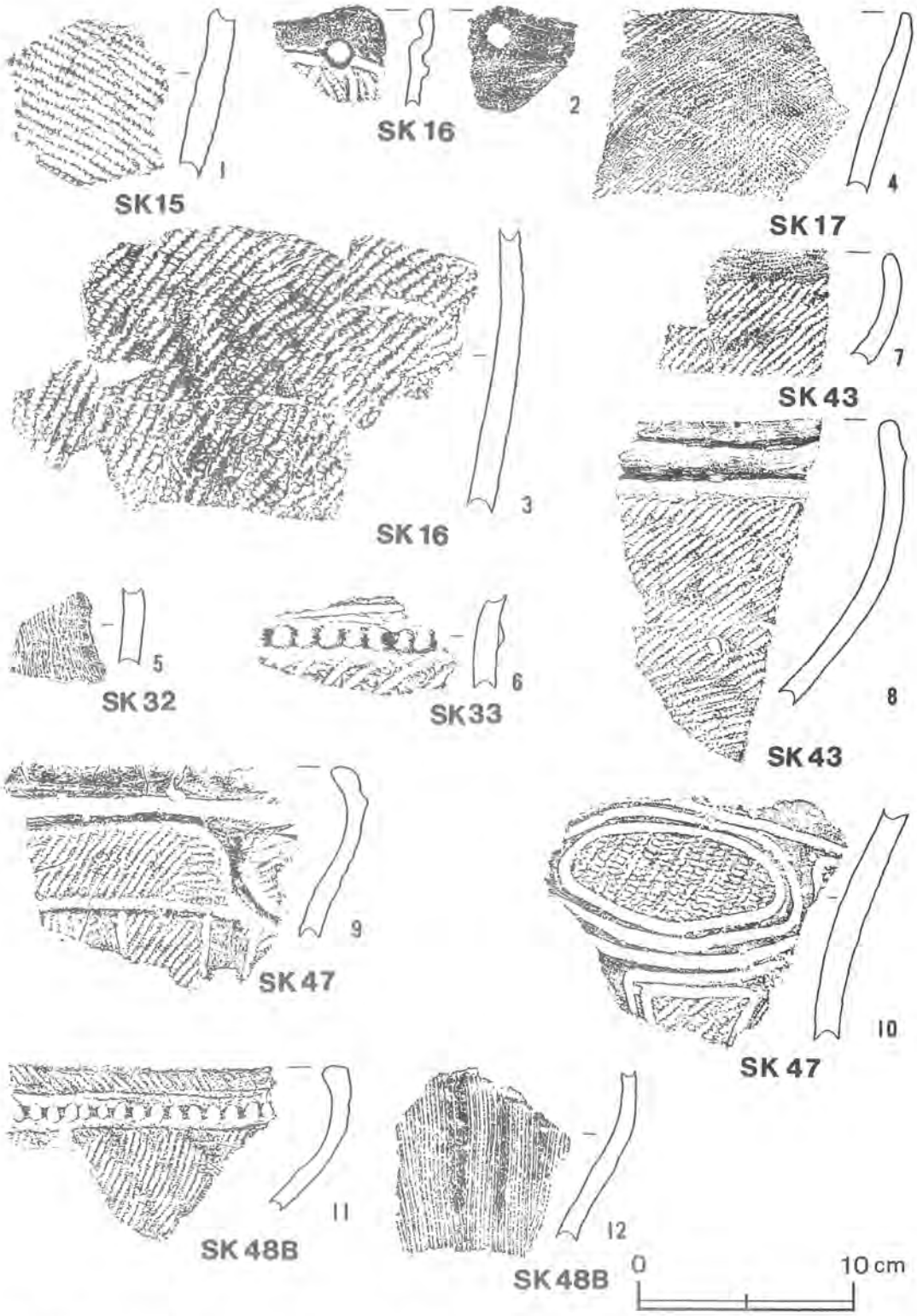
25	石　鏃	(2.3)	1.9	0.4	(1.9)	チャート	SK-201 覆土	先端欠　Q115
26	石　鏃	2.5	(1.6)	0.7	(1.7)	チャート	SK-202 覆土	左脚欠　Q116

図版番号	器　種	計　測　値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	重量(g)		
27	煙　管	(8.0)	2.7	1.1	(11.9)	SK-27　覆土	雁首　M43
28	煙　管	(6.4)		(0.9)	(2.9)	SK-76B 覆土	吸口　M45

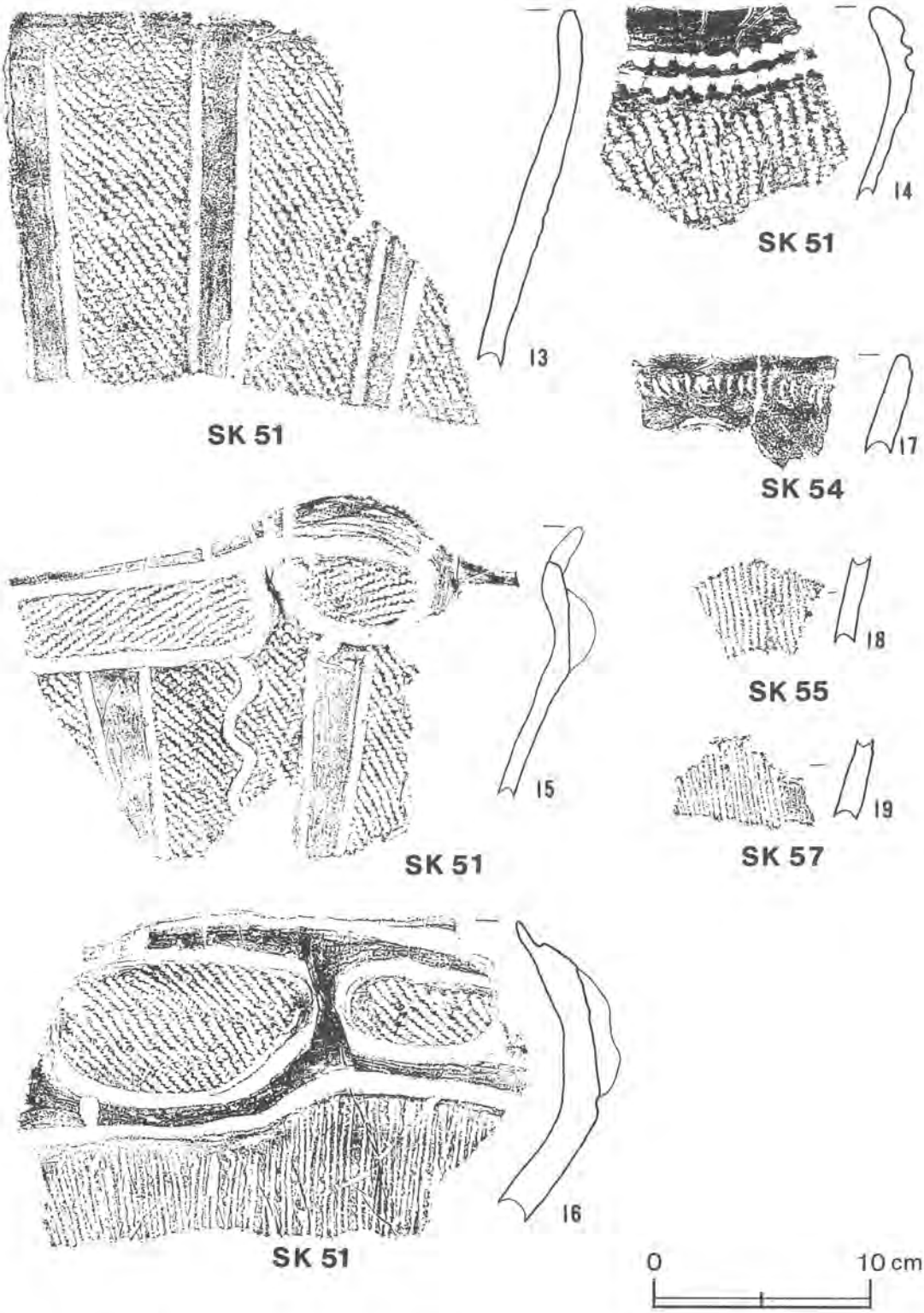
その他の土坑出土土器拓影図

縄文式土器片の拓影図は，遺構外出土遺物の分類に準じた。

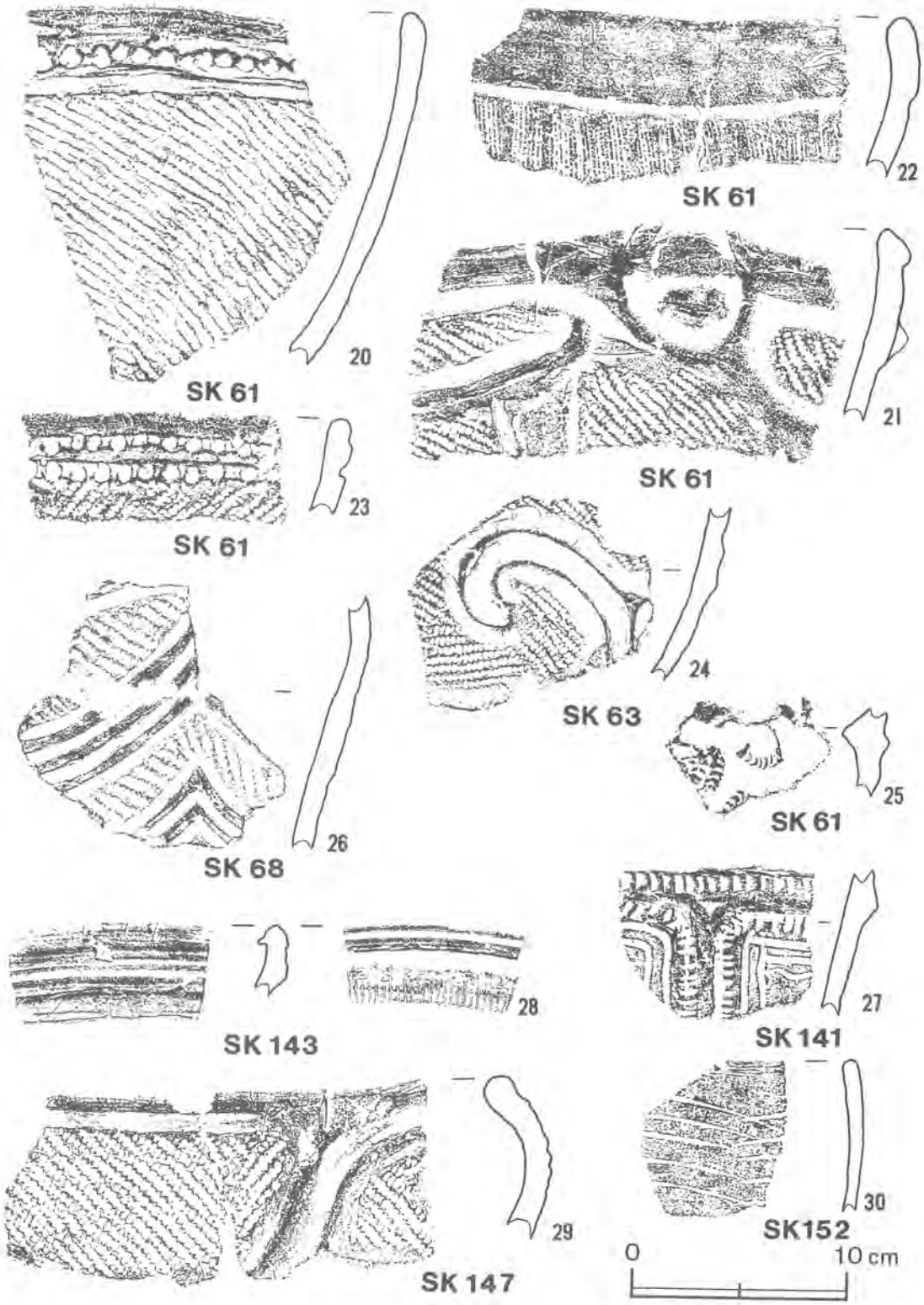
第178～180図の25･27は１群のａ類に該当する口縁部片である。9･15･20･21･23･26･29は１群のｆ類に該当する口縁部片である。20･23は口縁部に円形刺突文が施されている。10･24は１群のｆ類に該当する胴部片である。16は１群のｇ類に該当する口縁部片である。6～8･11･14･17･22は１群のｊ類に該当する口縁部片である。6･11･14は口縁部に円形刺突文が施され，17は「C」字状の刺突文が施されている。1･3･5･12･18･19は１群のｊ類に該当する胴部片である。1･3･18は単節縄文が施文され，5･12･19は条線文が施されている。13は１群のｋ類に該当する口縁部片で，口縁部直下から直線的な磨消帯が垂下している。2は２群のｂ類に該当する波状口縁で，円形刺突文が施されている。4は２群のｃ類に該当する口縁部片である。30は３群に該当する口縁部片である。28は17世紀の丹波産擂鉢の口縁部片である。



第178図　その他の土坑出土遺物拓影図 (1)



第179図　その他の土坑出土遺物拓影図 (2)



第180図　その他の土坑出土遺物拓影図 (3)

表 6　前田村遺跡土坑一覧表（付図２）

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
2	B5e0	N−30°−W	楕円形	2.92 × 1.69	37	緩斜	平坦	自然	縄文式土器	
3	B5a0	N−8°−E	楕円形	1.52 × 1.18	32	外傾	平坦	自然	縄文式土器	SI−5と重複
4	B6j1	N−69°−W	楕円形	1.48 × 1.23	33	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
5	A6g9	N−34°−W	円形	1.76 × 1.70	43	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
7	A5g7	N−18°−E	楕円形	2.84 × 2.52	119	外傾	平坦	人為	縄文式土器，石製品	
8	A5h7	N−82°−E	楕円形	2.11 × 1.81	73	外傾	平坦	自然		
9	B5a7	N−22°−E	楕円形	2.81 × 2.48	48	緩斜	平坦	人為	縄文式土器	
10	B5a7	N−16°−W	円形	1.78 × 1.62	56	外傾	平坦	自然		
11	B5a8	N−73°−W	楕円形	1.44 × 1.23	65	外傾	平坦	人為		
14	B5a5	N−7°−E	楕円形	1.38 × 1.15	14	外傾	平坦	人為	縄文式土器，陶器	SI−12と重複
16	A5j8	N−10°−E	楕円形	1.24 ×(0.96)	61	垂直	皿状	人為	縄文式土器	SD−1と重複
18	B5e8	N−10°−E	円形	1.56 × 1.49	35	外傾	平坦	自然	縄文式土器	SI−3Bと重複
19	B5g0	N−69°−W	楕円形	1.49 × 1.03	43	外傾	平坦	自然	縄文式土器	SI−12と重複
20	B5f6	N−80°−E	楕円形	2.42 ×(1.76)	76	緩斜	凹凸	人為	縄文式土器，陶器	SD−3と重複
21	B5b4	N−35°−W	楕円形	1.62 × 1.56	84	外傾	平坦	人為	縄文式土器	SI-12，SD-3と重複
22	B5i5	N−54°−E	不整長方形	2.36 × 1.04	25	外傾	凹凸	人為	縄文式土器，土製品	SI-17，SK-22と重複
23	B5g5	N−9°−W	楕円形	3.79 × 2.03	115	緩斜	皿状	人為	縄文式土器	
24	B5g6	N−43°−W	楕円形	2.29 × 1.38	51	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器	
25	B5i5	N−41°−E	楕円形	1.91 × 1.54	76	垂直	平坦	人為	縄文式土器	SI−21と重複
26	A5j1	N−15°−E	楕円形	0.81 × 0.64	41	外傾	平坦	人為		SI−21と重複
27	A5j1	N−66°−W	楕円形	0.98 × 0.61	38	外傾	平坦	人為	土師質土器，金属製品	SI−21と重複
28	A5j2	N−51°−E	円形	0.56 × 0.56	40	垂直	凹凸	人為		SI−21と重複
29	B4c5	N−11°−E	円形	1.31 × 1.22	40	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
30	B4c5	N−14°−E	楕円形	0.81 × 0.70	63	緩斜	皿状	人為	土師質土器，陶器，石器	
31	B4c3	N−33°−E	円形	1.29 × 1.24	30	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
32	B4c1	N−8°−E	円形	1.37 × 1.37	75	外傾	平坦	人為	縄文式土器，石器	
33	B4c5	N−72°−E	楕円形	1.12 × 0.93	25	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
34	A4j4	N−86°−E	楕円形	1.92 × 1.70	25	外傾	平坦	自然	縄文式土器，石器	
35	B4c3	N−26°−E	楕円形	1.30 × 1.11	67	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
36	B5i1	N−4°−W	楕円形	2.03 × 1.53	99	垂直	平坦	自然	縄文式土器	
37	B4c6	N−66°−E	楕円形	1.04 × 0.78	57	外傾	皿状	人為	縄文式土器	
38	B4h0	N−44°−W	楕円形	2.16 × 1.98	33	外傾	平坦	自然	縄文式土器	

39	B 4 f_9	N－64°－W	楕円形	1.44 × 1.26	21	緩斜	平坦	人為		
40	B 4 b_8	N－64°－E	楕円形	2.06 × 1.86	84	垂直	平坦	人為	縄文式土器	SD－4 と重複
41	A 4 j_0	N－27°－W	円形	1.86 × 1.69	82	垂直	平坦	人為	縄文式土器	
42	B 4 f_1	N－73°－E	円形	0.83 × 0.76	56	外傾	平坦	人為	縄文式土器，土製品	
44	B 4 a_5	N－16°－W	円形	1.52 × 1.51	40	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
45	B 4 f_5	N－13°－E	楕円形	0.91 × 0.49	50	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
46	A 3 h_1	N－19°－E	楕円形	3.30 × 2.26	79	外傾	平坦	人為		
48 A	B 4 c_4	N－51°－W	円形	2.86 × 2.62	39	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
48 B	B 4 c_4	N－71°－E	楕円形	2.01 × 1.61	78	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
49	B 3 d_3	N－53°－W	楕円形	1.52 × 1.09	31	垂直	平坦	人為		
50	B 4 e_2	N－49°－W	楕円形	1.22 × 1.09	44	外傾	平坦	人為	縄文式土器，陶器	
52	B 3 d_8	N－38°－W	楕円形	1.51 × 1.32	24	外傾	平坦	人為	陶器，石器	
53	A 3 h_9	N－69°－W	楕円形	2.64 × 2.02	59	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
54	A 3 i_9	N－16°－W	円形	2.98 × 2.75	36	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
55	A 3 h_8	N－14°－E	楕円形	2.56 × 1.98	41	外傾	平坦	人為	縄文式土器，土師質土器	
56	B 3 a_9	N－7°－W	楕円形	3.62 × 3.19	26	外傾	平坦	人為	縄文式土器，土製品	SK－66·67 と重複
57	B 3 b_7	N－31°－W	楕円形	2.61 × 2.34	41	緩斜	平坦	自然	縄文式土器，石製品	
58	B 4 f_1	N－70°－E	楕円形	1.15 × 0.92	44	緩斜	平坦	人為	縄文式土器	
59	A 3 j_3	N－19°－W	円形	1.55 × 1.45	42	外傾	平坦	自然		
60	B 3 f_8	N－27°－E	楕円形	1.71 × 1.46	21	緩斜	平坦	自然	縄文式土器	
61	A 3 a_6	N－16°－W	楕円形	4.13 × 2.97	30	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
62	B 3 f_8	N－82°－E	楕円形	1.48 × 0.99	15	外傾	平坦	自然	縄文式土器，内耳土器，陶器	
63	B 3 j_5	N－71°－E	円形	0.86 × 0.81	18	外傾	平坦		縄文式土器，石器	粘土張り遺構，SI－37 と重複
64	A 3 j_4	N－24°－E	円形	1.62 × 1.52	80	外傾	皿状	自然	縄文式土器	
65	B 3 a_4	N－43°－E	楕円形	1.24 × 1.02	38	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
66	B 3 a_9	N－56°－W	楕円形	1.24 × 0.97	35	緩斜	平坦	人為		SK－56 と重複
67	B 3 a_8	N－64°－W	楕円形	2.22 × 1.16	34	緩斜	平坦	人為	縄文式土器	SK－56 と重複
71	B 3 h_9	N－33°－E	楕円形	0.86 × 0.78	25	緩斜	平坦	自然	縄文式土器	
72	B 4 b_3	N－17°－E	円形	2.43 × 2.22	56	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
73	B 4 e_6	N－38°－W	楕円形	1.39 × 1.12	62	外傾	凹凸	人為		
74	B 4 g_4	N－47°－W	不整長方形	2.66 × 1.36	31	外傾	平坦	人為		
75	A 4 i_1	N－74°－E	楕円形	1.53 × 1.37	63	外傾	平坦	自然	縄文式土器，石器	
76 A	B 4 e_6	N－78°－E	楕円形	1.97 × 1.68	68	外傾	凹凸	自然	縄文式土器	
76 B	B 4 e_7	N－14°－E	楕円形	1.06 ×[0.84]	19	緩斜	平坦	人為	金属製品	SD－5 と重複
78	B 4 c_6	N－79°－W	楕円形	1.55 × 1.30	30	外傾	平坦	自然	縄文式土器	

79	B4 f_8	N－67°－E	円　形	1.49 × 1.37	22	外傾	凹凸	人為	縄文式土器	
85	C4 a_7	N－79°－W	楕円形	1.36 × 0.84	25	外傾	凹凸			
86	C4 b_6	N－22°－E	円　形	1.24 × 1.23	45	垂直	凹凸	人為	土師質土器	
87	B4 i_6	N－10°－W	円　形	0.91 × 0.91	44	垂直	平坦	人為	縄文式土器，土製品	
88	B4 e_6	N－19°－W	円　形	1.58 × 1.48	42	外傾	平坦	人為	縄文式土器，石器	
92	C3 a_8	N－11°－E	円　形	2.37 × 2.23	68	緩斜	平坦	人為		
93	B4 i_0	N－20°－E	円　形	2.35 × 2.22	58	緩斜	平坦	人為	縄文式土器	
94	C4 a_2	N－29°－E	楕円形	1.34 × 1.21	22	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
95	B4 i_2	N－14°－W	円　形	1.69 × 1.68	45	外傾	平坦	人為	縄文式土器，陶器	
97	C4 b_5	N－65°－E	円　形	1.13 × 1.04	36	緩斜	皿状	人為		
98	B3 j_9	N－11°－E	楕円形	0.82 × 0.62	51	垂直	平坦	人為		
99	B3 f_7	N－42°－W	楕円形	1.09 × 0.99	32	外傾	凹凸	人為	縄文式土器	
102	C3 j_0	N－32°－W	円　形	1.47 × 1.45	54	外傾	凹凸	自然		
103	D3 e_9	N－6°－W	円　形	1.27 × 1.26	69	緩斜	平坦	人為	縄文式土器，土製品	
104	D3 h_9	N－67°－E	楕円形	1.62 × 1.42	79	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
105	D3 b_3	N－34°－E	楕円形	1.53 × 1.30	30	緩斜	平坦	人為		
106	D3 b_3	N－57°－W	楕円形	1.62 × 1.47	51	緩斜	凹凸	自然		
107	C3 i_2	N－17°－W	円　形	1.69 × 1.67	52	緩斜	平坦	人為	縄文式土器	
109	D3 e_7	N－75°－W	楕円形	1.46 × 1.23	87	外傾	皿状	人為	縄文式土器	
110	D2 e_3	N－71°－W	楕円形	1.94 × 0.69	46	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
111	C2 i_0	N－36°－W	楕円形	1.39 × 1.22	73	外傾	凹凸	自然		
112	C2 g_8	N－70°－W	円　形	1.27 × 1.17	22	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
113	C2 h_7	N－83°－E	楕円形	2.88 × 2.52	61	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
114	D1 f_0	N－64°－W	楕円形	1.45 × 1.31	31	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
115	D2 f_6	N－43°－W	楕円形	1.15 × 1.02	62	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
116	D2 d_7	N－10°－W	楕円形	1.68 × 1.32	85	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
117	D2 h_3	N－61°－W	楕円形	3.52 × 0.68	36	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
118	C2 i_6	N－81°－E	円　形	1.10 × 1.02	36	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
119	D2 f_5	N－7°－E	楕円形	2.83 × 0.82	26	外傾	平坦	自然		
120	C2 j_3	N－12°－E	楕円形	3.30 × 2.59	56	緩斜	平坦	人為	縄文式土器	
121	E2 j_7	N－70°－E	楕円形	2.11 × 0.71	26	緩斜	平坦	自然		
122	D2 b_5	N－18°－W	楕円形	2.54 × 1.31	64	外傾	凹凸	自然	縄文式土器，ナイフ形石器	
123	D2 c_2	N－8°－E	楕円形	2.36 × 2.01	33	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
124	D2 c_5	N－66°－W	不整長方形	2.56 × 2.03	63	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
125	C2 j_4	N－47°－W	楕円形	3.89 × 2.16	49	外傾	平坦	自然	土師質土器	

126	D2 f_3	N－38°－E	楕円形	4.15 × 2.69	38	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
127	C2 j_5	N－42°－E	不定形	3.86 × 2.56	45	外傾	平坦	人為	縄文式土器，瓦	
129	D3 c_3	N－59°－W	楕円形	1.95 × 1.61	26	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
130	D3 j_2	N－50°－W	楕円形	0.89 × 0.73	42	垂直	平坦	人為	縄文式土器	
131	D2 c_2	N－78°－E	楕円形	1.59 × 0.67	53	垂直	平坦	自然	縄文式土器	
132	D2 b_4	N－8°－W	楕円形	3.01 × 2.65	110	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
133	D1 d_0	N－62°－W	楕円形	4.12 × 2.49	26	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
134	D1 e_9	N－10°－W	楕円形	1.21 × 0.76	68	垂直	平坦	自然	縄文式土器	
135	D3 a_7	N－61°－E	楕円形	3.11 × 1.74	76	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
136	D3 h_8	N－61°－W	楕円形	1.73 × 1.11	15	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
137 A	D2 a_4	N－10°－W	円形	1.23 × 1.21	62	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
137 B	D2 a_3	N－26°－W	楕円形	1.41 × 1.23	50	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
138	D3 j_2	N－39°－W	楕円形	0.71 × 0.62	32	外傾	平坦	人為		
139	D3 h_8	N－59°－E	楕円形	1.76 × 1.36	41	外傾	凹凸	自然	縄文式土器	
140	D3 h_7	N－8°－E	円形	1.56 × 1.51	78	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
141	D3 h_6	N－79°－E	円形	1.43 × 1.39	73	外傾	平坦	人為	縄文式土器，石器	
142	D3 i_4	N－41°－W	楕円形	1.59 × 1.42	93	外傾	平坦	人為		
143	C3 i_9	N－27°－W	円形	1.44 × 1.36	81	垂直	平坦	自然	縄文式土器，陶器	
144	D3 b_4	N－7°－E	楕円形	2.42 × 2.14	99	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
145	D3 h_6	N－34°－W	楕円形	1.91 ×·1.32	89	外傾	平坦	自然		
146	D3 j_2	N－59°－W	不定形	1.39 × 1.25	81	外傾	平坦	人為		
148	D3 f_6	N－10°－E	楕円形	1.81 × 1.56	93	外傾	平坦	人為		
149	E2 c_3	N－61°－E	楕円形	1.34 × 0.92	63	外傾	皿状	人為	縄文式土器	
150	E2 d_1	N－36°－E	楕円形	1.36 × 1.14	79	外傾	平坦	人為		
151	D1 j_8	N－7°－W	楕円形	1.10 × 0.92	58	垂直	平坦	人為		
152	D2 h_2	N－6°－W	楕円形	2.17 × 1.54	22	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
156	E2 c_4	N－66°－W	不定形	2.79 × 2.44	82	外傾	凹凸	人為	縄文式土器，須恵器	
157	D1 f_9	N－23°－W	楕円形	2.92 × 2.44	111	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
158	D1 d_9	N－86°－W	楕円形	2.78 × 1.15	62	垂直	平坦	自然		
159	D2 j_2	N－56°－W	円形	1.26 × 1.19	20	外傾	平坦	自然	縄文式土器，陶器	
160	F3 a_5	N－88°－W	円形	3.83 × 3.65	25	外傾	平坦	自然	縄文式土器，土製品	
161	E3 i_5	N－43°－W	円形	1.64 × 1.59	29	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
162	E3 i_4	N－24°－W	楕円形	2.28 × 2.20	23	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
163	E3 h_2	N－39°－W	楕円形	0.98 × 0.73	42	緩斜	皿状	人為	縄文式土器	
164	F2 a_1	N－10°－E	楕円形	3.48 × 3.00	20	外傾	平坦	自然	縄文式土器	

165	F2b$_{6}$	N－14°－E	楕円形	1.96 × 1.62	76	外傾	平坦	人為		
166	F3b$_{5}$	N－4°－E	円形	1.81 × 1.76	25	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
167	F2a$_{5}$	N－6°－E	楕円形	1.54 × 1.32	46	外傾	平坦	人為	縄文式土器，土製品	
168	F2d$_{1}$	N－75°－W	円形	0.79 × 0.77	23	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
169	E3f$_{2}$	N－23°－W	円形	1.41 × 1.33	22	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
170	F2c$_{1}$	N－10°－E	楕円形	1.43 × 1.28	46	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
171	F2c$_{1}$	N－8°－E	円形	1.34 × 1.26	24	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
173	F2e$_{1}$	N－10°－E	楕円形	1.19 × 0.90	25	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
174	F2a$_{9}$	N－41°－W	円形	1.64 × 1.57	92	外傾	平坦	人為	縄文式土器，土製品	
175	D1d$_{8}$	N－47°－W	円形	2.00 × 1.86	101	外傾	凹凸	人為	縄文式土器	
176	E2e$_{1}$	N－19°－E	円形	1.32 × 1.22	83	外傾	平坦	自然		
177	E2e$_{1}$	N－19°－E	不定形	1.95 × 1.12	51	外傾	平坦	人為		
178	E2b$_{1}$	N－64°－W	楕円形	1.52 × 1.29	22	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
179	E2c$_{1}$	N－63°－W	円形	1.07 × 1.01	31	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
180	E2c$_{1}$	N－69°－W	楕円形	1.21 × 1.08	25	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
181	E1c$_{0}$	N－24°－E	円形	1.15 × 1.10	17	垂直	平坦	自然		
182	E2f$_{1}$	N－47°－W	楕円形	1.71 × 1.54	18	外傾	平坦	人為		
183	E2f$_{1}$	N－64°－W	楕円形	1.52 × 1.27	18	外傾	平坦	自然		
184	E1d$_{8}$	N－57°－W	楕円形	2.19 × 1.79	19	外傾	平坦	自然		
185	E1c$_{8}$	N－14°－E	隅丸長方形	2.61 × 2.01	24	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
186	D1e$_{9}$	N－36°－E	楕円形	1.89 × 1.72	32	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
187	C2j$_{7}$	N－7°－E	楕円形	1.71 × 1.46	21	外傾	平坦	自然	石製品	
188	D1f$_{7}$	N－28°－W	楕円形	1.69 × 1.45	51	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
189	D1e$_{8}$	N－21°－W	円形	2.21 × 2.14	42	外傾	平坦	自然	縄文式土器	
190	D1f$_{8}$	N－66°－W	楕円形	3.18 × 2.07	66	外傾	平坦	人為	縄文式土器	
192	D3g$_{4}$	N－12°－E	円形	0.68 × 0.65	21	外傾	平坦	人為		
193	E2d$_{3}$	N－11°－W	楕円形	1.07 × 0.96	20	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器	
200	B5b$_{8}$	N－54°－E	楕円形	1.45 × 0.99	35	垂直	凹凸	人為	縄文式土器	
201	B5b$_{9}$	N－62°－W	円形	1.15 × 1.09	60	垂直	平坦	人為	縄文式土器，土製品，石製品	
202	B5b$_{8}$	N－63°－W	円形	1.05 × 0.95					縄文式土器，石器，石製品	

4　溝

ここでは，主な溝を記述し，その他は一覧表に記した。

第1号溝（第181図）

位置　B5区。

重複関係　第2B・5・6・7・8号住居跡と第16号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　上幅0.80～2.26m，下幅0.36～1.98m，深さ0.45mで，確認された長さは53.90mである。断面形は，「◡」状をしている。

方向　N―18°―E。

覆土　2層からなり，自然的な堆積をしている。

遺物　覆土から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部82，胴部699，底部9点），礫(17点)，内耳土器片，擂鉢片，陶器片(5点)，第182図2の蛇形頭部把手破片，1の陶器の碗，3・4の土製円板，5の石鏃，6の煙管（吸口）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第3号溝（第181図）

位置　A5・B5区。

重複関係　第12・15・16号住居跡と第13・20・21号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　上幅0.54～1.64m，下幅0.18～1.44m，深さ0.39mで，確認された長さは58.50mで，二段掘り込みである。断面形は，「◡」状をしている。

方向　N―20°―E。

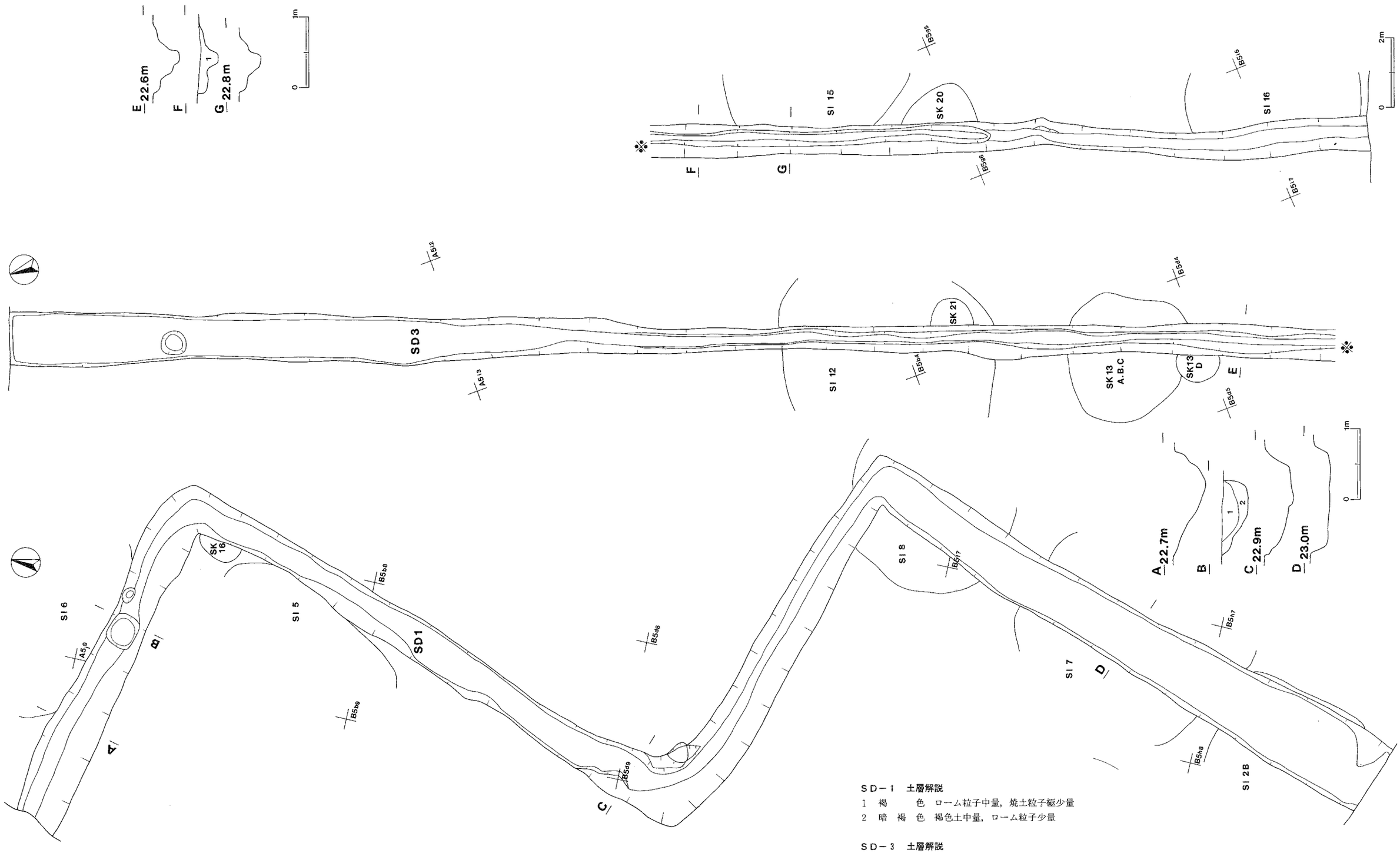
覆土　1層からなり，自然堆積と考えられる。

遺物　覆土から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部40，胴部321，底部8点），礫(8点)，土師質土器片，陶器片，第183図1の土製円板が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第182図 1	碗 陶器	A 11.0 B 6.8 D 4.3 E 0.9	中碗。高台は低く直立し，体部は内彎しながら立ち上がる。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)明褐色 (釉)グリーン 良好	P142 30% 肥前系 17c後半



SD－1　土層解説

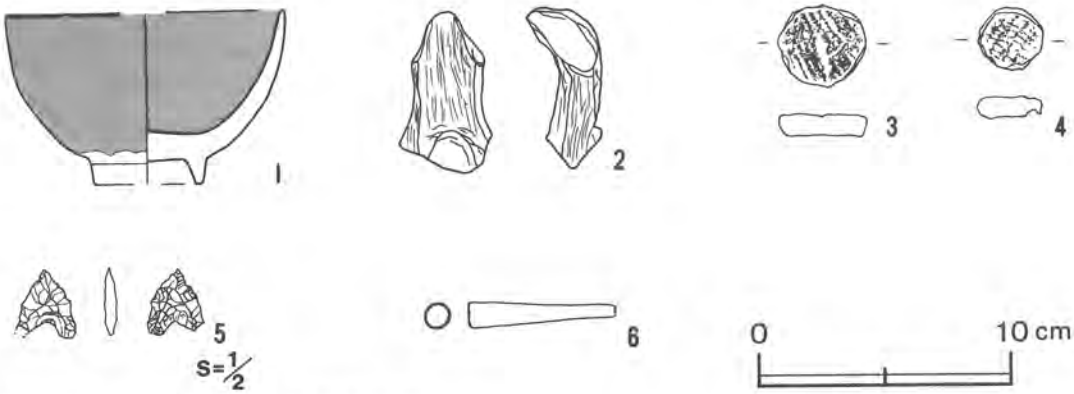
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量

2　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量

SD－3　土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量

第181図　第1・3号溝実測図



第182図　第1号溝出土遺物実測図

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			重　量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
3	土製円板	3.3	3.5	0.9	10.3	100	DP54
4	土製円板	2.0	2.6	0.8	5.5	100	DP55

図版番号	器　種	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	石　鏃	1.8	1.6	0.4	(0.7)	頁　岩	左脚欠　Q120

図版番号	器　種	計　測　値				備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	径(cm)	重量(g)	
6	煙　管	(5.9)		(1.1)	(4.5)	吸口　M58

第3号溝出土遺物観察表

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			重　量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第183図1	土製円板	(5.3)	(3.0)	1.1	(15.1)	50	一部欠損　DP56

第4号溝（付図2）

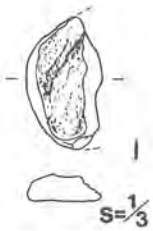
位置　A4・B4区。

重複関係　第30号住居跡と第40号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　上幅0.42～1.08m，下幅0.12～0.76m，深さ0.32mで，確認された長さは60.16mである。断面形は，「◡」状をしている。

方向　N－16°－E。

覆土　2層からなり，自然的な堆積をしている。



第183図　第3号溝出土遺物実測図

遺物　なし。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第５号溝　（付図２）

位置　A４・B４・C４区。

重複関係　第31号住居跡と第76･77号土坑と第12号溝を掘り込んでいる。また，第84A・B号墓壙に掘り込まれている。

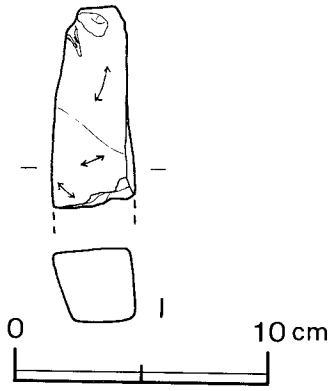
規模と形状　上幅0.38～2.64ｍ，下幅0.14～2.34ｍ，深さ0.42ｍで，確認された長さは60.16ｍである。断面形は，「◡」状をしている。

方向　N－13°－E。

覆土　３層からなり，自然的な堆積をしている。

遺物　覆土から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部13，胴部124，底部３点），陶器片，須恵器片（１点），礫（16点），黒曜石の剝片（１点），第184図1の砥石が出土している。

所見　本跡は，第84A・B号墓壙より古いものであるが，性格不明である。



第184図　第５号溝出土遺物実測図

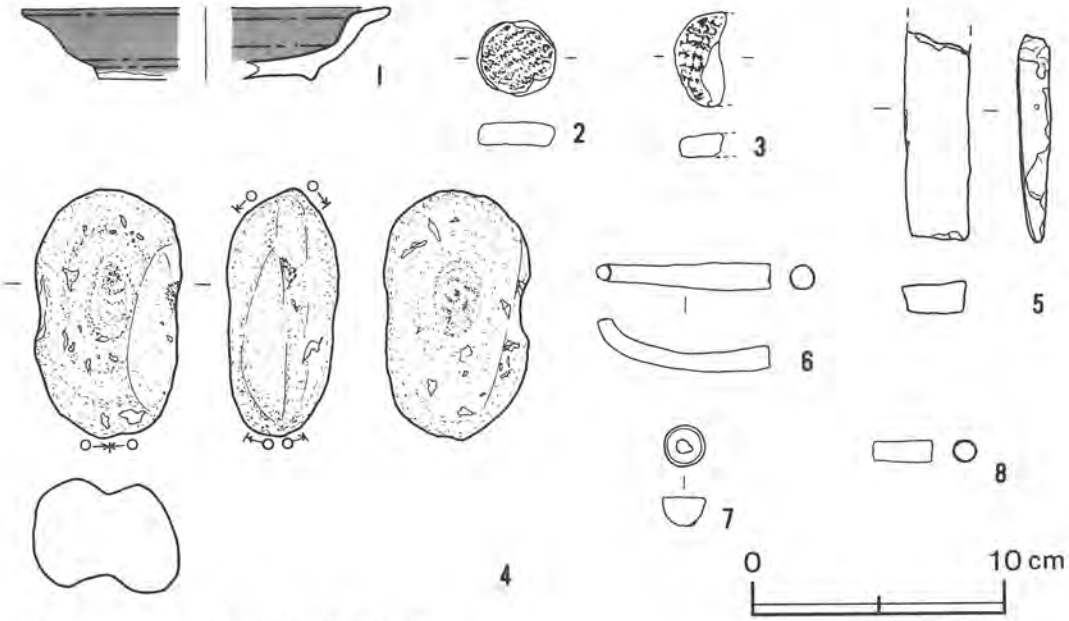
第５号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第184図1	砥石	(8.0)	3.4	3.0	(92.8)	凝灰岩	一部欠損　Q121

その他の溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土･色調･焼成	備考
第185図1	皿 陶器	A [14.6] B 2.9 D [8.5] E 0.3	丸皿。高台は大変低い。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外方に開く。高台無釉。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)明オリーブ灰色 良好	P143 15% SD-8覆土 瀬戸・美濃系(志野) 17c前半

図版番号	器種	計測値(cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
2	土製円板	3.0	3.2	1.0	9.0	100	SD-16 覆土	DP57
3	土製円板	(3.8)	(1.8)	0.9	(5.8)	40	SD-16 覆土	一部欠損 DP58



第185図　その他の溝出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	磨　石	9.9	5.8	4.4	295.3	安山岩	SD-8　覆土	Q122
5	砥　石	(8.3)	2.8	1.3	(40.5)	凝灰岩	SD-8　覆土	一部欠損Q123

図版番号	器　種	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	重量(g)		
6	煙　管	(7.0)	(2.0)	1.1	(5.1)	SD-6　覆土	雁首　M65
7	煙　管		(1.1)		(3.3)	SD-8　覆土	火皿　M66
8	煙　管	(2.4)		0.9	(1.3)	SD-8　覆土	M67

表7　前田村遺跡溝一覧表（付図2）

溝番号	位置	主軸方向	規模(m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備　考
			長さ	上幅	下幅	深さ					
6	A5	N−29°−W	7.76	0.3~0.5	0.1~0.3	0.24	外傾	皿状	自然	縄文式土器，金属製品	
7	A4	N−22°−W	6.58	0.4~0.9	0.3~0.6	0.36	垂直	平坦	自然	縄文式土器	
8	B4	N−12°−E	28.54	0.5~1.1	0.3~0.7	0.45	垂直	平坦	自然	縄文式土器，石器，金属製品	SK-90と重複
10	B3	N−15°−W	7.43	0.5~0.9	0.3~0.6	0.52	垂直	平坦	自然		SI-27と重複
11	B3	N−60°−W	11.53	0.7~0.9	0.5~0.7	0.39	垂直	平坦	自然	縄文式土器	
12	C4	N−87°−W	12.66	0.4~1.2	0.2~1.0	0.29	垂直	平坦	自然	縄文式土器	

14	C3~C2	N－89°－W	[35.20]	0.4~0.8	0.1~0.3	0.86	垂直	平坦	人為	縄文式土器，内耳土器	
15	E2	N－74°－W	[19.84]	0.3~1.0	0.1~0.7	0.29	垂直	平坦	自然	縄文式土器，陶器	
16	E3~E2	N－68°－W	[19.84]	0.3~1.0	0.1~1.0	0.48	垂直	平坦	自然	縄文式土器，土製品，陶器，磁器	
17	F3	N－16°－W	9.38	0.2~0.6	0.1~0.5	0.21	垂直	平坦	自然		

5　井戸

第１号井戸（第186図）

位置　B3c6区。

規模と形状　掘り方は，上面が径3.0ｍの円形である。深さ３～４ｍほど掘り込んだが，壁面が崩壊して危険を伴うため，底面までは調査できなかった。

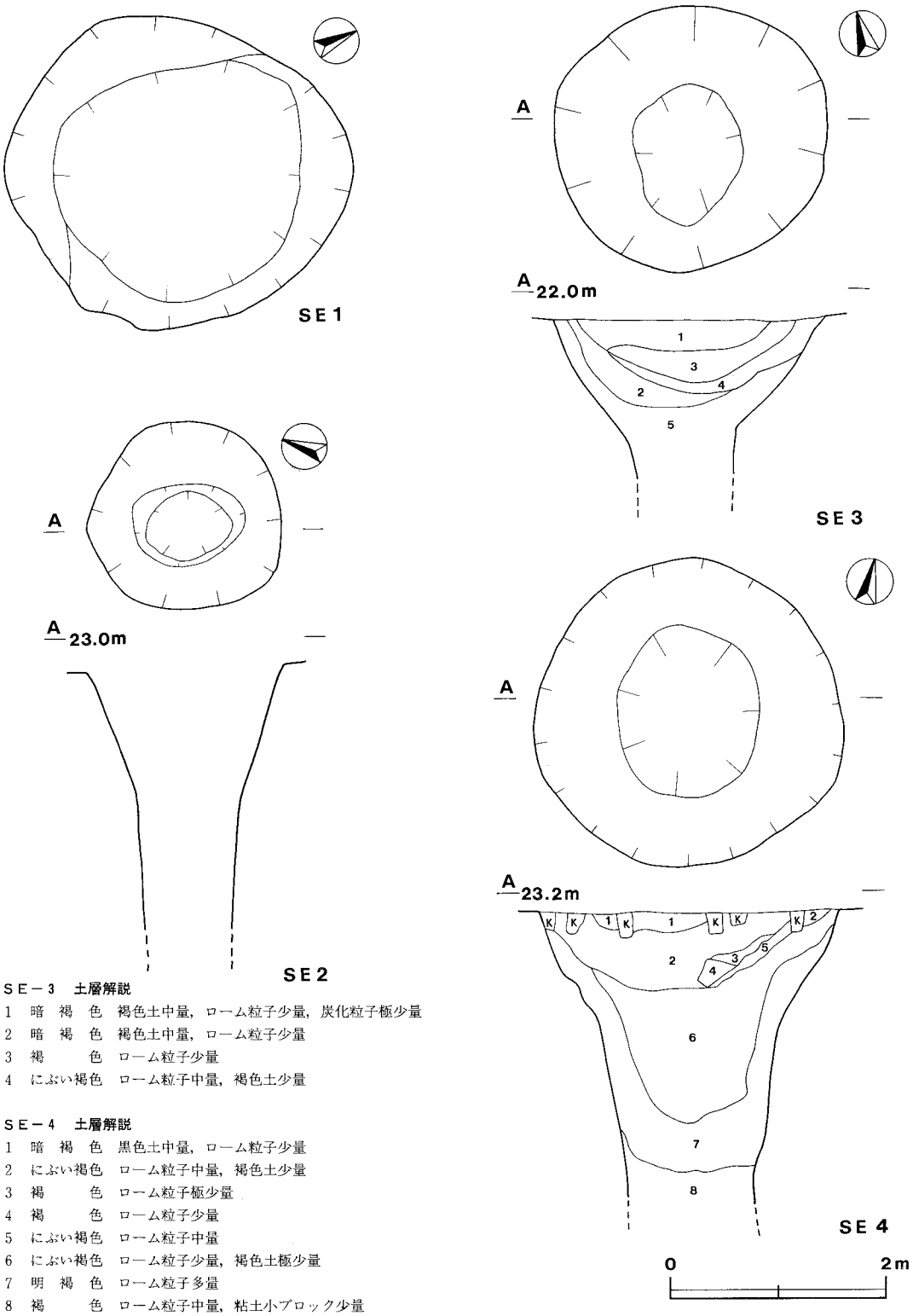
覆土　ロームブロックを含む人為堆積である。

遺物　覆土から流れ込みと思われる縄文式土器片（口縁部2，胴部5点），第187図1～3の磁器の碗が出土している。

所見　出土遺物から近世のものと思われる。遺構を確認したときには，まだくぼんだ状況になっていた。

第１号井戸出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第187図 1	碗 磁器	A 10.0 B 4.8 D 4.2 E 0.7	染付の碗。高台は直立し，体部は内彎しながら立ち上がる。外面に梅花文が描かれている。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)明緑灰色 良好	P144 40% 肥前系(波佐見) 18c
2	碗 磁器	A [8.7] B 4.6 D [3.4] E 0.6	染付の碗。高台は直立し，体部は内彎しながら立ち上がる。外面に二重網目文が描かれている。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)明緑灰色 良好	P145 35% 肥前系(波佐見) 18c
3	碗 磁器	B (4.7) D [4.0] E 0.7	底部片から体部片。染付の碗形茶碗。高台は直立し，体部は内彎しながら立ち上がる。外面に二重圏線の上に花卉文が描かれている。底面に「大明年製」と書かれている。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)明緑灰色 良好	P146 20% 肥前系(波佐見) 18c



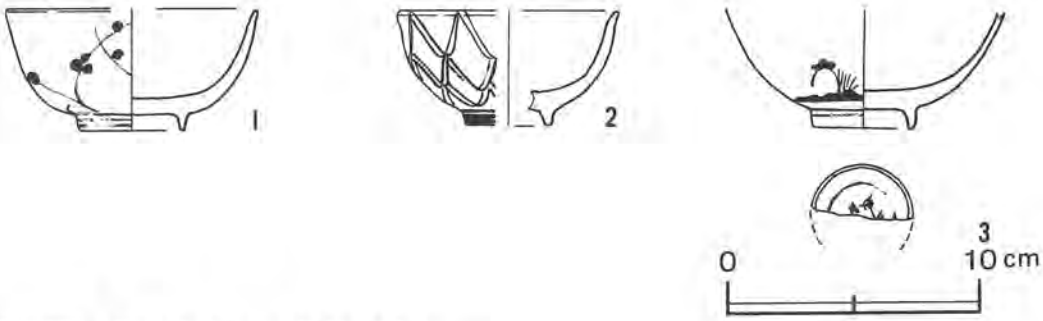
SE－3　土層解説

1　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　暗　褐　色　褐色土中量，ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量

SE－4　土層解説

1　暗　褐　色　黒色土中量，ローム粒子少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，褐色土少量
3　褐　　色　ローム粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　にぶい褐色　ローム粒子中量
6　にぶい褐色　ローム粒子少量，褐色土極少量
7　明　褐　色　ローム粒子多量
8　褐　　色　ローム粒子中量，粘土小ブロック少量

第186図　第1～4号井戸実測図



第187図　第1号井戸出土遺物実測図

第2号井戸（第186図）

位置　B4c$_8$区。

規模と形状　掘り方は，上面が径1.8mの円形で，確認面から1.2mまで急傾斜をもち，そこから下は円筒形であるが，1.0mまでしか調査できなかった。

覆土　ロームブロックを含む人為堆積である。

遺物　なし。

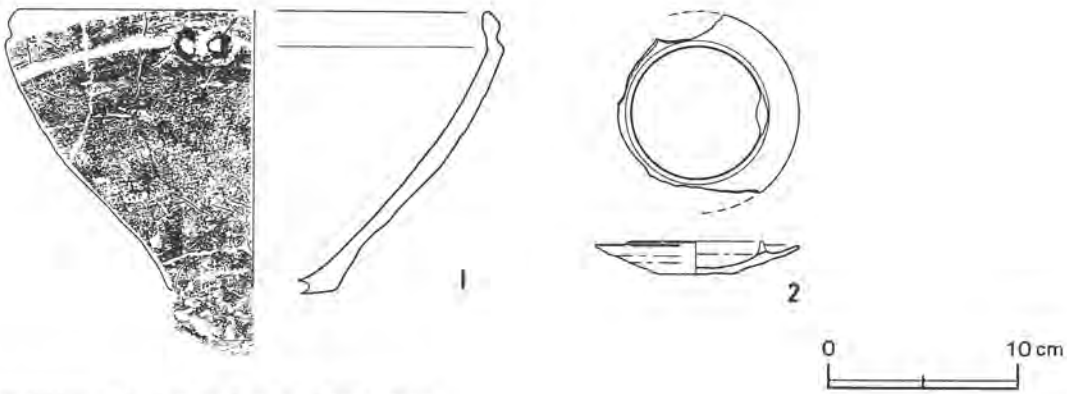
所見　時期不明である。

第3号井戸（第186図）

位置　A5i$_2$区。

規模と形状　掘り方は，上面が径2.5mの円形で，確認面から1.0mの深さまでロート状で，そこから下は円筒形であるが，0.5mまでしか調査できなかった。

遺物　覆土から，流れ込みと思われる縄文式土器片(口縁部12，胴部102，底部2点)，第188図1の深鉢，2の陶器の灯明受皿が出土している。



第188図　第3号井戸出土遺物実測図

所見　出土遺物から近世のものと考えられる。

第3号井戸出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第188図 1	浅鉢形土器 縄文式土器	A [25.0] B 14.9 C [8.8]	突出気味の底部。胴部は外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部に2つ1組の刺突を設け，1条の沈線を巡らしている。以下は無文である。底面から2cm程までは横位ナデが施されている。	砂粒・長石・スコリア・雲母 橙色 普通	P147 20% 堀之内式

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
2	灯明受皿 陶　器	A 10.7 B 1.8 C 4.0	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。内面に径7cm，高さ5cmの円筒形の受部を有し，半円状の切り込みがある。透明感のある釉を施している。	水挽き成形。	(胎土)灰白色 (釉)灰オリーブ色 良好	P148 70% 産地不明 19c

第4号井戸（第186図）

位置　D3i_2区。

規模と形状　掘り方は，上面が径2.8mの円形で，確認面から1.0mの深さはロート状である。底面までは，調査できなかった。

遺物　なし。

所見　時期不明である。

6　遺構外出土遺物

当調査区内の遺構外から出土した遺物について，拓影図でその一部を掲載する。なお，縄文式土器の分類については次のとおりとした。

縄文式土器片拓影図（第189～200図）

第1群の土器(1～47)　縄文時代中期に比定される土器を本群とする。

a類

縄文を施さず，隆線と結節沈線文を多用するもの。1～3は口縁部片である。1は橋状把手を有し刺突文が施されている。2･3は結節沈線文が窓枠状に施されている。5～8は胴部片で，爪形文が施されている。5･6は縦位の平行沈線文が施されている。阿玉台式に比定される土器である。

b類

交互刺突による連続コの字文，隆帯上の刻み目，縄文などが施されているもの。9･10は口

縁部片である。中峠式に比定される土器である。

c類

縄文を地文として，沈線や隆線による文様構成がなされるもの。加曽利ＥⅠ式に比定される土器である。

d類

隆線により区画され，沈線が施されているもの。加曽利ＥⅠ式に比定される土器である。

e類

縄文地文上に波状の沈線が施されているもの。11は胴部片で，３条の波状沈線文が施されている。加曽利ＥⅡ式に比定される土器である。

f類

口縁部文様帯を隆線と沈線によって渦巻文と楕円文を主に区画し，胴部文様帯に沈線による直線的な磨消帯を垂下させるもの。12～16は口縁部片である。14は波状口縁と考えられる。加曽利ＥⅢ式に比定される土器である。

g類

口縁部文様帯を沈線によって円文と楕円文を主に区画し，胴部文様帯はｅ類と同様のもの。加曽利ＥⅢ式に比定される土器である。

h類

沈線による「U」字状，「∩」字状，「V」字状などの文様が施され，区画内を磨り消しているもの。加曽利ＥⅢ・Ⅳ式に比定される土器である。

i類

微隆線による「H」字状，「U」字状，「∩」字状などの文様が施され，区画内を磨り消しているもの。加曽利ＥⅢ・Ⅳ式に比定される土器である。

j類

口縁部無文帯を隆線や沈線で区画し，以下に縄文ないし条線文が全体に施されているもの。17～31は口縁部片である。17･18は沈線直下から縦位の条線文を施し，19～22は縄文を施文している。24･27は口縁部に１列の円形刺突文，25･26･28は２列の円形刺突文を施している。29～31は口縁部直下に爪形刺突文を加え，29は２本の沈線で曲線を描き，30は波状口縁，31は口辺部に橋状把手が付されていたと推測される。40～47は胴部片で，縦位や斜位の条線文を施している。加曽利ＥⅢ・Ⅳ式に比定される土器である。

k類

口縁部直下から縄文ないし条線文が全体に施されているもの。32は口縁部直下から条線文を描き，33･34は縄文を施文している。33･34は波状口縁である。35は波頂部に橋状把手が付

されている。加曽利EIII・IV式に比定される土器である。

l類

隆線ないし微隆線だけによる曲線が施されているもの。壺形土器など特殊な器形を含む。39は口縁部に2条の幅の広い沈線を巡らしている。加曽利EIII・IV式に比定される土器である。

m類

無文の土器で，有孔鍔付土器，器台形土器など特殊な器形を含むもの。加曽利EIII・IV式に比定される土器である。

第2群の土器(48～89)　縄文時代後期に比定される土器を本群とする。

a類

沈線による「J」,「M」字状文，スペード文が描かれ，区画内に縄文が施文されているもの。48は胴部片で，直線的な磨消縄文を施している。称名寺式に比定される土器である。

b類

縄文地文上に1本の沈線で独立の単独モチーフが描かれるもの。堀之内I式に比定される土器である。

c類

縄文地文上に沈線が描かれるもの。堀之内I式に比定される土器である。

d類

無文地に沈線文様が描かれるもの。49～55は口縁部片である。49は口縁部直下に縄文原体を斜位に押圧し，胴部に絡条体による縄文を施している。50は沈線による蕨手文のモチーフが描かれている。51は沈線間を単節縄文RLで充填している。53は口縁部直下に縦長の刺突文，蛇行沈線を施している。54･55は穿孔や円形刺突文など装飾が見られる。56～60は胴部片である。56は縦位と斜位の沈線文，59は円文，60は「V」字状の沈線文が幾重にも描かれている。堀之内I式に比定される土器である。

e類

沈線によって区画され，縄文帯が施されているもの。61･62は口縁部片である。61は口縁部無文帯で，以下に縄文帯を施し沈線で文様を描いている。62は口縁部無文帯を3本の沈線で区画し，以下に下向き弧状の沈線区画を施している。63は磨消縄文の胴部片である。堀之内II式に比定される土器である。

f類

粗製土器で，縄文地文上にあらい沈線が施されているもの。64の口縁部は，沈線で区画され内傾する。65～67は胴部片で，沈線が65は横位，66は斜位，67は「×」状にそれぞれ描か

れている。加曽利ＢⅡ式に比定される土器である。

g 類

直線・曲線的磨消縄文が施されているもの。68・69は胴部片である。加曽利ＢⅢ式に比定される土器である。

h 類

胴部に刺突文が施されているもの。70は胴部に１列の刺突文と沈線を施し，以下に縄文を施文している。加曽利ＢⅢ式に比定される土器である。

i 類

斜行の条線文が施されるもの。71～77は口縁部片である。71・76は口縁部直下に竹管による刺突文を施し，72・75は竹管による刺突文の下に１条の沈線を巡らしている。73・74は口縁部直下に刻み目が施されている。安行Ⅰ式に比定される土器である。

j 類

横位沈線により刺突文と条線帯を区画するもの。78は口縁部直下に１条の沈線を巡らし，「C」字状の刺突文を施している。87・88は横位沈線により条線帯を区画している。安行Ⅰ式に比定される土器である。

k 類

沈線区画による縄文帯が巡らされているもの。79～86は口縁部片である。82は口縁部直下に瘤状の貼り付けが施されている。89は胴部片である。安行Ⅰ式に比定される土器である。

l 類

隆起帯縄文上に付された突起貼付文に，縦位の刻みが付けられるもの。安行Ⅱ式に比定される土器である。

第３群の土器(90～98)　縄文時代晩期に比定される土器を本群とする。

a 類

条線文のみが施されているもの。90～94は口縁部片で，斜位の条線文のみで内傾する。安行ⅢＡ式に比定される土器である。

b 類

帯縄文が施されるもの。95～97は口縁部片，98は胴部片である。いずれも沈線で区画されている。安行ⅢＡ式に比定される土器である。

c 類

隆線上に細かい刻みを加えモチーフを描いているもの。安行ⅢＡ式に比定される土器である。

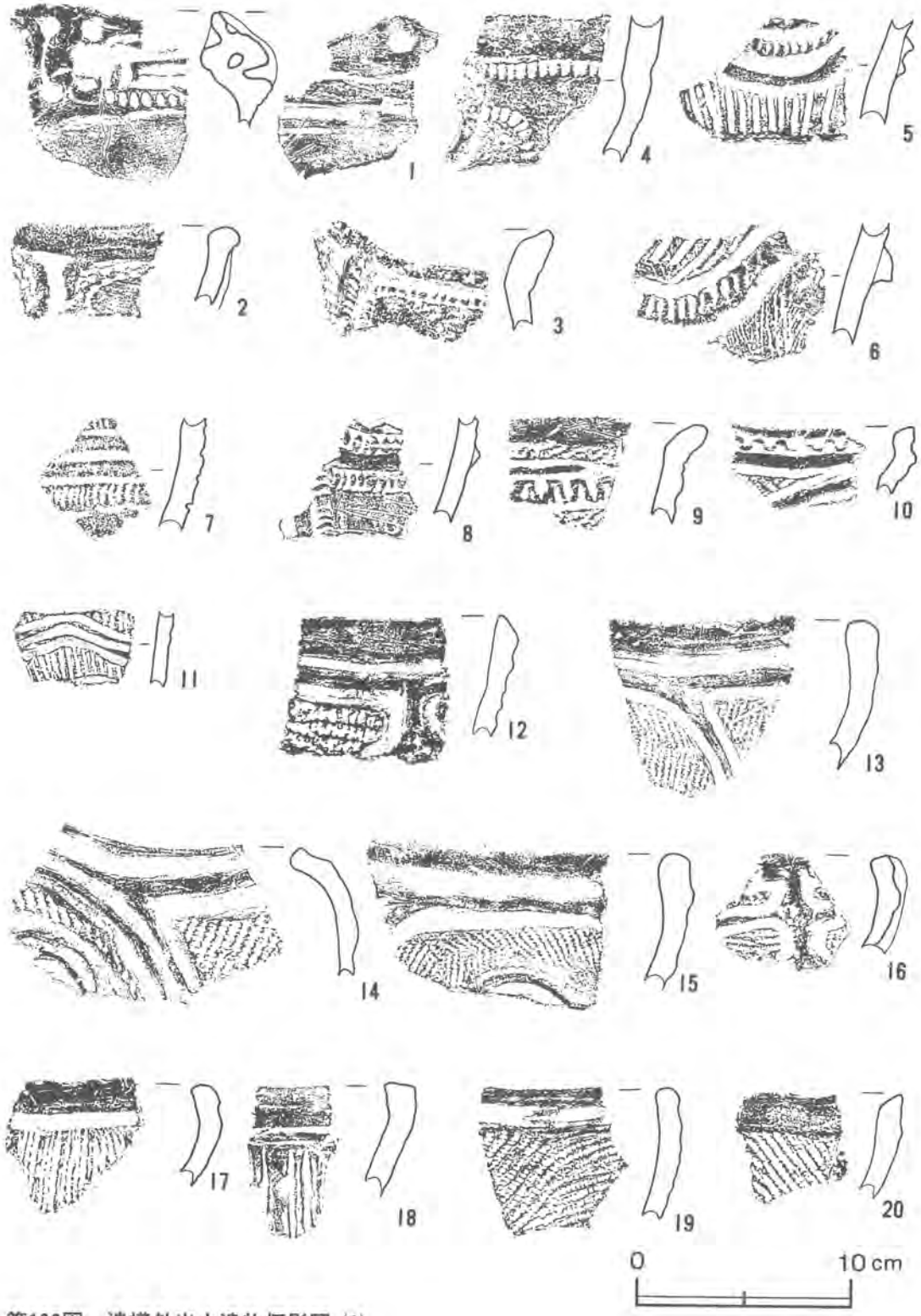
中・近世の遺物拓影図（第195図）

113・114の火鉢は，瓦質土器で花文が印刻されている。115～119は擂鉢である。115は17世紀の信楽系陶器で擂目が密である。116～118・119は17～19世紀の瀬戸・美濃系陶器である。

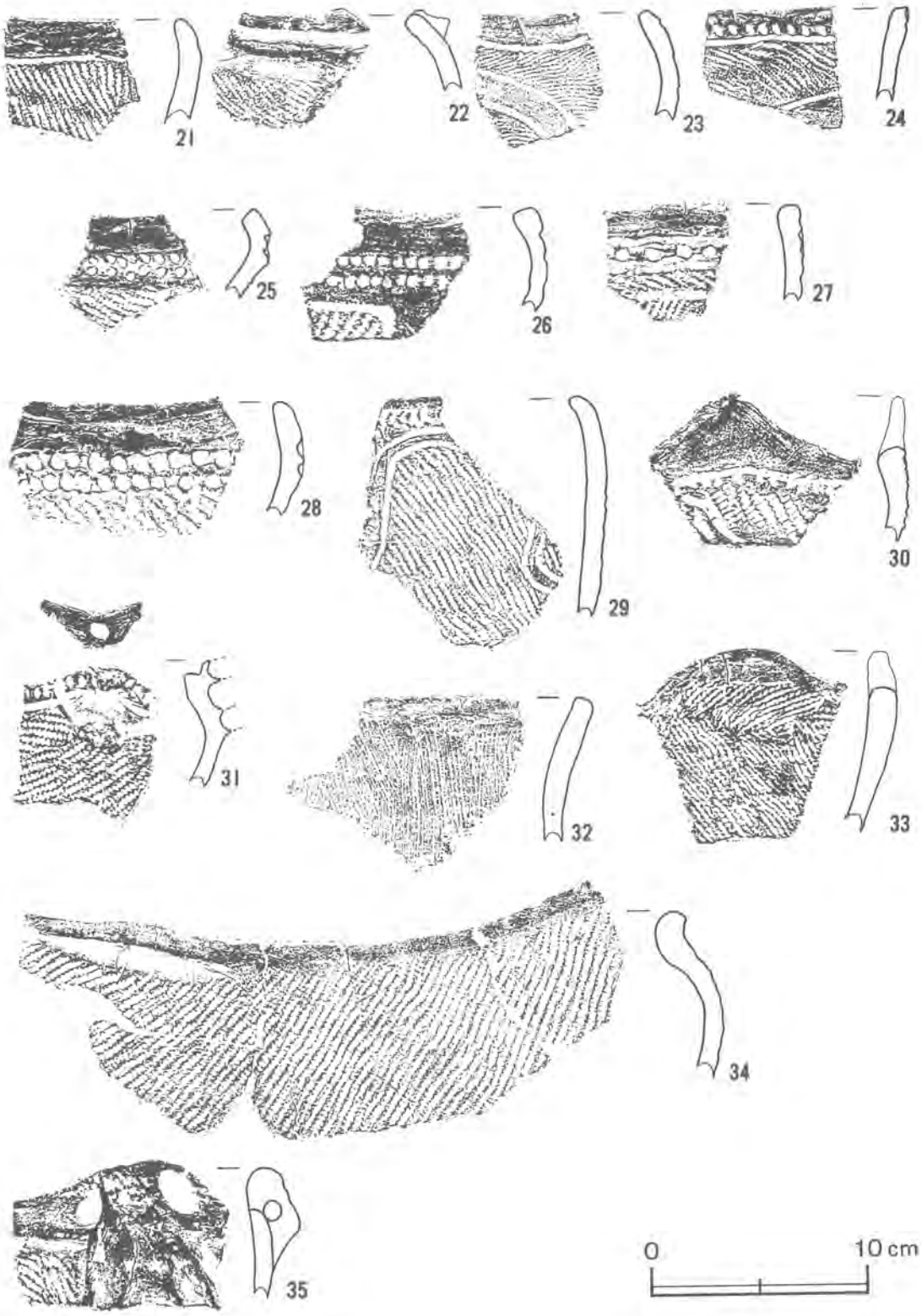
遺構外出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第189～200図 36	深鉢形土器 縄文式土器	A [21.8] B (25.7)	胴部から口縁部片。胴部上位は内彎気味に立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部に幅の広い沈線を巡らし，以下全面に前々段多条の縄文ＲＬを縦位回転で施文している。	長石・パミス・スコリア にぶい橙色 普通	P150 30%　表採 加曽利ＥⅢ式
37	深鉢形土器 縄文式土器	B (17.8) C [10.2]	底部から胴部片。胴部下位は外傾する。外面には直線的磨消帯が垂下し，区画間に縄文を施文している。摩耗が著しいため，詳細は不明である。	砂粒・長石・石英 明褐色 普通	P168 10% SK -138 表採 外面にスス付着 加曽利ＥⅢ式
38	器　台 縄文式土器	A [15.0] B (6.4)	器台片。台部はやや「ハ」字状に開く。中位に楕円形の孔が認められる。外面にナデが施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P152 5 %　表 採 中期
99	深鉢形土器 縄文式土器	A [23.3] B (8.7)	胴部から口縁部片。胴部・口縁部は内彎しながら立ち上がる。内面を折り返している。口縁部の下に斜位の条線文を施している。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P165 20%SI-41表採 安行Ⅲａ式
100	壺形土器 縄文式土器	A [12.6] B (8.3)	胴部は内彎し，口縁部は大きく外方に開く。口縁部に２本の沈線を施し，その下に枠状文が施されている。文内は縄文が磨消されている。また，地文の縄文ははっきりしている。胴部上位に刺突列を施し，その下に２本の沈線を施し，底面にかけて縄文を施文している。	砂粒・長石 橙色 普通	P151 30% SI-40表採 大洞ＢＣ式

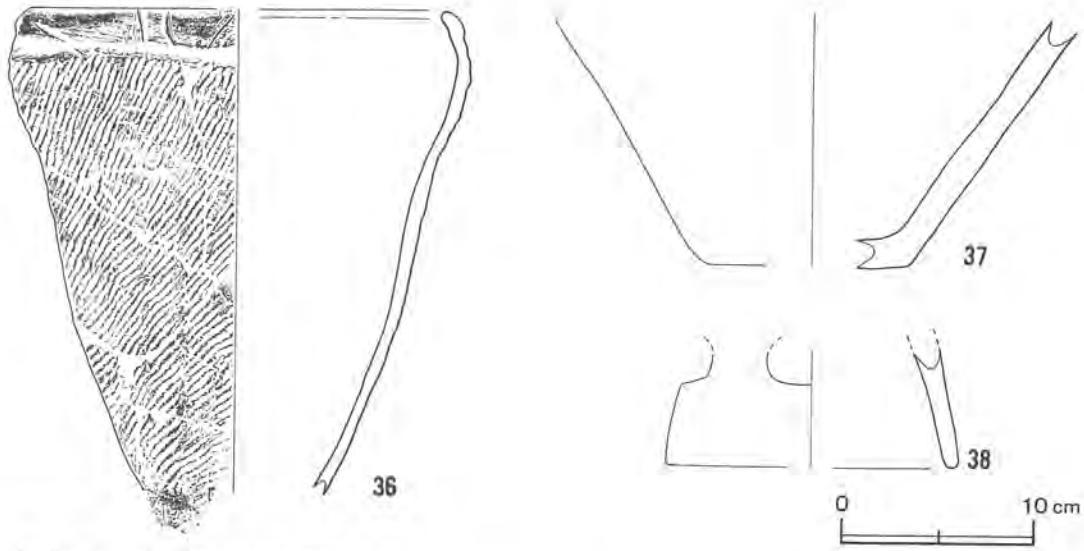
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
101	坏 土師器	A 12.9 B 4.2 C 6.0	平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は外傾する。外面に「真」と墨書している。	底部ヘラ切り。体部外面下半横位のヘラケズリ。内面丁寧なヘラミガキ。内面黒色処理。	砂粒・長石・スコリア 内面黒色　外面橙色　普通	P154 70%　Ｂ地区表採 墨書土器
102	碗 青　磁	A [16.2] B (3.9)	体部から口縁部片。体部上位・口縁部は外傾する。	水挽き成形。外面に削り出し蓮弁文が施されている。	(胎土)灰白色 (釉)明緑灰色 良好	P164 5 %　Ｂ地区表採 龍泉窯
103	Ⅲ 土師質土器	A [5.2] B 1.3 C 2.6	平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	スコリア 橙色 普通	P169 30% Ａ地区表採
104	Ⅲ 土師質土器	A 6.0 B 1.4 C 4.0	平底。体部はやや外反する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色　普通	P157 80% SI―52表採
105	Ⅲ 土師質土器	A [6.2] B 1.6 C 2.8	平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P159 40% Ａ地区表採
106	Ⅲ 土師質土器	A [7.7] B 1.7	口縁部片。口縁部はやや外反する。小さい円孔を有する。	水挽き成形。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P160 10%Ａ地区 表採
107	Ⅲ 土師質土器	A [6.7] B 2.0 C [3.5]	突出気味の平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色　普通	P158 60% Ａ地区表採
108	灯明Ⅲ 土師質土器	A 7.0 B 1.8 C 3.5	平底。体部は外傾する。	水挽き成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア・パミス 明赤褐色　普通	P155 100% SI-21表採



第189図　遺構外出土遺物拓影図 (1)

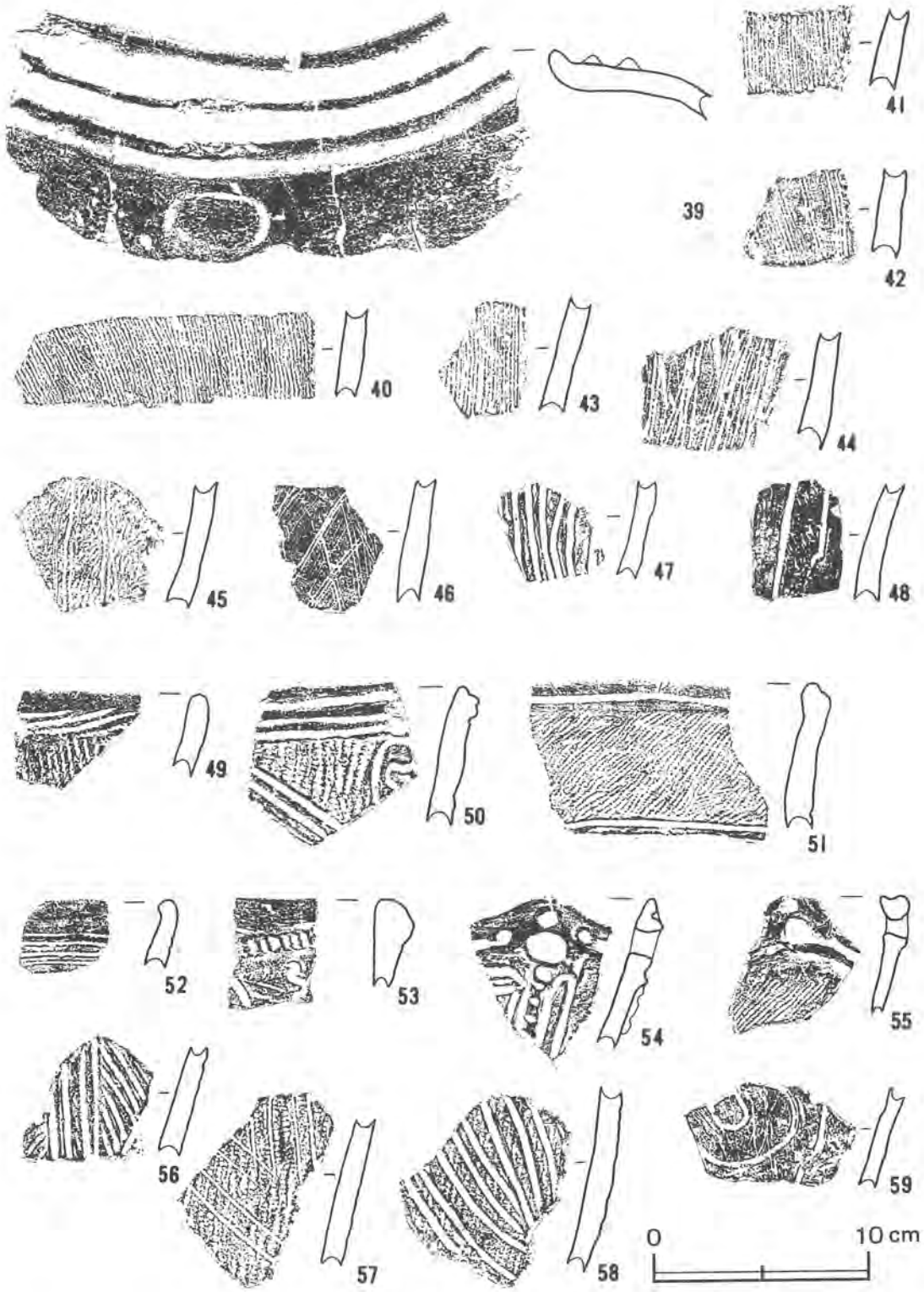


第190図　遺構外出土遺物拓影図 (2)

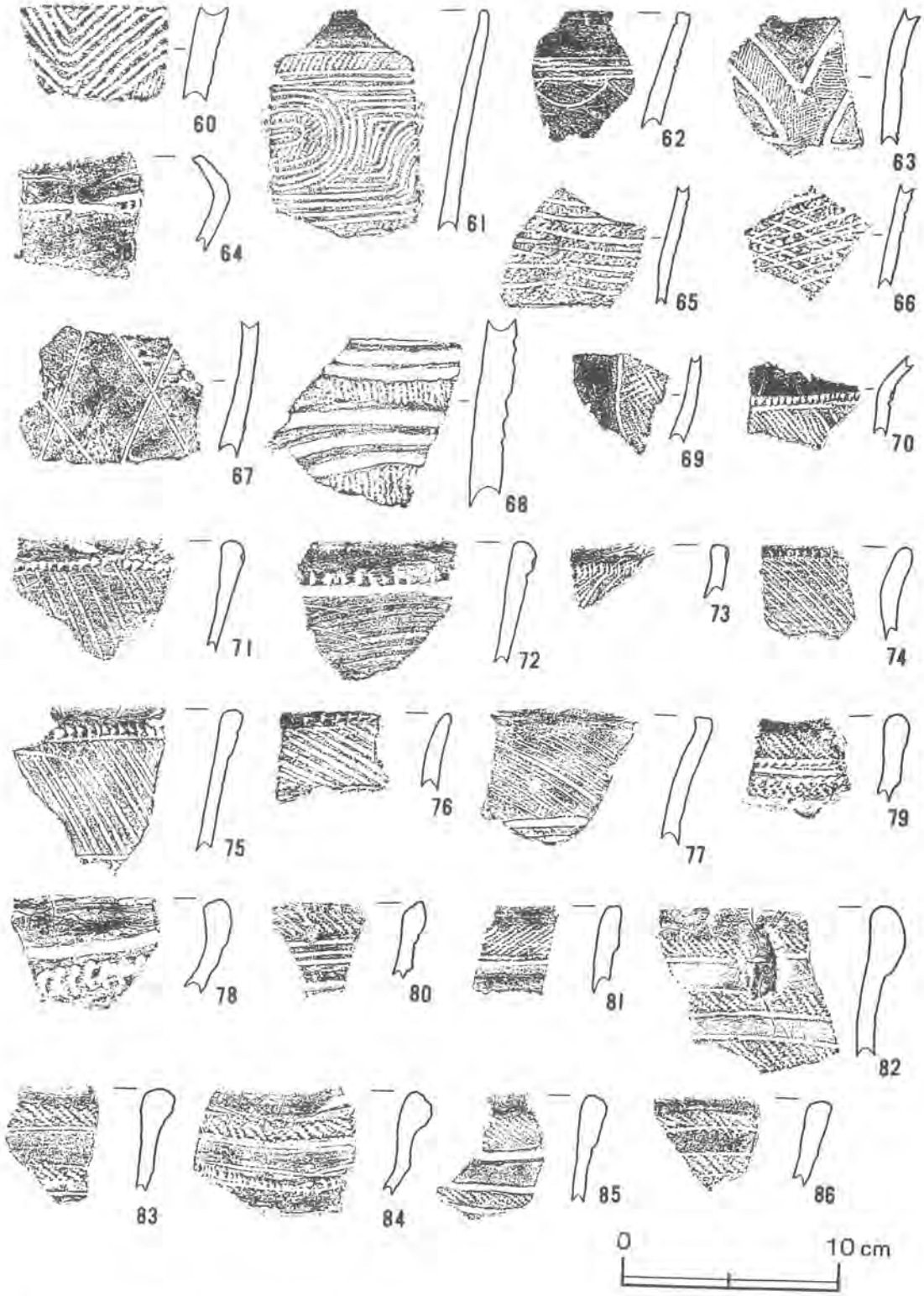


第191図　遺構外出土遺物実測図（3）

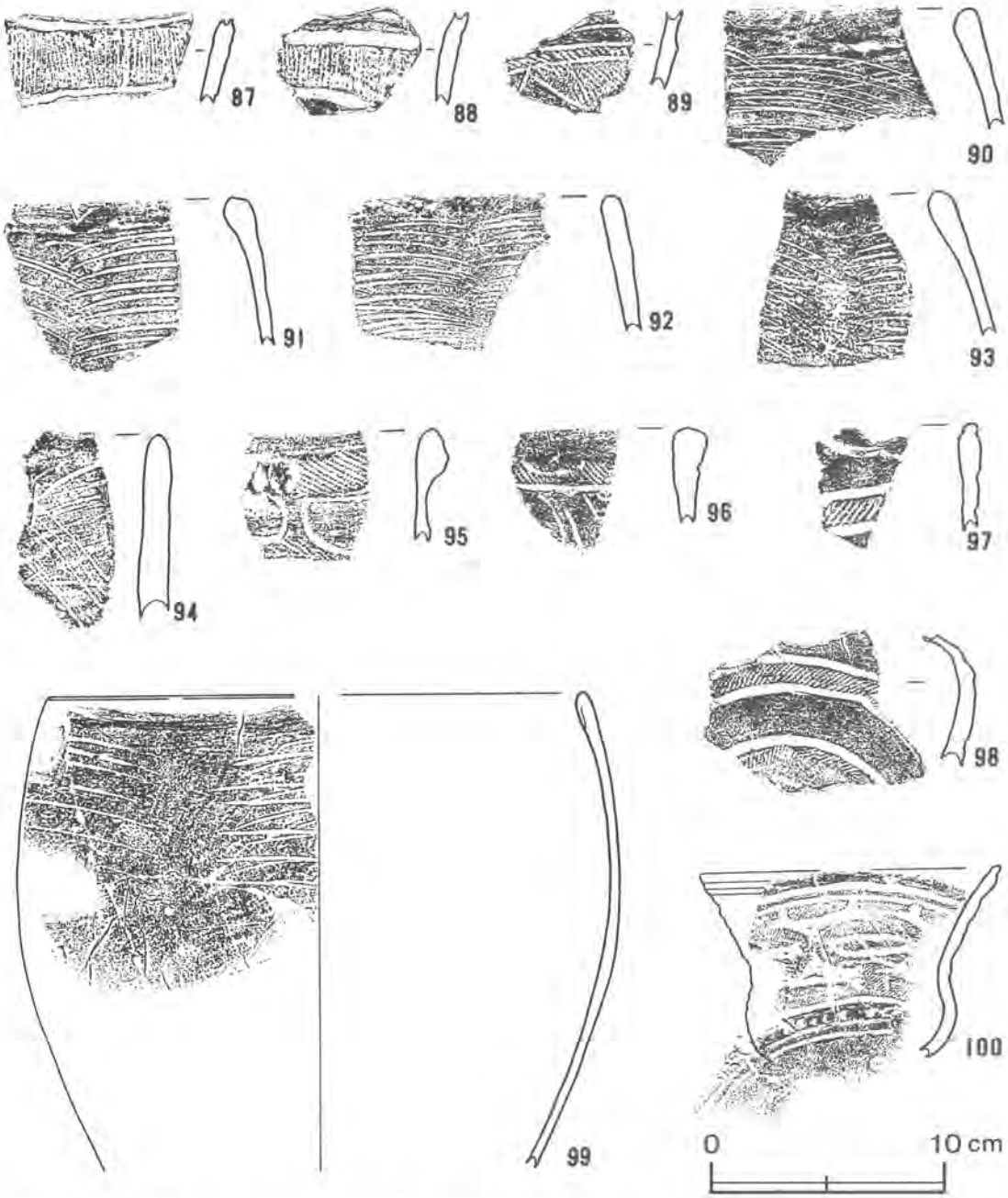
109	皿 土師質土器	A　7.0 B　1.8	体部から口縁部片。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。	砂粒・雲母・パミス 橙色　普通	P156 30% 表採
110	内耳鍋 土師質土器	A [33.0] B (5.3)	口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 明褐色 普通	P161 10%　表採 外面にススト付着
111	瓦質土器	B (4.2) D 10.1 E 2.6	高台部片。高台は「ハ」字状に開く。	高台部内外面横ナデ。	長石・雲母・石英 灰色 普通	P153 5% 表採
112	皿 陶器	A 11.0 B 2.4 C 5.1	平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	水挽き成形。底部回転ヘラ切り。	(胎土)明褐色 (釉)にぶい黄橙色 良好	P167　55% SK-135表採 瀬戸・美濃系 18～19c
120	碗 磁器	A [11.2] B 5.9 D [4.6] E 0.6	丸碗。高台はほぼ直立する。体部は外上方に立ち上がる。体部下半以下は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)灰白色 良好	P166 40% SK-70表採 瀬戸・美濃系 18c
121	碗 磁器	B (4.4) D 4.1 E 0.7	底部から体部片。染付の碗。高台は直立し、体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。外面に圏線や梅花文が描かれている。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)明青灰色 良好	P162 25% A地区表採 肥前系（波佐見） 18c
122	碗 磁器	B (4.8) D [4.0] E 0.7	底部から体部片。染付の碗。高台は直立し、体部は内彎しながら外上方に立ち上がる。外面に圏線や印判による菊花文が描かれている。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)灰白色 良好	P163 15% SI-10表採 肥前系（有田） 18c
123	仏花瓶 磁器	B (4.7) D 6.2 E 0.8	底部片。高台は直立し、体部下位は内傾する。外面に帆掛け船が描かれている。畳付は露胎。	水挽き成形。削り出し高台。	(胎土)灰白色 (釉)灰白色 良好	P149 SI-10表採 肥前系 18～19c



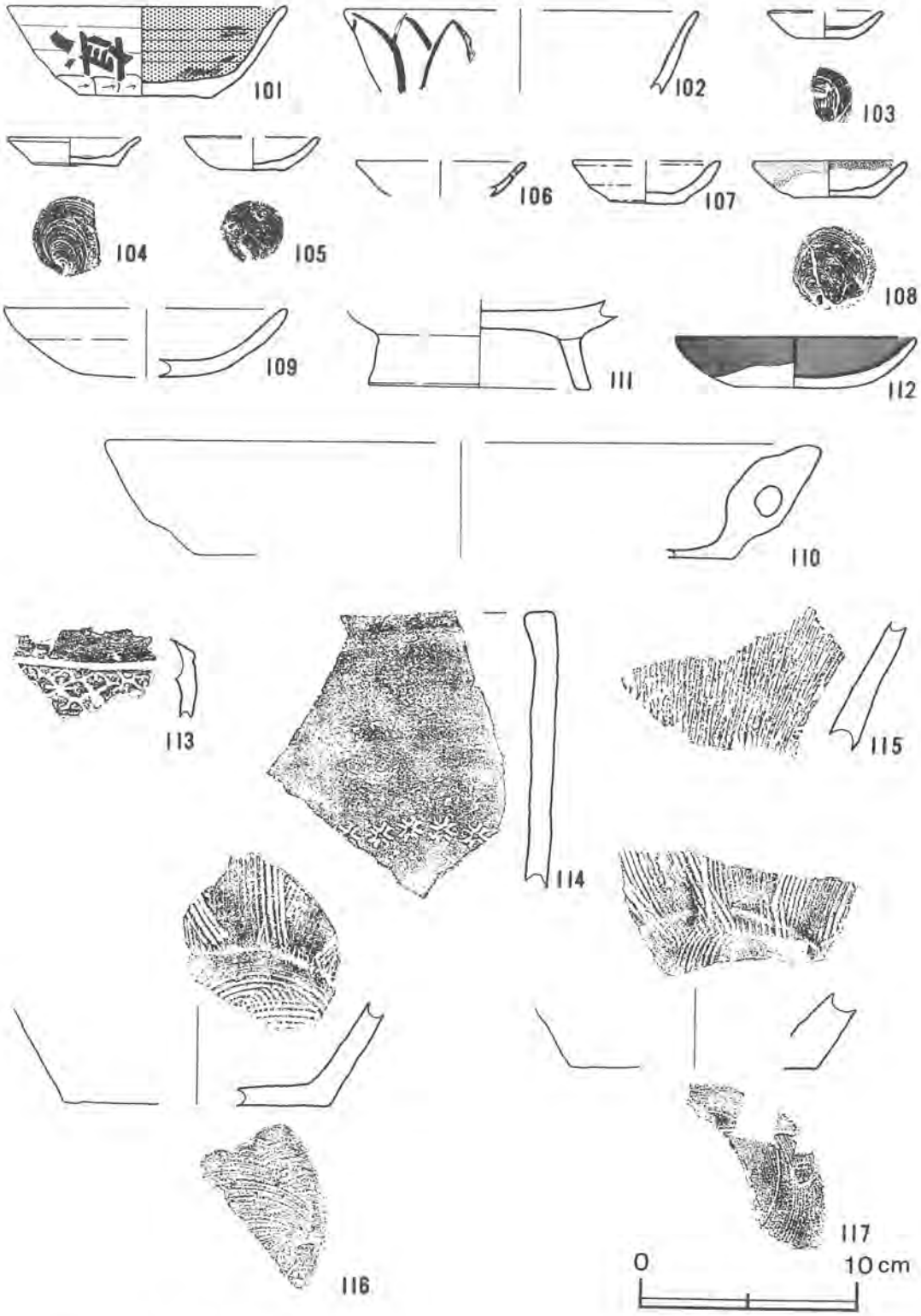
第192図　遺構外出土遺物拓影図 (4)



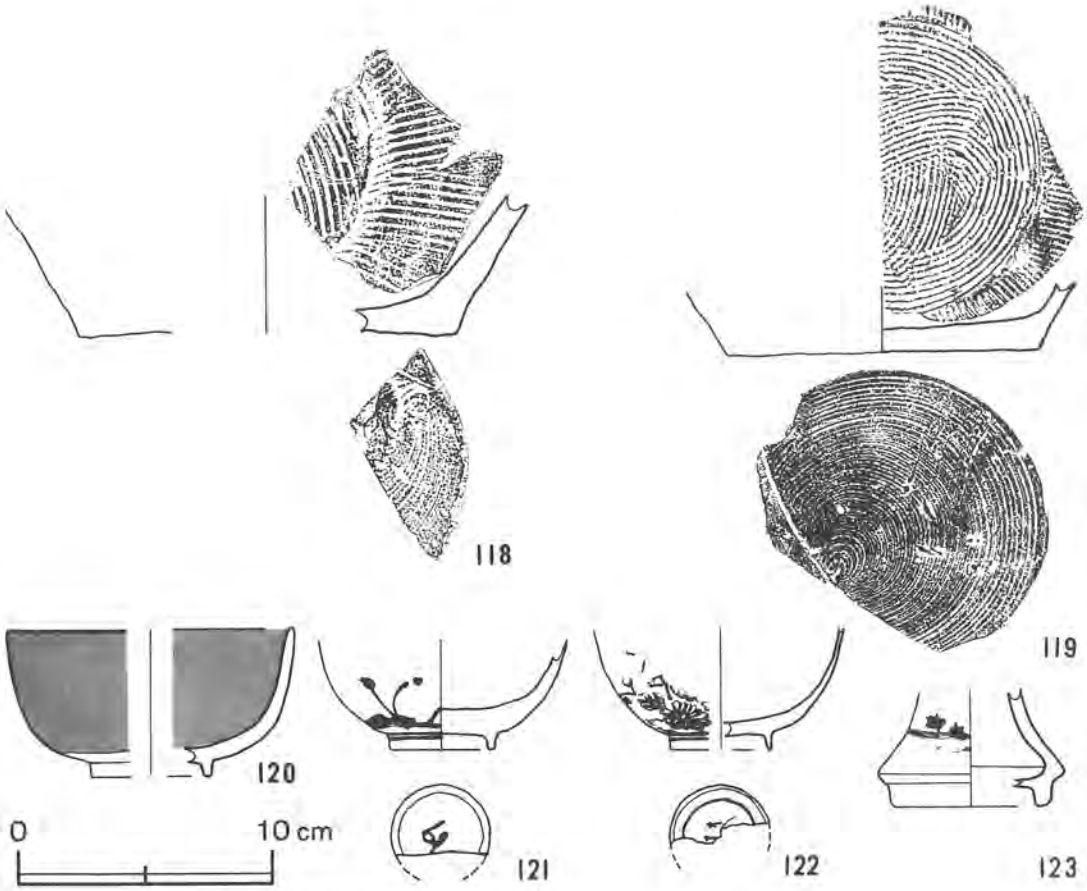
第193図　遺構外出土遺物拓影図 (5)



第194図　遺構外出土遺物実測・拓影図（6）

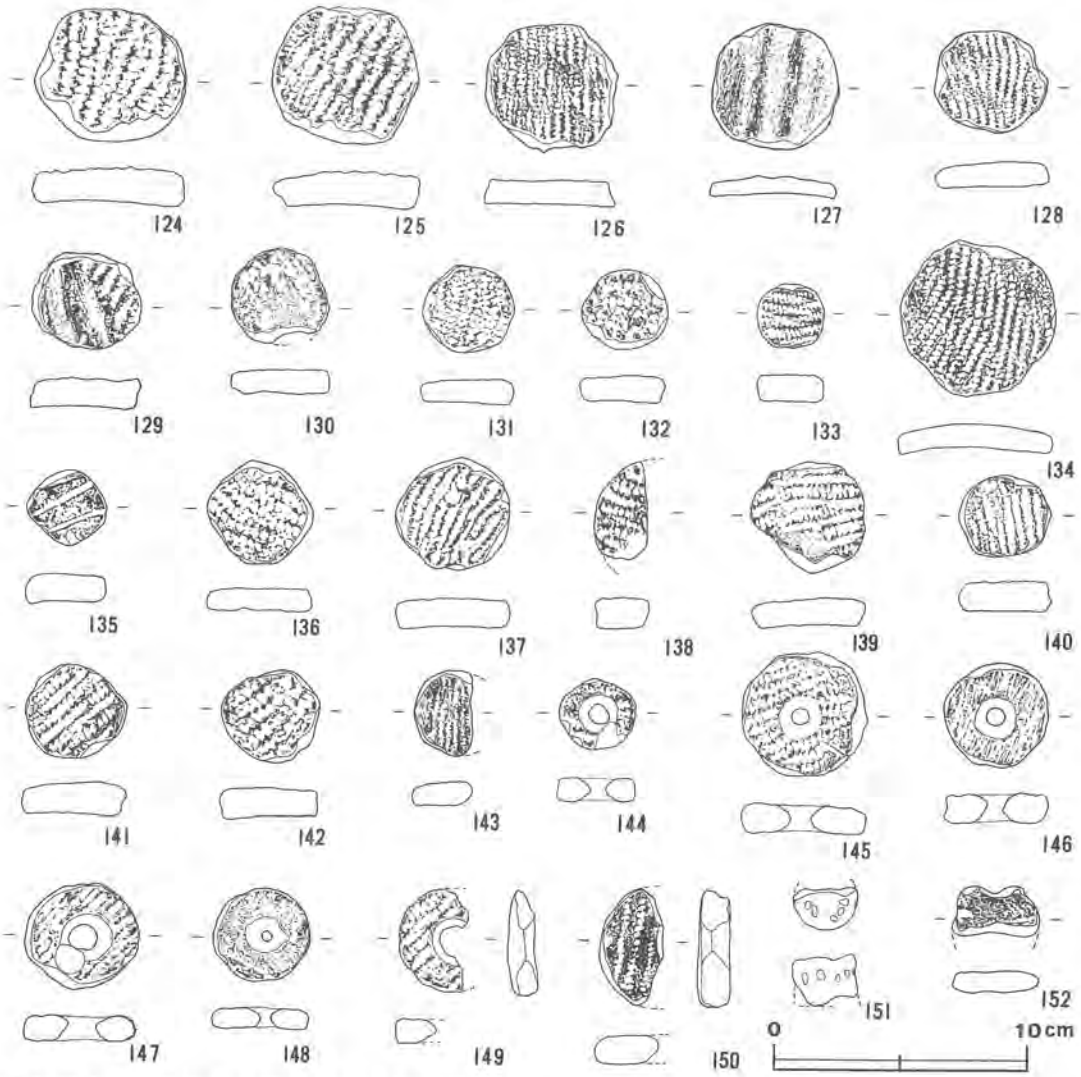


第195図　遺構外出土遺物実測・拓影図（7）



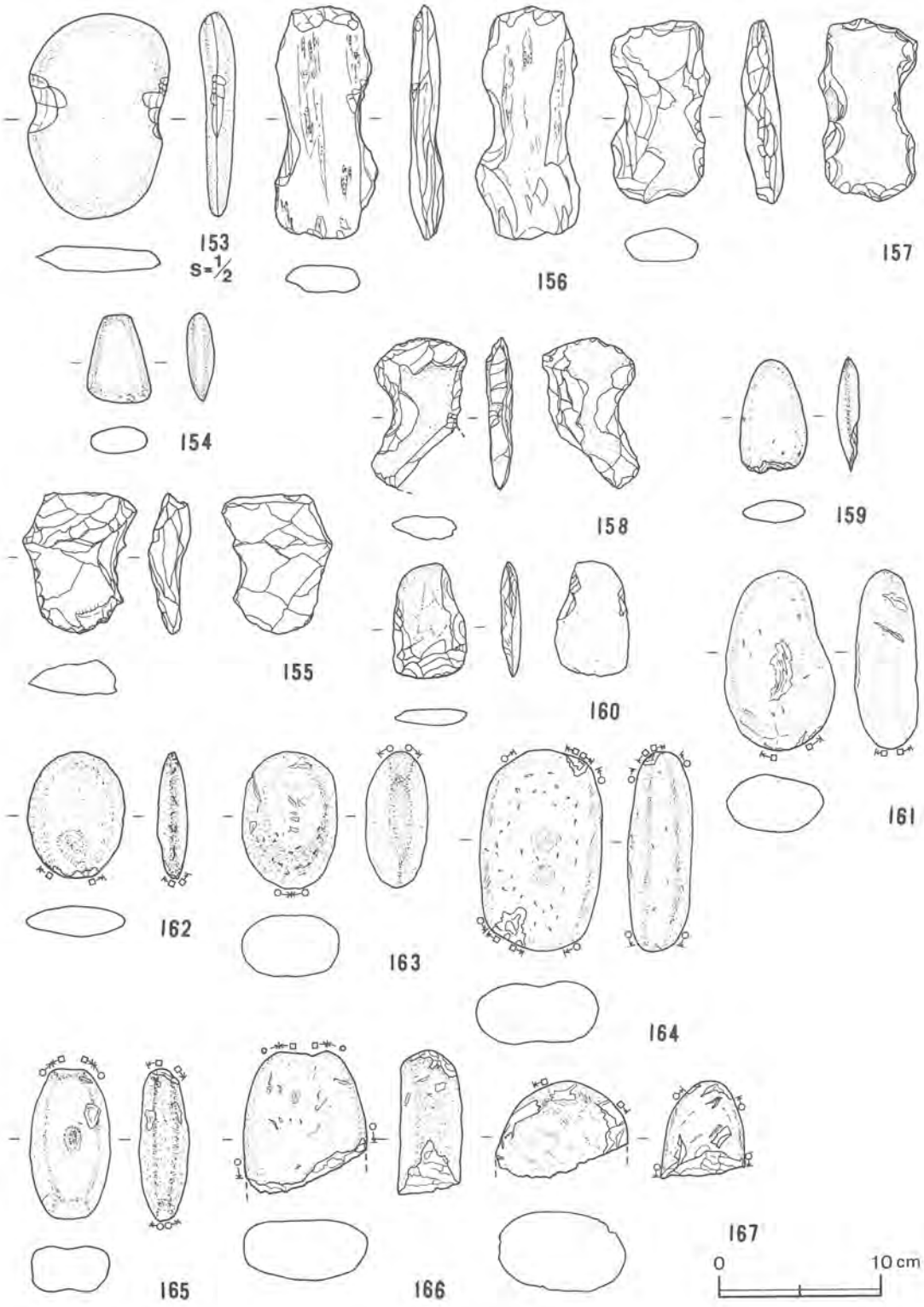
第196図　遺構外出土遺物実測図（8）

図版番号	器　種	計　測　値　(cm)			孔　径 (cm)	重　量 (g)	現存率 (%)	出土地点	備　考
		最大長	最大幅	最大厚					
124	土製円板	5.4	6.0	1.6		54.0	100	A地区表採	DP59
125	土製円板	5.5	5.8	1.6		49.6	100	表採	DP60
126	土製円板	5.2	5.2	1.0		33.8	100	表採	DP61
127	土製円板	5.1	5.0	0.9		21.0	100	表採	DP62
128	土製円板	4.1	4.5	1.1		21.1	100	表採	DP63
129	土製円板	3.8	4.4	1.3		22.6	100	表採	DP64
130	土製円板	3.8	3.9	1.1		(15.7)	85	表採	一部欠損 DP65
131	土製円板	3.5	3.7	1.0		12.6	100	G5　表採	DP66
132	土製円板	3.2	3.4	1.1		11.3	100	A地区表採	DP67
133	土製円板	2.5	2.7	1.1		8.6	100	G19　表採	DP68
134	土製円板	6.1	6.2	1.1		40.2	100	SI-1表採	DP76
135	土製円板	3.1	3.2	1.2		10.7	100	SI-1表採	DP77
136	土製円板	4.2	4.2	1.0		16.6	100	SI-47表採	DP79
137	土製円板	4.5	4.6	1.1		27.9	100	SI-47表採	DP80

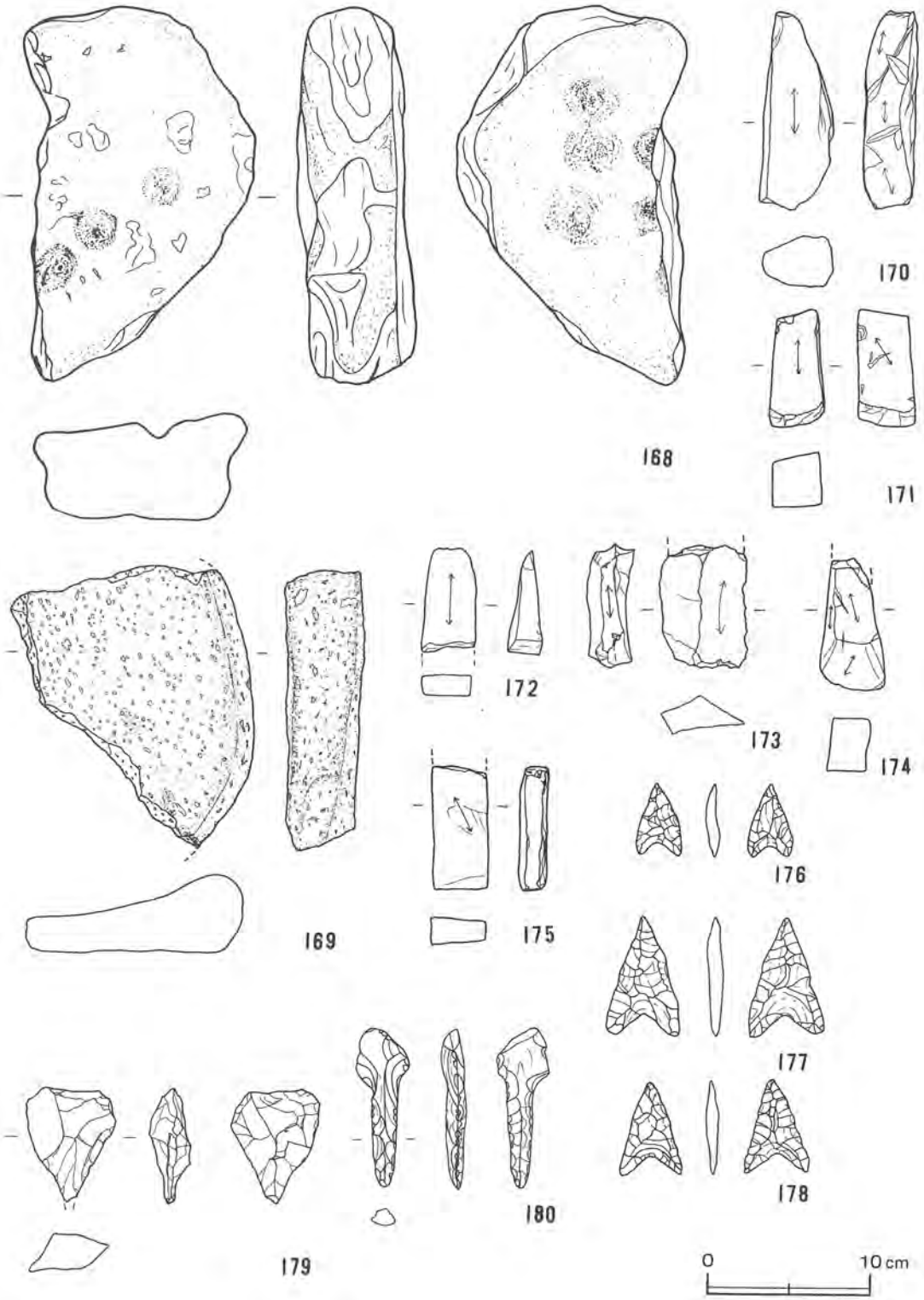


第197図　遺構外出土遺物実測・拓影図（9）

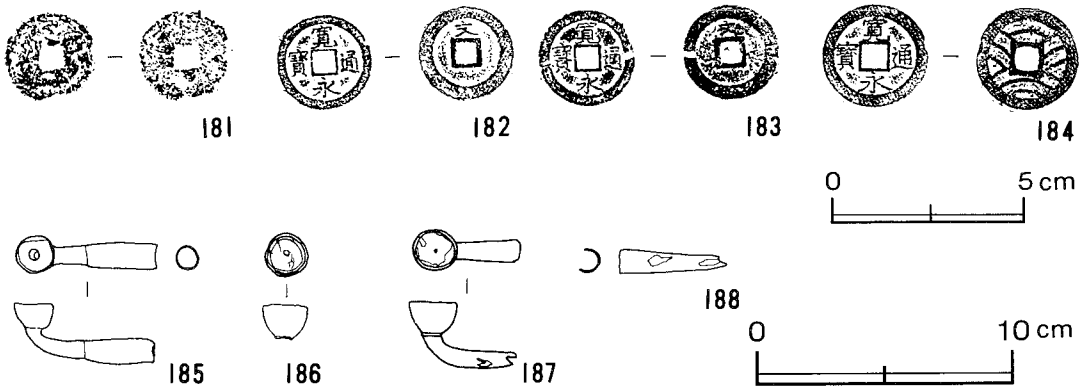
138	土製円板	(3.9)	(2.1)	1.3		(10.5)	30	SI-50表採	一部欠損 DP81
139	土製円板	4.4	4.5	1.2		(19.8)	80	SI-51表採	DP82
140	土製円板	3.3	3.7	1.3		15.7	100	B5b_8区	DP83
141	土製円板	4.1	4.1	1.3		(19.9)	95	SI-46表採	DP84
142	土製円板	3.6	3.9	1.2		17.3	100	SD-5表採	DP85
143	土製円板	3.5	(2.3)	1.0		(7.6)	60	表採	一部欠損 DP86
144	有孔円板	2.8	3.0	1.0		(6.3)	95	SI-6表採	DP78
145	有孔円板	4.9	5.0	1.2	0.7	27.9	100	D2c_3区	DP69
146	有孔円板	4.2	4.2	1.2	0.7	19.9	100	A地区表採	DP70
147	有孔円板	4.2	4.6	1.0	1.1	(18.4)	95	A地区表採	DP71
148	有孔円板	3.8	3.9	0.9	0.4	12.2	100	A地区表採	DP72



第198図　遺構外出土遺物実測図 (10)



第199図　遺構外出土遺物実測図 (11)



第200図　遺構外出土遺物実測・拓影図 (12)

149	有孔円板	4.0	(2.7)	1.0		(9.4)	40	G23　表採	一部欠損 DP73
150	有孔円板	(4.6)	2.6	1.2		(13.7)	30	G9　表採	一部欠損 DP74
151	耳　栓	(1.6)	2.6	2.0		(4.8)	40	G6　表採	一部欠損 DP75
152	土器片錘	(1.9)	3.4	0.9		(6.2)	50	表採	一部欠損 DP87

図版番号	器　種	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
153	石　錘	6.4	4.3	1.1	38.6	砂　岩	B地区　表採	Q132
154	磨製石斧	5.5	3.9	1.7	53.5	砂　岩	A地区　表採	Q131
155	打製石斧	8.7	6.9	2.7	143.1	チャート	表採	Q129
156	打製石斧	14.5	6.3	2.1	240.7	緑泥片岩	A地区　表採	Q128
157	打製石斧	11.4	6.1	2.1	182.3	凝灰岩	表採	Q127
158	打製石斧	(6.4)	(5.8)	(1.6)	(87.9)	安山岩	SI-9　表採	一部欠損 Q137
159	礫石斧	7.0	4.3	1.5	53.0	砂　岩	SI-36　表採	Q151
160	礫石斧	7.1	4.6	1.2	49.6	砂　岩	表採	Q130
161	敲　石	11.2	6.8	3.8	367.5	安山岩	表採	Q124
162	敲　石	8.0	6.1	1.9	100.0	安山岩	SI-18　表採	Q139
163	磨　石	8.5	5.9	3.8	289.1	砂　岩	SI-28　表採	Q142
164	磨　石	12.1	7.4	4.0	574.5	安山岩	表採	Q148
165	磨　石	9.4	5.0	2.9	9.3	砂　岩	表採	Q149
166	磨　石	(8.9)	7.7	4.0	(404.6)	凝灰岩	SI-1　表採	半欠　Q136
167	磨　石	(6.1)	8.1	5.3	(308.3)	粘板岩	表採	半欠　Q150
168	凹　石	23.4	(14.2)	7.5	(1944.0)	砂　岩	SI-26　表採	半欠 化石 Q141
169	石　皿	(17.6)	(14.9)	5.0	(1030.7)	安山岩	表採	一部欠損 Q147
170	砥　石	12.4	3.3	4.6	192.6	凝灰岩	B地区　表採	Q135
171	砥　石	7.3	3.5	3.7	141.6	凝灰岩	SI-13　表採	Q138
172	砥　石	(6.5)	3.3	2.2	(43.4)	凝灰岩	SI-21　表採	一部欠損 Q140
173	砥　石	7.6	5.4	2.8	125.1	凝灰岩	SI-35　表採	Q143
174	砥　石	(8.2)	4.1	2.4	(116.5)	凝灰岩	SK-62　表採	一部欠損 Q144
175	砥　石	(7.7)	3.6	1.8	(86.2)	凝灰岩	SK-82　表採	一部欠損 Q145
176	石　鏃	2.3	1.4	0.4	0.9	チャート	SI-39　表採	Q63

177	石　鏃	3.7	2.2	0.5	2.8	チャート	A地区　表採	Q133
178	石　鏃	2.9	1.9	0.4	1.5	チャート	A地区　表採	Q134
179	石　錐	(3.5)	2.7	1.0	(9.3)	ホルンフェルス	表採	先端欠　Q146
180	石　錐	5.0	1.6	0.7	3.2	チャート	SE-4　表採	Q114

図版番号	鋳　名	初鋳年(西暦)	鋳造地名	出土地点	備　考
181	寛永通寶	1668	日　本	表採	M72
182	寛永通寶	1668	日　本	SI-21表採	M73
183	寛永通寶	1668	日　本	SK-43表採	M74
184	寛永通寶	1768	日　本	表採	四文銭　M75

図版番号	器　種	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	重量(g)		
185	煙　管	(6.6)	2.4	1.1	(9.4)	SI-10表採	雁首　M68
186	煙　管		(1.4)		(5.5)	SI-21表採	火皿　M69
187	煙　管	(4.4)	2.2	(0.7)	(3.9)	SI-21表採	雁首　M70
188	煙　管	(4.3)		(1.0)	(2.8)	SI-12表採	吸口　M71

第3節　まとめ

当調査区からは，旧石器時代，縄文時代中・後・晩期，中世，近世の遺構・遺物が確認されている。旧石器時代に関しては，調査B地区の南側から石器類集中地点が1か所確認されている。遺物は，ナイフ形石器，尖頭器，剥片などが出土している。縄文時代の遺構では，中期の住居跡が51軒確認されている。住居跡の分布状況は大部分がA地区に集中し，B地区には数軒しか確認されなかった。特に，A地区の西側に密集しているため，未調査区を考えれば軒数はさらに増大するのは確実といえる。遺構外遺物の縄文式土器片を時期別に見ると，中期では阿玉台式，中峠式，加曽利EII～IV式，後期では称名寺式，堀之内I・II式，加曽利BII・III式，安行I・II式，晩期では安行IIIa式，大洞BC式の土器片が出土している。これらの状況から，調査区外に縄文時代後・晩期の遺構があると考えられる。奈良・平安時代の遺構は確認されていないが，「真」と書かれた墨書土師器1点がB地区の八幡神社参道の南側から出土している。中世のものと考えられる墓壙群は，A地区の南東側から確認されている。遺物は，五輪塔や宝篋印塔，土師質土器(灯明皿)などが出土している。近世の粘土張り遺構や井戸は，同じくA地区全体から確認されている。遺物は，粘土張り遺構から17～18世紀の陶磁器や六道銭と思われる古銭(寛永通寶)などが出土し，第1号井戸から18世紀の肥前系磁器の碗が出土している。

ここでは，特に縄文時代の集落と中・近世の遺構についてまとめることにする。

1　縄文時代の集落について

確認された竪穴住居跡の時期は，縄文時代中期である。第3A号住居跡は中峠式期で，第2A・6・7・11・12・17・18・20・22・28・30・34・35A・36・48号住居跡は加曽利EIII式期で，第1・5号住居跡は加曽利EIV式期である。その他の住居跡は覆土中の出土遺物から縄文時代中期と判断した。平面形は，円形や楕円形である。周溝は第20号住居跡にのみ確認された。

住居跡の分布状況は，A地区の西側に密集し東側は少なくなり，さらにB地区になると数軒になる。時期別の分布を見ると，中峠式期はA地区の西側に1軒確認され，加曽利EIII式期はA地区の西側に数軒点在し，北側にある谷に向かって中央から東側にかけては半円状に配置されている。加曽利EIV式期はA地区の西側端に2軒確認されている。

次に，炉は住居跡51軒のうち39軒が保有している。なお，炉が無く柱穴の配置も不規則な遺構については竪穴状遺構として報告した。炉の種類は，地床炉が主体的に見られる。その中で，第2A・3A・17号住居跡の3軒は埋甕炉である。埋甕炉を近隣の同時代の遺跡に求めると，大谷津A遺跡では住居跡61軒中3軒，[(1)]大谷津B遺跡では住居跡55軒中3軒，[(2)]筒戸A遺跡では住居跡48軒中5軒，筒戸B遺跡では37軒中2軒[(3)]であり，当遺跡も含めて少ないことがわかる。埋甕炉に使用された土器

は，中峠式土器と加曽利EIII式土器であり，いずれも底部をぬいているものである。加曽利EIV式には見られなかった。

2　墓壙群について

A地区の南東側に第77・83・84A・84B・91・96A～E号墓壙がまとまって確認されている。第84A・96A号墓壙から五輪塔や宝篋印塔が出土し，第77・83号墓壙から六道銭(永楽通寶，宣徳通寶)が出土している。永楽通寶または宣徳通寶は中世から江戸時代初期まで六道銭として使用されている例があるため，墓壙の時期は確定できない。五輪塔の大きさは空・風輪の高さが17.0～21.0cm，火輪の高さが9.7～10.0cm，水輪の高さが9.1～9.9cm，地輪の高さが11cmで，いずれも幅25.0cm程である。宝篋印塔は2点(塔身・基礎)しか出土していないが，大きさは五輪塔とほぼ同じである。これらは小型の石塔に属するといえる。五輪塔・宝篋印塔は摩滅が著しいため，形状による時期判断は不可能である。その中で，第84A号墓壙から五輪塔と共に中世の土師質土器(灯明皿)が出土していることから，これらの墓壙群は中世までさかのぼることも考えられる。これらの石塔を伴う墓地は在地武士や名主層のものと考えられる。

3　粘土張り遺構について

粘土張り遺構はA地区全体に点在しており，未調査区を考えるとさらに広範囲に及ぶものと考えられる。

確認された粘土張り遺構の中で，第13・15・70・80・82・100・101A・101B号土坑から土師質土器(皿)，陶磁器(皿，碗，灯明受皿)，京焼系の化粧入れ，硯，六道銭と思われる古銭(寛永通寶)，煙管などが出土している。これらの出土遺物は，副葬品と考えられるため近世の墓壙と判断した。特に第15号土坑の粘土張り遺構Aは，底面から骨粉と六道銭と思われる古銭(寛永通寶他)が出土しているため，墓壙であることを裏付けている。

墓壙と判断した粘土張り遺構には次のような特徴が見られる。第13・15号土坑には粘土張り遺構A・B・C・Dと4基がグループで確認され，第80・82・101号土坑には粘土張り遺構A・Bと2基が対で確認されている。さらに，第70号土坑と第100号土坑は接しているため対になると考えられる。したがって，粘土張り遺構はいずれもグループまたは対になっていることから，家族または親族単位の墓であった可能性が考えられる。

その他の粘土張り遺構は，A地区の南東側にだけ確認されている。また，副葬品と思われる遺物は出土していないため，墓壙とは区別し「流し溜[4]」と判断した。特に，第69号土坑は底面に粘土を張り，側面に土器を埋め込み水が漏れないような構造になっている。「流し溜」の用途としては，「茶碗を洗ったり，米をといたりした汚水を溜めておく場所である[4]」と考えられている。

〈注・参考文献〉

(1) 茨城県教育財団「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３　大谷津Ａ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第28集　1985年

(2) 茨城県教育財団「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１　大谷津Ｂ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第18集　1983年

(3) 茨城県教育財団「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2　筒戸Ａ・Ｂ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第24集　1984年

(4) 千葉県文化財センター『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　館林，水砂，花前Ⅱ－Ⅰ』1982年

(5) 茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書16　南三島遺跡3・4区(1)」『茨城県教育財団文化財調査報告』第44集　1987年

(6) 茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書13　屋代Ｂ遺跡Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第33集　1986年

(7) 藪田嘉一郎編『五輪塔の起原』綜芸舎　1966年

(8) 藪田嘉一郎編著『宝篋印塔の起原　続五輪塔の起原』綜芸舎　1971年

(9) 扇浦　正義『江戸発掘』名著出版　1993年

(10) 流山市教育委員会『流山市埋蔵文化財調査報告vol.6　三輪野山第Ⅲ遺跡』　1987年

(11) 千葉県文化財センター『船橋市八木々谷遺跡(遠山塚群)』1984年

(12) 柴田　　徹「考古学のための岩石鑑定ミニ図鑑－王子ノ台遺跡出土石器をもとにした－」『東海大学校地内遺跡調査報告2』　1991年

(13) 国史大辞典編集委員会『國史大辞典6』吉川弘文館　1991年

(14) 国史大辞典編集委員会『國史大辞典14』吉川弘文館　1993年

(15) 新宿区内藤町遺跡調査会『放射5号線整理事業に伴う緊急発掘調査報告書　内藤町遺跡』　1992年

(16) 有田町史編纂委員会『有田町史　古窯編』　1987年

(17) 泉警察建設用地内遺跡発掘調査団『泉警察建設用地内遺跡発掘調査報告書　泉警察遺跡』　1993年

(18) 古泉　弘『江戸－都立一橋高校地点発掘調査報告』都立一橋高校内遺跡調査団　1985年

(19) 古泉　弘『江戸を掘る』柏書房　1983年

附　　章

西ノ脇遺跡から出土した炭化材の種類

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

西ノ脇遺跡（筑波郡谷和原村大字東栖戸字西ノ脇所在）は，小貝川左岸の台地（筑波稲敷台地）上に位置する。本遺跡では，これまでの発掘調査により古墳時代後期（鬼高式）の集落が検出された。このうち，SI-1住居址では，住居構築材と考えられる炭化材が床面上から検出された。このような炭化材が住居址から検出される例は，関東地方の各地で多く見られ，茨城県内でも岩井市高崎貝塚や水戸市白石遺跡等いくつかの遺跡で確認されている。

このような炭化材は，住居の構造や構築材の種類選択を考える上で重要な資料となる。そのため，今回の分析調査では住居構築材と考えられる炭化材について材同定を行い，当時の住居構築材の用材選択について検討する。

1．試　料

試料は，焼失住居址（SI-1）から土壌ごと一括採取された炭化材１点（YS SI-1 No.25）で，発掘調査時の所見では丸材とされている。

2．方　法

試料を乾燥させたのち，木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作製し，走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

3．結　果

試料は，コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種に同定された。クヌギ節の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を以下に記す。なお，和名・学名等は主として「原色日本植物図鑑　木本編〈II〉」（北村・村田，1979）に従い，一般的性質などについては「木の辞典　第２巻」（平井，1979）も参考にした。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.）

ブナ科

環孔材で孔圏部は１～３列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら放射状に配列する。大道管は管壁は厚く，横断面では円形，小道管は管壁は中庸～厚く，横断面では角張った円

形，ともに単独で，いずれも単穿孔を有する。放射組織は同姓，単列，1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

クヌギ節は，コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で，果実（いわゆるドングリ）が2年目に熟するグループで，クヌギ（*Quercus acutiessima* Carruthers）とアベマキ（*Q. variabilis* Blume ver. *brevipetiolata* Nakai）の2種がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州に，アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・九州（北部）に分布するが，中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で，材は重硬である。古くから薪炭材として利用され，人里近くに萌芽林として造林されることも多く，薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材，楫木などの用途が知られる。樹皮・果実はタンニン原料となり，果実は染料・試料ともなった。アベマキはクヌギによく似た高木で，樹皮のコルク層が発達して厚くなる。材質はクヌギに似るが，さらに重い。用途もクヌギと同様であるが，樹皮が厚いため薪材にはむかず，炭材としてもクヌギ・コナラより劣るとされる。

4．考察

同定されたクヌギ節は，これまでの報告事例から古墳時代の住居構築材として最も多く用いられた種類の一つと推定される。本遺跡周辺でも，水海道市奥山A遺跡の2号竪穴住居（古墳時代前期）や，西原遺跡の11号住居跡および13号住居跡（古墳時代後期前葉）等でクヌギ節やクヌギ節と同亜属のコナラ節が報告されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1986a，b）。今回の結果は，これまでの報告事例と同様に，クヌギ節の材を構築材として選択したことを示唆する。しかし，同定対象とした試料数が少ないために住居構築材の種類構成で，クヌギ節かどの程度の比率を占めていたのかは不明である。西原遺跡では，クヌギ節と共にヌルデの材も同定されており，クヌギ節以外の種類も構築材として使用されたことを示している。

今回同定を行った試料は，出土状況から垂木の可能性がある。柱材が耐久性や強度の高いことが必要であるのに対し，垂木は柱材ほどの強度や耐久性が無くても，その機能は充分果せたことと思われる。住居の規模や形態にもよるが，垂木の選択基準としてある程度の強度や耐久性とともに，木材の大きさ（径・長さ）や形状も重要な要素であったと考えられる。これらの基準を満たしていれば，クヌギ節以外の材でも使用したことが考えられる。とくに住居構築材は，使用する部位にもよるが，比較的大型で重量もあったことが推定される。このような材を，遠方から多大な労力を使って搬入したと考えるよりは，遺跡の周辺部において使用する部位に必要な条件をもった木材を採取したと考える方が妥当である。そのため，住居構築材の種類構成は遺跡周辺の植生と密接な関係があったと推定される。

また，焼失住居から検出される住居構築材は，火災とその後の埋積課程を経て残存したもので

あり，当時の組成を正確に反映しているとは断定できない。クヌギ節が多い結果は，クヌギ節の材が硬いため，比較的燃え残り易いことを反映しているとも考えられる。そのため，焼失住居址から検出された構築材の種類構成はこの同定を行う際には，可能な限り検出された試料全点について同定を行うことが望ましい。今回の調査では１点を対象としたが，出土状況を見るかぎりでは他にも垂木と推定される炭化材が検出されている。今後これらの炭化材についても同定を行い，本住居址の構築材の種類に関する資料を増やす必要があろう。

〈引用文献〉

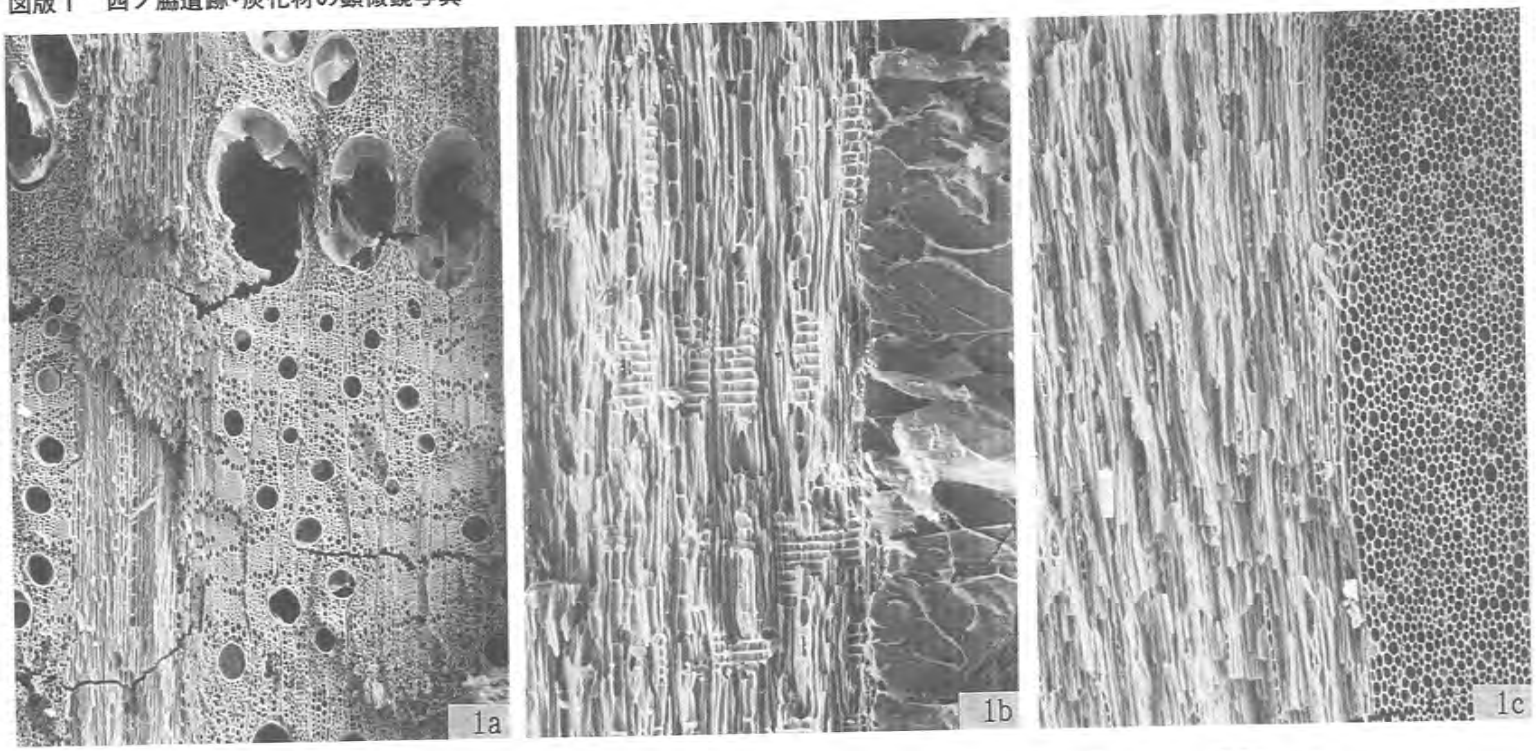
平井信二（1979）木の事典　第２巻．かなえ書房

北村四郎・村田　源（1979）原色日本植物図鑑　木本編〈II〉．545p.，保育社．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1986a）奥山Ａ遺跡出土試料炭化材同定報告．茨城県教育財団文化財調査報告書第31集「水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告２　奥山Ａ遺跡・奥山Ｃ遺跡・西原遺跡」，p．239-340，財団法人茨城県教育財団．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1986b）西原遺跡出土試料種子及び材同定報告．茨城県教育財団文化財調査報告書第31集「水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告２　奥山Ａ遺跡・奥山Ｃ遺跡・西原遺跡」，p．241-243，財団法人茨城県教育財団．

図版１　西ノ脇遺跡・炭化材の顕微鏡写真



1．コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種（YS SI-1 No.25）
　a：木口、b：柾目、c：板目

200μm：a
200μm：b、c

写 真 図 版

西 ノ 脇 遺 跡

前 田 村 遺 跡

西ノ脇遺跡出土土師器

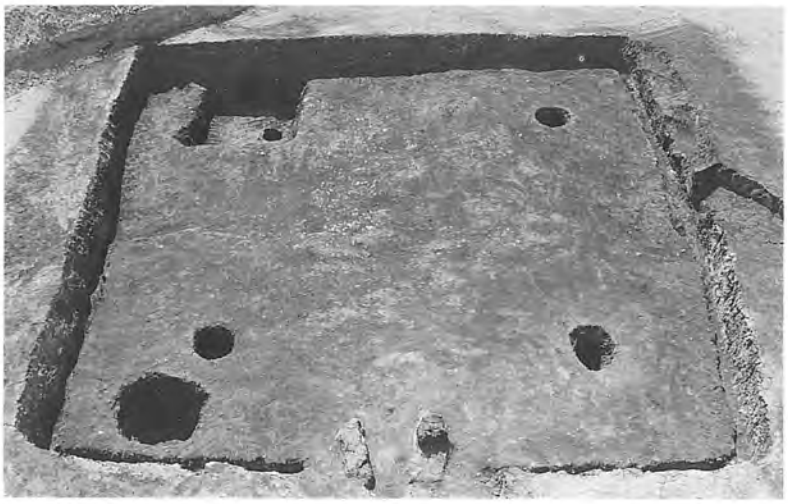
西ノ脇遺跡全景

前田村遺跡全景

西ノ脇遺跡
試掘風景

前田村遺跡
試掘

前田村遺跡
遺構確認



第１号住居跡

第１号住居跡
遺物出土状況

第１号住居跡
出土炭化材

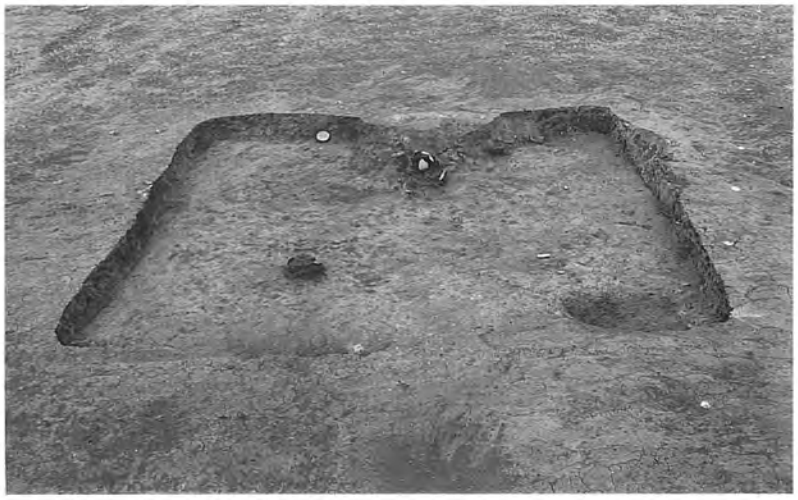
第２号住居跡

第２号住居跡
遺物出土状況

第２号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況

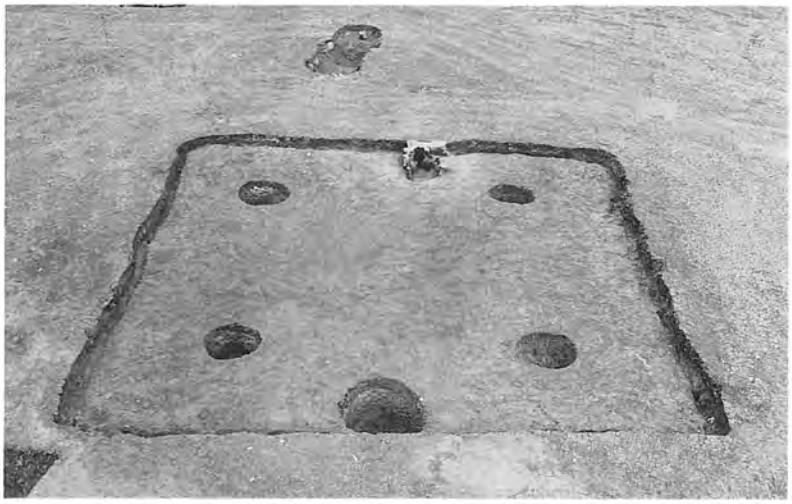
第４号住居跡

第６号住居跡



第６号住居跡
遺物出土状況

第６号住居跡竈



第７号住居跡

第７号住居跡
遺物出土状況

第７号住居跡竈

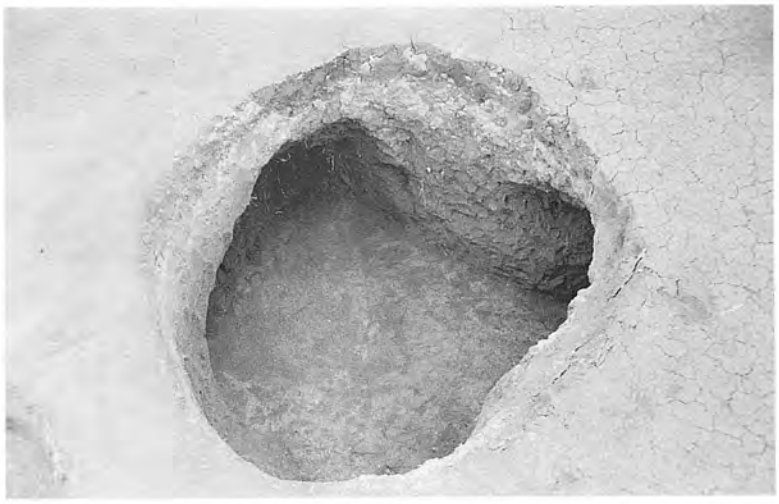
支脚（高坏転用）

遺構確認

第１号地下式壙

第２号地下式壙

第３号地下式壙



第４号地下式壙

第５号地下式壙

第６号地下式壙

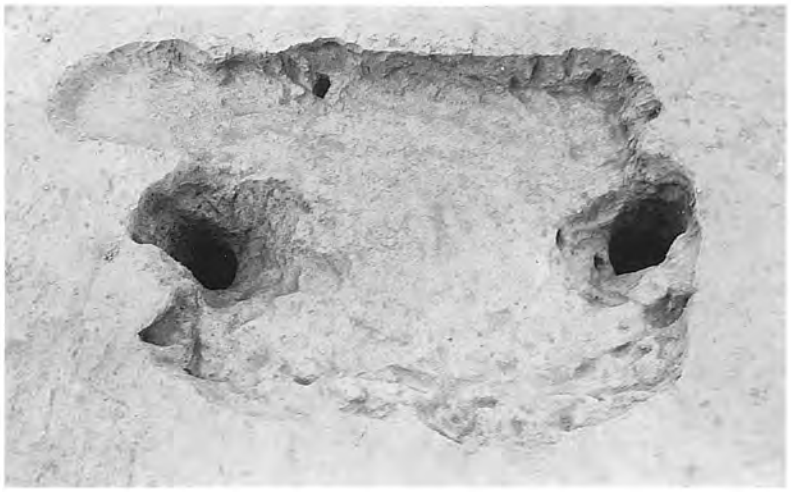
第７号地下式壙

第16号土坑
遺物出土状況

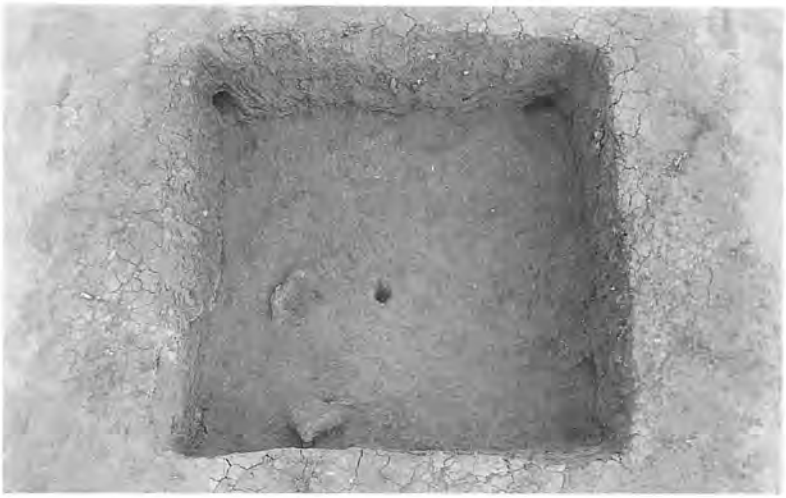
第17号土坑
遺物出土状況

第17号土坑
遺物出土状況

第70号土坑



第92号土坑



第112号土坑

第102号土坑

第102号土坑
出土人骨

第２号井戸

第３号井戸

第６号溝遺物出土状況

SI1-1

SI1-3

SI1-4

SI1-7

SI1-5

SI1-6

SI1-9

SI1-10

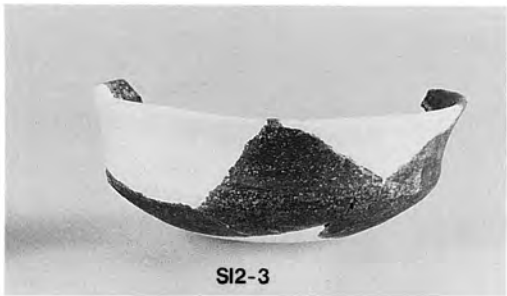
SI1-11

第１号住居跡出土土器

SI1-14

SI1-20

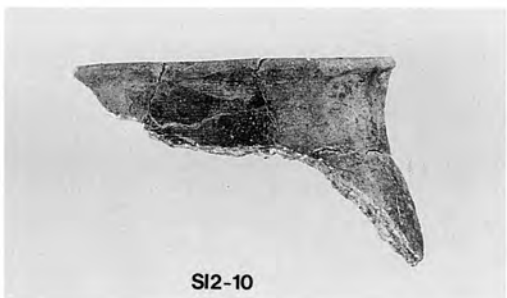
SI2-2


SI2-3

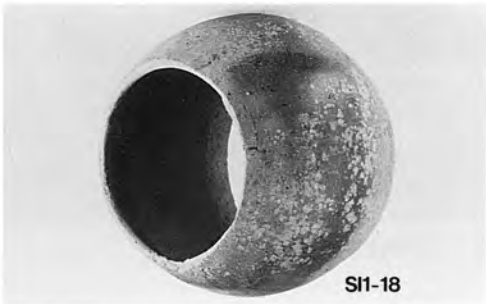
SI2-5

SI2-7

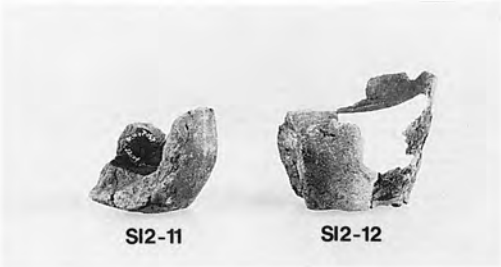
SI2-8

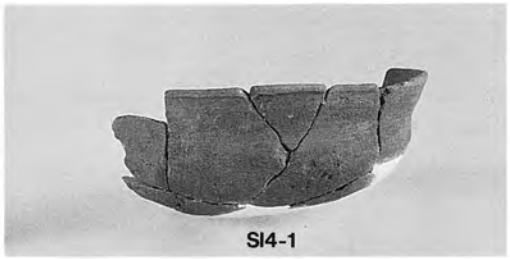

SI2-10

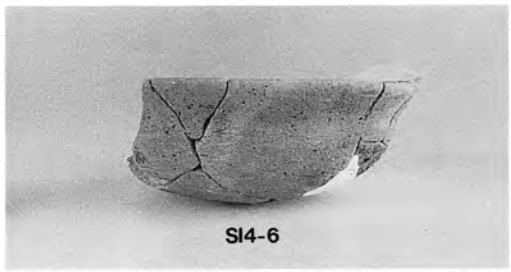
第1・2号住居跡出土土器



第１号住居跡出土土器





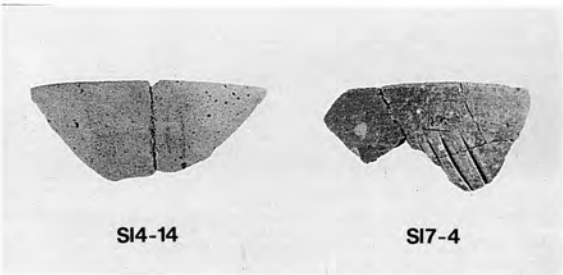


第2・4号住居跡出土土器

SI4-18

SI4-20

SI4-22


SI4-14 SI7-4

SI6-1

SI6-3

SI6-8

SI6-7

第4・6・7号住居跡出土土器

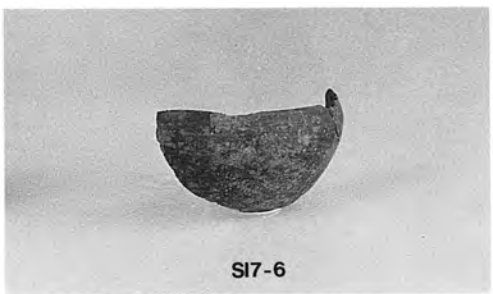
SI6-6

SI6-2

SI6-9

SI7-5

SI7-7



SI7-6

SI7-8

第6・7号住居跡出土土器

第4号地下式壙-1　第2号地下式壙-1

第6号地下式壙-2　第6号地下式壙-1

第3号地下式壙-1

第7号地下式壙-1

SK16-2

SK16-4

SK17-6

SK17-7

第2・3・4・6・7号地下式壙、第16・17号土坑出土土器

第６号地下式壙-4

第７号地下式壙出土炭化米

第７号地下式壙-2

第１・６・７号地下式壙、第６号溝出土遺物

第６号溝から出土したアカニシ

右上は第１号地下式壙から出土したアカニシ

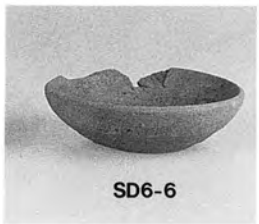
SD6-1

SD6-2

SD6-3

SD6-4

SD6-5


SD6-6

SD6-7

SD6-8

SD6-9

SD6-10

SD6-11

SD6-12

SD6-13

SD6-14

SD6-15

第６号溝出土土器(1)

SD6-17

SD6-18 SD6-19

SD6-20 SD6-21

SD6-22 SD6-23

SD6-25

SD6-27

SD6-30

SD6-28

SD6-29

SD6-37

第６号溝出土土器(2)

SD6-31

SD6-32

SD6-46

SD6-47

SD6-48

SD13-1

SE3-2

第６・13号溝、第３号井戸出土遺物

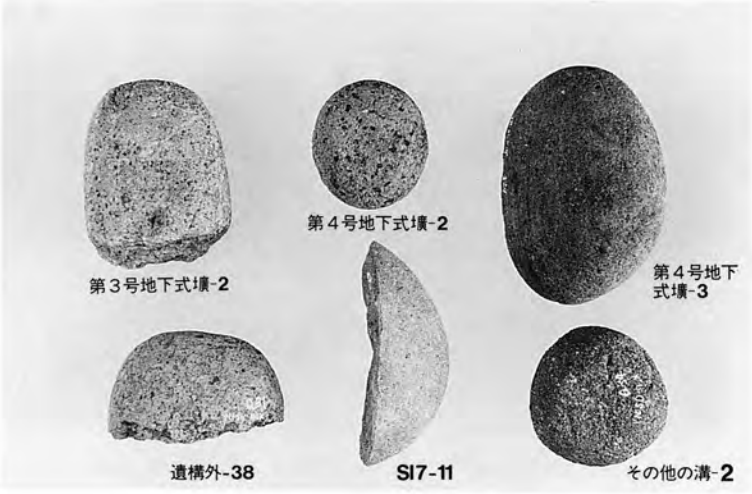
土製品

石　器

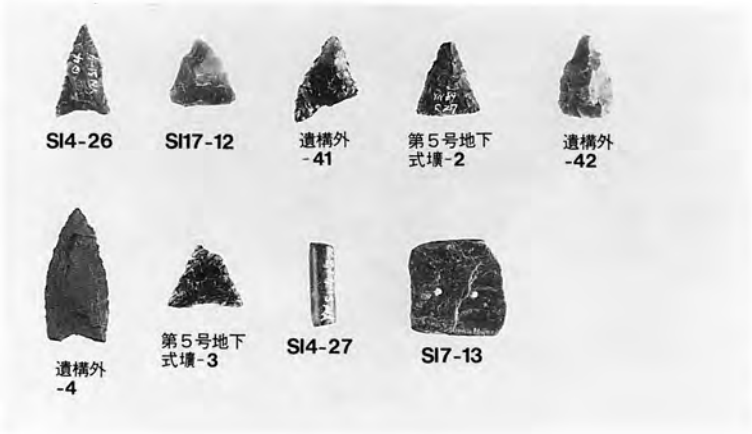
石　錘

砥　石

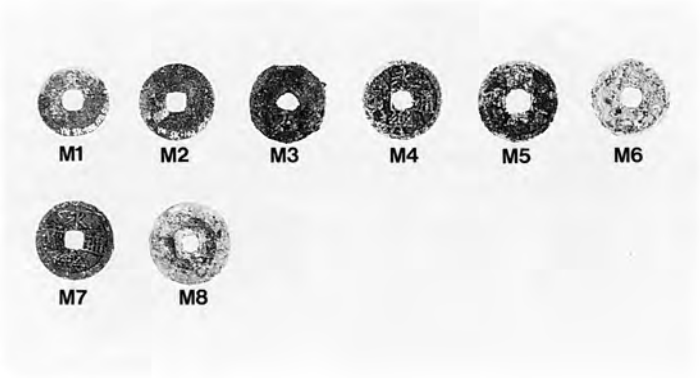
出土遺物(1)



磨　石



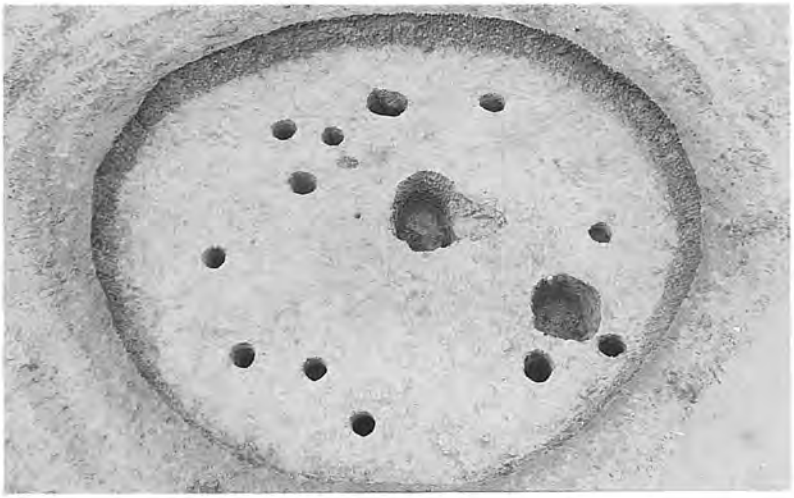
石製品



古　銭

出土遺物(2)

A 地区

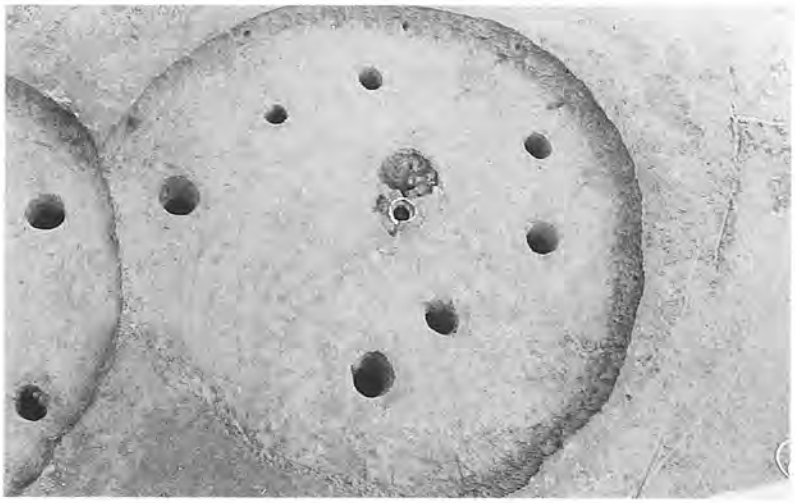


第 1 号住居跡

第 1 号住居跡
遺物出土状況

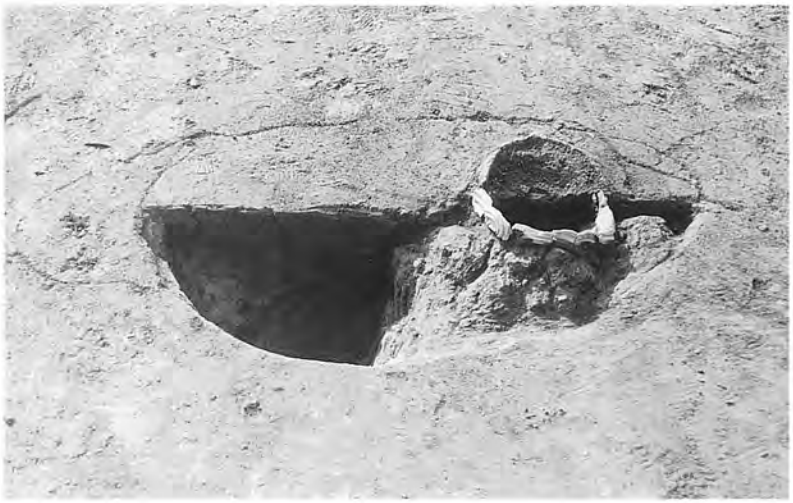
第２Ａ号住居跡

第２Ａ号住居跡
埋甕炉

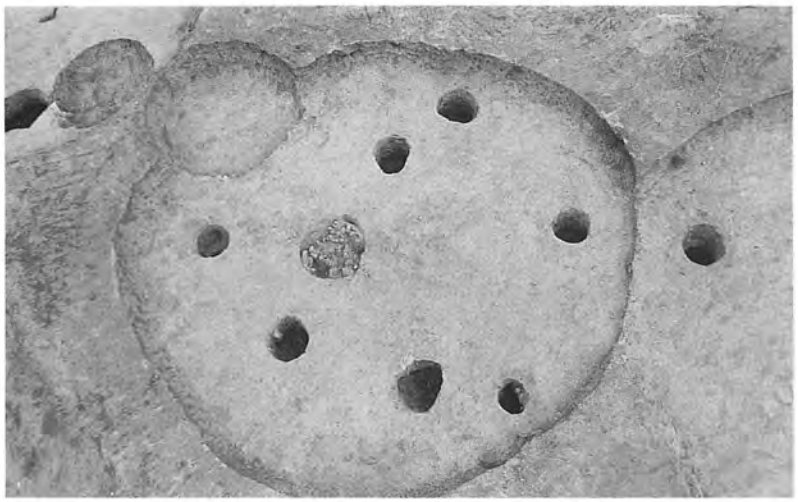


第３Ａ号住居跡

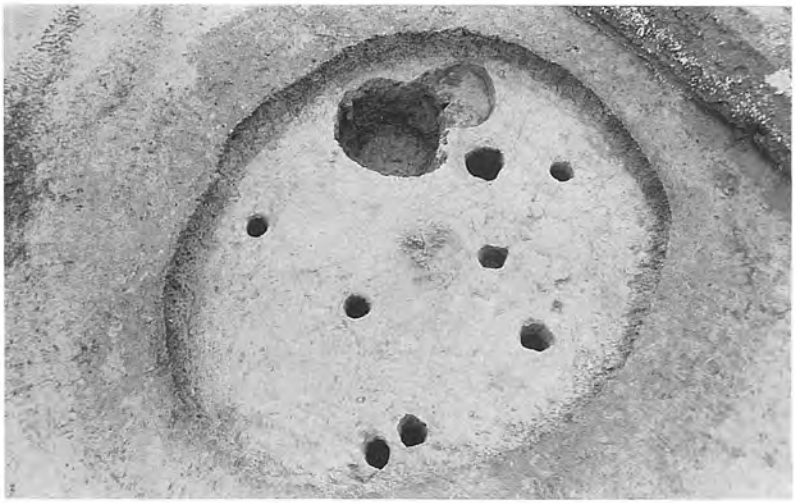
第３Ａ号住居跡
遺物出土状況



第３Ａ号住居跡
埋甕炉

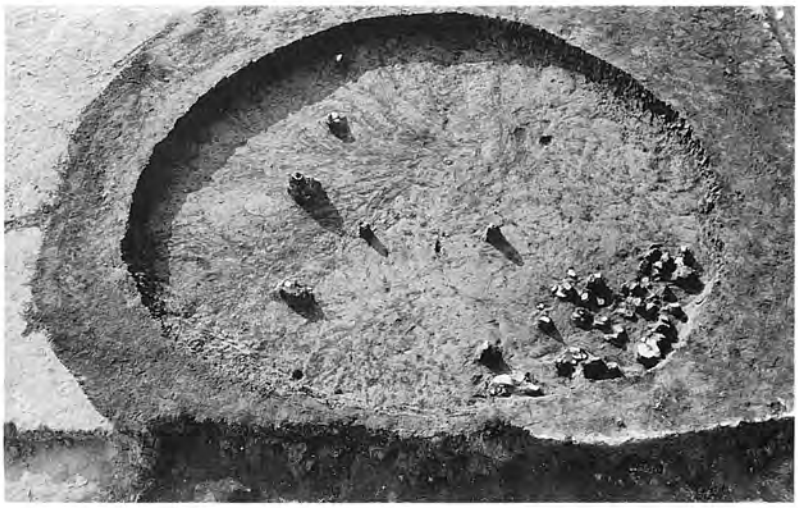


第３Ｂ号住居跡

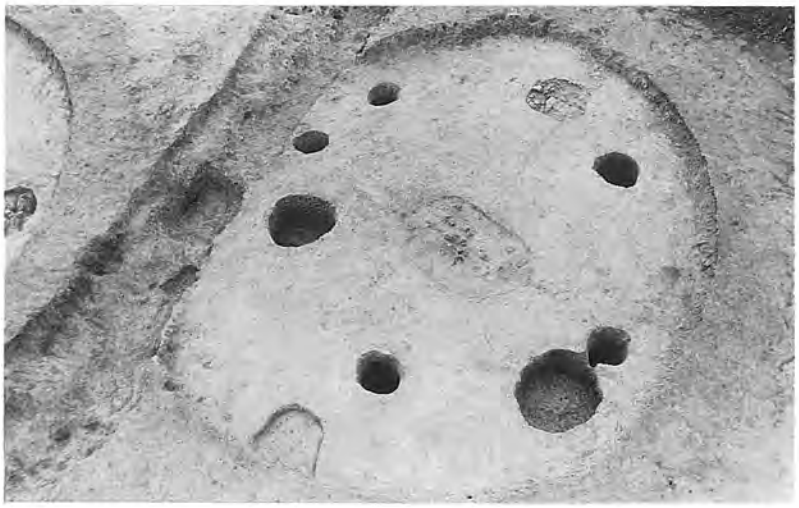


第４号住居跡

第５号住居跡



第５号住居跡
遺物出土状況

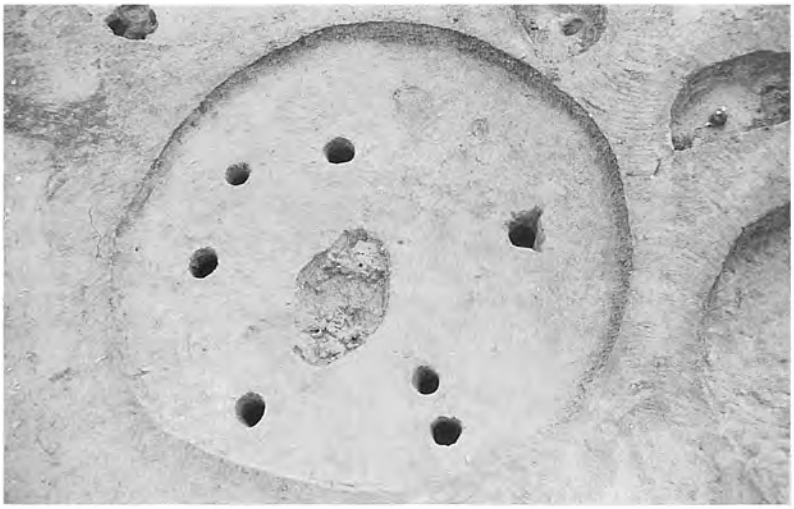


第６号住居跡

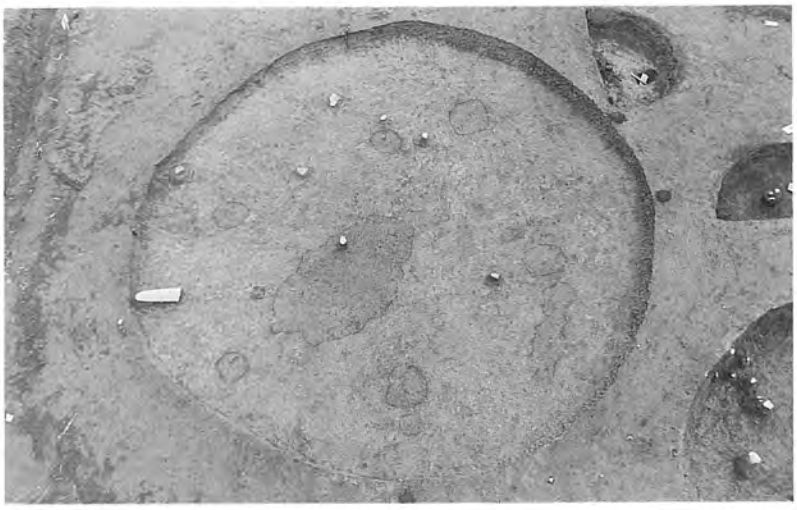
第７号住居跡

第７号住居跡
遺物出土状況

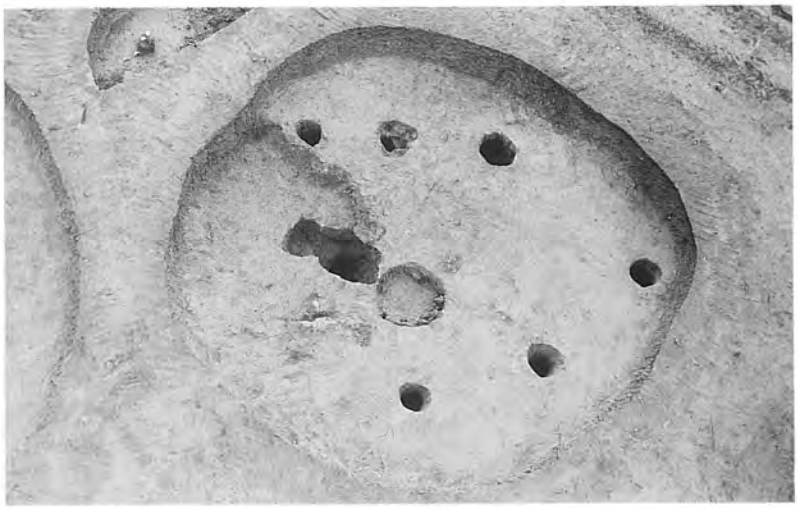
第８号住居跡



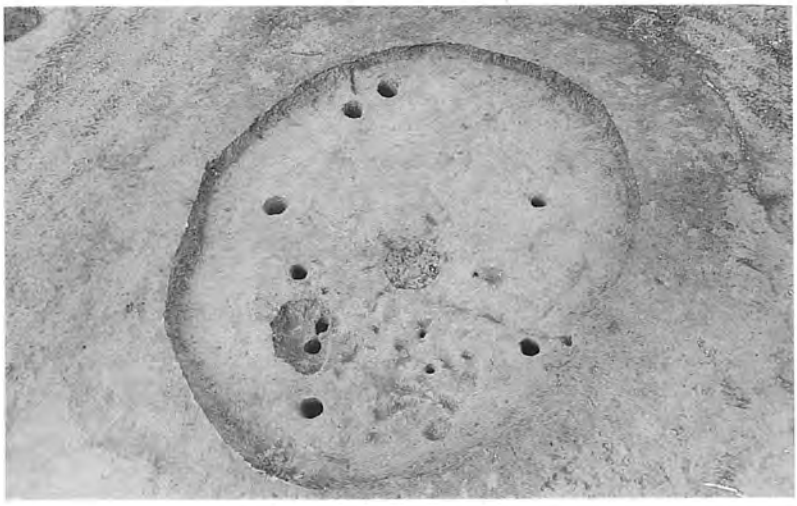
第９号住居跡



第９号住居跡
遺物出土状況

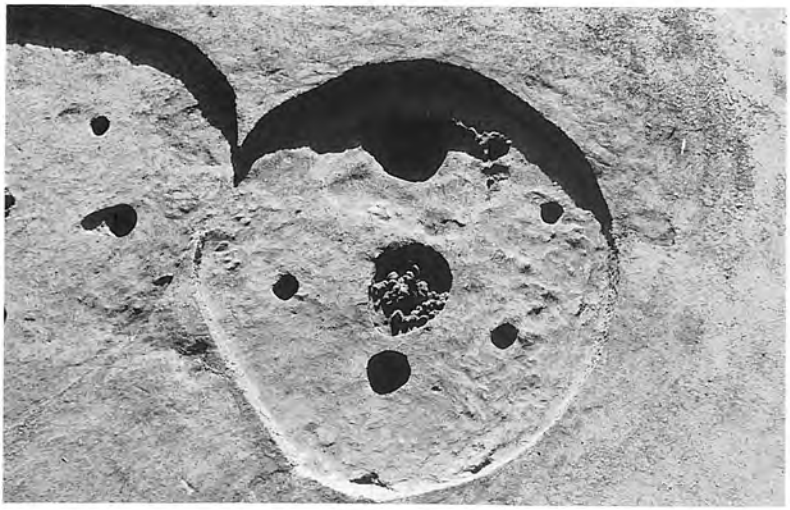


第10号住居跡



第11号住居跡

第12号住居跡

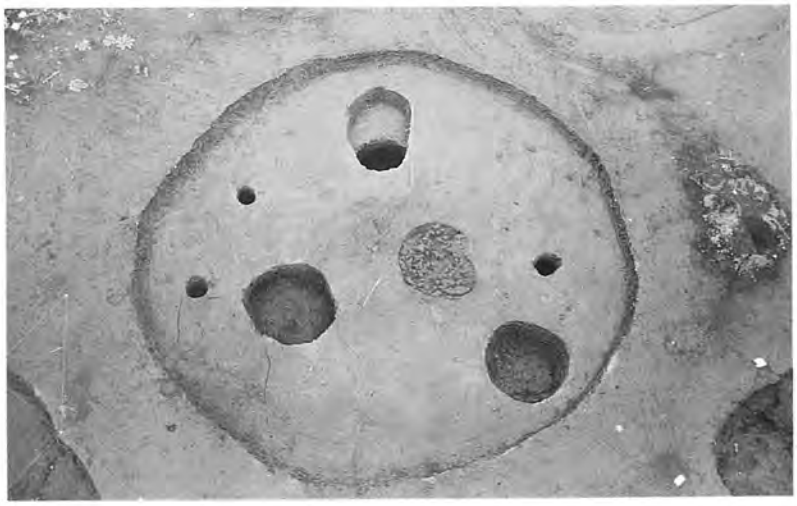


第13号住居跡

第15号住居跡

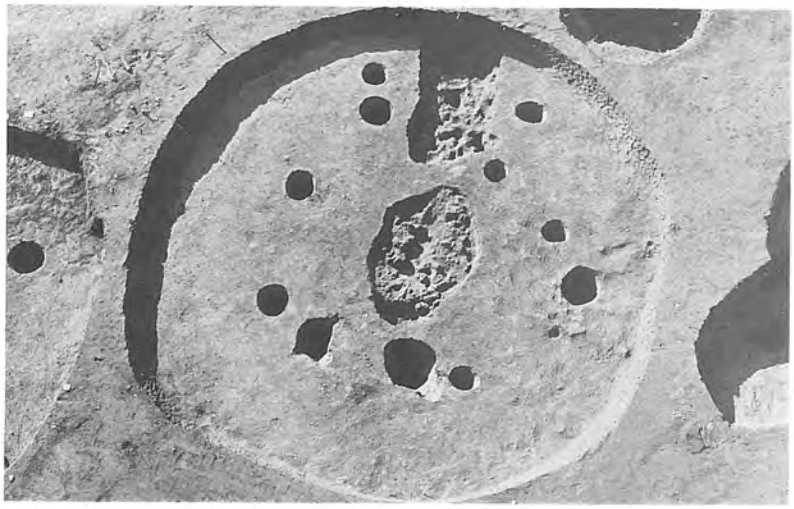
第15号住居跡
遺物出土状況

第16号住居跡



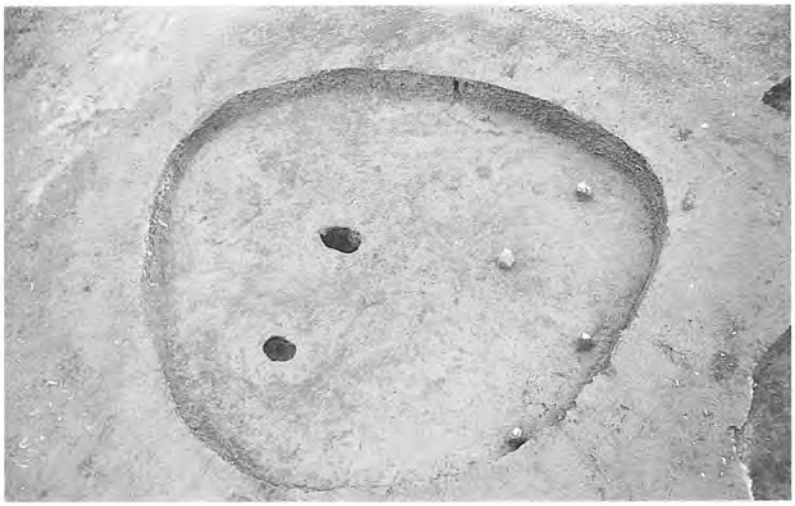
第17号住居跡

第17号住居跡
埋甕炉



第18号住居跡

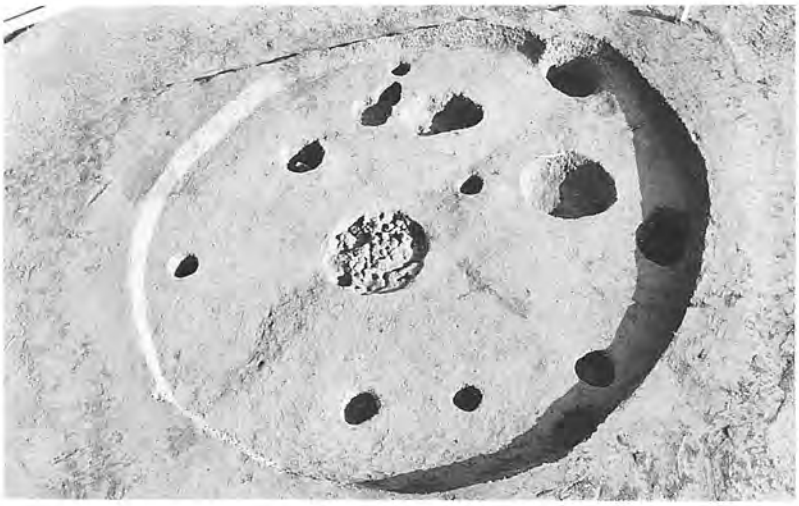
第18号住居跡
遺物出土状況



第19号住居跡

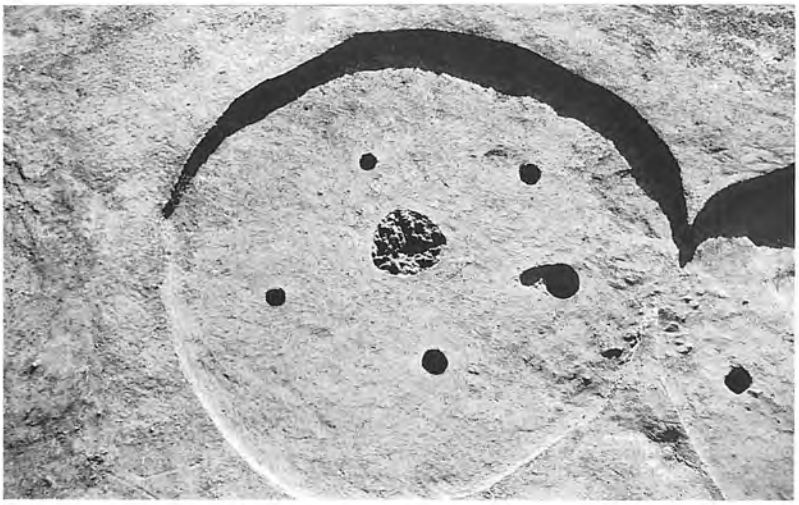
第20号住居跡

第20号住居跡
遺物出土状況

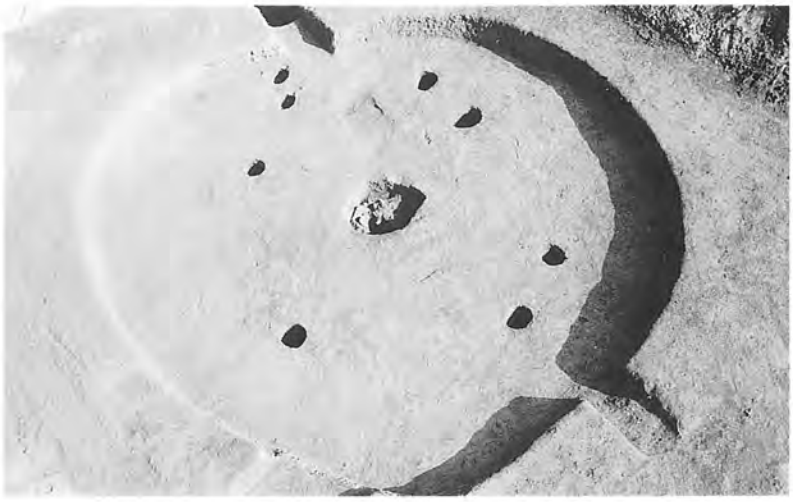


第21号住居跡

第21号住居跡
遺物出土状況



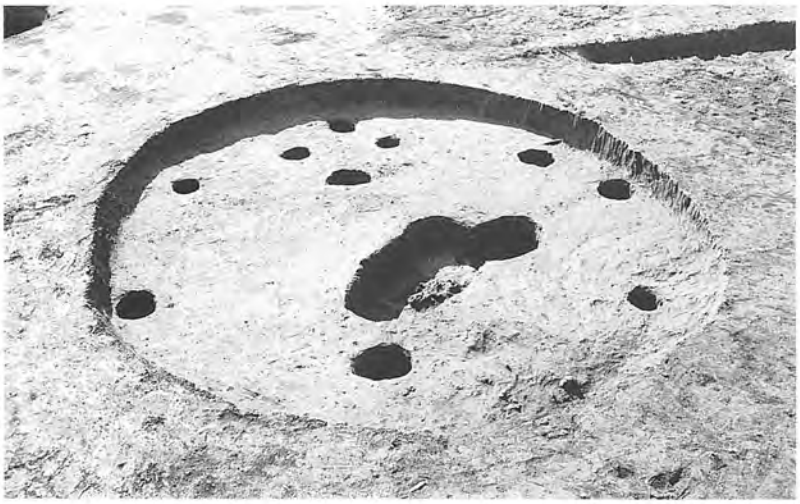
第22号住居跡



第26号住居跡

第26号住居跡
遺物出土状況

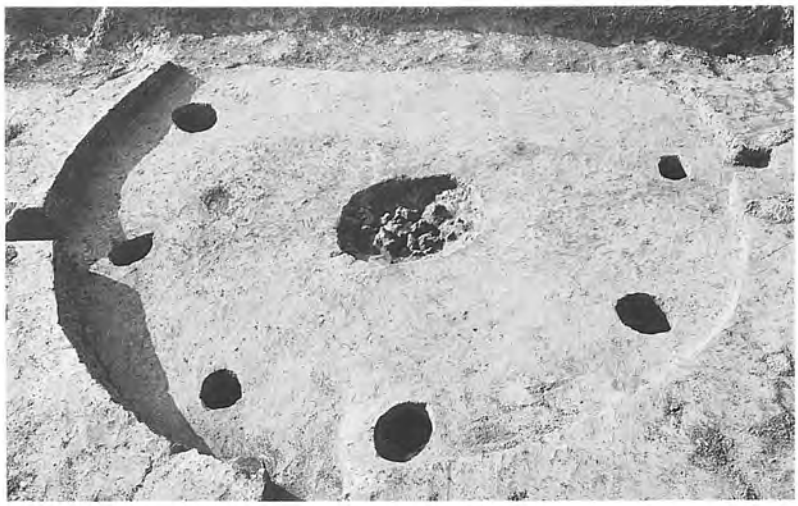
第27号住居跡



第28号住居跡

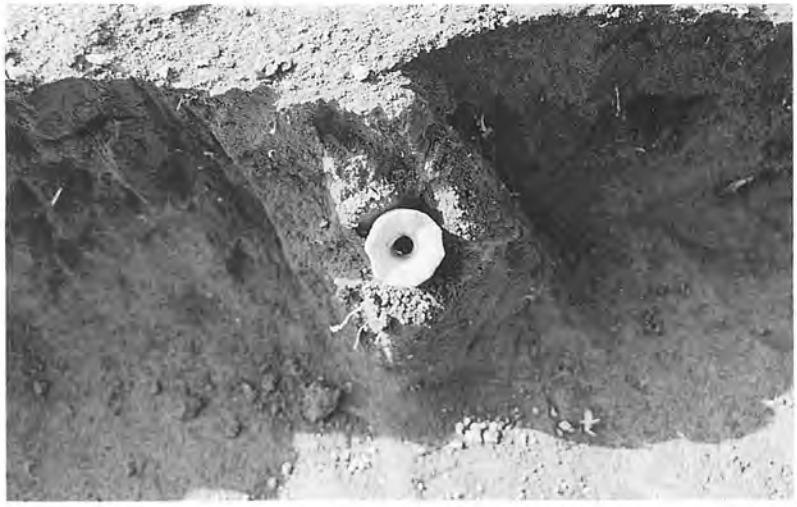
第28号住居跡
遺物出土状況

第30号住居跡

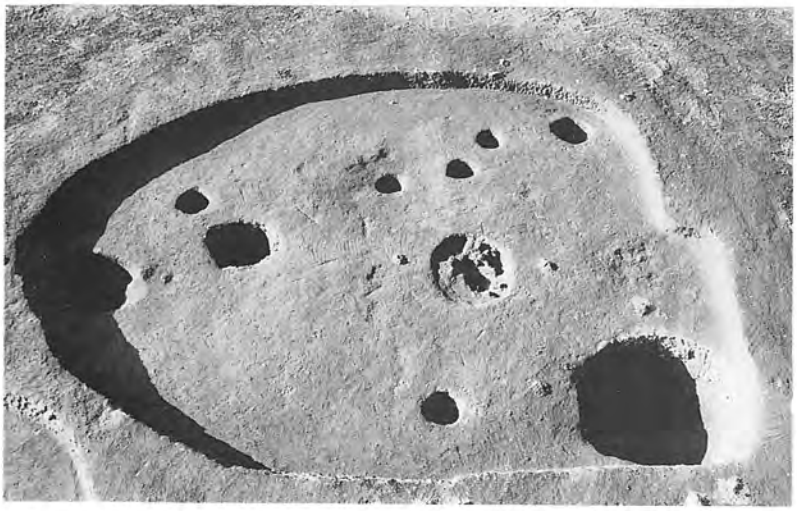


第31号住居跡

第31号住居跡
遺物出土状況



第31号住居跡
出土耳栓

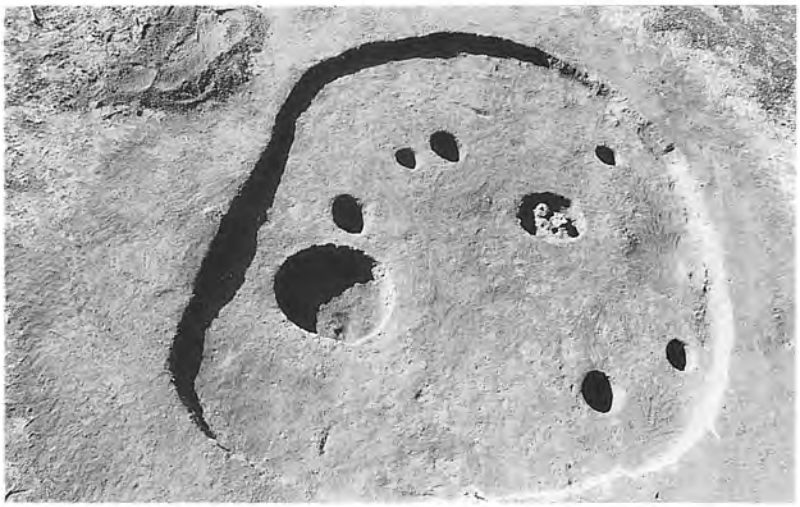


第32号住居跡

第32号住居跡
遺物出土状況

第32号住居跡
出土深鉢形土器

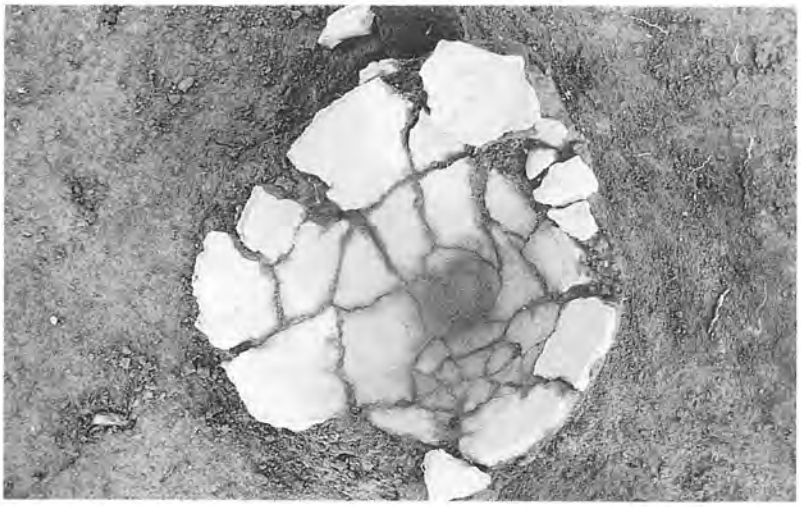
第33号住居跡



第34号住居跡

第35 A 号住居跡

第35 A 号住居跡
遺物出土状況



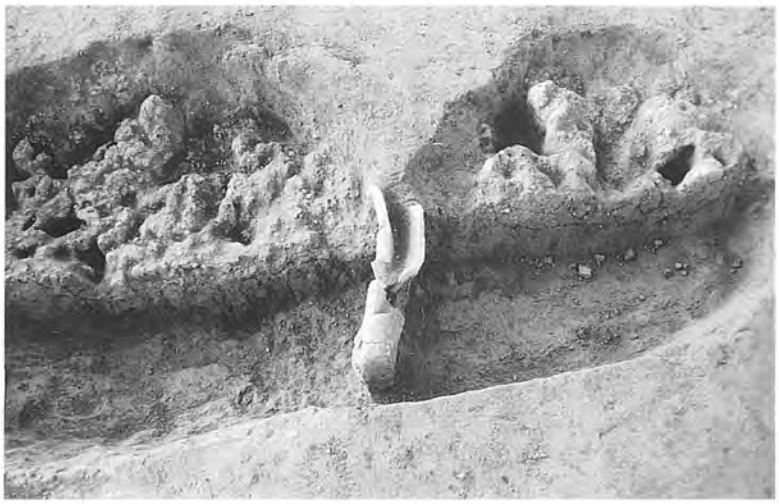
第35 A 号住居跡
出土深鉢形土器

第35 A 号住居跡
出土有孔円板

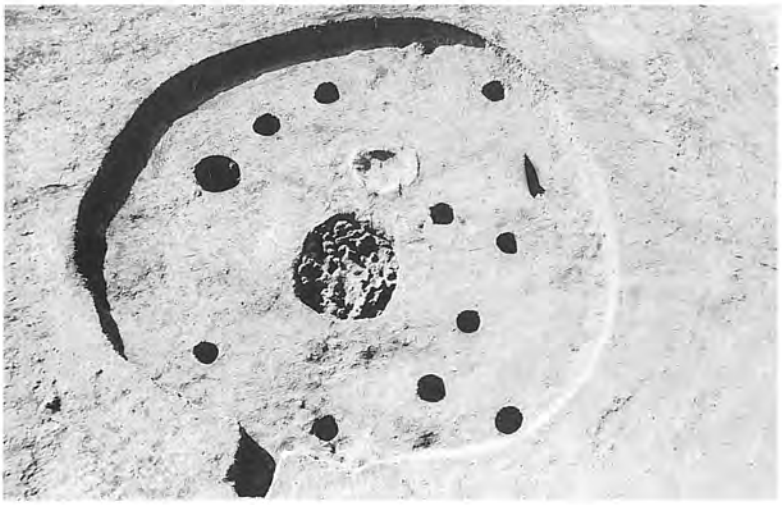
第35B号住居跡

第36号住居跡

第36号住居跡
遺物出土状況



第36号住居跡
複式炉



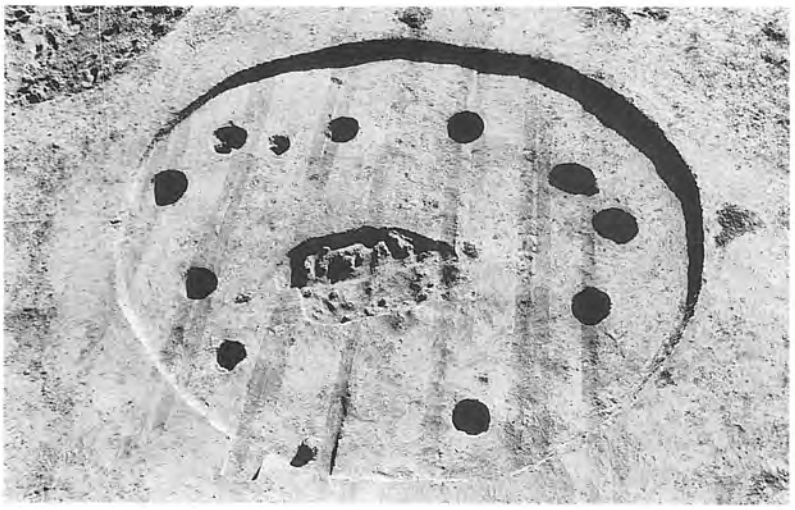
第37号住居跡

第37号住居跡
遺物出土状況

第38号住居跡

第39号住居跡

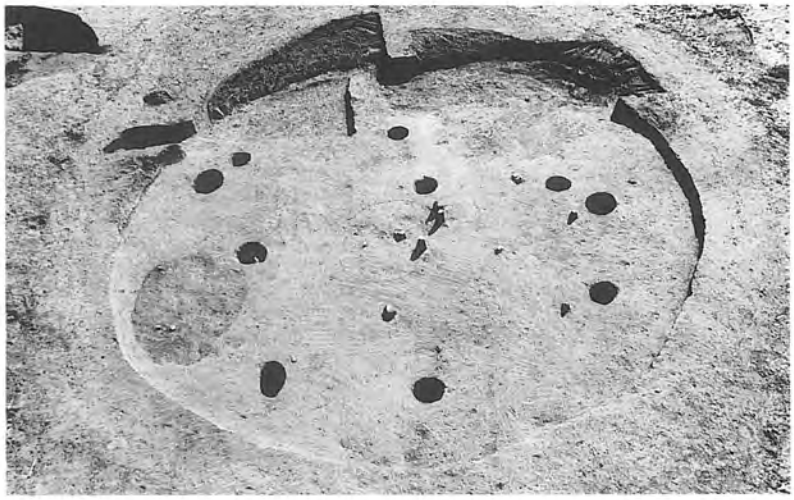
第43号住居跡



第45号住居跡

第45号住居跡
遺物出土状況

第46号住居跡



第48号住居跡

第51号住居跡

第13号土坑(粘土張り遺構)

第13号土坑(粘土張り遺構A)

第13号土坑(粘土張り遺構D)

第13号土坑(粘土張り遺構B)

第15号土坑(粘土張り遺構)遺物出土状況

第15号土坑(粘土張り遺構A)遺物出土状況

第69号土坑(粘土張り遺構)

第70号土坑(粘土張り遺構)

第70号土坑(粘土張り遺構)遺物出土状況

第70・100号土坑(粘土張り遺構),第99号土坑

第100号土坑(粘土張り遺構)

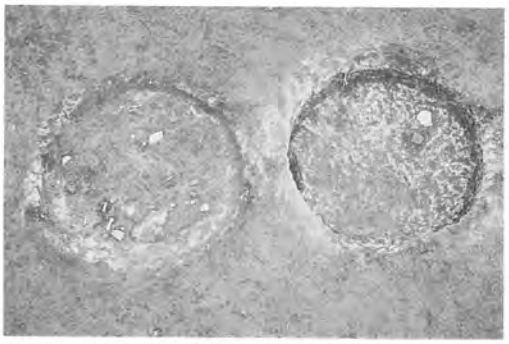
第79号土坑(粘土張り遺構)

第80号土坑(粘土張り遺構)

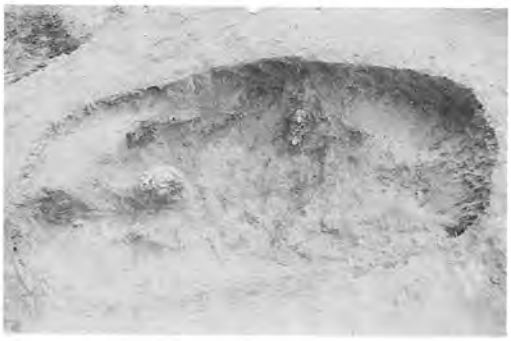
第80号土坑(粘土張り遺構)遺物出土状況

第90号土坑(粘土張り遺構)遺物出土状況

第101A・101B号土坑(粘土張り遺構)

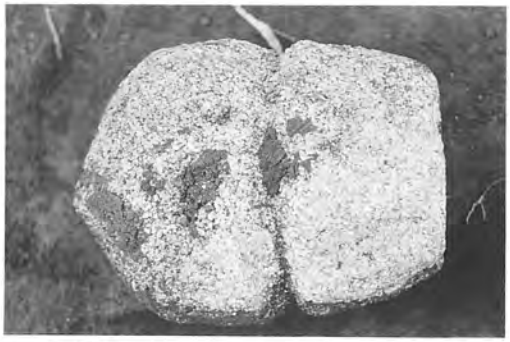


第101A・101B号土坑(粘土張り遺構)遺物出土状況



第83号土坑出土歯

第96B号土坑出土人骨



第96A号土坑出土五輪塔

第108号土坑

第154号土坑

第153号土坑

第128号土坑

第１号土坑遺物出土状況

第６号土坑遺物出土状況

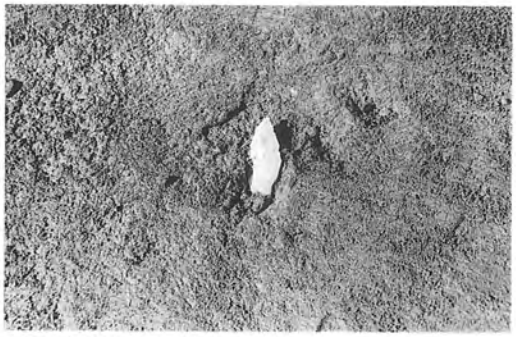
第43号土坑遺物出土状況

第47号土坑遺物出土状況

第４号溝

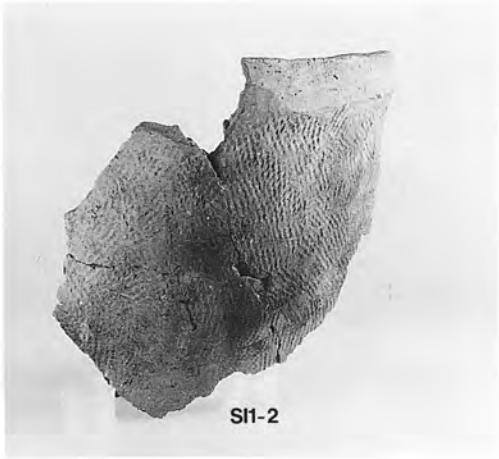
第５号溝

中世の墓壙群



旧石器時代出土剝片

SI1-1


SI1-2

SI2A-3

SI2B-1

SI2B-2

SI3A-1

SI5-2

SI5-3

第１・２Ａ・２Ｂ・３Ａ・５号住居跡出土土器

SI6-2

SI6-3

SI7-2

SI9-1

SI12-3

SI17-2

SI17-1

SI17-3

第6・7・9・12・17号住居跡出土土器

SI18-3

SI20-1

SI20-3

SI21-1

SI25-1

SI28-1

SI26-1

第18・20・21・25・26・28号住居跡出土土器

I

第28・30～32号住居跡出土土器

SI32-2

SI34-2

SI35A-2

SI36-1

SI37-1

SI48-1

第32・34・35A・36・37・48号住居跡出土土器

SK1-1

SK6-3

SK6-2

SK6-1

SK6-4

第1・6号土坑出土土器

SK43-1

SK47-1

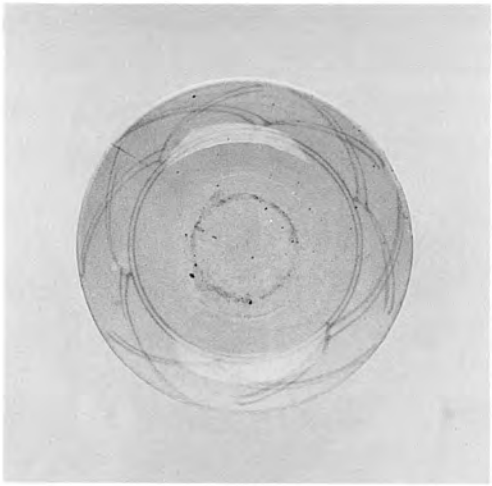
その他の土坑-1

SK69-1

第47・69号・その他の土坑出土土器

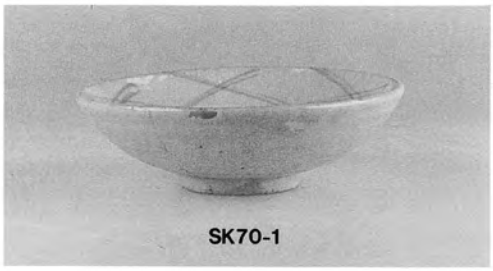
SK12-2

SK15-3



SK101A-1

その他の土坑-2


SK70-1

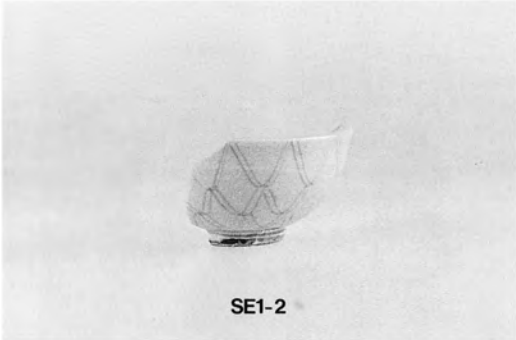
その他の土坑-3

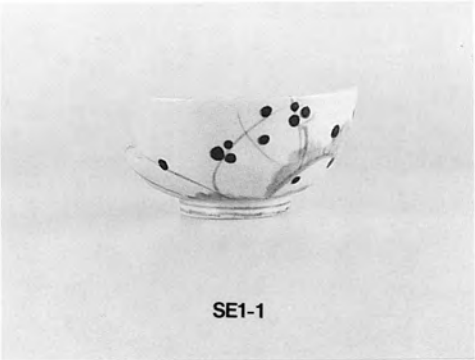
SK82-1

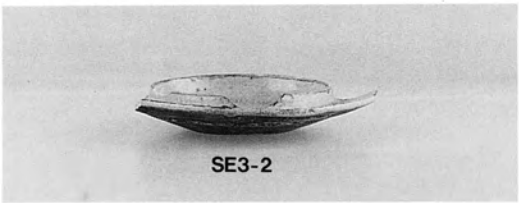
遺構外-120

第12・15・70・82・101 A 号・その他の土坑，遺構外出土陶磁器

SD1-1


SE1-2

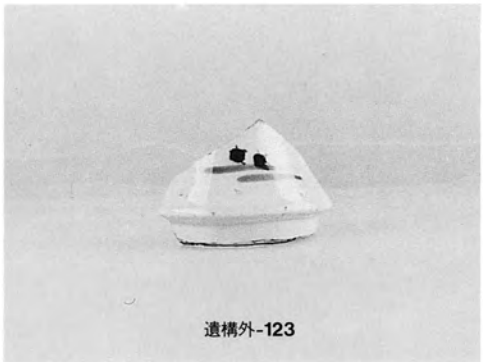

SE1-1


SE3-2

遺構外-112

遺構外-101

遺構外-122


遺構外-123

第１号溝，第１・２・３号井戸，遺構外出土墨書土器，陶磁器

SD1-2

SE3-1

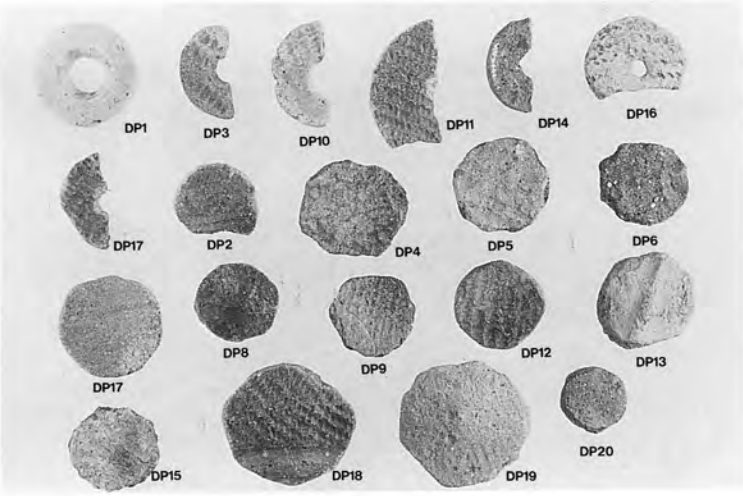
遺構外-36

遺構外-37

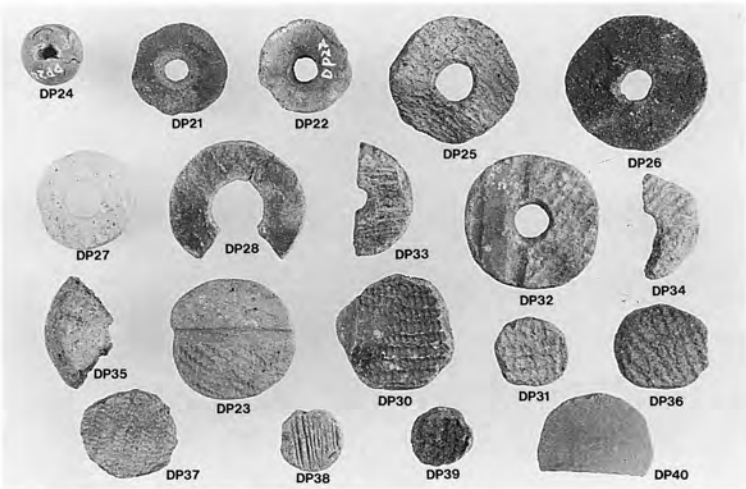
遺構外-38

遺構外-100

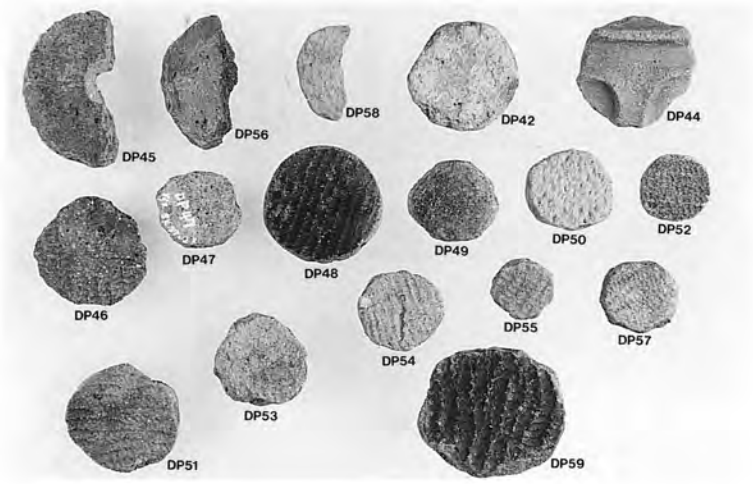
第１号溝，第３号井戸，遺構外出土土器

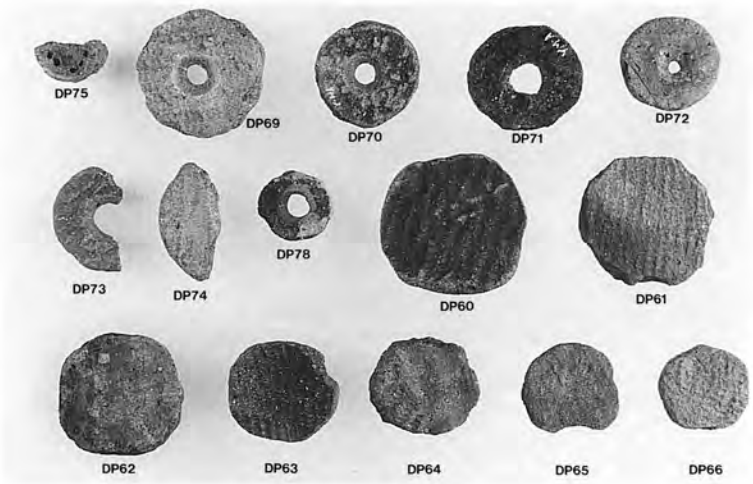


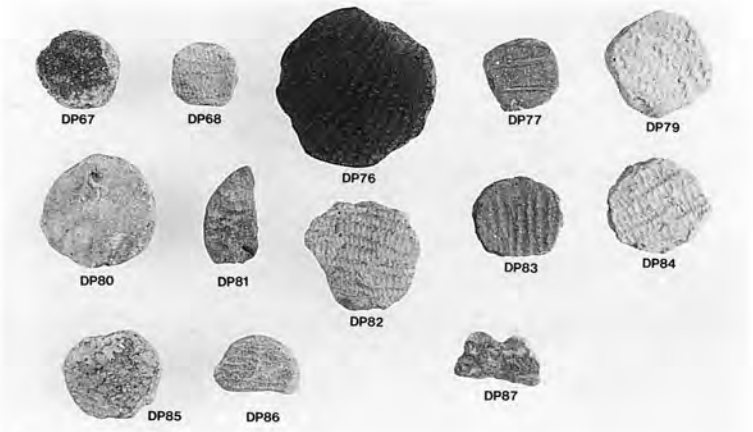
土製品



遺構外出土土器, 土製品


DP45
DP56
DP58
DP42
DP44
DP46
DP47
DP48
DP49
DP50
DP52
DP55
DP57
DP54
DP53
DP51
DP59

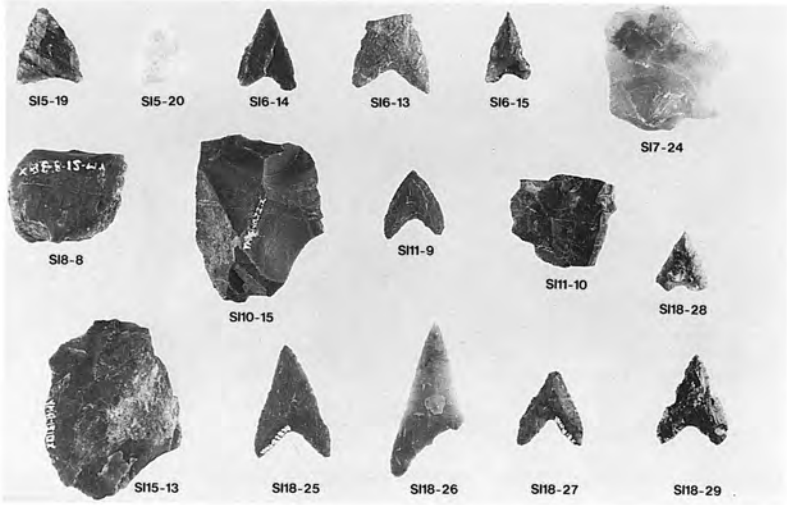

DP75
DP69
DP70
DP71
DP72
DP73
DP74
DP78
DP60
DP61
DP62
DP63
DP64
DP65
DP66

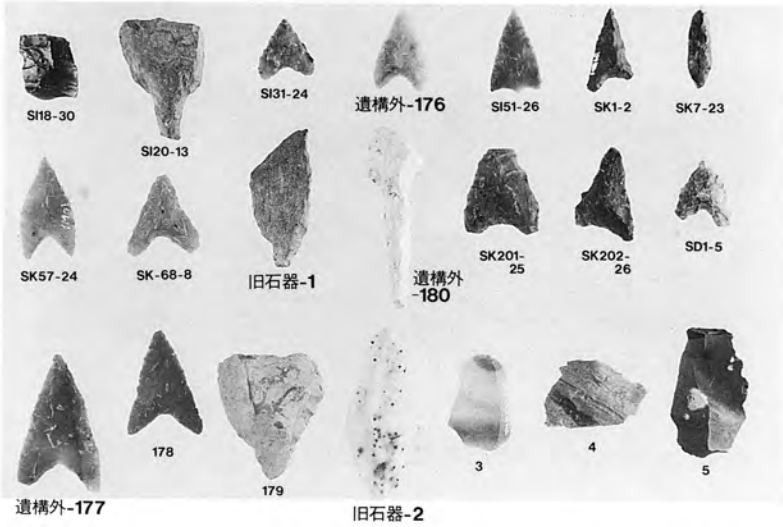

DP67
DP68
DP76
DP77
DP79
DP80
DP81
DP82
DP83
DP84
DP85
DP86
DP87

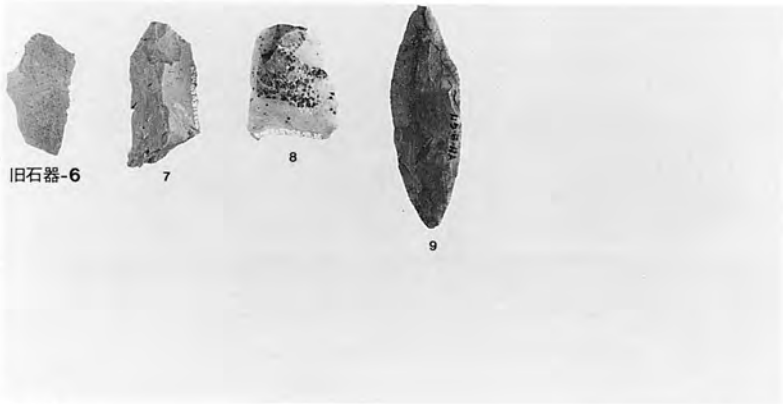
土製品

表採出土
陶磁器片

表採出土陶磁器片，第９号住居跡出土石棒


SI5-19
SI5-20
SI6-14
SI6-13
SI6-15
SI7-24
SI8-8
SI10-15
SI11-9
SI11-10
SI18-28
SI15-13
SI18-25
SI18-26
SI18-27
SI18-29


SI18-30
SI20-13
SI31-24
遺構外-176
SI51-26
SK1-2
SK7-23
SK57-24
SK-68-8
旧石器-1
遺構外
-180
SK201-
25
SK202-
26
SD1-5
178
179
3
4
5
遺構外-177
旧石器-2


旧石器-6
7
8
9

石製品

SK84A-2

SK84A-3

SK84A-5

SK84A-4

SK84A-6

SK84A-7

第84 A 号土坑出土五輪塔，宝篋印塔

SK84A-8

SK84A-9

SK84A-10

SK84A-11

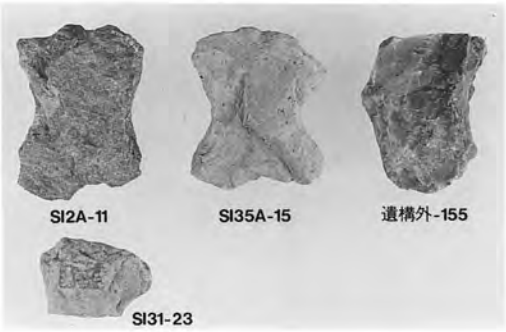
SK96A-1

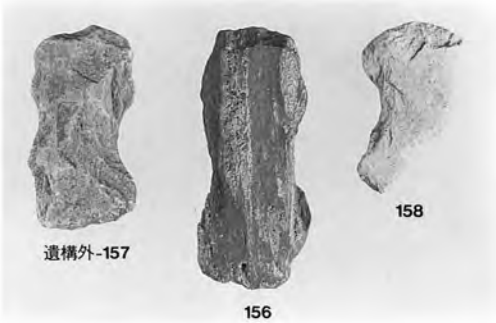
SK96A-2

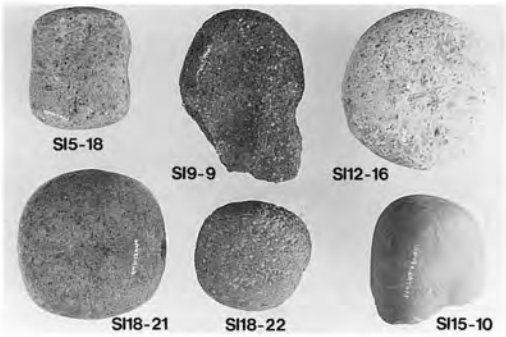
第84A・96A号土坑出土五輪塔

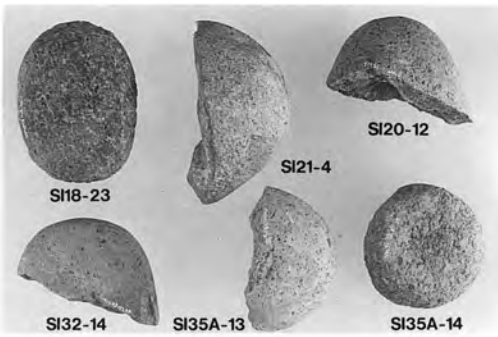
SI1-17
SI2A-12
SI2A-13
SI7-23
SI26-8
SK11-14
SK15-9
SI35A-16

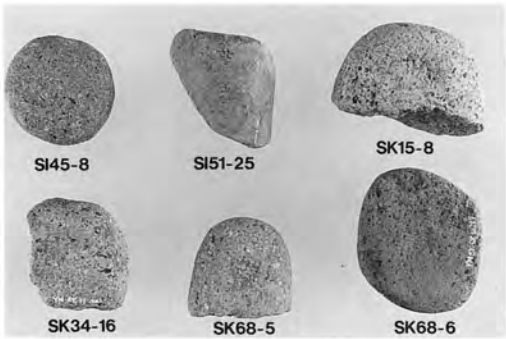
SI5-17
遺構外-154
SK32-15

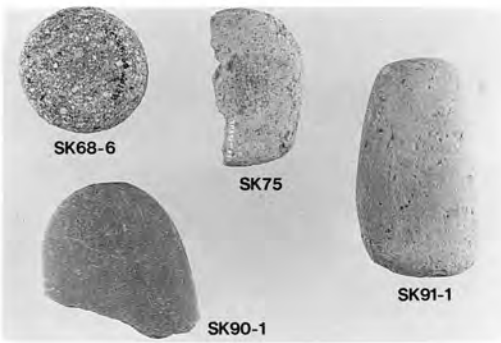

SI2A-11
SI35A-15
遺構外-155
SI31-23


遺構外-157
158
156

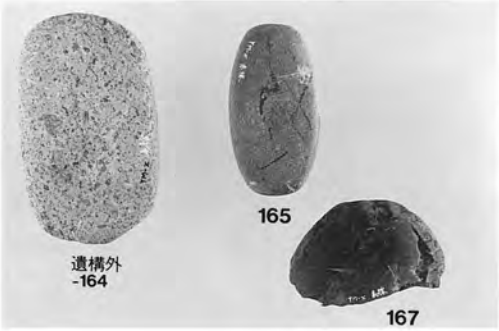

SI5-18
SI9-9
SI12-16
SI18-21
SI18-22
SI15-10


SI20-12
SI21-4
SI18-23
SI32-14
SI35A-13
SI35A-14


SI45-8
SI51-25
SK15-8
SK34-16
SK68-5
SK68-6

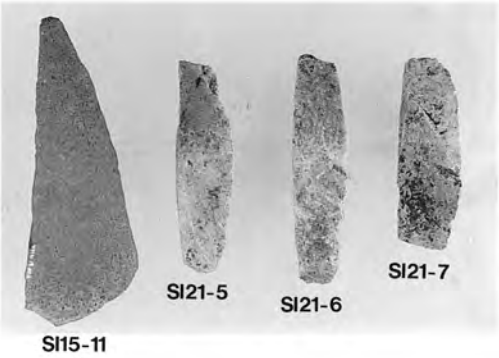

SK68-6
SK75
SK91-1
SK90-1

石器(1)


遺構外
-164
165
167

SK202-19
SD8-4
遺構外-163
遺構外-166

遺構外-162
遺構外-161
SI2A-15
SI51-27
SK68-7


SI15-11
SI21-5
SI21-6
SI21-7

SK52-21
SK12-4
SK30-20
SK70-2
SK88-22

SK90-3
SK90-4
SD5-1
SD8-5
SK90-2
遺構外
-172

171
173
174
遺構外
-170
175

石器(2)

SI16-5 遺構外-160 遺構外-159

SI15-12
SI52-4
SI2A-14

SI12-17 SK100-1 遺構外-153

SI15-9

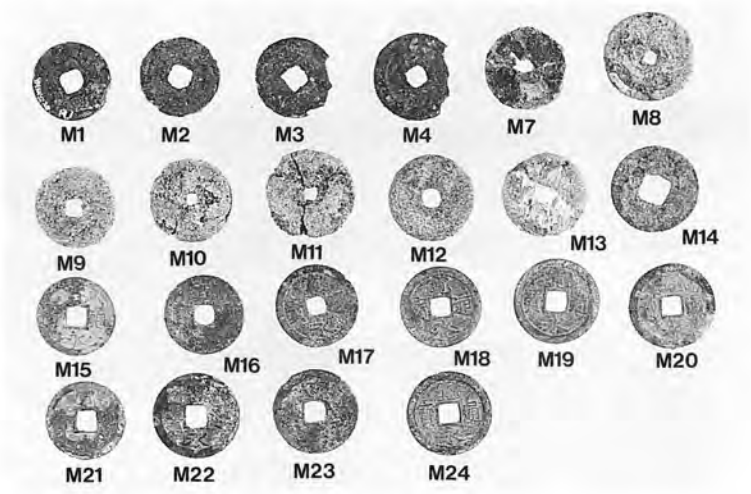
SI10-15 SI32-15

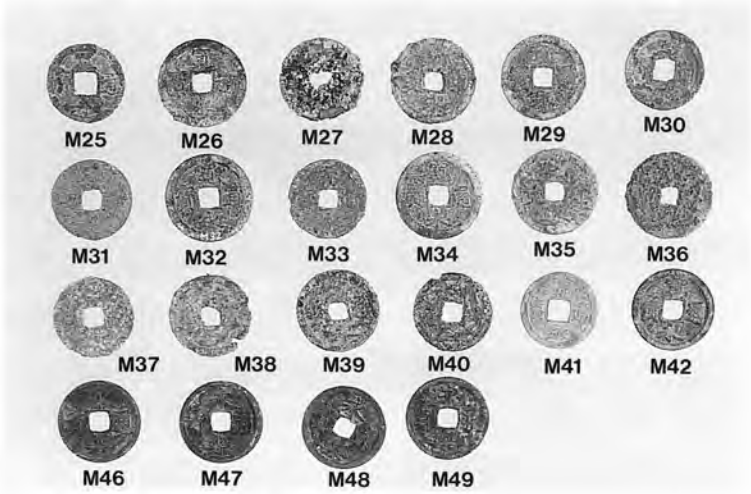
遺構外-169

遺構外-168

SI18-24 SI32-13

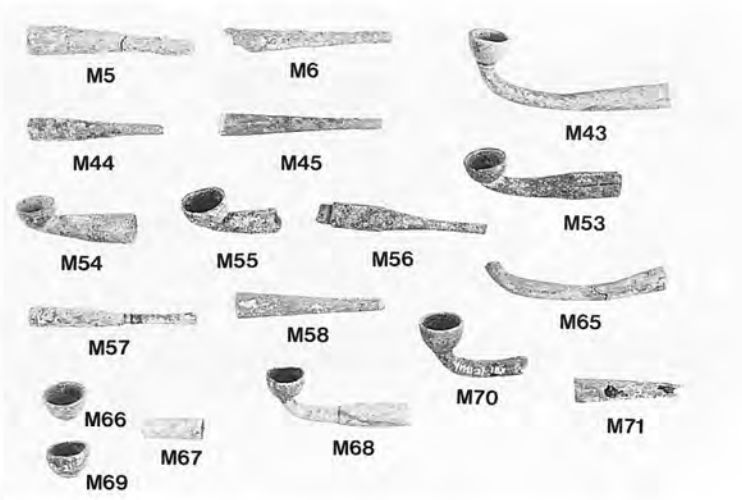
石器(3)


M1
M2
M3
M4
M7
M8
M9
M10
M11
M12
M13
M14
M15
M16
M17
M18
M19
M20
M21
M22
M23
M24


M25
M26
M27
M28
M29
M30
M31
M32
M33
M34
M35
M36
M37
M38
M39
M40
M41
M42
M46
M47
M48
M49

M50
M51
M52
M59
M60
M61
M62
M63
M64
M72
M73
M74
M75

古 銭


M5
M6
M43
M44
M45
M53
M54
M55
M56
M65
M57
M58
M70
M66
M71
M67
M68
M69

煙　管

茨城県教育財団文化財調査報告第87集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1

西ノ脇遺跡
前田村遺跡

平成6年3月15日　印刷
平成6年3月31日　発行

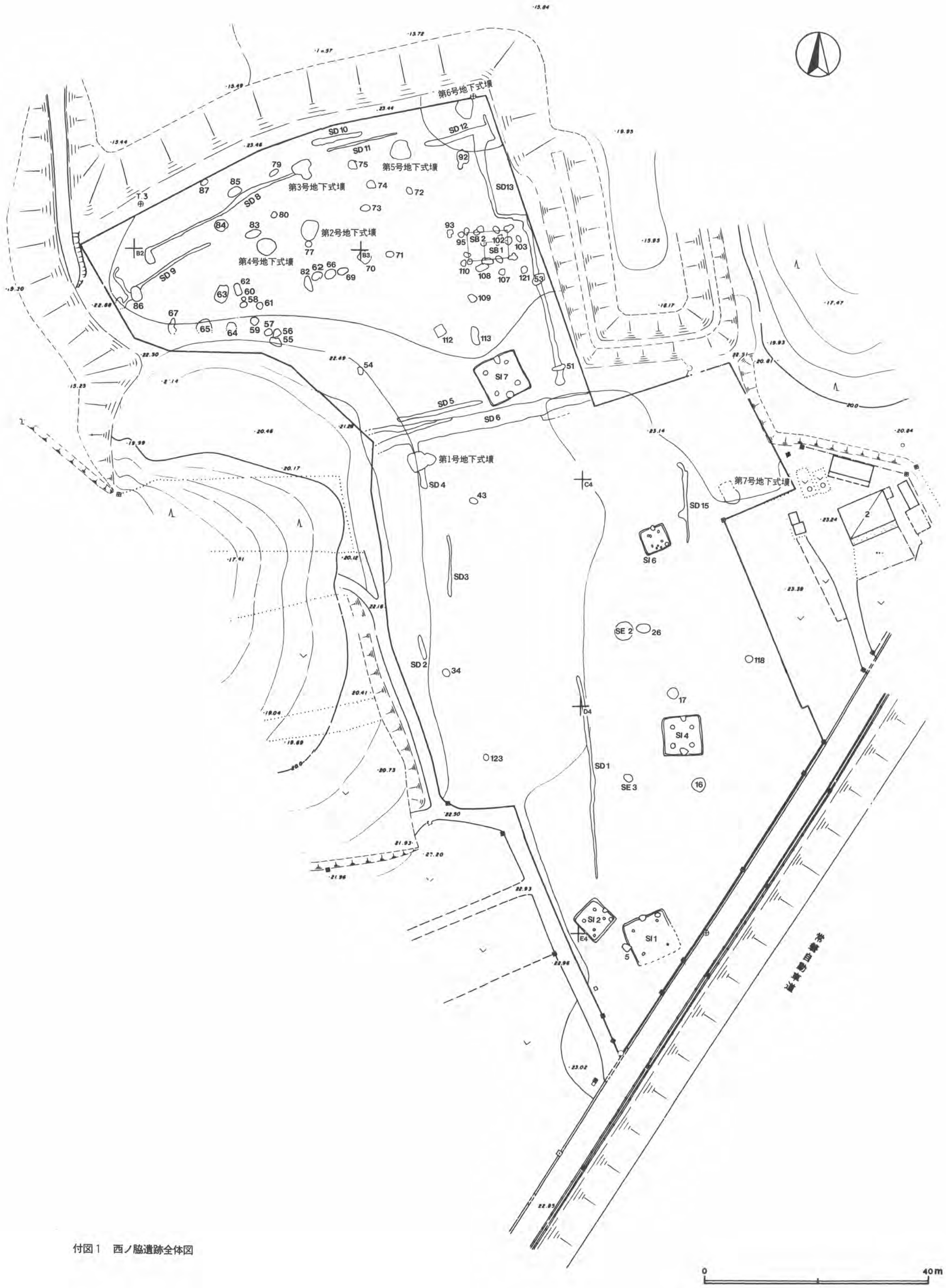
発行　財団法人　茨城県教育財団
水戸市見和1丁目356番2
TEL 0292-25-6587

印刷　富士オフセット印刷株式会社
水戸市根本3丁目1534－2
TEL 0292-31-4241

附　　図

茨城県教育財団文化財調査報告第87集

西ノ脇遺跡全体図
前田村遺跡全体図



付図１　西ノ脇遺跡全体図

付図2　前田村遺跡全体図